



日本漢文史

籍叢刊

第三輯

雜史

十四



上海交通大學出版社
SHANGHAI JIAO TONG UNIVERSITY PRESS

圖書在版編目(CIP)數據

日本漢文史籍叢刊. 第3輯, 雜史 / 周斌, 孫錦泉,
粟品孝主編 — 上海: 上海交通大學出版社, 2014

ISBN 978-7-313-11956-8

I. ①日… II. ①周… ②孫… ③粟… III. 日本—
歷史—史籍—叢刊②日本—歷史—雜史 IV. ①K313-55

中國版本圖書館 CIP 數據核字(2014)第 199077 號

日本漢文史籍叢刊 第三輯 雜史

主 編 周 斌 孫錦泉 粟品孝

副主編 陳小法 尤 佳

上海交通大學出版社出版發行 北京人天書店有限公司經銷

(上海市番禺路 951 號 郵政編碼 200030)

電話:64071208 出版人:韓建民

北京中獻拓方科技發展有限公司印刷

開本:889mm×1194mm 1/16

印張:946 字數:18920 千字

2014 年 9 月第 1 版 2014 年 9 月第 1 次印刷

ISBN 978-7-313-11956-8/K

定價:23800.00 圓(全二十八冊)

版權所有 侵權必究

統 籌 陳建華 施 維 劉邦權

責任編輯 陳建華 劉邦權

裝幀設計 陳燕靜

第三輯目錄

第一冊目錄（總第62冊）

雜史

佛教

元亨釋書

（目錄、表、卷一—卷三十）

本朝高僧傳

（總目、序、凡例、援引書目、卷一—卷二）

四三五

第二冊目錄（總第63冊）

本朝高僧傳

續（卷三—卷四十七）

一

第三冊目錄（總第64冊）

本朝高僧傳

續（卷四十八—卷七十五）

一

東國高僧傳

（序、卷一—卷十）

二四三

續日本高僧傳

（序、總目、援引書目、凡例、卷一—卷九）

三七九

第四冊目錄（總第65冊）

續日本高僧傳

續（卷十一—卷十一）

一

吉水實錄

（序、卷第一—卷第十四）

三七

正法山六祖傳

.....

二五五

日本往生全傳

（序、極樂記、續本朝往生傳、拾遺往生傳、後拾遺往生傳、本國新修往生傳）

二七三

扶桑往生傳

（序、卷上—卷下）

四〇九

總目錄

淨土真宗付法傳 四五五

三國高僧略傳 (序、例言、卷之上—卷之中) 四七五

第五冊目錄 (總第66冊)

三國高僧略傳 續 (卷之下) 一

近世禪林僧寶傳 (序、凡例、目錄、卷之上—卷之下) 二七

高僧名士傳 一二七

和漢高僧傳 一五三

門跡傳 二四一

天台圓宗列祖略傳 三〇三

密宗血脉鈔 三二九

日本國大師一覽 四五一

唐鑑真過海大師東征傳 四五九

東福開山聖一國師年譜 四八七

蒼龍窟年譜 五〇九

東海一休和尚一代記 (上) 五二九

第六冊目錄 (總第67冊)

東海一休和尚一代記 續 (下) 一

智証大師年譜 一三

正受老人崇行錄 三五

東海鐵塔諸祖年譜略頌 六一

峨山禪師行實並法語 九一

方廣開山無文元選禪師行狀 九九

越溪道蹟 一一三

損翁老人見聞寶永記 一二一

近世高僧年表 一六三

淨土傳燈總系譜 (序、卷上、中、下) 一九九

東大寺要錄 (序、卷一—卷六) 二六九

興福寺年代記 (序、卷一—卷六) 三八五

長谷寺緣起 四三九

扶桑伽藍紀要 四六一

慧超往五天竺國傳箋釋 四七七

第七冊目錄 (總第68冊)

入唐求法巡禮行記 (卷第一—卷第四) 一

參天台五臺山記 (卷第一—卷第八) 一四九

神道

神道五部書 (卷第一—卷第五) 三〇五

皇國神社志 三七三

古義神代考 (卷第一—卷第三) 三九三

天滿宮世家 四三七

祖志 (序、緒論、目次、卷一—卷三) 四五五

第八冊目錄 (總第69冊)

祖志 續 (卷四—卷六) 一

雜紀

古事記 (卷一—卷三) 八三

春記 (卷一—卷三) 一六三

玉葉 (序、例言、目錄、卷一—卷十二) 二一七

第九冊目錄 (總第70冊) 一

玉葉 續 (卷十三—卷二十六) 一

第十冊目錄 (總第71冊) 一

玉葉 續 (卷二十七—卷四十) 一

第十一冊目錄 (總第72冊) 一

玉葉 續 (卷四十一—卷五十五) 一

第十二冊目錄 (總第73冊) 一

玉葉 續 (卷五十六—卷六十六) 一

明月記 (諸言、目次、第一) 三九一

第十三冊目錄 (總第74冊) 一

明月記 續 (第一、第二) 一

第十四冊目錄 (總第75冊) 一

明月記 續 (第二、第三) 一

第十五冊目錄 (總第76冊) 一

明月記 續 (第三、補遺) 一

古語拾遺 三四三

將門記 三六一

大塔物語 三八三

保建大記 (卷上—卷下) 四〇九

本朝稽古篇 (上中下、續上中下) 四三七

十三朝紀聞 (慶弘紀聞) (序、卷一—卷三) 四七五

第十六冊目錄 (總第77冊)

十三朝紀聞 續 (卷四—卷七、跋) 一

今日鈔 (卷一—卷七) 七五

柱史鈔 (卷上—卷下) 一七七

近古史談 (卷一—卷四) 二二一

近世史談 (卷一—卷四) 二九三

帝國史談 (卷上—卷下) 三六五

續近事紀略 (卷一—卷三、征臺略記) 四一五

尊攘紀事 (卷之一—卷之六) 四七三

第十七冊目錄 (總第78冊)

尊攘紀事 續 (卷七—卷八、跋) 一

尊攘紀事補遺 (卷一—卷四) 二五

行在或問 (卷上—卷下) 七九

皇朝靖獻遺言 (卷一—卷八) 九五

慶安小史 一七一

先朝私記 一八五

遠野史談 (卷上—卷下) 二一一

西京傳新記	(初編—四編)	二三七
-------	---------	-----

日本詩史	(卷一—卷五)	三三三
------	---------	-----

回天詩史	(卷上—卷下)	三九一
------	---------	-----

和漢茶誌	(卷一—卷三)	四三一
------	---------	-----

本朝畫史	(卷上—卷下)	五一
------	---------	----

第十八冊目錄 (總第79冊)

續本朝畫史	(卷上—卷下)	一
-------	---------	---

近世畫史	(卷一—卷五)	二七
------	---------	----

雲煙略傳	(卷上—卷下)	一一五
------	---------	-----

日本國事跡考		一五七
--------	--	-----

史館茗話		一九七
------	--	-----

寤眠錄		二二三
-----	--	-----

幽囚錄		二三九
-----	--	-----

在津紀事	(卷一—卷二)	二六五
------	---------	-----

正名緒言	(上下)	二八九
------	------	-----

本朝蒙求	(上—中—下)	三三三
------	---------	-----

扶桑蒙求	(上—中—下)	四〇九
------	---------	-----

神代千字文		四九五
-------	--	-----

本朝千字文		五〇九
-------	--	-----

內國千字文		五二一
-------	--	-----

日本千字文		五三三
-------	--	-----

第十九冊目錄（總第80冊）

大統歌（上下）

盡忠錄

涉史偶筆

（卷一—卷六）、涉史續筆（卷一—卷七）

香亭雅談

櫻史新編

酒史新編

國朝佳節錄

外史劄記

歷代君臣名功錄

傳疑小史

仙臺支傾錄

先哲醫話

奇談新編

第二十冊目錄（總第81冊）

中朝事實

潛中紀事

正保野史

稽古要略

丙丁炯戒錄

養真亭藏泉譜

一

一九

四一

一八九

二三五

二五五

二九七

三一

三三三

三九三

四〇九

四三七

五二三

一

一〇七

二六五

二七三

二八五

三二一

新撰寬永泉譜 (前編—後編) 三九九

明治新撰泉譜 (一集—三集) 四二一

明治新撰泉譜別集 (初編—貳編) 四八三

大東世語 (序、卷一—卷二) 五一七

第二十一冊目錄 (總第82冊) 一

大東世語 續 (卷三—卷五) 一

近世叢語 (卷一—卷六) 三五

新撰叢語 (卷一—卷三) 一〇七

修身叢語 (上下) 一五一

日本智囊 (卷一—卷十) 二二三

皇朝金鑑 (上書、序、凡例、總目、卷一—卷十七) 三三九

第二十二冊目錄 (總第83冊) 一

皇朝金鑑 續 (卷十八—卷五十五、跋) 一

戰略新編 (序、目錄、卷一—卷五) 四一七

第二十三冊目錄 (總第84冊) 一

戰略新編 續 (卷六—卷十一) 一

策府 (題、序、凡例、目次、卷一—卷二十四) 七九

第二十四冊目錄 (總第85冊) 一

策府 續 (卷二十五—卷三十、跋) 一

外史

日本外史前記 (卷一—卷五) 九七

日本外史	(序、例言、引用書目、目次、卷一—十八)	二二九
------	----------------------	-----

第二十五冊目錄(總第86冊)

日本外史	續(卷十九—卷二十二)	一
續日本外史	(卷一—卷十)	七三
近世日本外史	(卷一—卷八)	二五三
續近世日本外史	(卷一—卷二)	三九一
日本外史補	(自序、凡例、目次、引用書目、卷一—卷七)	四四一

第二十六冊目錄(總第87冊)

日本外史補	續(卷八—卷十四)	一
江戶將軍外史	(卷一—卷五)	六一

史表

皇朝金石年表	二五五
日本金石年表	二八七
史籍年表	三一九
日本史籍年表	三五九

第二十七冊目錄(總第88冊)

日本史籍年表	續(前編續—後編)	一
--------	-----------	---

第二十八冊目錄(總第89冊)

日本史籍年表	續(後編續)	一
銅鑄和漢年契		四五
增訂新撰年表		七七

近世儒林年表	一三五
日本外史年表	二三五
重撰和漢皇統編年合運圖 (上下)	二六三
年代紀略	三四一
新編分類本朝年代記 (卷一—卷七)	三六一
國史年表	五二九
逸號年表	五三九

第十四冊目錄（總第75冊）

明月記

續（第二、第三）

.....

十三日、天晴、法印被來談、

十四日、天晴、入夜桂月滑明、俄大雨如注、須臾天晴、

東南雲晴、晴

十五日、天晴、入夜參院、深更名謁退出、月蒼然、少將

自內出、語云、十九日高陽院殿行幸、翌日御逗留、夕可

還御、其間警固云々、入夜宗宣催賀茂臨時祭舞人、月十二

三、即令領狀、

十六日、天晴、月蝕、此時云仁和寺僧都過談、未時參岡

崎、令出給了、謁女房、經家卿退歸、今日有賣螺釧野劔、

美麗、千年來所持時給野劔相具他物等買取之、以當用

物替遞通用物、可謂狂氣、但隨小男所好也、

十七日、天晴、行九條、參左大臣殿、夕歸參院、番、深更

名謁退出、明後日行幸、依上皇御衰口、沙汰出來不定

云々、

十八日、天晴、依有御消息參大納言殿、終日申承大嘗

會事、昏黑退出、明日行幸之儀、改如前岡崎殿、御方違

云々、

十九日、朝後陰、時雨間降、夜前小除目云々、雜任等、

兵部權少輔平範資、宗嗣辭退歟、黃昏相具少將參內、

行幸、於鬼間謁女房、刑部、後在小板敷進、光家參七瀬使

御衣舊指合御修法等所、不足員數取替間入夜云々、相待歸參、資隆下薦早參、取中御

門近衛御撫物向了、太不當、雖觸無謂由、行事家光幼

少不知山陳之、何樣可仕乎由、來示次第尤不當、向後

難堪、尤可愁申、然而依如此事、日忘出之儀猶非公平、

只示向後事可勸由示含了、供奉人等參入之後、僅取御

撫物回河原云々、凌遲驚耳目者也、如此雜務、惣無知

行人歟、源大納言參入、被行召仰、頭中將通少時出御、右

將渡、雅清、清親、時賢、敦通、實經、親平、公卿列立、通

光、師經、忠房、雅親、忠信、實宣、賴平、實氏、公賴、清

長卿、下官、公氏朝臣、關司奏、顯平鈴奏、寄御輿、左將

公俊、通時、家兼、定親朝臣、爲家、親通、賴平卿開蓋入

御劔、先首兩三位前行、御劔之問予前行、騎馬之間、內大臣殿令參給、於三

條辻令騎馬給、入御岡崎殿之儀如例、無版位、不得有

奏、雅清朝臣問名謁、良久內大臣殿觸所勞由女房令退

出給、御共無人、予奉送、袞御車簾、不可然由御命、還入、少時向例小家、與阿開梨閑談之間、少將無題歌二首可被進由示送、難堪事也、構書進之間、曉鐘已報、即歸參、無程出御、所殘公卿只三人、忠信、實氏卿許也、近將公俊退出之外不出、實氏卿役劍栗、予前行騎馬、自法勝寺北雨漸降、取笠了、不待宣旨前行者近例也入御三條殿如例、甚雨之儀立不徵雨皮、寄御輿、頭將退出之間、通時賜笠、隨身副中門廊檻立溜下、太不密、留者取笠立砌、自砌可進來、退出者入中門更可來、少納言立中門扉東奏、無聲、其所不知可否奏了由、予示通時朝臣之間、自溜內過來問之、三人名謁了退出、爲家云、名謁儀如何、予答不可然由、於途中源兄弟奉仕雨、雖無別替目、太未練遲々云々、又張筵不著針、仍風吹無便宜、其間太無骨、通方朝臣頻除云々、但通時朝臣終始持鞭奉仕之云々、今夜少將家兼朝臣語云、今度御禊點地依奉行宗宣隨資勸仕勸使長官次官已下著跪座供奉諸司著了後勸使著座、對次官左中辨座、長官藤中納言橫座、豫居筵、但無勸盃、又不著召、陰陽寮等次第事了、上卿目勸使、

勸使起座進寄、先例有差席、其上敷疊、仍存徒跳儀之間、今度只河原石上敷疊之間、雖無便宜猶徒跳、進寄跪取筵摺笏也、退出、令持隨身參內、八車、付女房進之、自開所申出返之也、去年宗經中將不申出筵失了云々、雖非殊有識、依所語記之、建久通具卿勤之云々、廿日、天晴、依窮屈終日平臥、女子退出、即歸參、常被召仕由語之、爲奉公本意、廿一日、天晴、藏人少輔資賴來門外、與少將同乘參內云々、此次云、明後日廿三行幸高陽院殿之由俄被仰下云々、今朝木工親長重催七條院御棧敷御幸、已及三度、御懇之由云々、此等事且爲相尋女房、未時許參院、人々云、十一月中他所行幸可憚乎之由忽有沙汰、被問人々、近衛入道殿下此條如何由、事次驚給、仍被問菩提院禪閣、誠可憚乎、但可被問人之由申給、仍被問三公、左右相府有先例、何事乎之由被申、內府雖有先例、其事不爲吉例、今月宜乎由令申給、叡慮頗在來月、夜前事不切、今夜猶有御案、忽可爲明後日云々、已被仰下

了、但還御廿五日直可御大內云々、此條召仰、被仰路、而廿三日被仰院御所山、廿五日無音御大內之條又

如何、內侍所又非路渡御、此等事先例辨沙汰等未聞分、今日臨時祭定、右頭遠忌、著直衣雖參此院、不參內云々、催左頭申

障、五位藏人雖有勤御之例、是頭指障憚昨事也、猶可責之由被仰云々、使清信朝臣之外不可催他人由被仰、

舞人已傾狀、隆俊、成實、雅具、爲家、實宗、資俊、實仲、今一人忘却、今日俄御幸七條院

云々、廻北面出御之間、列居之後退出、御棧敷騎馬事、

申入無術由、可催高通由有御氣色云々、爲悅、今夜承明

門院令渡春日殿給云々、向大納言亭、實信賴相伴、閑

談之後昏歸廬、少將來云、經通朝臣書定文了、行幸事

猶不憊聞分云々、

廿二日、天晴、不出行、入夜侍從光家來、秋後不見來、

極爲奇、

廿三日、天晴、黃昏參內、少將先是參入、秉燭以後、左大將殿

令參給、良久漸々參集、隆衡卿行召仰云々、次出御、右

將渡、家信、家嗣、時賢朝臣、實經、親平、公卿列立、內大

臣殿、不踏中門橋、自其北經樹北令進給、師經、隆衡、雅親、忠信、光親、有

雅、範朝、公賴、家衡卿、踏橋、下官、顯俊朝臣、經橋、關司

奏、少納言顯平奏、寄御與、左將公俊、通時、家兼朝臣、

爲家、親通、先是左頭語云、今夜無公卿將、近日無博

陸出仕、仍於彼御所雖可取御劔、上臈猶可候御後由

存之、仍右頭取御劔、非職上臈可取取歟、將地下者憚

歟、予云、於地下者勿論也、自余之儀尤可然歟、又云、

右頭未役劔璽、仍御所出御、有所望氣、仍讓之了、先入

御劔之間、顯俊朝臣予等、次第前行、右衛門權佐成長

雖在門南、適引陣、入々馬倫引懸各競乘之間、於事有

恐怖云々、又不去之遂乘了、尤忘禮歟、三條東行、洞院

北行、大炊御門西行、入高陽院殿東門、列立殿上屏南、

左大將殿令入御之間、予座地、立定給、又立、師經卿離

別進立庭中、去中門二丈、向東立小揖、入中門奏之、還出進立本所、

目左大將殿復列、次入御、御與過御之間、磬折如例、御

與可奉昇廻歟、而直入御中門、今更又奉退昇廻、中門

內地上東向奉安、次將今夜左北右南列居不可然、爲家

在此中、被引傍外歟、尤爲奇、左大將殿入內、御輿坤方

御座云々、安御輿之間、公卿皆座地、入御訖各立、不見入御

儀、賴平卿參會門邊、定取御劔歟、大將殿即令退出給、

予廻北面、數刻待名謁、山月東昇、適事了即退出、

廿四日、天晴、午時許束帶、無文帶、時相劍、相具少將、直衣、條綱、

參高陽院殿、於春日面、真築垣之外町、四半町許、下車參入、於東中門

廊邊令帶弓箭、雖無殊事自然日蔭、申時許於東面御所

有御對面云々、博陸此間退出給、家兼朝臣直衣、弓箭在御共、少時自馬

場殿密々出御、御覽御輿地云々、此間退出、今日參入

人、九條大納言殿、直衣、藤大納言、同、迎、帥別當、卷欄、不

劍、光親卿、皆直衣、家衡卿、束帶、經通朝臣、束帶、野劍、懸裾、通

方朝臣、直衣、中將家嗣朝臣、紫浮文指貫、少將親通、直衣、

五位藏人三人、束帶、實信朝臣經等、束帶、宗行朝臣、衣冠、

如日來自余不見及、予參中宮、謁女房、秉燭之程退出、

今日女房可參五節由俄有二品命、爲示合其事、祖母老

者可參謁之由被命云々、仍入夜參入、此事兼不存、清

貧經營重疊失計略者也難堪云々、女房晴出仕、旁人之

費也、又非身光華、太無益歟、

廿五日、天晴、重體房來談、夜前上洛云々、自昨日咳病

之氣太惱、少將午時參內、如昨夕退出、秉燭之程相具少

將參內之間、人々云、今夜可有御見物、兼告此由、頗可

令刷之由有沙汰云々、各周章返進、雜色令著尋常裝

束、其外事忽難直、人々漸參集、御裝束了、又御對面云

云、此間見出御方、寢殿南庇東面妻戸以東、經透渡殿

東對南廣庇中門廊、悉有指筵、其上敷絹、猶自中門可

御御輿云々、然而御輿儲中門、如例行幸、予問五位藏

人等云、自中門可出御歟、南階進御輿定而歟、答云、自

中門可出御、予云、然者御輿在中門如何、棟基云、頭中

將所行也、予案之、定院御氣色歟、近代事惣故實等涌出、

不肖者口入可爲尾籠、仍閉口、又資賴語云、今夜出御

禁路等事、仰上卿、上卿可仰外記也、內侍所渡御又同、

於中宮行啓者、於大內可召仰云々、此等事不知先例、

各今案歟、少時左大將頗令參給、予申此等事、仰云、此

事等惣不審、且無所見、無陣座無役上、計、不立簪盤也、又院殿上臺盤已下皆、只

二行數 仍無其所、今日不兩得之、但宇治左府、於一本御書所、依無陣座召外記、於小板敷被仰下、以此例、只於中門邊仰下歟、有何事哉、予申云、尤可然、此間信能朝臣、家信朝臣等御輿之間事、面々成不審示合、予云、前中門寄御輿之時、御輿在御輿宿、刻限次將相副見御座覆奉逢之、然而今夜御輿兼在中門、仍次將作法惣不知、只成恐閉口也、予猶集之非無不審、又大將尤可分別給事也、仍密々申大將殿、被仰之旨已同愚案、仰云、此事尤可口入事也、招頭中將可散不審也、予以知長令觸頭中將、頭中將進參大將殿、令問此由給歟、問答無指子細、只可出御輿之由下知、今見此事、上下各無所存歟、爲辨即出御輿、如晝安御車宿、今夜實氏卿雖可參、依内々御氣色被止、公氏朝臣又依別仰參中宮行啓云々、是三爲中將不仕奇惟能令所役料云々、供奉人大納言師經中納言忠信、光親、有雅、參議範朝三位基忠、清長、家良、宣親、下官云々、親定、家衡、公氏三人參行、左定親、右時賢參行幸、又可參行啓之由被仰云々、

左親通、右清親、今夜右少將不參、職事棟基參内侍所云々、少時内大臣殿於中門妻令下日時給云々、又出御云々、此間予出中央門、騎馬、後聞、基忠行取御劔、家良仰取璽閉釐戸云々、此間無殊事、抑中門乘御之時次將居樣、說不同、一夜左將之儀、無殊難之由聞之、大納言殿又有何事哉之由被仰、猶承不審、今夜申左大將殿、被仰之旨同予案、仍爲家犯相交右將南列爾、向北可座之由訓了、後聞之、定親朝臣同存此由云々、信能、通時在北、公俊向西中央座云々、此條殊不然、左大將殿中門之外御輿良方御座云々、人々騎馬漸來、洞院北行、待賢門大路西行、御車立細小路西、松明嚴重、入待賢建禮承明門列立如常、紫宸殿新造甚以壯觀也、每事如例、但基忠卿劔璽役、言語道斷、諸人歎息、先乍懸裾昇南階檻西、超檻進寄、事了不閉釐戸、出額西間、經本路下加右將上、此間頭中將通方放聲勸發、御輿長追下、更召上、次將閉釐戸、是又過分歟、守通昇云々、次復本列之間、來去、予下見人々氣色、自後漸加立、非尋常失

錯、可悲事也、少納言家時奏了、中將行能問名詔、稱籍退出、經宣仁青鎖門、暫在御後、無程退出、內侍所入御訖、今夜入御本殿之間、右頭中將爲家付內侍云々、今夜右將守通、雅清、家信、家朝、時賢、少將實時、親平也云々、出御之間、實親卿在公卿列、前行騎馬、又寄御與之間、公卿歸跪地、伴人獨立云々、今日知長於御前如例歌舞、二品賞祿、有恩賜等云々、後聞、基忠卿不開柴戶取御劔、主上令仰御劔御之間、久而思出開戶云々、廿六日、天晴、參左大臣殿之間、今朝御中御門殿了云云、水驛歸廬、依長途窮屈又不出、沐浴假臥、廿七日、天晴、參內大臣殿、明日御供奉事等申承退出、依招請向大納言方謁申、乘燭歸廬、少將參內、今日召仰、光親卿行之、右近中將守通朝臣、通政門之間、踏橋上云々、左少將爲家、右衛門權佐成長、自余尉等供奉、二依入夜名謁如例云々、

廿八日、天晴、未明士騎馬殿上人、如形儀等、役、相具、馬鞍、自、行事所送之、只相具下人等引進也、所備冠四人云々、近代相具二人、今度依事煩只

一人、又不冠、一次出車進院御所、新車、牛阿赤、色山吹袴、遲明光家來、人付之、不當也、即參左大臣殿、辰一點少將參內、裝束知恒行幸、紫綵、平緒、乘紅系(葉一)童一人來、格子布蒔木山吹袴、蘇芳單、衣今一人遲參、隨身不來、奇恠也、隨身打衣之下著蘇芳袴一領、濃單衣如例、蘇芳袴同布也、不付風流、馬寮駿、自夜前引、給之、鞍、如去、和鞍付杏葉、鞍六、鞆三、おもがい三、結唐尾、舍人朽葉青袴、又相副水干袴舍人、次參左大臣殿、御裝束之間也、紫綵平緒、自內催促使頻參間、無催御參內、今日者瀧口爲馬副、手振等如例云々、二位中將殿扈從給、隨身朽葉小袴、給、如例、侍從光家在御共、銀、螺鈿細次參內大臣殿、能季卿在御前、又御裝束、紫綵傍劔、御隨身官人上下裝束如式、已刻御參內、時賢朝臣遲參、御共無人、次退出歸家、即向棧敷、二條南、宮小路東、角、牛童丸家也、已刻御幸御棧敷訖云々、供奉人不委問、右大臣、大納言師經、頭中納言隆衡卿、殿上人五六人之中、資平中將、衣冠供奉、又被裝束參行幸云々、女院御同車、出車五兩、資平朝臣、家嗣朝臣、公俊朝臣、通平、侍從、具實、同、院御方出車、清

親朝臣、爲家朝臣、雅經朝臣、同進之由雖兼聞、今日不見云々、若先參國通朝臣車、本被催院御方、七條院出車

闕如、被替清親車、依切物見被渡院御行、數刻相待、申時先陣猶渡、供奉所司存式歟、不追記、隼人正成重、次

第司次官式部少輔、左衛門佐家季、頭代不見、保季朝臣云々、逐電歟、左兵衛佐保教、督代知家朝臣、維色持身、不具隨身

如、御前長官右兵衛督有雅、隨身六人、看替六、火、取四人、馬副手振如例、節下左

大臣殿、外記左右各一人、騎馬、右御馬副之前、次馬副

八人、令二人服、御此口、次手振、次馬副、調度懸、侍從代督道隆、

送之外不見、馬助以康、不具隨身、俊光、具隨身、左馬頭

兼信、兼人、不具隨身、少納言家時、參議顯俊、中納言忠信、

八人、隨身、公宣、雅親、忠房、大納言良平、通光、近衛將監

百人許、右大將、左大將、重、官人騎馬、近將御綱將、

左親通、右宗平、左將中將賴平卿、實氏卿、經通朝臣、

雅隆朝臣、資平朝臣、家行朝臣、少將通時朝臣、公使朝

臣、定親朝臣、家兼朝臣、基保、實俊、爲家、親通、右將

中將教家、公氏朝臣、通方朝臣、公雅朝臣、雅清朝臣、

家信朝臣、家範、、範茂朝臣、實時朝臣、時堅朝臣、少將敦通、實經、師季、親平、宗平、基保、範實、經親、平遠、放御與、各中絕、一人渡大路中央、八藏人、五位宗宣、資賴、六位康光、職事、維長、非藏人、範經、政季、右兵衛督代經時、佐實仲、御後長官宰相中將實氏卿、右衛門督代公長、佐成長、女御代每事美麗、此間及黃昏黑、秉燭以下先陣且西渡、戌終許還御了歸家、今日上下、無染裝束、又無付風流人、基保裏形木透杏葉紙鐸歟、不委見、少將今夜不出、返送裝束物具、

廿九日、天晴、依咳病不快、不出行、昏黑少將歸來、語昨日事等、最前早參、帥著衣冠候御前、其後人々漸參入、奉行職事中右大將遲參之由、數刻相待、猶遲々之間、出御南殿、次將皆兼在日華門方、仍爲家、親通付內侍、次經青鎖敷政門向日華門、著靴次第如例、右大將參會列立、中宮權大夫殿劔璽役無違失、出御路頭等存例、直入御々襖幄、安御輿敷板上、左大將北、右大將南、相對座地、次將向東群居、劔璽役同前、先開簾戶取

御劔、入排御屏風置御劔還出、其北進御插鞋了、入時入

依開蒙也、座置弓所、如緣所也、次入御、御秘人不取、次賴平卿進取堪、

置之還出、次左右次將引陣、右將右、公卿帷南、左將東

上南面、御襖之儀了寄腰輿、宸儀出御、役人如初、入中

間取御劔置御輿、次乘御、左大將以下警蹕、御裾無奉

參入人之間、通方朝臣置弓欲進寄之間、經通朝臣直又

進寄役之、次賴平卿又入取堪安之、御々膳帷、此間大

將已下立替、御劔役同前、先自御輿北昇緣置弓、上御

簾取御劔、直置大床子上、進御插鞋、入御、御秘人不取、次取

堪、又置同所還出、垂御簾、此間內侍候左右、而直置大

床子、人頗成不審云々、天仁依內侍進參、次將直置大

床子云々、後日可散不審、寄御輿之間、大將已下公卿

皆跪也、慶大將之儀如例、於次將者只向西群居、次公

卿還著帷座、次將引陣、依胡床員少、上薦少々祇候西

上南面帷良、右陣在帷南、退其陣東上北面云々、是先

例也、次將等依催取祿、各著淺履取之、相跪授之、爲家二位

中納言云々、還御之儀如例、公卿列立之人、源大納言、大納言

殿、少納言家時、奏、中將雅經朝臣問名謁、二位中納言

顯俊朝臣、入御、中將家信、時賢付內侍、

卅日、天晴、少將參內、入夜來、心神殊惱、昨今不出行、

○十一月

大嘗會 少將任悠紀國司

卯日大略 辰日 午日

一日、天晴、左近大夫清範來臨相逢、依仰來問云々、節

下大臣手振不着半臂之由、論義之時所申出也、其間事

委可尋問云々、予云、惣件間事、論義以前以後、共以無

沙汰、僅所見出即申了、所詮小野右府長和元記載天慶

之例、延久土右記載同例、康治宇治記注裝束色目、手

振裝束無半臂、依之所申也、又云、此 一門之中慥所被

着有其例乎、於其條者分明不覺悟之由陳了、此事依不

達中、左大臣殿一日已被着之云々、御返事云、此事驚

可驚、彼日懇參入、不申出此事、又依遲參不見手振、恐

忙之日每事不可被仰之人、尤可申事也、恐鈍之性、爲

耻無極、重申此由、又有御返事、光家來、五節新車不可

出來山示合之、於今者力不及者也、手振事依經營多、一向示付前內府、其身其裝束偏自彼家出立、不來出立所、去年彼大臣節下、依予教訓不令着半臂、雖今年可調半臂哉、於建禮門前雖來會、愚眼全不顧見、愚鈍之至也者、

二日、天晴、今日消暑堂御神樂、院拍子合云々、傳聞、今日延引、來五日拍子合并國司除目云々、爲家所望事度々令示付左近、未知許否之山、今日猶示送、去年天氣快然、依橫災公私如此、誠惡緣歟、心神殊惱、咳病相加、

三日、天晴陰、入夜雨降、今朝重示清範朝臣、猶不知許否、心神太不快籠居、親房朝臣內大臣殿五節下仕車闕如、少將進哉山示送、即申可進山、空體房來談、入夜爲方違宿願司小宅、時雨間降、

四日、天晴、曉更歸、申時許清範朝臣消息云、今日伺天氣頗以快然、但不知其許否、所申具聞食云々、心神彌物忿、予所申非望、今度加階、只廻立殿行幸夜、着私小

忌、帶平胡錄、供奉少年者榮華爲養老眼之由也、昏黑住吉經國宿禰來談、依堪管絃、消暑堂所作人等事、粗伺聞語之、亥時許敦通少將來談、地下次將五節之間出仕事、不案得之由也、予云、此事不似他節會、右近又西廳五節所殿上人成群、殊以無便宜、稱所勞不被出仕、可無疑歟之由陳之、但時儀猶難知者也、良久之後謝返、丹波所領爲重輔喧嘩出來、難安堵云々、時形勢誠難測者歟、

五日、天晴、微霞零、寒風烈、今日國司除目云々、去年短命女院御法事、於四條匣被修云々、宗親兼日催之、申所勞了、終日無音信之人、心中鬱々、春日祭中宮使權大進經兼借馬於少將云々、近衛使不示招袴事、太大切、申刻許、女子告送云、越中內侍云、近江介事內々被仰光親卿、事已成就歟、披見此狀、心中如聞天音樂、予本自偏不貪官爵、只思境節之榮華、於廻立殿行幸之□、兼國次將裝束太彌重也、若有勅許者、喜悅更無物取喻、每事施面目、可謂至孝之子、酉刻清範朝臣又

告送可成就山、每聞感悅千廻、答深恩之山了、博陸參入給、只今其沙汰最中云々、束帶裝束劍、平緒笏送之、

尋聞除目事實者、除目了、進殿上口可拜舞之由示送之、遙授拜賀大略雖斷絕、今度事面目已過分之上、是

故實也、遙授之賀內裏申也、不申他所之由載北山抄、

仍示此由、深更範列爲裝束送之歸來云、除目了、束帶參上拜

賀訖者、先是少將示送、近江介時賢、權介爲家、丹波介

清親、權介親通被任之、猶々自愛云々、此兩人更不存知爲家所望之故、存吉

事也、忽被申任、

六日、天晴、俄經營等加增之間、且爲申合向亞相亭、閑

談之後參內大臣殿、見參移漏、未時許歸畢、親房朝臣

語云、昨日頭中將奉行被問兼季、可供奉者不可任替、

申云、雖所勞無術、扶得者可供奉者、有病者不可待出

仕期山有御氣色云々、夜前拍子合被遂所作、本拍子有

雅卿、末經通朝臣、付歌隆仲、、範茂、、資雅侍從、

筭前右大臣、花山、依度々仰出仕、琵琶通光卿、今度奉賀上皇彈之

云々、笙隆衡卿、笛公賴卿、篳篥忠行卿、和琴家嗣朝臣、

亥時許事始、無程事了、兼隆奉行也、於寢殿東透渡殿有此事、敷圓座、少將退出洗髮、

七日、天晴、宗行朝臣書狀云、明日鳥羽御堂供養可參云々、所勞申無術由了、

八日、天晴、入夜右源中將、時賢朝臣不慮過談、兼國之間

事等爲示合也、始終可相伴、可有同心之由示付了、且

又其間事等大略示之、予云、長途供奉難堪、自三條邊

可出之由相存、於其邊如同所會合可宜歟、許諾、閑談

良久之後退歸、

九日、天晴、明後日各場所御見物御幸出車宗行朝臣催

之、即令領狀了、早旦行向朱雀大路、見事體、三條大路

朱雀以東河水也、車馬有煩、又出大路見北方、相向朱

雀門事、甚近如寸步、仍次第巡檢、出自四條坊門可宜、

其邊相國勝地家人等宅多、仍於其所喚出大夫忠賢、此

邊小屋一所可借取由語付了、依爲土左前司定家聲住

彼家也、即歸來間、左大臣殿仰云、只今在中御門殿、有

可示合事、即參入、仰云、頭中將夜前消息云、可令造進式

給之由、只今被仰下、仍明旦參入、可申此由、且內々所申也、此事一旦欲辭申、治曆大殿爲一上、御座土御門

歸參入、對面之間依無心歸畢、入夜參院、臨曉漏名謁訖退出、

作進之、承儀又如此、康治宇治左府、蒙可作式山仰、被申云、無才年少、以有職之人可令作、其後實行公作之、今案之、才不可及百萬里、年又同前、仍欲申此由頭中將、即參入、御對面之後歸參、無程以書狀申云、猶可令作進給、即領狀、仰云、午日開門不思得、又插頭拜事不達、且內々可伺御氣色歟、開門事、延喜式所載、開門訖奏宣命、是定時平大臣有所存歟、延喜式尤爲規模、而貞信公清慎公已下又定有所存給歟、承平天慶以下式、悉奏宣命後開門、而西宮北山共用延喜式之儀、治曆大殿令用此儀給、其後他人又不用之、法性寺殿御記又可用此儀由被載、仍於我勤仕者、無異儀可奉隨大殿法性寺殿由存之處、至于作式此事思煩、次插頭拜、上古以下悉進御插頭了拜、次賜臣下插頭、寬平九年只一度賜臣下、了後有拜此儀當時之事體尤有便、而去年上皇御習禮被用寬平之儀、此事又有猶與、未思得之、長兼卿

十日、甚雨、入夜凌雨參左大臣殿、承式之間事等、右大辨參入之間、予退出了、予付越中內侍奏聞、以爲家加階、老父叙正三位哉、仰云、所申雖似可然、上臈已有十八人、其中十一人可訴訟人也、不知誰人云々、奏耳歟、其外無得、其中相國子、公經子等有之、然者不叙而可待後歟、申云、以及賞申父恩、是依嚴重賞、爲超少年有若亡上臈也、而依其人多不被免者、父漏恩子爲人被超、全無其益、早以爲家可被叙、但賴平實氏兩卿、依今度國司可叙人也、爲之如何、又仰云、兩國司宰相今度不可叙、只各待後歟、猶申云、人不超者可待後、其身有超越之人、父漏恩者、只早可被叙、此上不承左右、今日令摺小忌、賀茂保孝尋途山藍、以之摺也、

十一日、微雨間降、早旦參左大臣殿、雜熱自夜增氣、今明不可出仕、且是申院之處、今明相勞於前行者殊可參由有御氣色、叙位強事不可闕、能々可被加療治云々、

態了、式已出來了、其間被申請事等、各有御成敗、菅
三品執筆書、其中書、是爲其字體也、漸及昏予退出歸
廬、叙位、明日御衰日、今日神行者、右府參入云々、少將令參內、直衣、紫指
院行幸日裝束也、乘燭以後予束帶、無直衣、太無謂、參
內大臣殿、有召、昨日、依舞姬出立也、長兼、有家卿、各直衣、參入、
實氏卿又雖開參入由、刻限以前逐電、無詮歟、殿上人
雖有催不參、光家參入、又依叙位役參內了云々、實信
朝臣一人僅伺候、太不便、近日惣無人、下仕車公雅爲
家進之云々、同扇今夜付所司了、爲家、此間大臣殿修明
門院御幸御參、未還御、數刻之間、長兼卿觸所勞由退
出、只二人閑談之間、夜深令入給了云々、出車毛車等在
南庭、良久主人御裝束、堅文薄色指貫、白御衣、出御客亭、
依仰大府卿予着端座末、親房朝臣申事由、其何間、還出、
諸大夫、人持參舞姬裝束、置之退出、經中門、親房參上、
又出召御使、豫敷圓座、朝房參、持笏、不、親房朝臣取女
裝束給之、朝房下拜出中門、次如初申事由、童女裝束
也、諸大夫、置之、次召中宮御使兼隆、如初給祿、次

薰物使又參、如初、次第了、諸大夫取此物等入自西弘
庇了、自東置、自同方進取之入西方也、此間自院清房
參入、夜已欲明、可被忿由申之、出車一兩忽闕如云々、
有雅卿領狀、今夜稱不覺悟由云々、仍忽遣取實氏卿車
之間、彌遲々、予等申行且令寄出車、實信朝臣寄南階
間車四先乘了、中一實信退、予進寄金作車、招以經令昇板、
每事只以早速爲事乘了、此間主人且御參內云々、予寄
車之間不見其儀、御出了、即退出歸家、雞鳴、叙位亥時
許云々、光家今夜寄事叙位役、束帶云々、不可然、今日
未時許各場取御覽御幸、公卿殿上人少々供奉云々、國
通朝臣爲家出車二兩云々、借僧都牛間、其牛頗臥似耻
云々、甚遺恨、天明少將來云、預加階由人々語之云々、
十二日、天漸晴、午時雨澨、未後快晴、正三位藤賴平、
丹波權守、同實氏、近江權守、從四位上藤忠明、院御給、源時賢、近江
藤長季、中宮御給、同清親、丹波、從四位下安倍廣俊、近江大
氣長成、丹波大、正五位下源雅久、承明門院御給、藤公廣、丹波、同
爲家、近江權介、同親通、丹波權介、安部道昌、丹波大、藤親仲、修明門院

御、同親平、新院御源賴茂、近江守從五位上和氣親成、近江權

中原師兼、父師重、長承元四年藤伊平、簡一同道時、宜陽門院

藤家時、七條院顯平、從五位下藤長宣、實子內親安倍業

昌、女御璋子高階仲成、上人藤賴茂、武部紀宗尙、兵部中

原師胤、外記源定宗、諸司大江清房、同平康元、外記惟

宗則忠、近江安倍時貞、同同貞光、同同忠朝、同丹波茂

經、同安倍昌言、同中原爲季、同紀文經、同高階兼

重、同佐伯爲尙、同安倍資定、丹波菅野長親、同安倍守

長、同同光重、同中原盛以、同小槻宗定、同大中臣爲

長、同安倍忠高、同同清俊、同高階盛定、同外從五位

下、三宅光弘、諸司建曆二年十一月十一日、此下闕文

紫薄樣白單衣、同イ隨身虫襖黃衣云々、是所相計也、見物雜

人等說云、祖祖及昏黑不辨色、具未乘代始嚴重之儀似無

詮、近代事萬事只遲怠、後聞左頭遲參之上每事遲怠

云々、入夜參院、近習之輩爲見物多徘徊、相待之間及

丑時無音、人々云、只今女院淵醉事始、是相國遲參云

云、代始嚴重事、次第遲々甚無心也、母后御方淵醉、依

一人遲參臨曉更、世間似冷然如何、及丑終適參入、於
東對代西面弘庇御覽、但不經程舞如形二巡之後、殊被
下御點、此輩悉歸參、早速可終事由有仰事、少將在此
中、明日晴供奉者太難堪、猶可參由示含了、歸家、已鳴
以後也、

十三日、天顏快晴、天曙了、少將歸來、露臺刻了、進出云

云、此後御前召歟、太奇異也、午一點少將令裝束、紅梅

日陰、左右各八筋四筋ヲ一結也、四葉紅梅結花、件心葉普通二一

付之、通具卿久我相國自筆秘藏一紙被借送、心葉四枝付上緒由

有之、仍四枝、二ハ左右ニ上緒ヘなびかして附之、二ハ巾子ニそひて

立揚標ニ付之、ふしたる枝のしたに付、日陰組、是皆青色の如昔組ニ

付也、件組、纓の上ニかたかきニ結也、或纓下ニ結、又二ニ

結、様々也、予案之、如老懸葵皆懸上、仍上ニ懸流ヲ用也、日陰ヲバ

一組、四筋上緒の前後へ引分てさぐる也、垂纓小忌

赤組付半臂、下襲、紅打袖、紅梅句袖ニ紅單衣、表袴、大

口如例、可着淺沓、巡方帶、無魚螺細細大刀、極具有紺地

平緒、縫梅、童如昨日、隨身萌木同布袴、付昨日梅、垂袴

壺口口、乘軒車先立入四條坊門坊城小屋、可待刻限由

示含共人、少々來會、又少々可向彼小屋由兼約束、長

邦朝臣、花田持衣、八條院前判官代某、青紗持衣、例指貫、左

近將監康房、持袴、紅下袴、帶地散劍、有調度懸、此三人、乘車令向

彼所了、侍、右衛門尉三人、弘、中原行盛、侍從三位被催送、

備、兵衛尉二人、藤久雄、中原、宣陽門院侍、高倉中將被

送、馬允三人、藤友良、入道大臣殿

忠、帶刀六角、內舍人三人、宮道光康、高倉中將同、藤

少將借送、武者所二人、源親澄、中原口口、已上二條中將、予爲見物

前左京進宗友、已上十五人、追々來會、馳向四條坊門朱雀邊、山僧都被同道、法印又被相儲此

所、數刻相待、送使者源中將家、數度問答、可被相伴事

也、且又少々事等問送、未刻御幸朱雀門前訖云々、御

車邊有增、供奉公卿殿上人以下數疊列居、北面同之、

出車家信、又例別女房御車多、標山漸進來山間之、四條

邊之程、少將可進寄由催之、乍乘車在大路東邊、悠紀

山先過了、次主基山過了、供奉人數刻不見來、先辨、次

守、次介、次權介以下可行列、然而又必不守次第云々、

介權介相伴且進、三條坊門邊可相待余人由相議進行

云々、介時賢朝臣裝束大略同前、無違亂、隨身四人、前

務、重垂、侍七人、童一人、權介行粧存外似宜、其人等面

建曆二年 十一月

二百一

次奴袴之輩侍等相交、各調度懸在其後、人數無過失、

尤存外也、是人々省略之故也、於押小路南相待次第渡

云々、次悠紀辨、辨侍追前、着深沓侍十人許、頗不優、

次守武勇家也、定有相傳家人等歟由人存之處、殊以無

從、自余雜人等面々着小忌、付日蔭、或左付赤紐者等

有之、次供神物、定存例歟、不委見、但八女之員不足、

若相儲上方歟、其中法師兩三相交、人夫昇供神物、太

不當、次主基辨口沓、辨侍等同前、共侍五位相交三十

四人、調度懸一列、侍之體各知耻、黃門結構歟、人似不

依貧、辨是非人如此、辨日蔭青組結纓下、定有所存歟、

次國司等面々不尋常、兩介不見、在三條以北、供神物

之間、伺隙歸、又立二條北大宮大路、相待御幸還御、

日入之程還御、殿上人衣冠、公卿直衣衣冠相交、公卿

通光、隆衡、忠信、御後、光親、有雅、賴平、實氏、顯俊、殿

上人經高、奉行保季、資平、衣冠、經時、實時、陳帶、兼隆、

實俊、師季、北面供奉如例、出車等用他路、後聞、付供

神物法師等、於御車前被追止、又悠紀標欲入朱雀門西

間、而引懸柱不入之間、依仰引返入東間云々、辨每事如泥如此云々、乘燭以後着打梨束帶參內、密々入藏人町、相尋少將、參着之間淵醉已了、人々廻五節所以後云々、即向五節所、御覽童、昇降等扶持云々、丹波兩介逐電云々、只今中宮淵醉亂舞之間也、密々雖伺藤壺、不能寄付、又行廻立殿方、少々伺見之、歸於右近陣、伺見行幸儀、御輿先在日華門、臨期自中重外廻日華門云々、此事不得心、雖自西出御輿何可、出御南殿、左將渡信能、資平朝臣、爲家云々、小忌公卿經階下、列立橋木束、左大臣殿大納言殿公宣、範朝卿、又出面廻廊外見物、出御陽明修明門、公卿前行如例、無殊事、少將通今日赤紐付左、不足言、又渡大路之後不參內裏、後聞、移御腰輿之間、取忘御草鞋、良久待御、頭不存之歟、但內豎逐電之由各稱云々、大忌公卿定通、隆衡、實宣、公定、顯俊朝臣、又無小忌公卿輿、依內大臣殿仰、忽取渡他輿等云々、不委聞、劔璽役藤頭中將信能朝臣云々、予乘月歸宅、

十四日、天晴、日出之程家光送使云、只今左大臣殿還御、即又可令參給、日蔭赤紐螺鈿等可給、予聞之不信、頻示此由、即借送之、忠弘自內歸來云、少將主基供神物之間、歸參廻立殿睡眠、天明行幸官廳、忽可有鈴奏由被仰、職事催之、仍候奏、着嚴重裝束、兩度勸此役尤爲面目、後聞、件奏無指證據、又非勅定、但依有警蹕可有奏歟由、忽有儀被催之云々、是猶不可然歟、通具卿等無奏由有所見由、各兼日相示之、隨分見舊記、無此事、是又當座之張行歟、不甘心、二條中將示送云、夜前移御腰輿之間、次將不見御座、所存如何由、右大辨奉書到來、爲之如何、予答曰、如先口中、此事一切不知其子細、如舊記所不見及也、誠不可論、御輿之體乘御之時見之、何難在乎、送消息清範朝臣許、爲家榮華自愛之餘頻出仕、若可無骨乎、無指難者有出仕之好由、可披露之間也、即答云、具披露了、早可出仕之由、天氣太快然云々、已刻內辨已御參由傳聞之、未時着節會裝束、乘少將車、着綱、先參內大臣殿、仰云、頻有催、所

從不見來、前驅只一人、隨身一人來、爲之如何、申云、如此時何疑候哉、只早可有御參、出仕之體太見苦、旁雖無謂、定家又可參御共耳、即御裝束了令參給、入郁芳門官地東門、昇東福門北壇、御隨身褰幔、於端座末之地、上掛、脫沓懸膝板敷昇立、經異座奧、令加着通光卿上給、顯俊朝臣平伏在座、內辨之外三人也、小忌大納言殿也、依座狹子不着、大宮大納言隆衡卿、實氏卿等追々參着、隆衡卿入幔北而西端、也、通光卿昇奧座末、召使褰幔掛云、召使褰幔掛云、是非通路、師經賴平卿等不着座、少時內大臣殿經本路令出外辨、通光卿又用此路、召使取沓更說之、昇降相違、隆衡卿又出此路、實氏卿依父卿家禮先出、次第相引出東門、入民部省東門、無門之跡也、小忌先着座之間、無宰相床子、上卿召々使、取末座床子、令立小忌宰相座、仍次第引下兀子、末座已無座、人又召寄床子、令立加帷外南、次第着座、東有三幔門、小忌大臣北、納言中央、參議以下東入云々、內大臣殿、大納言通光、公經、師經、中納言隆衡、參議賴平、實氏各着、納言以上自兀子下着之、宰相上薦超着、下薦自

下着、予超床子揖座了、引寄裾、顯俊朝臣自下着、帷網在冠上、座了與予相議、召々使令解綱了、上方着後床下了、少納言家時同着、案之此外辨少納言不可着歟、內大臣殿召々使令參進、令召外記、稱唯退召之、外記參進、令問諸司給、先是、左近官人久景參進、中開門訖由、次內大臣殿令立給、諸卿立令進出給間座、通光卿下座直進、次第立揖出帷、土間可定歟由雖存、各隨當出也、予立揖、更入帷東面、是今案路也、更出第一間應行南門外、小忌不立、內大臣殿入南門東間、令練給云々、諸仗立、近將皆悉淺沓、頗無念、內大臣殿令通悠紀標西給、自余皆同列立之間、中納言後太狹無可通便、今日無三位中納言、然而計其程歟、參議以下依無其路、更經標山東立標良角之東、予自參議列南去一丈許之程、之方相並東方立、顯俊朝臣依四位納言後、標西、今日標示西樣々、頗雖無謂、散三位難放三位宰相、仍然隨也、祭主取副櫛於笏就版、次跪間、公卿同時跪、良久祭主退出、公卿立、次辨奏多米都物、自公卿列東進就版跪、右手取文、左手持笏、置文披一通、又置、取今一通披之、次取二通、拔笏取副立、右廻退出、諸卿跪、指笏拍手、但白地見之、無前手之程早速拔笏、拔笏小拜起、大臣殿揖、左廻直令練出

給、次々同左廻退出、師經卿右廻、自隆衡卿前并予東退出、次隆衡卿又同前、次賴平卿掛經列前退、已上三人入、標西

實氏卿左廻退出、予同之、次第出南門、先是右府參入、

立兀子被着了云々、着靴、外辨次第於帷西邊着靴、各

歸着、此間忠信、實宣、光親、早參在御所、方不交公卿、公定卿參入、

大納言之外兀子只二也、隆衡卿座了、殘一、其下無所、

人々查不着、賴平卿進着床子、自余不着、雖忠信卿猶

着之、少納言入南門、如承門門儀、如何、少時召了云々、次第起座之間、不

着人々自帷西各加列、進南門外之間、兼宗定通卿參

入、此間及黃昏、今度三位中納言多立之間、民部卿進

標西被立、仍下薦二人相隨、一口中兩度替、無謂歟、其下狹少無極、

然而猶立標西了、敷尹訖、兩謝如例、次第自左仗前進、

昇南面東階、各着座、太宮大納言入前不座、更歸出被

退出了、是兀子之殘有一、師經卿檢校、仍被讓之故歟、若與之人入東面訓北端、直

自座後昇長押、自餘納言以下向階掛、右廻經階下座前

入東、昇廊邊、忠信卿不掛、予本所存掛昇階、自簷東

行、自東壇可下登廊也、而諸人如此、末座者背衆議、近

代於事無益、忠信光親等卿若伺御氣色歟、仍心弱同其儀了、當時拔群昇降、有屬目之氣之故也、後聞、彼人々

儀非同天氣、猶可經上由有御氣色云々、後悔々々、宰

相四人皆着座也、次供御膳、不警蹕、不經近仗前進寄

東西、太爲奇、然而不被追返之由人々奇之、公卿近仗

見之漸立、次々事不見之、一獻了、內辨合着登廊兀子

給、被催獻物云々、奏風俗之間、國司將可立其前由辨

頻催之、予扣留爲家不令向、時賢朝臣取笏行向云々、

此事國司次將相具例分明不知之、仍留之、節會最中取笏、隨事之儀、准他

事不覺悟、三獻御酒勅使訖、進御插頭臺云々、入昭訓門代昇

立砌下、檢校大納言以下指笏昇之、大納言右前、中納

言左前、民部卿右後、宰相中將實左後、各以片手昇之、

曳裾、此次第不似兼日之案、經左仗後南前、昇中階立御帳間簷云

云、不見之、次昇和琴臺、次第如先、時賢朝臣兼欲指笏

云々、予不可有笏由舍爲家了、昇立同所、辨一、時賢三

爲家三、守賴茂四、昇之、還出之間、爲家降中階、經左仗

北後還着胡床、白下、實宣卿見之有感氣、此事不見指先例、只以今案訓之也

次內辨、令奉御插頭給之儀、暗而不見、臣下插頭之間、辨催爲家、予云、次將勤此役事不分明、自余國司寄人等不候歟、辨云、雖尋不候、是不識仰之故歟、大臣三人插頭、宰相取之云々、右大臣分實氏、賴平卿取、其次上臈在後如何、若依悠紀在前歟、次辨取三人插頭往反、又云、建久公清取插頭了、有近例、予強不可諱申、早可被召立胡床山答之、以陣官人觸之、爲家來取插頭、先端座、不知其人、辨又取之、爲家曰、又入與插之云々、次參議已下插頭、史取之云々、辨云、所獻插頭歟、予云、不着座、又可早出、不可給、次插頭拜了、有行酒云々、予招爲家云、早可歸着陣、爲入御警蹕可伺候也、又有傍將者可觸此旨之由示之退出、入夜之後雅親忠房卿參入、見物各退出、馬助以康布衣、招予云、明日節會已一點可被始行、不可待人々參、僅有參者々、可始由被仰下、爲家候內云々、早々可裝束由可觸定房山有仰事、又少々巾人々也者、仍聞此事、密々告實宣卿、共見物之間也、不告自余之人、彼人依有芳意也、不見此後事、

十五日、天陰、午時許微雨聊降、即止、申始天晴、今日不出仕、辰時參左大臣殿、自院御使下人往反、申可有御早參由、即御裝束了、不被待盛儀威イ令馳參給了、予與權大夫殿見次第等、今日次第追以人々令書進、又明日次第等見合也、今日大臣殿仰云、御酒勅使樂不訖以前仰之、失禮也、是不知音樂身也、終歟由觸右府、答之終脱由、仍所行也、而不終云々、予申云、御膳不警蹕、經仗後不被追返山、人々頗有傾氣、仰云、是依追返雖經仗後無事所令供也、家宣不覺無極、宇治左府自南中階可供山行給、仰力、插頭大臣路也、何不用乎、而師能辨強自東供之、有土御門右府自筆次第由稱之、雅定卿應音稱此由、仍許之、辨所行如此、家宣惣無音不便也、賴平稱主基國司由、不取插頭、無謂、仍強所令取也、下臈後雖無便、依惡氣強令取、師經卿存不可然由云々、右府問云、主基國司不取悠紀插頭、有證據歟、師經卿云、無指證文歟、右府云、けうがるかな、無證文事論するやうやはある、若獨言歟、賴平卿內府御插頭指冠上緒、仍取隆衡插頭之

人ヲ語天、令差直給云々、後聞、召寄爲家令指直給、嘉定奏之時歸路、又奇異云々、歸家書明日次第等之間日暮了、日不入之前、忠弘歸來云、主基節會舞等始之間

也云々、內辨參以前御裝束了、欲渡御正廳云々、聖代

之儀尤可貴、今日公卿參集、奉待內辨、皆依內々仰云

云、謝座公卿、小忌三人、內大臣殿、右大將、通光、公

經、師經、定通、隆衡、忠信、實宣、賴平、實氏、三位中

將、不知何人、後聞家其公氏、顯俊十七人云々、在陣將、左信能、雅

經、爲家、右時賢、基保、親平、今二人不委見云々、入夜

聞、顯兼卿女子家兼少將妻依產終命者、可悲云々、親

姓等御神事之間、周章歟、後聞、昨日在少將宅、裏櫛撰

置之、忽有其氣、到父宅無爲遂產了、今日頓滅云々、今

日左大臣殿仰云、背難熱之間、有不思議勝事、子日見

出之、付鹿角、丑日朝更增氣、仍付大黃、不參叙位、是

先日所聞也、其後彌更發、卯日見之、又有更發氣、於今

者存決定可増山、猶沐浴勤前行、明日定及灸歟由、心

中存之、終夜勤了、歸家見之間、件物消滅如無跡、可謂

奇異、社稷神明加護歟、可貴々々、又仰云、昨日主基謝座拜向東拜、是聊秘事也、而今日參不定存也、仍昨日愚作法了、

十六日、朝天陰、已後雨間降、晴陰不定、天曙、巷說

節會可始之由傳聞、左大臣殿御裝束云々、仍參官廳、

乘毛車下白部芳門公氏宰相同時參、先是民部卿、新宰相顯俊參入

云々、見節會御裝束、小忌大納言殿、藤宰相等徘徊、先

是少將參入云々、裝束如日來、卷纓、帶螺鈿野劔、猶令

付魚袋、相具綏尻鞘弓箭參入、先引陣、帶胡蝶之時、解

取魚袋、秘說云々、師時卿如此、已御髮了、被待內辨參

云々、聖代之儀視聽催感、此間逢頭中將問加叙有無、答

云、祭主叙正四位上、賴尙叙從上、昨日予加詞、申左大

臣殿、以假名御書被付二品、已成就、太感悅、件御書予

草之、良業依深恩、偏存子息儀由也、即以使令賀之、人

漸參集、內辨御參、權大夫殿御座、被問諸司等如例、

頭中將通方、奉下々名、公氏朝臣在端末起座出幔外、民部

卿自與移端、立突座座廻、若座之時被昇奥末、如一口通光卿云、書云、大納言父子不然、不得心、通光卿其後用端末、

入加叙之儀、人々競見、遠而不見、內辨召外記、召使召之如例、召莒持參、入之付頭中將被奏、頭取之持參、進御前、莒給隨身令返外記、次大外記持參外任奏、先是被召也、付頭中將被奏、還來奉下、頭往反路如公卿出入東機也、次內辨起座、出幔外着靴、此間召大內記敦倫、乍立被仰加叙事、即出東福門代賜下名、令下二省給、其儀不委見、二省賜下名了、頭中將在東福門邊、仰可引陣由、近衛引陣、出御云々、先是外辨雖被起座、依甚雨佇立東福門代邊、內辨已謝座、各見物不被出、外辨謝座了着座之間、內大臣殿先令出給、右大將以下猶遲留、人々前後不守次第、行向民部省東門邊、於門外、猶甚雨之間各不被着小忌三人、內大臣殿先着給、隆衡卿顯俊朝臣着、自餘自幄北群集南門邊、透雨也、事頗狼藉、此間被下位記莒了、幄公卿又召以前起座、猶被入南門邊之間召成了、各參入如例、異位重行、無違亂、依無標也、小忌三人、內大臣殿、大納言公房、兼宗、通光、師經、中納言定通、隆衡、雅親、忠信、實宣、二位中將殿、三位、參議公定一人、次子、次四位參議二人

也、被仰敷尹、謝座謝酒如例了、次第揖放列、經左仗前昇東階、階下有揖、過東昇、皆入南西東一間、自入門、先右定、端人如例、與人經座末、但隆衡卿入東面、二位殿、民部、予在奧、各座定間、忠房卿自腋參入、入東面、令立加兀子、內辨不令行給、自令立、着座、兼被奏遲參由歟、不知之、內辨仰末座宰相令催叙列、起揖出東間催之、輔代進間還着良久、叙人參入、少輔代二人先進立、先是實氏卿云、留輔先可進由存之、上臈不同心之、如何、予云、此上臈必不可背御命、只可令行給、而雖被留大輔代、少輔先立如何、兩宰相中將、少納言二人以下四五人、廣基子依四位立、少納言上、兵部叙人、時賢朝臣、四位、爲家列、在後、今日乘若、紅打袖、紅梅白袖、紅單衣、內辨召左衛門督進參給、宣命復座、其儀無違亂、太優也、未復座以前、二位殿予等起揖、七歲超床子、予依末座今日惣不超、白下立座、出東面入腋、依家禮也、次第下殿、小忌以下內辨、令經仗後給、此間右大臣參入、直下登廊壇、南行加拜禮、忠房卿出東面自簷廻昇降、公氏朝臣又依右大將禮、立出事如予、各下殿、二位殿予等自簷廻下東階、右廻向階揖、經

列後立定排異位、如例、此間時賢爲家退列一許丈、依家禮也、

左金吾經左仗并列前、有曲折揖、就版宣制、是共二拜也、而

顯俊朝臣二拜了、置笏立如何、立後更取之、宣命使復

座、此間又甚雨、次第昇着、忠房隆衡卿廻簷入東面着

與、自余如初、今度實宣卿依座狹不着、自簷出登廊方、

公卿昇殿着座之後資平中將座胡座、定有樣歟、如恩案

者叙人退出之後仗座、次式部叙人公卿先給位記、大略

如例、賴平卿給位記、取笏取副乍座一拜起、左廻復列、

實氏卿同取副笏一拜、右廻復列、四位等進寄之間兵部

不進、久而時賢朝臣以下次第給之、後聞、爲家示告云々、時賢內大臣殿昇殿之間復

列、爲家予過了復之、時賢取副弓一拜、左廻復列、爲家進自四位後

跪、輔左置弓取位記一拜、取弓立、右廻自列後復列、親

通大略同之、赤紐付直右方、親平經列前復列、皆取副弓拜、各

賜了、各進立、公卿斜乾進、立定排、少納言等同式部

叙人、見之多有排者、兵部又進立、皆悉舞踏退出、今度時賢

又有題、爲次內辨仰顯俊朝臣撤莒案、次予等又起出如

前、兼宗卿以上進立之間、又甚雨、此間不待下薦各有

拜、人々成悅逃隱了、即復座、予等不復座、中宮大夫以

下出被向五節所、通光卿一門三人不向、但中宮大夫自五節所前被歸了、如何、其路出東面、

經登廊東福門代同廊正廳等北面西登廊同中戶西廊、

小忌大納言殿、二位中納言已下皆悉到向、先例雖座弘

庇、白晝當節會之眼路也、仍脫靴入簾中着座、二行座、

南座大納言殿、二位中納言、公宣、實宣、有雅、公氏、北

座隆衡、光親、二位殿、公定、範朝、予、大納言殿、行

事給、諸大夫居前物、各二四五人以下不居之、一獻、時

賢朝臣、經南座後進寄、瓶子諸大夫、二獻、民部卿、瓶

子知長歟、不慥覺、不可巡流、其後朗詠、別當、令月、三

獻、隆衡卿、瓶子賴資、次催馬樂、席田、美濃山、次實信

朝臣取櫛柳莒、敷薄樣入櫛十余裏、獻大納言殿、次々知

長兼隆等殿上人下薦料、諸大夫次第與之、各取之、競

立出簾外、大納言殿可訪若狹五節由、示中納言給、公

卿可訪受領所乎、不知可否、予等先着靴歸東方之門、

者、去立舞程云々、先是改雨儀了、予猶着座、即立箸七、笏

倚兀子足、三獻被催程也、次第如例、予不沃酒、依末座也、次

內辨起候氣色復座、召民部卿被仰御酒勅使、其儀大略如例、各取副笏、進立簷二間柱西、有揖、右廻復座、次大歌別當兼宗、下殿、不拔七、拔箸、次內辨目公氏朝臣、令召別當、公氏進參承之、如御勅使、出東而進立召氣色了、右廻下登廊、次別當復座、次公氏朝臣復座、次仰順俊朝臣移大歌座、不可小忌大盤、次被催舞妓、而殿上人懈怠、舞妓遲々、此間始上五節所簾、次第參上太遲、舞妓次第着座、カシツキ、白舞妓今日初見之、此間大歌不發音、又仰順俊朝臣被催發聲、後舞妓舞々了、有舞妓拜、此間又依禮立、但按七了、不可歸也、予私廻北而伺見、殿上人亂舞、此後事不委見、宣命使公氏朝臣也、公卿下立之間、此所敷祿所簾幣、仍令撤之有此拜、丁又敷之云々、於昭訓門代廊北第一間簷宣制、公卿立同廊南第二第一間拜了、祿所順俊朝臣云々、先是內辨令奏宣命、見參給之間、右大臣退出、右大將又退出云々、此等事不委見、但入大內方云々、此間頭中將云、可供奉行幸乎、答可參由、又云、可及昏黑者、予即退出、此間內辨御退出、

路濕之間不令脫靴給、予又同參大內、入藏人町解裝束休息、食了、黃昏歸參、不改飭劔參着之間、還御已被催間也、自院清範參入、招頭中將、申還御可被忿由云々、左大將殿即令下立給、此間範朝公氏參入、相共示合列立事、予範朝西上北面由存之、御即位日如此、一昨日入御又如此、何有異儀乎、公氏彌以難澁不來加、予密々申大將殿、仰云、西上北面立砌也、此間光親卿參入、又云、西面北上可立、二人猶稱本儀、納言云、所存猶北上也、然者兩樣可立歟、予等答云、所詮只可奉隨上臈中所存許也、爭兩樣可立乎、被引上臈時、更不可及子細、予如例行幸立、公氏朝臣來加、少納言顯平奏、寄御與、御與過之間、公氏持笏揖、放列副御與如例、即役劔璽、此間予等前行、先是又各云、可經一程出御門、少時又可依出御歟、入御用他門之例、不可勝計、經建禮門、神祇相儲大隨又修明門可當太白方云々、仍用建禮門、廊、右衛門權佐立、承明門列立如例行幸、公氏朝臣終在本陣、不前其列、即役劔璽、退御與之間、復公卿列、左中將留階下、少納言奏之、問名調、稱籍退、昇露臺方、少時召殿上人

於御前、其儀如先々、朗詠今樣萬歲樂了、又二人舞、此間予退出、天晴月明、舞妓昇降了、爲家參院可拜賀之由、示台令參、以藏人家資奏之云々、叙列了、付魚袋、今日家嗣

朝臣裝束、小忌下濃打袖、紅梅袖、二濃單衣、白日陰、

縮緬綾袴、羅半臂、資平朝臣濃打衣、蘇芳濃打、袖、二青單衣、小忌

平緒、白地青文縫之、紅梅句色、口陰、其色濃薄白三色也、基保紅打衣、明木袖、二紅單衣、着之云

云、左衛門尉康光、又小藏人等紅日陰、自余皆用白、右頭中將帶樋螺釧劍、今度地下次將出仕、只雅清中將一人也、卯日同供奉行幸着小忌、

十七日、天晴、左大臣殿仰云、明日可歸八條殿、今日來臨哉、未時許參入、被仰日來事等、午日中納言忠房卿無申事由者、推而着座、自他雖成不審、依無令見不問之間、定通卿問被申事由歟、答云、以內豎申了、歸來所申可召寄由也、案之內豎自由示此事歟、內辨不聞之、右府加宣命之列、猶奏聞之後可進歟、伴日又云、主基國司不取悠紀插頭之例見出之、後悔者也、又仰云、九條大納言殿每度昇降用西階東々階西給、極以不達、

未問答其事、我內府皆如他人用東階東西階西了、更無所見、後日可問申之、已日訪五節所、其座如午日、但大臣料敷茵、主人座例疊也、一獻主人勸杯、大納言殿、公定、賢氏卿等在其座、伴日中納言遲參、頭中將以近衛將可爲代由來仰、問其人、答云、爲家可宜、仍已仰外記了、而少納言參入之間不勤之、申云、此事未承及、極以驚存之、其作法未分明、不申定之間、若勤之不便歟、爲之如何、仰云、所存如何、申云、猶出南門外者、外辨遠見、太無所據、不着外辨、在其眼路、尤無骨、仍只在陣、召後取梓、就版召之宜歟、仰云、然者於此事者、尤有便歟、豐樂院儀少納言自建春門參入、准此儀少納言可入昭訓門、而皆不覺所入南門也、依此說者、陣引時出入門尤可有便、予申云、此條尤可然、殊勝々々、兼申定此事、不教訓之條後悔百千、但大內之儀猶以建春門儀、欲出日華門如何、仰云、彼儀大舍人猶於建春門、仍出也、大舍人在承明者、可替此儀歟、申云、事猶爲大切、便宜只捨大舍人叫門、偏可用建春之說也、仰

其條、又強無難歟、予案之猶可用此說耳、深更退出參院、信能朝臣語云、寅日頭中將以下家嗣朝臣等多昇常寧長壇、不通反橋下、而卯日又皆悉通反橋下、兩日不

同如何、又自朔平付女房之人、可在筵道東、而左右、仍我示基保令立左、見之人々又立左、中宮權大進經兼一人立筵道右、又淵醉一人袒左、是定經卿例云々、頗不足云々、件夜左頭立貞觀殿北面之東、上薦多立西歟、但泰通卿立東云々、清暑堂御神樂夜、前右府我不接節會、前官也、仍不指插頭、出自東戶入可着座由被存之、而見上薦通光隆衡等卿、自東入、於隆衡者示此由、更歸自西令入、經通朝臣無左右着公卿座前、右府云、於院御所雖被召加公卿末、御前之儀不可然、藏人頭可罷着殿上人座、即被追立了、壽永父卿爲藏人頭勤仕此事、尤可見前蹤歟、予辰日不昇殿、自階下退事、隨上衆由事仰、奏聞了、仰云、於我者可登由存也者、後悔云云、賴平卿被寄插頭之儀、大相國深憫憤、於右府者可問由被稱云々、亂階被寄事也、自讚之詞等太多、此人

頗有此好、又器量尋常、不似父兄之故歟、名謁訖退出、寒風殊甚、又他人說云、通光卿見前右府、忽撒插頭花入東戶云々、不足言歟、

十八日、天晴、自座主御房、賜定圓灌頂淨衣濕衣等生一襲云々、清範朝臣奉書云、大嘗會午日還幸、少將殿令着魚袋給云々、是本儀候歟、而近代說多不着云々、隨御所見可令申給之由、內々御氣色候也、仍以言上如件、內々言上、此條御事やなどとして御尋候ニハ不候、只爲聞食御所見、尋候由沙汰候也、重謹言、予申云、爲家午日還御付魚袋候事、別付魚袋之由所見全不候、件日還御、偏不改節會裝束垂纓取梓供奉、此上限魚袋可解取由、管見不及候之上、事理未案得候、惣次將之身着闕服用巡方帶螺鈿日、不付魚袋之禮不覺悟候、可謂祭所力使、至于如臨時祭使并內宴出居、入夜帶胡錄之時、解魚袋、只北山抄所載、叙列日引陣間此事候歟、件儀猶裏書破之、秘說以付魚袋爲可云々、依思此等事、限此還御可解魚袋由、不諷陳候也者、以此趣可令披露給、

此事誠不存事也、案之忠親公於事以今案稱秘說之人也、如此之輩云出事歟、依不改節會裝束取梓之儀、至于魚袋何撤之乎、如何云々、重伺彼仰之處、御氣色宜之由示之、

十九日、天晴太寒、今日院童女御覽云々、光家猶付內大臣殿下仕云々、此役未得心、先例被英華事也、而被召光家、被合他人、爲本所爲身失面目歟、彼男事不及口入耳、後聞、五位藏人二人、依召罷不參、仍清範朝臣奉書二人付之、大臣殿下仕在堂上云々、

云、大嘗會辰日近將先着淺沓、壽詞奏了改靴事、御存知之由其聞候、何程可着改候哉、御所見何記候哉、可令注申給候、此事可然之由被思食、且被御覽及之間、爲潤色御尋候之由、內々御氣色候也、仍以言上如件、頻勅問、恐惶無極、申云、辰日近將先着淺履事、惣大嘗會之間如舊記、依其用否一切不尋見、只去年衆論議之催之時、僅所借出少々引見候許也、此事兩說之由粗雖伺見、更不知可否、去比事次伺中內府候之處、淺履爲宜說歟之由蒙處分候、於着改事者、上古記惣不見及

候、但外辨出南門外着靴還着云々、着靴之人參列之後可無便宜歟、何此間相替各可着改之由、廻恩案候許也、凡依無身至要、如日記不尋見、萬事向暗夜、僅所存如此候也、但內辨任所存申此由了、權辨兩府其禮異他、仍後參入以前、可退陣由申含了、仍此事惣不沙汰候也、定被處不覺歟、散木非人所見不可過之耳、依寒氣難堪不出仕、

二十日、天陰、微雨間降、阿闍梨來談、來廿四日灌頂、同廿二日許可、此間事頻有懇望之氣、隨堪雖相訪無力、愚父更不及隱耻歟、前院主僧都來談、

二十一日、終夜今朝雨濛々、申時休、今日加小灸頭、風熱、以空體房加灸點二所灸之、傳聞、相國有惱氣云々、二十二日、夜風吹雪、沙庭僅白、午時許着束帶參內、於鬼間謁女房禮申、爲畏申爲家國司加階間朝恩事也、委細示付、退出之間治部大輔知長、於露臺招留予云、只今聞食參入由、賜櫛五裏之由相示也、忽拜領、恩賜之忝淚先催、其體太以美麗、不論事之輕重、聞食賤老參

入、拜領節物、感泣之至無物取喻、陳謝還失詞、相計可有披露之由示付、即退出、故不向他所直歸宅、今日聞、依節會遲參、五位藏人三人召籠云々、明年二月十九日法勝寺九重塔供養可有行幸、三月兩社行幸云々、申時許清範朝臣奉書給題三首、可詠進和歌廿首者、近年此事無沙汰、殆廢忘之間、老風情尤可拙、爲之如何、今日阿闍梨許可梳飯、欲圓律師訪之、頗過分云々、

二十三日、天晴、美福門院御忌日、雖欲參鳥羽、寒氣太難堪、又無催、仍今日猶休息、廿六日欲參、明日定圓入壇事、人々之訪無實多、自身又庭弱之間、事多闕如、約束之輩已以無音、太失本意、但左京大夫并三位後醍醐等、各相訪、被物尤爲芳心、阿闍梨灌頂前日梳飯成時法師送之、又過分由答之、入夜之間、明旦之料、忠弘又今夜調送之、依番參院、深更名謁訖退出、頭中將語云、廻立殿行幸安御與月花門事、出御自西之時、猶安日花之儀、通方無所見、如此事不達之時、問官外記、又定事也、仍以出納令問國家云、可出御月花門、御輿猶可安

日花門歟、先例如何、答云、自盡御與可安月花門由申舍之處、于今在日花門、返々奇恠、只今所令廻也者、即自中重廻之、此事誠雖不覺之至、此上依不覺悟不加詞、輔平中將等以人觸送云、官副御與自中進可廻由申之、可然歟、答云、御與安月花門者、左將可被渡歟者、於此條者相副廻之條不穩便歟、次公卿又經階下被立西、是又僻事由左府被承伏中、自他不知案內、誠可謂遺恨、但官行之間、存有所見歟由也者、予問爲家魚袋事、是限叙列人、有漸不達付之無難由、御覽出了云々、修明門院還御、殿上人多改小忌着束帶、輔平中將乍小忌供奉、先例自真言院還御、更不改小忌、尤奇恠云々、家嗣中將在此中、相國風病更發之間、不被伺候之由被申云々、時賢等之所爲也、近代之人改裝束事如咒師、日來此事被處穩便、今見舊記漸被直歟、清暑堂御神樂之夜、昇高御座、見物之人有之云々、五位藏人等不當歟、又御前舞了後、於仁壽殿觀音御前有女犯人、親通、主上聞食之云々、又丹波介清親獻物取副笏云々、明日

於西坊城可有相撲、親定卿奉行催廻、右大辨並左中辨等在此中云々、宗宣依此事、此夜職事等被免召籠云云、歸家之後、定間入壇布施等取入長櫃、曉更可送遣由舍忠弘了、少々先度送之殘也、都合自是沙汰送物、大阿闍梨布施、被物三重、御綾一、綾一、物一、綾一、裏物如例、懸子三綾一、五疋、絹一、三疋、綿一、七十讀衆料、綾被物一重、裏物一、僧綱二、暇施料、錦橫被一、不具物也、無、水精誦咒、付人相裏、暇施料、錦橫被一、裏、隨尋出、水精誦咒、打杖、此外大幕一帖、兼時朝臣訪、直可送由先日示之、座主御坊淨衣一具、濕衣二具給之、枕飯都合四具沙汰送、此外事予不知之、或勸人如奉加聖人、或勵微力依爲善事、相構令遂之也、

廿四日、丙寅、天晴、已後陰、入夜甚雨、

廿五日、夜雨止、朝天晴、已時許院主法印消息、阿闍梨灌頂無爲無事令遂、感悅之由被示送、一度大事已成就、誠以感悅、每事不具之由耻思之處、丁寧沙汰本意之由有感歎、尤爲面目、阿闍梨又悅送之、女子相伴或女房向九條之由云送、且依招請也、借送車了、入夜少

將退出、語云、親平經列前後列之儀、上皇仰也、後日教訓失錯之由有勅定云々、丹後守公廣取右大將插頭、久摺冠額、遂稱穴見由、滿座解頤云々、召籠職事等儲飲食招請、爲家、惟長、稱候御前由不到向、爲長卿兼隆等向其所、三品早出、兼隆終夜醉鄉、酩酊迎中宮半物、此事達仙洞之報聞云々、少年者顧傍難、感情催落淚耳、廿六日、自夜天陰、依召參左大臣殿、見參移漏、入夜退出、是光家事爲被仰合所被召云々、光家依此殿仰參鳥羽院、殿上人少々被催之上、又自大臣殿被催之云々、遠章實茂等也、常磐殿御佛事了、僧以下參鳥羽云々、遼遠有煩歟、

廿七日、天晴、以消息與管三品問答此事、成約束訖、後次第遲引、歲內又稱無日次由、期明春云々、太失本意、廿八日、自夜甚雨、夕雨止、

廿九日、天晴陰、參座主御房、爲畏申一日恩賜也、見參之後退出、今日若宮渡住此御房給、有御營云々、傳聞、來月十七六條宮御元服、藤大納言師奉行、五位院司左口脫力

少辨家宣云々、右將軍不承此事、如何、

卅日、天晴、依遠忌籠居念誦、於嵯峨修恒例事、入夜一寢之後、北方有火、泰忠朝臣新宅燒亡云々、少將昨日退出、今日參內、夕退出、明日行幸一定云々、

○十二月

一日、癸酉、天晴、僧都被來談、乘燭之程參內、先是阿闍梨入來、依獻行啓出車乘檣榔、少將令先參、經陽明建春宣陽和德門參入、於鬼間逢左頭中將、奉行昨日依院仰被分行啓人、公宣、實宣、基忠、基行卿云云、又依今夜勅定、被差定賢所供奉將、左實俊、右師季、行啓々陣、左定親、右敦通等云々、爲家依爲下薦可用意由雖示含、依別仰被仰彼四人云々、人々漸參集、無程出御南殿、國通公雅中將付內侍、先是有召仰事、頭中將出陣、不見其事、予即着靴、相儲宜陽壇邊、藤大納言、師經、土御門中納言、定通、左金吾等在此邊、人々漸來加、右將渡了云々、即列立、經宜陽壇上軒廊二間、師經、定通、忠信、有雅、賴平、基忠、親定、家衡、家良卿、予、次關司葵了、少納

言行定奏了、寄御輿程遠不見、安御劔、已乘御、此間予揖前行、出承明東間、於春花門外騎馬、經待賢門大宮三條、入東門如例、次第列立、教成卿參會、入御如例、奏名詔了、暫昇中門邊、即退出、左將、國通、雅經、家行、忠明、通時、基保、爲家、右將、清信、公雅、家信、家嗣、時賢、實經、宗平、師季、爲逃步行、不參內、騎馬在路頭仍俄依別仰、實時中將供奉賢所、右佐定痛思歎、雖有下薦被仰下間如此云々、二日、天晴、妻勞出關參詣社頭、男女于息相具、女于七夕日參詣、予依老病寒氣不參、又是依詠歌事也、清範朝臣奉書、和歌今日可進由重仰之、即如形書連進上已了、老風情盡一首不尋常、但又不可澁之、

三日、天晴、宮內卿送昨日歌草、披之金玉聲、彌增心中耻了、傳聞、第四親王御元服來廿二日云々、此言年來有稽古之心、殊富文章才名之譽遍天下、而自去夏之比、稱上皇之嚴訓、偏好弓馬事又水練角力、惣以如此不善之陪從等添色激勵、已拋好文之思之山人以歎息、而昨日上皇召爲長卿、偏可奉勸文道之由被仰含之、是

只凶徒之所稱歟、更非欲應所好云々、午時許社參人々歸來、方遂宿忠弘宅、

四日、天陰、已後雨降、今夜臨時祭調樂云々、少將束帶、未時參內、一昨日同被行、舞人二人參入云々、深更退出、語云、以藏人所屋良角女院侍屋也爲其所、有緣、仍脫、侍從

宣家最前參着、乍懸裾在座、相示令下之、兵衛佐成實人、帶劔把笏、爲家藏人二人不帶劔、先着座、勸杯等如

例、次舞、皆悉着中臂次神樂了退出、去秋十首歌自院被申之、

御覽了被書寫返上云々、雅經朝臣第一之由有沙汰云云、今日或物依志送奉柑子、入道大臣殿女房返事云、

一昨日俄御風、昨今雖無爲、其後不食御座云々

五日、終日雨降、申後如注、依召參院、一日歌御製以下被書連可立次第由、清範朝臣仰之、但夜前書連之云云、其次第無可直事、仍返之、即奏聞清書云々、愚歌尋常之由、有御氣色云々、爲面目、大嘗會之間爲家出仕、於事存可存事由、內々有御氣色之由語之、殊恐悅、除目來十日云々、昨日以宗宣大納言無出仕之條、爲身爲

朝尤奇思食由、被仰關白殿云々、尤可然歟、申時許退出、依甚雨不參番、

六日、辰後雨適休、未後天始晴、今日仁和寺御幸云々、明日灌頂後朝御布施取、經時朝臣奉行催之、先日領狀、今日以消息示付觸犬死穢由了、遂所晴參、云窮屈云不具其障太多、末座賤老交衆、無詮之故也、少將參內、予在他所由可披露由示付了、非社稷之勤節者、只可養老身耳、

七日、天晴、參左大臣殿、秉燭以後退出、

八日、天晴陰、未時許僧都被來臨、即爲沐浴向法印許由稱之、其後明曉自御社退出、使等沙汰送了之間、有

法印書狀、急事云々、披見候處、此御有樣危急無力限由許也、假名帖尋問使者、入道殿令絕入給云々、乍驚以

忠弘令馳參、今夜依調樂少將未參之間也、秉燭之程忠弘歸來云、今日猶無爲御坐、盡御膳雖如例、惣此間御不食、雖不見入給強不驚之間、事外苦由被仰臥給、即令引入給了、大納言祇候院之間、被馳向云々、女房別

宿、折節更無計略、然而依有事恐、忠弘宅與有別屋、大炊御門面通也、仍隔中垣可渡坐山相議、予少將相共先參向坊城殿、申入之間、僧都被出逢、且女房御中可有披露由申之、宰相法印皆被出逢、各云、去二日忽振給之後、又溫氣事外病惱、自翌日落居給、心神無爲云々、然而一切不食、自三日被始懺法、恒例二季、今年、移坐堂廊、件所不取、入魚類、一昨日戶部被參、事外庭弱、今年難過歟之由被仰、但病翌日不能立、昨今、行步無煩由被仰、又令剃頭給、今朝如例開障子聽聞、每時如此、此晝猶如例、而俄庭弱無倫、憑可念佛由被仰臥給、仍告申法印之僧都許、馳參之間、不及御言語令終給了、善人之命終已如此、可謂不思議、大納言只今於北宅、知信、被謁女房由聞之、仍後可被申由申之退歸、以忠弘此由令觸內藏人等、歸宅後女房以與渡忠弘宅了、折節寡居、於事煩多、

九日、天晴陰、雪紛々甚寒、已一點物詣人歸來、以祖母書狀示越中內侍、除服早可參云々、然而今日重日、明

日衰日之上、午日明後日減日、十四日除服可宜由內々存也、入夜向刑部少輔宅、此事等不審示合之、含イ輕服之後未出仕、明日可除服由示口參院、名謁之間清範承仰、明日申時許可參、例連歌殊可被刷由仰之、除目日太以中間歟、承了退出、寡居閑寂、

十日、朝雪積地、黃昏參院、除目沙汰未訖、執柄御坐云云、又今日於馬場殿有鳩合負態、左金吾經營、其風流只金銀錦繡盡善盡美云々、去春過差如何、相國自其所被退歸、其人數之內又有龍蹄、等、相國已下得也、次除目評定、戌終於殿上有若宮御元服定云々、其事丁又出御高陽殿、各應召參入、無心宗之輩在東、有心宗在西云々、是御所也、先立隔屏風、各宗連歌折紙一枚訖、撤屏風寄合、賦烏魚云々、其物不覺悟、太不堪、東、光親卿、顯俊卿、宗行朝臣、定高朝臣、重輔、未至、被召加、仲家、家綱、清範、執筆、西、御所、定通卿、予家隆朝臣、雅經朝臣、賴資、執筆、家長撤屏風後清範書之、子二刻入御、折紙六枚、御句如流、天氣太快然、即退出、藏人次官棟基、仰少將除服出仕事、

十一日、天晴、早旦侍從申出、執筆折紙送之、五位以上事似穩便、惣任人不幾、但雜任之體只如前年、父罷官內舍人諸成功歟也、侍從源清房、不知其人、朝臣歟、後、左京

權大夫親綱、近臣勞太過分、修理權大夫長經、不知其人、圓宗寺法花會

定云々、秉燭之程人々漸參入、行幸殊被忿云々、公宣

卿着陣行召仰、頭中將以使者、院御所御裝束等訖歟由

尋定高朝臣、少時使歸來申事具由、即出御、右將渡、中

將、雅清、家信、家嗣、範茂、時賢、少將、敦通、實經、師

季、親平、宗平、公行、列立、右大將、定通、公宣、教成、

忠信、實宣、光親、有雅、範朝、賴平、基行、有能、家衡、

家良、予、公氏朝臣、列立、少納言顯平鈴奏、寄御輿、

左中將、國通、資家、公俊、家行、忠明、少將、通時、定

親、家兼、基俊、實俊、爲家、親通、右中將、實時、加公卿

將、放列副御輿如例、賴平卿開轡戶安御劔、此間前行

召使來云、本三條洞院中御門云々、今鳥丸二條洞院云々、騎馬、鳥丸北行、

二條西行、入高陽院殿四脚、列立殿上屏前、右大將入

四脚立北方、光親卿頗退列、脫靴着淺沓、步進向御輿、

揖入中門進南庭歸出、又揖左廻復本列、御輿入給、公

卿啓折如例、次昇廻御輿東面、奉安中門也、右大將立

御輿良方、次將在南、安御輿之間、公卿并近將皆跪地、

家良卿立右大將東、召寄前駟令下尻、此所无、便歟、此間公氏

朝臣居右大將東、四尺、家良卿雖其兄弟、以下闕、文アルカ教成、實

宣、基忠卿着座、自余於轡口名謁歸出、公賴、高通、有

家、有能、忠行、家衡、予、顯俊朝臣、散位九人、希異也、其後光親賴

平卿參入、定通卿加座、光親賴平名謁歸來、光親卿云、

院司雖不重問遲參人、只名謁由所存也、仍用其儀、人

人有奇氣云々、事了行香、及基忠卿云々、此兩人加間、基忠卿前近寄上

滿米、次第被坐下、次祿了僧退云々、次下蒔公卿次第參加、副東

西面坐、是例也、各有揖、顯家一門三人早出了、名謁了、次第揖

自下退出、近日所衆武者所不和喧嘩、今朝事有限、不

可有奇恠之由殊被仰下云々、然而武者所打籠強、同時

名謁、返々奇恠之由藤中納言高聲勘發、不可退出之由

仰成長奉行、院司、令抑留武者所、已亂拍子ハヤシテ退出之

間、止聲列立中門內、中納言以成長奏事由、御定云、上

二
三人口一人先可召籠小庭、即仰成長召入小庭令開戶、武者所等申云、所衆猶不存例者、武者所又可有其儀之由盡申上了、是和平時、所衆送使者、依先例罷寄階下之由相觸、其時武者所問聞所衆最末名、是例也、而不送使、仍一人難存穩便云々、定高朝臣又申此由、仍又被問所衆云々、予此間退出、

十六日、天晴、仁和寺僧都被來談、游快律師來、秉燭以後依佛名參新院、良久定通卿參入、着殿上始事、次着座、四位院司隆宗問名謁、定通、清光卿、予、顯俊朝臣着座、御導師昇了打磬、置笏如例、此後清長卿獨持笏如何、堂童子資隆知親等、此間實宣卿參入加着、今夜寒風殊烈、南面屏風垂幕等破損不法、飄風甚難堪、事行香及資經、事了又帶劔、次上龍三人取祿入東二間、經公卿座上前取之也、經僧下公卿下自簀子還着、定通卿自座上還着、次名謁了退出、

十七日、天晴、賀茂臨時祭早速之由有重催、已一點參內、無人寂寞、內大臣殿、大納言殿、奉行職事外無人、少時中宮大夫參着殿上、次

使右近中將清信朝臣參入、布衣前驅二人、侍六人、蠻繪隨身四人、雜色八人、花田上、下黃衣、舞人遲參之間、良久相待、少將敦通適參入、行事藏人家光猶遲參、久出來侍從宣家參入、御禊始定、內大臣殿大納言殿着給殿上、內大臣殿自上戶、大納言殿入無名門云々、此間予入無名門當座末、揖昇沓脫々沓昇坐揖、端末也、先是通光卿與有雅卿在座、少時忠房、家衡卿、公氏朝臣各着加御禊云々、通方朝臣藏人惟長傳之、於小板敷取御贖物、自上戶持參、經年中、行事北、宗宣入中門緣北腋戶、惟長同、川此道、同取之、經年中南、不可然、次撤之、其道各同前、御禊了歟、敷庭座云々、後聞、今度御拜八度云々、是尤可然、上古如此、近代只四度、今被改歟、少時經通朝臣入上戶坐小板敷、此間藏人康光維長入上戶昇御倚子了、經通朝臣即立參御前、無其程、無詮歟、主上出御、予此間揖着沓、下排出無名門間、經通朝臣奉告出御之由、大臣殿即下小板敷、排出無名門、令着壁下座給、次第着座、中宮大夫、源大納言、九條大納言殿、二位中納言、已上着座、宰相中將賴平、三位中將家衡、予等在後座、

各於座後掛、脫着坐掛、次通方朝臣經後座後庭座北出幔門、召使歸

出、使着座、紺地平緒如何、自余裝束如例、兼宗卿、通

光、大納言殿、忠房、定通、實宣、賴平、基忠、家衡、予、

次第梓舞人了、次保季已下殿上人取陪從花、公卿取花

後皆着殿上、予不着、使以下立、今日白、下立退、次撤庭座、敷御

着圓座、右頭中將召公卿、即坐小板敷、內大臣殿以下

次第參着、予此間退出歸家、脫裝束、與少將密々見物、

八葉、兵衛佐成實騎陸梁馬之由聞故也、但無殊事、庭座

中央之程、兵衛佐實仲遲參追加者、伴人新舞也、隨身

朽葉香萌木、二人、雜色赤色皆披布、仲親取物、此外無

之、亥時許歸參內、與家衡卿參中宮殿上、範宗朝臣知

長等來談、範宗云、夜前參般富門院御佛名、上衆左兵

衛督先解劍、笏置簀子大宋御屏風邊、空手着座、俄而起

座、把件劍笏、於中門賜隨身復座、行香之路又違亂云

云、次空手進寄取祿、次能季卿插笏取祿如恒、次祿公

氏朝臣在座不取、雖相觸奉行人不聞云々、甚不得心、

隆清卿又取之二返、祿未曾有歟、是非一入耻、已朝廷

勝事歟可悲、明月皓然、招請左頭中將、有連歌、纔始之

間使歸參、有歌笛聲、各起行殿上方、暫徘徊、權中納言

參入、少時出御、着御々倚子、是近年不見聞事也、聖

代復古儀可貴、頭中將出殿上召公卿、公宣卿着御前、

範口家衡予等着長橋圓座、頭中將參進、蒙天氣下長

橋、召使以下口、次使以下着座如例、舞人參、次勸盃有

二獻、保季範宗五位藏人等也、次各起座、人長作法如

例、各還着、韓神了、人長召上卿、權中納言起下長橋、

徒跣、入幔門、坐舞人座末中央程、即起復座、次召使、又

可舞、行事藏人陪從二人召之、陪從無亂舞之物、御前

之儀似無興、予此間起座退出、寒風難堪、于時鷄鳴以

後也、人語云、舞間着座、忠房、定通卿、裾懸檻欄、自余不然

云々、傳聞、右少將敦通、右兵衛佐成實、右衛門佐信俊、

侍從資宗、侍從資俊、少納言顯平、祭北昇殿云々、近日

雲路甚固云々、近日所加五人悉凡骨、如何々々、光俊、

家光、經長、今兩人、

十八日、天晴、早旦家長奉書、今夜可有有心無心連歌、

可參之、本明力□□門院御佛名兼領狀、仍此由示申奉行資

經、乘燭以後着布衣參院、夜深月昇、出御馬場殿云々、

依召參上如一夜、但昨日源大納言結構御事積數多紙、此歟

仰云、有例連歌、隨句員數書之取紙云々、仍有催、有心

在西、源大納言、同中納言、予、雅經朝臣、家隆朝臣、

賴資、家長、無心在東、兄弟兩行兩辨、家綱、重輔、仲

家、清長、上北面輩二人、在無心方、五位殿上人成實基

保在有心方、每人書一句、取紙一帖置其前賦黑白云

云、百句了、仰云、紙不盡、又々可會合、又算紙數、御所

十四帖、予十一帖、雅經九、光弘卿八狀、家長七帖以下

云々、名取紙可出云々、十一帖甚重、公卿所持還有耻

歟、取退出、置緣着沓退出、上北面取之給從者云々、雅

經中將同乘歸家、語云、花山三位中將逐日獲麟、祈禱

已空云々、一子之上器量尤宜、嚴親心可察、中將且依

此事明後日參春日、營神樂云々、前按察實教卿出家云

云、六十三、

十九日、天陰、辰後雨降、前齋院年潔御祓、二條大路見

物、軒騎馳云々、仍凌雨見之、公卿殿上人布衣騎馬、衛

府等其身帶劔一人、不具隨身、信雅卿子治部輔宗時、

隆經民衛親長平禮、賴房右少清親右中資家衣冠左伊時左中

散三位親輔直衣、家衡平禮、隆清平禮、有雅直衣、忠信直衣

雅親同、院御車本宮出車三兩、國通、公雅、家信車、前

驅各二人、其車皆引入衣、次前內府前驅六人布衣、半

部車、其後雜色步行、無他物、見了歸院、御車立二條

烏丸西方云々、見物之間以使問二條中將、從三位右近

中將忠賴此曉絕入、依其告中將馳向、遂以事切了、今

朝分散云々、年十四、爲相家一子也、家譜久傳器量、又

二親心中無比類歟、藏人宗宣消息云、佛名公卿五人領

狀、參不如何、最前領狀了之由答之、連夜寒風雖咳病無

術、強可扶參、乘燭以後參內、少將今夜雖出居座勤勸

杯、於杯酌歌遊座者不可接之由示含少將了、久徘徊年

中行事障子邊、大納言殿御座、不着給殿上之間、依無

便宜也、奉行宗宣良久催所衆、澗口稱未參由、不參事

不始、門前更不可催歟、如何、經時刻稱各參由、欲申可

始由、此間大納言殿着殿上給、經無名門予同着殿上、今夜

上首兼基大納言參入、入中門妻戶、徘徊年中行事邊、

次入上戶被着殿上、此事頗凡歟、入無名門直着殿上可宜乎、不參御前人也、定通典、公宣

卿端、在座、次職事宗宣入上戶、蒙上卿氣色奏事由、還

出觸上卿退歸仰鐘、打鐘了、出居猶不進、予相示右中

將家信朝臣、左中將公俊朝臣、少將家兼朝臣、爲家等、

經小庭參上、于時不開青鎖門、須先開、予粗雖示其由、

出居不聞過了、暫佇立小板敷前、僅開之後昇、今夜皆悉不突膝昇

云、次公卿次第着座、觸氣色於下騰了、範朝卿不着殿上、以下跪

幔下、稱籍還着殿上、予名謁還之間宰相未着、先着本

座了、經端座也、次公氏朝臣經奧座歸來、範朝卿又自端來

加、堂童子火撲等聞相催音、不經幾程栢梨云々、兼基

卿、大納言殿、典、公宣卿次第還着、公宣經上落後、左將列坐小

板敷、相催瓶子藏人之間、良久適出來、藏人未練殊甚、

一獻國道朝臣、經西一間、勸坏、藏人維長取瓶子坐、下蓋了、

勸坏人退立、維長經大納言後次第入酒、太違例也、上

首可被咎歟、直惣如泥、藏人家光可入奧座、而經臺盤

上進、予稱違例由、國通卿仰、又自小庭可進由示之、又

來欲出女官戶、喚返令入奧座、不着沓、太不便、儒家庭

訓不可嫌、卑賤役失東西、尤不當、入大納言殿酒、早可

退歸由被示、乍取瓶子出女官戶了、仍瓶子失畢、官人

周章、又自屏外招請、次二獻、公俊中將欲進、予觸範朝

卿云、藏人頭可被召付乎、可被伺氣色、宰相示權中納言、

權中納言雖見上、薦無其事、仍默然不答、勸坏即進坏、

直下如先、三獻、又不取敢家兼朝臣勸之、同前流下、自

二獻程脂燭之光在下侍、頭中將音聞、是爲招請用意

來儲歟、尤不便、冷然而還去云々、上卿不被下箸、次々

第起座還着御前、又不經時刻催行香、不足、仍各置劔

笏於座前、次第參進、藤中納言光親、在年中隙子邊、同

參進、依所狹、下福對北坐廻及二間、各昇長押坐、次第

取下、及公氏朝臣、次各立如例、行香路大略如例、返輪了次第

退出、予出中門方招寄少將帶劔、應劔笏取之、可儲閑所由取示含、雖違例依事煩也、

祿人今夜六人也、而兼基大納言行香了遂電退出、出中門、

仍藏人來催、即參進、範朝卿取了後入增、自簀子西進

跪指笏、宗宣授祿、取之入西第三間、

光賴卿範朝卿入二間云々、上首入此間、藏

人等云、卿一門人如此歟、是不可依貴人、只可隨存旨歟、

自公卿座上僧前進寄、置最末僧

前、拔笏退歸、本路自公卿前并未退出、次御導師以下

退出、兩頭在東面緣方、頻雖催出居、出入不入興、僧

不舞、天下無爲之時尤可有此興也、次範朝卿以下次第

參進着座、

有揖、光賴卿取祿直着座也、

公氏朝臣向西坐、依無座也、殿

上人貫首已下參入、左頭問之、次第名謁、殿上人退丁、

公卿自下揖退出、予即相具少將退出、入夜後雨止、退

出之間霧深月晴、上首亞相每事如泥歟、傳聞、齋院出

車一兩、伊時朝臣車於栗田口軸折、遣取替軸之間數刻

遲々、家信朝臣車於大江覆、女房入水車破、脫衣乘今

一兩云々、不知實否、

廿日、天晴、向九條、日暮向坊城殿門前、招請僧都、少

少散不審、少時亞相被出逢人、戶部法印次第相謁、且

語世間事、宰相中將元三出仕不可然由存之、但父申不

可出仕由、其上可隨御定由、內々可申入由、諷諫了之

由被語、法印密々云、女房佛事雖嚴略猶不可默止歟、

但其體省略更不可有難、最略猶以無計略、偏雖可現恐

被力

耻可難堪歟、兼不可有披露、答申退歸、行向東宅示合

此由、高陽院殿翠簾荷責、旁仰天之間、一事難叶、無爲

方者也、貧賤之果報、悲而有餘、

二十一日、天晴、不出行、入夜佐渡親康來談、終夜閑

落力

談、臨曉退歸、京官除目之比、院御所有口首、親康父子

罪過爲妨忠繼御給意趣云々、忠綱取之令見親康、未奏

聞、依此事七々夜申泰山府君、每夜向齋庭云々、人心

不思儀云々、

二十二日、天晴昏雨降、入夜滂沱、午時行向法勝寺、講

房令破壞之間、以大湯屋爲其所云々、此僧非本知音、

以難去緣殊招請、如此事非殊可驚之外、強不遁避、仍

到向也、證通僧都信弟子也、參新院佛名、次妹女房懇

望云々、昇沓脫入南面簾中、母屋敷高麗帖爲公卿座、

講師出逢、欲居簾、予可略由相示、即出、明日可給綱所

祿云々、參法勝寺、直着堂、前座

經舞人幄北昇講堂四石階、經壇上南廻於長押下揖懸膝昇

着座揖也、壇上破壞有恐、

左中辨閑談、良久待上卿宣卿之間、二位

中納言出房存外參入、着座給、辨送能入、被問予云、直着此座、若近代之儀歟、先着金堂西廊仰鐘、相引着此座歟、予申云、近代常如此、是略儀候歟、次辨進寄示申、予氣色上卿、被問云、事具乎、誰々參乎、予傳示、辨申云、三條中納言可參、事大略具了、外記未參、納言命云、雖外記不參、餘事具者仰鐘何事在哉、辨揖昇進上卿前坐揖、上卿仰云、鐘力ネ、辨承了揖、立下長押着沓揖仰鐘、仰召使等、打鐘了、講讀師進、於南階下與、相並昇着座、各着座了、打磬置笏、堂童子_{左右各一人}進寄、行道了、次論義朝座了之間、實宣卿參入、此間予揖下長押、着沓揖自壇上西廻、實宣卿此、下西階退出、大藏卿相逢西大門內在、右力下裾、予參座主御房、入見參、入夜退出、五卷日明日也、昨日經仲卿母逝去云々、仍今日經時不隨役、

着給、赤色闕腋、例章裝束、次院司參上、蒙御氣色喚加冠、簀子敷茵、左大臣殿參着、五位殿上人昇二階立之、理髮經通朝臣參着圓座、理髮良久退下、次加冠進加御冠復座、親王退入休息所、次加冠退、次又召加冠、如初參着、給祿退下、出對坤程庭上拜舞、次召理髮給祿、拜舞、次親王直裝束黃袍無品、下中門進南階前拜舞、右大將取御襪、到于中門橋下、付上皇御膳賜、突重三品以下也、次召公卿、次親王加着座上給、次勸杯、次御遊、次親王叙品之後、又改着三品袍、如初拜給、次上皇入御、親王於御休所供御物、先是又依召令參御所給退出、御前物事了、又着直衣令參院御方給云々、女院御衣以下自院御方二品被獻之、女房以下大略每人有此事、通光卿所進馬場殿風流棚、今夜被獻此御方、女房之料云々、是只萬々一觸耳之事也、次第役人等可尋見、入夜參院、番人々云、昨日公卿等親王御起居之間、其禮可何様乎之由、內々取御氣色、仰云、大納言以上不可座、中納言已下可任意、御拜之時公卿以下定望見歟、不可有人由被仰、皆被退云々、仍其間無

人、令着殿上給之間、忠房定通卿不動座、有雅賴平範
朝以下皆動座、但其內座動、又下緣入各別、列力、有雅賴平範、朝顯後等下
云、合着與座上給之間、右府殊有恭謹之氣色、左內府
只如尋常之儀云々、殿上勸坏、昨日朝頗有氣色、早速
可催事由被仰、仍兼隆行之、以知家朝臣獻坏、左府任
本儀令追返給、而不申御定由、須臾又勸、又追返、如此
事及三度之間、左府仰云、此儀已及三度、非本可存次
第、若別仰歟、其時又殿上之方非別仰由有其音云々、
然者猶可返由被仰、知家猶獻置盃退歸、其後更仰由兼
隆申之、仍然者可獻坏由被仰由、公長朝臣重申、進寄
取續杓、乍持其杓退歸、次公賴卿勸坏、知長取瓶子、次
別當勸坏云々、有能卿布衣上結、東對簾外殿上北御
休廬邊、交衆見物往反、或交坐公卿中云々、役送公卿、
範、賴平、公賴、忠行、家衡卿已上三、公氏、顯俊朝臣、
兩頭加、猶鼻返云々、依無催不參、而無人如何、左府
給祿下東對南階、爲奇、自余物御下製半臂許持之、拜
舞、基定獻御此間引儲御馬、頗無便宜、拜了退入之間可引

歟、拜のうしろニ引立、馬頗失便宜云々、又取綱一拜
如例、左頭召親王、召公卿役再度、又理髮、又給祿、御
遊、所作、筆往反十一度由稱之、右頭仰叙品、給祿拜舞、
二十四日、天晴、左大臣殿予有申事、御返事之次副給
一行、仍寫取之、侍從藤原教忠、刑部丞源資宗、大嘗會、主基功、
藤原高俊、法勝寺南大門、金剛力士功、同吉茂、刑部丞政宗讓所帶上、法勝寺九重塔用途功、大學權
助平義滿、九重塔功、大藏丞惟宗康助、大嘗會御禮、大藏省功、壹岐守中原
廣經、止史巡上、大嘗會、主基所用途功、左近衛將監惟宗廣賢、大嘗會御禮、木工寮功、藤
原盛遠、大嘗會主、基所功、清原季俊、刑部丞保信、止所帶任之、右近衛將監三善
景清、法勝寺御、佛修理功、大江宗俊、大嘗會主、基所功、藤原康能、法勝寺、御佛功、中原
友長、同、功、平宗茂、法勝寺九、重塔功、左衛門尉大江信元、九重塔功、紀久
澄、府奏、右衛門尉有道宗朝、九重塔功、少志紀職政、大嘗會、御禮功、左
兵衛尉藤原能忠、大嘗會、御禮功、紀遠實、大嘗會主、基所功、大江光平、大嘗會主、
基、右近衛尉橘公賴、大嘗會、悠紀功、中原爲行、有言止民部巡上、九重塔用途功、藤
原朝政、九重塔功、源親綱、法勝寺、御佛功、大江國政、國道讓史巡上、大嘗會主基所用途、左
馬允伴惟宗、法勝寺南大門、金剛力士功、右馬允平有忠、法勝寺佛、修理功、建曆二
年十二月三十日、從三位藤原公氏、源通方中將、如元、藤原顯

建曆二年 十二月

二百二十五

俊、藏人頭右大辨藤宗行、靜快猷圓兩律師來談、猷々猷々入宇治云々、秉燭以後依佛名參承明門院、土御門殿於御堂可被行之、仍撤劔笏謁女房、自十八日御風氣事外六借御、仍渡御此御所云々、奉行範資來云、今夜佛名每事新儀不審極多、先去年以後御出家之後、可爲御堂之儀之由沙汰、去年忽撤例定御裝束被渡御堂、以下闕於去年屏風已下物具大略如例、諸司供之、以下闕只御帳壁代許無之、於今年不可有屏風、以下闕等立障子、公卿可坐其內、內侍座不可有之、四位院司不可問名謁、公卿不稱籍、事了一度可名謁、事儀大略可以修二月、自後戶可取祿之由、新大納言兼被示送、而今夜如去年、諸司供御裝束立屏風、仍觸大納言又撤之、凡此儀尤不審、上東門院皇嘉門院如此之由雖傳聞、各不知其儀、極難計、公卿參、又違亂、重遣人、此間民部賴房云、少年時皇嘉院所伺見也、屏風以下只如例云云、今案之、新大納言議定甚不得心、出家所皆如例、何限此說有新儀哉、良久定通卿參入、問同佛名之儀、有

嘲哂氣、於後戶取祿者受不可跪、又是非祿、只布施歟、六位手長乍立可取之也、又丈六前例小燈臺等、於事不符合歟、惣新議條有不甘心氣、源大納言兼領狀、被申所勞、仍申事由、早可始之由示範資申事由、來示是非殿上座、只例公卿座也、殿上此饗云々、中納言仰鐘、即着座、入障子、次子又入、同障子東座、入了閑障子、次僧着座、北上西面、弟子僧其南連座、御導師外、堂童子親長以忠入東面妻戶、其座妻戶前也、指油藏人同出入此妻戶、三座了錫仗之間、範資六位等又入妻戶、行後戶取被綿各給之如例、事了、中納言行後戶取祿、予同取之、各復座、隆宗朝臣又取之、僧退出、次隆宗於堂童子座問各名謁了、予出障子退出、今夜儀甚不得心、納言語云、一昨日着座不動座間事、預御問問事、此納言語云、一昨日着座之中當其末座、而保延家成爲中納言動座、汝不動座如何之由、內々預御問、更無存分事、依恐此事今日猶出仕、猶與內々尋、女房只御不口許也、不可有出仕條由有御氣色云々、人語云、妙香院宮、少納言

侍、依人口嗽々被預長嚴僧正訖、於母者猶可祇候由雖有御氣色、件女可遂出家本意由稱之、不歸參云々、頗知物耻歟、家宣法金剛院樂行事催少將、奉公太苛責、此辨本自尾籠不當者也、問答可費紙筆、仍予示爲家物詣之由、

二十五日、自朝雨降、九條今日參二品局、病後未復尋常、依參籠日吉宿願爲謁見云々、今日修明門院御佛名、內侍所御神樂、明日官奏、御書所作文、明後日中宮佛名、荷前、二十八日座主修大法會給、公卿少々可來臨、且爲每年事、自院可被催由一日有御命、仍欲參、歲末忿劇無極歟、近日僮僕或病惱、或逃亡逐電、或喪父、彌不具、取正出見苦歟、親嚴法印來談、臨昏九條退出給、謁云、去年可被志充足利事、即反掌收、而可爲宗行之恩云々、早速如夢、可謂比興、欲參女院御佛名之間、使者奔來云、可有連歌可參、仍布衣馳參、甚雨、實氏宰相中將穢限過了初參、可候連歌座由被仰云々、依甚雨先相儲馬場殿、少時出御如例、儀始、賦木人名、人名

トハ當世人名字ヲ隱題用也、不可嫌高卑云々、此中有隆忠名、雖戲事丞相名如何、太不便、如一夜每句置紙、今夜百句了入御、予十六句、御句十九、定高朝臣十一、掛如例以之爲多、定通卿女院佛名了追參加、光親卿又爲佛名參入、不交其事候此座、顯俊朝臣予等布衣祇候、事了予即退出、有以御句、兩卿、予、賴資、家長也、佛名公卿、右府、定通、高通、有能、公氏等、自餘三人不慥聞、廿六日、天晴、今日洗髮潔齋、始精進、印圓禪師來談、是兵部卿子息云々、少將參內、今日御書所作文、式部大輔宗業被聽昇殿云々、當時之政驚耳目事太多、是賞文之故云々、孝範又追其跡歟、雲上太狼藉歟、又有官奏云々、

廿七日、天晴、未時內豎來云、荷前午時可被始行、可早參、申承了由、重再三催來、即參內、于時及中始公賴卿在殿上、予坐鬼間、實宣卿參入、大納言殿御坐御前云々、棟基付女房中事具由、大納言殿令出給、予奉問使御勤仕歟、仰云、使者不勤仕、猶可行事由別仰云々、正曆例太

吉也、仍可參也、即令着陣給、予不着、依不可經程也、

棟基進申事山、又仰聞食山歟、奧座也、即立陣座、直自屏內

出西、令着帷座給、端座也、其座二行也、西上對座、次實

宣卿入幔門、於座末揖了、脫沓經末着奧第二座揖、次公

賴卿入幔門、出座後揖着座、揖之間予入幔門、於座末

揖了、脫沓突膝、立經座末着奧末座揖了、引寄裾、次上

卿召々使、召使稱唯參、召辨、辨參着軾、令問幣物具否

給歟、辨退、此間雖可有勸盃、先可申含候山、令觸中納

官給、次召々使、令召外記、外記參着、召合外記、退持

參筥、上卿引寄筥、軾座後也、頗願以右手、左手ニ端ヲ

持て、右手ニ卷寄て覽之、引寄筥給、覽了端ヲ置天、是

ヲ卷返天取筭示氣色、令着遣給、文下ヲムケテ令着給、實宣卿取

之、右手ニ繆持て見之了、繆方ヲ置て卷了、取筭氣色、

突遣公賴卿座、公賴卿取之繆持見了、取筭氣色訖指

置、予及て取之、置筭右手繆持見了、繆方ヲ置て卷了、

取筭氣色、又突遣、次第返上、上卿取之、端一行之程又

披見、又卷て入筥、召召使召外記、外記參着、以右手

指給了、次上卿揖起座給、予勸座、自上薦次第揖起、着

沓揖出幔門、列立陣座屏前、此間大納言殿令退出給了、

中納言山階使可用意事也、俄示此由、太無謂、予此間

召寄雜色解劔、猶持筭列立、納言先昇幣物、乍立指筭、

次官昇右、上卿昇左、入中門南戶、同中門、其內有帷、立薦上跪、拔

筭退立戶內、次公賴卿同昇之、又還來同昇之、二度也、乘兩所也、

次予指筭之間筭落、以召使令指了、裝束コハクヲ指ハツス、昇之、入

テ立之、跪拔筭立、返來昇之、次官同昇之、二所昇了、

又昇之、今度次官替來、又昇之四度也、今度拔筭列立戶內、次

上卿又昇出之、次第昇出、又四度昇出了、予帶劔出門、

次官二人送來、早可被留之由相示、出三條洞院乘車、

洞院北行、深草衛士可待歸路由示置之、三人留之、彼田邑衛士前行、二條西行、

實任近代儀不行向、是太有恐事也、但見幣物只空外居

也、無納物、雖參向已無實幣物歟、又可有恐、自二條大

宮密々歸廬、太奇恠事、

廿八日、天晴、已時着直衣參座主御房、被修大法會、爲

院御沙汰、可被催公卿殿上人之後、役カ此兩三日被申云

云、又可爲每年之儀云々、右中辨爲奉行參入、僧等皆群集、被待親王渡御云々、忠行卿參、束帶、與辨三人在懺法院、作合之間、親王入御、尊長法印扈從、信能持御劔、不見知布衣俗三人許供奉、此間各勸座、令入給了復座、此作合爲公卿座云々、辨座在奧、頗無便宜、次源大納言直衣、參入、自院口辨進其前、○闕文アリ儀始、少時大藏卿直衣、參入加座、此間辨觸大納言歸來、導師咒願布施、下藤公卿二人可取、予案之、此會可擬仁和寺舍利會之由、可有御命、彼會公卿取布施事不審、恐非院御前、如此事公卿布施必不可然歟、左右可隨催、辨退、又來云、布施事不可然、諸大夫高階資通雖參可動手長之由所催、固以對捍不存之由中、仍可寄殿上人、資通對押甚雖奇怪、布施御免尤神妙、即殿上人取布施了、長清、隆範、藤原親長、數返取之、出西出東奔廻、可有堂簀子之日兼催、雖儲其座各近參、資通對押手長、辨辭憤不令取布施、布施之後藤原隆綱參入宮退出、大藏卿早出、忠行卿又出、日徐暮、龍王亂聲之間予又退

出了、今日公卿以下參、頗無詮、又大納言在廣廂座、親王御座簾中頗無便宜歟、又親王供奉緣者僧俗群集簾中、見物又無便歟、於非人者、勿論院殿上人何不隨役哉、不得心、是親王少年故歟、於親王家者、上御簾出座給、其前可儲公卿座歟、簾中儀頗失便宜、大納言在座、不可然歟、於法會舞樂事者、惣不知子細、舞臺新調、金銅照耀、每事委不記、有家卿語云、夜前中宮佛名、內大臣殿、大夫、權大夫殿、賴平卿、公卿五人、事了退出、晴夜顛倒云々、自他老屈如此、窮屈失度、欲付寢之間、爲家長奉行、忽有召、周章騎馬馳參、可有例連歌云々、今夜依官奏、光親卿兩辨皆參行云々、被召寄彼等、又被相待之間、及子夜出御、應召納言參入、辨未參、今夜立隔屏風各連哥、其內撰尋常句、爲五首哥可被合由被仰、兩方連哥即撰出五首哥被合、無心殊不得骨、次有例連哥、依夜深限卅句、置例檀紙卅帖、事了退出、天氣太快然、歲末有此事、尤爲物吉、

頭注此間南方有火、以西面令見、樋口烏丸云々、滅了、

二十九日、天晴、依昨日御會和哥獻座主御房、此會料
 內大臣殿中宮權大夫殿給御哥合點、進酉時許參承明
 門院、御不例事、依間驚也、逢前民部大輔、問御有樣、
 答云、自十一月二日御風氣不快、是只尋常風病也、但
 其後御不食、去月一月惣無御減、自晦比頗令復例給、
 去月二十五日姬宮御髮令垂給之間、奉見給、今月又無
 爲、十六日新院御佛名御覽道場、自其後朝殊惱御、三
 々日許、如雀亂令度給、其後御身腫、醫家等已稱水腫
 令逼迫給由、御灸不可叶山、時成朝臣辭申、然而猶
 依別仰、少々奉灸、此上雖非無御減歟、有恐之由、申之
 處、大略御項、於今者無馮歟、雖非指所緣、聞之催悲慟
 之思、又謁女房、所陳大略同前、樂盡悲來、是人界之習
 也、新院昨日密々渡御云々、乘燭以後退出、參院、番
 御馬場殿、宰相中將又有經營事云々、盡善盡美、御馬
 五疋、牛二頭、金銀過差如例、牛馬等於農家偏奔
 營云々、時儀也其事了、
 戌終許入御、名謁早速了退出、宰相中將元三不可出仕
 由申入、已有勅許、四日入夜布衣可參由云々、女院御

幸始、少將被催、猶申障了、於四方拜御劔者、近習者尤
 可存事也、近代御劔憚輕服事等出來、其事不輕者可勤
 由示含候、當時不可憚由有沙汰云々、

三十日、天晴、螺釧細劔、時給
 云々進置內大臣殿、少將參

內、申時許歸來、傳聞、承明門院已及御役沙汰、已刻
 事歟通

方朝臣可籠其事、長兼卿同參籠可行事由、昨日有院
 仰、然而於參籠者辭申云々、今日可有除目由聞巷說、

口口口案此事、通方去職事任參議歟、近代之儀殊有禁
 忌沙汰之故也、終日熱居、少將令參追憚、臨時祭之日應召
 參院、自其日有

寵愛之端、
 近日物吉、依仰改名實忠云々、是從父兄弟生得名也、如
 何々々、近代事萬事無是非、

建保元年

○正月

一日、癸卯、天顏快晴、曉更少將自內退出、候四方拜御

劍云々、其儀、南庭供御裝束、立御屏風八帖、以西爲口、棟基爲家供御裝束、頭中將候御裾、爲家取御劍前行、座御屏風口南方、北面棟基獻御草鞋、頭獻御笏、藏人永光脂燭、御笏莒式莒等一身勤仕、自余六位不御云々、夜前追儼、藤中納言、光、上卿新宰相、顯、次將公俊朝臣、詩粉弓、美麗立南庭云々、是本式也、近代無此事、爲家不降除目、侍從教忠、前左府二男、日來散位、其年及三十云々、從三位公氏、通方、顯俊、皆臨時、藏人頭宗行雜任成功物數多云々、今日拜禮早速之由有其間、午刻參內大臣殿、殊可早參由定高朝臣內々示送、其人々未來之由被仰、未時許御裝束訖、出南面有御手水、依事遲々、束帶之後可有手水由被仰也、陪膳長俊朝臣、衣冠役送、前驅之輩皆束帶、奉行人衣冠、即令出給、予令引入御車、此間資家朝臣參會、予裏御車簾、中將取御裾、御共參院、于時未刻左大臣殿、右大將、在宮御方殿中已下廿人許參云々、定高朝臣申事由、猶可相待之由被仰、此間云々、廻東中門方、大外記持參叙位勘文、宗宣取之付女房進入、返給莒、其莒內書外記二字也、經時刻右

府參入之後出御云々、人々次第下立、下臈予不列立、於取上屏內伺見、殿上人等少大臣三人、大納言公房、通光、師經、中納言資實、前官、今年出仕云々忠房、定通、隆衡、雅親、公宣、去年歲末與實宣勸授云云、所達兼基雅親願許教成、忠信、實宣、光親、有雅、二位中宮權大夫殿、參議隆清、範朝、賴平、顯俊、三位公賴、親定、有能、忠行、家衡、通方、今朝拜賀訖云々此間高通卿來、相共見物、二人在屏內、傍官二人異他人、人定屬目歟隆衡卿申繼、作法如先先、左大臣殿令練給、自余次第列立、今日中門外皆無揖、參議以下在後列、亦可然先々或揖將以下、及五位成長等、上官廷尉等揖如前、頭辨不立、依上臈多歟、舞蹈了、殿上人自下退出了間、通方卿揖、右退出、予同之、大納言已上留立歟、左大臣殿經列前令練出給、次第如初列立、光親卿申繼、良久退出之間、藏人少輔資賴出屏戶取沓還入、教成高通卿予又出自同戶列立、拜舞同前、此間及昏黑、即退出、雅道卿身所東於南山門乘車、隆衡卿同來歸家、密着改裝束參新院、三公參入後也、少時出御之由傳聞、人々下立、奉行院司隆宗上結伺候、只今遂電

之間、三位中將語之、無申沙汰人、公卿驚奇、三位中將申繼、次第列立、人數不幾、雖有所二位中將殿以下猶後列一列可宜、人數少三公、公房、通光、師經、忠房、定通、公宣、

實宣、二位殿、賴平、公賴、家衡、子、通方卿也、殿上人

三人拜舞了退出、內大臣殿御共參七條院、路小以主殿

司申齋院女房、兩大臣殿同令參兩方給、又御共參內、

良久小朝拜、着靴列立、頭中將申繼、三公、三亞相、中

納言資實、忠房、定通、雅親、兩宣、光親、有雅、二位殿、

參議範賴、顯、三位親定、予列立、殿上人職事五人、六

位一人、在後列拜舞了退出、改節會御裝束、經數刻、例事

也、右大臣以下着陣、左大臣殿自宮、御方令出給了頭中將仰內辨、以同

人奏外任奏、出御南殿了、外辨出各着靴、入幔門着座、

內大臣殿、大納言通光、師經、中納言忠房、定通、兩宣、

參議三人、予也、被問諸司儀如例、少納言顯平、辨長資

也、開門訖、召舍人之間、少納言、直自座出着座之時、少納言自後超床子掛座、辨自前立

總掛次大臣殿令立給、諸卿立、大納言直進、自余還座、

次第立掛、出幔門雁行、此間召了、次第列立、予立、顯

俊卿異方謝座謝酒訖、入軒廊東一間、此處只二間也、各着座、大納言二人、範朝、顯俊卿在端、中納言二人、賴平卿、予、在奧、兩宣納言無座退出、內辨仰參議催御膳、

顯俊卿下殿催、驚躍進、諸卿立、顯俊卿此間還昇供了

座、供股御膳等、次催昆屯、顯俊卿下殿催之、居間復

座、居了申上、內辨候氣色、御箸鳴、臣下應、取箸置其上、也、俟不得立

也、供御膳了間、內大臣殿大臣殿立令掛給、早出予即立

掛出軒廊、副北檻下令出給了、還昇副南檻昇復座了、

依末座不超床、予、自下起居次內辨仰參議云、居了、又仰乍座由、顯俊

卿乍座召內豎、仰云、居了、居了居飯間各取箸、在昆屯

上箸也、置本箸臺上令取昆屯也、內辨子自下起、居飯

汁ヲモ了ト仰事、又顯俊卿仰、汁物早可居由、內辨又

急居由頻仰之、居了申上、如前立箸七、先七、次箸此間入御、

諸卿拔箸、取箸罄折、內侍出取御劔退入間、各座立箸、

次內侍又取箸、此間兩大臣納言退出、內辨被催一獻、幸

相仰巡行、定通卿不取花筥、被家院云、予不沃酒、末座有此說內辨起座下殿、參議以

下拔箸取笏、罄折下殿了、各座立箸、國栖發聲、內辨還

昇、又立磐折同前、次催二獻、巡行如前、次示合納言、

兩中納言又示合申在座參議、藤宰相左宰相中將宰相云々、次內辨氣色

範朝卿立揖、超床子進寄、內辨在柱西、等相立其柱東揖、承仰左廻下殿

召外記、立人々出入問、取交名進立、作法如常、進退有揖、次三獻了、

內辨下殿、磐折同前、催立樂、直着陣、此間良久、定通卿問云、

臨時人御之時警蹕了、在陣次將取所立梓退出歟、予云

節會不訖之間、取梓出事總不知之、節會訖退出之時、

取梓自本路出歟、又云、只今右將入御之間、乍持梓出

了如何、予總不存由答了、良久內辨復座、禮同前、次召賴平

卿、賴平卿立揖、超床子出東庇代、更入東階間、進立之

儀如範朝卿、但立幌內、內辨給宣命、持笏進寄、如指

笏、右手取宣命取副退出、揖右廻經本路復座、立間拔笏、不抜七、

內辨以下次第下殿、予拔箸七、俟不可復座也、人云、又同前歟、

次第列立了、賴平卿就版、無曲折、宣制二拜、實不拜、只龜腹、又宣

制舞踏無性體、宣命使還昇、宣命取副笏、人々多有退

出氣、予先退出歸家、節會已前雖經數刻、未及曉鐘、

二日、天晴、午終許出門先參承明門院、女房云、除夜事

外尋常御叶、□定悅入也、御氣力宜令起居給云々、且

承悅退出、欲參大納言殿之間、於蓮花藏院北邊奉逢下

車、前駟下馬、光家下車、被仰御車令過給了、光家來窺

簾、予乘車、仍不參彼殿、參前座主御房、申入早退出、

參座主御房、即見參、申昨日事等退出、參五條齋宮、謁

女房退出、參宜秋門院、女房達多被出逢退出、參左大

臣殿、見參之次令問夜前事給、予申云、依不知子細、不

分別可否、但每事似安不行、每出一言先取出扇、當燭

光委見之、或又見笏紙、太丁寧、每度如斯、不仰進物所

御厨子所詞、只次第事昔とぞと仰、又飯汁催時モ、詞

物と仰、宰相又同仰其詞、仰云、花園など註置說歟、我

等不存事也、但宇治左初度ニモ名ヲいはんか、はづ

かしくてハ、次第中など云由被註、於後ニ者每度仰飯

汁也、故殿飯汁と被仰き、又仰云、東禮御所御輿寄中

門之時、左右近猶可立替由、上皇頻被漣仰之間、松殿

關白皆實ニこそ候けり、家記雖不見可然由被申、於我

者未承伏、但有御問答、被擇仰者、其時若心弱歸伏歟、如

今案者先兩大將入中門座內、正說也、大將入內座

右東、左西、

次將左右向北座、於不背此說者何可立替乎、又代々次

將座樣、如此家記無之、故入道殿故殿御記許、不可用

由院被仰云々、法性寺御記、入中門座內由有之、是即

有家記由存也者、日入之後退出、參宣陽門院、謁女房

退出、未乘燭、於六條院前途兼基大納言、依暗互不及

禮、聊抑車、前驅不見入、顯平在共云々、

三日、天晴、午始許參陰明門院、謁女房、以人令伺相國

方、被參院丁云々、即向其方、又乘車、衛門大夫家邦衣冠出

合、即出參院、參今宮御方、不違人、只對雲角、二行敷登、次參修明門院

御方、申入新中納言局退出、參仁和寺宮、令出給、解劍參入、

依召參御前、二棟南面二間敷高麗帖、爲公卿座、其西障子外開障子令出給、是例也、見參訖退出、於沓脫

下帶劍把笏退出、於一條壬生邊逢左衛門督、次向前內

府亭、千壽萬歲入與之間也、太無骨、着客亭座、衣冠

諸大夫來示、御座中以然由、此人之習、總無可逢由之

詞、是例事也、即退出、向六角尼上御許、謁申退出、少

將下逢、次參內、參宮御方、謁女房、次參渡殿方、藏人

判官家光來示、有女房可謂命山、參鬼間邊簾前、御殿節會料取

拂無便宜、蒙恩言等退出、二位中納言被座殿上、出中門妻戶

退出、參新院、備前內侍心閑謁談、日入之程歸宅、今日

予出門之後光家來、依有暇可共之由、存而來之由稱之

云々、依遲歸丁、內裏之外依無昇殿所不參云々、今夜

殿上淵醉云々、

四日、天晴、雲飛風烈、未後甚雨、今日御幸始云々、軒

騎南北馳、心微稍康不出門戶、聊構蘭湯、獨臥逢屋、可

憐無始生死以來、僅今日得休息、少將着尋常直衣參

內、御幸舊年雖有龍中故障由、與藏人家光同車見物云々、藏人康光、

教實、乘資賴車相伴歸來、語云、供奉人內大臣、直衣、大

納言通光、同、師經、束帶、中納言公宣、同、教成、直衣、實

宣、束帶、光親、同、有雅、同、參議範朝、直衣、賴平、束帶、通

方、同、左衛門督、束帶、在御後、殿上人三十三人、宗行、

資平、資家、家信、範茂、前木務隨身、雅清、通時、清親、家兼、

定高、公長、衣冠、親忠、長清、衣冠、定親、重邦、地下無官猶束帶、知

家、同前、時賢、敦通、實俊、衣冠、資經、成長、成實、野奴束帶、

資宗、兼信、資隆。知親、親通、親平、家季、範資、衣冠、賴茂、束帶雜色持劍、是彼家習也。師季、保教、宗房、不見知物一人、衣冠、大略皆悉束帶、細大刀、近將隨身多紅梅袴云々、是尋常儀也、次將染袴、太無所據、範中將度々以使者示合、予答云、過元三以後、白馬以前之間、尋常每人之儀、於次將者紅梅袴也、而近年號入道左府說、如大將隨身令着改染袴人々出來、此事不知可否、當時有職之說也、於愚身者只存紅梅之由、被問可然之人、又可隨御幸歟、推而難計中者、依無益如此返答了、而今日令着萌木云々、更無可據、先々用他袴之輩、今日多令着紅梅、於資家朝臣者本自令着紅梅也、少將又歸參內、女子今日可出始由隨示送、依雨止了、入夜風雨殊甚、少將又退出云、右大將自元日熱物見付、而對妻室飲七坏、出仕之間更發、自二日致冷治、醫家等恐怖云々、今夜修明門院御幸始云々、終夜風雨、

二兩日事外宜御、自三日多猶不快云々、然而不似去年、猶尋常御云々、參院、深更名謁退出、實俊少將云、昨日隨身袴多着染袴云々、水無瀬殿十八日云々、六日、天陰、晴依御消息參內大臣殿、仰云、明日雖不可勤、欲行節會習禮、即有其事、前中納言、予、親房、信定朝臣以下供奉、召取白馬奏給無右大將儀也、之後還着、仰宰相代、仰白馬可渡由、中納言申云、於白馬者非內辨可知事、但遲々時催之、故實之由所承也、花山右府殊非內辨可知事由稱之云々、御覽次第遲々者、可催由載之、無左右催儀失也、予申云、於御監者若可異他內辨乎、中納言其事雖似可然、猶無差別由申云々、此外事無事、仍被略習禮了、其後暫御談訖、予退出、入夜依節分行忠弘宅、又宿北屋、此間女房宿所也、其後於便所小浴付寢、七日、天陰晴、午時許雨忽降、不經一時天又晴、寅一點歸家念誦、少將夜中退出、書取叙位折紙持來、從二位實宣、修明門從三位基嗣、正四下安倍孝重、從四上中廣元、七條院、每春加階、讀岐內侍夫勞、急於應官藤能成、安國道、從四位下成實、

基定、親綱、策、實俊、實經、隆俊、止佐、正五下知範、今年遂、
 叙、家季、從五上實忠、院御、藤隆綱、新院信經、門、兼平、
 忠定、中宮、源康綱、止使、平範資、輔、藤家長、策、從五下惟長、
 藏人一、藏人不叙、已一點着節會裝束、參左大臣殿、即御裝束訖、
 御共參內、西陣、權大夫殿令參會給、暫令參見間方給、
 御殿取拂其代也、召宗行令尋給加叙、若一兩可有歟由、今朝有不
 審云々、以假名文申院女房歟、俄而大臣殿令着陣給、
 相次內大臣殿令參給、光親卿着陣、九條大納言殿又着
 陣、于此間同着陣、於仙仁門代外蒙御氣色、一上、入於
 橫敷南、院路、揖脫沓懸右膝昇、座揖引寄裾、先是外任奏
 在內辨御前、召官人召職事、宗宣參院、棟基着軾給、外
 任持參、良久奉下內辨、令結給、棟基仰仰詞、又申事、
 若馬頭代歟、蒙御目退、次召官人、召大外記、大外記
 着軾揖了、給外任、給之結申、又有仰詞、馬頭代歟、外記稱
 唯、右廻退出、次少外記參小庭申、代官內辨仰云、イヤ
 シメタリヤ、外記申了、稱唯退出、俄而宗宣着軾有申
 事、無加叙云々、退出之後內辨令揖給氣色、予揖下着

沓揖出、內辨出仙仁門代着靴、更經陣座前、立蒞內令
 進中門給、外辨內大臣殿以下又多出、於殿上邊各見
 物、天皇出御南殿、內侍出、內辨進東階下、指笏了昇兩
 三級、懸膝令取下名給、內侍歸入、退立披笏取副、着兀
 子、召內豎、內豎參、承召召二省、二省遲參、尋求令參、
 兵部小男也、給下名之儀如例、予退出、仙仁門代外着
 靴、人々皆着靴、近衛引陣、內大臣殿入幔門、令着外辨
 給、次隆衡卿、多從、光親卿、範朝、顯俊、家良卿、予、次
 第着之訖、中宮大夫參入、被入陣座方了、開門訖、內
 記逐電、尋求之間雨漸降、內辨令奏宣命給了、先召辨、
 外辨長實、少辨參入、承改雨儀由云々、此間頗久、雨漸密、
 內大臣殿令立給、群卿起如例、令進給了、隆衡卿已下
 皆各座、又次第起、揖出防外、非召成、只、各在中門廊外上
 下、宣命版已置中門砌、進仗猶陣階前、尋常版未改、少
 納言成不審令尋、中務官人云、尋常版先例不改、更不
 可然由各示之、令置宣命版南、此間次將起、各如臨時
 立、空手寄北退入、資宗朝臣云、是臨時立退由存也、而

同時皆立之間、頗似可有樣歟、予案之、依改雨儀立也、自取梓可立歟、但未見先例云々、各成不審、皆退了、位記案立中門南廊柱之融、平頭、梓立其西、胡床在廊中央、人々又不審、資家朝臣不可然由陳、予云、先々雨儀胡床之所如此、於梓者不立得、或倚柱、或倚後壁、又一兩人之外不引、人々猶成不審、此間召成了、少納言就中門下版、外辨參入、定通卿以上也、權大夫殿不進給、仍宰相以下不入、謝酒了、內大臣殿御隨身取御笠令進給、自余召使取笠、兼宗、師經、大納言定通、雅親、二位殿、範朝、顯俊、家良卿、入軒廊中間、於東階下家良卿請無座由、被退歸、予進寄見之、有座、仍示告、思返昇殿了、其外無座、仍經本路出中門了、廻御後方、暫伺見、雨儀無指事、顯俊卿催叙列之間也、予即退出歸廬、後聞、今日兩大臣殿以待多、令入軒廊一間給云々、在外辨之間、資平中將參入、隨身萌木袴、如何、進入中門、俄而隨身取靴奔、後聞、着淺沓取梓進出庭中、更歸着靴云云、朝夕蒙勅命人也、思失歟、可驚奇、此外無殊事、叙

位清書顯俊卿勤仕、今朝退出云々、今日少將不出仕、左將、資家、雅經、信能、資平、

定親、家兼朝臣、右將、夜宿東、後聞、資平中將不出庭、只取梓難立中雅清以下不委見、門、思出更着靴、以陳官令立梓了云

云、傍外、

八日、天陰晴、朝歸宅念誦、少將參內、今夜猶宿東、

九日、天晴、入夜微雨、參左大臣殿、心閑見參、仰云、一

昨日雅親卿宣命使、進內辨後之間、先如尋常之儀、進

來更思返立第二間、通東第內府座猶當柱西、授宣命間、

其身隱柱、指延右手取之、滿座咲壺、主上令向西給、內

府殆音出給、次就版之間、向南就、示合令向西了、日來

巷說、左大辨宣房依宗行超越、有逐電暗跡之聞、是大

無實也、所望參議、在其家云々、昏行九條、入夜歸廬

宿東、

十日、天晴、昏向坊城殿、例講之間云々、佛聽聞訖、亞相

戶部法印僧都各會合誦、少時少將相具仙經已下來、密

二付僧都、各示合以明遍律師、富小路入道之子、可爲導師

由被定、輕微佛事、依失面目稱不知由、但不可過之由、

各有響應之詞、此間左近大夫奉行、只今可參由、自家

來告、此間實信朝臣來會、着垂葛袴、年始雖喪家頗不宜、此間可參詣熊野之由、舊年結構、依重厄年有此願之由、付宰相中將申請云々、年來成父子之儀、中陰之間物語、神慮如何之由、亞相不被免之間、愁來臨云々、如布施事猶可沙汰由示置忠弘、即參院、例連歌云々、左中將依爲法勝寺行事辨、衣冠參入、不候連歌座者、可無其興、可催遣經高由有仰事、仍伺候、俄而改着布衣、爲長卿參入、談云、嫡男長貞今夜參省門、日來經營出立了、參內裏御作文、候其座之間、藏人次官次男公良、公輔朝臣無子、仍爲傳彼文書、爲後日養子以內舉給之、給學問料之由告之、面目餘身、可馳參也、賊繁昌之時歟、近日儒家光華過上古之明時、驚耳目事不可勝計、至此事者尤可謂理運、宗業朝臣昇殿、右府骨張、其所作偏依假彼文章也、資實卿奔營、是又言詩之外偏懸彼之教訓、其上此間忽爲光親卿家人、仍三人廻秘計、內外奔營云々、紀納言善宰相之後、未有如此事、其器量如何、雖齊名、以是不蹈青雲、末代之儀更不辨是

非、或云、宣房依可任參議、又可被借、宰相戶部重服之間、借用相具、左大辨可返給云々、官途出舉之利、可謂比興、是又必非浮沈歟、依宗行幸忽有登用、依宣房訴訟更經營、厚緣犯人之進止、於事如反掌、宗行今朝入熊野精進屋了、資賴奉行除目云々、每事失首尾、兵衛佐保教節會以後追加叙、可給同日位記由被仰云々、深更如例連歌始百句、置檀紙如例、年始尤可祝、以然予十一句、鷄鳴退出、月未入、人衆如例、雅經朝臣不參、是又不知其由、無催云々、定通、實氏卿、賴資、秀能、候西而之緣西座六人也、宗長參八幡云々、少將早可歸由依有其命、即退出云々、布施令運置後戶方云々、佛阿彌陀、一鋪、法華經、一部、開結阿彌心經、如例布施、導師被物三重、綾二、唐綾一、裏物、懸子三、絹三、綿六、十、紺五、布一結、十、清僧被物、裏物、省略此如、定有輕微之謗歟、於涯分又何爲乎、依大臣入道殿五七日、少將令參向、年始依十五日內、態不可請外人由、亞相被示之、依風病發沐浴、申時許見付事聞書、驚目事多、天台座主權僧正公

圓、道譽禪權僧正、申請律師替、如例事歟、法印圓能、豪圓、權大僧都良雲、已上四人皆座主御房吹舉歟、僧都五人、律師七人、法眼四人、法橋十三人、秉燭之程少將歸來、今日佛事前左府密被修、導師隆圓彼相府請定給云々、公雅朝臣、賴房朝臣、放一條入道、賴子之故也、家行朝臣、實行朝臣、實信朝臣、爲家、諸大夫十人許云々、請僧布施、被物、裏物、布一結云々、導師布施濟々、又云、別祿出紅梅匂衣、與家別錄其色如何、不得心、前相府御計歟、

十三日、天晴、早旦少將參內、申時許歸來云、除目入眼猶今日也、一日云々說等已以成就、辨官可昇進云々、今日依御衰日卯被延入眼十五日之由、一昨日聞之、今又被縮、是狂人等所望火急之間被縮歟、抑叙位御衰日被行、入眼又如此、兩度重疊之條、尤足驚奇、六日爲御衰日、雖凶會日、於式日者可被行之由、兼日被定、院仰云、陰陽家所忌、凶會重、衰日輕、不可依式日、可用御衰日云々、是只陰陽家輕重也、非叙位之例、今又被用御衰日、尤可奇、申時許阿闍梨消息云、依座主得替事、

法印俄下山、可以然居洛外由被支度、且無其所、嵯峨令居住乎者、座主事誠驚奇之間、今有此消息、憤鬱尤可謂道理、嵯峨此五六年不召寄之間、破壞傾倒、已以如無、然而若令渡宿者、可爲面目本意由答了、近日天下之政更以不足言、細素昇進只如振子小家遊、或一日、或借用、可返可倍利云々、難盡筆端、秉燭之程少將着束帶、御幸供奉料、先參內、除目事伺得者、先可告由示付了、即參院了云々、內裏事未始、御幸被念、初夜鐘程御幸已成、大炊御門東出河原云々、新院御所門前歟、雖幸路太上皇門前頗珍事歟、今夜去年所來之醍醐尼來談之間、不見御幸、內大臣殿遲參、令參會東洞院大路給云々、後聞、資平中將被寄御車云々、曉鐘之程歸來、供奉人、內大臣殿、出衣、通光卿、隆衡卿、東帶、雅親、同、教成卿、實宣卿、東、光親卿、有雅卿、賴平卿、公賴卿、家衡卿、家良、具隨身、不出衣、通方卿、出衣、帶、持笏、隨身唐紙、殿上人、公長朝臣、衣冠、伊時、東帶、清信、同、資家、細、隨身、紅梅袴、清、東、野、賴房、同、雅經、同、資平、同、家嗣、衣冠、公俊、東、

野、家行、同、知家、衣冠、經時、同、實信、東、長清、衣、時賢、東、野、重邦、衣、隆範、衣、親忠、東、定親、衣、信定、東、家兼、東、野、資經、東、成長、敦通、衣、賴資、同、師季、東、野、爲家、東、細飯、隨、同、隨身、身、難、芳、約、親平、東、同、資宗、東、解、保教、衣冠、親長、衣、資隆、東、家時、衣冠、不知物、知親、衣冠、判官代橘政季、路大炊御門東、河東又同、是古來幸路也、經房卿申行、爲故齋院御墓所、被棄此路了、今復古事定有沙汰歟、

十四日、天晴、朝霜如嚴冬、未後細雨、入夜雪降、依風病猶不快、自不行向、以忠弘送院主法印許、嵯峨事不被嫌破損之急、可被渡座由示之、又有消息、同報其由了、辰時許少將參內、書取夜前折紙持來、全無驚目事、按察使光親、乘、山城中、原康能、大和安部資朝、上野藤信綱、石見藤範宗、紀伊源家方、筑後藤親政、大隅高光經、元兵部輔、近習者也、右兵衛佐藤忠嗣、藤大納言、于云々、從三位雅行、公明、從五位上藤兼成、能成子、近習、腹、內、侍、子、左少將時通、右少將具親、可止所帶云云、日來風聞事不被行、誠是聖明世也、可貴、四位少將

當時一人不還任、實經不便歟、今年已被止七人、雅行、公明、時通、具親、基、定、實、後、實、經、去年勘當武者所一藤藤信員任掃部允、

十五日、天晴、少將參內、歸來云、夜前御齋會內論義、公卿通方、定通、賴平、公氏卿、出居資家、雅清朝臣參云々、出居五人、領狀、二人參、後聞、爲南殿儀出居二人共不揖云々、馬允盛時子知親、自關東上洛、遂熊野詣在京之由來示、喚出言談、詠和歌男也、歌、依、予、撰、進、讀、人、不知、入、新、古今、月出之間參承明門院、依若宮令入給、不謁女房退出、此間牛童等來云、錦小路東洞院邊下人等有喧嘩事、車副男接其事、爲馬允某、前、內、府、家、人、被面縛云々、其男本自不善不當之外無一得、今年元日無故破車、今更交喧嘩、無一事勇幹高名、爲人被面縛、更以不足言、不及口入、

十六日、天晴、早旦前內府使者右衛門尉某來門外、相具車副男、昨日下午人狼藉、依奇惟所召仕青侍、召取張本之處、聞御車副由、仍所令召獻也者、被示送之詞頗非尋常、致狼藉青侍奇怪、仍下人召取送之由、有一旦

會尺之詞者、可爲普通之儀歟、無子細可返送、今被面
縛凌躐、男一人被送之、更以不足言、此男不當不善之
外無他、本自可追放之由思給者也、今聞食家人由、送
給之條、面目已足畏給了、但本自不可召仕者也、可申
此由答了、即永不可召仕由、仰含追放、次第更不足言、
秉燭之程爲節會見物推參、雅清中將今日昇殿云々、奉
公拔群之故歟、相逢賀之、殊有喜悅之色、予在小板敷之間、
賴平卿來座掛有
所存歟、又不然歟、不知之、
附之間、爲家來召、即參仰前、人々多參入、內辨有大臣、良久
不被參、源大納言兄弟二位中納言、源中納言等在陣、月
昇之後內辨參入、先昇中門逢職事、棟基、即着陣、公氏、
家良卿同着陣、棟基仰內辨、久而奏外任奏、同人、下之
後外辨又久不出、待出御、此間出御南殿、近仗引陣、外
辨出着靴、入幔門着之、通光、忠房卿、自余又相讓經程、九
條大納言不着給、爲
見物隆衡卿、公宣卿、賴平卿、公氏卿、家良卿、下官等
着、外辨上卿召々使、令下式宮、又召之、召外記問諸
司、久而開門、開司着之間、少納言家時立出幔門、辨家
宣也、
上卿立出幔門、依納官他人
不起、如例、次第立排、出幔門雁行、大納言

殿、中宮權太夫殿立加給、召了、次第參入進行、家良卿
左公氏卿東三尺許、予所存不去東頗退南、假令可立宰
相異方由存、而去東半頭立、不知可否、予立其傍了、
後日申左府、家良
儀可然歟云々、兩謝了、次第參進、入軒廊中間昇東階、
過南着座、家良卿入臺盤間、故殿仰云、里內猶可用北一
間、予用此御說、奧散位三人、雖狹強着之、內辨仰公氏
卿令催御膳、令警蹕、參諸卿立、供了座、內辨次第令催
供御、次仰公氏卿令催昆屯、如前下殿催之、即居也、予
密仰內暨令居加箸七、床子前、本諸四人
料、近代無人故歟、持來置之居了、
公氏卿申上、內辨申上、御箸鳴、臣下應、次又催供御
等、次仰云、飯汁、公氏朝臣下殿催之、次第居也、內辨
與座上雖無人、猶可居飯由被行、仍交居也、又居汁了、
申上如前、次第立箸七了、次催一獻、公氏卿又下殿催
之、一獻巡流、予如例不沃酒、下了間入御、各拔箸取笏
立、內侍出取御劔、各座、此間兩大納言退出、次內辨下
殿被催國栖、不座几子、乍
立催還昇、又立座定座、次二獻、乍座可催
由被仰、公氏卿乍座催巡流了、內辨被示合定通卿、在座
參議

非上、使中納言申了、被召賴平卿、賴平卿立揖、不起床

如何、經上進立揖了、更進寄、如宣命使、若思誤歟、內辨更退

出、本可揖、右廻下殿、是又思誤、右廻歟、召外記取交名、昇進立儀

如例、復本座、次三獻、同乍座催之、巡流了、內辨被催

立樂、宰相下殿催之復座、此間權大夫殿退出、今夜手致別禮、大臣之外、每人禮頗遲退谷之故也、

次舞樂四曲之間、內辨下殿禮同前、次被催舞妓、先敷

筵道、通之間久量、於軒廊前高聲催之、妓女出一廻還

入、立軒廊、被取奏、少將定親朝臣取繼、若惟大略、被進

弓場之間、令持官人、奏了復座、相隨可三廻之山、雖有

沙汰、已徹筵道之間、不殊仰、大臣下殿又致禮、過了復

座、次自上薦次第立揖下殿、內辨着、各立定、西面北、拜舞、

予起座間拔了了、不復座、隨上薦如還、入軒廊通東砌

出中門、昇中門廊暫見物、內辨奏宣命、見參了復座、公

氏卿先出着祿所、宰相二人之時、御酒勅使祿所相兼

宣命使、一役他人勸之常例歟、御酒宣命兼之、非一人

時不聞之如何、賴平卿宣制大略如例、次々第給祿、不委

見退出、今夜定通卿承行下名事云々、節會以後云々、

臨曉自內賜聞書於爲家許、仰事、參雜仕濟々如例、兵部

權大甫藤經長、從四下重輔、止宮內、權大輔、正五位上家宣、能勞、

從五位下家光、藏人、爲家語云、內辨向西拜、突左膝云

云、此說不聞事歟、定有說歟、

十七日、天晴、以書狀訪前中納言、長資辨超、有述懷返

事、清範朝臣奉行、生涯詠歌廿首可撰進云々、此事更

不思得、難撰之上定背欲慮歟、午時許先內々書送清範

許了、未時許參最勝光院、以使者問向中納言、參時刻、依上卿也、顯家卿參入

云々、不經程高通卿參入、上卿又參、即被着堂前座、仍

三位人着座、朝座講師遲參、仍以夕座講師先令勸之云

云、公氏卿參入加着、朝座了、僧退下、講師猶下參、頻

加催、參入、辨又進如前、僧自北廊北引參如例、夕座

了、行香不足、長俊朝臣、辨藤親長、定衆、事了、予即退

出、參左大臣殿、山月出之間歸廬、依番參院、不經時刻

名謁了退出、圓能法印依前座主御房御命、神祇園別當

云々、前院主法印今日渡座嵯峨由有消息、

十八日、天晴、居住草庵本意爲悅之由、送法印返事了、

昏、左近大夫將監家綱入蓬門見柳、可歸參由有仰事山
 示之、相逢乍立歸參、去年所召柳皆枯失了云々、少將御
 幸供奉着束帶、具野先參內丁、給寮御馬、秉燭以後參院
 云々、御幸早速、馬可急引由示送、女房此間退出、自
 明日八幡御精進、水無瀬殿、次可有御幸、但御神事訖
 可參彼御所云々、出大炊御門面見物、御幸殊被急云
 云、大炊御門東、洞院南、二條東、宮小路南、三條東、京
 極南云々、殿上人信雅卿子、恐クハ註ナラン治部輔、讃岐內侍子、八省
 相摸子、刑部少納言家時、兵部範資、前宮司親長、讃岐
 資隆、但馬賴資、侍從宣家、資家、少將親通、爲家、敦
 通、廷尉資經、四位親定、忠イ重判、家兼、定親、長季、通時、
具隨公俊、經時、家行、知家、雅清、家嗣、資平、公雅、國
 通、公卿通方、家衡、基忠、顯俊、公氏、賴平、有雅、實
 宣、教成、雅親、定通、忠房、大納言師經、通光、內大臣
 殿、少將供奉之後退出、可歸參內裏、庚申風夜之輩伺
 入小念誦了付寢、不守三戶、曉鐘以前少將歸來、自內
 出、自二條打出、供奉還御云々、

十九日、天陰、已後微雨、入夜天晴、自九條告送云、成
 時法師此十日許有病氣、不重、夜前頗增稱申向他所、
口來在家中、終夜高聲念佛、臨曉不斷念佛聲遂終、日來知行
 事等依爲外孫、以瀧口時廣主令繼之、祖母姑等只如年
 來可隨順由、可云舍者、仍召仰時廣主、即可除服由仰
 之、伴法師成人自予父母家中、自少年伺候八條院、近
 年出家、日夜念佛、心操頗穩便、不似近代者、依之臨終
 爲善人歟、自外祖藏助季時法師時、知行細河庄、予去
 年令知小森保、彼細河九條存命之間、僅懸其名歟、可
 爲權門領、翌日收公歟、尼上不慮存命、此法師先他界、
 極運者也、去九日行向之時、稱年始之由、隨分祝言、不
 經幾日逝世、無常之理浮眼、入夜參院、月外夜深名謁
 了退出、少將語云、一昨日隆清卿射禮分配、口來頻申障、分
 宣、由院參內、立透渡殿、喚藏人、依射禮、參入刻限如何由
 問之、此間主上不知食、出御鬼間邊、不退出、即座透渡
 殿揖、其揖左右足入御之後、藏人於大內大場所由示之、
 仍退出、不具弓矢云々、前途之樣不知之、自古雖有素

噴非器公卿、未聞如此事、末代陵遲足憫哭、

廿日、天晴、今日院尊勝陀羅尼云々、依無催不參、昏參

坊城殿、緇素四人被謁、例講始之間、各聽聞之間歸廡、

廿五日御法之事束帶云々、深更少將退出、三月十日八

幡行幸、翌日朝覲、十五日賀茂行幸云々、連々晴、原憲

失計者也、

廿一日、天晴、今日水無瀬殿御幸、午時許云々、未時

許參承明門院、女房語云、今年惣似御減、御腫逐日令

復本給、各成悅之間、自十三日御不食、又殊令增給、但

於御腫者已令復例給了、一昨日御湯、猶令苦身給事

無御減、昨今猶又有怖畏之思云々、退出參內大臣殿、

旬御被了間云々、良久見參、入夜退出、京中早梅白花

盛開、大臣殿仰云、蓮花王院修正夜、通光卿於座召寄、

預與光親卿問答、取布施路度々之後、經佛壇南路、

佛壇左右有路、出後戶、共有腰戶、出後戶、群卿相隨、於後戶又各議定、入

同北腋戶、更經北佛前北行、師經卿相議之時、可用此

路由約束變改、自後戶北行、取布施置之訖、群卿皆經

北小道、通光卿出後戶、又經南道復座、通光卿復座之後

大成憤、相議之時一同、一身出了後變改、太無術事也、

申、九條大納言、藤大納言、師經、一言不答、通光卿又向

我訴此事、予先年見此事、故院御時、公卿經殿上人座

前大廻後戶取布施、又廻歸、今爲不長步行、雖經馬道、

遂自北可取布施、用師經卿議可宜歟、但下薦公卿等猶

置布施、可用本路歟、更赴南頗無謂歟、先年依大通廻、

在座殿上人各其若父勳座也、但只可隨便、又可隨上薦

耳、

廿二日、天晴、入夜女房參內裏、今年、即退出、少將白、

廿三日、天晴、入夜清範奉書云、歌百首許猶可撰進之、

廿四日、天陰、飛雪紛々、昏束帶參內、今年未乘遠車、

遲調出之間、日來、只乘少將車也、仍以宜日乘之、參宮御方、謁女房內御

方、禮部退出云々、仍退出、

廿五日、天晴、午時許參坊城殿、束帶、不、帶劍笏、先是少將諷誦

物、布結之、如、相具文奉送、寢殿南面庇三間、本自爲公卿座所也、懸伊

與簾、以紙上之、以、高麗帖二行敷之、爲公卿所、公氏、高

通、基行卿在座、予加之、俄而隆衡卿、追前、帶劍把笏、如座上、高過卿不帶劍、基行卿不取笏、次實氏卿同帶劍把笏加着、不追前、自余不追前、殿上人一人追前、不見其人、

申時亞相開障子、導師公胤僧正已來臨、可有御着座由被示、仍兩人起座、解劍撤笏、次第着堂前座、依座狹子

不着之、以同東面爲殿上人座、實信朝臣今日行事、予招寄公雅、實信朝臣、暫談殿上番殊可勤由被仰下、河

陽參入、除五六人、皆可令勤由、經通朝臣承之云々、被除輩、輔平、家嗣、定高、親平、清親、賴資、實信朝臣來到加座、不帶劍、實氏卿經

上薦前正面着南座、數之、說法了、供養法讚等了、公卿起座、諸大夫取被物、進西渡殿緣下、緣、小、各次第取之、

隆衡卿院年預、實景卿同稱院司由不被取、被還着南而座、自餘取之同還着、不着堂前、依爲布施路也、殿上人諸大夫次第取

之、布施四十餘云々、不委計、公雅朝臣、資家、、賴房、、家行、、公棟、、信定、、實俊、、、無官、

賀出仕云々、新四、兵衛、隆經、、佐、光家、、事始後、諸大夫十餘人、六位、

路狹物多、其間良久、次殿上人一人、次第取、設衆初布施、口別被物三、例布施絹一懸子色々、布二結、曼陀羅

供讚衆布施、殆不見員數歟、兩三口取之間、導師退下、不終布施之間、事訖之間及昏黑、人々分散、以馬助宗保、讚衆不相從、

明日同來乎由被觸人々云々、公氏卿一人直衣拔群由歟、兩興可催送由、入道左府約束云々、今一人也、賴平

卿又依消息領狀、今日依參修明門八幡御幸御供、相國又被示送其山云々、人數布施太過差、餘慶照耀歟、少

將依所勞不參、實依贊、乏也、廿六日、天陰、辰後雨降、終日霧沱、午終着直衣參坊

城殿、少將在車、雖打梨、依其雨猶相具也、事始後也、基行卿予追者也、實氏卿

座、狹緣濕、進退谷、實氏卿紫浮文、奴袴、追加、隆衡卿又被來加之間、相公起座了、南座橫、入、聖覺僧都辨說聞者拭

淚、說法了各起、相公以下取布施、如昨日緣濕、問頗見苦、公雅朝臣、賴房朝臣、家行朝臣、時賢朝臣、實信朝臣、信定

朝臣、爲家每事如昨日、事了人々退出、予謂申家主、此後可有一品經供養、今朝安樂行品相副被、物奉送女房分也、其後例時布施

訖、各可歸本所云々、於出仕者頻雖被仰、今月猶不可然云々、退出、甚雨有煩、昏黑以前歸廬、

廿七日、通夜甚雨、今朝猶不止、杜門不出、

廿八日、天晴陰、北風甚寒、午時許山禪師來談、日來下

山、明日登山云々、聖覺僧都弟子也、予爲子、未時許參

承明門院之間、自今朝新院渡御云々、便宜頗無骨、仍

退出、參內大臣殿、良久見參、昏黑向亞相方、清談之

後、深更歸廬、別當微行入蓬門、見柳樹二本、可堀渡高

陽院由、被命青侍云々、仍以使者雖示返事、閑門無音、

空歸、今日聞、全兼律師一昨日有勝事遂電云々、年來

穩便尋常、於事有譽者也、今如此、人情更以不足定、

人非木石、傾城之色是也、可悲、增圓法印愛胡遊女、頃

年漸推重、而已以如妻、彼上綱連々傳奏之間、朝夕出

入彼房、自然出來事歟、不異齊莊公入崔杼家、房主宥

如、其身無事、但於女者已追放、近日爲天下口遊云々、

新藏人季俊年十一、夜前隨事云々、兼時朝臣子、

廿九日、晴、天晴、以使者與太理問答、柳間事也、二本可

堀取由云々、是又稱勅定山、近代之儀、草木猶如此、午

時許侍等引卒數多人數堀之、傳聞、從三位平時實卿今

曉薨、昨日無爲念誦之間、聊手シビレ斷山稱之、其後

飲食如例了、心神漸違例、臨曉入滅云々、去年之間

亡逝之人太多、老病之身殘口幾少、以青侍問兵部大甫

時房、於門外達事又問妹女房、院近習女房宰相局、件女房在別所云々、入夜此家女房等行向

其門相入夜掌侍奉書、御神事過了新黃門可急參山云々、

○二月

一日、天晴、二品御消息、女房可急參云々、仍俄借求牛

馬令參女房、用輿、彼御所築堤之後、閑所無車便云々、於堤外下云々、忠

弘、時廣、宗友等令相具、清範朝臣消息云、禁裏近臣

等恩有沙汰、多被留、少將殿有殊御沙汰、令應清撰給、

先年令申入給間、始給良藥歟云々、披見其狀、先拭感

淚、且是始終芳心之至也、自愛所休山返報、去年付彼

朝臣申入此事、被聞食置之、始已以芳心也、心操穩便

之譽、男女共聞傳言之說、生涯不運之身、只依子息事

適開眉、是若愚意之所好、爲人無凶、爲國有忠之所致

歟、人本性不依賢愚、所好惡各別也、付青女房車便參入八條殿、終日見

參、此間藏人少甫資賴參入、奉下宣旨、上下諸人紅下

袴停止、可着合袴云々、出客亭令取之給、遣召右中辨了、左中辨在河陽、入夜辨參入、申祈年祭事、此間車歸來、予退出、已亥刻歟、今日春日祭使、左少將定親朝臣、少將依輕服不送招袴、侍從迄之云々

二日、天晴、今日御神事隙云々、仍少將參內、昨日春日祭、明日祈年祭、法印被來談、六條最末姬君、延壽御前、去廿八日借法印

車、行乳母許出家還云々、存知間尤可謂神妙歟、過中陰無音之條、殊穩便歟、申時許閑院造宮所有喧嘩事、着鎧者馳奔云々、不聞體說、檢非違使明政與造宮東人關靜、擲取明政子姓一人面縛、作所木屋路人競見云云、以使廳威與武士關靜、爲王法太見苦、可謂不覺、未知實說、少將入夜歸、被止近習之輩、大略皆悉云々、不體聞、範宗、家宣、資賴、兼隆、棟基、經兼、是皆坊官緣人也、不知事根源、當時所殘近習、只知長、爲家二人云云、人以驚云々、先雖喜悅、猶懷恐懼者也、向後何爲乎、三日、天陰、午後微雨、東風頻扇、午時許參吉水御房、即見參、被仰全兼事等、只今可參向月輪殿山右御命、

仍早出、入夜甚雨通夜、

四日、天晴、入夜向亞相亭清談、及深更歸廬、來十二日初參水無瀬殿、被密語云、全兼隱居戶部家歟、身體不穩、太不便事也、予案又如此、

五日、天晴、風寒、乘燭以後、着束帶出門之次、先參內、

謁女房禮部之間、藏人康光戀歌三首可詠進由傳仰、即持來硯紙、合持主殿司、予亦可儲小板敷由、近臣恩免之輩只

範朝卿、範基朝臣、仰云、雖爲要職、追可候者也、知長、仰云、如行房者不候者御徒然歟、爲家

四人、指名被仰之外、詮分被止他人云々、此三人已別事也、面目只在一身、又實經日來半似近臣之由聞食

之、太不可然由被仰、件人叙留事、又固不許云々、此條尤不

便、督典侍、引舉近召寄云々、入道中納言、範光卿、足腫增

難存命云々、於小板敷書異樣風情、以主殿司送康光

許、即退出、遣イ、月未入、參最勝四天王院修二月、藥師堂事始了

後也、此間藤大納言退出、只今參入云々、予加南座末座、今夜北座無人、

通光、公宣、公氏、顯俊卿在座、南座座殿上人料麿、辨在座上、保季在其東、他人在西殿上云

云、不經程家衡卿東帶參着、實宣卿又參着、自余直衣、散位二人東帶

太無辨、定高朝臣觸予云、布施末座役歟、予即諾、顯俊卿

云、去年此御堂殿上人被取也、本御堂某取之、不知其

故、權辨稱仰由所行云々、辨云、兩御堂一夜之儀、相

替之條頗無其謂歟、左右可隨上卿命、即進寄巾也、可

隨去年儀由被示歟、源大納言歸來示保季朝臣令取、於座前

取之、手長僧持歸、以預令傳也經公卿前入正面間置之、今一人殿上

人在西、遣喚之間遲引、導範先退出、仍不置裏物、辨示

事訖由、予先起、非御前儀相引者、上納言可立歟、隨人々氣色也各出隙子外、大納

言以下相引廻本御堂、入西面北間、次第着座、甚狹、家

衡座了、予寄事於座狹退出、依寒風也、辨語云、造宮所

可闕辭事、召仲章朝臣於河陽被勘責、被召下手人云

云、善政歟、後聞、武士程便、霜齋人面縛云々

六日、天晴、夜霜凝、寒自嚴冬、園韓神祭可爲中丑云

云、仍少將早旦參內、日來依祈年祭前後籠居也、阿闍

梨來、法印依母儀所勞、不食之上、夕飯發、又病氣、年七十九云々歸岡前、當時明

禪僧都共看病、此病若減、若事切者、猶可住嵯峨由有

消息云々、又云、全兼去廿六日來嵯峨、其日言談只如

例、又增圓法印事傳等示之、即借增圓牛乘之云々、退歸之間於路次聞增圓搦尼公男由、急逐電云々、法印不聞此事、後期僧正後房召寄、成源律師令語給之時間之、

七日、天晴、今曉冷泉宮參水無瀨殿給、信子大夫供奉、兵部卿借馬鞍、借忠弘馬、依無鞍也、此奉公太無益、此間禁中番、殿上人濟々伺候、藏人教實止近習、束帶候殿上、少將親通御鞠時許被召加云々、宗長朝臣着直衣伺候、天氣密々無御甘心云々、於事知食物由尤參少將早旦參上、今日行向仁和寺公仲朝臣後家尼公家、件尼公子姑也、年來疎遠、自去年連々送書、可逢之由招請、遠路雖極無由、少年之時在一所、依不忘舊緣行訪之、其子童、名松若、伺候仁和寺宮給、宿所居住云々來月可出家、其間人々相訪之例也、其日參宮乎、又爲令見知招請之由陳之、此人姉豬隈女房、去月十一日參籠日吉、七々日退出、廿日出家、即籠天王寺之由雖傳聞、依程遠未音信、今日委聞之、於出家者尤可然、年來猶遲引也、天王寺居住頗過

分、還傍難出來歟、申終許歸家、數奇出行也、寒風太難堪、

八日、朝霞晴、天顏朗明、入夜參左大臣殿、侍逢門前云、此院鵲鳴、仍俄令立給、御座東平三位家者、聞驚參御在所、見參之間及曉鐘退出、宿九條、自明日始精進、冷泉同宿人憚之故也、

九日、天晴、於九條洗髮、始精進、家主復平常、尤爲悅、十日、夜雨晴、朝陽鮮、已刻許出京、參詣日吉、未始許直參寶前、少時奉幣宮廻了、退宿所休息、又出登坂奉拜八王子寶前退下、又參十禪師御前、秉燭以後退下、二位入道公時參籠奉幣云々、親成宿禰來談、服者同宿不可有指憚、始精進日別火可渡他所者、亥時許通夜夏堂、

十二日、天晴、曉退下、少時歸京、於辛崎邊天漸明、秉燭以後參歡喜光院、東體依打梨也奉行院司、五位、時長部前民在座、予着座、招寄問、公卿參無他人云々、僧參入了、然者可始歟由示之、布施取殿上人樂人等不參云々、予

云、漸始者定參會歟、又可被示合僧達、可令早始由相議、初夜導師昇了、勤了退下、次問樂人參、初夜進了、只後亂了今參會云々、即大導師昇、有樂、又三十二相樂之間、隆範朝臣參入、錫杖之間、置導師布施、隆範奉行取之間、予起座退出、出入異角南面了歸廬極早速、

十三日、天陰、終日微雨、夕密、忌日事等如例沙汰、赴嵯峨、少將參內了、資賴祈年穀奉幣使外記催領狀、必可勤仕由示之、最前領狀之上、重可存由答了、神事臨期日可存之也、

十四日、天晴、細雨頻降、入夜二條中將過談、曉鐘以後歸、

十五日、天晴陰、念誦不出行、內裏此間有雀小弓云々、此事不關事也、太凡卑如何、

○四月

一日、壬申天晴、未時許少將著白重參內、酉時許歸來、平野使左衛門佐家季著闕腋袍、巡方帶、細細劍隨身並垂袴云云、平座隆衡、公宣、公氏卿等歟、委不見之由語之、又

著衣冠歸參、伊與中將送書、謝少將相伴由、今日實時中將著染重束帶參內云々、是宿老者所爲歟、壯年近將尤不可然、後日聞、或識者邊云、上官職事之外、近代不著之云々、近代何代乎、足爲奇、文治建久之比、自他大略著之、依如此說出來、末代彌衰微歟、

二日、天陰晴、兼時朝臣示送云、恒例御八講可爲四日五日歟、所勞扶得之可參由報之間、使來催、來八日行幸龍華口、申參由、

三日、天陰、朝微雨、終日或灑或止、少將退出云、今日侍從參內、著染重云々、更衣之後三四日之內、猶不甘心事也、不具之令然歟、八日行幸、還御^{九日}高陽院殿、十一日還御本宮云々、

四日、天晴、巳時許參法性寺月輪殿、束帶、小時被始八講、左大臣殿、大納言殿、直衣、著座正面東西間、檻下給、予著西座角、堂童子泰敏、兼教第一座、講師圓能、問定範、讀師玄信、自余顯尊、範了、^{範了弟}長範、貞雲、^{聖覺}、一座訖、陽景難堪、予起座、久圭、又起座、令入內給

了、第二座了、予退出、

五日、天晴、昨日遠路病氣彌增、心神太惱、

六日、朝天間陰、巳時許雨降、傳聞入道中納言、^{範光}昨日申時許遂入滅云々、年六十、光華權勢之後、十七八年歟、浮榮只如斯、執權之後所歷辨官、大藏卿、春宮

亮、大貳、參議、衛府督、檢非違使別當、中納言、民部卿、當時二ヶ國、越後讓資平朝臣、丹後讓範朝卿云々、

^{是定被替歟}

七日、天晴、下總前司信實來談、入夜向亞相亭、閑談之後參院之間、名詔訖之由、實信朝臣相示、此間博陸退出給、今夜祭除目任人、只今被書下云々、後聞、右少將實忠、宮內權大輔家光、從四位下基輔、^{侍從}、雜任等云云、

八日、天晴、未時許參承明門院、^{束帶、雖有御堂於御所、被行酒餽、仍帶劍把笏}、先參新院御方、謁備前內侍、少時土御門中納言定通、參入、帶劍、即相共廻西中門方、以西中門廊爲殿上二間、^{有藥盤}、納言三位中將兄弟、在端座、予自座末入奧坐、納

言云、布施藏人可取傳歟、於何所可取乎、中將云、置臺盤時自可取歟、納言可相議由有氣色、自取可有便歟相示、此間納言召奉行、院司棟基申事由、即仰可始由、次揖指笏、取布施進、予不揖、指笏之間、帶劔不指得、仍懷中取布施、參進置机上、取笏右廻、經座末自簀子座揖、次三位中將同置之、拔笏左廻、自座末著座、次導師昇、次第如例、置笏、灌佛了復座、納言掛起座、下簀子更昇、一間進寄、此間予右膝有恙、不能灌佛由相觸中將、掛起座退出^門、歸座、今日三位中將密々云、塔供養延引由有聞、巷之說未聞一定云々、不知其故、乘燭以後帶隱文螺鈿參內、於鬼間謁女房、禮部、少時出南殿御後方、人々參集、御裝束訖云々、藤大納言師經、著陣、被行召仰、^{宗宣供奉}即出御南殿、國通、公雅中將、付內侍、殿下候御裾給云々、左將經青毘敷政門向本陣、公卿經青毘宣仁等門列立、依人多不見上薦進儀、三位中將實親著靴之間、布衣^{山機}上^下、男取松明、突片膝伺候、又有如權隨身近衛者、^{其時如口夫}物著^冠小隨身二人、都合四人取松明

踊、左右公卿大納言二人、^{師經大納言殿}中納言、光親、參議、^{公氏、三位、基忠、基行、家衡、家實、實親、經仗座前小庭入軒廊二}間、自餘賴平以下、皆經宜陽壇上軒廊橋二間、家良卿出軒廊間曳裾各進立了、少納言顯平鈴奏^{圖司}訖、寄御與、^{左將國通、雅經、通時、公棟、定親、家兼、爲家、親通、右將守通、雅清、家信、敦通、宗平}公卿將等前後揖被列、而々副御與、^{上下藏心}賴平卿役劔璽、安御劔之間、予前行了、先是宗宣云、釐路二條東洞院三條云々、而先陣皆赴南之間、更以雜色問彼人、又云、西洞院南三條東云々、更赴南入三條殿東門、列立如恒、入御之儀又如例、但公卿將不警蹕、^{左將基忠有若亡、右將待之歟}國通朝臣以下稱之云々、^{出御之時}實親卿所從四人振松明渡、馳道赴西歸東、布衣者松明未見事也、近代有職逐日巧新儀如斯、鈴奏了、國通朝臣問名謁、稱籍各退、即昇殿通夜伺候、

九日、天晴、聞曉鐘、人々出宿所集會、^{又乍立排御之人多}無程出御、大略同前、人々少々退出、烏丸北、二條西、西洞院北、入御高陽院殿、公卿列殿上屏前、如例、博陸立門內

給、大納言師經卿放列進出掛、紫博陸氣色入中門申由還出、

立初所掛復列、御輿入御、奉安中門訖、列立公卿跪地、

入御之間事不見、即退出、於洞院東乘車退出、病競發、

終日平臥、午時少將參內、束帶、自夜前染重老懸、野劍、相具

入夜退出、博陸以下近習公卿大納言殿光親、有雅家衛直衣、次將等少々

參入、於東對西面供日御膳、陪膳中將家嗣、撤弓箭劔

等、不撤綬云々、少將即著衣冠云々、又參入、深更退

出、

十日、天晴、少將退出、二棟北盡忽被儲切立、有御輿、

宗長、雅經朝臣已下應召、其本被立之間、忠綱、家綱等

布衣行事云々、私案之、仙洞已爲皇居、殿上人上北面

四位五位等蓋著衣冠乎、近代於事多略儀、如何、至于

此事歟、更不可及人煩、又時賢朝臣布衣伺候院御方

云々、身帶近將爲雲客、又非如資平、親平等朝臣近習、

布衣入陣中太不當歟、事理可然乎如何云々、頭中將今

日著直衣云々、入夜又著衣冠歸參、臥御所云々、

十一日、天晴、少將今日始令著直衣、宵衣自下、袴新制、午時許參

院、頭辨出東中門方、召寄御隨身三人、賴武、久清、兼原、仰云、

祭使體事殊可存丁寧、出立所近代多不向由開食、不可

然、必可召問、但去年飭馬以下渡南庭時、可張口由被

仰、於今年者自不可張、只相具可召渡、又大略始終丁

寧可相副、於內裏先御覽飭馬、於引馬者番長以下爲

體、時官人等更歸又可引也、此等事尤可存穩便、各不

及左右存知間申之、少時御隨身等退出、其外一人不見

退出、於滋乃井西乘車參御室、自去年御背之井子御

坐、醫家等不可及療治由申之、自去比令出來、似熱物、

今度事限病也、更不可及療治由被仰、而自院猶可有御

灸由頻被仰、仍只今御灸之盛之由、見イ僧都寬被語、驚此

事所參也、只今不可被申由陳之、良久清談退出、參宮

御所、無人、藤三位親輔卿出來相逢、即退出、日入以前

歸廬、少將只今退出云々、今日主上、上皇、博陸、前相

國以下御蹴鞠、博陸推而給襪、忽拔下袴上結參給云

云、御遊興之餘歟、別當雅經朝臣、範茂、親平預此列云

云、入夜少將又著襲直衣參宿云々、此間惣爲家、家光、

清定等臥御前、不被寄女房由、密々有不請之氣、清定聞之、非召不參、於兩人者猶隨御氣色推參由語之、頗有憚歎、如此事必可招讒言歟、

十二日、天晴、少將曉歸云、今夜還御延引、明後日曉可還御云々、警固者無止公事歟、依賀茂祭有此事、已兼神事歟、而無召仰沙汰、有先例歟、如何、尤可有沙汰事也、閑院御所聊有被造直事、其事不終之間還御延引云云、依小事被止重、極以爲不審、春日祭猶不可有行幸之由、先賢已定之、況賀茂祭廢務日也、行幸之條如何之、少將以書狀又問、知長返事云、還御猶爲明夕云々、尤可然歟、但召陰陽道、被問太白方事、此御所彼御所正方等、以丈尺被打云々、此事兩方共無便宜、只祭以後有行幸者可宜哉、夕召使來觸還御明夕由、入夜依番參御所、但束帶、依女房禮部、示、相謁語云、明旦早々此御方近習等、於上皇御前可蹴鞠、少將在其內、頗可存歎者、聞此事心中周章、可修諷誦之由示送蓬屋、又夜中示付親法印、此事奔走之間名謁訖云々、人々云、未

及遲々、猶可稱籍、即一身稱之、其後經長又稱之、暫與左近大夫清談退出、今夜馬助以康示合祭使出立所裝束事、寢殿東方有作出廊、以上小棟非別屋、即是普通歟、殿上人座後也、以件所爲陪從座、以中門廊可爲諸大夫座之由等也、予所存、諸大夫座強非要須、無便宜時大略止之歟、如此之所、必中門廊爲陪從座流例也、強入與在殿上人後之條如何、粗雖答此由、強不及盡、件所北即舞人座之後之融也、簾中使次將勸坏之時可出之云々、是又公卿著穩座之後、更入與簾中之儀、頗似主人大臣歟、雖無便宜其家此外無所云々、自中門廊外使出來之儀、又不

可然歟、仍出此事歟、承伏了、

十三日、天晴、日出已前少將早參、直衣抽下袴上結、辰時傳聞、

御鞠始了云々、已時事訖云々、此間令書々狀、相具摺云、故入道殿執柄、故內大臣殿大將之時、行幸寄御與於中門時、大將已袴、送使少將、親平、母堂家、舊三品自其家出立二條南、萬里小路四角、雖難造太下相對坐中門外、南北儀度々有之、御記無可不沙汰也、被用歟云々、狹少云々、未時許入道三品前刑部、忽枉駕、良久謁談、舊遊之好互拭淚、女子事之後百餘日修行、此十餘日歸京、

明曉下振津國、十七日供養堂、其後可入高野、百々日之由存之、

但可隨時云々、發心之時還無緣歟、隨喜之心深、秉燭

以後著行幸裝束參上、不經時刻御裝束訖云々、出殿

上方著桃、出御之儀不委見、賴平卿、基忠卿、劍璽歟、

公卿列立屏前、師經、隆衡、雅親、教成、光親、有雅、雅

賴卿、寄御輿於中門、次將在南方、北面安御輿了之間、

公卿坐地上、安御劔歟、不慥見之間、予立揖、放列前行

出門、洞院南行、步行、入東門并日華門代列立、供奉公

卿如先、忠信卿加、御輿入御、大略如例、近將左賴平、

基忠卿、經通朝臣、不見此列、國通、資家、雅經、

通時、定親、家兼、公棟、爲家、親

通、右家良卿、雅清卿、家嗣、公雅、敦通、宗平、入

御了、公卿將來加、少納言顯平鈴奏了、國通朝臣問名

謁、稱籍了、揖退入、公賴、有雅卿出日花門、予、家良卿

以上經軒廊二間宜陽壇上宣仁門青瑣門、昇御後方、予

直參宮殿上、謁女房、雅經朝臣語云、今夜國通、資家朝

臣相論、資家欲居御輿北、國通欲群居南云々、此事猶

不知可否、南群居是近代先達悉用說也、中將又語云、今

朝御鞠間、少將無指失姿、尋常之由有沙汰、此事家綱

所來語也、以無失爲冥加之也、又語云、昨日御鞠之間、

宗長朝臣承上鞠事、其作法惣非所存、尤以爲寄、法住

寺殿高倉院行幸時、法皇令立給日、祖父卿上鞠、一度

上之奉法皇、御賀日上鞠、又一度上之、讓泰通朝臣、當座

上後所記如此、而今度只蹴弄之、一度上之、鞠落地、仍

別當又上之、無詮歟、件日自身著夏直衣、白綾衣、赤帷、著之宗

長打梨冬衣冠、其時尤足奇驚云々、博陸御鞠尤可謂神

妙云々、主上、上皇、博陸、相國、宗長、雅經、忠信、有雅、

是末代勝事耳、退廬之後少將語云、今朝非御覽之儀、即

令立御、殊令立傍給、御氣色快然之間、忘事怖伺候云々、

今夜主上御宿博陸御直廬、坤角也、被、抑、警、固、事、上卿著

陣、仰外記云、依賀茂祭可解行幸警固云々、此事如何、申

日召仰已有例、只可有例召仰歟、可奇、外記告六府云々、

十四日、天晴、令伺使出立所、已一點人々多來會云々、

午一點少將令出仕、先入使所、聊示案內、早出向典侍

光賴卿家、即可參內由舍之了、祭使事更不可論親疎、傍
舊室、官非有意趣歟、必可訪事也、隨身二人相具之、帶劔把
笏、卷纏、相具弓彊老懸、是例也、未一點見物侍等歸
來云、使出立儀了、參內了、初獻兼季朝臣、二獻中宮大
夫、左少將親通、取瓶子、三獻中納言隆衡卿、左衛門佐
家季瓶子、次移穩座、片舞、次使勸杯、右衛門權佐成長
瓶子、次公卿已下退出、忠定、敦通、自餘次將三四人留
寄車、參內諸大夫二人束帶在共、一人忠定、一人侍三人云々、童
二藍萌木衣、白生單衣、付山吹、雜色萌木衣、皆拔薄色衣、
同單衣付齋徽、其色不優、舍人一人朽葉付杜若、一人
虫襖付牡丹、牛飼釋迦丸、赤色萌木衣、付卯花、皆生單衣、襖賴武袴付菰盆子
籠、久清、紺地平結、玉帶付之、兼康布虫襖、髪ソギの具山菅山橘等
付之、賴弘浮線綾白襖、泥繪扇付之、今日中宮使、此
四五日申院御隨身、御氣色不快不給云々、內府御隨身
又聞之訴訟、不行向、太勝事歟、使出立所西廊南庭、撤唐
垣、其屋懸掩御簾、庭尤狹云々、酒部所在南築垣邊、到
訪人不委見、家兼、少將範茂、中將成長延壽、等在間、出

之人不見云々、車本車杜若丸、透之笠上花田唐綾、廻山吹
御綾立牡丹云々、敦通少將注送云、穩座瓶子成長取
了、下官囊車簾、車出後兼季忠定朝臣三人引卒參內、
儲月華門待從參、相伴進弓場、召時徘徊仙華門內、此
間忠定朝臣逐電、猶廻二條油小路佇立、行列事沙汰、
使渡後退歸、向騎馬所宗業朝臣宅、裝束師仲家上仰、來
會、令騎馬出立所公卿昨日聞、二人之外顯俊卿著座云
云、殿上人兼季、忠定、雅清朝臣、著座一獻、兼季云々、皆侍說非也、
自餘無勝事、中宮使亮長季朝臣、襖左大臣殿番長、并
近衛清弘等取引馬口、飭馬馬副取之云々、或人後日云、此使御見物之間
太不快、被遣隨身、猶以有不可然之沙汰云々、無衛世也、日入以前見物車還馳、夜半許宗
宣書狀、解陣左將闕如、參乎者、少將付寢、仍申不參由
了、
頭註季能、宗俊、成經、無掛、放埒、近衛舍人不給之條不
知其故、
十五日、天晴、少將直衣參內、未時許取寄裝束物具云
云、後聞日入之程按察參入、行解陣、召外記問諸司、此

間六府出敷政門向日花門、左少將爲家、右少將敦通、左門佐家季、右門權佐成長、左右兵衛尉二人云々、内暨告召山、將佐入口花門、左近爲先自庭上進立軒廊南砌外、左近當上六位_{病後}在後列、上卿仰云、陣解々、稱唯右廻、經下薦前退出云々、近代不仰本陣解陣事、又本自無平張也、事丁又著直衣伺候、曉鐘之程退出云々、老屈之餘依病齒不出仕、

十六日、天陰、傳聞、侍從資俊、少納言顯平、祭比昇殿云々、近日雲路甚固云々、近日所加五人、悉凡骨如何云々、光俊、家光、經長、今兩人、十七日、天晴、參左大臣殿、烏丸、今日令渡東院給云々、見參移漏、黃昏退出、向九條、今日自口吉還向、入夜歸廬、東洞院大路見物車多立、今夜通光卿娘參六條宮、禮成親王云々、依心神不快不見之、

十八日、天晴、齒病逐日難堪、遣召老嫗、先年度度來令取折齒了、雖欲穿取根不取得、大苦痛難堪、終日痛之、以使間清成朝臣、此事不可驚、漸々可減由示送、前民部大

輔仲範、本名賴房、示送昨日吉事、亞相先參六條殿、已始、御

所裝束了歸亭、其儀、以寢殿母屋東一間并南庇一間東

妻廂、爲女房御方登御座、傍母屋南柱立御帳、吉時、南

庇西障子下立厨子二脚、置母屋調度、以東妻庇中間爲

平敷御座、立庇調度、御帳西間母屋立衣枷一基、長保例常二基、依

狹立一、懸御衣二具、常公卿座辦備饗、_{上達部東面殿上人座}、本所儀、

申刻以後人々來集、自院御牛御使、御隨身兼澄、祿主人御衣

一具、召階下給之、修明門院御衣御使、範茂朝臣、少將師

祿、女宣陽承明、燕物使、宣致也、藤相公顯俊祿、女裝束、承顯任三位中將祿掛、御書使公

雅朝臣、申次雅、勸盃、一獻通時、二獻顯俊卿、瓶資俊、祿女裝束、

自籠中出、使進寄肩之、下庭再拜出了、次二品光臨、日

網代外金物車、車副、稱替、前驅六人、衣冠、羽林相公賴平、

扈從、爲著裳結腰也、引出物女房、二品還給之後寄御車、

毛車、大納言羽林三品寄之、卿相下立、殿上人執松明、

可列居南庭云々、然而皆出騎馬了、諸大夫前驅十人、

自院被差遣、家長次康業家外不知見之、路頭一門他門殿上地下十六人

歟、諸大夫前驅等相交、無行列、無位次、是先例也、御

車出來、毛七內一童女下仕半物細代車、雅清次公卿六

人、亭主、土、唐、按、藤相三品、羽林、六條殿東四足門

稅駕懸榻、前驅等貴賤執史如御幸儀、雅清朝臣申事

由、家宣左司予出逢、於中門內示御返事、歸出之後、御車引

入寄南首、其後公卿著饗三獻、一獻頭辨、二獻三羽、三

獻按察、瓶子如先度、其後人々退出、

十九日、天陰、已後雨降、傳聞、竹園吉事有三ヶ夜儀、

如夜御榻白女房方調儲波之、後夜車、彼御所依無便宜入南

庭、無他車寄、但南階可無便、仍寢殿巽角南面、其御方南也、

放檻可寄之由被定云々、昨日吉事出車顯俊卿妻稱實守

春花門大納言局乘之間、定忠入道娘相向、論左右忿怒、翌日退

出云々、入公卿室之後、更出車太不穩歟、當初在祖母

別當三位許、稱猶子由、參春花門、其後爲顯俊愛物、已

爲妻、又依外孫之幸招請歟、

廿日、天陰、已後微雨、今日法勝寺習禮云々、

廿一日、天晴、今夜、初參院、三位中將通方卿暫相談、

一夜供奉宗行、雅清、通時、家兼、師季、顯任、定衡、中

務、有教、刑部、資俊、顯平、仲能、資賴、棟基、泰光、長資、通方卿綠歟、十五人云々、清信、守通、雅具等不伴云々、雜人

等今夜云、以此女房名號可稱女御乎、可稱御息所乎云

云、末代人心曾不知物由、不異猿猴歟、天無二日、尾籠

之至也、成長云、聞世繼有式部卿宮女御、是若親王

妻歟、戴冠奉公者年餘三十、所存如此、末代之極歟、世

繼之外不見及歟、可悲々々、若是重明爲平娘事歟、奇

異奇異、不經程名謁退出、中築垣已被築始、御讀經所

南寢殿北對北也、如承香殿北、又有如佛町廊、不壞陣

座殿上皆可被渡云々、依近不憚、依遠憚之條、驚而可

驚、當世之古老吐阿意順旨詞歟、上皇不可入御禁中、

行幸仙洞之時、御覽公事、不可憚云々、被渡陣座殿上

內侍所以下歟、何所非禁中乎、嗟歎而有餘、禁中之名、

不可限二條洞院西大路、

廿二日、天晴、依召參內大臣殿、爲被見法勝寺南大門

額、雖非其骨候其座、但新額三字樣太以優也、昨日內

御覽、可被用普通法勝寺云々、又古文、一又法勝寺等

之樣也、但欲覽之額猶被直其樣、今日所被定尤神妙歟、伊房卿本額本自被寫置、當時之時太不尋常如何、目不及歟、法勝寺云々、予モ古老之說モ、行成卿書法成寺額、三水太遠書去字、御堂仰云、此字如何、被申云、此伽藍鴨水尤近、有水恐、仍爲遠去水書此字者、御堂御感云々、往年聞此事、今伊房額又水尤遠、若倣此字歟、又猶去白河水歟、人々始聞此事之由云々、前中納言在傍、多難談之間有與定等、其中頗有興事等、關白春日詣之日乘車、左資實卿、後日云、汝乘車左之由有人々難如何、答云、不知物之間如此、但難者之說如何、彼卿云、周文王車之文歟、答云、於我朝之有職之說者尤可承伏申之處、以件文有此難者更不可恐、所見分明也、信陵君迎夷門候生之日、空車左、注曰、車貴左者、於文王右者非貴右之儀、只以渭陽之賤老忽同車、爲過分之面目之心也、聞之後無所答、故親經卿後朝送書云、昨日令乘車左給、尤有其興、是夷門候生貴車左之儀歟、有所見之人辨是非、太有興事也者、此文王車

右之句、年來予奇思之處、今聞此說尤催感、四君傳之注、年來彼是成不審者也、車事此兩事之外無所見、今所陳、博覽之人、猶同前歟、又云、朝覲行幸元久即元服春、役送、罷寄取御汁物、御盤陪膳依例取鳥足一盛返自餘、仍持歸、而饗沙汰者、依惜銀器深成不審、尋無鳥足由、家宣不知事趣、來問云、鳥足不候、如何、長兼答云、鳥足ははしう候つればたへ候ぬ、上下聞者同音咲壺解願、後日入道左府謁申之次、能心被感、此事存外事也、昏黑退出、

廿三日、天晴、洗髮精進、依塔供養事也、後口結縁殊深男女子息令參日吉、日來宿忠弘宅、

廿四日、天晴、巳時物詣人歸來、午時許少將相共參法勝寺、欲見塔邊雜人群集、埃塵難堪、不得入塔中、只巡見諸堂等常行堂御前、即歸來、入夜依番參院、不經時刻名謁退出、土御門中納言參會、清談、一日習禮雖甚雨被巡行、博陸左大臣以下、公卿行事辨等參入、無御幸、樂行事不參、公卿座其日八人著座、大略無餘分、

押四二、檻欄高而難見物歟、行幸供奉公卿廿四人云々、仍西方之儀未思得、院渡御御塔、又公卿可參云々、

廿五日、天晴、入夜束帶參三條殿、七條院、兵部卿參會、直

衣、院御幸之後可出御云々、良久親長可寄出車由催

之、雅親卿參入、少時寄御車、各下立、中納言寄御車之

間、隆衡卿參入、直進立庭上、兩納言束帶、知家朝臣付御車、

衣冠、予前行騎馬、經三條東洞院大炊御門尊勝寺東、南

行之間、殿上人等過冷泉赴二條、乍不審相隨之間、前

陣二條東行、予進寄問云、此路所被仰下歟、知家云、

本所承冷泉東也、今如此、不得其意、予云、二條東古來

被憚路也、今所被仰又冷泉云々、然者何因被用路乎、

急可被還御、即馳歸之間、聞兩納言等相問、應答此

由、各競歸、尤不甘心、御車未御之間也、即冷泉東西大

門大路南行、入阿彌陀堂南門、如御入講御幸、列立御

車寄、又同之、此間出車、連御車各競入、在列前、事太

狼藉、予即立逐電退出了、先是上皇勝明門院御幸常行

堂御所了云々、

廿六日、天晴、日出之程少將參內、行幸裝束、青平緒、已

一點予參法勝寺、隱文帶、螺鈿、銀、乘毛車、入北門徘徊金堂坤方、此

邊無人、當時參入之人、大臣以下被候常行堂御所云

云、御幸無別催、依恐推參不出、暫佇立阿彌陀堂後方、

經時刻、已四點許上皇女院御御塔云々、左右丞相以下

扈從、後聞、右府先寄女院御車引出、次左大臣殿令寄

院御車給、次爲先院御車、渡御出車候云々、先是內女

房出車寄塔西面廊、此間行幸、先陣漸入西大門、上皇

渡御了、左大臣殿、大納言殿、著金堂西廻廊座給、北上行

座、他公卿徘徊御塔邊云々、行幸供奉公卿等漸列立、

御幸公卿又加列、淺殿、曳裾、散三位等在閑所、予又不到於幔

內見物、左大臣殿、右大臣、大納言、訓光、良平、中納言

忠房、定通、雅親、忠信、下殿、下殿、下殿、教成、實宣、光親、有雅、參

議顯俊、三位親定、有能、公賴云々、博陸進立給、以通

光卿被申事由、還出本列前程、向西揖、加本列、此間好

樂、樂人等迴參、數度被催促、良久適參進、發音樂打

壺、次入御、兩大將不替、內大臣殿カイネ、リカサネ、裏渡、左將中宮權大夫

殿蘇芳下殿、内大臣署かいねり、重事權、宰相中將賴平、實氏、權下殿、經通、國通、

伊時、雅經、家行、通時、家兼、基保、爲家、親通、右

將公氏、通方卿、清信、雅清、家信、範茂、實時、時賢、敦

通、師季、宗平、入御之後、公卿等上薦著廊座、下薦徘徊、或逐電退下、依大臣座儲一、召掃部寮令加敷、内大

臣殿令加給、少時、頭中將經通朝臣來召公卿、左大臣殿

獻云々、昨日申大臣殿、御次第云、座座上頭、次第起參進、予通方

卿以上皆悉相從、昇塔西假屋緣上、但著座及實宣卿、自

餘只徘徊、或早出、此間忽然雨降、雖大雨不湿地、即依引陣、次

將皆立入、天晴了、待胡床乾、雅清中將還著、自餘不進

坐、南庭之儀惣不及伺見、出仕太無詮、八部衆等供花

之、著座之間、内大臣殿暫令退出給、予奉送、依窮屈無

術、即退出歸廬了、只爲結緣所參入也、不期一役久佇

立之間、脚氣難堪、入夜還御了、少將歸來、盤路二條、

東、洞院、南、三條、東、金剛勝院西、北、押小路東、延勝寺

西、北、大炊御門、東、法勝寺西大路、南、入御西大門、御

輿寄假屋北面、有階、安御輿、地上敷座、内侍在其廳中、次今夜

將取御輿昇階居、授内侍、即還下庭上云々

取内大臣殿御祿、依所供、服弓乍懸、取之、進寄間、家兼取右府

府御氣色、仍置置弓懸据事、可依所便、何事在哉、勸賞在

別紙、式次第等、昨日申左大臣殿書爲之、今日事惣恐

眼不見及、頭中將仰度者之由稱之、式、前一日堂莊嚴、除

御塔裳層、南北面中央各三間云々、外八面懸御簾、其

南面西一間爲主上御在所、敷纒綱端疊二枚、其上敷東

京錦茵、爲御座、同東第一間爲太上皇御所、敷纒綱端

疊二枚、其上敷東京錦茵、爲御座、同巽面第一間爲修

明門院御所、敷同疊茵等爲御座、阿彌堂東底南第三間

以南爲七條院御所、御塔西假屋東第一間敷錦毯代、立

螺鈿大床子、其上供菅圓座、爲御休息所、同以庇爲御

幾物所、御塔裳層坤面三ヶ間、爲内侍女藏人等候所、

東假屋三ヶ間爲修明門院女房候所、御塔南廂正面東

間迫南、東西行立床、其上敷南面端疊一枚、爲證議座、

南裳層正面間東西行、敷同端帖二枚、爲唄師座、坤面

榮敷南面緣端等帖、爲公卿座、巽面榮敷同帖等、爲院

司公卿座、坤壇下敷黃端疊、爲殿上侍臣座、巽壇下敷

同疊、爲院殿上侍臣座、東假屋南砌敷同帖、爲修明門
院殿上侍臣座、西假屋南砌敷同帖、爲上官座、南門北
壇下東西敷同疊、爲式部彈正出居座、古四去御塔南壇
一丈五尺、東西差退立蓋隔座各一脚、其中央立禮盤二
脚、其南去二許丈立舞臺、其上北端立佛布施机、其東
西立行香机各一脚、件机倚御願
文咒願杖其東西頭南北相並立草
蓑代各八脚、舞臺東西各去一丈餘、立八部衆草蓑代
各十五脚、八部衆座東西各去一許丈、立散花机各二
脚、其東西各去一許丈、敷黃端帖、爲堂童子座、舞臺南
一許丈立金鼓臺、其南去五許尺、敷小筵、爲圖書官人
座、御塔壇巽坤面各去五許丈、南北行立十四丈帷各一
字、爲衆僧座、南門北壇下北去一許丈、東西各立丈帷
一字、爲左右樂屋、其北去一許丈、立左右大鼓鉦鼓各
一面、其前立並杵九柄、舞臺東西立龍頭杵、各懸幡、
左樂屋東差退、東西行立五丈帷、爲積御誦經物所、南
門外壇下東西立五丈帷各一字、爲八部衆集會所、其南
立同帷各一字、爲衆僧集會所、八部衆帷以西差退東西

相並立五丈帷二字、爲式部彈正座、西廻廊西而北第四
間以南三ヶ間爲公卿座、其南際一間爲上官座、御塔乾
立帷二字、爲殿上侍臣座并御尉子所、五大堂南砌立
帷一字、爲御與宿、其西立帷一字、爲御藥陪從座、其北
立內藏、大膳、典藥、內膳、主水、并侍從等帷、東堤外立
左近衛府帷、其東立左兵衛府帷、其北立左衛門府帷、
西門內北腋立右近衛府帷、同門外北腋立右兵衛府帷、
同南腋立右衛門府帷、當日寅刻發小音聲、神分同刻御
佛開眼、卯刻分送法服、同冠打衆僧集會鐘、僧侶著
南門外帷、威儀師召計之、同冠行幸、乘輿暫南西門、
被中此間發亂聲、亂聲止、樂人參向、壹奚婁進而鼓、舞
樂船出而奏樂、已上各奏
鳥向樂著御御塔、次式部彈正著座、辨
少
納言等
加著宸儀著御座、先是左右近
衛陣向壇下次王卿著座、次發亂聲、
先新樂、次古樂、各
一節、又共一節師子出臥舞臺巽坤、次調子、一越
調雅樂寮
率樂人、出自南門進立、衆僧集會帷下發樂、一、從僧等
入自南門、敷草座於東西帷、原立標
各座前樂人經本道到樂屋
前立、樂不止、此間
師子起舞治部玄蕃省寮各五位二人、卒衆僧等、經

同道東西、相分進僧座前、留標下、八部衆分立舞臺、左

右僧侶到座前、而立樂止、各著座引頭者衆僧著後著之、畢、省察

引還、次雅樂寮相卒堂前所發樂、相應、經前道到樂屋前

立、師子起省察先行、導師咒願乘輿、到舞臺坤巽、省察

留立、導師咒願下輿、經舞臺著禮盤、禮佛諸僧、畢、各登

高座、省察并執蓋者引還、次堂童子左右各八人、爲先圖香進著庭

中座、次圖書寮打金鼓、樂人發樂、十天迦陵頻八人、胡

蝶八人、菩薩廿六人、各捧供花二行相分、經舞臺上、

此間八部衆起座、供花之後著座到御塔壇下、傳授於僧了、樂止、迦陵頻、

胡蝶次第退著舞臺上草墊、菩薩留立舞臺上、即發菩

薩樂供舞、次迦陵頻胡蝶各隨音樂舞了、次打金鼓、樂

人發樂、從金、唎師四人起座、經舞臺參上著座、樂止、次

度者二人進自東西登舞臺、禮佛了、就案下取火舍立、

次打金鼓、唎師發音、度者隨音徐行、次堂童子起座、取

花宮分行了復座、次散花四人、各登舞臺北面而立、引頭

卒衆俯隨之、此間樂人左右相分立、八部衆加立菩薩下、散花發音、

樂人發樂、並河上、新古、東西相對、樂人爲先、登舞臺進、自衆僧

之中加物度者之前、師子在壇、每塔層僧侶散花度者、散花、引頭、納

衆、讚衆、梵音、錫杖等僧、次第步列、經舞臺上、左右北

行定爲一行、經舞臺東西大行道了、還著如初儀、度者立案下

衆僧出之時置火舍、加錫杖衆來、樂人列樂屋前、衆僧著座、八部衆著草墊

了、樂止、樂人入樂屋、以打金鼓、樂人發樂、衆頭讚衆起

座、登舞臺唱讚、音頭持鉢、白餘持花宮、立定樂止、先東寺、次天台、唱了又發樂、耶君

讚衆復座、樂止、次打金鼓、樂人發樂、慶雲梵音衆起座、

登舞臺唱梵音、音頭持香爐、白餘持花宮、唱了又發樂、陪臘、退歸如前、

次打金鼓、樂人發樂、蘇莫錫杖衆起座、登舞臺供錫杖、

皆持錫杖、退時倒持、供了又發樂、越天退歸如初、次堂童子起座、取

花宮退出、次打金鼓、導師表白、次有御誦經事、若度者此間可抑

咒願了給衆僧祿、先是昇、開文アリ云東西僧座前侍從、導師咒願

降高座、樂人發樂、白桂、著禮盤、禮佛退出、樂人省察

相引退如入儀、次打金鼓、左右遣供舞了、賜樂人祿、次

奏罷出音聲、次還宮、此間樂、奴奏樂、海青

正四位下源雅、院師、藤家嗣、師經細上、同知家、七條院

同公俊、院明門、院師給、同長季、造國司

從五位上中原親清、行事、檢非

從五位下藤季能、同賞、使如元、

大工駿河權守櫻島國重、教信甲賀吉貞、

以上各賜一階、

行事辨定高朝臣、季康、金堂并廻廊修理造賞、

繪師有家、兼康、俊誠、同行事賞、

以上賞追可申請、

權律師公緣、別當公服賞、能全、修理別當尊長賞、

法印院範、佛師院賞、滿慶、運慶賞、

法眼宣圓、定圓賞、

檢校法親王并繪師良賀、尊智、

已上追可申請也、

建曆三年四月廿六日

九重塔供養、左方行事左中辨定高朝臣、右方權右中辨經高朝臣、

樂行事、右中將家嗣、左中將公俊、

御布施役人、

證誠、

內御方、

被物、右大將、

布施、經通朝臣、

院御方、

大掛、源大納言、

布施、雅清清臣、

七條院御方、

被物、源中納言、

布施、知家朝臣、

修明門院御方、

被物、左衛門督、

布施、經時朝臣、

咒願、

內御方、

被物、土御門中納言、

布施、隆仲朝臣、

院御方、

大掛、 四條中納言、

布施、 保季朝臣、

七條院御方、

被物、 左宰相中將、

布施、 親長、

修明門院御方、

被物、 大宮宰相中將、

布施、 雅經朝臣、

導師、

内御方、

被物、 三條中納言、

布施、 實時朝臣、

院御方、

大掛、 權中納言、

布施、 公長朝臣、

七條院御方、

被物、 修理大夫、

布施、 家時、

修明門院御方、

被物、 新宰相、

布施、 範茂朝臣、

堂童子、

左、

長清朝臣、 清實朝臣、 以經、 家綱、 行經、

業基、 以康、 康綱、

右、

隆範朝臣、 重輔朝臣、 家長、 仲家、 業家、

泰敏、 信說、 仲俊、

九重御塔供養守護武士、 門々事、

南面、

大門、

駿河大夫判官惟信、 豐後左衛門尉能直、

源三左衛門尉親長、

東脇門、

山田次郎重忠、熊谷左衛門尉實景、

西脇門、

加藤次郎兵衛尉光時、金持二郎廣成、

西面、

大門、

遠江守親廣、

南門、

權二郎刑部丞忠季、江左衛門太郎能實、

南次門、

江右衛門尉範親、民部右衛門尉能廣、

北門、

佐々木左衛門尉廣綱、

北面、

大門、

中條駿河前司信綱、同馬助範俊、

同小門、

佐々木中務入道經蓮、

同彌太郎左衛門尉高重、

東脇門、

內藤左衛門尉盛家、

西脇、

加藤左衛門尉景廉、

東面、

朝日判官代賴清、內部藏人、宗左衛門尉孝

親、重原左衛門尉次廣、備前國守護代、

河內國守護代、

人々裝束、博陸、薄色綾下襲、例縮縹綾袴、裏如例生衣、相國、薄蘇芳下重白帷、右大臣、

二藍下襲、例有文薄物也、家嗣朝臣、青下襲、蘇芳袴、忠信實氏卿、三重拾重、朽葉式面白中へ青裏、

部大輔宗業、白帷青朽葉薄下重、取布施云々、

頭注

後聞、御幸公卿左右兩府、大納言通光、師經、良平、中納言定通、公信、三位高通、家衡、予、依無催不參、

近代事不知可否者也、

廿七日、天晴、窮屈平臥、光家來、昨日取僧布施之由語也、乘燭之程少將歸來云、今夜不可供奉行幸、宿衣可

參儲之由有仰事、雖不知其由、仰上不及是非、此間召使來云、今夜行幸可早速、只今可參、即參內、博陸召職事、重可催由被仰、少時隆衡卿參入、行召仰云々、無程出御南殿、公御著靴下立、經青瑱、宣仁、宣陽壇上軒廊內、同列立、隆衡、雅親、教成、忠信、實宣、光親、有雅、顯俊、基忠、公賴、家衡、下官通方卿、先是右將渡了、園司奏、鈴奏顯平了、近將見御座、此事更不待其程、只右將渡後持立御輿可見之歟、即寄御輿、兩將放列副御輿、基忠卿次將昇坐、階之後可昇由存之、久相待云々、前驅進寄下其裾、太異樣、次將不昇之間、愁昇久坐待、次將昇坐置弓、立開釐云々、與忠明朝臣存立隔者歟、予前行步行如前度還御、列立高陽院殿南庭、南殿徹御輿上格于如例、南殿御殿東對陣座、車宿其上內侍所如例殿上作小板敷沓脫等、入御之間、基忠不警蹕云々、定通、公宣、公氏、參會供奉、入御之後只供夕膳、陪膳、行臺盤、無他事云々、參院御方、通中藥垣戶、有北后町廊渡殿、中央、築垣如承香殿北、自此渡殿兩主朝夕可有御會合云々、偏是新儀、於北面、顯俊卿定高朝臣等清談、

宰相云、昨日與寶氏卿入金堂、休息睡眠、行道之程歸參、依座出來著座、通方卿同著、此間左府被仰赦事、其詞太分明、御聲慥聞堂下云々、次取導師布施、就高座南頭置其床下、次退出、按察宿所休息之後歸參、供奉還御、定高辨云、堂童子長清坐圖書寮座、寮依無座、欲居左近胡床、仍令追却、依無座坐地上、是一違失也、又云、四位仲房此間聊病氣、昨日自云、心神已不辨前後、太惘然、是已及死期、試差將基、即與侍男始將基、其馬行方皆忘、不終一盤云、已以不覺悟、是即死期也、太心細、欲見家中、懸侍男巡見家中了、安坐念佛二百反、終力即修命、不幸短命、太可悲、生滅之理聞之心中不安、彌恐怖、

廿八日、天晴、少將昏黑歸來、每日御對面云々、女房御共、密々渡御、已無中築垣之證歟、已有隔名、今聖上出息居、渡御仙洞、百司不隨、思之猶如何、以忠信卿被獻御馬、被具御鞍、時々可有御騎之料云々、是又上皇御宇之時例云々、誠任意吉例也、又案之、若叶末代之儀、可爲長久之計歟、兩不知、夜半許以經朝臣示

送、明日中宮行啓中御門殿、供奉出車啓將等相構乎、卒爾行啓尤不便、雖有供奉之志、自今朝背骨忽違、苦痛難堪、仍不能領狀啓將事、又非恐父進止、仍出車可獻由示達了、曉鐘之程少將歸來、只今御殿之間退出云云、

廿九日、晴、天晴、宮司職事、又以經朝臣私狀、方々催行啓、申所勞了、啓將又闕如云々、但近習者自由領狀、太有恐、仍令申障了、今度行幸之間、仙洞御沙汰、惣無后宮行啓之儀、定西面雖廣博、格子空下籠之云々、事頗非尋常、定有事故歟、退出本宮、行啓私亭尤叶道理者歟、形勢大略不異長門賦、前後沙汰如何、朝間院牛童藥王丸、稱力禰物、來門前、示有可相觸事由、以忠弘令問、吉富庄預所相傳文書有之、可補給云々、問答之詞不足、定公覺謀書被召出使廳了由、粗答之、近代之儀非無恐、更不可存理非、以書狀示達按察辨清範朝臣了、各有返事、生涯之計逐日惘然、何是何非、嗟呼悲哉、傳聞、築西法印所謂藥上房是也、送證誠已下衆僧布施、差副院廳

官被送獻法親王、十物十云々、叶事理乎、先例如何、當世之儀只以貢獻爲善云々、然者葉上房塔歟、夜半許少將退出、於皇居西門內故春部門院殿上屏前、御鞠云々、上皇天子、每事依有恐委不問、最勝講於此內裏可被行云々、或後魏西河之遊、連日連夜、已如文王爲世子、或周穆驪驢驥之興、同月令郊外之儀、但至于神堯之入紫宮者、未聞和歌之例者歟、百王八十余代、神劍沒海、卅廻于茲、事理可然、是則非人力歟、家神祭存例、五月依大卷切之、頭註後日案舊史、漢高祖宴未央前殿舉玉卮、起爲太上皇壽、有此事歟、

○五月

一日、辛丑、天晴、夜前出車歸來之間天曙、是又如何、後宮邊事、每事遲留如此、啓將左忠定、右時賢云々、背苦痛猶不宜、行啓事問忠弘、出車三兩、長兼卿、實氏卿下官、供奉內大臣殿、如車、大夫實宣卿一人云々、二日、自夜大雨、已後休、天猶陰、雲赴西、心神猶不尋常、仍不參法勝寺、是依儀領狀、今口示行事辨、小五月競馬舍人、自左

方被催少將、奉行中將國通朝臣、內々示送難參子細等
了、右公雅朝臣奉行云々、騎射事又催之間、示送障由
了、是皆清貧過度之間、有限所役、猶難勤之故也、有
恥有恐、今夜爲方違宿忠弘宅、

三日、天晴、自今日院最勝講、昨日催、第三日第五日可
參由領狀、今朝又明日無人由示送、極辨又領狀了、肩

病頗宜、左近荒手組、忠定、家行中將著給云々、入夜少

將來云、今日築西法印可賜大師號由有其聞、又有議定

等、今日無其事、不云定說云々、聞驚不少、存生大師號

我朝先縱無之、誰人何議定乎、可謂勝事、先有僧正之

聞、其事止有此事、凡非筆端所及、

證義者、前僧正(寺)公範、(長史)、
前僧正誠實、

初日、

朝座講師定範、備大辨別

問者、山、聖覺、前僧都

讀師、寺、

顯尊、舊僧都

頌、寺、隆圓、大納言僧都

散花、信家、右衛門督僧都

行香咒願、公胤、三禮、興、親緣、暮座講師、

顯尊、

問者、賴惠、讀師、定範、頌、聖覺、散

花、貞乘、大夫僧都

第二日、

朝座講師、隆圓、問者、信家、讀師、聖覺、頌、

賴惠、散花、道性、尊勝院法眼暮座講師、賴惠、問者、

顯尊、讀師、隆圓、頌、定範、散花、圓經、興、帥法眼

第三日、

朝座講師、信家、問者、隆圓、讀師、賴惠、頌、顯

尊、散花、親儀、暮座講師、貞乘、問者、圓經、

讀師、信家、頌、定範、散花、道性、

第四日、

朝座講師、道性、問者、親緣、讀師、貞乘、頌、

聖覺、散花、圓經、暮座講師、圓經、問者、貞

乘、讀師、道性、頌、顯尊、散花、親緣、

第五日、

朝座講師、親緣、問者、道性、讀師、圓經、頌、

隆圓、散花、貞乘、暮座講師、聖覺、問者、定範、

讀師、親緣、頌、賴惠、散花、信家、行香咒願、

公胤、三禮、親緣、

一番、公緣大法師、答、興、
光國大法師、問、寺、

二番、覺舜大法師、答、寺、
隆國大法師、問、興、

三番、忠範大法師、答、寺、
光惠大法師、問、東大、

四番、圓順大法師、答、寺、
隆德大法師、問、山、

五番、公全大法師、答、寺、
公敏大法師、問、山、

六番、清顯大法師、答、寺、
親實大法師、問、東大、

七番、命圓大法師、答、興、
兼性大法師、問、山、

四日、天晴、午一點東帶參院、公賴卿一人在殿上、相共著座、良久公宣卿已下人々來加此殿上、只三間也、太狹、上廂多著座之間、予起座、賴平、顯俊卿佇立道場方、經高朝臣自御所方出、見出御氣色、各立者在廊緣邊、經高朝臣告出御由退出、仍鐘了、公卿著座、右大將、中宮大夫、藤大納言、師經、權中納言公宣、冷泉教成、左衛門督、左宰相中將賴平、宰相顯俊著座、公賴卿予依無座在殿上、朝座了僧退、公卿不起、僧還昇、堂童子退之間、公宣、忠信兩卿退下、公賴卿加座、予同進出腋戶

邊、雖同座未猶道無所、仍還入了、與辨清談、夜前大師號事、依無存生之例無宣下、但諸可已被催儲、重退出、今日猶可有其沙汰歟、所疑僧正歟、國家重事驚而可驚歟、夕座了則退、仍重退出、參內御方局、女房禮申之間、存外出御、拜龍顏、成恐逐電退出、頭辨稱有可宣下事由、求上卿、所疑彼僧事歟、外人々山大衆騷動、京中武士馳奔云々、不知何事、此僧勝事、殊二猶有不吉事歟、思國家人、尤可有斟酌歟、伴僧問門云々、未聞上人開門、內構賄賂外成懇望、先非上人之法、如何云々、今日御鞠興、仍被忿講筵云々、御所北面有便佛壇、北面被憚之、仍向東南、北有高座等、南面立散花机、公卿座以西殿上之間、散花机在下廂末座之南、頗不似例歟、道場之儀當時臨幸御同所、猶以失便宜、如何云々、繼衆無處于搖動、狹少不便、入夜少將退出、今日於院御方密々御覽鞠云々、上八人之眾、其體布衣云々、中宮大夫著陣、行太神宮々司御下云々、不聞、次定通卿著陣宣下、築西僧正事、不聞其間刺加歟、猶々可謂勝事、傳聞、山門騷動、神人出舉

之間、大工定繼打神人云々、但橫河法師抑留、當時無事云々、今日聞、廿四日還御閑院、二十五日最勝講云云、昨日十九日還御山有聞、又延引、

五日、天晴、午時許參中宮、宮中無人、庭草如不掃、催懷舊之淚、謁女房、良久退出之間、自法勝寺告來事具由、即參彼寺、左中辨語云、參院申請定通卿、仍只今可參、其外無人、今日最勝講、大相國源大納言以下云々、少時中納言參入、即始事了、納言即退出、與辨清談、第二座始後又退出歸廬、西時、僧都來談、山門猶不靜、或說、今日小五月衆徒抑留、不日還云々、

六日、天晴、已後雨降、終日甚雨、

七日、天猶間陰、未時雨灑、未一點參院、爲伺布施刻限、雖存遲參由、事未始、殿上左大臣以下御座無其所、只佇立一間落板敷邊、太難堪、堂童子等在此邊、二間中門廊、僧群居之外、

無餘所、少時經高朝臣自御所方來殿上、申始由、歸出仰鐘、大臣以下著座、大納言二人、通光、師經、中納言三人、忠房、

定通、參議二人、公氏、顯俊、三位家衡著、予在殿上、堂童子

成長、資宗、收花莖之間、按察參入追加座、家衡卿起座來殿上、夕座始之間、右府參入、被過之間、兩人平伏、事訖行香云々、不見其儀、宰相已下起退來、各佇立、事了各還著、右府出召前駟、被帶劔了復座、次大臣以下六位一人每度授之、忠房卿以上於布障子西跪、搢笏取之、入南面北第一間、定通卿於障子東、搢笏取之、入第二間、立散花、機間也、僧十二口、予當最末跪僧之前間、笏落云云、帶劔不指得之所致也、爲恥無極、但無爲方、以左手取隱之後、置布施、猶如拔笏、聊逃右膝取笏、大廻退出、適御前事失錯、物惡之令然也、心勞無極、左大臣殿御退出、奉送出門前退出、入夜布衣自中御門方參入、待名謁之間、三位中將來談、初日行香、關白左府經座前、座行香机北給、自餘公卿經簀子、次第列座其末、在參議北座堂上、公卿座北元、庇西上南面末座、一帖南折西面、上々御佛、庇東頭也、其南面佛庇第二間不敷座、中門廊、融也、其南間立散花机行香机也、是中、其南妻戸間也、講師座在件間、過南西上北面末座、一人在東座、四面、妻戸間也、威儀師在其座

北端、傳輪了、立入中間、經佛後出西第一間、於東布障
子下大臣障子四、納
言以下障子東、作輪次第還進、返輪皆悉自簀子復座
之間、下薦先立、佇立北緣邊、博陸過給之間、師經卿深
居、忠房卿不見入、其日仰云、博陸左府解劔置座前、
笏頭ヲ西、劔柄
方、平緒の總の下ニ置隱之、大納言已下笏
平緒上ニ頭ヲ東、劔柄
方、置也、忠房卿又如此、彼三人様々、
不審者、其行香路、偏博陸御存知歟、頗わづらはしく
見云々、落笏之恥心深痛、如此事不入耳、如敗軍將不
言勇、慚愧云々、深更名謁訖退出、今夜聞、師季少將娶
範基舊妻、増四
娘三位中將有彈指之氣、
八日、天晴、未後乍晴大雨如注、行潦如池、自今日精
進、讀嵯峨結緣經、六部、毎年
始此願、
九日、天晴、獻御幸出車、賴資、後聞、車、清信朝臣、實時
其儀、朝臣三兩云々、大
宮大納言以使者、必可來棧敗之由、再三有命、惣領狀、
忽求僕從等、卒爾之間不出來、倩案之、日漸闌、見物
之所旁無便宜歟、又精進念誦之間也、仍重達卒爾難參
由了、今朝聞、關東勝事出來云々、傳々說、和田左衛門

尉某、號三、
浦黨、橫山黨兩人共其勢、
拔群者云々、合謀、去二日申時、忽襲將
軍幕下、其時將軍更無警衛之備、或杯酌淵醉云々、忽
然周章合戰、其夜曙、翌日又暮、旦而戰、見星未已、將軍
與外舅相摸守義時、大膳大夫廣元等、間行而入山、脫
身而隙去、賊又隔大威、而夜遂引去、但悉燒城郭、室
屋無不殘破、梟主金吾又死戰場、散卒儲船、自海上逃
去云々、天下勝事何事過斯乎、又卷說云、彼賊徒之黨
類枝葉在京者多、且追捕滅亡目前、京中又騷動云々、
樂盡悲來是天罰歟、竊思之天下又無聊歟、末代貧者定
及餓死歟、嗟乎悲哉、入夜自見物人許傳取結番、貧老
涯分以之足、
初五、五、日
競馬、鼓、隆仲朝臣、奉行、左、國道朝臣、
右、公雅朝臣、
一番、左、敦久、兼勝、纏頭三、
右、清景、
二番、弘澄、儲勝、纏頭二、
國文、
三番、賴峰、儲勝、纏頭二、
清弘、
四番、敦近、
武延、儲勝、纏頭二、

五番、

久員、武隆、勝負奉重之間被追入丁、

六番、

助文、敦久子、弘員、健勝、繼頭二、

七番、

賴常、取落、持、各繼頭一、國近、

入夜召敦久、按察承仰、助文所行太不覺、不可召仕由

被仰含、

流鍋馬、

一番、秀能、

二番、醫王丸、

三番、左衛門尉藤原助清、

四番、左衛門尉源康景、

五番、右衛門尉藤遠綱、

六番、源康重、

七番、源康重、

戌時許參院、中宮權亮粗語關東事、二日申時和田左衛

門義盛、宿所忽聞甲兵之音、去春謀反者結黨之由有風

聞落書等、伴義盛爲其張本、而自披陳、聞子細、已以免

許、有和解之氣色、如尋常之時、在近邊宿所、而猶有內

議、可爲鯨鯢之由聞之、因茲更聚黨成其計、是只以

韓彭趙醢也、其近邊宿所者又左衛門尉、聞之、即備戎服、發使

者廣元朝臣、于時伴朝臣賓客在座、杯酒方酣、亭主聞

之、獨起座、奔參將軍在所、相共逃去其所、赴故將軍墓

所堂、去七八町、或云二階堂、此間義盛甥三浦左衛門義村、本自與叔父、遠背

爲仇告義盛已出軍之由、依而人々告母儀妻室等、僅逃

去之間、義盛兵已進、先圍廣元宿所、酒客未去、大軍忽

至、醉鄉之士依救彼客、即放火燒其城郭、室屋不殘一

宇、自二日夕至于四日朝、攻戰不已、如三周弄不注、義

盛士卒一以當千、天地震怒、此間千葉之黨類常胤之孫子、練

精兵、自隣國起來、義盛雖兵盡矢窮、策疲足之兵、當新羈

之馬、然尙追奔、遂北至于橫大路、鎌倉之前有此路云々、此時義村兵

又塞其後、大破義盛、因茲遂不得免、多散卒等出濱、棹

船向安房方、其勢五百騎許、船六艘、其後廣元消息飛

脚到來、昨日申刻許參著、其後公經又無音信者、京畿

有骨肉之輩、未知其存亡、在京武士等雖申可下由、且

有天氣被留、爲京中警固也、遠江守親廣依塔供養在京、去二日下向、聞之揚鞭云々、或云、近江守賴茂、去比下向、最前終命云々、又侍從能氏、高龍卿子、正月之比下向、死軍陣云々、相摸國司兩息、親能法師子、廣元朝臣子、皆死云々、不知實否、亥時許名罷了退出、

十日、天晴、未一點參法勝寺、東帶、宰相中將、公氏、兵部卿著堂中座、加其末、兵部卿云、昨日舍人之中、紅

下袴有沙汰由聞之、是新制歟、予云、去春所被宣下也、

又云、宣家已欲參之間、俄有所勞止、不聞此刻、例力尤可

謂冥加歟者、師季少將取馬口之間、被各仰退出、自余未隨役者

又退出先是、以忠弘令伺岡前入道範光、五七日所、還來云、

講筵已始及半、於堂修之云々、予即退出向彼堂、是太

無由、太理一日送消息、爲家寓直禁中之好多、但近臣

等七條院南山御幸、十四以前、仙洞被忌此事、過三十之

間、不可向云々、仍爲子息代官、愚老可行向也、入中門

妻戶、著堂弘庇座、東西各一間、高通卿在東、賴範在

西、依便坐賴平下、無程事了、予起座、同官二人取布

施、六位衛府藏人體把手長不得其心、如此亦諸大夫役也、多不開事也、賴範依御師談不取歟、

殿上人資家、時賢、定親、基定、實俊、範資等、範宗朝臣

行事、予即退出、參大納言殿、爲聽聞渡給彼堂由侍示

云々、即退出、高通卿參法勝寺云々、予不參、近日事無

益之故也、即歸廬、請僧三人、籠僧歟、講師兼尊律師、

事頗似等閑、夜半許坤方有火、驚出見之、已以近隣也、

二條大納言家云々、雖風不吹猶以周章、良久不滅、其

北故範元卿後見宅同燒亡云々、此間於大炊御門東洞

院辻、殺害騎馬者、左近將監云々、甚長法印房人、同房

中山僧有意趣伺之、得火事便遂宿意云々、拔劔雖打

合、僧徒類多間被射落云々、下手等法印搦取、今夜渡

檢非違使親清云々、皇居不遠、太奇怪、

十一日、雨降、夜前行房布衣著冠、候兩主御前、猥狎取

其冠云々、例事也、又負猥踊進前之間、此燒亡出來云々、雖

被弄尾籠者、猶可著宗行舊袍哉、

十二日、晴陰、雨間降、昏黑參內大臣殿、見參移漏、深

更退出、有被仰事等、不遑記、

十三日、天晴、覺景僧都來談、是弟子法服季頭事、相示之次也、

十四日、天晴、巷說更不靜、關東無重來使者云々、或說云、賊軍猶任絕其糧道、將軍雖未沒、如母郎之在晉陽、

事太急、故不得發使者云々、京中并近江美濃等武士各令下向之謀、國土人民之煩已以千萬、已忘東作之勤云

云、嗟乎悲哉、仍及乎、兼時朝臣妻今日死去、長正朝臣、姪、年廿三、

立秋門院、少輔是也、遂產後病依難存、所生子息藏人季俊一昨日叙

爵云々、左近將監教實、上薦、依頭中將議奏、不隨實首所勸、之由云々、此男頗優、尋常者也、如何、重代者通有練習之氣、

被除籍云々、去十口、此事主上又內

內被咎、仰經通朝臣、不奏聞而直、奏院云々、雖內々奏聞、不可被妨訴

訟、今不申事由、無左右申院之條如何云々、卷舌云々、

京中又有可討輩由風聞、相互嫌疑、警固者多云々、人

云、新大納言通具、家有放火事、依其事搦嫌疑雜人之間、

件男主人馬允景康、平中將侍、聚黨打入大納言家、拔劔

昇堂上、搦宿直男向中將家前、內府聞此事、喚寄馬允

之間、自院被召出、給檢非違秀能訖云々、權勢家人所

行如此歟、

十五日、天晴、時賢中將示送云、予一昨日、岡崎布施取之、聞此事、

兼日風聞、七條院御進發以前、不可院參云々、而

昨日御奉幣以前、不可參由有其聞、仍出仕者、予聞此

事、示送清範朝臣、返事云、舍弟男修明門院、非藏人、依女院令召

彼、後日向其所、今此沙汰出來、太難堪、又予事太理

極無心之由被稱、暫不參何事在乎者、京中浮說、自院

有御禁制、各無事由風聞云々、故親弘入道養子左衛

門尉、實父三浦之輩云々、在六波羅宅、依本姓其弟警固、檢非違

義成子左衛門尉成時自筑紫上洛、欲討彼金吾之由、

前有其聞、今朝無事云々、昏向亞相亭、廣綱サ、キ、左衛門、

共今日到來、脚力仰參院、退出之次入來、件脚力見戰

場者也、委語之、大略無爲、有死傷之聞輩多存命、謀

反散卒行向方々、各差遣官軍云々、此說太尋常、有憲

廣綱等武士六人明日下午向、各乞馬、悉與之由被稱、數

多武士下向、路頭定枯槁歟、向後飢饉不可疑、

十六日、天陰、午後雨降、少將爲家近日日夜蹴鞠云々、

遇兩主好鞠之日、愁爲近臣、依天氣之宜頗有得骨之沙汰、聞之彌爲幸、楚王好細腰之日、如宮中餓死人、不見一卷之書、七八歲之時、僅所讀蒙求百詠猶以廢忘、是皆一家不運之令然、魔緣積惡之祟也、慟哭而有餘、聞之獨悲、猶恨侍從大納言成通卿、末代之賢者、明經史之文、何好無益之鞠、遺其道之名譽、如長實卿素飡醉鄉之輩尤可然、於彼卿可謂其恥耳、予元來胤子少、僅二人之男、已不書假名之字、家之滅亡兼以存眼、非分之近臣、即惡緣也、悲泣之餘注此事、爲後鑒也、謂其事即禁省鞠、而爲茂草之文、宣哉末代凌遲之期、此事之盛矣、十七日、天晴、昨日自關東有到來書云々、所仰廣綱也、廣元能時各加判、又有將軍判云々、在京武士不可下向、可守護院御所、又謀反之輩廻西海之由有聞、可致用意云々、入夜參承明門院、女房聊有云合事、私事也、今夜宿忠弘宅、方遯夜前又忘却、仍更又宿、依爲本所也、十八日、天晴、入夜侍從來云、大臣殿被仰可給山田庄一鄉由、先年所給予也、仍觸家主、聊有受用之氣云々、

神妙云々、

古老力

十九日、天晴、老尼之通身無故辛苦、心神恍惚、而徒在臥內、僅見舊史暫慰心緒、只思後學、有楊子雲之才、有金日磾之忠、少將入夜退出云、於院御方御鞠、每日有此事云々、一寢之後曉鐘以後乾方有火、人云、近衛町邊云々、久不滅之間、西風頗扇、仍參承明門院、無人、申入女房、暫退出、參中宮、著冠出門也、女房被出逢之間、天已明、廿四日可有御入內云々、郭公數聲、

廿日、遲明甚雨、終日如注、自宮退出之間漸雨降、歸廬後如注、午時許藏人永光、進力奉書、被召宣十首歌、即書進之、入夜範朝卿以兵衛尉某爲使、明後日法事相訪乎、殊無相親人、有存旨申由示送、兩度招請太無由、予本自不好如此交衆、但不似平生權勢、今無到訪人歟、已依此所憚、被止院中參、少將寓直內裡、年來雖蒙彼入道不請、已難去所催也、向後可存芳心乎、外祖母中陰佛事、先考招請、有好人々之時、人數不幾、故贈丞相相具、此入道來訪、思當初之好、非無芳心、成此案

即領狀、人以處追從歟、

廿一日、天晴、朝行九條、沐浴假臥、申時許歸廬、尼上今日又歸入嵯峨、

廿二日、朝微雨、即晴、少將每日蹴鞠無闕意、摧心肝好之云々、可貴幸人之瑞想歟、定昇三位、衛門督、正二位前中納言非據、按察使歟、但不鼓琵琶、不吹笛、不堪郢曲、其得輕微如何、又非七條院催者、非宣陽門院兄、非狩獵之師匠、所慕如何、向後之體可悲、貧老之長命只見可憫哭事多、往年光家爲家誕生之時、至恐不覺之心、祖イ幹イ悅其爲男子、心中願求古來賢才、必不依父母直袴、以言之輩更非重代之家跡、所憑之信力若不空、而有冥罪之助歟、有社禪之器量、雪先祖之恥辱、自漸及五六歲、且暮泣含此意趣、兄先逆父命、齡及三十、未書假名之字、弟又同前、寄事於近臣之忿劇、不隨愚父之教訓、不孝不善者、二人愁成人、觸視聽心府如摧、悲哉、午時許參中宮謁女房、未時向岡崎堂、公胤僧正曼陀羅供云々、公賴卿在座、予追著、賴範忠行等卿追々來著、

忠行著子事丁三人取布施、修理取別祿、自廉中押出萬滿抄上四座、重、清範氏一人喪家儀、賴範固、如何、殿上人名號之輩、經時、不取布施、院司歟、範宗、範

近代流例云々、資、兵部、家長、民部、定衡、中務、手長六位等僅五六人、數

反往反、太無便宜、無人如何云々、無故一身奔營、比與也、布施三十許歟、過差、但被物皆用白、近代多如此、喪家尋常鈍色也、

絹綠綾等入懸子、皆以色々薄樣飭、云々、喪家之儀不用錦並袴等例也、

美麗殊勝如平生、何事只任意歟、又裏布顯文紗、色々村濃、惣非喪家之儀、

讚衆布施各五、二、被物忠行卿云、近日被聽院名謁、兩度參

之、而今日無人、可到訪由有二品命、又云、至于來廿五

日、可憚院參者、此間微雨、予退歸、歸廬後終夜甚雨、

光家來云、山田庄自院被召了、勿論者、時儀不足言、

廿三日、天晴、昏黑參中宮、入夜宜秋門院渡御云々、

密々自山門入佛、其後退出、

廿四日、天陰、午時微雨、漸密、少時休、午始許布衣參

岡崎大納言殿御佛事所、如日來、中陰三度、世以爲追從歟、

身已依此事被憚、院中面々願主難去之間、不願傍難、

太似無由、是偏禁裡微忠之由存之、但於亭主等猶不出

好詞、光家相具、能季卿先在中門廊格子裡、以親泰、無人間爲悅之由有御命、少時告始由、相共著堂前座、四、聖覺說法阿彌陀泥佛事訖、各取布施、賴範追加座、東、不取布施出了、雜人雲客諸大夫可守位次云々、此事極不便、然而參入之後、不可背御命旨歟、光家取布施云々、大膳時綱不存此儀由、構之退出云々、分別諸大夫歟、地下公達又與雲客有等差、其公達又有勝劣、太難分別事也、基定朝臣泰光等頗宜人也、雲客又只保季光家二人也、依事難分、予不加制止令取了、但於爲家者、如此事惣不令交衆、太無益、事了即退出、法脫之同並雨、出入取、今夜行幸本宮、少將可供奉、中宮行啓、笠、幾雨、前後雨止、予獻出車、明日最勝講始、上皇御水無瀬殿云々、女房所參、只八條宮爲事、馬長事有制、御點譴責云々、雖有水火責、力不及、國通、雅經、範康、清經、資賴云々、爲家在此列、未知其由、雖人聲君乎、入陶朱之撰、後聞、行幸供奉人、博陸參給、左右大將、大納言通光、師經、中納言定通、忠信、光親、有雅、參議賴平、公氏、親定、通方、左將國通、忠

定、資平、公俊、家行、通時、公棟、家兼、爲家、右公雅、家嗣、家信、範茂、宗平、內侍所、基保、師季、諸衛保效、家季參出、御御輿之間、左大將殿以下警蹕、右大將家多立、不見之令立定御之間、問警蹕訖歟由、聊謦屈云云、行啓供奉、隆衡、實宣卿、權大夫殿、左將親通、右將敦通、出車、權大夫殿、實氏卿、三兩、左衛門督局、少將親平、不見其裝束、不供奉行啓、寄其車迎送云々、大納言局光親卿金吾、扶持、是近日推幸人二人也、以兩人夜々被押入御臥內、御寢以後、或時御覽付令逃其所御云々、時儀每事如此、每夜自院御方以人被伺見、雖無其實、此女房等在御傍內、稱中叶御意云々、勝事也、廿五日、天晴、最勝講始、出居堂童子今日闕云々、爲家令申障不令參召、勤堂童子也、五位藏人資賴勤仕之日、相對可勤下薦、又雖非可然人、御乳母子若冠等、可相比之由、密々教訓、而以經長可爲下薦由、粗有沙汰云々、予云、堂童子重役也、有失錯可無由、近代已希也、不可勤由可觸藏人由示之了、日野勘修寺雖似無差別、祖父追傳戎人跡、父爲年來非人、母實尼而生子、裴

疊踏弑之、其後嫁爲雅生經長、如此事親々無由者也、
仍令辭退了、於光家者雖每日可勤仕由教訓了、當時職
事非職壯年之輩、皆有賢慮、常改易妻妾、珍重事多、
入夜參左大臣殿、今夜三條坊門、依明日御參內也見參申日來事等、仰
云、來月御忌日八講申事由、於蓮花心院可修由存之、
寺家御忌日參會往反之間、極熱、自他難堪之故也者、
申尤可然由、廿六日幸家御忌日被沙汰侍了、其事了、可始此八講、廿七日結願也、院沙汰、於安樂壽院一日入講有之云
云、今日最勝講、博陸、左內丞相、大納言通光、師經、中
納言定通、已上著座、公宣、光親、參議顯俊、三位高通、通方、
基嗣、出居兼季、國通、清信、公雅、家信、清信夕座不著、公雅朝退參
堂童子宗宣、兼隆、成長、光家、博陸、夕座說法之間退
出、自小板敷下給、出居家信之外不動其身、師經卿云、
博陸退下之時、出居起座例也者、此事如何、予申云、多
年所見只必勳座、不見起例、是若閑院程遠之故歟、於
予等は爲御共立奔出、是別儀也、外人不見其事、於勳
座は、公卿之外皆勳座流例也、夜前行幸、天皇御南殿、
僅昇出御輿之間、賢所入御、御輿依此事、於中門內庭

逗留、鈴奏、自其傍趕出、次將不得出日花門、勝事之中
勝事也、資賴被召息狀云々、是只末世之令然耳、講以前
賑給定了云々、深更退出、

廿六日、天晴、午時內豎來告可早參由、即參內、乘毛車、暫
在宮殿上、少時左大臣殿御參、扈從參殿上、此間大納
言殿、顯家卿在座、予加其末、藤大納言師經、參入、立座
末掛、脫沓經座未被著奧、頭辨入無名門、經小庭昇女
官戶、還出入神仙門、昇小板敷、申可始由歟、還出無名
門召辨歟、經高朝臣參小板敷、還出仰鐘了、頭辨催出
居云々、自高遣戶方、經小庭神仙門、柱東、昇青鎖門著
座、忠定朝臣、雅清朝臣、家兼朝臣、親通、此間少將通
時朝臣、入無名門加著、地下、親通更出無名門了、座換次
卿相著座、左府令參給之間、顯家平伏、予勳座、上薦
進之間、賴平卿加著、自西第二間著座、五人之外無座、予還座殿
上本座、公宣卿參入著座、問御前人數、又揖立進寄、
顯家退出、來座揖了、示可早出由、即退出、一身睡眠、
堂童子左方知長、今一人不分明、右方經兼、光俊、按藤大、夫云々、勤了

退出之後、經兼昇小板敷長押、向東座、見物歟、漸良久雖尾籠之至、頗似無禮、藏人、行幸、永光在小板敷前、予招寄問云、彼は殿上人也、なんぞ落屈、無所答、予云、殿上人ならば、可被追御障子前小臺盤下、非殿上人可坐之所、太不當也、聞此音、愁退之間、見之、其東光俊同長押懸尻坐、予不知此事、見之頗後悔、稚少有父之人也、尤可見忍其過、故似咎、極以悔思、但隨人不覺、當時無禮、且是依失世間之禮儀所示也、人定處惡氣歟、少時按察參入、又源大納言參入之後、朝座訖、聞打響音、經兼奔昇欲出上戸、爲出居被咳止、此男有若亡歟、猶劣恐兄恐父歟、公卿自下蔭退、賴平卿經與座不安坐、即自座未下沓脫、東行著沓退出、頗不尋常路也、公宣卿經與座末、大納言殿經通光卿後、著本座給、予又動座、兩度雖離堪、此禮後存、藤大納言、與各復座了、藏人等催水、次第居之、經兼居大臣御前、以下六位役之、持通折敷、予在末不向臺盤、藏人等云、無臺盤所、乍折敷可居之、削水不待居訖食之、食了所居様々也、不知可否、師經、公宣、光親卿置臺

盤下差入土器、予心中愚案、居臺盤物食了、皆返置臺盤、何限削水指入下乎、又立箸、時箸在器內、拔箸之時在器外、食訖之後箸置折敷上、今以折敷爲臺盤代、予器同返置其上、識者定加難歟、次頭辨申事由儀一如前、召辨仰鐘、又同前、次第著座、藤大納言不著、最末及按察、各著座之儀、藤大納言揖起、被出下戸、次予揖退、著沓下揖、出無名門、入明義門退出、於宮御方屏外和德門歟、逢定通卿、即退出、日猶高、少時少將著直衣參內、御拘云々、予參內大臣殿、見參移漏、深更歸座、事次被仰削水事、昨日博陸大臣二人、左內、通光、通方卿、食了返置臺盤上、箸在器後、師經、公宣、光親、顯俊卿等指入臺盤下、箸在器內、此事不知其說、有故實歟、予所案符合賢慮、爲面目、予申云、取祿僧經講師、者入南第二間歟、仰可然、又凡僧祿、公卿或取之、或不取、說々如何、仰云、可然人少少有取例、俊實通俊等卿自余猶有之、慥不覺、不取ハ尋常多シ、取ハ少々有之歟、多申承世上事等、又申往事等、

廿七日、天晴、朝微雨、未後大風、少將令參出居、青朽葉、半臂、下襲、青淡平緒、新調細太刀、莊親孝花、編綴、白壁、花機ヲ黄ニア

於堂童子者、可辭由合之了、未時向中將被立入、

乍驚謁談、最勝講事也、全無指事歟、粗答之謝返、今朝

三條猪隈邊山僧神人等、責出舉之利狼藉、家主又語、

惡僧及闖亂殺害云々、其凶徒等奔新院御所北門前之

間、爲武者所被擄留云々、頗以無由歟、酉刻少將退出

云、朝座內大臣殿、大納言殿、忠信卿、實宣卿、有雅卿、

公氏卿、夕座公氏卿不座、家良卿著座、但依座狹、無程

立了、出居朝座清信、忠定、雅清、家信著之、公俊朝臣、範茂朝臣、

敦通、夕座清定、敦通不坐、家信、依仰事爲家著座、忠定朝臣

夕座著座、堂童子退間退出、堂童子、左家季、經長、右資隆、家光云々、

即著直衣歸參了、語云、頭辨云、最勝講ニ青下襲さる人

も見えず、院仰云、汝人のすべき事ヲ必する物也、而

平緒も又様有げ也者云々、又或人云、件辨毎日注進

此間雜事云々、頭辨今日著唐裝束云々、建久元年五節

日、故大納言宗賴卿貫首之時著之、語予云、初後浮文、

第二第四日堅文、五節日唐裝束常說也、今日依著唐裝束、昨日著唐裝束、是又殊說也、在今年用此儀歟、尤宜宗宣裝束同昨日云々、博陸今日著座給、進退之間、出居皆悉動座云々、是先々所見之儀也、

廿八日、雨間降、少將先令參、昨日、午時參內、微雨、右大

將、二位中納言、出房、四條云々、右宰相中將公氏、三

位侍從等在殿上云々、實宣卿相共參著、實宣、公氏卿

外皆外座、此間右大將喚寄隨身、凡在校書殿北砌、被喚入小庭、頗不見習、令

喚藏人、不知、隨身雖還去、藏人不來、有能卿來著奥座、

著奥人於座末脊脫下、掛昇脫着懸膝、座末更立、經下跪、未入奥座揖也、有能卿突膝座廻、他人只入奥向南坐也、證誠一人、

堂童子家季、等遲參云々、良久師開下戸入、經奥後著座

上、俄而頭辨出神仙門、經小庭、依雨止、經庭中曳尻、參御所、入女官戸、還

出小板敷并長押、依納言歟、向西坐、仰可始由、出無名門召

辨歟、經高朝臣同昇小板敷長押、同相向坐、承鐘還出令

槌鐘、頭辨頻催出居云々、頻有尋傍官音、後見之、資平中將參入暫立去云々、尋來、公雅朝臣、資平朝臣、薄物二藍下襲、槌螺鈿

之尤可然、云々、尋來、公雅朝臣、資平朝臣、薄物二藍下襲、槌螺鈿

劔、紺地平緒、壯年好事、出居帶蒔繪螺鈿之由、故土御

門內大臣說聞之、於今日は極螺釧也、雅清朝臣、已上三人、通時朝臣、敦通等入無名門、聞鐘聲、大將隨身等列居校書殿簷下、不知其由、塞出居之路歟、今日土混、可經簷下歟、出居著了、大將問頭辨、立無門外、かう人候歟、頭辨諾、大將掛起座、公氏卿勳座、隨身進入列居沓脫下、番長及懸て引直下雙尻、二位中納言後也、未見堂上据隨身觸手之儀、次師經與座、次第著座、及實宣卿、公氏卿已下、在殿上之間、堂童子職事等頻往返小庭、雨不下、經高、棟基、家光等曳裾、良久顯俊卿參著、兩侍從在殿末宗宣、資家等取裾、宗宣驚目、良久顯俊卿參著、間、無其所入、論議始後、九條大納言殿開下戶、自西門入給、予界外座、勳座、著與給、移時刻論議了、各退下、藏人居削水、自西門入給、予界外座、上、返折敷、三位三人在臺盤外、高通卿前居席、今日居了後、上、有能予前乍拆敷居之、是二頭之外無折敷歟、蔭以下下箸、顯俊卿食了、指入臺盤下、自餘在臺盤上、上蔭達不被取上、如食飯乍居食之、又各過半被殘之、削水不殘、是故實云々、予如一昨日置折敷、箸在器外、次頭辨權辨等如前往反、出居、伊時朝臣爲上蔭、自餘如前、師經、實宣卿不著、大納言殿、公氏卿相替、各著座了後、師經立出下戶了、

建保元年五月

實宣卿退出、顯俊卿已下數刻言談、著褐襖袴男、負壺不持弓、入小庭巡見諸人沓、還去、又來見沓、或手取之見、又還出、人々奇驚、又來見之還去、此間高通卿予等同時退出、彼卿於南殿、與頭中將言談、予參宮御方、謁女房、御上御局不參女房也、即退出、堂童子、左方家季、資俊、右方資家、家光云々、少將云、朝座、出居著座了即退出、敦經上、庄、如例布衣在月華門外、與資平中將問答、件男本自彼中、時不放身、如親、予不參之前、大將召隨身、令喚藏人、隨身昇女官戶小階、順目呵叱、在渡殿殿上人云、藏人參禮、再三召之、爲家云、藏人不候、聞之還去云々、世間儀式逐日如此、公經珍事、新儀不可勝計、蓮花門院執行書狀裏三通、課無責有之外無他、廿九日、晦、通夜甚雨、已後休、已時少將令參內、今日二、藍下殿、午時參內、事已欲始由云々、忠行卿徘徊御後邊、圓經律師來、中納言談、博陸自月華門參上給云々、忠行相共參殿上、二位中納言、三位中將基嗣卿逼西第二間西柱被坐、忠行便加其上、第二間頗、無便宜歟、予於座末揖、昇脫沓懸

二百八十一

膝、昇立入奥座、向南座揖、引直裾、俄而有能卿來入西
第三間、坐忠行上、是大納言座席、太見苦、此間九條大納言殿出下

戶、經奥座著給云々、予動座、座定了、殿下入上戶著

座上給、三位以下平伏、予同、此間公氏卿揖、脫沓之間

諸人平伏、暫遲留、御座定後、經座末著予上、次頭辨蒙

氣色、昇小板敷候、蒙仰參御所、退出中可始由退下、殿

下召家宣云々、參小板敷、仰云、鐘、即退出、槌鐘、出居

著座、國通朝臣、伊時朝臣、資家朝臣、公俊朝臣、親通

堂童子云々、次殿下目下藤丁掛給之間、宰相以下平伏、進上

戶下給之間、各安坐、次大納言立給、予聊動座、二位

中納言、宰相中將有能卿等著座、三位中將被坐末座、

凡卑上薦等強加座上、諍著座、太見苦歟、於予は、若當

著座は可相讓如此人也、暫而定通卿參入、於座末間揖

昇、下イ乍立昇長押、經予後不坐、而即進著御前座、此間中

宮權大夫殿參給、不奉見之間、出小庭給、太雖無禮、不

可下小庭之間、不能致禮、著奥座給、予云、何御著座不

候乎、可令進給、忠行卿又遙目有能令立、暫不得心、漸

知其事、起座來之間、經奥座、太見苦、權大夫殿即著座

給之間、藤大納言參入、又入奥著座、公氏卿立座歸來、

經奥、大納言著座、其後顯俊卿參入、件卿立沓脫上揖、是思失禮、公奇、次右

府參入、各平伏、直進出上戶被著御前座、次別當參入、

著奥、事了僧退下、諸卿退下、博陸御座定、居削氷、博

陸、棟基、右府、經兼、皆作折敷居之、納言以下六位居之、取折敷歸、不居

訖各食之、今日顯俊卿指入、盤下、頭辨申事由如前、辨又同前、出居

著座、忠定、兼季、、爲家、親通、兼季、又加

著云々、公卿著座、博陸、右府、各平伏、兩大納言、二位、土

御門兩中納言也、太理以下在殿上、夕座出居昇之間、家

衡卿參入、加著中將上、堂童子賦花筥了、頭中將加出

居座、堂童子收花筥了、頭中將進仰度者、不見其儀、先是爲家

起座退出了、早速如何、頭中將還著出居座、少時退座了、論

儀了行香、別當、中宮權大夫殿解劔、置座前參進、出居

皆悉起座、博陸、大臣、催過上戶給、依程還不平伏、行

香了、兩卿還本座帶劔、二位中納言於小板敷、召寄保

季、帶劔被著殿上、自餘不出御前、次右大臣起座、被立

上戸前、召寄祿、棟基取祿、進寄上戸内、相府向長跪搦笏、手長跪戸内、猶喚下手長令出戸外、取祿立進寄、
不見、次第取之、大略、九條大納言殿跪搦笏、立取祿給、
其後、自餘皆同、右府、二位中納言、同出戸外、
手長又立、自餘皆同、右府、二位中納言、同出戸外、
勢風獻之、跪搦笏被取祿、別當同之、經奥、中宮權大夫殿跪戸内、
東面、搦笏取祿給、以下於戸内取之、有能任意往反與
座、尤奇、僧綱未及忠行、凡僧請師祿家衡取之、予不預
一役、各歸來復座、此次、大納言殿經奥座出下戸給、少
時予揖起座之間、大納言殿招寄命云、今日替人作法等
少々有之、人定惡歟、是隨分父祖一門之所用之說也、
跪指笏立取祿、置祿右廻退、
他人左廻、不得意、行香之時、他人經
簀子居疊上、我進自前居板、二位中納言同此說、
從左、此等事也者、此間殿上人等取祿、不委見、爲家著直衣奔
融西對方、予云、盍取祿、如此役偏弄置、太無謂歟也、
依可有御鞠忿改云々、
取事只、鞠也、右大臣復殿上座、博陸經
下戸參御所給、此間公氏、顯俊、有能、忠行等在渡殿、
御殿已直御裝束、上鬼間格子、
口米、下之、博陸又入日御座

給、無路、各不出之間、又參御所給、此間予經日御座
逐電退出、
右府猶在殿上、上戸、頗無骨、歸座、親通引花宮之後、更渡出居
座、不帶劔、堂童子中間在出居座、可謂奇異、忠行依緣
者、兩說歟由、粗陳衆中、片腹痛識者歟、先年所詮也、
著堂童子座了、又爲經兼下薦、太見苦、出居將職事等
不隨人後、職事不論左右方、必勤上薦、出居必勤右方
上薦、出居有二人者非此限、未聞如經兼者、立次將上
儀、惣以不足言、兼季朝臣於南殿御後問予云、地下將
入無名門歟、予云、先年所聞及如此、通具卿又澁此由
云々、答云、一日無所存、只經小庭了、是非習說云々、
今日經無名門邊、則勿憚改此儀、宜近代橫謀之輩、以
失禮稱家說、尤奇恠事也、忠行兩說甚見苦、取僧綱講
師祿路、有說々云々、南第二間尋常公卿路也、仍用之、
上臈僧綱勿論自座前置之、東西行座也、右廻經本路出、下臈在南北行座、公廻西、猶當二間座、僧祿同前
儀、其末并凡僧等、當一間取伴祿人、又有說々、猶入
二間置之、歸時出一間、是一說、又入時同入一間置之、
又一說也、雖此座祿、猶出入庇二間母屋一間、又有例云

云、此儀尤不甘心歟、入二間人、東西行僧與南北行僧之間ヲ融置之、出一間也、又說、入庇二間入母屋一間置之、出自同間云々、予所存、僧座當二間は出入二間、當一間は出入一間、有便宜歟、又指笏取祿、所著座人上戸前、在殿上座人上戸内、此說可用之、非英華人、不經貫首往反與座、惣無此儀、可然之人猶有使用此路時、雖下薦經、頭人在座は相觸通之也、後日內大臣殿仰云、我又跪指笏立取祿、是故殿御教訓也者、又後日申左大臣殿、仰云、取僧綱人、不論其北面東面僧、入二間置之、北面僧右廻、東面僧左廻、還出一間、置東面僧前歟、經其兩座間可歸、是知息院殿、中納言中將時、經給路也、在殿上公卿、跪御椅子前取祿、是資房說云々、行香經簀子進自座前、是舊兩說也、非今始事、跪指笏取祿、是又一說也者、通路事令聞此事、已是貴人御作法云々、可用之歟、

○六月

一日、天晴、少將兩度參内、下官念誦不出行、

二日、天晴、參陰明門院、隆賴爲季改名、來談、退出參新院、平知親言談、此御方馬長奉行、悉對捍無其人、公雅、雅清、保季、家兼、顯平云々、來八日七條院還御、隆平、成家、公賴卿領狀云々、又參承明門院、申時許歸廬、

三日、自曉漏雨降、未時止、傳聞、少將明日騎馬可向雲林院方云々、所相伴、少將親通、藏人康光等云々、可蒞草云々、於禁裡被飼御馬、殊爲被飼美草、差專使被蒞云々、古今未聞如此事、或堀前裁尋虫、取小鳥、先蹤太多、以雲客被蒞馬草、若及外聞は人口如何、以衛士令蒞云々、是勅定云々、蒞薨出時、臣子與往、末代幸人出自蛄廬、曾不隨庭訓、只慙辨是非、人聞此事、依恐敬慮不能制止、是又康光等之所申行歟、抑又入權門領之及喧嘩歟、

四日、終日陰、傳聞、康光風病發、蒞薨不出云々、終日偃臥、

五日、大雨、未後天晴、間雨猶降、入夜讃岐國司來臨、此間於陰明門院密々可遂歌合、可接其事由、少年等結

構之、予答云、貴所事不可遁避、但如此交衆、衰老者於事難遁傍難、大藏卿、宮內卿、接其座歟、尤可豫參、其間事重爲示合云々、大藏所勢、宮內又長病、兩人大略難出來由也、予云、大藏卿非殊大事云々、若有減氣者、被延其程乎、其病減愈程久者、宮內卿又於有指事歟、先々扶出仕人也、狂被相語乎者、承諾退歸、

六日、天晴、今朝少將并藏人康光、清定等向白河方云云、但以堀前裁爲名云々、京中乘車、於河東各乘寮御馬、令衛士堀之、又蒞之云々、午時許歸參內、入夜歸來、近日自院被進御書了、必尋爲家所令取之由、有仰事、而兩度不參會云々、尤爲恐、今日取進了、

七日、天晴、未後陰、入夜雨降、申終許神輿入給、鼓聲喧々、或人消息云、今度河陽亦蹴鞠與狩獵無他事云云、先年神泉麋鹿被歸故山、世以稱善政、去年春召當世才卿、被問理亂安危之基、人又以爲楚莊王已任伍舉、齊威王已用卽墨大夫、今年又新儀多涌出超往年歟、

八日、自夜雨降、已後如霰、未時暴風加、酉時天忽晴、七條院自南山還御云々、向納言借轍、兵部卿又被借雨具等雜物、隆範朝臣借馬、入夜後入御稻荷、夜半許還御七條殿云々、今夕資隆示送云、無令事、相國出京之次被聞此事、下官家隆朝臣等參會事尤嚴重、天聽有恐、可止由有命云々、欣悅無極、冥加也云々、古老猶不似少年人歟、

九日、天晴、午時許參內大臣殿、見參之後御出、立秋門院退出、參承明門院、清長卿參會、依小瘡病、百日許籠居、今日初出行云々、申時許退出、雷鳴、吉富庄權門使蒞取麥云々、此庄其境近秦、今趙政立而欲吞天下、寧爲人力所及乎、凶所豎命、四面受敵、是又宿運耳、

十日、天晴、午時許參左大臣殿、長兼、爲長卿前後參會、多聞文談、不遑記、又仰云、妙香院法印師、入滅、去三依輕服不可參仗儀由申了、十三日行幸以後、於高陽院殿可有議云々、前納言相共、安樂寺事問爲長卿、委聞其事、依非其身、日來不知此事、今聞委旨、彌悲末

世之無法耳、昏黑退出、

十一日、天晴、左大臣殿、行長奉書相副院宣、家行、小森

保有相撲、其名小藤太、早可召進云々、不日可召進由申了、知

行小所、有惡來、是又物惡令然歟、若有依遣歟、如何、

十二日、天晴、昏黑參左大臣殿見參、仰云、除服可參仗

議由被仰下、無日次、又未參仗議、而初度下臈奉行事、

頗憚恐、是又非可憚事、只申所勞由了、顯俊卿頓病、無宰相云々、曉鐘退出、

十三日、自朝微雨、夕止、行幸高陽院殿之後、可有仗議云々、兩度催、申可參由了、申時許少將還來云、供奉

公卿十九人、三位十餘人云々、散位十餘人、太左道、如

此事沙汰出來之後、自他太無由、仍書捨文、付少將送頭

中將、奉行、所勞由也、後聞備叙、行幸早速云々、秉燭以前

少將歸參、戌終歸來、供奉賢所、兼被仰、但依無人、出御之

間、付聚內侍、少將內侍、御劔、辨內侍、公雅朝臣付之、關白不參

給、頭中將候御裾、右將兼季朝臣、公雅、雅清、

、時賢、敦通、公卿右大將、源大納言、通光、中納言

隆衡、實宣、光親、有雅、二位極大、參議公氏、三位基忠、

公賴、高通、成家、親定、清長、家衡、實親、通方、基嗣、已

上六人、散三位十一人、右將伊時、資家、忠定、公俊、

家行、通時、公棟、定親、家兼、基保、親通、劔璽役二位

中將殿云々、內侍所職事棟基、左將爲家、右將師季、

今夜適供奉神事、尤神妙、出御入御無違例、入御之後即退出、仗議未

始、公氏卿一人可讀書云々、殊勝聰敏歟、若付點歟、

雖然爭不讀上乎、冥加歟、不詳歟、可謂天下不思議、或

女房密語云、予叙上階、偏勤公事、甚叶叙慮、常被仰此

事、或權勢恐有其賞、以賂親近、散三位奉公不可劣由

示含、因茲未戴冠之輩、涌出勤公事、

十四日、天晴、昏雨、深更休止、著束帶先參中宮、謁女房

退出、參院、番、依陣中也、頭辨語云、終夜間仗議、在壁

外、公氏卿讀兩外記勘文之間、右府云、載前讀勘文條

條、不可重讀、拔其不載文可讀者、此事尤有煩歟、彌

經程云々、誠以有牢籠歟、善惡只逢無人之時、勤此役、

過後涯分耳、爲長卿^在、又嗟歎之、馬長參集、如例可被渡云々、入東北門、入東中門、引廻御前、出御厩北小戸、太袂、成長行之、上下競見、事雖口人々所爲、頗有不達、於北對東妻粗伺見、尊長法印、實信朝臣以下、上北面等見之、卅餘騎云々、雖非重事、各所爲區分、差細樣樣、大略以例、差細二、如公卿馬張之、侍從通平、具實頭中將實時等過半如此、或上手用差細、二筋、下手用引指繩、一筋、相國兩孫、中將家嗣朝臣、兵衛佐忠嗣、中將資平朝臣、按察大夫等如此、或依例指繩一具引分之、以一筋引張、如經、國通朝臣以下三四人如此、或差細乍付上之、以引差細左右張之、劔又三樣、或馬長帶下、隨身劔、^{大略如此、家嗣朝臣已下皆右之、}或令帶自劔、隨身皆帶劔、^{實時等、}或童不帶劔、隨身帶之、基保等一兩、或伴風流、或伴花、不迫記、^{陰明、新院、勝、明院内々多不委問、}其後猿樂少々參入、亂舞退山云々、人々分散之後參内、謁禮部歸家、江州麥秋非法事、仲重申狀被送遺云々、只暴秦之心歟、今日清範朝臣密談云、相參之次、委奏先日示付之趣、仰云、あ

はれ宰相やと、人之運不思議事也、彼于今不居其職、而如此懇望者、先無他勅語、予聞之、彌知運命之拙、慟哭而有餘、是誰力乎、嗟乎已矣、禮部女房、又吐詞、褒譽男女兩人心操、左右雖悅耳、身上日夜逼迫、何爲送餘生哉、入夜凌雨歸參、布衣、忠行卿在子夜名謁、予先令兼信^{左馬、}稱之、次忠行、予、公雅、隆仲、實信以下、今夜無骨、近臣仍成恐、以兼信爲先也、後聞、新大納言今夜拜賀、侍從具定一人扈從云々、

十五日、天晴、向亞相亭、述愁緒之趣、心閑拾謁、次參相門、此間御不例云々、以人被仰重惱由、與親房朝臣言談、歸廬、乘月參内、公卿散位員數過一昨日云々、今夜殷富門院入御院御方、主上御對面云々、及深更、中將實時朝臣帶弓箭、一身往反、諸人奇之、去春行幸還御思渡歟、太不便、數刻雖無召仰、遂不解之、月漸停午、出御南殿、^{博陸、}右將渡、不委見、^{公卿上殿猶以美得滿庭上、}大納言師經卿已下列立、大納言殿、中納言公宣、忠信、實宣、光親、有雅、參議賴平、公氏、三位高通、公賴、成家、有能、

家衡、家良、實親、予、通方、基嗣卿云々、半分已下斜折、下薦向南立、家良、實親卿等進上薦前三許尺、西向一揖、傍行退加列、其心、實親立定了、予直立其下揖、通方卿已下又如此、圓司奏、鈴奏、願平寄御輿、次將不委見、左資家、忠定、通時、公棟、定親、家兼、右公雅已下、敘通以上太多、爲家改裝束、晚景歸參、臨期不見、予問知長、答云、稱病發由退出云々、父子不相知、未置御劔以前、上薦氣色下薦、可前陣由有命、厭人數歎、予掛了出、冷泉辻有女房見物事、立損、三有他事等、入御之儀如例、賴平卿劔輿云々、退御輿之間、御輿不出中門控庭上、在公卿末、予通方卿等奇問、御輿長等云、可安宜陽殿、故不出云々、此事太無謂、御輿雖安宜陽殿、是舊儀也、何控公卿之傍乎、雖示其由不承引、鈴奏了、資家問名、謁退出了、近邊人々無名謁、氣色上薦、皆退入之間、不待次第名謁揖退、公卿競奔、青侍雜色雜人扈從、或東或北、太以狼藉、予北行入軒廊二間、參議以上如此、之間、向東人々又還競奔、或一間或三間、或內庭、太以狼藉、

從者逼滿、實親卿小隨身、假隨身、衛府長等圍遶、兵部卿侍奔走驚目、予出宣仁青鎖門、改履即退出、通時朝臣立止會釋、逐電歸家、少將腹痛更發、有痢氣云々、月清明、

十六日、天晴、少將依腹痛不參內、昨日申時許又有冷氣、身聊溫云々、若瘡病之始歟、

十七日、天晴、未時雷鳴、昏大雨、即止、可止多賀社新儀由下文、自二品御許被送遣、又有芳意、異他御消息、他筆、面目已足、生涯又安堵、臨時而感悅千廻、不知所謝由申達了、是誠存外佛天之助歟、親嚴法印過談、示無爲悅了、夕靜快律師來談、

十八日、天晴、陰雨濕、新法眼實曉、過談、少將雖參內、依腹痛猶不快、賜暇退出、今夜方違、宿本所也、心神太惱、是咳病歟、

十九日、朝天雨止、日者雖見陽景、雲雨更不止、已後又雨如注、通夜心神殊惱、

廿日、朝天漸晴、辰後太陽鮮、午後又陰、今日修復井

云々、貧屋井塞、不及修造、遂旬月、汲冷泉而井云々、下官無處于成敗、不知家途事、今日雜人共、稱日次宜由相營云々、

廿一日、天晴、心神殊惱如昨日、雖犯土依旅所無術、昨今不他行、嵯峨人々今朝歸九條、五十日結緣作善結願訖云々、少將今日參內云々、夜深歸、

廿二日、天晴、病氣同前、頭殊痛、少將出仕復例云々、靜快律師來談、今年無盛夏炎暑、今日始暑、猶不似例年、

廿三日、天晴、病氣猶同、井終功云々、令修土已祭、清範朝臣奉書云、松尾歌合三首題^{七月廿八日}、可詠進云々、老

風情恐連歌太難堪、

廿四日、天晴、病氣猶同、昨今炎暑難堪、少將宿侍、^番云、

廿五日、天晴、風吹、咳病增氣、心神殊惱、

廿六日、天間陰、辰後雨時々降、辰終許參蓮華心院、相具少將、雖不可然者束帶、^{夜前強行水、心神頗宜、}木工頭親長爲院司參入、行御佛

事云々、平三位在座、親長云、儲堂童子座之處、以殿上人爲堂童子者、公卿可被取布施、而無手長人、依無其人不及催、予示合平三位云、如此諸寺御佛事、殿上人堂童子、公卿布施取惣無之、強雖不可有難、於此御堂は本願御沙汰殊丁寧、舊臣女房等大略參入、猶以如在之禮、各休懷舊之思、何事在哉、手長役左大臣殿有御參云云、其御方諸大夫定祇候歟、何不被借渡乎、如何、親長云、其條又難申請、予參左大臣殿御宿所、即見參、且申此事、仰又兩樣、予申所存了、頗叶御案歟、親長又以仲資朝臣申此間事等、抑御誦經文、院廳、以主典代送藤大納言家之處、稱不存由、不被加署、因茲重遣人相待云々、予即申手長人事、保行基邦當時祇候之由被仰、親長又觸仲資云、五位殿上人不參、只爲家實茂許也、奉行雖可召寄少將、勤仕示由可觸三位者、予喚寄爲家、仰含早可勤由了、最勝講之外、近將堂童子不聞事也、然而予所案、聖靈御忌月之儀、一事以上不可准他事、不知對揚、於無五位は、無異儀可令勤仕由存也、是別儀

也、不可爲例、大臣殿御八講之儀、僧皆參、遲引不便、只可忿始由頻被催、親長只書誦經文、推而加大納言署云々、即事始、親長相觸平三位、予著座、大臣殿先是令著西座給、請僧遲參、頻被相催加座、御導師圓能昇禮盤、堂童子進、爲家實茂賦徹了、先是兵部卿被參、說法了、兵部卿被取被物、保行手長清季、長清、隆範、爲家、實茂等取布施、長清二反、少將即退出了、次改堂莊嚴、僧座左右立高座、事了仲資朝臣來觸、三人又著座、初一座了、有御經供養、布施平三位、先是退座、予取被物、範宗朝臣取裏物、予即退出、依窮屈也、明日結願又可參、遠路雖無術、相觸老骨、依思舊恩也、堂童子、諸大夫也、保行基邦、廿七日、朝天漸晴、午時參蓮華心院、東帶、三座論義已訖云々、長兼、成家、光盛卿著座、皆直衣、予加其末、第四座即始、堂童子、國時基邦、論義訖各起座、次第取布施、向別被物公卿取之、自餘殿上人諸大夫各組交取之、假令公卿一人、殿上人二人、諸大夫二人也、四人取了後、四位取被物、自餘同前、被物

一重單衣裏物絹一懸子童裝束卷裹之、範宗朝臣、長清朝臣、隆範朝臣、經高朝臣、基定朝臣、實茂、知國、親國于、時、基邦等也、事訖乍立謁女房、依大臣殿召見參、少將退出之次、向長尾尾上宅、即歸京、

廿八日、天晴、今日上皇還御、但三條坊門泉殿、未時許入御云

云、女房退出、入夜參、東方有火、法勝寺東花園邊云々、即滅了、無

程名謁退出、來月五日法勝寺御幸云々、關東事人々浮

說、猶不靜云々、

廿九日、少將自院有召、即馳參、給御書參內、進御返

事、歸參內云々、法印被來談、夜前二位中將基教卿薨、

去比聊病惱、滅氣之後經十ヶ日許頓滅云々、禪閣悲觀

無物取喻云々、又人云、兵衛佐保教妻、國融法印娘、宗行朝臣爲子執婢、妻弟

也、不遂產一昨日逝世、夜前途蓮臺野方云々、以書札

吊法印、紙圖別當混合云々、又以使吊武衛、申假蟄居云々、非近代

之儀、頗有人偏之法、尤可謂穩便、入夜之後異方有光

物、其光偏如炬火、蒼卒不見、其物體只見光明、後聞流星云々、

人云、可有公卿勅使、七月廿五日、大納言師經卿、路頭國又不安歟、

卅日、天晴、小雷鳴、永明門院黃門局來、入夜被如例、

○七月

一日、庚子、天晴、入夜參院、早速名謁訖退出、今日於川崎泉御鞠、只今返御云々、九條人々今日歸本所、夜前參二品御局、依彼命宿、今朝退出、

二日、天晴、早旦左衛門尉某來門前、稱二品御使、對馬起出逢、有書札、披見之處、越中內侍奉書也、爲家依爲奉公者、調賜裝束之由也、納長賴、義生予自取之、招請御使、辭屈不昇、即自授請文歸入、直衣一具之外、又被加唐絹直衣奴袴、先人語云、保延之比、調唐絹直衣奴袴賜、夙夜近臣雖危惡各著之云々、予事次此事語清範朝臣、達天聰歟、即驚畏之由示彼朝臣、只今參入之由達之間、御幸已出御了云々、仍不參狐坂云々、頭中將催來十三日祈年殺奉幣使、領狀了、入夜參院、番、付掌侍授申今朝恩賜、我有御尋云々、即申入之、少時名謁訖、忠行卿相共廻二品御局車寄、又示付其事女房、即退出、

三日、天晴、午時參院、爲長卿參、頭辨讀貞觀政要、此間出御云々、仲家持硯、清範相共引李部參御前、白河陽、此事始云、俄而左中辨參入云、今日法勝寺八講發願、領狀公卿五人、定通卿、發心、地、高通卿、脚病、親定卿、若官御共依、無人參坊城、三人際今朝出來之間、奏其由、以女房書被仰親定卿、又被仰按察、親定卿參、猶極難叶歟、參仕尤宜歟、予雖爲奉幣使、依期日遠早可參由、承諾退出、即求雜色改裝束、未時參、按察車在前、同時參入、公氏公賴卿兼著堂中座、少時親定卿參、昇乾階、來加、相待本上卿、藤大納言師經、之間、移時刻、諸人窮屈太難堪、申刻適參入、昇乾階自簀子被加座上、先言談人々極、忿思歟、之後、適召召使、召使稱唯參、仰云、外記召七、召使召外記、外記在北方樹陰、又良久不參、遲怠無心事太多、僅出來、被問堂童子事等歟、不聞之、外記唯退、左中辨進參坐上卿前、渡座召口仰鐘、僧等起座、出後戶經簀子更著座、次第如例、堂童子左右各一人、邦季有資云々、朝座了行香、辨進中、如初、上卿以下次第各出座後、自簀子進坐於簀子南端作輪、又北端同前、

四字悉分註

侍忠康忠弘猶子初參藏人所、所衆等推而農澤云々

還坐返輪了、予直退出、窮屈難堪、動熱無爲方、俗水僅休息、予參院之間、上北面雖、少將召由頻奔走、仍可著

參由云過、遺力束帶參入、予退出之後給御書、參內歸參、進

御返事、歸來未參彼寺前也、又著直衣參內云々、

四日、天晴、早旦少將參內、夕來云、叶、近日和歌題五許

可進者、題者事本自不堪、不當其仁、常有此仰事、定又

不叶御意歟、且有恐、

五日、天晴、法勝寺御幸云々、內女房見物之料被召少

將軍云々、未時許開前陣騎馬由、出大炊御門見物、鳥丸北、二

條東、洞院北、大炊御門東云々六位重經、殿上人治部輔子、任雅廣通、資隆、

家季、資宗、師季、敦通、賴資、資經、家兼朝臣、親忠朝臣、定

親、、長清、、通時、、雅清、、家信、、知家

、親平、取御公雅、、公長朝臣、公卿基忠卿、顯俊

卿、有雅、光親卿、忠房、通具、良平、通光卿、御隨

身弱冠御直衣、淺生御指貫忠信卿在御後、北面等如例、路

頭無殊事、一字悉分註哺招醫博士忠元朝臣令見腹、小熱云、雖非可

恐、猶可加療治鹿角、仍雖欲參院不出行、今夜少將青

侍忠康忠弘猶子初參藏人所、所衆等推而農澤云々

六日、天晴、療治事即時有減氣、仍止鹿角了、昏黑參

院、此夕御幸川崎泉云々、少時還御、良久名調、夜半許

忠信、光親、親定卿已下、訖退出、直行九條宿、

七日、天晴、在九條、洗髮始精進、松尾歌台歌送清範朝

臣許了、

八日、天晴陰、入夜大雨、同門在九條、

九日、夜雨止、朝天晴、亥時許大雨、早旦出九條參詣日

吉、入長信宅休息、炎暑遠路雖用與、究屈无方爲、申時

許奉幣、與不登坂、候寶前、入夜雜人狼藉喧々、亥始又

參大宮寶前、雲陰月黑、退下宿所、大雨如沃、雷鳴雨三

聲、

十日、天晴、雨猶降、辰後休、遲明出歸洛、涼風湖水、微

雨隨行、雲過關山之後天快晴、已一點歸蓬、忠元朝臣

來、示減氣由了、今日按察招引內女房、向川崎泉云々、

爲家康光可伴由有沙汰、夜前可候內由雖伺、相容猶可

罷向由、有天氣由重示送之、雖一言遁避、頗叶愚意、

子元來不好衆遊放、只思社稷之奉公、少年賢者雖不隨教訓、密々奏不可罷向由、至于此事太以甘心、入夜騎馬歸來、按察自取平裘可改裝束由示之、仍著共者烏帽著其直垂云々、即又直衣參內由語之、是皆時儀歟、不及加詞、先人命云、我依公能公請、當初向泉、懷遠故師家故也、相儲汗取水干袴著之、遊宴臨昏、各退歸之時、脫弃閑所、著本狩衣等訖、我自少年不著人物者、近年之儀只以改衣裝爲幸、不能加微言者歟、可從漁父之誨耳、十一日、天晴、午時參院、爲長卿云、貞觀政要聞食事、今日可終日、每日午時許、一時候御前讀之、清範依仰令書出之、或一文、或一斷、是又委加點云々、職事頭中將棟基、辨經高、家宣等參入、付按察奏雜事、明後日奉幣、五位人數極少、沙汰喧嘩被付吉上、八幡使太理日日イ五度譴責、別納、各有鬱氣云々、使八幡有雅卿、賀茂顯俊卿、松尾清長卿、平野下官、四位仲資、隆範朝臣等云々、未時退出、今日可御川崎云々、巷說云、秀康搦強盜云々、酉時許靜快律師過談、秀康宅所搦取之犯

人之中、兵部卿家侍進士成清雜色自吉并重法壽忠賢子母彼細妻弟、本在子家生、此于先年違背在彼家云々、阿闍梨等有之由雖風聞、不知子細云々、驚歎不少、依爲非常事不聞得之間、不及問是非、深更在女房局青女等來談此事、兵部卿家偏追捕面縛、其阿闍梨兵部卿夫妻、以女子頻有申旨等、二品不被聞入、其詞云、年來所行皆所聞也、兵部卿何可歎申乎、是即爲其身也者、又被命繼父之由、衆中皆聞云々、今逢斯時預此命、只運拙也、耻而有餘、年來此事可歎息也、今如此、孔父昔不能治閨門此謂耳、末世之法不善事又非無之、有途者不逢如此事歟、疎遠雖非胡越、所生已爲骨肉、天下口遊定在此歟、出仕尤所耻痛也、然而案之、末代只忘耻、況連枝事不可思入、飲食言咲如平常、先賢之所同如此、只忍恩顧耳、十二日、天晴、時々雨降、以傳傳說聞昨日事、已以爲實事云々、以範列爲使、只示送驚承由、不及他詞者歟、更以不足言、未時許爲大夫將監家綱奉行、只今可馳參由仰事、不具雜色、相具青侍前院小侍等、例衆馳參、家綱中女房越

中、内侍奏參入由、還來云、十六日於松尾社可遂歌合由思食、有家家隆三人參向可讀上者、奏畏承了由、但家隆常所勞持之、當時炙治山申由且披露、内侍云、俄召成恐歎、答云、心中周章恐惶、必不可恐存、吉事由何難乎由、戲て即又參、歸來云、刻限各可相計、成恐馳參由申、殊令咲御云々、即退出、觸此由清範朝臣、又召伴朝臣、可催由有仰事云々、予即退出、依骨肉之耻成心府之恐、今天氣之趣殊以爲悅、入夜間、狂僧已獨免云々、本自非可被召取物、非分有此事、被擄取之後、依爲奇恠者、不可恩免由二品被申之、其後兵部以書札必度申請、仍被免云々、始末無性體事歟、近日只如斯、夜深女房忽腹痛更發、太以辛苦、有濕氣、度々反、予依恐神事不能看病、

十三日、天晴、曙後病者聊宜、夜前辰時可參神祇官由有重催、午一點上卿右大將參陣由聞之、爲當日定猶雖不可忿、太理八幡使、先是參内云々、依恐懈怠即參神祇官、

太理同時參入、自案方參入、一時許也、仍先參入、著乾角半帖、三方案、各氣難堪、太理即被來

著、翼角半帖、兩人數刻、或言談或睡眠、右少辨長資裏幣云

云、内侍遲參之由度々催、適參入、新藏人車其軸廣不入門之間、忽以鉏切破門はをたて之由召使語之、太理予等雖不可知頗似珍事、車有寸法歟、不破門穩便之由雖示合、已以前了云々、車入了、事了内侍歸參、辨又退出、後聞、此辨更參内、定可始云々、凡存外炎熱無爲方、申時許左京大夫參入云、以人令伺之處、只今辨爲内覽參殿云々、猶早々雖難堪、依各早參愁所參入也者、參入力人之後又以移時刻、酉刻辨又歸參、次新宰相顯俊參入、昇坤著良、如例狹少失便、次上卿參入著座、西向著云々召召使召辨、又召外記、問答如例、次召内記、伊勢宣命相具著平張座、今日内記相隨、辨不隨、著了之後、辨入此門行向、次第如例歟、上卿還著、内記獻諸神宣命、次第被立使、使各無別事、太理有揖、自餘無揖、但顯俊卿太理進寄之後、直移坐端座、引直裾、又召召使取坤角沓令置座後、八幡使出了、重力恐子上卿氣色揖退、著沓揖進寄如例、予乍向坐出て氣色、頗坐退、揖起又跪、著

咨還向、揖進寄、不揖昇坐受宣命、退立出門外、與辨相揖、依無次官、乍取立幔門內、次官憲俊來授宣命了、出幔門取裾、出郁芳門、次官未練、不出是非詞、頗雖奇恠、是丹後所生備前弟也、依可芳心、只取宣命了乘車、

今日乘車、參社著舞殿座、儲手水、仍洗手、以休令憩、四度拜設宣命、又四度

拜了、付祠官申祝了、還向拍手、予揖起座、退出、日沒

了、暑氣無爲方、終夜辛苦、病者宜、

十四日、天晴、送饗供於嵯峨小堂、又帥殿御瓮等事、

示付後僧等、如去年、入夜參院、番、亥時許名謁了退出、

賴平、忠行、海忠、

十五日、天晴、炎暑難堪、念誦不能丁寧、只以平臥、亭午

月夜出逢門參內、人未參、與左中辨番、閑談、少時奉行

宗宣參、曉鐘之後人々多參集、天明出御南殿、博陸候

給、資家雅清付內侍云々、公卿著靴、次將經敷政門向

日華門、公卿漸進軒廊以北、宜陽壇上、右將渡了、上衆次第

列立、入宜仁宜陽壇上、軒廊內、出二間、中納言忠房、公宣、光親、有雅、參議

公氏、三位基忠、有能、家衡、實親卿、下官列立了、聞司奏、

少納言顯平奏、博陸鳴笏給、寄御輿、次將昇階坐之間、

有雅光親卿自列後退出、上下薦競奔、仍予先陣、二條

東鳥丸南入院御所、三條坊門北鳥丸西、東門、列立殿上屏前、訖光

親卿退列、脫靴著陸履、曳裾立本列、博陸進御輿前給、

家衡卿等跪立定給、又予摺折、立定給同立直、光親卿放列進出、相揖入中門、向南

階立定、揖還出、出御中門二許丈、相揖加本列、博陸

入給、家衡坐、自餘摺折、次御輿入御、公卿轡折、於中門奉昇、廻安

御輿之間、公卿坐地、左將在南右將在北、頗不待心、入御訖、

予先立、即退入逐電、太理同退出、其後列公卿立、各揖退云

云、予即出北門、少將追來、同乘歸、日未出、基忠三位

前驅、被踏馬顛仆、被踏其目血流、逃去云々、申時欲參

院、雜人云、御幸二條泉了、仍參中宮、昏黑退出、入夜

少時來云、只今御腹痛病令發御云々、即歸參、今日著先

日恩賜直衣警固、

十七日、天晴、少將參內、束帶細太刀、弓、又取寄直衣

著改云々、清範朝臣云、歌今參入可賜之由有御氣色、

但清書未訖、申時許可參、申始參入束帶、在院殿上、

側北此間出御云々、公卿以下整固、直衣太多、皆不可
物具

有御鞠、人々廻南面云々、頻尋左近、又參御前之間、

良久猶不書訖云々、日入之後持來、以紙二枚寫
之、如立文、予取之

云、講了可付祠官歟、答云、猶持歸可返上、不可留社

家者、予懷中退出、即乘車馳參、於西院邊及昏黑、共人
忠輝

盛綱、康
功成行、於梅津月除出雲嶺、參社頭、大藏卿東帶、兼在

舞殿座、教盛
掌燈家長衣冠、下逢、相謝著座、相議移著掌燈

下板、對、以神爲文臺、予可讀師
由相讀披即置之、家長讀上、講

師相共詠吟了、家長須臾之間書取之返授、予又懷中各

退出、大府卿赴七條、未終非嶮難云々、予歸四條、未申

失堀切、太以不平、月未及停午歸京、歸參御所、無程爲

清、親定、範朝、忠行云々、依身懼
後稱歎、歌合授清範退出、依

勤熱難堪、浴水休息、

十八日、天晴、傳聞、左中將伊時朝臣妻前內大臣
落風云々、出家爲

尼云々、是近代念佛宗法師原之所爲歟、天下姪女競假

屋形冠從狂僧、已爲流例耳、酉時許召使來云、今夜行

幸可爲秉燭以前者、秉燭以後參入、人々前後參集、月昇

之後出御云々、不見其儀、列立屏前、如入御時、三位中

將等或來此列、實親更赴御與方、或兼在御與方、於兩

宰相中將者役劔振歟、安御與了間、依人多且前陣、予

出北門乘馬、入御本宮、無殊事、公卿濟々、及中門許、

公卿雜色以下雜人百餘人許立列後、無制止之人、朝威

追月追日陵遲如此、上無被仰問、人不見答、大小事只

以狼藉爲先、主殿官人有訴申事云々、立明僅六七人

許、其傍地上皆雜人、宛如夷狄之地、太神宮八幡宮神

人、東夷西戎之聲、徒貪財利、不知諸司之衰弊、人多

聲喧、不見問名謁者、僅見上臈仗弓、愁名謁、即退引入

軒廊、法師童競奔、予內府御共出宣仁門、令參宮御方

給之間、暫徘徊其邊、御退出之間奉送、參御車下、資家

時賢朝臣在御共、今夜供奉人博陸參給、內大臣殿、大

納言通光、中納言忠房、定通、公信、隆衡、光親、有雅、

參議賴平、公氏、三位基忠、公賴、有能、家衡、家良、實

親、通方、基嗣、家良卿庭上曳尻往反、例事也、是

本或夜
陰雜人之中、太無、通光卿經公卿列後加列、定通卿他人皆自前列

立、左將國通、資家、但不供奉行幸、大納官局車寄云々、忠定、公俊、家行、通時、公棟、定親、爲家、親通、右將兼季、公雅、雅清、家信、時賢、龜茂、敦通、家平、職事皆參、少將獻出車云々、今夜依熾盛光法御幸、今日御鞠之間遲參入、

十九日、天晴、午終許自院被召少將、御書御使云々、先是參內了、更送牛車裝束等、雜色一人不見來、只具雜人參入、即給御書歸參、又給御返事歸參、又歸參內裏返車云云、

廿日、天晴、巳時參內大臣殿、見參之間、亞相方有院御書、建仁三年春日詣大臣殿御裝束、委可被注進由有仰事云々、御少年時不覺悟、其日奉行人等之中有御尋、予又所見聞皆忘却、更不覺悟、又仰云、一昨日行幸、通光卿參入、召仰了歟由尋諸人、尤奇者、退出之次、向亞相方心閑謁、中時許歸座、暑氣更難堪、上皇御方違御幸水無瀬殿、仍雖番不參、歸華之後引見恩記、彼日御裝束注付旨等、委注進了、

廿一日、天晴、傳聞、正三位行左近衛權中將藤原朝臣實嗣今朝薨逝、或云頓滅云々、但多年病者也、近年幸人家嫡多滅亡、彼家之愚歟、內外出將相之門、若不相應末代歟、可悲、近日居住所坊門院頓滅給、一條南室町東也、自院賜之、自歲末爲槐門云々、朝自河陽還御、又御幸川崎、御鞠云々、入夜參院、深更名謁、顯俊忠行卿退出、今日實經朝臣還著少將云々、善政歟、少將自內出、腹痛發、身温云々、

廿二日、天晴、或青侍云、兵部狂妻不堪法師蠲免之恩、忽然進納錢五十貫、一昨日收倉庫云々、募以志深庄所當云々、彼卿自加判文、同以法師令加判云々、非恒規、追年月驚人耳目歟、爲父祖可悲事也、近褒姒滅其身、彈指而有餘、無指事故追補三位以上家、面縛開梨以上僧、無後日沙汰、無音放免、納受其賄賂、世上之儀如何、是又雖解巷談、即可及權勢之所募歟、生涯何爲乎、秋節、夜二品方違國通中將宅、親通廣通三人奔營、碗飯送物如山岳云々、近日又定被行除書歟、如此事相積之時、

必有臨時除目耳、酉時參尊勝寺、御入講、結願、入西門經鐘

樓北東登金堂地、四階有樓、作樓南、曳裾自壇上廻南、立座後脫

沓、懸膝昇著座、別當右宰相中將公氏在座、未及須臾夕

座了、即行香、上卿以下進坐机下、下跪自辨、經高、殿上人

親長、堂童子基邦、六人立東行、立御簾前、垂御簾、御前儀、次經

机內行香行西、即立其西間、太簡、返輪復座、次殿上人取

布施、一人、予即起座、宰相中將相共退出歸廬、日入以

前也、

廿三日、天晴、天明參吉水、繼盛光法結願、賴資儀之直衣、高通、忠行卿先

參入云々、西面又座、其間僅間、中許也、有座、北上、即事始了、公賴

家衡卿加座、事了賴資觸有布施由、次第出取之、賴資渡藏

人手、伴僧自西坐廻、一行、殿上人七八人二反許取之、各

退出、入夜參院、俄而自河崎還御、深更月出、名謁、顯後、範朝、

規定、之後退出、馬、夜前寶嗣卿葬送、一條東行云々、嚴

重大路也、有先例歟、侍步行、用平生車、女一人奔其後、

不堪悲者歟、

廿四日、天晴、炎旱、日數雖不幾、陽景太盛、草木多枯

槁、暑氣又難堪、未時許二條中將過談、自關東被示草子等、事云々、此間職稱

連々、又云、明日供奉可束帶、只今參、前右府命云、猶

具隨身可帶野劔、此事如何、予云、嚴旨已有限歟、何可

有異儀乎、縱雖非普通語、只可被隨彼指南歟、今日又

川崎御幸云々、謝返之後靜律師來、入夜承明門院渡

御春日殿云々、女房侍車、送光家車、大夫忠賢來談、

廿五日、天晴、公卿勅使發遣日也、上卿內府、已一點參

陣給、實信在御共云々、法印被來坐、見物之料、休息云々、午時勅使

已出內裏山、少將告送、又雜人云、神寶已出了、此間

出門、於大炊御門鳥丸西見物、神寶過了間也、神馬三

疋、未時按察兄弟兩卿出勅使精進屋立同所、別當、此兩卿訪來云

云、裝束直衣歟、各川牛駕、不具侍、良久上皇御車未出御云々、少時御二條

東洞院由聞之、前陣即進、諸大夫前駟十人、六位一、人歟、大略

著生衣、或綾狩衣、或打狩衣、又有綾指貫、所雜色當

色面々華美、輕巾、水干小袴、次殿上人或不見知、是又侍從伊

平、衣冠、淺香、備前守資定歟、成定中將布衣也、讚岐資隆、衣

冠、侍從資雅、東帶、藏人棟基、衣冠、綾指貫、經兼、東帶、藏人、資賴、東

帶、廷尉資經、衣冠、有調度懸、基定布衣、少將實經朝臣、平結、細太刀、隨身、
東帶、辨經高朝臣、東、中將時賢朝臣、東、細太刀、隨身、雅經朝臣、
東、野飯、革、隨身二人、細太刀、公俊朝臣、野飯、東帶、無隨身、閑院一身
供奉、不似先年歟、忠定朝臣、同前、少將親平、東、細太刀、隨身二人、
家嗣、東帶、平結、隨身四人、家子東帶太不穩之儀歟、次主人、衣冠、如恒、
右將曹賴武、左官人賴資褐衣袴、張馬口、次兵衛佐忠
嗣、女郎花狩衣、縫物、紅綾生單衣、二藍指貫、童二人、
隨身二人、雜色六人、皆結染、如鹿子緒結之、其下皆
悉著帷藍摺、有調度懸、次侍七人歟、五位資兼、衛府之
中有平禮上下裝束者、又左衛門尉行康襖袴付雲、院所衆右
官云、女千歲子也、見了歸廬、入夜少將退出云々、今朝
遲參、不見以前事、信能朝臣御馬毛付云々、自院依有
召即馳參、給御書歸參、此間南殿御拜了、還御之間也、
入御之後給御返事持參、出御之間、御書以家長付女房
了、退出歸參、相伴藏人清定宗仲出見物、歸參之後著
直衣、只今又可歸參、今夜御拜東殿、可候御劔、不經程
歸參、頭辨候御裾、御草鞋藏人清定傳之、御笏同供也、御劔爲家取中

將遲參、出入第三、深更歸來、今夜依夜陰、懸裾令候、傳聞、
同、御路額間也、清水寺法師建立一堂、其地在清閑寺領之由、彼寺法師
憤懣相論之間、清閑寺爲山末寺之間、山僧又答之、清
水本自依爲奈良末寺、南京又怒云々、事定及不善歟、
今夜山法師燒件新立堂之由風聞、後聞、非大衆所爲、或云自清水方燒、後日
尋取之、忠廣注送或人許云々、前駟十人、京出、裝束也、於栗田口改著水干
製、亮清、伊賀、馬助、烏帽子、平頭、青丹打狩衣、白引倍木、重帷、
練淺黃奴袴、半靴、敷尻、鞍、平軟、唐切、付如常、當色、童、眞組、木
蘭地水干、紺小袴、淺黃帷、紺脛巾、文車、輪、雜色六人、立
帽子、紺水干、小袴、文連、白帷、脛巾、同童、舍人、色、藍摺
水干、白小袴、白帷、脛巾、同雜、京出、源藏人、烏帽子、平頭、
香織襖雁衣、文杏、袴縫、重帷、淺黃練奴袴、半靴、敷尻、
鞍、平軟、唐切、付如常、當色、童折頭、木蘭地水干、同小袴、登頸右
轡、袖以紫革替之、白帷、褐脛巾、雜色六人、立烏帽、子、眞組、褐水
干小袴、同自切黃唐、綾押三連錢、白帷、紺脛巾、文三、舍人、立烏帽、子、眞組、紺水
干小袴、文連、藍摺帷、紺脛巾、文連、笠持、子、眞組、白水干小
袴、同帷、同脛巾、忠廣、京出、高左衛門大夫、烏帽子、平頭、薄青計丁鴈

衣、紫二格子而連錢、朽葉生衣一重、白生草、薄色織奴袴、但結文在中二藍裏

返、半靴夾尻、水干鞍、時給骨、(在伏輪、無鳥付)的皮切付、(行膝形、紫革以)彫楸、塗泥除文散金、打交指

繩、鹿皮鞍、藍摺、當色、童、黃櫨魚水干、折頭、同小袴、裏、紺地紐手繩

登頸右袖袖以色々革替之、紐左袖結等紫革、右袖結厚

平組、以赤革開之、淺黃帷、褐脛巾、雜色六人、折鳥帽子

赤革鳥帽子懸、紺青丹水干小袴、文大早文、上下各一通、以赤革開之

褐脛巾、舍人、折鳥帽子同鳥帽子懸、引桶水干小袴、于、真組

以赤革開之、淺黃帷、褐脛巾、笠持、折鳥帽子白水干、紺小袴、有

季、極藏人立鳥帽子、紺打鷹衣、文洲款冬引倍木、重

帷、瑠璃色織奴袴、半靴、夾尻、水干鞍、當色、童、真

組、紺葛水干小袴、以黃色紙押半文、上下各一通藍摺帷、紺脛巾、雜

色六人、立鳥帽子引桶水干、牛文紺末濃小袴、淺黃帷、

紺脛巾、舍人、折鳥帽子革鳥帽子懸、紺水干小袴、牛文

白帷、紺脛巾、光季、相兵衛立鳥帽子、青唐紙織襖狩

衣、文長名唐草、薄平括白引倍木、重帷、薄色生指貫、半靴、夾尻、

鞍、牛鞍、唐皮切付如常當色、童、真組、黃葛水干小袴、立通疊、上下各一通書之

淺黃帷、褐脛巾、雜色六人、立鳥帽子引亂摺紺水干

小袴、白帷、褐脛巾、舍人、立鳥帽子紺水干小袴、文連錢一

通、白帷、褐脛巾、家邦、源左衛門大夫立鳥帽子、虫襖打鷹

衣、手本白系、并胸朽葉生衣、重帷、薄色織指貫、半靴、夾

尻、水干鞍、時給骨、有鳥付、木鏡、白余如常當色鞍、童、折頭、引桶水干

小袴、淺黃帷、鞭摺紺脛巾、雜色六人、立鳥帽子白水

干、切褐布摺、鞭摺二筋褐小袴、紺帷、鞭摺紺脛巾、舍人、立鳥帽子

鞭摺紺水干小袴、白帷、鞭摺紺脛巾、季宣、甲斐守立

鳥帽子、薄色計丁鷹衣、白三格子筋、二藍衣、源平括黃引倍木、重帷、

淺黃生奴袴、半靴、夾尻、水干鞍、當色、童、真組、引

桶水干小袴、文大藍摺帷、紺脛巾、牛文雜色六人、立鳥

帽子、折鳥帽子革鳥帽子懸、牛文一通白帷、紺脛巾、同文舍人、

為清、京出立鳥帽子標打鷹衣款冬練衣一重、白生薄色

織奴袴、半靴、夾尻、鞍、平鞍唐皮、切付如常當色、童、折頭、計丁

水干小袴、淺黃帷、引亂摺紺脛巾、雜色六人、立鳥帽子

紺水干小袴、文大白帷、引亂紺脛巾、舍人、立鳥帽子

紺水干、文大白小袴、引亂紺脛巾、顯綱、若狹藏人立

烏帽子、薄色織襖、服五組括、文、萌黃引倍木、重帷、

淺黃織生奴袴、

頭註路次令持銀劔、不入尻袴、

半靴、夾尻、水干鞍、常色、童眞組、朽葉鹿子結水干小

袴、薄色引倍木、白帷、紺脛巾、文、三筋、雜色大人、立烏帽

褐水干、切白唐綾押、白小袴、切綠綾、藍摺帷、紺脛巾、同、

舍人、立烏帽、紺青丹水干小袴、谷文、白帷、紺脛巾、同、

實、源忠繁、左兵衛、立烏帽子、二藍布襖衣、無裏、平本

云、拔形圖之、其中、白鴈袴、縫目、朽葉生衣一領、濃下袴、

地散劔、無尻、黑栗毛沓、織物花仙、尻懸劔、水干鞍、藤給、當

色、調度懸、折烏帽子、紫革、青丹卷染水干小袴、藍摺帷、

鞭摺紺脛巾、懸矢弓等如常、童、眞組、朽葉卷染水干

小袴、藍摺帷、鞭摺紺脛巾、雜色四人、同調、青卷染水

干小袴、藍摺帷、鞭摺紺脛巾、舍人、度懸、薄色卷

染水干小袴、藍摺帷、鞭摺紺脛巾、賴武給、八月五日

給之云々、色目、單重五領、色々納、蒔繪劔一腰、丸給

七金二足、已上納長櫛一合、著白服者二人昇之、出納、御馬

御、沃懸地、

二疋、一疋印束、被置鞍、蒔繪骨、黃伏輪、豹皮丸形切

付、差端色、人泥障、白差繩、綾表敷、在表、鏡鑾、木鐙

黃伏、紺手綱、腹帶、鹿皮鞍覆、畝鞆、一疋、栗毛、不置鞍、

不著衣、御使下家司著束帶、賴武出合云々、畏給了

之由申之、賴次給、單重五領、色々、納平裘一、蒔繪劔

一腰、同前、已上納長櫛一合、同前、御馬二疋、一疋鹿

毛、鞍、蒔繪骨、無伏輪、色革表敷、豹皮切付、行膝形、阿

摩毛泥障、差端、鏡鑾、文散金鐙、畝鞆、白差繩、紺手綱、腹

帶、鹿皮鞍覆、一疋國司、鹿毛、不置鞍、御使同前、賴次

申他行之山云々、頗故實云々、御廐舍人金黑給、單重二

領、納平裘一同入長櫛、馬一疋、不置、已上御使出納、金黑

出合之、入目六了、折紙二合懸之、奧二體給了山申

之、居侗末友給、色々五段、納長櫛、以出納欲送還之

處、末友參上、仍給了、

廿六日、天晴、少將自院有召、即參入、例御書御使往

反還著、直衣歸參、此御使事不可限一人、頗不得心、申

終許依先日召、參內大臣殿、見參之間、大府卿參入、相共

評定百首歌題、炎暑雖無術、如形令書連、乘燭以後長

俊朝臣令書了、予先退出參院、今夜仁王經法、伴僧廿口、成

賢僧正始終六條殿、賴資奉行御加持、訖有名謁、定通卿清長卿

等、事訖即退出、內府朝仰云、實嗣卿葬用坎口云々、

人以爲奇、今夜內裏御拜、兩頭供奉、國通朝臣御劔云

云、

廿七日、天晴、牛儻共侍盛綱等過光家許、令向忠定中

將、神寶已出了、此間出門、於大炊御門烏丸西見物、神

寶過了間也、神馬三疋、未時按察兄弟兩卿出勅使精

進屋、立同所、別當此兩卿訪主云々、裝束直衣、與各用牛意、不具侍良久上皇御車未出

御云々、少時御二條東洞院由聞之、前陣即進、諸大夫

前驅十人、六位一人歟大略著色々生衣、或綾狩衣、或打狩衣、

又有綾指貫、所雜色當色面々華美、腰巾、水干小袴次殿上人或

不見知、是又侍從伊平衣冠、備前守資定歟、中將、布衣

也、讚岐資隆、衣冠、侍從資雅、東帶、藏人棟基、綾指

貫、經兼、東帶、藏人資賴、東帶、廷尉資經、調度懸衣冠、有基定朝臣布

衣、少將實經、平緒、細太刀、隨身東帶二人、辨經高、東、中將時

賢、東、細太刀、隨身雅經、東、野劔、革袴、隨身二人、身四人、前木袴賴房、隨身二人、

公俊、野劔、東帶、無隨身閑院一堂供養可已宗周忌、先

口所相觸也、散三位成群云々、仍催送此男、申終許事

了、分散之由聞之、以牛童等說傳聞、兵部卿、大藏卿、

家衡、三位兼季、賴房、雅經朝臣以下七八人、布施濟

濟、數反取之、兵部卿向佛供養由、示含牛童車副等、所

從等不知其所向、淨土寺二位佛事所下車入、著座之

後驚出、更副著此所云々、此人々體、若失本心歟、聞

門狂亂之間、無其正念歟、路頭事不分別乎、又於途

中彼堂供養訖、右大將、四條中納言以下、多遇其路云

云、旁爭不覺悟乎、人又嘲哂歟、太悲事也、至此事尤

非直也事者歟、少將夜不歸參、今夜時賢朝臣候御劔

云々、

廿八日、天晴、夜雨始降、不經程、人云、源三位中將室

產後危急、或云逝世、以使者問納言三品兩方、歸來云、

今朝殊危急、加護身、只今聊落居之由、兩人共有返報、

今夜忠定、候御劔、今度此人々皆入南第三間、取御劔出同間、御路御出入同間云々

廿九日、天晴、三位中將室遂亡逝云々、昨夕歟、參左大臣殿、見參移漏、行九條、即歸參院、名謁之間也、追參稱籍退出、今夜公雅中將御劔云々、

○八月

一日、幸運貫首入勸修寺云々、所衆瀧口各十人、其衣裝偏用錦繡云々、所衆皆著紅袴、予示合忠康狂著濃袴、又相具宗嗣、車、其後侍十五人、皆二品邊者云々、二品車立二條東洞院云々、見物上下如堵、嚴制依人異、只驚視聽耳、忠康錦替袴袖昇付結紅葉、少將申寮駿令乘云々、此事等尤無便事也、予所存皆同杜伯山、入夜參院、名謁退出、忠信、光親、親定卿、定高朝臣、語世間事等、

二日、天晴、不出行、少將自夜前給宿所、以榮少々數五節所屬云々、今夜不出、

三日、天晴、傳聞、山僧少々入祇園鎖其門、議燒清水云云、戒服、清水又自日來城守云々、所々堀切之、皆蒙甲冑、三條坊門、仙洞被召官軍、爲制止歟、在洞院大路、三條坊門、又或押小路、

被遣清水云々、又云、山惡徒追來加、橫行河東云々、炎早已久、兵革不靜、將奈何、申時許閭巷說云、山法師籠長樂寺、欲寄清水、遣上下北面衆主典代應官等、頻被仰可止由、更不承引之間、遣官兵、被擄召其法師原之間、多死傷者、又縛僧十餘人、參御所邊云々、路頭太騷動云々、日入以後參御所、擄取犯人、武士等各分散之間云々、博陸只今參入給、御坐寢殿西面、依無通路、與實信朝臣徘徊、問今日事、清水寺構城、山僧集會長樂寺、先遣檢非違使被破清水之城郭、制止武備、急著法衣可在佛前由被仰合、寺僧承伏、穩便之儀、相次遣應官長樂寺、被制止之處、所司法師等僅出合、更無承伏之詞、應官猶逢衆徒、可傳綸言之由示合之間、惡徒等出來、妄吐奇恠之詞、更不可惜身命、不及承綸言由、呵叱殆及放言、應官爲遁當時之耻、遶出之間、以飛礮打門扉、馳歸奏聞之間、忽然被仰西面之輩并在京武士近臣家人等、圍彼寺四至、不泄一人可擄取由宣下、須臾之間各馳向、白月未及移晷、已稱其什七八面縛生虜、各獻

俘、觀音堂佛壇帳中、走者相騰踐奔蹙、箭孔刀痕充滿堂舍、流血如油云々、惡徒非法本自雖爲我朝之瑕瑾、先王之政、猶被宥三宥之假名歟、未聞如此事、就中山門訴訟古今皆背理、然而此宗有事必爲不吉之徵、心中深恐歎、誰出口外乎、今夜無見聞事、按察爲御使往反、不知其所、大法結願明日延引、可被延修云々、日來司天類奏兵亂之變云々、深更名調、與以經清談、鷄鳴之後退出、西面壯士先登之輩、或有死傷者云々、官軍之中多有之、未聞定說、近江守賴茂將伏兵遮嶺東之險阻、多搦逃山上者云々、後日被朝臣語云、逃者多赴險阻、早罷向指出旗於嶺上之間、更還奔、登嶺者者不幾、仍不及狼藉、只兩三人剝甲冑、相具可參也云々、所諫尤穩便、

四日、天晴、炎旱暑氣如三伏、依難堪盡不出門、令伺巷說、今日無指事云々、引送馬按察許、先日消息、今日不入勸修寺云々、返馬、

五日、天晴、凌汗參院、博陸參給、依無路在殿上、經高

辨棟基等粗語此間事等、或云、法家申云、穢物不入京云々、不可有穢云々、又院中沙汰云、朝雅時穢は追討也、何有穢、於今度者只制止也、仍無穢云々、雖不聞實說、太以爲奇、官軍已獻俘授馘、寧無穢乎、更不可依事起、法家所申尤有私、依此事有御卜、可被定穢有無、頭辨夜半許書狀與奪、棟基明日可行釋奠放生會御卜云々、棟基今日參入、此事不可釋奠放生會歟、只可卜穢有無歟由奏之、仰可然云々、近日此頭萬事如此與奪云々、何可下々龍乎、今日公家御衰日沒日可憚歟由棟基申之、尤可然云々、仍明日可行御卜、公宣卿依此事參入、承明日由退出了、此卿放生會上卿也、先卜穢有無は、不可召彼上卿歟如何、無事不得心、一昨日被搦法師原、即恩免之由又人々稱之、始末迷是非、舉大事之後、又更宥免、如何々々、山門事又無聞分事云々、同事體、當時時政惣以無是非歟、俄及合戰、今又采女披露歟、先被殺害山門法師、次被穢放生會、兩方神慮如何、足驚奇、顯然穢不及卜筮乎、博陸相國以下預議

无カ

定人々眼見心識歟、退出參宣陽門院、依聞御不例由也、女房相逢、自去月廿五日御發心地、昨日重令發心給云々、事體定令長引給歟、初御惱云々、貴賤長年之後、初發心地、更無詮方故歟、即退出、深更僧都爲方違入坐、終夜談此間事、但無殊事、山僧只無音流涕、西塔僧昨夕今朝渡東塔、密々相議只離山事云々、

六日、天晴、遲明巷說云、終夜今朝山衆徒多下山、欲燒

尊長房、又云、欲燒香樂寺

吉水御房

、官軍又備戎服云々、日出以前營參、無殊事、以西面并力者等被檢知歟、且歸

參云、大衆多下山、但皆著衣裏頭云々、大略一同說、

下山不知員、但無會集之所、雖如河水之流、無其朝宗之

所、推之自然隱居緣々家々歟、非兵具之姿云々、又云、

昨日大略議定了、只流涕離山、打付中堂三昧堂、滅常

燈、截落七社以下御籠神鏡、鎮固門々、追放祠官宮巫覡

等、各鳴咽皆同下山云々、是只天台佛法磨滅之期歟、

人々漸群參、無聞分事、爲按察奉行召集僧綱、僧綱未

皆參云々、午時許退出、吉富庄又有謀害、狂者驚庶民、

如此事不絕、太奇恠也、秉燭之程又歸參、遇按察示付、

似例事、人々說云、召聚僧綱、被仰旨申間等、大略無殊

事、各退出云々、大概各申旨、雖聊、無被謝彼日狼藉之

沙汰者、無處于和衆怒歟之由云々、今日穢否事有御

卜軒廊、各申不淨由、仍被定三十日穢、釋奠止、放生

會延引云々、北野祭一昨日行了、如何、又被遣召僧綱

歟、今日各申旨、聊無所募は許、難和彼等心由云々、仍

有所被計仰歟、僧綱六人參入、但又無殊事、按察仰云、

依座主不參又人數少、今夜猶可退出、隨召可參者、即

退出、名謁了退出、今夜頭辨去朔日入勸修寺、所召具

所衆、破制由有其聞、爲御覽被召所衆裝束、仍頭中將

召具所衆、相具裝束

入長柄一合

、參入云々、件裝束頭辨更稱

化野由、剝唐錦令押作錦云々、路頭見物之輩如堵、顯

然虛言不恐朝威歟、如此事只不如無制、

七日、天晴、未時俄陰、大雨忽降、法驗也、不經一時而

晴、參院、少時按察參入、使內侍

今朝予又此事示付、已聞食了

奏謀書事、

仰云、早可給御教書、尤以爲面目、僧綱又參入云々、

在中門方、博陸御坐、仍不聞仰旨等、成長語云、仰旨大略、彼日事非兼被仰下之儀、只帶制府兵具、恣入洛中事、依奇性、可剝物具由被仰合之處、自然及狼藉、是又依爲不虛事、殊不及致加刑、然而今滿山衆徒、有所殊歎申者、西面之輩、有官者解却見坐、無官者可、給檢非違使、以之急可令歸由云々、大雨之間暫出御、有威悅御氣色、雨止入御、此間二條室町邊、武士與路頭僧鬪亂、及搦其身者、法師拔太刀相拒之間、已被殺害、武士又蒙疵云々、太無益歟、退出、今夜始布秋氣、雨後涼風歟、

八日、天晴、未時許雷鳴、大風小雨、入夜參院、頭辨自神泉參云々、語云、今夜被始請雨經法、成實僧正、此法永久年中後九十餘年斷絕、今度被修之、江開梨以人夫百人許、修治池井庄上、悉拂其垢穢、是故實云々、祐普法印^{四最}者、昨日孔雀經法結願、已凌耻云々、名謁了退出、今夜西面之輩五人解官、三人給檢非違使云々、此間事惣以不知是非、如何々々、今朝按察被書送御教書、申

殊恐悅由了、差專使下之間、又一昨日重謀書到來、持來之、世間有如此者、尤足奇驚、

九日、朝天陰、辰時雨如注、巳時許天漸晴、午時參院、番、僧綱等今日登山云々、未聞彼等申狀云々、申時退出、謁亞相、一昨日給周防國、面目由被語之、入夜歸參、名謁了退出、

十日、陰晴、昏後雨如注、今日有僉議事、亞相以下參集仙洞云々、不知其事、塾居、昏仲章朝臣來談、後聞、宗行含綸言出殿上、進左府御座邊仰事由、即起東行、至于端座下方、懸片尻於長押、^{右尻在長押、左足在簀子、}暫坐、漸見廻世間下座、忽在簀子、^{顯後卿後云々、}聞定詞之間、次第坐寄其人

後、最後至左府御座、人數、左內、相府、大納言公房、師經、通具、中納言資實、隆衡、實宣、光親、參議顯俊、

、儀之間、通具卿頗難言、右將軍忿怒氣、

十一日、天晴、午時著直衣參院、^{仁王經法結願、}少時公卿五位殿上人上庇御簾、次公卿著座、^{是山僧綱等少々參入、大略有和解之氣也、}右大將直衣、新大納言、^{藤原經綱、有文帶、依考定也、通具}四條中納言隆衡、東

帶、蒔繪無文、新宰相顯修、有文、三位中將基嗣、東帶、松懸、在座、

自余散位在殿上障子上、殿上人甚多、保季朝臣寒幕云

云、次藏人次官宗宣、進上卿前、仰勸賞事、上卿許直進

大阿闍梨座邊仰之云々、追可申請、次結願了、公卿自

下起、中將先引、入榻揖立、各來立中門廊、藤大納言師經卿螺鈿

參加、次第取布施、裏物、保、季束帶、公卿遂乍立指笏、殿上人同

取之、番僧廿口、事訖實宣有雅卿參入、今日風聞、山

門已和解、但相待下山僧徒、可開諸堂由申云々、昨日

僉議、日吉祭日可被遣勅使事云々、大略依衆議多同、

可被用近衛使、如賀茂山、內々已被定丁云々、此事定遣

向後之煩歟、尤可被案將來事歟、僉議旨不委聞、或云、

可遣五位殿上人、御隨身、如例、或云可遣散三位、公房卿云々、依、人數多歟、太無

所據、若實觀、遠行之里歟、或云、上卿辨向行祭禮如何、尤宜歟、但多是

可遣次將云々、末代國家更不可應覺歟、又六月會可被

寄用途、又云、學頭之一可任律師、以此等三ヶ之事被

和其心歟、不聞一定、歸家改著布衣、參高陽院殿、奉謁

大僧正御房退出、向亞相亭、謁談之後參內大臣殿、

粗被仰昨日事等、又有和歌沙汰、夜深退出、今朝巷說
云、關東謀反之輩、夜襲將軍幕下、已以滅亡云々、可然
人之中未言此事、且相憚歟、但將軍終命歟、誰人發使
者乎、

十二日、天晴、昏雨灑、巷說猶不止、推之有實歟、少將
依召參、例御使云々、入夜參院、名謁了、深更退出、

十三日、天晴、夜月蒼然、仲重朝臣以書狀重借歌文書、
案之關東事浮說歟、將軍好和歌、求如此文書、欲下向
由密々語之、

十四日、天晴、僧都來坐、予有申付事、其事大略以許容

由也、但無其居所云々、又々可問答少將事也、阿闍梨
來談、謀書法師在二條中將因幡庄、更不恐嚴制、招聚

凶徒、欲致狼藉云々、入夜月明參院、少時自岡崎還御、

亥時許名謁了、親定忠行卿以下退出、法師事猶示付清

範朝臣、此間地震良久、今日以米百斛賑給長樂寺僧等

隨喜感歎云々、日吉祭近衛使事已一定云々、神輿還御、之後參社

頭、可行東、遊云々、山上六月會、辨官登山可行之云々、學頭一可任

律師、當時此三ヶ條歟、近衛使遠路、定爲國家之大煩歟、

十五日、天晴、依番午時參院、依早速無一人、漸々人々參、清房來、少將可參由示之、即遣召參入、給御書參內歸參云々、申始許御川崎、出御之間各列居退出、戌時許聞還御由歸參、相國亞相大宮、依召參入云々、又内々有議定事歟、密々間宰相中將、山衆被日來和解之儀、是住山古老之僧等不裏頭各議定之、仍明日三塔大衆會合、重可承綸言之由相議、其事爲用意、重有議等云云、又遣召僧綱等、少々、但依深更又不可參由等被仰云云、子時許名謁了退出、實氏、顯俊、親定、忠行、清長等已下、關東事已以無實云々、近日造營無他事、件上棟日、欲牽番匠馬嘶驚走出之間、有騷動事云々、尤不吉之徵歟、今朝司天等上地震奏、兵革并威重之人候云々、奎宿龍神動、宜秋門院又御瘡病、三度云々、今日欲參之間、當番之上、每事依違、遠路難堪、默止了、

十六日、天晴、六角尼上被渡坐、聊有被示合事、丹口今

林庄、自隣庄被打入之間事等也、秦穆公之開地隣國將奈何、更非奇計之所及歟、又少將叙留事等以同前也、末世無緣之人只如此、可悲之世也、後聞、駒牽於日華門外行之、上卿南面如例、左衛門督、宰相賴平卿、辨定高朝臣、少納言顯平、左中將公俊、右中將守通云々、次將應上卿召、當宰相前西面立、右將立其罪、馬助爲永立御馬引云々、此將去々年勤仕此事、已爲年々例歟、太不便、少將依召參御前之間、不見其後事云々、忠定朝臣番、衣冠見物云々、太無其由歟、申慶之間、上卿宰相入弓場南、如雨儀、宮文納言立、守通隨其後入同路、依公卿示還出、如取簡上官立、公俊以下相隨、公俊云、四位一列五位一列云々、此等事惣不見聞事也、如何如何、牽分使、守通、雅清、敦通云云、院、新院、關白、於弓場賀之人、自弓場與軒廊間、入軒廊西第三間、西面立歟、奏事時立第二間、此拜上衆又如拜賀之人、下薦次第守其次也、又此拜公卿一列、殿上人一列也、若有六位□□非此限、於四五位者全不列立歟、今日不出行、夜靜律師來臨、

十七日、天晴、午時許參院、相國亞相如例參入、又被召聖覺僧都云々、尊長法印往反、頗非直也事、不知其由、左中辨參入、粗語駙牽事、次將進立事、御馬進立上卿前、無其所云々、是又上卿可被示事歟、未時許進出、今日又川崎云、連日也、參宜秋門院、帥自朝伺候云々、暫談話退出、一昨日未時發御、已及申刻云々、謁女房、人々頻申時下了由、驗者阿闍梨某、大理兄云々、退出、資家朝臣取女郎單衣重自南妻戶押出、被之、懸左肩、經樂師經大般若兩御讀經座前退出、下沓脫之間、左府御牛、御共侍右衛門尉以忠引之、內府御馬、衛府二、各法師原請取之、不具從僧云々、僧徒面目在斯事歟、今朝亞相此御祈佛供養聖覺導師云々、又內府御沙汰、仁王經御讀經云々、各々御營、猶以繁昌、門前成市、此中左佐資經參入、其體打梨、更以不足言、偏如箠持、匹夫驚目、人々云、一昨日以清範爲御使、被仰加持并僧正梨本衆、彼可燒尊長房之由有其聞、更不可相距、只任意可令燒由所仰舍也、可被存其由云々、又昨日衆徒且爲輪言之趣、又成喜悅之儀、三塔可會合由

衆結構之、凶惡之徒、雖稱喜悅由、會合之時、內心依難測、惣被止其會合、仍昨日無其事云々、吉水御房十四日結願、佛眼法、即可參詣天王寺如法經之料云々、由雖被定、增圓法印獲麟之間、其事止、御座吉水云々、

十八日、曉微雨、辰後甚雨、通夜不休、少將依召參院、例御、自今日服藥、傳聞、增圓法印遂以終命、年四十八云、使歟、命云々、事體說、在少將師季娶其娘、父不許其事、已水驛之由月來聞之、今又遭喪、賢者之案不異愚者歟、是範基舊妻也、今夜又有涼氣、於燈下披舊史、

十九日、通夜甚雨、終日不止、夜深月明、明後日行幸、御幸于高陽院殿、中宮行啓里亭云々、

廿日、朝陰、已後天晴、院女房、通具卿後子、能保卿娘、大納言局、依腹痛死去、年十九云々、母按察三位、入夜參院、俄而自川崎還御、彼女房事一昨日云々、人々於行幸者廿五日、但中宮兼御退出、又御幸明日云々、亥時許名謁了退出、定通、實氏、親定、清長卿以下、殿上人殊多、歸蓬以前、承明門院女房達乘月、遊放閑庭之

秋草之中云々、

廿一日、天晴、中將搦送謀書法師、先令請取之、但非其身、是發

起之上、入夜束帶、先參院、俄而自川崎還御、雖番參行啓

之由觸越中內侍參內、出車已寄云々、少時兼隆示御車

寄由、今夜無召仰云々、無召仰之例多由、亞相稱給脫云々、大納言殿權大夫殿寄御車

給、雅親公賴卿三人列立、被立屏風訖、予前行、經立明

大將後、於二條町騎馬、町北、大炊御門東、宮小路北、入

御中御門南云々、列立庭上、御車入之間潛折、左右大

將、亮長季問名謁、各稱籍、予即退出、納言御車入、即退出、今朝

上皇還御高陽院殿、爲家依召、爲御書使御祝言云々、

每御渡如新所、依有恐、法師事不申、

廿二日、天晴、自今日二品被仰三七日逆修云々、僧正公胤、僧

都聖阿開梨千性自院被遣云々、原憲又無其方術、定被

處忽諸歟、爲歎清範朝臣、今朝奏法師事、可賜秀能、

可付左中辨由內々示送、即示付了、按察猶依所勞不出

仕云々、乘燭已下、尙書奉書到不、來力法師即送遣秀能許、

入夜參院、今日無他所御幸、戌時許出御馬場殿、子夜

名謁了退出、教成、實氏、顯俊、親定、今夜名謁之間、有

如雛叫喚之音、不暫在北對邊間、或人答云、藏人家資

名謁之間、近日有如此騷動云々、後聞、今夜滅燈、壯

年之輩圍其男、不出其中、引落袖等、是犯主殿司姬、自

愛被處惡氣之上、與敦經等口論、此等罪過云々、

廿三日、天晴、入夜忠資來談、

廿四日、天晴、行九條沐浴、民部歸、秀能來談、且是謀

書法師事也、御力者宇治、得珍名人也、水練軼人云々、

爲此事張本由、頻稱申事也、只任理可有沙汰歟由答

之、

廿五日、天晴、今夕行幸高陽院殿云々、傳聞、賢所發問、

不可渡御、仍警固云々、覺乘僧都季頭被物、今日付使送

了、乘燭以後參內、光家云、勤七瀬御祓使、只今歸參、

又獻行幸出車、大納言殿行幸供奉、御共可參由申間、行

幸無御參、女房今夜渡給範朝卿家、御共可參由被仰之

間、車不候者、即借所乘車了、於鬼間謁女房、不及深更、

今夜行幸殊被忍云々、雅親卿語云、近日依輕服未著

陣、外祖母具輪福妻、實清卿母、百歲而逝去、其子圓長法印一人殘

者、新大納言參入、暫謁談、彼緣者女房病間事委問之、

又有悲痛之氣、室家最愛云々、老少離脫平旁間無常之理、博陸

參給之間、予於南殿方、與信能公棟朝臣、徘徊宮殿上方

此殿上慶敷殿如尋常、不得其心、之間、右大將參入著陣、行召仰云々、職事

下日時、未召外記以前、公卿已下悉帶弓箭、已以出御

南殿云々、宸儀出御之後、予即著靴下階、藤大納言師

云、強不可列立、可儲先陣云々、通具卿已下經青蹊門

進之間、大將又出宣仁青蹊、於壁後漸々帶弓箭前、太

右將已渡了、大納言以下四五人、進立軒廊邊、顯俊卿

已下有宣仁外、公氏在、大將邊、良久大將進出、如例列立、次々

同之、大納言通光、通具、中納言教成、忠信、有雅、參議

實氏、公氏、顯俊、三位基忠、公賴、有能、家衡、家良、

三位漸出之間、隆衡卿追參入進立、實宣卿依留守在後

云々、少納言家時奏了、寄御輿、左中將國通、實家

、俊能、少將通時、公棟、定親、

家兼、基保、爲家、右中將兼季、雅清、家

嗣、少將賴房、實經、敦通、宗平、安御輿了、主殿官人取

御座掩之內、間力中將兼季不待劔照役、將早速昇座云々、

與舍兄立、時實經茂兩將在日花門外、迴參云々、次左將等昇、次宰相中將昇云々、開輦進寄取御

劔之間、手揖前行、依人多也、左衛門佐家季、少納言家時在

前步行、如例入高陽院四足、直入南庭、藤大納言被座

中門內沓脫邊、前陣如何、予家衡同於沓脫邊休息、人々來立

之後進立、通具卿自列前立、通光卿自後立、家良卿曳裾

入中門、出御之所於軒廊曳之、入御之時又於四門外下之云々、入御庭上裾、未知其由、

每度如此、入御了、次將各加列、實氏卿顯俊、家良卿二人曳尻、鈴奏了、

國通朝臣問名謁、各稱籍退出、參院御所、丑冠名謁了、

顯俊卿予二人也、退出、今朝以或女房、令伺招客修善

之間、雖不觸外人、有志之人々早可被來由、有許容

云云、但三ヶ日一度當七日、皆々月卿雲客群集云々、

發願一七日昨日、過了、明後日早可參由重示了、生涯之

儀只可從漁父之誨、獨醒甚無益、又非車馬之供奉、於

修善之座列并布施者、古賢之所爲、更不論親疎、小野

右府大將大臣之間、被參御堂宇治殿、是更無巨難歟、
可吸爾耳、發願日大納言、其妻時政女、已稱猶子之由、存實宣、
聖君之別當參議賴平、東帶、相國、不請云々、三位忠行、其妻父親經、偏稱聖君之由云々、
昨日通光卿加其座、是又聖君也、但天下之人誰無妻乎、心中悉存猶子由者、非聖之人無之歟、今夜

實信朝臣、又明後日可向由語之、所存同予、
頭註後日案之、被渡殿上陣座了、有留守上卿、其祇候所
太北、不審、是又何年之例乎、如何々々、凡此間事不
審千萬、

廿六日、天陰、夜雨降、少將參內、束帶、警固裝束也、依
窮屈終日假臥、自內大臣殿御消息云、行幸數日不被渡
賢所事、其例覺悟歟、予申云、近代事惣不見記錄、永
保三年三月二日爲房卿記、夜行幸、自去月九日賢所御
他所由注之、其事若爲珍事者、可有其子細歟、只有其
由、若又有例歟、此外所見不候之由申了、夜前傳聞、
警固又有沙汰云々、同記、正月雖御旅所、依年始無警固
云々、然而有殊御沙汰等、犯者有警固之由頭辨示之、
不聞委旨、

廿七日、朝雨止、天猶陰、已一點向修善所、二條其所極
歟、狹脫力以三間母屋爲道場、無底、其奧無壁、小御廳無公卿座、
懸之、爲廳間所歟、

僧座北面之後緣、以之爲路、其緣南有遺戶、其內二間
八尺、八尺幾敷二行、公卿籠其內、其南又二間隔障子、殿上人
間歟、每事略儀歟、流外人難臨十餘人群居、此所、自地巡從之餘也、顯圓、今日導師忠行卿對

座、予入其所、藤大納言、人々群集之源大納言、光、帥、按
察別當、左宰相中將、新宰相、顯、三位二人在此所、
賴平卿又入內、但取出布施、一時許之後講筵始、公卿不著座、在本所、事了各取布

施、被物五重生衣二重各取之、予當裏物、近代公卿於
相裏は多取之、一人餘之間、請僧被物還無傍外、仍猶
以手長令取裏物、取之了、此間往反、猶以無路極狹少、
失便、殿上人十餘人、國通、伊時、家嗣、直衣、雅
經朝臣、經時、範茂朝臣、範時、隆賴、右京資
宗、宣棟基今日束帶、衛府等卷纏、家嗣朝臣無纏、直衣如公卿、不知可否、經、基保、資隆、親通歟、不委見、頭辨、直衣、取請僧被
物、人々退出之後、僅以退出、每事來臨人々、皆存有其
故由歟、無緣追從雖似甚耻貧者、生計非手足之奔營與
雖表其志、又於布施取者、必雖非親姪皆到訪、是既堤

防歟、歸廬之後改著舊束帶參中宮、謁女房退出、入夜參院、名謁之後退出、今朝御讀經衆律師能玄追却云、好色之聞歟、

頭註

今日頭辨取請僧被物、家嗣朝臣不取其後被物之由云々、相國於私所歟、頭可爲位次由被存由云々、此事愚意更不存事也、諸院之外、后宮博隆以下、以頭爲先歟、又是大辨也、如何々々、

廿八日、天陰、入夜雨、參左大臣殿、終日見參、夜歸廬、

檢非違使

廿九日、晴、天晴、午時許自二品御許有消息、細川庄基清狼藉事、今日基清參入可申之、來臨尼黃門相具、聞其事乎云々、是更存外事也、如此事更不及予口入、有勞事飼蛭由申之了、迎黃門、夕令參向了、其後事不知之、基清無道太以不及是非、不可爭事也、終日籠居、御讀經衆被補替了、靜快弟子、

○九月

一日、天晴、辰終許參佛事所、家衡忠行卿兼在座、此間懺法之次、僧三口各別布施一、其物小袖大口云々、五位殿上人三人取之、資經、資隆、親通、

應保元年 九月

少時導師僧正公胤來臨、即始講筵、公卿追之來加、通具卿、布衣、立烏帽、于、長細狩衣、師經卿、布衣、中納言實宣、光親卿、直衣、有雅卿、束帶、賴平卿、布衣、顯俊卿、布衣、三位忠行、直衣、清長、束帶、家衡、直衣、予、同、殿上人頭辨束帶、以下廿人許不憊見、國通、各束帶、公雅、伊時、布衣、家嗣、直衣、範茂、束帶、範時、同、實信、同、經高、同、基定、布衣、成衣、隆賴、宗宣、棟基、賴資、資隆、親通、此佛事無經供養云々、不知其由、今日千手觀音事訖、大納言以下皆取布施、被物五、生衣二、七人之外忠行絹褰、自餘三位三人取請僧被物、座狹少之餘、賴平、忠行卿、宗行朝臣、出遣戶外、敷疊一帖、坐請僧末座、被物所狹無便宜之間、自座後可置之云々、猶昇長押、自兩僧之間置之、凡公卿失威儀之基耳、案之、願主更不被過事歟、最密善事聞及、追從之輩忘耻、群集一間遣戶內、只以被免參入爲面目、將奈何、事訖各退出、來四日可有臨幸云々、今日宗行朝臣不取布施、猶有事故歟、仁和寺僧都被來談、入夜六角少將過談、不移時刻謝返、即參院、深更名謁、親定卿

一人也、

二日、天晴、夕山僧都靜律師來臨、律師云、能玄之替、新宮供僧被補之、雖無溫潤似面目、其始能玄永順補之云々、今朝洗髮、日來依可慎可斷葷、又彼岸始也、

三日、天晴、咳病之氣心神惱之上、面上難熱殊不快、不出行、隨分之計略、輕微之志、今夕構出、以女房書札、送洞院局許、綾生衣三領朽葉雜色、薄青、各生單衣、入一襲、定被處不

足歟、雖然時儀不可默止之故也、明日臨幸云々、涓露納受、有自筆返報、不讓土壤之謂也、入夜九條尼上白地退出、今日基清適參、此事上皇殊驚思食、奇惟由有天氣云々、二品以重房、先有理運之勘發、私召取神人殺害者、受前下司之讓、之非相傳不觸領家、不奏事由、不得關東

下文、妄押領御領、任意致狼藉由也、陳申旨、於神人殺害者即禁獄、當時猶在獄中、其父猶依有罪科、召誠國領力守護所歟例也、仍讓但相傳之職、以馬助實清觸申察家丁、其後於關東依此男前下、深恩得存命、微彼下司爲敵被愼、依思此恩、能獨錄倉蒙其裁許、罷入御庄、只効

下司分之田許也、是又基清先年所作之田、爲今下司被効取報答也、全不及他狼藉、但被仰下之旨尤恐申、此事進去文、止沙汰之條、只可隨御定、又委旨申頭辨了云々、即聞此由、又參御所、被問頭辨、々々有執奏之旨等、氣色忽和平、重房又密語云、頭辨所被引舉也、尼云、爲獻帝曹操相共可行庄務、此事御所答思食、爲基清又不便、彼憑我ばや、武士事又偏勘當、非公平、且令書起請、可存穩便由示含、急可和解由教訓云々、此上者不申左右、餘命又在旦暮、向後可爲御領御計之上、木及是非申之了、氣色快然、猶明日可聽聞由有命、仍不能退出、又可歸參也者、近代事只如斯、又相具此尼上共歸參、其又爲聽聞也、咳病又不快、事次奉彼邊了、明日不可交衆、

四日、天陰、今夜內侍所渡御、又解陣云々、依咳病極惱不出行、臨幸修善之所云々、雖番日夜共不能參、所勞之由以使示送、前右少辨同番、近隣之故也、後聞、今日正三位雅隆卿出家云々、居住宇治邊、年六十七、賢

所供奉、次將裝束有尋問人等、先例不見及由答了、今夜臨幸修善之所云々、

五日、天陰、自昏雨降、夜前兩尼上共聽聞、今曉退出九

條殿、被歸了、夜部賢所供奉次將、雖相尋少將、夜深人

定無見人云々、基清狀眞名、只可在極便由也、相副頭辨奉書送之、其狀

云、侍從三位殿云々、此事太不得心、姉妹所領事、何可

給御教書乎、然而被副書狀、入箱被送、仍不申左右送

九條了、今夜御讀經衆十二人被召集、讀經聞食云々、

自今日七々日、以定圓奉供北斗星、今年殊可愼年也、雖少僧可有父子之丁寧、故示

之、

六日、雨降、經高辨奉書、七條院令召少將、可調進新御

堂供養華蓋云々、申庭弱不堪之由了、太無由事也、上

皇御幸水無瀨殿、御方違、宜秋門院又御重惱云々、

七日、天晴、未後又陰、昏微雨、入夜月出、辰時向修善

之所、今日束帶、雖無指故、依無奴袴也、忠定中將之外人未來、暫言

談、問一日賢所供奉裝束事、先例不分明、慥不勘得云

云、右將二人參、實經朝臣闕腋行幸裝束、師季縫腋壺

警固裝束云々、又駒牽事等粗問答、少時頭辨直衣、來

加、導師即來臨、成寶僧正也、此間懺法了、即始講筵、

藤大納言、宰相中將、布衣、三位侍從高通、所緣違背之、後頗眉目歟、新

大納言、通具屬、直衣、次々加、此間說法了、已取布施、藤大納言

錦被物、新大宰相被取被物之間、源大納言通光、追加、

高通卿暫不取、各相示、兄卿云、如此事常事也、何事在

乎、承諾取之、兄卿云、土御門右府參臨時祭、二獻勸盃

之間、猶以中納言令取、其次取三獻之杯、此等定事也、

私案之、大臣猶參會、取四五獻之杯、其例多歟、次高

通卿取之、次予取生衣、傍人々雖立、猶突左膝插笏立

取之、置導師座乾方、頗向西、拔笏右廻退歸、道場之北

簾中陰明門院御座云々、仍存此儀還出、直退出歸廬、

心中猶不快、不參他所、今日五七日云々、刻限早速之

故歟、適人少之日也、今日忠定朝臣云、取御劔之間事、

祖父內府先經額間由聊被記置、又隨便經三間了、先日

予所示合也、頭辨又問此事、所答同前、頭辨云、賢所

供奉事、先例又兩樣共有例云々、其年々不審不勘見、

殿上人國通、忠定、雅經、長清、以下不委見、

頭註元曆例事、元曆二年賢所自西海入御、上宰相以下參草津奉迎、左中將公時、右少將範能、共縫腋負壺云云、

八日、自夜甚雨、終日如沃、蟄居、時々念誦、依無力偃臥、光家蒙宇佐使、催奉行職事、宗宣云、資隆資宗三人御點云々、

九日、甚雨、九條沐浴、女院御所固御物忌云々、仍不參、酉時歸廬、一條宮去春出家給、鞠足禪林寺僧正弟子、薨之由聞之、年十

高能卿後家宗家卿娘所奉養也、入夜伊勢幣延引之由、少將退出語之、

十日、天晴、夕雨降、早旦直衣詣二條、寂而無人、問預法師、答云、依可有御幸、午時許由云々、亭主兩人被參御所訖云々、此間家衡卿來會、予即退出、歸家休息、午時許又向、人數濟々焉、上皇不渡御、修明門院御幸云々、相待之間經時刻、未時許渡御云々、依公卿座狹、殿上

人以北對爲座云々、一日御幸日如此、是相國方之門內也、其路太無便、或隔世或踏石、輕々無極、導師聖覺、公卿十二人群集二間之中也、通光、師經、實宣、光親、有雅、賴平、顯俊、高通、忠行、清長、家衡、予也、恒例被物三重、生衣二、請僧被物二重、導師裏物了、公卿取之、不被過、□□□□與近習男等來見人數、若被加被物歟云々、事訖取布施之間、被物等私口、但見請僧一重之外被物不見、餘人數頗無便宜、仍早出了、入夜依番參院、按察云、日禱早出、如何、請僧生衣無其人、殿上人取了云々、尤後悔由答之、皇子薨問、例幣有無、猶事不切云々、今日午時許上皇御除服、定高朝臣陪膳、成長役送云々、

十一日、時雨間降、今朝始例念誦、例幣御拜御劔役、俄催少將、即參勤云々、入夜來云、御劔次將事、宗宣忘却不催之、有御問間、忽周章、上皇聞食、以定高朝臣有御勘發云々、

十二日、天晴、後聞、和長亂舞對捍之間、天氣不快、被

追放云々、如此事等尤不便云々、

十三日、天晴、午時許詣逆修所、今日又臨幸云々、午終

許渡御歟、導師猶聖覺云々、公卿通光、東帶、師經、同、

通具、直衣、隆衡、東、忠信、直、實宣、同、光親、東、有雅、直、

賴平、東、顯俊、同、清長、同、家衡、直衣、予、同、被物生衣相

合十二重云々、而十一人取之間、師經卿忽止家衡卿、殿

上人令取、不知其由、家衡、予、可取請僧被物由被示、只隨命

耳、事了各退出之間、宗宣乘駿牛車覆洞院河落、車損

亡入水云々、經時朝臣又落緣顛倒、今日殿上人可束帶

由沙汰云々、狹少無禮儀、頗不知其由、長清經時布衣

退出云々、依先日召、乘月參內大臣殿、光家在車、如此

數寄、老屈太難堪、無入興思、依殊召參、有密々歌合、良

久了後、於御內出居有此事、隱作者粗評判、知家朝

臣、兼隆、光家、在座講師季忠五首定了、又有當座歌、予

風情已盡了、非歌體、鷄鳴退出、心神失度、太無益之

道也、但今夜始終無片雲、

十四日、天晴、病惱窮屈如亡、

十五日、天晴、入夜參院、逢越中內侍、仰云、宇佐使事

殊有思食旨、光家猶不及子細可書立者、予日來雖有

申入旨、仰旨猶如此、此上不及子細、仍懇領狀、但事更

不可合期、云期日云前途、遼遠之程旁有不審、仍尋番

陰陽師範實、令卜此事、占云、似有事妨、如何々々、

十六日、天晴、早旦參左大臣殿、申宇佐使事、又有被仰

旨等、をとは只出立之外無異儀歟、入夜參院、番、按

察奉召知長被勘責、又有御教訓師等云々、但不及勅勘

歟、

十七日、

十八日、天晴陰、參吉水御房、申宇佐使間事、但不見

參、依嶮岨不能登阪、示置全宗律師、參實全僧正房閑

談、移漏退出、參新院謁女房、夕歸廬、今日山門衆徒、

又有不靜之聞、清水寺周章云々、被召僧綱等有御尋云

云、不聞其事、

十九日、入夜參院名謁、今日南京惡僧流罪云々、顯俊

卿著外記廳、少納言顯平參云々、

廿日、朝間雨降、已後晴、參中宮、少時退出、參仁和寺宮、日來御不例云々、以僧都有被仰旨等、可勸念佛由被仰、被開御堂障子、爲遙拜尊容也、書著到三千反退出、

廿一日、自未時雨降、內裏御物忌云々、

六條殿

廿二日、天晴、夜參院、今日供花結願之由、人々語之、名謁了退出、親定、忠行、於御前俄相撲云々、上北面若殿上人等也、

廿三日、天晴、

廿四日、天晴、裁小梅樹、仁和寺僧都下枝也、

廿五日、雨如注、

廿六日、終夜今朝大雨如注、朝後晴、入夜參院、名謁、定通、實氏、親定、忠行、清長、今夜宜秋門院御不例重間、光家使節難遂由申入、

廿七日、天晴、時雨間降、參宜秋門院、忠行卿參會、宿九條、沐浴、

廿八日、天晴、參上內大臣殿、大納言殿見參、入夜參

院、番、使節事被催事、資隆、資俊、隨其左右可被仰由、以掌侍被仰出、今夜右府初出仕直衣、云々、知長被遣召、深更參云々、或人云、右府初參之次、申所職辭退事、再三有不許仰、承伏退出云々、一條宮薨奏、錫紵於可有乎由、被問人、左大臣殿尤可被行由令申給云々、延喜源惟時有錫紵之例云々、委旨見師重勘文云々、未尋見、

廿九日、晴陰、

卅日、天晴、國通中將修例八講、雖兼日相觸、稱勞事不到向、遠路病者難堪之上、又有所存、

○閏九月

一日、天晴、早旦女房奉書云、宇佐使事猶可構勤仕、宜秋門院又別事不御之由、有其聞歟、申畏承了由、又此旨告侍從、令申左大臣殿、今日令始例星供、入夜參院、深更名謁、定通顯俊卿已下、

二日、天晴陰、午後雨降、入夜甚雨、昨今日御物忌、少將自一昨日籠候、入夜退出、又依番歸參、宿侍云々、此

物忌、郭公聲入天聽之故云々、

三日、天晴、少將今日朝夕兩度參院御方、御鞠云々、此間頻有褒美之仰云々、此事極存外也、予平生所思、皆以相遠、是只運之拙也、樂天樂府之篇誠邊功生遲堪武藝、遂赴胡城、父子之所存、古今皆異、何爲乎、

四日、天晴、少將又依召參御鞠云々、未時參院、御鞠之間也、上北面之輩、異口同音響應此鞠、天下第一之體骨云々、不沙汰而不長此道は無極遺恨也、尤入心可練習事也、父不請歟之由有天氣云々、恐惶無極にや、雖何道、得其骨爲上手ば、尤可謂面目歟、但不知案内事、不能口入之條、無計略事歟、爲之如何由、示左近丁、心中所存、誠以無由、雖宗長雅經朝臣、得何益乎、此事不入與ば、可招身不祥歟、是物惡之至、家之磨滅、可悲而有餘、御幸川崎、出御了、歸廬、此事入與之儀、廻案無其計、何爲乎、

五日、天晴、參宜秋門院、昨日午時許渡御、光盛卿梅小路東洞院宅云々、昨日以御與渡御、其後無御増云々、左大臣殿見參、大納言殿同御座、奈賀僧正御

同、又內大臣殿御參、同見參之間、入夜退出、家僕來告、自院有召由、即馳歸參入、出御馬場殿、有連歌之興、有心實氏卿、雅經朝臣、行能、無心衆皆參、折紙六枚、賦黑白、天氣快然、臨曉名謁退出、

六日、晴陰、以康房令切嵯峨木、爲切立也、爲入見參也、但稱其木有煩由、不相具歸來、御幸最勝寺云々、少將參內、

七日、午後雨降、少將參御鞠、朝、明後日行幸俄有其間云々、三條殿云々、

八日、雨止漸晴、昨日取寄木、告二條中將來臨、立其木、入夜行九條、沐浴宿、

九日、天晴、朝歸廬、入夜參內、先參院、行幸七條殿云々、戌

終許出御、右大將、大納言師經、中納言隆衡、忠信、實宣、光親、有雅、參議賴平、實氏、公氏、三位公賴、家衡、子、左將忠定、家兼、爲家、親通、右雅清、家嗣、敦通、師季、少納言家時、職事兩頭、兩勾勘等通夜祇候、與中將睡眠、御前有連歌云々、

十日、午後雨降、印圓來云、預阿開梨解文、金剛勝院三、人之由云々、此間少將依召參院、即歸來、以越中內侍蒙仰事云々、御鞠之間事云々、入夜又歸參、深更歸來云々、雖夜番依夜前屈不能參、

十一日、已後雨止、未時晴、入夜參院、名謁、顯俊忠行云々、少將宿候內御方云々、今夜聊有聞及事、不知向後事、

十二日、天晴、少將又參御鞠、夜又參云々、

十三日、午後雨降、夕止、今日仁和寺宮被供養結緣經之由、印圓語之、○以下闕文アリ何有還御之儀乎、此間藏人來

示廣基參由、口時勘文同持參云々、家衡卿云、明曉參天王寺、已可

混合者、即退出、予參院御方、與時賢中將睡眠北面、上

皇御直衣出御云々、少時又入御、亥終許又參內御方之

間、女官等昇出御物、奇思見南庭、立明已立、周章出

殿上方、公卿皆著靴、出御了云々、說々相違、尤爲奇、

即列立、公卿太多、委不見、上衆園司奏了、少納言家時

奏、寄御輿、鈴奏始間、雅行卿道加列、今夜初見此人、左將忠定、通時、家兼、基

保、爲家、右將兼季、雅清、家嗣、實時、實經、時賢、予、

以雜色雖告遂遲參、在中門外、賴平卿安御劔之間、予

揖前行、先是雅行卿、步行如例、引立閑院南庭、雅行、予、

有能、顯俊、有雅、光親、實宣、忠信、敦成、雅親、公宣、

忠房、良平、師經、通光、淺履白後列、御輿入御了、師經、有雅

卿、私退入軒廊方了、博陸不參給、職事兩頭兩勾勘歟、

不委見、忠定朝臣間名謁、稱籍退入、經軒廊二間宣仁

青礫門、即著淺履退出之間、賢所渡御、敦通親通供奉、

實宣師經卿相共隱門、過御了各退出、少將改直衣祇

候、曉鐘之程退出云々、今夜右府已上表、實時朝臣持

參云々、每事早速歟、

十七日、天晴、隆衡中納言使者來、示五節薄樣事、五節

中納言、按察宰相、隆濟、信乃、隆衡卿、越中、仲經卿云々、

十八日、天晴、親成宿禰來談、未時許參中宮、謁女房、

相次參高樂寺僧正御房、見參、日入之間歸廬、少將參

院御鞠、退出云々、入夜參院、名謁、亥終許退出、光親、

實氏、忠行卿已下、

十九日、天晴、朝行九條沐浴、入夜參左大臣殿、見參移

漏、夜半許歸九條宿、少將參院、御鞠、又參內、入夜依召又參院、蒙仰退出云々、

廿日、天晴、早旦歸廬、今日御方違御幸水無瀬殿云々、靜快律師來談、

廿一日、天晴、未後陰、秉燭之程參中宮、謁女房退出、少將終日候內、今夜參院云々、子終退出、

廿二日、自朝雨降、入夜止、自內給歌合一司、可加判云云、入夜參院、亥時許名謁退出、

廿三日、天晴、歌合加判詞、付少將進上之、今夕熊野御精進屋御幸云々、少將參院御鞠云々、日入以後自內退出、即著束帶、秉燭以後參御幸、予密出見物、良久出御、昏黑不見人面、又人數不幾、殿上人顯平、實茂、經範、爲家、成長、布衣、敦通、資經、賴房、雅清、家嗣、野劍、隨身、保季、公卿家衡、公賴、清長、直衣、公氏、有雅、實宣、師經、通光卿、

廿四日、天晴、昨今心神惱、不出行、

廿五日、天晴、夕向新大納言亭、灸治籠居云々、清談之

後、入夜歸華、宇佐事爲相觸也、

廿六日、雨降、夕晴、夫召出二人、送清範朝臣許、二人送掌侍、入夜女房退出、爲始精進也、夜侍從來、今朝忠弘下向田舍、

廿七日、天晴、今曉御進發云々、山僧都被來談、入夜女房歸參、依有依違事不精進、

廿八日、天晴、依徒然、植庭樹、

廿九日、晦、雨降、未後休、入夜又微雨、終夜滴階、參仁和寺宮、逢覺實上座、又申參入出、仰云、勞事逐日有增無減、然而又非火急之體事者、暫清談退出、向長屋尼公許、閑談之後、自一條路歸、向亞相御許、謁相公、法印僧都又清談、臨昏歸廬、自內給例御製、可合點進由有仰事、即進上之、歌合之料十首云々、

○十月

一日、天明雨止、陽景晴陰、微雨間灑、少將著衣冠參內、平座出仕之人、大納言通光、中納言公宣、實宣、參議公氏、顯俊卿、辨範時、經高、家宣、長資、少納言顯平、

五位藏人宗宣、殿上人忠定朝臣、一人著白重云々、今

日又植庭樹、梅松替其所、依徒然也、入夜、十五
日方退、

二日、夜雨止、朝霧深、辰時許行九條、沐浴宿、侍從來、

三日、天晴、早旦歸廬、九條人々相具、入夜被參高陽院

殿、自內給歌合、可加判詞之由有仰事、

四日、天晴、歌合審詞進上了、未時許參陰明門院、相次

參修明門院、即歸廬、入夜侍從來、少將夕自內退出、忽

有不例之氣、身溫頭打云々、令修土公祭、

五日、天晴、少將今朝無殊事、未時許參內了、昏黑法印

僧都來坐、秉燭以後參高陽院殿、雖留守間、番日人々

可參內、女房內々示送、仍雖參入、番衆不見、北面下部、

依太無骨、只申入女房、即歸家、

六日、天晴、少納言順平來門前、相伴少將向大柳、經

長、賴教等會合蹴鞠云々、未時許歸來、參內了、九條

人々自御所退出、即歸九條、自明日精進、來九日、此男

女子息、相共可參日吉料也、

七日、天晴、午時許參宜秋門院、御懺法結願云々、良久

左大臣殿、大納言殿令出給之間、藤大納言參入、少時

僧著座了、公卿著御前、左大臣殿烏帽、御衣、御坐北端、兩丞

相經前次第著座、依無其便、予不著座、暫退座妻戶外、

此公卿座自南而西數疊、如尋常者、東上可折北、而御所在北、上腰御座如此、此間帥、三條中納言實

宣、參入、相共又入本公卿座暫坐、次事訖、大納言以下

布施、但被物口別一重也、裏物近代公卿多取之、但可

隨形勢由、予兼示兼時朝臣、相觸中納言之處、同心者、早

可取由承諾、即藤大納言被物、中納言裏物寄了、殿上

人取之、次大納言殿、予取裏物了、即退出、參五條前齋

宮、謁女房退出、昏歸廬、女院參殿上人太多、

八日、天晴、

九日、天晴、風寒、北山雲慘、若雪氣歟、行嵯峨、片時見

廻、法印出京之間云々、掘鷄冠木一本歸、

十日、天晴、

十一日、天晴、參高陽院殿、實全僧正參會清談、相次參

陰明門院、隆賴來談、又謁女房退出、參新院、備前內侍

言談、夕退出、

十二日、天晴、四位少納言過談、參籠八幡之間、出京可相逢由約束、依宇佐事、送使者之故也、良久談使節之事、昏黑退歸、

十三日、天晴、季嚴僧都來談之次云、關東消息、五代集可營送由也、予書古今乎云々、老眼不堪、旁雖無術事、已非能書之儀、依歌仙之數、不被厭鳥跡者、不可遁避由領狀了、即退還、內裡女房消息云、明後日少將申物詣由、後日有殊御用事止乎者、申畏承由、實宣中納言妻平安生男子云々、珍重々々、

十四日、天晴陰、時雨、寒風雷鳴、入夜宮內卿過談、少沐浴之間、周章出逢、清談之間、不覺而及鷄鳴、寒月皓然、千載一遇也、

十五日、天晴、午後大風、午時許參仁和寺宮、以覺寬上座蒙恩言、爲念佛緣結參由申之、書著到、暫言談之間、資元朝臣參入、申天機事（雷鳴）、之間、京方有炎上云々、即退出馳歸、四條坊門西洞院邊云々、坤風甚烈、須臾之間及三四町云々、路次參陰明門院、忠定中將衣冠

在地上、問其故、昨日眞覺法印法事所取布施之間、南山方黑太重故云々、申入女房、即退出歸蓬、雖不及恐坤風尤惡、已出高倉云々、又乘車、於姉小路烏丸東洞院邊日入之、三方火盛、東出河原、右大將新宅已以燒失云云、又歸入此方、白河泉殿火付云々、屋一二宇燒了、但打滅云々、近日蓬屋無人、又牛車等今朝送坂本了、旁無其計略之處、火已赴東了、尤爲哀加、傳聞三條殿女院、前中納言、（三條北、烏丸東、成定中將跡同北洞院東、等全、火三條東行、但業忠朝臣跡門燒了、成定顯兼卿南小家燒、梁忠其宅全、高倉東及姉小路季經卿不燒、小路北、其東行經家宅也、燒、姉北、富悲田院燒了、出河原、綾小路東行、公明卿綾小路南、門燒屋殘、其罪公光、高倉東、師季少將典、綾小路以北、皆出河原燒了、院權中納言局、阿波三郎、有家卿、源時房母宅、宗長朝臣、四條南、公卿朝臣、四條、明圓堂、三條南、京極寺、六角堂、此間悉燒了、十六日、天晴、未明出門、少々見廻燒跡、午時許物詣人入歸來、

十七日、天晴、巳時許、二條中將相伴伊時中將已下鞠足入蓬門、蹴鞠爲試懸云々、存外之興也、經長保教第二子、右僧二人、烏丸子、木名人等也、退歸之後、密々向大內、見紅葉、被招引少年、老狂之至也、

十八日、天晴、行九條沐浴、頗有惱氣、依風疑也、乘燭參左大臣殿、季清隆經闕請、右少辨長資參入書之云云、頭辨參、合談宇佐事、依心神惱早出、夜半許有火、三條坊門北、高倉東小屋、源大納言南隣云々、不經時刻滅了、

十九日、自朝雨降、終日甚雨、雲赴西北、

廿日、曉天晴、朝陽鮮、已後又雨、間晴、今日南京受戒云々、長尾禪師今曉出京、烏丸盛綱依彼消息令送、出立自眞惠僧都壇所云々、未刻許參內、季御禮經散位殊不參歟、但又出仕之例多、

今度有儀、暫停御南殿御後、左大臣殿於陣令定御前僧給、新宰相書之云々、以右少辨長資被奏、入宮、還出了、藏人資賴奉行、出陣事具了者、可始由仰之退出、次召同辨仰鐘云々、鐘鳴、此間予在弓場方、左大臣殿去過給了、藤大納言

同被著殿上了、予入無名神仙門、著殿上末座、公氏公賴卿本自在座、博陸殿下御坐、次被催出居、公氏卿召藏人仰之、出居參上、中

將雅清朝臣、家嗣卿、家信卿、次博陸觸氣色立給、公氏卿已下平伏、次左府御著座、平伏同前、予動座、次兩卿著座、修理揖立、於上戸內伺見、公氏卿座過柱、仍還來、二人言談、別當新宰相、顯後、左中將忠定、左將今、日一人、左

少將教通候南殿云々、事訖被催行香、予解劔置座前、笏給兩人經上戸、自簀子加座末座、置上加著座之人、頭辨昇長押向北

橫坐、雅清朝臣同相並坐、分輪各立北行、立荒海障子下、各立了、次第南行、行香了、經散花机西、又立出居座邊、又次第昇簀子、如本坐、了返輪、予經簀子還著殿上、帶劔即指沓下、引直裙揖退出、經御後、于時乘燭、參陰明門

院、謁女房、太理局、戌終許歸廬、女房今日參詣賀茂云々、

廿一日、天晴、申時許參中宮、日入之程退出、著狩衣行向圓能法印房、閑談、是少年之知音也、陣座事、入夜漏歸廬、今日清水寺法師廿人許登山、可爲天台末寺之由所望、衆徒搥鐘議此事云々、天狗之所存歟、更以不

足言

廿二日、天晴陰、時雨間灑、今日上皇入御、入夜參、戌終許名謁訖退出、女房今夜參、使節事逐日荒廢、無芳心之人、依炎上又以違約、難遂前運歟、

廿三日、天晴、聊有隙不可參由、示送藏人少輔許之處、人數少由答之、仍更以出仕、未時先參院、河崎御幸以後云々、源大納言、新宰相、職事、右中左少辨等參云、前後各參內、僧遲參之間、空及晚頭云々、少時人々少府

殿上、予加之、大納言師經卿、三位家衡、皆候座、雅親卿又

來著端資輒奏事由、仰可始由、鐘鳴之、後陞公卿移著

殿上、中宮大夫外座、源大納言光著奥、外長押之
間不屈膝、公氏卿

又著奧、屈膝外、家良卿同著、不屈次上卿被催出居、中將

國通朝臣、忠定、雅清、家嗣、次納言四人

著御前座、逼其末了、堂童子左方、豫經南殿方、自東

良方儲秋戶方云々、榎基、藏人資俊、右衆資宗、顯平、頭中將仰度者云

云、不見其儀、事訖催行香、先是藤大納官退出、今一人不足、頭辨

今日坐簪子、予過柱外長押、大狹頭在其末簪于、行香如例訖、還殿上帶劍、

人々又退出、予即退出、今夜雖番不參、僕從無一人、

廿四日、天晴、巳時參院、人々跟々、申時許御幸川崎之
後謁掌侍、宇佐經營難治、少將五節出仕難構、得有事

八日者、無其責樣、可有披露由也、依清水寺寄文、山門衆徒一同納受、成寺牒、欲記清水由、昨日有其聞、公家被

仰座主被止其事歟、不委聞、是乞食法師等謀書云々、次第可謂奇異、今日自此冬、祭可被立近衛使、六月會

辨可行由等、重可被仰下由有沙汰云々、被宥彼事之故

歟、山門凶惡不可有間斷、佛法磨滅之期、魔姓外一歟、

退出向丞相亭、病後始閑談、摩可同坐、早出、臨昏黑參

內大臣殿、御産之後過
卅日云々又見參、移漏之間、深更退出、窮屈

失度、或人云、山門不公儀、清水謀害等、或山僧庶幾構

出云々、彼是之說、實否難知、

廿五日、天晴、自院朝鞠少將被召云々、還御以後無召、

今日始有此事、風病更發、心神惱、傳聞、故中宮大夫

家房
卿也、母儀北政所并其姬君、去年造新宅被居住、弘野院東町、祖母相

國堂之數
地巽角、
件家南戶有穴、自其穴指出黑小手、又常有倒

嘉保元年 十月

三百二十五

舞足音、此間又相加白手、依此事人多見之、爲人不成害、更不憚稠人、白晝有此事、因茲昨日時賢中將行向夜宿、今朝被遣左金吾太理兩卿、被檢知云々、此事尤足驚奇、不憚人之條、未聞事歟、

廿六日、天晴、咳病太惱、曉鐘之後扶起參內、源中納言一人坐小板敷、暫閑談之後、人々漸參入、頭辨以藏人相觸召仰事、納言云、輕服之後未著陣、但今日吉日歟、以此次用吉書、何事在乎、示合權中納言、公、即著陣、行之被還來、其後良久天已明了之後出御云々、中納言定通、雅親、公宣、有雅、參議賴平卿列、近將左國通卿、伊時、信能、爲家、右雅清、家嗣、通時、敦通、師季、親通、渡三人之間、被渡左之後右將參云々少納言顯平、每事如例、入御高陽院殿了、鈴奏了、予即揖退出丁、口出以後也、仍無名詞山門事未落居、得清水寄文之後、猶欲進奏狀云々、自夕心神殊惱、仍不出仕、今日又有御鞠、夜又依召參云々、還來云、白拍子於院御方舞、內禮部局所望云々、男女房窺見、今日山所司社司等參、申清水可爲末寺事云々、

廿七日、天晴、咳病殊惱、人云、夜前密々渡御、聞食八條靈物云々、還御云々、公卿大納言師經卿、中納言定通、雅親、忠信、光親、有雅、三位家良、家衡卿、左將國通、忠定、信能、通時、公棟、爲家、親通、右將公雅、雅清、家嗣、敦通、師季、宗平、少納言信定云々、

廿八日、天晴、巷說、清水寺事、本寺出寄文之上、不問知食之由、被仰放山門、仍山僧等入坐彼寺、寺僧取佛像逃去、或云、出奔南京云々、南北衆徒犯亂本寺、本山磨滅、只在此事歟、敦通少將稱惡事由、被過來、扶病相逢、披陳之旨太不思議、物惡至極之人歟、予更無處于口入耳、去月之比、九條稱宮尼公九條院聖子之所望、是二條院宮、家人判官代爲取女向清水邊、其判官代兄年來在少將許、稱藏人、其男相具、夜中寺僧等成奇打留之、欲及耻之間、稱六角少將殿家人由、法橋珍舞之子依相知、請受放遣、而院中敦通爲取女向清水邊、被剝腹卷、被折大刀山有沙汰云云、此事更不足言歟、只物惡之餘也、此連枝兩人、雖不同心、不運已一同歟、可悲人也、

廿九日、天晴、午時已御水無瀬殿訖云々、兩方衆徒犯亂、清水近邊、運雜物逃亡、天下不靜云々、少將依召參院、爲御使參內、御書、御返事、御幸三條殿之間持參、召寄令取御書御、即退出、自三條殿御七條殿、又可御河陽云々、入夜聞、左京權大夫年來近習御所勞、守御讀經案衣服奉行入、親綱於和泉國所領、恩給、春日神人有南京之訴訟、今日被追却御所云々、去秋爲御使、追能玄律師、今日預此事、只可詠大行路之篇、

卅日、天晴、二條中將過談、今日參水無瀬殿云々、南山御幸御進發前日、刑部卿之侍兵衛尉引牢武士、追捕女房濃州後見之家、剝斬殺醫王之先達法師、依此事天氣不快然、而于今無被仰出旨事、左京權大夫親綱已解官之山、被召返件所領了、去廿七日實經朝臣、從四位下右近少將逝去、年十八、此等事未聞分明之說、就中少將所勞獲麟之由、行幸曉人々雖相談、未聞及、慙而有餘、彼家磨滅、尤可奇事也、繁昌榮華之家、又有如此事、誠迷是非者歟、傳聞、座主今日上表云々、天下之惡事無間斷、院

仰云、奈良法師發向者、可行宇治橋、不可來云々、如此事其枝葉、只使節違亂變改之基也、入夜前治部卿送使者、南祭使家兼少將、摺袴等間事也、

〇十一月

一日、天晴、六角尼上被渡、依金吾遠忌、向吉田便路云云、靜快律師來談、今日自御社出京、依御祈降魔天供、去月參籠了云々、

二日、天晴、自水無瀬殿女房示送云、少將可著小忌之由有仰事、父領狀歟云々、此事不得心、愚父爭抑留哉、但不見不歷事、惣不知子細之由、示送清範許了、今夜宿忠弘宅、

三日、天晴、

四日、天晴、微雨、僧都過談、座主辭狀被返云々、僧綱等爲制止、可登山由被仰云々、人云、長兼卿、資賴卿出家云々、不知一定、後聞、納言事虛言也、雖假不被許云々、

五日、天晴、南京衆徒來八日必定發向云々、此事於南

京者尤得理歟、傳聞、明後日自河陽還御、俄有此儀云云、依此事歟、資賴三位一定由聞之間、時弘示送返事云、依如病事遂此思、頗非所思、仍適以無事時、遂此思許也云々、尤可然、猶可謂案者、乘燭以後地震、是又不吉歟、深更少將退出云、春日祭延引了、依衆徒事歟、但停止歟、五節於高陽院殿可被行之由、今日有御消息云々、兩童定御覽歟、是中院行幸料云々、於中院行幸者已經久、於事便宜者、適被模大內節會、渡御他所太無益歟、是只末代之猶不相應歟、

六日、天晴、亞相昨日兩度有消息、八日可修佛事、不可申外人訪來哉云々、春華門院御忌入講院御點之由、長清朝臣再責之、依寒風難堪、申重病由、旁雖有恐、依兩度消息愁煩狀、

七日、天晴、還御云々、季嚴僧都來門前、稱所勞由不逢、廣基朝臣又來門前、同不相逢、傳聞、遣武士被守護南京路頭云々、圓嚴法師今日賜暇行南京、近日衆徒皆戎服云々、

八日、天晴、二條中將過談、南京衆徒今日進發延引十四日云々、大明神可有御進發、氏公卿可參向之由觸廻云々、又氏受領可進兵糧米之由同廻云々、道長法印爲御使登山、且訓釋、又威伏之處、天台衆徒半承諾、隨勅定可存檢使由大略申之、谷々已出證文云々、於南京者召出結構寄文法師可給由申云々、予有示付此中將事、且依其事清談也、雖恥追從、漁父之跡也、將軍被求和歌文書之由聞之、仍所相傳之秘藏萬葉集奉送山書狀、昨日付此羽林了、廣元朝臣消息之次、下官有愁訴歟、可委承由示送之由、先度對面之時中將語之、依其事表此志也、勢州地頭事、年來之愁訴何事過之乎、予本自依不染世事不奔營、此事被尋問之時猶默止乎、仍示達其事也、神祇間行幸之間不審、惣不知此事、自大內出御之時、大忌陣不供奉、自里內出御時、大忌近將參之由有沙汰云々、又卯日著小忌人、辰日著位袍出仕、有其例由有沙汰云々、如此事惣不知及之、偏以仰天之由答了、午時許謝返、漸載冠帶、未四點許參向坊城殿、

亞相即被謁、世上事被歎息、今度還御、大略密々申之、又御祈事申請云々、於當時之輩者、可謂忠臣歟、申時許事始、曼陀羅供、公胤僧正、宰相中將高通、基行卿、公雅、賴房、信能、不取布施親長、實經、基隆諸大夫等也、不及廣云々、昏黑歸家、

九日、天陰、微雨間降、甚寒、僧都過談、山上東塔已無爲、西塔猶不隨勅定、今日殊被仰西塔、僧綱儘可加制止由有院宣云々、

十日、天陰、冱寒、未後晴、乘燭以後參內、人々漸參集、今夜可有女官除目云々、藤大納言、實氏、宰相中將供奉其事、向陣方、但相公云、物忿之間於入御之所可行云々、典侍、仲經卿女、敦通少將舊室云々、召仰了、即出御、右將渡、公卿列立、多事如例、大納言師經卿、中納言雅親卿、有雅卿、參議實氏卿、公氏卿、三位公賴、有能、家衡、家良、通方卿、左將國通、忠定、雅經、公棟、爲家、親通、右將公雅、師季、少納言顯平、賢所供奉基保、右宗平云々、國通朝臣問名謁、入御了退

出、今夜吉水御房、自天王寺送給采繩十四、吳綿百兩、宇佐出立事先日申之、衆徒物忿之中芳志之至也、自余人々訪寄事如此、參籠皆以變改、歸廬之後、向中將忽來臨、被相示行幸事、不遇其事、不知不見由答了、猶爲伺御氣色、可書與篇目由被示、仍書不審土代、

十一日、天晴、參左大臣殿、終日見參、入夜相具侍從歸廬、少將今夜密々參入、不可交衆云々、清實之餘也、侍從爲恥云々又參內、束帶、太不可然事

十二日、天晴、鷄鳴以後、雨息歸來、少將候御前、與左衛門督見物云々侍從云、貫首廻北陣之路、出中築垣小戶、經院御方南、掩御氣云々以西殿上屋爲五節所、以公卿座爲帳臺、自西四脚五節參入咫尺、越中計參入童昇降路又不幾、光家取按察信濃兩度茵、雖咫尺茵二方兼行不聞事也、行事人々每事如不存云々、所役只隨在、狼藉無極云々、關白殿、內大臣殿、大納言、公卿從云々、殿上人不少、兩頭、國通、伊時、隆仲、雅清、雅經、信能、實信、範茂、範宗、時賢、家兼、知長、職事二人、兼隆、基保、賴親、資通、親

平、家季、資宗、資俊、資隆、顯平、經長、家光、光俊、午時許少將又參內、如日來裝束、隱居夕來云、只

今祖廻了、欲參女院淵醉、在南殿邊云々、其儀了可參中宮、其後可歸參云々、戌終許侍從又參內、也、早速殿上人

廿餘人云々、親平少將打衣、以金銀鍊置菊花、基保褂

三格子唐織物、中將家嗣朝臣褂入綿、伊時朝臣柳厚衣、兩頭紅梅敦衣、頭中將固文指貫、一薦康光不出仕、

預二薦永光、預五郎下薦盛方解劔云々、今日風流櫛等構出送之、按察火桶押給以御爲炭、以白物爲灰、櫛廿人之炬屋一、以御其上爲檢皮、

以御其爲立節、男一人居其內、以花田送向中納言許、外辨牀子

兀子等、各以一裏爲帖、大臣兀子前又置一裏、爲位記莖、送左兵衛督許了、

十三日、天晴、天曙兩人來、只今御前召、始朗詠今樣之間、依打梨退出、脩明門推參、久經程退出、人々遲參、

只今御前試了、舞姬退下、童女昇降、扶持之間、役人等大狼藉云々、末座殿上人等入五節所乞櫛、六位藏人等

來奪取蒙衣、雜女又如此、凡散々云々、逐年如此歟、

午時許少將又參了、尋常直衣、猶上詰、今日御罷五節所、可候御共、按察別當範茂朝臣、爲家可候御共云々、

酉時許還來云、今日無其事云々、童御覽了、又院推參、

同所兩口參女無與歟、未聞殿上人別參院儀、自此夕甲兵馳奔、明

母后以下親王以上同宿之時、參其御方歟、日南京衆徒必定發向云々、彼是水火之儀、塾居迷是非、

神祇官之儀等、惣不知其案內之由、日來示送清範朝

臣之許、今日以女房有住給事云々、其手跡清範書之、

只任其狀可存由示合了、又巷說云、武士等明曉可向宇

治云々、南都衆徒其勢不可勝計云々、吉野法師猶一人

之勢二萬云々、後聞、前右府公權參修明門淵醉座、亂舞

云々、

十四日、天晴、鷄鳴之後少將退出、夜前參入之間、猶院

推參、亂舞及深更、人々退出之後、帶弓箭、殊不及時刻

行幸、小忌中納言定通卿、參議賴平卿列立、寄腰與、左

將雅經、信能、家兼、爲家、右將雅清、家嗣、範茂、師

季、皆著頭中將經通朝臣役劔璽、出西中門并西門大炊

御門大路西行、入神祇官北門、右大將、兩源大納言、源中

納言、雅親、櫛中納言公宣在大忌幄前、入御了、御浴之間

事不見、資賴供奉御湯殿事、四位不聞其人云々、臨剋

限近將陣南庭、立陣相對、爲家不陣列、此事未知其由、依御氣色也、自幔邊進

出於階腋跪也、解胡籙劔倚階置弓、脫沓於階下昇開

戶、左東、右西、左右將各取幕、取具扉抑之跪膝行、右將師季也、作法大略同

前、進自陣云々、神供之間如此、事了閉戶退下、取兵具

退給、隨身在正廳良方、殿上人群立、無座云々、撤神具之間又進立、

開戶之儀如初、事訖退下、帶弓箭劔、次出御之儀同前、

左將在東、右將在西、扣御輿於北門外、右中將雅清間、

大忌公卿、右大將、新大納言通具卿二人云々、路頭猶

左將在右、右將在左、入御本宮訖退出云々、於本宮有

警蹕云々、舊記無之如何之事、自余事不見不聞云々、

近代穩便之人故如此歟、侍從資俊著小忌、供奉御後云

云、關白殿御坐御輿御後、不著小忌給、例細太刀、隨身壺垂袴、於神

祇官坐北廂內給云々、右大將平胡籙、隨身同前、家光

宮內、又著小忌、路頭不見云々、未時依召少將參內、可

御覽五節所云々、昏歸來、即著小忌參內、今年白口蔭、

借二條中將、今日小忌家嗣朝臣、親平、次將、三人、頭中將、藏

人永光、上卿宰相、辨、少納言之外不著云々、此說秘事

口傳之由有沙汰云々、竊尋先例、中古以來侍從大略著

之、況次將勿論夜前著之、今夕脫之條、頗爲珍事、又今

夜著之、殊拔群由歟、凡恩意不及、入夜參內、掌侍頻雖

尋人參否、奉行頭中將、內辨頗遲々云々、良久內辨左大令

參給、頭中將奏外任奏、今夜小忌賴平宰相公氏卿之外

不參由聞之、仍伺陣座之處、權大夫殿、三位中將家良、

三人在座、又挾小、仍不著、被下外任之間、又向陣方著

靴、內大臣殿以下起座著靴、小忌上卿未參云々、內大

臣殿先入幔門令著給了、次被催著小忌宰相、次々次

第著、未有口牀子二脚、仍權大夫殿、公氏卿、親定卿、

家良卿、予、著其後、經時刻、出御遲々歟、又密々御覽之儀等自然遲々歟、良久近

將引陣云々、內辨謝座開門、關司召舍人、少納言顯平

起揖、坐時超牀子著、辨長資白前考、其裾如公卿在左前、出幔門了、次小忌定通卿立

出、迎々間道參入加著也、次宰相同、次內大臣殿令起給、已次皆起

聲折、令出幔門給之間復座、次第立揖、出雁行、人數太

多、或白中門邊多加列、大納言通光、師經、通具、中納言忠房、雅

親、公宣、忠信、有雅、二位、權大夫殿、參議公氏、三位親

定、家良、下官、次第入中門列立、小忌一列、大納言之

末、二位中納言、所、卿難退大納言後、三位中納言、有雅、其

末二位宰相、三位等、所、狹大略平頭立定被仰敷尹謝座、謝座如

例、次第參上、規定以上之人經禮四、自大臣跡別當親定卿不

昇退歸、予猶強昇、與牀十三人著之經東廂實甜、床子之末三四寸

出柱外代、而入北一間、更經家良卿之後、自座下不超

而立前揖坐、問、源大納言起揖、自東階間下簀

子、要入立蔀內、出北鳥居障子、次通具卿又如此、次定

通卿、雅親卿、公宣、忠信卿、起出同障子、大臣、師經卿、

忠房卿、公氏卿、宰相人也、權大夫殿、賴平卿、是不訪

五節所人也、予又起、猶經柱間向五節所、別當親定卿

等靴ヲ西ニ廻天更著也、昇御殿之間乍著不昇也、是今案也、予依此事煩、強著座也、到五

節所、各乞取櫛之外、無他上衆至、太以貪欲、數反所

至、部力先進之貫首猶不入受領五節所、况公卿乎、然而通光

卿以下次第廻四ヶ所、末座不可獨醒、又案、受領非古

之受領、即是隆衡仲經卿也、依櫛之大切案此由歟、末

座者得分不幾事、人々多雖不歸、猶復座、供白之

間也、但家良卿前猶不向臺盤及立箸、况下官玄隔也、人

定、一歟、是納言兀子次第引下之間、過其程也、次供

黑、參議座次一獻訖、權大夫殿起座給、仍予又起揖退

下、今度待便直下、每事有煩之故略也、兩樓有難歟、昇降有煩、仍直昇御殿南階、竊

召寄雜色令取沓、暫見物、不委見、大歌別當代公宣卿

舞姬拜之間、內辨著陣、令奏宣命見參給、御後方怖畏

不及、次宣命拜、予此間退出、月漸落西之間也、末座出

仕非人數、見物不幾、人々說、七條院御堂御奏文延引、

正月、南衆徒今日進發、在泉木津、夜前召山門張本四人

給檢非違使、山僧懨懨之思更不散、十八日資平中將

可爲祭使、衆徒不可見物云々、密々說云、上皇御後立

屏風御覽云々、御帳東間、此殿有緣庇、以緣庇爲御後、長押上有今

一間、其間立屏風也、近日雅清朝臣亂舞頗過分、人側

目、其身存賞玩之由頗危歟、生涯之案、吉凶難計、經長

惟方卿孫不依鞠昇殿、長宗、長方卿孫、宗隆卿次男、十一年奉仕龍樓、其

分憂任筑後、被試鞠不及第、資隆依亂舞昇殿、父不昇殿、猶存生、

行能筆額昇殿、與三代應土之家五節不出仕、有所存歟知長此間輕服

依雲路事、可闕丑寅日出仕、賜裝束丑日殿父遠忌也、不憚

亂舞狂亂、右丞相上表未返絡、去夏喪嫡男、月來蟄居、

今即前官也、參脩明門院、淵醉亂舞入興、賢者之所存古

今相異、情聞世上之儀、恩意只惘然迷是非、三人小忌清

撰、已是賤老之子也、可自愛々々々、女子又每度供奉扈

從、渡御內御方、御共二日、以權中納言、定輔嫡妹天下名人越中內

侍新中納言、下僕小女四人之外、他人不參云々、可驚可奇、

十五日、天晴、沐浴、未時欲參仁和寺之間、季嚴僧都來

臨相逢、即參御室、依勤今日念佛也、書著到、此次雖異

樣所、乞取櫛十裏、褰薄樣進入於五節所乞得之由申

也、實風流櫛殘等也、殊有恩容云々、又事外尋常御云

云、承悅無極、又有被仰事、聊歌改給也、昏黑退出、乘

月歸廬、寒月在東、素影皓然、巷說云、南京衆徒先陣已

來宇治、隔河與官軍張陣、且積置糧米、大軍不見後、與

南京相連云々、

十六日、天晴陰、參內候鬼間方、以治部大輔知長給櫛

數褻、已爲每年事、依承此事所參入也、并悅退出、參院

御方、稻荷御幸之間也、無人寂寞、即退出、參新院、謁

女房退出、參中宮、又謁女房、秉燭以後歸廬、

十七日、曉甚雨、但明月、朝後雨休、南北衆徒事無聞分

旨、明日日吉祭使左中將資平朝臣、忠綱、清範二人奉

行、忠綱行粧以下事、清範文書奉行歟北面五位以下被催者、有禪官人云

云、但其時臨時祭使之儀歟、舞人可爲府吉上云々、彼

是參者無聞驚、親嚴法印來談、又巷說云、衆徒已群集

宇治、或云、燒小倉方云々、不知其由、官軍引橋相距

云々、入夜參御所、番、今日公卿參集有議定云々、兩前

丞相伺候、但無聞分事、今夜左少辨家宣向宇治云々、

非仲連食其之器定被歟、使分日吉使又明曉必定被立云々、

伴中將日來有惱氣、依頗宜猶被進發、其儀傳聞、未明

秉燭參內給、幣如平野祭、使之儀云々、不渡京大路向加

治井邊、賴武賴次儲其邊、可取馬口、北面五位六位、

騎馬可渡馬場云々、舞人如祇園平野、或人云、殿上四

位引卒吉上舞人事、上卿辨已下諸司不著行祭、此使立

事、不渡京大路、又以近衛官人爲觀事、官人取口、威儀之人共侍騎馬渡事、如此事所據如何之由密々相語、

尊長法印又引卒數多武士、向社頭爲

賞翫云々、人々云、播磨國任先例催勤仕、度々可勤宇佐使料充事由、院宣此兩三月觸、奉行職事惣不奏下、公私可免由、度々日々夜々、如雨脚被仰之、於今者雖有御教書、無處于勤仕、一切不可沙汰由、今夜國司觸頭辨、曾無問答詞云々、過此時過此奉行、不運之最也、夜半名謁訖退出、教成、實氏、忠行、具女房退出、

十八日、天晴、不出行、不聞世事、入夜女房歸參、少將

詔云、昨日御馬御覽、忠定朝臣毛付記文、左右二通、經年中

行事障子北參進、座簀子圓座、引出御馬間、披左毛付

文置前、廻御馬三疋之間、仰乘れ、乘了、三反之程、今ハ

こそ御馬ヲ仕れ、引入了、引右御馬、又披毛付如前、又

仰乘、乘了、三反さやうにて候へと仰、立了云々、越

中内侍奉、俄召少將、直衣不知其由、進覽、即持歸、今日

承明門院女房奉書送給吳綿、字佐事也、申拜感由了、後聞、

辰時使中將參内、一如平野祭使、

十九日、夜雨晴、曉月明、已後又雨降、午時漸晴、臨時

祭使左中將資家朝臣、以書札問參入刻限、答云、所有

日入之程也、而只今有殊催、仍午時許欲參、又繼繪隨

身四人許相具、是中御門内府勤仕之時如此者、於此事者有先

例者、何爲哉、此隨身乍其身悉川昨口資平朝臣隨身云々、雜色等見知、已略儀之至歟、午一點參内、樂毛車、奉

行職事之外無一人、殿下參給、陪從下襲、少將内侍之分遅々

未給云々、此間雨雪漸休、陽景忽晴、猶可爲晴儀、可

敷乾沙之由下知之、頻雖遣使者、使猶遲參、此間三位中

將二人參入、坐殿上、予加其中、少時内大臣殿令參給、

予在奥、起出無名門外、依家禮也、昇小板敷令著給了、予又

還著、次家衡卿參入、加基嗣卿上、端座、此中將被坐東二間、仍家衡卿在普通中納言座

博陸加座上給、二人平伏、家衡卿下沓脫、家良卿動

座歟、御座定、家衡還著之後又揖退下、座次無當歟、次藤大納

言、師、奥、新大納言、具、端、土御門中納言、定、奥、二位中

納言、忠、端、左宰相中將、賴、端、各參著、使參入、御禊始

云々、博陸立給了、出御訖又還給、每度平伏、頭辨昇小板敷

坐、進御笏筥、召藏人經年中行事障子南持參、還出返

給、藏人次供御贖物、役送資賴、經中門廊外供了還來時、

資賴坐年中障子東、蒙博陸御目通也、持物時不坐、頭

辨供御贖物了、到長橋、取大麻持參返給、又如資賴坐

通之、坐小板敷、宮主著座、使著座、南北行立、其四立御幣、宮主向東、使座在其坤

舞人中務經範、馬助爲永、五舞云々、異樣也、行事藏人清定引御

馬云々、御禊、經始道撤御贖物、次給御笏、返給了、博

陸起座參給、入御了、此間大臣殿召藏人、藏人力藏人

參、自上月午懸尻、奔入、異樣也、候小板敷、仰、內記召セ、內記持參當坐、

向西隨之、內記退、次召職事、資賴自上戶參、相對坐、

取宮持參、奏聞返給、每度經年、中南往反、此間敷庭座、次藏人二人

來自上戶、上臈先入、跪下臈直、進昇其前、上臈昇後、次予起座、出無名門、博陸

還著殿上給、出御之後也、頭辨並召、蒙天氣召公卿、大臣以下

次第參著、座狹、納言及二位中納言土御門已下不著後

座、參議賴平卿三位三人著也、予同自後著之、依里內、但

其座、極狹、次頭辨蒙天氣、經兩座中央、召使以下、經公卿座前、中門橋往反、出

仙華門代了、次使已下著座如例、左近中將資家朝臣、

中務經範、侍從資俊、少納言家時、少納言顯平有揖、馬

助爲永、侍從定平、廣通、少將宗平、藏人兵衛尉清定、

非藏人同範經、陪從仲資朝臣、兼時朝臣、帶劍、時給細劍、已

下人長等、次一獻、藏人頭隆仲朝臣、瓶子所雜色、

俊光、帶劍役也、可然歟、未見、陪從中宮大進兼隆、非職、依無、退入

了、資賴入仙華門代候氣色、內大臣殿揖著沓、起揖、經

座中央、出仙華門給、予動座、自余平伏、取盃令入給

之間、予又動座、過給了座、今度無平伏、依程違歟、使動座、瓶子但馬賴資、

持盃有起居揖、拔笏揖、著沓立揖、令著垣下給、使動盃御座給、盃下也、又掛給之間、座定後復

動座、著垣下座了復座、左門佐家季、讚岐資隆居突重、陪

從勸盃、右中將雅清朝臣、今日無他四位、無人敷故也、頗有痛氣、近代近將遞違、往古不然、次

資賴又候氣色、藤大納言起座、經座中央立仙華門內、插

笏訖間、資賴廻出云、未置插頭螺盃等、爲之如何、大納

言更拔笏、早可置由被命、新大納言密語云、三獻時三

獻置之、又一說也、此說猶宜歟、深不可止勸盃歟云々、

藏人二人、置插頭臺螺盃銅盃、一人花副、螺盃副東長押、退歸之間花

爲風被吹落、新大納言示之令直、次三獻、瓶子兵部輔

經長、陪從孟丹後範宗朝臣、大納言傳孟被還著壁下座、次雜色二人敷圓座、如例、兵衛帶 劍如元、次右中將家嗣朝

臣、左中將公俊朝臣重孟、家嗣朝臣向巽坐、瓶子取令坐右、取盃一入酒如飲、只胸程也 不寄口、汲之、又入氣色擬之、盃

流下之間、又如此、三度了、殘押入圓座下破之、立左廻退、公俊朝臣作法不委見、還入間猶上薦在前、資賴勸

陪從了、直著押頭臺下、西面 座、予此間起座、所狹人往反、

無骨之故也、出仙華門了、人々次第取花、內大臣殿、大納言二人、中納言忠房、已上著座、定通、光親卿 早出、有雅、參

議賴平、三位家衡、家良、下官、進寄指笏、以右手聊引据取花、立左廻經橋、跪藏人清定前、聊向 罪、押了逃、左足頗

向東、拔笏起、經橋入仙華門、雅清朝臣令取一花、陪從花範宗朝臣取之、自余資賴取集歟、各覺立、使最後

立、自下立 由存歟、次撤庭坐、日已入了、予退出、昨日按察爲御

使向南京、歸路於木津又問答、又於宇治問答、衆徒不見其面、偏戎服介冑之輩也、覆面出兩眼、怖畏如入虎口、含勅定趣、適有承伏之氣、每年可任給律師、改補

天台座主云々、前大僧正荒々又還著云々、昆陽大軍忽退歸、爲朝家尤可謂善政、還立可參由雖領狀、人多者可有與參由、付少將示送職事了、曉更歸來云、隆衡、公宣、實氏卿參云々、今日脩明門院御上御局、御殿裏角間 井波殿裏戸 懸御簾、爲二間、有打出、○闕文 西間被出二重織物御机帳、アリ、宇佐使進發、荷前、閑院、佛名、不參、

廿日、天晴、參院、申時許御幸川崎、出御了退出、向土御門中納言亭、即被相逢、申光家遠路馬事、有饗應詞、暫清談退歸、參內大臣殿、御九條殿了云々、仍向亞相方觸申、入夜歸廬之間、光家云、明日召仰由、頭辨有奉事云々、即召忠弘宅可洗掃之由仰也、精進屋喻怙使事等也、明日可立板喻怙使也、此事雖兼日沙汰、依有事煩、通用精進屋日也、又蒙召仰之後、尤有便宜故也、近代如此云々、光家自今夜來宿、

廿一日、天陰、光家沐浴潔齋、秉燭之程束帶參內、馬允 具、不 帶劍、戌時予向精進屋、自閑 所入、少時使歸來云、頭辨於小板敷仰云、來廿八日可被發遣宇佐神寶使、此後不 聞云々、承了退

出、於門外下車入丁、次敷高麗堂一帖於庭中、非新門

內立八脚、其前敷圓座一枚、爲主典座、使下坐帶劔笏、

左近將監康房、衣冠、居賸物、主典著圓座、被了、康房

取大麻撫了、主典退、使向坤拜、前後兩段也、次使入

了、次散位長邦朝臣、束帶、取申牒簡、指入簾中、光家加

名二字、長邦返給之、此間獨立八脚案簡云々、次主典著座、東布障子

下敷高帖一帖、被之間兼居着物、次長邦執盃著座上、勸盃了、次

康房給祿、是拜禮時、近、次絹一疋也、凡俗稱坂東絹物也、此間馬允盛

綱衣冠、勸杯神部、今在侍屋、又居、盛綱給神部祿、國相各六丈

也、衛士座在東廂、布絛疊、酒、以如出納給祿、白布各一段、次退

出、稱警蹕、依所望給松明云々、酒主典一瓶、神部一

瓶、衛士一瓶之上、左右各別一瓶子由申之、仍給今一瓶

子云々、看主典五種、高杯、神部三種、衛士三種机云々、

板喻估書樣、關文アリ、予即參院、逢掌侍、示付內御衣所給

事等、奏院御方、可任先例由有仰事云々、少時名謁了

退出、寒風入骨太難堪、

廿二日、天晴、左大臣殿仰云、輔平朝臣所勞獲麟、前內

府每事周章之間、使節之間事等太不便者、驚歎不少、

日吉祭猶不吉事歟、不叶神慮歟、可畏云々、隆範朝臣

來、日來不音信、太无謂、以適來臨問宇佐事等、八幡祐

清法印引送鞍馬、但蟬之也、以不變更爲吉、

廿三日、天晴、午時許先參左大臣殿、見參之後參鳥羽、

安樂、長法師爲院司行事、不經程僧等皆參云々、予獨身

著堂前座、始講筵、有御誦經無院司著、云々、佛一幅半歟、不

以先口堂童子諸大夫云々、不見知一人退參、仍以一人令勤、講了、不取

布施以前予退出、殿上人隆範親長取布施云々、池苑皆

仍舊、對之爭淚不垂、每物催懷舊之淚、日沒以前歸九

條、不經程歸廬、仲章朝臣引送鹿毛駿馬一疋、宮內卿

調送侍水干狩袂一具、過差美麗、已以存外、入夜依番

參院之間、前治部卿引送鶴毛駿馬、輔平中將病尤重云

云、長嚴大僧正加持之云々、深更名謁退出、定通、親定、

忠行卿已下、今夜精進屋立紙喻估使、其式偏如一昨日、

只板紙許機替云々、

廿四日、別當被引鹿毛駿馬、自伊勢空體房送旅籠并同

馬、是數奇之至也、詠和歌、乘燭之程參行幸、先參院御方、今日北面櫛令負態、恒例云々、所負錦一段、唐物

非此資平朝臣痢病殊危急云々、少時參內、四條中納

言隆、行召仰、次將帶弓箭之後、數剋、傳聞、更出御馬場殿、近臣供奉人等著驚之間云

云、亥時許出御南殿云々、右將渡、兼季、公雅、雅清、家

嗣、實時、師季、公卿列立、經中門橋、右道水也、師經、隆衡、忠信、實

宣、光親、有雅、賴平、實氏、公氏、基忠、公賴、高通、通

方、基嗣卿也、少納言家時奏、其音聞、是正義也、又起事如式、寄御輿、國

通、伊時、資家、雅經、信能、通時、公棟、定親、家兼、爲

家、親通、賴平卿役御劔、此間予排退出、步行如例、入

御之儀、鈴奏、名詔、國通朝臣間、書如給、少時內侍所入御、

左基保、右宗平云々、主上御壁下、候給、即入御丁、尋女房禮部局清

談、顯兼卿妻、土佐內侍、今朝逝去云々、是自昔官仕之時、年

來觸耳人也、年齡非幾勝劣歟、無常之世觸境催悲、

少時退出之間、主上御渡、殿上人々仰、早可觸由、又無

路、仍不願恐、經臺盤所前鬼間逐電、以女嬬令排御格

子退出、今夜聞、長秋宮可有入御云々、密々祝言、上皇

御夢想云々、先公委細之事、付內府被不詳、依此事此沙汰云

云、世上之儀是非只仰天、一條三位賴範卿、少納言家時

引送小馬、

廿五日、天晴、微霞零、巳時許參吉水御房、一昨日出京

給云々、參崔鬼之新所、見參之間、尊長法師參入、即退

出、歸路入精進堂、即歸、連日寒風、心神太惱、頭打身

痛、仍平臥、夕源少納言臨精進屋云々、委可被教訓由

示送、依病惱不向、今日到來馬賀茂禰宜重政、幸一、不相觸、引送之、

佐渡親康駿馬置尋常鞍、芳心不似當世之儀、先公近

臣之餘執、數奇之心歟、祝部成茂、先日來示、可引由、兵庫頭家長、

丹後守範宗朝臣、六條三位家衡卿、中宮權亮信能朝

臣、

廿六日、天晴、心神太惱、不出行、頭極痛、昨日忠行卿、

衛門權佐成長、調送共人水干狩襖、今日到來馬四條中

納言、隆、源中納言、推、尋常馬也、權辨經高朝臣、陸典、小馬、

源中將時賢朝臣、津守經國、置鞍、荒木田氏良等各分給

侍馬等、依病氣極不快、終日辛苦、新大納言消息、備前

國眼代衛門尉某、來引彼國馬、於京可引山、相語忠弘云云、其事不及遁避、懇承諾云々、相具馬來云々、懇請取二疋云々、

廿七日、夜雪積、朝天晴、終日猶霏々、今日終日人々馬到來、雖尋常物不幾、員數存外、頗過不肖之身、是自然之人望歟、內大臣殿鞍同中之、有許容、令仰云、監相被中無鞍、由申不及云々、本自皇相之閣不存事、九

條大納言殿鹿毛、日來不申、引給光家許云々、帥、川原左

衛門督、鹿毛、按察、栗毛、三條大納言、華毛、實宣、大宮宰相中

將、鹿毛、平三位、栗毛、押小路三位、基行、鼠毛、家信中將、精毛、

清信、中將、鹿毛、雅經、中將、鹿毛、範茂、中將、學下、長清朝

臣、基毛、公棟、少將、精毛、實俊、少將、鹿毛、隆範、朝臣、栗毛、

時綱、大膳、栗毛、賴茂、近江、鹿毛、資隆、栗毛、國宗、宿禰、鼠毛、秀能、鹿毛、

毛、伊勢歌人長延、入道、鹿毛、駁、二、十一疋、一日到來、存外事歟、入

夜猶不止、但殊所相憑之、左大臣殿御馬已遲々、臨昏無

鞍由被仰、驚歎不少、於今無力不及由中之了、

廿八日、天晴、今日太神寶發遣云々、侍從今日參內之

體不異常出仕、雜色、兩三、但相其侍一兩人、右近衛將、監廣行、瀧口時

弘、出立之間、各逐電、相具童、著柳上下、山吹和、申始許頻有催云々、即參

內、予昨日心神殊惱、仍不行向、少將依召參院、例御使

云々、日入之程、侍從自神祇官給宣命、仍來之由聞之、

扶病行向、少々語其儀、參入之時神寶御覽訖後也、不經

程有御禊、入仙華門落座、其座、向坤、宮主在西、無御幣案、堂

上立神寶案、御禊了、與宮主共退出、無取御幣儀、次

御拜了入御、使依催參進、微劍、與藏人昇案、白小板敷昇之、經上戶立弘庇、

殘案藏人等昇之、次有御覽歟、不見其間事、次又依其

告、進昇出本案、於小板敷給之、小舍人等、行其事、次改御裝束、次

出御、殿下候額間弘庇給、頭辨於小板敷示告、入無名

門昇青鑽門、帶劍、取笏、跪年中行事障子東、蒙御目參進、跪

御南間北柱南程弘庇、有綸言御氣色、次殿下仰、給

祿とくや、此間趣左廻退出、藏人少輔資賴出鬼間、出

南間、出弘庇、賜御衣、跪取之、懸左肩下長橋、進砌外

舞踏了、出仙華門、頭辨仰云、來月廿一日可參著、不

可久逗留府者、此間給寮御馬、次參神祇官、最前召宇

佐使、參入、給宣命退出云々、上卿藤大納言、諸社使國

通朝臣、隆仲、、信能朝臣、雅經朝臣、公雅朝臣云

云、今日送馬人々、宗清法印、範時朝臣、但如蟻、仲國朝

臣、鹿毛、參川守實茂、基毛、入夜土御門中納言被引送

秘藏駿馬、鹿毛、左大臣殿給御馬、有鞍、如式、兵衛佐保教

調送中持一荷、是乘圓法橋約束變改二荷領狀一荷、不

可叶由示送間、俄闕如、借中持、返事云、可新調、即不

經日數送之、志之至也、彼法橋昨日送一荷、昨日左大

臣殿給束帶裝束、如形事具了、兼日所案無殊望、亂神

事可被遂行歟、機緣尤可貴、今日瀧口可來由雖觸送、

不相具、只明曉可來由令答之、小舍人二人始終在共云

云、

廿九日、天晴、風靜、未明少將令向精進屋、遲々事催促

使、法印裝束夜中相具、待辨色程、可出門由令行之、依

風病猶不快、予不向、隆範朝臣來臨云々、遲明出東洞

院面、日出以前可早出由重示之、即出門云々、神寶神

部等於七條朱雀相待、近代之、又雜人中將乘替馬等令

先陣了、御倉小舍人二人、騎馬前行、相並、其次前駟二

人、藤賴資、無官馬助敦賴經由稱之、八條院藏人五位之子、侍從家人也、源長邦朝臣、二人、

次使、直衣拍夾出紅打衣、紫浮文指貫、蒙深沓、次瀧口、

帶弓箭、在童、童雜色步行、童、童雜色步行、童、童雜色步行、童、童雜色步行、

千小袴、褐脛巾、立烏帽子、山吹相、真劍、次共侍左京進

宗友、右近將監廣行、右馬允盛綱、內舍人列範重、遲參、

無官家綱、橘公篤、藤永經、老翁今度召出之、今前陣、相、皆著

水干狩襖、隨分所從等、或四人或二人、著水干小袴相

等、路頭之威儀、於涯分無殊違例之闕乏、可謂存外事、

剋限又如思天明日未出之程、人々家人等殊不出見程

也、天晴風靜、路次甚善、陸地敷氷、竊案之、頗似有冥

加、欣悅不少、進發之日、若有雨雪之煩歟、旅人亦定倦

墮歟、於西七條邊、改著裝束、渡桂河向播磨大路、今

夜著豐島之驛家、自御室御領被支配今夜供給、私申、見

了歸入、心神猶惱、終日平臥、法印僧都被來談、酉時

許聞、左近中將資平朝臣已時遂入滅云々、又人云、親

平少將此兩三日重病、其時非尋常、天狗所爲歟云々、

近日若年羽林重死、聞之心中恐惶尤深、今夜聊祈念事

示送親嚴法印許、後聞、今夜無每夜名謁云々、親平少將渡御彼中將宅日御共參、即受此病云々、

頭註被引出御厩御馬數正云々、

卅日、申、天晴風寒、已後太猛烈、忌日事送嵯峨、後聞、今日春日祭被遂行云々、雖所勞太不快沐浴、依心神猶不宜不能念誦、只讀阿彌陀經、未明許聞、前齋宮高辻、絕入給、清親朝臣爲御使馳向云々、又臨幸親平少將家、雖御覽不見知人云々、入夜聞、門前猶有周章之音云々、今年壯年羽林之厄如此、恐思無極、靜快律師來談、如當時聞之、齋宮別事不御坐歟、夜半許右近少將親平遂被天亡云々、年十八、當時之外嬖二人、連日如斯、是有事祟歟、恐而有餘、後聞、去廿六日參河崎蹴鞠、人々感之云々、又人云、非二十六日、其以前事云々、中將事切了時刻、少將又煙氣云々、匪直也事歟、

○十二月

一日、天晴、少將依召參內、又有召參院云々、今日不可出仕由、密雖教訓、依有召參、每日夜半退出、冥顯太有

恐、深更來云、依召參院、如例給御書往反、是朔日之祝言云々、人云、今日依朔有出御、但被追殿上人云々、

後聞、去夜委政于關白、可簡居由被仰出、相國亞相申不可然由云々、

二日、天晴、女房退出、依物詣精進也、巷說云、中將晦夜於岡崎與口公、火葬云々、母儀絕入之間、左衛門督觸穢、女院七條御所又混合云々、天下如燬、除目四日、延引

云々、每事不似去年之冬、親平以今月十九日按察有執翌之經營、中納言典侍服太姫年來約束、三位中將實嗣卿去

夏天亡、近日此羽林殊放光之間、依御氣色、忽然奔營、已取寄裝束之寸法、儲車之綱代云々、世上無常如此、今度水無瀬殿始以長廊西妻爲宿所、作加雜舍渡坐、自四月祭比、以馬助以康爲輔佐、日夜相副、又自五節之比、伺候馬場殿、近日榮華之最中也、鞠被聽紫革襪、是殊事云々、被聽人、宗長朝臣、雅經朝臣、忠信卿、有雅卿也、若魔姓之伺隙、依近臣有此恐歟、蹴鞠之間、骨髓疲而筋力之不堪歟、是皆可恐向後、但亡父之心操、表裏謀詐欲覆人、能構男女之嬖寵、專讒言其惡、若殘彼家

之滅亡歟、竊思之寒心者也、信見世間思慮事爲人無損害之心者頗宜、子孫限此事、末代猶不空歟、

三日、天晴、雪飛、少將參內之後、又依例召、著東帶參入御使、云々、夕歸來、弓始場、猶八日可被行除目、其日不聞、今日可有常御遊由令申給云々、

四日、天晴、女房參賀茂北野等、入夜歸參、秉燭以後向

一條亞相亭、閑談述懷之後歸廬、除目、口比、十三日猶

可御水無瀬殿云々、相國二品亞相各百石、可職事宗宣催十

四口荷前使、領狀了、

五日、天晴、親嚴法印過談、參最勝光院御念佛云々、

入夜付路人之便、有侍從音信、驛馬每事闕乏、無僮僕

存命之計、僅於一身者無爲之由示送、是著播磨國府之

口書札云々、忠綱之國務、是存之內事也、宇佐驛家實

非時儀、

六日、天晴、今日改元云々、依兩平之天亡、此事出來歟、

醫王三郎兩童之祈周章奔營、如重病者云々、今度南山

於飛龍權現之御前、醫王顛倒絕入、久而蘇生、又那智

入御云々、取御簾反而懸之、御覽付被直、依此等事殊被寄進庄、御還向之後、醫王給近江箕浦庄、別當三位、是非

後怪異之由、被表之故歟、件庄吉富之一庄也、就中件

方依外祖之沙汰、寄進御領、子々孫々可相傳由有證文

等、後白河院非分令申取給、依賜辨雅僧正也、辨雅亡逝

之剋、宗賴卿臨時給之、皆是非有故、文書等所相傳于

家也、今夜承明門院佛名於御堂被修由、篋資一日相觸、

去年有此儀、侍臣著衣冠、於御堂佛前被行、改元定了、

夜散位束帶依憚思著衣、先參中宮、謁女房退出、參土

御門殿之間、三位侍從、同中將通方束帶、佛前簀子立

屏風、諸司供奉云々、予獨奉行人倣去年儀、宿衣參入、

太無便、兼可退出由相觸、即退出之間、三位中將起座

來、全不可憚間歸參由示之、答云、去年參入已以禮儀

於御堂被行、仍不成不審、著直衣參入、一身伺候之條、

於今夜已可有恐、猶退出宜歟、頻依被留勤加座、兩人

又不帶劔、不把笏、各相議、招奉行人中將問答、諸司奉

仕御裝束、立屏風歟、公卿可帶劔、然者堂中帶劔、又不

可然、今爲御堂儀歟、本佛之外、新佛諸司供奉之儀、又背道理、爲之如何、範資云、去今年共奉行、同觸申大納言、被命云、猶立屏風、公卿束帶何事在乎、隨體可有行香歟者、仍忽催此儀之間、又直衣歟由有被尋人々、又申此由之處、其條又何事在哉由被示之間、兩樣未存云々、被命旨頗不審歟、中將相議、猶令徹屏風、如去年立明障子、其中敷高麗帖爲公卿局、但僧座猶用諸司豐云々、彼是隨所在、範資申事具由、觸上臆、即仰鐘、次三人次第著座、使用東面妻戸、次僧著座、堂童子又如例、佛名、五位居火櫃、每事存式、予直衣極無便、立座如例、有被綿、入西間明障子、自公卿賦之、錫杖了、次第取祿、自西妻戸取、範資傳之、又如例、予起自前跪取祿、更自座前給導師上薦、自座前還著、兩人又如此、次僧退出、次仲能昇東妻戸、跪問、次第名謁、自不起退出、今夜之儀頗無始末、不問案內直衣之條尤似不當、但改元夜依憚思束帶、旁以失便宜、歸廬之間少將自內退出、改元未訖云々、側語之、承久長應間舉之、仁治定通

卿申云々、祥久恒久云々、內大臣殿、大納言師經、通具、中納言定通、隆衡、光親、參議實氏、顯俊云々、今夜院御所初有名謁、今日出御馬場殿、又可有御鞠由、令申內裏給云々、伴御書、依召如例持參云々、今日有臨時尊勝陀羅尼供養、公卿殿上人濟々云々、

七日、天陰晴、尋聞、改元建保云々、

此等儀實歟、賜獻金之路、無飽之政之令格如

何云、弓場始延引廿五日云々、今日河崎御幸、少將可參

會有御氣色由、有女房告、

著直衣參云々

今日蹴鞠之始歟、傳

聞、親平少將病間有奇怪事等、或不見知男、近入寐所

障子外、或蒙衣童出入門內、今有咒咀之疑、以康等說

云々、未

人心皆凶惡、深猜傍外人口又狂亂、多

成不善之疑、生死必滅之理、非咒咀歟、不死云々、無緣

奉公之者、無俸祿之支身、有咒咀之失命、嗟何爲哉、昏

歸來、鞠廢忘、殊不堪云々、即參內、深更退出、有連歌

之興云々、爲家可召具河崎、又時々可召仕由有御書云

云、

八日、曉雪積四寸許、朝後猶紛紛、陽景間晴、大法等

今日結願云々、仁和寺僧都被過談、四、左兵衛督隆清

卿病獲麟、是酒之過度之故歟、大小便并自口出而云々、血力

八座又有關歟、蒼天白日仰之、不嗟乎悲哉、入夜庭雪

未消、寒月映光、卷簾催閑望、親故凋零、而老淚獨灑、

帥舉建保、有自讀之氣、又叶上皇御意云々、此事非

他子細、依有建字也云々、天曆、天德、天祿、天延、永

延、永祚、長曆、長久、承保、承曆、天仁、天永、吉例代

始、皆有同字兩年號云々、其儀誠可然吉例者無之、只上

皇御宇歟、但於保字之未知可否、少將遲明參內、深更

歸來、對之與御騎馬、又池山庭上等敷雪、不供
筵道云々、是皆當時之新儀、即是庭訓也、去比入道有通卿

逝去云々、

九日、天晴、昨雪猶滿庭、法印僧都被來坐、僧都西塔院

主事、頻有勅許之聞、仍可參座主御房事、亞相以下被

議定云々、昏黑風雪慘烈、依寒氣蟄居、并年來之好可耽西
塔之座云、賢慮之

教訓
歟、

十日、天晴、少將又依召參河崎云々、靜律師來談、尊勝

法結願、經時朝臣襄幕、依大阿闍梨之命、皆悉襄之、公

卿藤大納言以下在座、職事資賴仰勸賞之間、不被見

付、良久退去、其事後異樣之由、被仰按察云々、件賞慈

賢阿闍梨任權律師、當座加上臘二人上、成源律師臘次下
臘了、預紙裏云

云、不可有勸賞由、頻雖辭申給、御修法之間、有夢之告

等、殊信思食、不可有辭退、依人又思食計之由、重被

仰下云々、往日臨時尊勝陀羅尼、同座主御房御導師、

有說法等云々、備前國被寄天台修理之料、相國之分也、
被申行云々、

尊長法印國務一向可行云々、國務大抵祇園山
平野別當兼帶、入夜參內大

臣殿、近日資平中將穢遍滿、左大臣殿有其疑、上皇忌

御、仍無彼御出仕、俄除目令勤仕給由、昨日聞之、仍

所參也、良久見參、深更退出、聊申心中存事等、太雖

奇怪、偏是存忠也、頗有御甘心、予元來不憚忠言之逆

耳、

十一日、素雪埋庭草、入夜向亞相亭、前刑部會合、相次

參院、番、夜半許名謁之後、與左中辨左近三人閑談、良

久之後退出、漸及曉鐘、聞散不審等、

十二日、天晴、戶部僧都被過談、入夜參新院御佛名、與

公氏卿早參、良久人々參入、隆衡、實宣、高通、通方卿同著殿上、次召院司仰鐘了、各著座、定通卿又參會著座、五人之外三位四人^{高通、清長}、跪慢下、名謁歸出、高通卿退出、半夜之程、公宣卿參入、追加御前座、事訖告行香由、手解劔置座、與清長卿參入、第一間南北行人多、餘間二間對北座、予在其末座、取輪了、次第立如例、猶經一間廻行也、返輪了退歸、於本所帶劔、此間取祿了、僧退下、次三人又著座末、有揖、隆宗朝臣問之、各名謁、自下起退出、曉少將歸來、內侍所御神樂、拍子、國通卿、隆仲卿、琴、家嗣朝臣、笛、伊平^{侍從、相國孫}、筆筭、雅經卿兼能、雅清朝臣御劔、頭中將御裾、博陸參給云々、除目事今日議定了、明日可幸水無瀬殿云々、巷說云、教成給國、隆清兩卿辭職、太理又辭退云々、

十三日、朝間雪積、女房參河陽、送弊車微牛、從者料也、車借二條

中將爲八葉、少將早旦參內、爲御使又有召云々、實清朝臣來

談、隆清卿昨日辭職、有勅許由語之、任人貫首云々、是皆彼朝臣憶說也、沐浴潔齋、夕始念誦、

建保元年 十二月

十四日、素雪埋庭草、朝天晴、已時許向仁和寺相承院、圓宗寺南、是故源延俊朝臣子、法印傳法灌頂後朝來訪示由、以範宗朝臣^{彼僧之弟也}、示之、事太雖遠弼入道明賢者藤大納言殿外孫也、仍延俊入道存生之時、先人常存其好、度來臨五條家、於事爲知音、不可發、無其人歎可訪由、去六日於中宮約束之上又有度々消息、仍不憚人謗所行向也、撤劔笏令持、雜色入門、昇寢殿西階、入卯酉廊南面東一間簾中上簾、以屏風隔一間、爲公卿座、南北行敷帖、在高卿在此所、暫言談、範宗朝臣出遇云、殿上人在、屏風西、前治部卿可來訪也、仍相待之、又無手長六位辨五位、當時所來之五位上官、五位藏助と云者也、令手長如何、相計予示、管卿云、被置殿上所之外、六位手長非常事、親王大臣家以下、以諸大夫五位、爲手長流例也、而以次五位并上官五位、爲公卿手長事頗新儀、無所據歟、兼日承令、何不相語乎、範宗頗無披口口、案之、頗自由嗚呼事歟、又觸房主來云、當時無其人如何、此間左少辨兄弟來、予問辨云、如寺家事、諸大夫不參時以何爲手長乎、三綱

三百四十五

等有例乎、辨云、用如口口常例也、予云、然者被用可然
僧乎、菅卿許諾、又來云、上座ト云僧候、可用之、雖似
比與暫承諾、此間京方有火云々、少時禮部兼定卿相具少
將來臨、先是始庭儀間也、予示範宗、重令觸手長事、禮
部五位一人可相具也、滿座感悅、即事了、僧著座、引
布施、禮部所具之衣冠男、三度手長、各取布施、殿上人
數反取之、清季、範宗、家兼、基定、家長、家光、僧退出
之後、各起座退歸、入蓬著布衣、申時許、參內大臣殿見
參、亥時許、御裝束訖令參內給、信定朝臣參會卿云々、御共知人予塞御車
簾、乘月退出、思往事竊淚下、今夜例御下襲、二代令用
給、蒔繪劔也、御堂御劔今似遇故人、予巾云、紙捻不被
取落候乎、宣陽殿壇上、故殿御路、異他候歟、各有許容、
親房朝臣兼隆等各早出、散班之身憚參內、不能伺見、
不心府之恨、

頭註人云、般當門院一昨日俄令絕入、令直給之後、右御
身不動御、中風云々、昨日人々聞參云々、
十五日、天晴、曉更少將退出、持來聞書、大間以、前書歟、全無可

然任官、侍從實平、右大將子、實基、右侍子、康光、使宣旨源盛賢、
藏人、兵衛尉許也、雜任七十餘人云々、備前尊長、國司、越前、
後師經大納言任云、依重催申始許參內、信能兼、禮部分如元付、
著陣、兩拾遺三品參云々、家衛卿未參、予參鬼間、謁女
房少將內侍、歸來問家衛參入、職事奏下丁、上卿起陣
座云々、著座之所、日花之外南在廊也、經宣陽壇上、召
使塞幕、出日花門、納言仰召使令直座、納言二人座逼
奧南砌、向北敷之、其下對座、次上卿入幔門、自砌東行、
於座末揖、脫沓突膝、立著奧座、北面、實宣卿同之、次高
通卿於北座後揖、脫沓著座、次家衛卿如納言著奧、予
著北座下、次上卿召召使、召造酒正、環居要火桶、召使申不得
由、上卿云、酒正參ト外記之口ツカラ可申、外記參
入申之、蒙許退、次勸盃諸司者不知其物、飲之、次第返授之儀如
例、諸司盃也、准節會、末座不渡、次上卿召召使召辨、辨參膝突退
歸、起、次召外記、召令作、外記參入、上卿取莖置前、外
記退、上卿披見、以右手如卷寄不見訖、卷返渡次人實
卿、繕持見訖、繕方ヲ置て卷返て、取副笏目次人、置笏

授次人、次第見下、三人見樣同前、予見了卷返、取副笏氣色宗衡卿、置笏指遣、次第傳上、上卿返取、卷禮紙入宮、召召使、召外記返給、次上卿揖起、自後出、次第起座、幔門外西上北而立、有揖人、予家衡不揖、上卿示辨令立直幣物、東四行相對云々、公卿可昇物在北、仍令取替、此間各解劔持笏、次第指笏、與次官昇之、高通、家衡、予入時、取具裾前立、歸出時、以次官爲前引裾、是非所習家衡說也、高通二可相兼云々、家衡昇了、予昇之間、高通卿兼則次第違云云、忘却故也、尤失也、仍後昇之了、次予又二度昇、不指笏懷中、後々、各歸出立中門外、西上北面、所存可立中門內歟、次第昇出、今度以次官昇前曳裾、依昇後也、退了召衛士給之、各出門帶劔、予帶劔出門、次官三人、各相觸氣色、即留了、更不拘所勘之輩、一旦問答無詮、只加會尺詞令留也、即於三條坊門洞院乘車東行、三條東行、於川原密々下車、向南前後二拜、歸廬、雖可耻、是近代流例也、兩三位輕服也、不可憚山、奉行人仰之云云、

十六日、天晴、雖下長春花猶有紅葉、早晚不似此、此間爲舌頻歌、早速先春歟、又白梅間開云々、職事資賴催明日行幸、其所未定云々、傳聞、除目之儀、太神妙云々、雖兼日之案尤催感、

十七日、天晴、風病更發、心神太惱、資賴重示行幸無人由、仍中可扶參由、爲家一昨日申假、今日令參日吉、依節分晦爲明年厄年所令參也、秉燭以後參內、於鬼間謁女房、行幸被忿、人々未參云々、與源中納言督在小板敷、語云、南京衆徒又蜂起、山僧綱早被免、國被寄故云々、資賴觸召仰事、納言即向陣了、徘徊御後邊、新大納言參入、此間出御云々、而監相在青鎖門內、被稱未出御由、良久之間已寄御與了云々、驚出相共列立、自餘人皆列立了、予獨憚上臆不融、尤懈怠歟、追加了、此事頗無謂、但早參之條無次隱歟、公卿將立階殿了、將昇坐、賴平卿取御劔安之間、予前行騎馬、二條東行、烏丸南行入三條坊門殿東門、次第如例、通具、雅親、賴平、基忠卿、予列立了、公宣卿參加、少納言家時奏、公俊朝臣問名謁、予退出、宿忠弘宅、僧都被來會、是節分、方違也

清談之間聞曉鐘、即歸參、少時出御、右將渡後、猶不進御輿、是左將不覺也、公俊上即故也、雅親、有雅兩將、予列立、

基忠卿揖時、弓彌ヲ右ニ天^{シ脱カ}左手持、又副御輿間守上

臘扈從、何人說乎、左將公俊、通時、家兼、親通、兩頭資賴等、左將雅清、敦通、師季、宗平也、僧都院主事、已以無實歟、參新事雖人々勸進、本所事猶難去由陳也、似尋常之儀、

十八日、天陰、無霜、夕陽晴、鷄鳴之程還御了歸廬、明日下名云々、若有勝事歟、廿五日猶被行弓場云々、僧都說云、戶部太理事、相國有許氣、亞相又有可舉氣色、其身又非無好云々、予所案歟、經大辨一宰相、近代之人、無所慕之輩皆昇進、宿老之後、何强好太理之職乎、但是有權威之官也、又納言之階也、可謂榮花歟、存外之運歟、風病更發、

十九日、天晴、中宮今夜御入内云々、依所勞無術不參、出車領狀、巷說云、南京衆徒又蜂起、訴山門之國務歟、宇佐參宮若無路頭煩者、今日可參著、明後日^{廿一}同儲日云々、

進發以後至于今日雨不降、權門之國司遍滿、雖聞難存命由、天氣如此、悅神恩之不空、行啓無人由頻有催、目眩轉不能扶參、啓將又無人云々、少將參内、伺御氣色、可參由示之、入夜來云、下名又無事云々、可謂善政、行啓供奉又勸許、即參中宮、夜半過行啓、御車云々、其後官奏、内府御參、曉歸來、供奉人太理左京兆二人、右將雅清、亮長季、問名謁、

廿日、天晴、少將四位勞階可入勘文由、示送大外記師重許、又示付清範朝臣、上皇還御廿三日云々、

廿一日、天晴、内御佛名延引廿六日由、棟基示送、御神以今日被用字佐奉納云々、自光家出京日雨未降、可謂勝事歟、少將今

曉退出、賜御劔云々、武劔也、江州庄民不當事有申請、御教書事、入夜頭辨書送之、二品之命也、

廿二日、曉大雨、即休、朝天快晴、心神猶惱、終日在臥内、寒風所爲歟、是只老屈也、傳聞、親平少將咒咀事、其外家親姓之人負其疑云々、甚存外事也、人心旁可恐、今夜又官奏云々、

廿三日、天晴風寒、未時許自河陽還御云々、此間心神猶不快、甚不得心、疑是魔姓之爲歟、予自少年常有如此病、臨長年之後、忍而不加護身、態不思入、或念誦、或奉公、以之不爲病、然而每迎冬節心不快、度々又及重病、今年身衰愁深、閑居冷然之間、彌如此惡事得力歟、心神常違亂、時々刻々辛苦、又有無爲隙心歟、雖奇思、忍而不言之、戌時計北方有火、靈司烏丸連、令即滅、

廿四日、天晴、傳聞、弓場始^{二十}、又止了云々、若被行者、依見物之志欲出仕之處、聞此事猶稱所勞、可愼寒風、付便風有光家書札、今月五日到著備中國府、七日逗留、依其由也、備前備中國、如形存先例云々、是非末世歟、皆聞、只依忠綱存時儀、播磨一國之不當歟、今日聞、一昨日^{廿二日}花山院、前右大臣忠妻室共出家云々、其年

四十一、未代之善人也、現當成就歟、

廿五日、天晴風寒、近日冱寒殊甚、近年冬常暖也、仍無寒氷、今年復舊歟、夕二條中將過談、自然經時刻之間、亥時許南方有火、久不滅云々、謝返之後、判官代來云、

九條向左衛門尉定綱宅火出來、萬手小路西門燒、火赴良方、兼時朝臣親姓等悉燒亡、於此宿所歟、依爲風上、打滅了云々、尼上自一昨日、爲參高陽院殿坐此宅、
今夜退出也、有芳官等云々、

廿六日、朝雪漸積六七寸許、已後天漸晴、慶算法印送例勘文、親嚴法印房夜前燒亡云々、各志最小分事、內御佛名也、依所勞不參、夜半過少將還來、公卿大納言師經、通具、中納言實宣、光親、有雅、參議顯俊、三位清長卿、出居左中將忠定、信能、雅經、右中將雅清、左少將家兼、爲家、栢梨事、忠定朝臣行事、以爲家令申、立自座前入幔、跪長押下、申上卿歸出、上卿云、可觸下臘公卿、然而退歸云々、此事更不存、定有被習之樣歟、惣申公卿事、相觸上首、於座末示下臘事未知之、尤貽不審者歟也、其後依有召、參御前云々、行香不足、頭辨立二獻、兩頭召著之、堂童子棟基、顯平、女房夜前退出、今朝頭掌侍書狀、殊有仰事、雪見乎、歟詠歟、歲內不可參歟之由、

廿七日、天晴、昨日雪未消、延曆寺造寺別當豪明持座

主御房御書入來、予依風病、以少將令相逢、是爲搦取凶徒所申請也、不顧歲末年始、可忽下向由示含了、志馬一疋、

廿八日、天晴、吉水御房報恩會云々、依所勞不參、獻和歌、中宮御佛名云々、雖重催不能參、左肩殊痛、心神太不快、

廿九日、天晴風寒、曉少將退出、借給時繪弓平胡錄、入漆、每物美麗弓、竹桐粗卷、殊勝、同文本地、螺鈿、新物、云々、自院所被進、解之、付金文、

女房又云、今夜依仰、可渡坐女院御方西對方局、是頗有恩事云々、御所近路有、傾宜云々、午時許乾方有火、坤風極烈、勘解

由小路猪隈云々、火及堀河、自御所被打滅云々、少將

又可參川崎由仰事云々、祇候內之間告送、即退出、馳

參、有結鞠云々、昏黑歸來、又有召、戌時許參高陽院殿、

例御使參內、歸參云々、夜半許、姉小路西洞院邊燒亡、

又歸參、博陸前相國已下人々少々參入、被壞切云々、

卅日、丙寅、朝間念誦、心神殊惱、入夜少將欲參追難之

間、又自院南有召、例御文使云々、卒爾重役無從之者

有恐、後聞、追難上卿實宣卿、宰相顯俊卿、辨家實、少納言顯平、雅清朝臣等參、四方拜御劔雅清中將可候、仍退出云々、

建保二年

○正月

二日、今日事次問新大納言、元三中朝親行幸次將隨身紅梅袴結市比、是尋常說之由人々申之、其證據云、中院入道殿御說云々、此事誠其證候歟、被答云、人々說多如此申之、但故內府中將之時、花山院相國命云、此事中院入道殿慥命所聞也、仍被調送紅梅袴、仍件日依彼說、令著紅梅之處、久我內府見之大怒、以枕擲打、被打云々、慥承此說、祖父內府委受中院右府說、而被怒條如此、仍不可爲當家之說由所存也、答旨甚有興、仍記之、

三日、天皇拜觀日也、少將參內、闕腋袍如例、巡方帶、螺鈿劍、梅散花、紺地平緒、弓箭、御物、隨身市比、傳聞、御遊染裝束、權大夫殿紅梅下襲、櫻朮木表袴、寶氏卿裏山吹下襲、朮木袴、內大臣殿櫻下重、宗行朝臣、資賴、唐裝束、不染、自餘如例云々、

七日、少將叙四位了、當時叙之輩、皆不叙留歟云々、其事本自忽然不可出所望、勞階不相違之條先感悅、以假名狀、畏申之由達掌侍、返事云、此旨披露了、御氣色殊宜、叙留還昇事、即被仰下了、他人不然、尤可自愛云云、披露此狀、心中并悅、無物取喻、近代之叙留、自他雖無念、於去年者、不異延喜天曆之舊儀、叙慮之趣、餘身之思也、重申其山了、賀札并使者等多以到來、內小舍人來仰還昇由、竊以猶賜位記後可被仰歟、又付掌侍申院脩明門院還昇事、入夜即被仰下山、有女房返事、自內叙留事、殊悅思食由有仰、事若遲引者、有可被申御沙汰云々、而遮被仰、殊叶御意云々、今日以書狀、示送宰相中將許請取袍、付使被送、舊儀川以首袍、近年請相親公卿例也已一

點少將令參內、卷纓、五位闕腋袍巡方、魚袋、螺鈿野劍、紺地、隨身紅梅袴、相具弓箭尻鞘、忠弘在共、引陣退入、帶弓箭之時入尻鞘、可解取魚袋由仰含了、節會早速、今朝馬頭代不可催之由、示送奉行職事許了、依四位闕腋未時有長朝臣來臨、依歡樂不相逢謝返、自內書送折紙、

加叙、

正四位下中原廣元、舊更、從四位下源具定、承明門院當年、

菅原淳高、策、同資高、

正五位下平業光、宣陽門院當年御給、正五位下藤清國、

叙留、

從四位下藤爲家、左少將如元、

內辨內府、

左、中將資家、忠定、隨身紅梅袴、公俊、雅經、叙人紅梅袴、信能、元日不出仕、

蘇芳少將通時、定親、家兼、爲家、右、雅清、家嗣、範茂、時賢、賴房、右叙列、不引陣、敦通、宗平、在叙列、式部卿、

右中辨經高、菅資高、兵部甫範資、叙人賴房、隨身朽葉、雅

經、信能、兼信、爲宗、平家、兼入、足利、他人不付魚袋、

位記兼信一人、取副弓、自餘皆取位記訖一拜、宗平給

位記了右廻、自餘左廻、爲家進自本列前、四位、列後、跪輔左

置弓、給位記、正持乍座一拜、取副弓立左廻、自四位

後加位列末、各給了、皆悉拜舞退出云々、即著四位袍、

昨日宰相中將藤原丸柄帶、蒔繪細太刀、參院脩明門院、拜賀昇

殿、又可參內由示合了、

十九日、午時著直衣參院、藤原右府參入、於東對弘庇

坤邊、踏指貫之中、突膝著座、其後實宣卿參著、直衣、又突膝座廻、

○以下闕文アリ、

右賜預之狀如件、

正月廿九日

右中將家嗣

○二月

一日、丙申、春日使開頗結構由、仍出二條大路見物、前

驅諸大夫六人之中、六位一人狩袴、各布衣、次隨身四人騎移

馬、紺狩袴、實袴、帶狩袴六、毛杏、次使綾薄色指貫、色殊、次雜色八人步

行、蘇芳單狩衣、袴青衣、薄平、次侍七八人、若有遲參者

也、夕頭中將於西屋謁談之次、聞隨事同事、昇小板敷

座與座、切臺皿之次臺皿上程、入道左府說、是實首座云々、取繼吉書硯

等、皆仕藏人、淳賴來臨、乘間其事承諸云々、參朝于飯之間、又令持杖、是又兼承諸、入道左府說

云、上藤貫首、昇小板敷如此、下藤貫首、昇脊脫著端座、

故實也云々、於身雖無益、依餘執書付之、

三日、禁裏詩歌合、可參其座云々、未時許依重召參內、

東帶、參宮御方、謁女房之間、藏人淳賴來、告可參其座

由、出御以前、仍經長橋御殿簀子萩戶、參廣御所南面、此屋如瀧口卯

也、帥三位、家衛、賴範、自餘皆爲長、東帶、頭辨、直衣、候長押上、範宗、範時朝

臣、兼隆在簀子、依招請予加其座、又召著頭中將、直衣、

知長自障子內來、殿上人皆可昇候由仰之、次出御、

御直爲家在御供、藏人康光被召上、人々座廻、爲家候御後、兼

隆參進讀上詩方、評定詩和歌、大略一人申之、又示合

家衛卿康光出狂言、依御氣色被定勝負了、次書作者、

重讀上之、御製不知之、任意如褒美之詞、露顯之時甚

有其興、帥有秀句、予不令詠其結歌、家隆朝臣歌無殊事、雪盡草色

青、南老髮眉殘、綴在西施、顏色自斯新、於此題尤有沉

思之力歟、花綻仙遊裏、同腰句云、唐帝清宮唯月夜、漢皇汾水又風秋、頗雖有賞翫、予恐歌依天氣勝了、存外面目也、

河上花、

夕取川春の日かすはあらはれて花にそ沈むせゝの
むもれ木

頭辨時尋常也、次有當座歌、庭上柳、書了讀上、各退出、采燭之後、也、

八日、傳聞、少將著直垂間、於御前令脫水干、御手令著替、御參御鞠之時、被聽紫革白地襪、是規模事云々、又賜蒔繪弓平胡六、以清範朝臣可扶持由有仰事云々、雖聞此勝事、只思身之速、自昨日依彼岸、有念誦之志、依無益之惡緣、無一分之善心、運之至拙、現當可悲、

廿七日、午朔著直衣令對面公家童親王勝、參內御方、即扈從歸參、關白候、少時主上還御、童親王令扈從、親

王撥御簾、主上○以下文アリ、

卅日、午時許參仁和寺御室、先日被仰付和歌、如形終

篇月次花鳥歌廿四首持參、御浴之間不見參、以人數度蒙仰、恐歌詠進、殊爲悅之由令仰、則退出、

○三月

一日、向實全僧正房、今度慶事、以靜快律師、殊委細被示送、外家餘執、與家之面目、感悅之由有恩言、仍爲謝其事、良久閑談、故尾坂僧正快修、病時、法皇臨幸、今生所望、以俊成卿、可被任參議由被申之、仰云、必可任者也、所存知也、而自然依違、遂以遁世、帥殿家跡如無、心中深成遺恨之處、此慶殊感歎之由被命、追聞、往事更動心肝、又予昇進、人皆以爲善政、可堪公務由、普謳歌云々、以不肖身聞此虛名、尤如踏虎尾、適遂本望、更思家跡猶增此恨、先考年來之望遂以空、相貌自鑒之官途殊缺位、頗高由所存也、仍申二位者必可成就、若昇極位者餘命可恐、思惟此事不申由、少年之時常命給、猶今朝恩、更不知所報也、

三日、入夜侍從來、去月廿六日新中納言殿拜賀、內院御方、次關白殿申御出之由、猶二拜、退出、次內大臣殿、無

答拜、御對面、先日仰云、兄弟對面引、馬、他人答拜引馬云々、被引馬、次中宮、有聖習、次齋院、次七條院、光家御供、前驅八人云々、明日著陣給云々、

十三日、入夜藏人判官康光俄入來、周章相逢、傳勅云、寬弘以往歌仙三十人可撰進者、凡如此撰歌撰人事、愚鈍之性更難辨知、縱雖所存、自由決之條、真恐難通事歟、只書出四五十人進上了、

十四日、自夜甚雨、終日不止、頭辨奉幣使猶闕如、十五日、大丞物語之次、洪水之時、松尾使不參社頭歟、分明不覺悟由被語、今朝被注送、於河東下車讀宣命、共侍持宣命、相具幣物、乘鵜船參社、此事洪水時近例多由、治承之比、先公被記云々、爲後々記置也、

廿五日、兵部今日雜談之中、雖無益事注之、下官先年於故殿、見額櫃卜云物、大內以下所々諸寺額、每數被移置、予申云、是被寫何所本哉、仰云、是皆法性寺殿御本也、當時在執柄當時、許歟、先年邦綱卿取出奉入道殿所被寫也、今日事次語云、伊經傳先祖額本事、全非父

相傳、定信置賀茂上御社寶藏、伊行不傳之、邦綱卿聞此事、召神主重保令取出之、非神物、只預置也、仍私持之、全非法性寺殿御物、而依優其家先祖所書等、授與伊經也、入道殿下更不可持行者、又法性寺殿以假名令注給公事六卷抄、在父卿許、傳得由稱之、

廿六日、春日行幸日也、辰一點子參內、馬副四人、相具雜色五人、通具卿云、雜色上右親王孫子、其員數少相具、藤氏實二種三十人相具、近代以來惣可然人公遠等、皆不過四五人、諸大夫富有之輩員數可多云々、此事可然歟、

廿九日、後聞、今日御鞠之間、雅經中將遲參事甚不快入御、以忠綱朝臣有勘責之仰、退出籠居云々、又有讒言云々、

○八月

廿七日、申時許依清範朝臣告參上、未及昏黑、出御於馬場殿、家隆朝臣兼候北面方、依召自東面參入、頻應召、參長押下、先之體也、兩句共難得、百十余句之間、但事訖、各退出、各褰之取之、退出之體頗見苦、但上卿以下皆如斯、寧獨醒乎、還御以後、於庭上名謁訖退

出於門邊聞曉鐘、所賜護袋二、有緒、紫染衣小袖、一段、

綿三帖、宮士綿云、如雲、色革二枚、紙三帖也、已上下、一句歟、

廿九日、申時許出御馬場殿、如一昨日有召、仰云、一番歌更加五番結之、可定申勝負、中將又讀上、大宮大納言被候、粗申所存了退出、頻預問答、太以面目也、次御笠懸、此間又依仰兩人見物、及昏黑事了、入御本御所之後退出、已候龍顏、老幸何事過之乎、所申頻有御尋參了、件十五番、早兩人書執、可披露之由有仰事、即是神筆也、退出宿所、猶以有恐、仍清範書寫可下之由、於御前申之了、即書之授之、

○十月

一日、壬辰、及日入、大納言頭辨同時參、上卿著陣、自餘未著之間、頭辨入宣仁門、欲仰々詞、上卿人々可被著陣由被示、頭辨退歸、諸卿著陣訖、頭辨昇奥座、奮遠脫、乍立昇也、進寄仰々詞、微音、不聞、退歸、上卿乍奥座、官人如、例參進、令召辨、其詞、辨、範時朝臣雖參、依逃隱、左少辨家宣、在床子座、不持笏、參進、思失欲進端座方、昇奥座參進、上卿仰宣陽殿裝束事、于藤相公等示告、

先是裝束云々、但不居飯、不置軾、辨退、即來申裝束訖由、上卿云、裝束未訖如何、辨少納言座前不居物、不置軾、不堂燈、辨又見之驚歸、於敷政門邊召史勘發、又廻日花門方行之、次堂燈、軒廊、炬火、置諸司軾、辨少納言座居机等、上卿又命、令居公卿座飯、或後居歟、實宣卿云、重陽日追居二孟、衆居飯、相公同在此由歟、重陽又有衆居例歟、猶乘居宜說歟、各居訖、上卿云、辨已申無實了、今度不重申歟、即相觸、揖被起、各移著、次第觸下、先是藤相公云、最末必可著端歟、予諾、仍於端座末揖、懸膝昇立、雖經座末著奥、揖直裾、公宣卿如此、各著座了、右中辨範時朝臣、左少辨家宣、右少辨長資、經宣陽壇上、次第著座、於座後揖、脫沓、座揖、皆端也、江少納言顯平著奥座、經座內、於座末北向、揖脫沓、突膝立著座、各座定、上卿召官人、令撤軒廊間以北幔二間、壇上南北行引幔也、次中辨揖著沓起、揖出日花門方、取坏著軾、勸坏、上卿觸、次人取盃各巡流、坏留藤相公座、左中辨直出、日花門了、二獻、左少辨取續杓、後座、次內豎居汁了、藤相公候氣色箸下、立七箸、次三獻、少納言顯平勸坏、續杓、巡流之後、顯平復座了、上卿云、侍從也候卜少納言に可被傳、末詞不分明、

相公不把笏、見遣少納言、少納言拔箸微唯、揖起跪著

沓、立揖出日花門方、歸來復座、揖了正笏、申云、侍從

不候、後音、相公拔箸取笏申云、侍從不候、上卿目訖、

拔箸取笏召官人、官人參、令召外記、其詞外記見參持參、外記持文

杖、入宣仁門、自陣座柱內行西、更參小庭、上卿目外

記進文、此文抑樓類通例、體一通敷、無橫指文、上卿向座上拔取、披見返給、

又令排、今度指樣與始同、外記退出、上卿揖著沓、揖自壇上經石

階軒廊二間、出軒廊之後取階、被進弓場、次上卿復座、外記進見

參、上卿被取、外記持空杖退出、次上卿持文、正持見遣

少納言方、被召之、少納言顯平拔箸微唯、其音不聞、揖立參

進、上卿給見參、給之更自壇上出南方、次目辨、辨ト召、同持文、

是故實云々、左少辨相讓歟、右少辨揖起、上卿已下不指名之

時、上臈可參歟由、被相示、但不及精好云々、藤相公言、上臈同參

也、但同有下臈例、辨參軾、上卿給目錄、給之又出南方、次上卿以

下揖起、出宣仁門、予其所アキテ可出由、相示相公、

仍相公先退下、次予退下、出宣仁青瑣門退出、今日白

更不可然、其書云

後日參左大臣殿、於宣陽殿召仕官人事申之、仰

云、於我者無異儀、召仕官人由存之、即是依仗座

近、有其便由、有古賢之說也、

二日、臨黃昏、從禁裏有藏人清定奉書、三首和歌、時雨、水鳥、

草、只今可詠進、秉燭以後、落題歌等進之、

六日、午時直衣參宣秋門院、日來恒例御懺法結願云

云、良久事始、兩大臣殿、鳥帽子、直衣、藤大納言、師、中宮權大

夫殿、三條中納言、實、著座、依座狹予不著、能季卿又

參、布衣ホリヌ、キノ狩衣著、事了兩大臣殿已下起座、令出殿上方

給、各令取布施給云々、近代六條殿邊布施公卿皆取

裏物、況於今日乎之由相議之間、左大臣殿令取被物

了、次裏物權大夫殿令取給、抑案之、此院之儀別事歟、

今日大臣手長雖四位、何不奉仕乎、況五位事宜殿上人

等可傳獻歟、而諸大夫等勤仕、尤可謂奉行之不覺、又

無精好、如何々々、其次鈍色裝束已下、殿上人取之、次

僧被物內大臣殿令取給、基行奉之、太簡略也、裏物實宣卿、已上二口僧綱

能季卿云、今日鈍色裝束不可嫌、先度思忘了、今度可寄、即取之、其次々殿上人取被物、藤大納言被取裏物、依凡僧紙裏也、予取之、布施訖之間退出、

十一日、布衣參高陽院殿、千日御講發願日、○附文アリ、口入以前、着行幸裝束參龍口殿、藏人清定持來檀紙、此御所意氣無題三首歌可詠進之由仰之、即求硯書之、卒爾不得風情、

白河の紅葉の錦立歸これも跡ある千世の舊路
なゝそらをめぐりし月のためしとて千世まで照す
明けき世を

神無月なへて時雨の紅葉々も猶山近き色は見へ見
十六日、今夜内裏披講松上雪、可豫參之由有催、遠路窮屈、前後不覺、内々達女房了、可進歌之由有勅許、其歌闕如、

此みゆき松の白ゆふ枝ことに千とせをかけて神を
守らむ

○十二月

十三日、明日弓場始、射手同闕、如依別仰催出云々、雅經朝臣云々、公長朝臣依此事并付簡云々、修理大夫又可射云々、

十四日、黄昏著東帶參院、新御所、逢前中納言、教成卿、問御所路便宜、即退出、參左大臣殿、少々申承今夜事等、藏人佐資經參入、以仲資朝臣伺申云、後方若勝者、可被延度歟之由、可承御存知旨、仰云、天仁代始後方雖有矢數、被處持無拜、是最吉例也、天治後方有勝方拜、太不便、仍偏可用天仁例由存也者、職事甘心退出云々、少時資經申事具由、即御共參内、入敷政門、令著陣給、先是二位中納言、宰相中將、公氏、經通朝臣在座、予加著、土御門中納言、左衛門督、四條中納言、次々加著、良久有召、將監名音、太音、次仰的、太音長、次左中將雅清朝臣來召、左廻歸、此間予先起座、愚案極失錯也、存自上可立由、依家禮先起也、可自下立、定處失歟、首書云、後口左大臣殿自下立、新儀出古記分明、仍用此儀也、兼不可爲耻云々、次經通朝臣、已上次第自下薦起、於壁後各給笏于僕從、取弓矢、大臣以下次第入宣仁門、經擅上軒廊東二間、各取裾突弓、過石橋了向

西、曳裾取立弓、予弓上絃矢端ナ下ヲ右手取副、大臣殿、深中納言等羽ナ上之說也、隆衡可如予、於南殿

坤庭、伺見座有無、上薦金香座揖、引寄裾之間、予步出、

先右足、於座前揖、左手突弓、突左膝、脫沓座廻、右手

仗弓、揖引寄裾、以矢直沓、沓鼻、矢端向座下也、公氏卿同

著座、顯俊卿依無座、來座末揖、自揖入無名門、公賴

家衡卿不寄座末、立折入無名門、雅行卿來揖、經通朝

臣又立入、次藏人二人撤御射席、又一人撤臣下射席、

次出居仰云、的力ハ、聊伺上卿御氣色歟、其音、次矢取內暨著

座、第一者持筒立、南殿坤階柱、次頭辨出無名門、座上卿西、仰能射人、

大臣殿承之、令目隆衡卿給、蒙目了、解弓扶拾、次張

弓置前、當下騰武、力柱張之、次綻袖縫目、次乍袖內付柄、次弓懸、

次祖、頗向座下、立弓打絃、次取其矢揖、著沓起、右廻歸

向、揖了引出裾、進立射、射了右廻復座、此間雅清朝臣仰云、大カイトロハ

七、次公賴卿出無名門、射了左廻歸入、次公長朝臣依此

昨日昇殿、初度射也、即能射、同射歸入了、次所掌藏人左衛門權佐資經

出無名門坐上卿前、此間頭辨又出同門坐上卿西、歸入

奏事由歟、又歸出仰度數射手、念人募物等事、所掌隨

上卿命書之、書了進御所、膝行覽簡、歸上卿前、微音讀

上之、取札硯、著的付座、次藏人二人昇立射分錢案、

弓出、桂南、次又一人懸藏寮懸物、如例、無后宮懸物、次射

手次第如恒、中納言放初矢、家衡卿立繼手、中納言欲

射乙矢間、三位雅行卿立繼手、巡迴有所存歟、家衡卿普通說也、各如此、

聊有早晚等、隆衡卿、經通朝臣兩人射了前弓、右廻、自餘

前後皆左廻、一度中矢程、賜公卿突重、五位殿上人每

人役之、各居我前之間立弓、以左手立弓、指遣後左方、

倚彫板、矢猶在沓上、二度從射手先射如恒、公賴卿進立、即矢插腰、無他物、矢構射之也、

家衡卿進立之間、頭中將出無名門、供射手跪地、殿、家衡卿

向乾、雅行卿向四、頭出門之間警蹕、昇北面東端、懸膝向、西坐、立御臺、

置物机上、藏人次官宗宣取第二御臺、即取之立、次保

季長清朝臣役送、各取居之了退下、少時左大臣殿自無

名門令退出給、先是公氏卿退出、予執弓平伏、相次二

位中納言退出、射手家季絃斷、跪張弓、突南方地上、其作法同、實家不射待之、

第三度之間、大納言又退出、所殘只四條納言予也、次

各射了、所掌執簡進、座上卿隆衡卿前之間入御、各執弓平

伏、雅清朝臣稱警蹕、令過無名門內御了、予揖突弓、著

右手

沓起還向、掛了引出裾、自砌入無名門、此門射手、公卿

殿上人等群立狼藉、今夜射手、中納言隆衡卿、每度後座、後、初度三

位、公乙矢中、此外無中矢、前賴家衡、雅行、參議經通朝臣、公長朝臣、

雅經朝臣、時賢朝臣、家季、光家、念人、

左府定通卿、予以下、左忠房卿、忠信卿、公氏卿、已下

後云々、

廿五日、參左大臣殿、仗議事等申承了、予著陣、少時左

大臣殿御參、宣仁門外奉禮、御座定還著、被置軾了、左

大辨在殿上云々、以官人令告、即來著、大臣殿召官人、

被仰云、令持タル文書取天持參、官人不得心、於敷

政門奔走、還來稱不候由、予召寄、告御共前駢持由、即

取之持參奉之、大臣殿令取給之、目黃門給、黃門依程還

欲掛之間、差給文、仍不掛、坐寄取之、坐定置笏、披禮紙

折付文ヲ搔遣、右方、折付取文、右手繆持見之、次第見

了、置繆方卷之了、卷禮紙、副笏氣色予、予正笏、蒙目置

笏、及而取之、被指遣、置座前見儀同前、卷了又氣色、

大丞同取之、又見了卷之、卷禮紙置前、可持參硯被

仰、大辨召、史仰之史持參、欲置座上、依上御目退、自大丞座下

置之、大丞置文、取笏蒙目、上宣可被讀由、大丞如初、披

禮紙取之、繆持讀文程、讀本解小狀等、讀了右狀一行

程讀之間、上宣只小狀許、仍其後讀小狀許、讀了、

卷之了、上宣可被定申、大丞逃座下足、正笏定申、太宰

權帥藤原朝臣申請雜事廿一條之中、十七條續文相

叶候、被裁許何事々乎、但此中可被追下管國司由申

請之、其中師重兼筑前守難被追下、又寬德以後庄園加

納、可止由申之、凡新立庄、其域重疊被止、雖善政先被

尋子細、追可被裁許歟、其外二條事、雖不叶續文、非

重事文、似公平、同被裁許、何事乎、申了安座、次予又

逃足、正笏申云、太宰權帥藤原朝臣申請雜事廿一條

事、同左大辨定申、次民部卿太宰權帥藤原朝臣申請

雜事廿一條、大概同左大辨定申、但不叶續文二條、

猶先例間々歟、同可被裁許歟、次大臣殿又同左大辨

定申、次仰可被書由、即引直硯、取續紙卷返置之、次

摺墨、次取笏、不副紙、請益目許之後、書始之間、仰云、さやうにて、即置筆文ヲ卷調、史參而可取硯由仰之、予此間排出宜仁門丁、次取硯、大丞又出、大臣殿揖令出給、即各退出、予參三條坊門殿了、

恐衍

廿六日、外記來云、今日仗議必可參答可參之由、左大臣殿令參給、相次內府令參給、實宣卿、公定卿、師經卿、實氏卿、範朝卿、追々著座、此間帥參入、欲昇奥座之間、上卿可被著端之由、令氣色給、即廻端座、揖昇著座、下區人一人座、顯俊卿參、著座已無其所、次左大辨參入、上卿範朝卿可移納言座由令目給、範朝直移著、著杏移歟、次第坐上、左大辨著座、次按察加著、奥、此間史參可掌灯由被仰、大辨催之、左大臣殿召官人、人々參小庭、仰云、令持タル文書取て持參れ、官人取之持參、各座定後、上卿取文令渡內府給、次第見下、大神宮領之事也、略之、追可書加之、

建保三年

○正月

四日、功過問事、以消息度々尋申土御門大納言有具、返事等又定文、今度、土代被返之、今度事大略被進止云々、文書等兼口預置之歟、五日、定文問事、猶尋申丞相許、消息云、左大辨來讀帳、三ヶ國授之云々、按察消息云、猶子光時勘濟公文、必可有御參、深仰許容者也、可必參由報了、近代人兼日尋取書儲懷中云々、仍尋取之出之、以普通尋常白紙書之、不審事等重問答、

光時

和泉

請調庸惣返抄五箇年

前司任給一年元久三

當任四年同二建永元承元二

雜米惣返抄五ヶ年已當任

元久二建永元承元元二三

勘濟稅帳七ヶ年

前前司宣房朝臣任終一年建仁二

前司有長任二年同三
元久元

當任四年同二建永元承元元二

封租抄五ヶ年

前司任終一年元久元

當任四年同二建永元
承元元二

新委不動穀二千解年別四百斛
宣符

率分

齋院禊祭料

勘解山勘文

美作

請調庸惣返抄四箇年

前司任終一年承元三

當任三年同四建曆元二

雜米惣返抄四ヶ年已當任

承元四建曆元二三

勘濟稅帳七ヶ年

前前司以經任終一年建永元

前司資通任三年承元元二三

當任三年同四建曆元二

封租抄四ヶ年

前司任終一年承元三

當任三年同四建曆元二

新委不動穀二千四百解年別六百斛
宣符

率分

齋院禊祭料

勘解由勘文

紀伊

請調庸惣返抄二箇年

前司任終一年建仁二

當任一年元久元

雜米惣返抄一ヶ年

元久元已當任

勘濟稅帳九十ヶ年

前前司實親卿任終一年永久三

次守清隆卿任五年同四五元永元二
保安元

次守季輔任四年同二三四天治元

次守顯長卿任五年同二大治元二
三四

次守公重朝臣任四年同五天永元長承元三
保延元二三

次守親能任二年同四五

次守雅重任八年同六永治元廣治元二
天授元久安元二三

次守季範任四年同四五六仁平元

次守賴憲任八年同二三久壽元二
保元元二三平治元

次守爲長任八年永曆元應保元二長寛元二
永萬元仁安元二

次守季光任四年仁安三嘉應元二
承安元

次守弘家任一年同二

次守範光卿任三年承安三四安元元

次守爲盛任五年同二治承元二三四

次守保家卿任二年養和元壽永元

次守範光卿任三年同二元曆元
文治元

次守爲季任五年同二三四五建久元

次守經高朝臣任八年同二三四五六七八九

次守經兼任一年正治元

次守家行朝臣任一年同二

前司基保朝臣任三年建仁元二三

當任一年元久元

封租抄二ヶ年

前司任終一建仁三

當任一年元久元

新委不動穀千六百解年別六百石
官符

率分

齋院禊祭料

勘解由勘文

建保三年正月五日

臨昏公卿達著陣、右府著陣、執筆仰云、院宮御申文、予
進之復座、此間藤大納言召辨、被召受領文、辨家宣、資
賴持參置之、予可爲見合由被示由、源亞相、左大辨拔

取帳三卷殘文書、乍當授予、仍懸撰見之、三ヶ國太多、毎國一結、置

雙宮內懸耳、之間、早可申由、源亞相又被示、仍取副和泉
合否申文請答、藤大納言被目、則繆端、至本解所、微音
聊讀上、疊置宮內、又取主計勘文合之置之、但燈側、老
眼不見、其字太細、僅雖見、惣以未練習事、更不堪、仍密
密自懷取出書、儲定文、卷副主計勘文內見之、與奪只今
書也、藤相公書之、

光時

和泉此四字相公先書儲

予與奪事

請調庸惣返抄五年

前司任終一年元久二

當任四年同二建永元承元元二

雜米返近抄五ヶ年

元久二建永元承元元二三

先書之了、微音讀上、

次予取主稅勘文、實又卷副同物令書、

勘濟稅帳七ヶ年

前前司宣房朝臣任終一年建仁二

前司有長任二年同三元久元

相公次守、可書由存之云々、仍書守了、

當任四年同二建永元承元元二

封租抄五ヶ年

前司任終一年元久元

當任四年同二建永元承元元二

新委不勘殺二千斛年別四百斛官符

書了又讀上、

次取官破立令書、

率分

次令書齋院禊祭料、次令書勘解由勘文、大辨讀帳了、
次第請益、蒙上卿命、大略如載、次第讀了、相公讀上定
文、蒙上卿命、付無闕無未進無過等字、予又取美作合
否申文、如前繆持聊讀之、合之置之、大丞又讀帳、又令
書儀偏同前、今度源亞相聞被示云、前前司當任三人ヲ

如此書也、過三人之時次守卜書也、相公仍摺除守字書直之、

紀伊國事、又以同前讀帳了、藤相公卷定文、授左大辨、左大辨見了返之、相公又授予、予見了卷之、副笏氣色、上卿被目、置笏指遣之、上卿取之披見、取副笏、參進被奉之、予此間取執筆宰相筆、鈎三ヶ國、二寮勘文外題、六通也返筆了、次予拵起座退、不經幾程執筆令書殿上給、戶部兼參殿上、起座參進給簿、左府令退出給、戶部相共著陣、上卿召官人被置軾、予以官人、仰史可掌燈之由、上卿被仰軒廊立明事、上卿又傳予、以官人、可候諸司、皆具歟由被問外記、外記申皆候由、上卿召官人召辨、不候者、史可參由、史參、仰內記座可敷由、掃部敷之、軾異方明、四上北面、未及寄相南召官人令召內記、大內記參軾、上卿仰位記、大內記退、率六位內記三人著座、相具物具、其前舉燈、上卿召內記給簿、內記立更著沓、進軾給之、不入、復座、一々入眼、其程極久、太難堪、六日、天晴、良久之間天暗了、位記不足、更書之、數剋之

後入位記、加臨時位記、橫入之獻上卿、請印之後書下名者例也、予

平申無術由、起座進寄、請取簿復座、先是申上卿令置硯、乘摺了、即書

下名、此間上卿進弓場殿、被奏復座、式部人數多不書

得、窮屈餘書誤、切之續之、上卿召近衛司、チカキヤモンツカサ將監參入、

請印之儀如恒、此間書兵部下名、書了書年號月日、下

名三通、并簿三通、取副笏、起奉上卿復座、此間請印了、

中務大輔實茂著軾、奉位記、上卿又被進弓場之間、予

揖退出、已日出以後也、歡樂心中窮屈無爲方、終日偃

臥、不及執筆、後口書之太歡樂、叙位簿上卿下大內記、後日

借請柱下書寫之、

端三寸許置之

正三位

藤原朝臣基嗣

此間三寸許

從三位

藤原朝臣經通

藤原家通

此間二寸

正四位下

兵三藤原朝臣通言七條御給

兵三藤原朝臣實時修明門院御給

式三藤原朝臣定高

法勝寺御塔供養行事

此間一寸餘

從四位上

藤原朝臣隆範

此間一寸餘

從四位下

式四藤原朝臣家宣

式五藤原朝臣重長

式六賀茂朝臣在繼

式七卜部宿禰兼經

龍神祇少副叙之

此間不足一寸

正五位下

式八源朝臣資宗

兵三藤原朝臣信成院御給

去年此二字後加之

式九藤原朝臣家雅新院御給

後曰執筆召返叙位被入去年字云々

新院去年御給

式十藤原朝臣伊平陰明門院御給

式十一藤原朝臣家時嘉陽門院御給

式十二藤原朝臣長倫策

式十三藤原朝臣宗親策

式十四大中臣朝臣永隆

式十五大中臣朝臣定經建曆二年大嘗會功

式十六藤原朝臣光時治國

此間三寸許

從五位上

式十七藤原朝臣仲範從下一

式十八藤原朝臣經長殿上從下一

式十九源朝臣具教新院御給

式二十藤原朝臣實廣殿宮門院御給

式二十一藤原朝臣能繼中宮御給

式二十二藤原朝臣家佐

式二十三藤原朝臣家光

式二十四藤原朝臣範房策

式二十五藤原朝臣佐清前高陽院保元元年御給

式二十六藤原朝臣實清康治二年初齊宮功

式二十七橘朝臣以忠以經罷受領預巡年叙之

此間五寸許

從五位下

式一致言王寬平御後

兵四藤原朝臣清定藏人

式二十六惟宗朝臣以長式部

式二十九平朝臣能宗民部

式三十中原朝臣直業外記

式三十二中原朝臣秀朝史

式三十九橘基久諸司

式四十藤原朝臣成俊同

式四十二藤原朝臣有茂同

式四十三平朝臣盛高同

式四十三藤原朝臣業綱同

式四十四紀朝臣兼高同

式四十五中原朝臣光成同

式四十六藤原朝臣資綱同

式四十七伴朝臣知俊同

兵五源朝臣廣康外衛

兵六藤原朝臣爲家同

兵七藤原朝臣祐行同

兵八藤原朝臣行久同

兵九中原朝臣政安同

兵十源朝臣師員同

兵十一橘朝臣知季同

兵十二中原朝臣盛光同

式四十六藤原朝臣光氏氏

式四十九源朝臣家定氏

式五十橘朝臣經勝氏

兵十三藤原朝臣宗久左近

兵部源朝臣親盛右近

式三丹波朝臣利基賴子內親王給

式三安倍朝臣業繼前女御寮子給

式三七藤原朝臣有信臨時

式三三藤原朝臣兼嗣臨時

式三三藤原朝臣雅繼臨時

式三三藤原朝臣忠長臨時

式三三大中臣朝臣泰繼臨時

此圖一寸許

建保三年正月五日

下名書樣

四位

藤原朝臣定高

藤原朝臣隆範

五位

人之中皆扶中一行之程關テ世之、爲否入加叙也、前六位者不闕、

藤原朝臣家宣

藤原朝臣重長

賀茂朝臣在繼

卜部宿禰兼經

源朝臣資宗

藤原朝臣家雅

藤原朝臣伊平

藤原朝臣家時

藤原朝臣宗親

大中臣朝臣永隆

大中臣朝臣定經

藤原朝臣光時

藤原朝臣仲範

藤原朝臣經長

源朝臣具教

藤原朝臣實廣

藤原朝臣能繼

藤原朝臣家佐

藤原朝臣家光

藤原朝臣範房

藤原朝臣佐清

藤原朝臣實清

橘朝臣以忠

四世無位

致言王

六位

惟宗以長

平 能宗

中原直業

中原秀朝

藤原兼嗣

藤原雅繼

藤原忠長

大中臣泰綱

安倍業繼

藤原有信

橘 基久

藤原成俊

藤原有茂

平 盛隆

藤原業綱

紀 兼高

中原光成

藤原資綱

伴 知俊

藤原光氏

源 家定

橘 經勝

建保三年正月五日

四位

源朝臣通時

藤原朝臣實時

五位

藤原朝臣信成

六位

藤原清定

源 廣康

廣康行久七口節會
口摺除止位記者也

藤原爲家

藤原祐行

太神行久

中原政安

源 師員

橘 知季

中原盛光

藤原宗友

源 親盛

建保三年正月五日

七日、節會早速云々、左府御參云々、權大夫殿同著給了、予於宣仁門外蒙御目、入著座了、左府召官人召大外記、大外記持參外任奏、內辨披覽之後、召官人召頭辨、頭辨持下名、兵部一通、自杜內著賦、無加叙、榮時二人、被止位記云々、以調申之、內辨令付外任奏給、取之退入、內辨仰云、可召外記硯、予傳官

人、仰外記硯可持參由、即持參、自座上置之、內辨御目、予揖著脊、揖移著座上、引直裾了、更蒙御目揖起、進參跪揖、內辨給下名、仰云、源廣康太神行久可止位記、給之、副笏揖立、右廻復座揖、引直裾、披見下名、卷寄其所ヲ、面ヲ上に卷成て、以小刀摺之了、置刀又卷寄、又取刀摺之、置刀卷返、下名副笏、蒙御目揖起、如初參進、獻之復座、內辨披御覽了、予揖復座、此間顯俊經通來著、土御門大納言、三條中納言實、同著、次土御門中納言於門外蒙目入門、欲立脫沓所間、內辨令咳驚給、依御氣色被著端座、依座狹也、宰相座前也、幸○以下
十六日、節會、內辨召宣命使、土御門大納言又被傳示予、予拔箸立揖、進內辨後、頗向乾、揖乍持笏、兩三步進寄、左手如指笏、右手給宣命、內辨右膝令指出給、退間取副退
出、立本所揖、

注此事如指笏可進寄云々、故殿仰云、實指者、指了可步寄、如指進者、左手在後步寄歟、見苦、只乍持笏進寄、正取文時、可如指之、

○八月

三日、聖覺法印消息云、來七日爲先師修佛事、雖非指因緣、成承阿闍梨不可思放者訪臨乎、早可向由、領掌了、

十日、釋奠也、上卿別當也、黄昏參內、可有軒廊御卜

云々、予聞此事同著陣、近代御卜只一人行之、爲見物所加著也、參官廳、類齡

五十四而始奉拜尼山、日月情感內催私淚下、予詩題保其爵

經、孝以孝事君 此字不關字、人々所在各異、多關字、或平出、宗業朝臣示不關字、予先口示合、事君々字不可有關字出、

同予案、事我君之時、尤關字平出、遂顯親、保其爵祿立斯身、豈可有之、又雖君字可隨事由存也、

圖老後列元愷、再作清涼侍從臣、

十五日、少將自內出、今夕和歌、內府參給、御製有院御

合點之內、又所下給也、申旨不背御氣色、秉燭以後參

內、束帶、陣中不取筭、參入以後又甚雨、少時出御以前

可參之由、康光仰之、仍與忠定範宗朝臣先參候、即出

御、被仰可候長押上由、九條大納言殿則參入給、仰

云、相待內府參之間、可有當座歌、可獻題者、愁申之、

以聞、祭庭虫、雨中戀、即各詠之、無程被講、宰相中將、經

通、忠定朝臣、範宗朝臣、範基朝臣、重長朝臣、康光、此

間內府所勞由令申給、仍被講本三首、但結番云々、被處判者歟、大略定申、光家歌太尾籠、赦面無極、此歌不見合、勿論事、次題作者御製、太以優美、內府御歌、又尤尋常、心中悅思、子夜凌雨退出、

十七日、一昨日歌合、可加判詞之由、依仰書進之、

廿一日、日入以後參內、參鬼間、少時頭辨參入、又右武

衛參、此間治部重長來召予、參御前、俄而召人々、各參

入、始連歌、賦人、名草、一兩句之間、雅經朝臣參入、按察可參

之由、女房申之、忽抑連歌、五十句後、被待彼參之間、有狂歌

合、兩方詠、各體、評定了、按察參、夜半、改賦物、魚河、又五十句訖

各退出、已曉鐘也、御所、予、雅經朝臣、直衣、範宗朝臣、

行能、康光、皆北、右武衛、衣冠、一定高朝臣、同上、重長、棟

基、成長、皆上、予獨把笏、帶劍、太非時儀、雅清朝臣直衣、執筆書之、○異本此下、

明日院御機法ノ六字アリ

廿四日、今朝進少將當番散花、入外居、鋪、居同折敷立、薄櫛、

歌、內大臣給之、鋪花片散、色紙少々、拵花少々入之、自女房局內々進之、依藏人盜取

也、被仰尋常之由云々、今夜院御方違云々、

廿九日、御佛供養、公卿鼻返二度取被物、

○九月

十日、丁巳、自內名所百首可注進由、蒙綸言、仍書進之、本歌有名歌之體所々也、

十一日、藏人康光來、百首和歌事傳綸言、申畏奉由、

十三日、酉時計參中宮、着直衣也、秉燭參相國見參、每人百

首、依難講說者、題卅首計、部類人々歌、可被講之由、

先日有其定、依爲今夜之儀、先可被讀上秋由、一昨日申定了、隨信定朝臣清書遲々、仍先被講秋、人々參集

之後出御、非式法之儀、公卿殿上人圓座、御座橫座之

前掌灯、二行敷疊、各可群居之由被仰、予、宮內卿、丹

波前司知家朝臣、少納言信定朝臣追參、在座、以信實爲

講師、業清、有長參弘庇、詠吟之、一卷書進、作者讀上

之、十八書樣、內大臣、權大納言、宰相中將、侍從宰相、

從三位、被書能季卿名、僧正御房御歌也云々、家隆朝臣、知家朝臣、信定朝

臣、家長、行能、業清、有長、信貞、光家、有季、入道大

藏卿、猷圓、越前、講之間太久、讀一卷了、又講春部間、

曉鐘已報、止詠歌只讀上、次戀歌少々拔出可讀之由被

仰、弘庇輩、講師後也、御詠并予、宮內卿、越前戀一兩取、此

事人々響應、以之稱訖、於今者依有事煩、漸可披露被

之由被定、鷄鳴月未入退出、老後數奇病競發、太難堪、

越前 戀をのみしかまの市に尋ても逢にし人は命

なりとも

廿三日、名所歌、先五十首、以少將令清書、進上禁裏了、盡詠

進上事、天氣快然、人々對捍無興之處、詠進之上、早速

悅思召之由有仰事、

廿四日、左中將、讃岐國司、前宮內、行能、前丹波、家知

朝臣、藏人判官康光、各送五十首歌、難似人望、老眼之苦

耳、

廿五日、入夜少將自門退出、持來名所五十首歌、有可

撰進仰、短慮迷而不知所有、

廿六日、五十首歌少々加點、返上禁裏了、

廿九日、清範朝臣奉書、給百首題、年內可詠進云々、連

連三百首、爭得風情哉、太以難堪、

○十月

一日、丙戌、自夜甚雨、酉時休止、雲漸霽、申始許凌甚雨參院、廻北面之間已出御云々、依無路便歸東方、右少辨自重參入、招請暫談語、此間入御了云々、頭辨來談之間、仕人來催右少辨遲參由、予即參內、此間雨止、九條大納言殿、三條中納言實、被著仗座、予即著之、於宣仁門外、請益著座、公氏卿相次來著、早著在小板敷云々、此間右少辨參入、相待辨不始云々、藏人少輔成長進與座、申無出御由歟、上卿此次問辨少納言參給、申云、右少辨長資、少納言範資候、權辨家宣朝臣未參者、上卿御命云、二人參者、二獻何事在乎、強不可待、已及昏黑歟、職事退、上卿召官人、二音、官人參、上卿仰云、左中辨裝束使辨也、仍召之、官人出尋之、歸參云、左中辨未參、仰云、他辨、官人退告之、右少辨參、與座、被仰裝束事、宜陽殿裝束已了、豫居飯、上卿頗被谷之、實宣卿云、二盃兼居飯、重陽之後居之云云、上卿仰、雖須撤飯、又經程歟、不居汁物者何爲乎、辨退歸、來申裝束了由退、予出宣仁門外、上卿當時無

上薦、過座後間似無禮、仍立也、次各移著、中納言經座末著與、予著端、公氏卿同著、辨少納言著座了、上卿目辨給、又咳、辨起座、勸盃如例、但上卿自座下取盃給、仍辨願座下勸之、取橫杓、盃巡流、公氏卿懷笏取盃、下行與座上、擬少納言、把笏歸昇復座揖、次上卿目少納言給、少納言勸盃如前、二獻、公氏卿又下擬辨、次上卿仰公氏卿云、汁物、相公仰辨、辨催之、居了、相公問辨少納言座了歟由、辨申云、居了、相公候氣色、上卿已下々箸、先立、次又取箸如漬、又立之、次上卿仰公氏卿云、侍從召七、相公仰少納言、少納言揖稱唯、拔箸著沓揖出、稱唯了、拔箸下揖歟、次復座、申云、未參候、次上卿召官人、官人參、仰云、外記召七、六位外記參、猶川兩儀、上卿猶五位參可承歟由、示中納言給、仰云、見參、外記退持參之、上卿目、外記進參奉之、上卿座對座上披見給、家宣未參入、見參依領狀入由外記申之、令置者有煩、何事在乎由示合給、各申可然由、返給外記、外記取杖退立、先是公氏卿下座間、予伺申上卿、此座臨時罷立歟、御命云、有要時何事在乎、但其要何事乎、予申云、令奏見參給間、可無便、命云、更不可然事也、依存禮

爲蒙免所申也、即進弓場給、於今者可用時儀歟由示合給、申可然歟由、即經軒廊給、復座給、復座後取文取副笏、召少納言、其制少納言、範資參軾、上卿乍向東、以左手著給、少納言取之出南方、次召辨、微音咳、辨參、同給之、聊披見奏之、取副揖退出、次上卿披七揖、退下給、予即退下、依在端先退有便、雖參見間、依無便、不認女房即退出、今日少納言起居之間、席上上向乾猶多折力、揖、他少納言於席外對北揖、跪脫沓、更立著座也、是雖末座向西揖、猶不可然歟、右相公昇降每度事也、後日傳聞、此昇降事、未勘出其例、無所據失錯云々、而依一度之失錯、遂以不改、始終如此云々、

廿四日、藏人判官康光爲中使扣蓬戶、扶病承給言、夕歸參、百首今日可進之由仰之、猶不構出、明日可進由申了、

廿五日、自禁裏頻被召歌、先日給題多改、未承此之由、近習慙往反之間、外人告之、其身開口之間、不聞及、太難堪、今日更詠改間、牢籠力不及申、

廿六日、未時書出百首、先五十首、更可書出之、更付少將內侍進、廿八日、僧都被來談、今日戶部被語云、先公遺訓云、於公事者、隨體遲參、強無其憚、私爲人被招請之時、一事以上、早々可向其所、若遲怠之時不叶其用、爲人無詮、爲身無益、守此事、去十三日入道左府子息灌頂所、早行向、恒例先布施、次有饗、其日先饗、後布施之間、實宣卿來、禪相府云、先可行布施之處、遲參臨間、先所行饗也、よさほどに計たりとや令存知給、以外遲候、此命頗過法、聞之忽知庭訓之貴云々、

○十一月

六日、仲家語云、內裏名所戀歌殊有沙汰、多被加御點云々、存外面目歟、

廿八日、被召御前、有連歌興、每句給櫛百了、各被算員數、予十四句、人數太多、而狂句速出之間、諸人無句數、雅清朝臣執筆、賦國名源氏、

○十二月

六日、二品御消息云、明日宮女御御參、彼狀如此、可被遣和

歌、誰人可詠進哉之由、申水無瀬殿之處、可被詠進由、被仰下、可存其由者、畏奉了、如此事、先例上薦多奉之歟、頗似過分面目、左右可隨御定由申之、祝言雖一首、無難詠出之條、極以可畏事也、彌增沉思之辛勞耳、聞見事忘却、入宮立后之間歌、尋申内大臣殿了、雖廻恐案、卒爾風情不尋常、仍書二首進汀湯、付清範朝臣、可伺披露由示之、

くれぬまのけふの空にそしらぬるまつは久しき
千世のためしと

まつ程も久しきけふのくれぬまは契るやちよのは
しめなりけり

七日、卯時夜前清範朝臣返事到來、其狀云、御詠經御覽候之處、端御歌ものゝしくて殊宜候、可被用之由、内々御氣色所候也、清範謹言、夜前進覽之後、重有思出事、くれぬまのけふ、古今貫之歌七字、頗不快、仍當時之詞雖劣、改之也、後日可申此由、

くれかたきけふの空にそしらぬるまつは久しき

千世のためしと

書高檀紙二枚、加禮紙、以二枚如立文褰之、依有存旨用此字、

供禮加多喜計布野所羅仁所志良禮怒留萬津者比佐志喜千世能田目志登

午時東帶參彼宮、土御門北、堀河東、新所、重門高閣翠簾白砂驚目、付前右少辨親房

朝臣衣冠進入之、女房有會釋返事、故攝政殿女房、能保癩姫也、中宮御母儀、今殺給之

後登此宮、號五條局、辨内侍腹也、自花山院、入道前右府、遠江權守定綱相具御帳

參入云々、今夜參入之儀、公卿扈從、殿上人前駢、御車

可被寄南階云々、保延依女院御所寄對、十九日露顯、

以西二棟爲彼御方云々、和琴之長六尺、鐵尺、頭弘七寸、下五寸五分、

箏、長六尺三寸、

建保四年

○正月

五日、己未、天晴、叙位儀、大納言殿御消息云、任納言之後未參政、仍今年々始政可參由存之、當時官廳指圖等不審注進乎、兼又件日參會待賢門乎者、注獻之、又可參會由申了、秉燭以前束帶參右府、入道中納言參入、叙位習禮之間也、予參入之後事了、予問頭辨、僅見折紙、正二位教家、臨時、正三位家嗣、權大納言藤原朝臣春日行幸行事、從三位業資王、臨時、藤家隆、臨時、以下粗見之了、歸家付寢、

六日、天陰、微雨聊濕、遲明頭辨送使者、日出以前參陣、上卿實定、召外記間也、叙位簿在上卿前、外記參入、被問諸司歟、次召官人召辨、官人相求右少辨、予參入之間退出了、仍申上卿、上卿命云、可召史、史參入、令敷內記座、掃部寮敷軒廊北柱簷下地下、東二間、中央以上東、西上北面、上卿召官人召內記、大內記著軾、上卿仰位記、大內記退率六位二人著座、不掛脫沓、六位持參筥以下物具、次上卿目大內記、著沓經座上并小庭著軾、上卿差給、文下在內記方、給復座、一々入眼之間、時別推移、予暫起座、與四條少納

言、源少將顯平、等雜談、夜前議所路、宮文、九條大

納言殿、權大夫殿、中納言中將殿、其退退太神妙云々、內府被參云

云、少時還著陣座、良久而大內記闕入位記、第一合、叙人多問、交沓之間經

數、又申臨時位記候由、上卿云、多者可入別筥、少者位

記上橫可置、內記申云、五六通也、即橫令置之、始著座時位記之間、外

記史等持視進客內記後、欲書聞書、上卿制止不令也、次大內記退座、六位內記持參筥

置上卿前、同進簿、次上卿召官人召外記、外記持參硯

宮置參議前、自予座下置之、次上卿被目、予移著座上揖了、又

蒙目揖進寄、置笏取簿、副笏右廻復座、揖了卷返給

紙摺墨、取副續紙氣色、次披簿置之、書始之間、上卿給

筥、內記可參會弓場由被命、內覽兼申請了云々、仍直可進弓場由也、上卿依雨

降、出宣仁門、被進自御後、予此間以官人招外記、私問

大內記、其事注折紙、從五位下王叙從上、首云式一、六位

王叙從五下者、書五位下六位上、今有五位王、將可在

五位最初歟、有其疑、但可書本位歟、此事未存知、當

座不審之由也、外記歸來云、大內記退出了云々、仍示

合大內記、答云、只可被六位五位下之上歟者、上卿被

復座、内記置當退、首云、後日中左大臣殿、中宮權大夫殿仰云、台

參議成不審、大臣被問當座上卿、無知人、仍被問大外記師安、上卿向

申云、先例可在五位之上、新從四位下之上、新四位上之下、

召使カ

北正笏召將監、其詞ちかきまものつかさ、但微音不

聞、二召之了、以只密將監奔日華門方云々、上卿云、參宣

仁門、更出向口華門歟、將監進參、上卿仰云、ヲシテ、

微音、將監進立案下、先是少納言已下進立、上卿召中

務、ナカツカ右少將顯平入宣仁門著賦、上卿給篋、少將

取之置案上、請印了、少將進位記退出、上卿又檢察之、

進御所被奏之、續紙不足、仍以官人仰外記續紙可持參

由、持參之、不續、即令續、給強飯小書兵部叙人之間、更思

出見式部下名、思失書六位尸、窮屈之至惘然之所致

也、仍更召紙、密放替令續、奧三枚書兵部召名、卷之置

之、更書式部奧之間、上卿被復座、内記撰入位記當三

合了、以帖紙各十文字結之、書銘押之、予書了、下名二

通籙等三通書調了、取副笏氣色、掛進奉之復座、上卿被

披見云、公卿子息ヲバ無位、書歟、而被入六位如何、予

云、所存一位之子無位、書歟、仍無位依時無之歟、但

可隨上宣、被答云、有其說者被書改有煩歟、又可爲才

學而已、又正四位下叙人能茂、任籙是能成歟、兼成

罷少輔令叙之、依爲父歟、予可直之由申之、即指給之、

予指及而取之、摺墨直成字了、又欲立、只可指及由被

命、仍奉之、次上卿召内記給之、下名乍三通、可指式

一宮由被命、予此間退出、參鬼間、謁少將内侍間、藏人

持參當三合、御所御鞠壺云々、仍不奏置御厨子云々、

予退出之後、密々示少將許、取寄下名、尋常書直、密々

返進了、件本下名繼加之、

下名書樣

四位

四位

賀茂朝臣在親

安倍朝臣泰忠

藤原朝臣範基

藤原朝臣能成

大中臣朝臣廣定

藤原朝臣祐房

平朝臣經高

藤原朝臣長衡

安倍朝臣泰基

源朝臣具定

大中臣朝臣隆繼

大中臣朝臣能教

五位

藤原朝臣成定

藤原朝臣隆賴

藤原朝臣公廣

賀茂朝臣宣友

源朝臣資俊

藤原朝臣信實

和氣朝臣清成

丹波朝臣賴經

藤原朝臣信繼

藤原朝臣實茂

藤原朝臣行經

兼康王

高階朝臣成兼

高階朝臣爲宗

平朝臣知祐

藤原朝臣宗尙

紀朝臣文長

藤原朝臣實有

源朝臣通繼

藤原朝臣賴經

藤原朝臣實平

藤原朝臣信綱

藤原朝臣賴季

安倍朝臣資俊

安倍朝臣晴賢

安倍朝臣晴吉

四世無位

業忠王

加叙事
入之

六位

橘 以清
藤原成家
中原家雅
菅野成完
中原盛氏
源 國平
藤原伊忠
橘 忠國
藤原範清
源 忠賢
藤原忠輔
藤原教房
藤原範繼
藤原定兼
藤原祐信
大中臣定量

源 賴綱

平 定長

中原光家

小野重直

藤原實康

藤原口久

藤原範經

齋部安友

齋部明尙

建保四年正月五日

四位

藤原朝臣公棟

源 朝臣晴賢

藤原朝臣祐忠

藤原朝臣兼信

藤原朝臣基信

五位

加叙
入之

藤原朝臣敦通

平 朝臣保教

藤原朝臣宗季

藤原朝臣實重

藤原朝臣實正

藤原朝臣實基

藤原朝臣有信

六位

源 廣孝

中原康澄

源 康重

安倍資量

紀 業清

中原孝保

大江高依

藤原業輔

平 宣經

建保四年正月五日

後日請大內記書寫之、其間廣等皆如予寫之、但此簿後
日召寄令書改給ふ、能成字已無相違、

正二位

藤原朝臣教家 臨時

從二位

藤原朝臣基嗣 臨時

正三位

藤原朝臣宗嗣 父權大納言藤原朝臣
春日行幸奉行事賞讓

從三位

業 資 王 臨時

藤原朝臣家隆 臨時

正四位下

式三賀茂朝臣在親 臨時

式四安倍朝臣泰忠 臨時

兵二藤原朝臣公棟 股宮門院當年御給

式五藤原朝臣範基 左兵衛督藤原朝臣
坊官賞讓

建保四年 正月

三百七十九

兵三源 朝臣以賢 中宮當年御給

式六藤原朝臣能成兼成龍兵部權大輔叙之

式七大中臣朝臣廣定 利資宮御祝功

式八藤原朝臣親孝 臨時

式九平 朝臣經高 春日行幸行事賞

從四位上

式十藤原朝臣長衡 策

兵三藤原朝臣祐忠

式十一安倍朝臣泰基 臨時

兵四藤原朝臣兼信 臨時

兵五藤原朝臣基保 殿宮門院建曆三年御給

式十二源朝臣具定 新院當年御給

式十三大中臣朝臣詮繼 遺豐受太神宮月讀社功

式十四大中臣朝臣能教 修造伊勢太神宮末社功

從四位下

式十五藤原朝臣成定 策

式十六藤原朝臣隆賴 陰明門院建曆三年御給

兵六藤原朝臣敦通 臨時

式十七藤原朝臣公廣 承明門院當年御給

兵七藤原朝臣宗季

兵八藤原朝臣實重

正五位下

式十八賀茂朝臣定友 父定平朝臣御所賞讓

式十九源 朝臣資俊 臨時

式二十藤原朝臣信實 父隆信朝臣受領功讓

式二十一和氣朝臣清成 侍醫

式二十二丹波朝臣賴經 故和基朝臣醫方賞讓

式二十三藤原朝臣信繼 七條院當年御給

式二十四藤原朝臣實茂 嘉陽門院當年御給

式二十五藤原朝臣行經 臨時

兵九藤原朝臣實忠

兵十藤原朝臣實基 脩明門院當年御給

兵十一藤原朝臣有信 院當年御給

從五位上

式三六高階朝臣成兼 從下一

式一兼 康 王 正親正

式三七高階朝臣爲定 前高松院長寛二年御給

式三六平 朝臣知祐 簡一

式三九藤原朝臣宗尙 兼

式三紀 朝臣文長

式三一藤原朝臣實有 臨時

式三二藤原朝臣通繼 承明門院去年御給

式三三藤原朝臣賴經

式三四藤原朝臣實千 宜陽門院當年御給

式三五藤原朝臣信綱

式三六藤原朝臣賴季 伊部岐島遷宮功

式三七藤原朝臣資俊 罷權漏剋博士叙之

式三九安倍朝臣晴吉 臨時

從五位下

式二業 忠 王 寛和御後

式三橘 朝臣以清 藏人

式四二藤原朝臣成家 式部

式四三中原朝臣家雅 民部

式四四菅野朝臣成允 外記

式四五中原朝臣盛氏 史

式四六藤原朝臣國平 氏

式四七藤原朝臣伊忠 氏

式四八橘 朝臣忠國 氏

式四九藤原朝臣範清 無品孺子內親王當年給

式五〇藤原朝臣忠賢 前女御藤原朝臣信子當年給

式五一藤原朝臣忠輔 嘉陽門院建曆元年未給

式五二藤原朝臣教房 宜陽門院臨時被申

式五三大中朝臣宗量 陰陽九

式五四藤原朝臣賴綱 諸司助

式五五平 朝臣宗長 諸司

式五六中原朝臣光家 諸司

式五七小野朝臣重在 諸司

式五八藤原朝臣實康 諸司

式季三藤原朝臣朝久 諸司

式季三藤原朝臣範清 諸司

兵士三源 朝臣廣孝 左近

兵士三中原朝臣康澄 右近

兵士三源 朝臣康重 檢非違使

兵士三安倍朝臣資量 檢非違使

兵士三紀 朝臣業清 外衛

兵士三中原朝臣孝保 外衛

兵士三大江朝臣高依 外衛

兵士三藤原朝臣業輔 外衛

兵士三平 朝臣定清 外衛

式季三藤原朝臣範繼 臨時

式季三藤原朝臣宗兼 臨時

式季三藤原朝臣祐保 臨時

外從五位下

式季三齋部宿禰安友 臨時

式季三齋部宿禰明尙 行幸平野社賞

建保四年正月五日

廿八日、清書仙洞百首、來月五日以前可達之由一昨日被仰雖沉思不可有

秀逸、仍所急進也、人々皆進余剩云々、盡詠僅滿空外、

無可相副物、

○五月

廿二日、昏黑、左府著陣、予又著陣、大臣召官人召外記、大外記師重參、承仰退、持參賑給文書、入宮、置御前退歸、六位外記置硯、披見御覽令目給、予移著、又蒙御目、進參揖、給例記折紙復座、卷返續紙如例、摺墨書之、

賑給使

左京

一條加北邊

左衛門權佐藤原朝臣資經

六位不番戶也 少尉中原——

少志安倍——

二條

左兵衛佐藤原朝臣賴經

少尉——

少志——

三四條

少志——

右京

一條加北邊

右衛門權佐藤原朝臣賴資

少尉——

少志——

二條

右兵衛佐藤原朝臣實仲

少尉——

少志——

三四條
以下
開ク

○七月

九日、昨日朝二品御消息到來、爲懸木可剪嵯峨領之由

也、其事示送尼上許了、依鞠懸、末代之花樹一株不全、况近邊乎、

廿一日、人々語云、去夜有除目、源中納言、源相公參陣、

右近中將實朝、選任、抑可給兼字、猶爲聞世嚴重被任之云々、四三條大臣兼此官之後、他門之人座此職、只花園左大臣、法皇御猶子而任之外、更無經此官之人、况有帶此官人之時、相並之例勿論、師長公爲中納言中將之時、中攝政任中納言給日、兼左衛門督、

今□□□中納言中將二人、參議中將五人、見任七人中將、□□□□□□只彼人珍事、惣藏人數太不便見所望云々、

○十一月

一日、日入之程參內、依先日給和歌題也、候小板鋪之間出御、下其方、依召參沓脫、又依仰昇長押、頭辨同

候、忝蒙綸言、此間賴資持參女院御書云々、入御、即給御返事、猶候殿上、秉燭已後、右府令參給之間入御、頭

辨披去夜詩、密議御作文、但左右府已下獻詩給、有御製、題松上望新雪、先

點高標天半冷、未覃低葉地猶乾、得題之體太以神妙、

頭辨云、今日松容之次、御作之體已以如此、何中殿御

會不候乎由、伺院御氣色、景氣太神妙、明春早可遂行

由有仰事云々、尤可然事歟、此次二、子等申右大臣殿

云、延久治承有中殿初度之議、延喜天曆依有內宴、還

無此事、承曆已後又有和歌之儀、案彼是、至于公宴、雖未置詩歌、今度同日被講詩歌、更無其難歟、是依兩方如此事、尤希有歟、今被始行之、即可爲萬代佳例、還可編延久治承歟、相府之仰セ尤可然、猶以事次、可伺松容由、被仰頭辨、少時宰相中將經通、參入之後、藏人佐來仰召由、即參上、如夏歌合、右府令候御前給、予宰相中將參着長押上、殿上人自下、次第置歌、資隆、信實、行能、範宗朝臣、雅經朝臣、保季朝臣、次經通卿進置之復座、予參進置歌之間、可進候之由有仰事、仍候講師圓座北、次召雅經朝臣、參進着圓座、講師、右府給歌、召保季朝臣令重之、次第被置、經通卿已下近參講之、康光追持參歌、取續奉讀師、三首一度可讀之由被仰、及公卿之間、家衡卿參入、有輕服事、重進被仰、連參、寄披講了各退下、右大臣殿御共退出、仰云、今夜以後可在一條、凡進歌之輩、右大臣殿、大納言公經、通具、夜部時座參入云々、中納言、忠信、重服人不候、御神事ノ月也、參議、參二人、實氏、卿有儀、不送、三位、家具、家隆、家衡、殿上人參之外、忠定朝臣、光家、歌休不可、既、太不便、

○十二月

十二日、今日付一首恩詠於山城守、

雪乃内の本乃松谷色萬佐禮加多陪の木々波花毛佐久奈里

傍官昇進不被競望、僅申松爵之一階之由、先日示付之、稱無次由、仍加送此歌、爲令伺松容也、

十三日、午時計ニ山城送書云、今朝御湯殿之次、具申入了ヌ、恩歌有御詠吟、置自賞、以舊賞加階、有其例哉之由有仰事、事體似宜者、且以感悅、舊賞之餘執、遇加勳之勳功、

建保五年

○正月

四日、左府仰云、今年加階可入叙位勘文、案舊例、左方土右府、花山左府隆忠公、十年而叙、此兩左府、於家不快、故入道殿十一年而令叙給、自餘非勞階御望、又故遲引、

別儀也、猶今年不叙、可待明年歟、申云、尤雖可被追入、故殿御例、恩案如此事、又強不依例吉凶、兩左府不吉、雖無十年之加階、頗無其前途歟、雖殊御所望者、又不可及御嫌退事歟、仰云、所存又如此、只無申入旨、任勘文、可隨微慮、抑叙一位人々、皆殊刷拜賀、入道殿召具四位前駐并前駐廿人、於今度者雖催求、不可有其人、只基定一人忌從、其夜參口遂拜賀如何、申云、尤可然候、又加階內辨、清慎公之後俊房公也、百餘年中絕事、追其跡、頗無由之趣申大殿、仰云、繼絕興廢之儀非汝誰人乎、尤遺恨、早可出仕由者、仍出仕云々、其後雅實公、故內府、都合四人之例猶希、此四人每度立叙列、出承明門、更見親族拜訖還昇、取白馬奏、三獻以後退出、參所々、此事又後左府被申合大殿、仰云、尤可被追清慎公例、其上大將初年、爭不被取奏乎者、今案之、此四人皆大將也、仍爲取奏口口且還昇歟、今度只立叙列、退出、參所々如何、申云、案此事、誠似依白馬奏、御早出更無難候歟、大略申此趣了、他事申承、六位外記

持參十年勞一卷、持來進之、

七日、節會內辨口口仰左大辨催叙列、已及昏黑、女孺等掌灯、其儀極狼藉、又不指釵子、後聞、右府令立外辨給時、九條大納言殿起給、自餘不立云々、源卿兩人存此儀由、衆相語、式部式文長位雖有此儀、寬弘已被寄歟、彼兩卿所存極不得心、參議公氏卿一人在座、仍不立云々、師經、通具、定通、公氏卿等也、嘉口御元服之時、師長公以下此口立云々、後日左府仰云、公氏卿賜位記時、可經我後左之由存、而經右前往反、不得心、一位大臣立叙列、參議不可昇殿、而宗行之外皆昇、不存知歟、

十七日、右大臣仰云、直衣著座時、自座前坐者、猶突膝、可座廻、自座後著時不突膝由、所見候也、

○二月

五日、右大臣殿今日著陣也、右大臣殿令出陣方給之間、予申云、今度召名、近衛司皆書少將、近代任人皆有權字歟、是若大間權字不候歟、仰云、大間ハ略權字常例也、仍書之、雖然清書尤可書歟、

七日、今日書新院御草紙古今、去年春所給也、月來懈怠、此四五日時々書之、

八日、院主法印被來談、亞相又水無瀬殿山上造營新御所、爲曉此前後土木、惣盡海內之財力、又引北白川白砂

云々、遠邊驚耳、振件入夜左府仰云、高野入道太相國薨給

云々、出仕之時、雖無有識之譽、在世之間無追從貪倭之心、通世之後有持律淨戒之聞、於末世者可謂賢者、未滿四十、太政大臣官途又何恨者乎、後聞、正念無違、

高聲念佛、異香薰室云々、

九日、河陽土木之功、潺湲之石、仁和寺宮庚申之御營、每事驚耳、海內之財力、末世更無陵遲歟、金銀錦繡、如雲如雨、

十日、書寫草子、以舊狀付女院御方中納言局了、可備後代之重寶之由、蒙委細仰、太爲恐、

十三日、庚申、西郊御營、金銀唐物如山岳、向後親王達兼以致用意云々、海內之富、更不耻上古歟、

十四日、道昌申云、白虹貫日由、正曆三年月有如此筮、

二重、非指變由申之、



圖之體如此、筮輪二重也、

正曆七日之月、半月太白彗歲在二重之中云々、

十七日、天晴、午時東帶參宣陽門院、長講堂彼岸御懺法結願、辨家宣朝臣布衣、一人參、相觸先著堂中座、此間源大納言參入、直衣、即右宰相中將公、參、東帶、辨來觸大納言事由、歸來仰可始由、即退石預、仰可始由、僧六口、昇懺法一座了、此間公賴、布衣、高通、直衣、朝範卿、直衣、參著、事欲訖之間、辨進來云、手長六位存參由之間、不觸事由逐電、參法金剛院、其外一人不候、爲之如何、如修二月御堂勾當法師、公卿手長有例、如何、大納言各被相計乎由被示合、各不申左右、辨又云、此御堂修二月始勾當手長、後年被改藏人了、人々云、縱雖有例已被改了、又今日不似修二月、爲之如何、予云、如御齋會堂童子闕如之時、被用上卿前駈諸大夫、院中事、地下諸大夫難被准據乎、大納言尤難准、但參北面者、勤六位代歟、如何、予又云、縱被用勾當者、御布施

自後戶可取歟、南庭彌可無便宜、但於無手長者、公卿不取布施、尤穩便歟、滿座皆云、是尤本儀也、公卿不取布施、何事在乎、辨云、殿上人又只三人也、御布施已多、旁難治云々、此事奉行之至愚也、何失一六位乎、以身不覺責公卿布施、太可謂不足言、但猶可申事由之趣、上卿愁許之、辨稱申事由、歸來仰云、勾當手長有其例者、依事闕如被免之、何事在乎、其事不可叶者、殿上人可取、上卿已下云、此事非爲公卿身、且爲御所之故所憚也、被仰下之上非此限歟、早可被用勾當、但御布施可廻後戶也者、大納言云、然者各可寄給、於某者不可能寄、範朝卿已下愁立、經下薦前、出後戶取被物、預法師五度、手長僧分居南北、手取南上薦被物、右廻復本座、北座布施、自御所御簾前取之、殿上人奉行、辨相交四人、公長朝臣、宗房、五位藏人如何、光俊、三人皆來帶、於紙者無取人、可送云々、口別被物絹裏、絹懸子、綿懸子、布一、結紙也、四口置之間、予退出歸家、依何事不覺、失公卿之威、今日參似耻、

廿四日、或者語云、河陽上下公私土木之營、所分給地、面々經營、被移魚市、上下故有商賈之營、亞相被造營新御所、山上有池、池之上被構瀧、塞河掘山、一兩日引水、又件瀧爲立大石、兼遣取材木、爲引石云々、國家之費只在此事歟、

〇三月

一日、內裏有圖鷄云々、後聞、明日事云々、

五日、石清水臨時祭日也、□□右大將參入、番長前行入神仙門、下薦廻月花門來、立葎外、主人著座之後、在葎之外、納言大將隨身如此之由、通方卿稱之、

廿九日、晦、終夜今朝甚雨、今日陰明門院前裁合、昨一日道路荷負草木往反云々、日來音信之人多、本自不栽異物、更無可然者由答之、所被尋求、皆珍異物云云、所不見不知也、猶圓律師被送南天竺、通具卿說、南天竺云々、即送別當局許、此外無尋出物、三位入道今日取長春花、女郎花等、普通平懷物也、今日勝事、近年天下有稱空阿彌陀佛念佛事、件僧結黨類、多集擅越、天下之貴賤競而結緣、

殊古故宗通卿後家所造之堂、九條、世傳大宮相國堂、爲其道場、是

隆信朝臣娘九條院所生尼公、爲念佛宗之張本之故也、

世傳二條院姬宮、細素道俗月來集會、而山門衆徒又聞此事成憐

憤、或云、訴訟申仙洞、無御制止云々、成群議欲妨其

事由、風聞之間、去十八日行幸鳥羽殿、松明光數多向

南、被念佛衆等、存山僧之炬火之由、叫喚馳走東西、抱

佛像懷黑衣而逃散云々、可謂勝事、

○四月

十一日、一夜召名、秦忠本位失錯、後隱有耻、仍更書召

名、送大外記計、可取替由示付之、次予問送、我朝年號

之字、人名字可用乎、一夜任人有貞元、雖須答之、夜深

爲疲、自他有煩、又如此事、群賢在朝議定畢、至于右筆

參議可加難乎、但去春御諱字出來、於其事推而書他字

了、爲向後所尋申也者、返事云、年號字并御諱、大臣、

見任公卿名字等、更不可用、而近代全不及此沙汰、去

春下名、御諱事殊奉感歎、於年號字者、不可比御諱字、

且刑部丞之中、當時又有貞元、文治之比、安元任因幡、

自如此事懸意問答、尤可貴者、

十四日、弘御所放御障子、積置種々物等、近臣奔走、少

時人々退散、撤所積置物了、只唐物色々御校唐綾、二櫃被殘

置、連句連歌、即出御、歌人依召著御前座、以弘御所西母

屋御簾內爲御所、其北廂二間爲歌公卿座、奧座右大

將、大宮大納言被候、左衛門督候端之中央、予依仰座西

方端座、宮內卿座東方端座、清範持參不參人歌、置文

臺、次殿上人以上置和歌、信實、範宗朝臣、公卿、次各依

召參、又臺近邊、範宗朝臣依召奉仕講師、其作法無違

失、予候其南、宮內卿在講師後、家長同進參、大將大納

言被候本大將座疊、大將讀師、頗停滯、清範於其後取進次第、如形被讀

上、自他當時無出音人、無詠吟之儀、只讀上許歟、御製

許僅詠之、依可講詩、頻被念歌、皆尋常、天氣快然、事

了各復座、次文人置詩、最前左大辨置不參人時、次帥、左大辨在高、爲

長卿等進參、長貞勸講師、先置詩時同持笏、文人多束帶、或衣

冠布衣相交、公卿皆直衣、講詩之儀如例、帥讀、宜詩殊

不聞、講了公卿已下著座、弘御所奧座、西上北面、連句連歌同時始

之、連句陽唐韻、連歌賦草木、雅經朝臣不參、祭師、神事、只御句許歟、大納言時々被加、自餘本自不堪、一身似懸各、每句五位殿上人四位、置唐綾一段座前、尋常句之時或五、或三、或二、置之、又宜句有、色々物、但無尋常句之間、買員數、色々事大略御所許也、予一兩度預此事、大納言時時有此事、依可被刷、各有精好等被返、可尋常由雖被仰、異樣事間相交、但連句偏精好、上句一句狼藉、下句四五相競之間、帥太府卿頗纏頭、精好相論之音滿耳、太喧嘩、今夜不得事歟、連歌及五十句、東方已欲曙、可限五十句由被仰、次被問連句六十餘韻云々、依曙被止、入御之後、各取懸物起、大納言被授上北面、末座者無可助成人、又棄置如此物、還有幽玄之謗、仍愁取之起座、太以見苦、遂給僮僕退出、似可耻、歸家即以書狀送山城守許、暫可置御書所邊由也、詩歌可尋書、依窮屈、每事廢忘、入道相國、前右府、兩僧正、尼公、實氏卿、雅經朝臣、光經、已上不候此、座歌許進之、右大將、親師、御製同、大宮大納言、左衛門督、子、宮內卿、範宗朝臣、御製講、師同、信

實、家長、秀能、同候連歌座、秀能候、砌下、文人關白、左右丞相、源大納言、已上、詩歌、前帥、左大辨在高卿、賴範卿、爲長卿、宗業卿、孝範朝臣、淳高朝臣、賴資、宗親、爲俊、範房、長貞、家光、忠倫、連歌、執筆、非成業左大辨一人歟、已無其人、世之陵遲歟、後聞、頭辨又獻詩許、十六日、午時參院、大納言於弘御所被閑談、今度歌拔群由、殊有敬感云々、廿八日、自右大臣殿、給直物勘文、末下公卿給之由被仰、

勘文

建保四年正月廿八日召名

神祇官

權少副從五位上大中臣朝臣隆朝、可削上字、作下字、

權少副從五位上大中臣朝臣家康、可削上字、作下字、

雅樂寮

權助從四位上安倍朝臣泰基、可削權、助作頭、

木工寮

權助從五位上藤原朝臣孝道可削從字作正字
削上字作下字

攝津國

大目從七位上田部宿禰國持可削持字
作珍字

遠江國

少目從七位上紀朝臣包里可削少字
作大字

上總國

介正六位上平朝臣清貞可介字上
加權字

若狹國

大掾正六位上上宿禰岑高可削上字
作山字

臨昏束帶、右大臣御共參內、即著座給、大臣召官人召
外記、參獻、承勘文事退、持參莖、被仰內覽、已下略之、
追可加之、

○六月

十三日、自內給御製百番歌合、付勝負進上之、後聞、天
下連卅一字者、皆預此事撰進云々、又不連雅清朝臣同
之、

十四日、庚申、曉行幸大炊殿云々、

十五日、昨日庚申、座主調進給色目、以假名本書寫之、
事之美麗無雙歟、

あふぎあはせ、

左方ひさしのでうどをふりうとす、

ふんだい、

まさゑの二かい、しろかねのたていたに、けん上をゑる、
しろかねのひとり、しにをく、

同はちふせにはしかあり、なかになき、
しろかねのうちみだりのはこ、しかものう

こがねのあふぎ、
歌治部卿誄之

るりのもんじにてうたをかきて、うちみだりのは
こにをく、そのしたに、よのつねのあふぎ卅枚をい

れたり、

りうびんのむしろを地ふとす、

いろくのそめ物卅七にてつくれり、あかぢのに

しき一反をへりにす、ちやうけん三疋をうらにつ

く、

かすさしのだい、

しろかねのからくしけのはこ、

同だいあり、なかに丁子をいる、

けさうのぐをかすとす、はさみ、けねき、まゆつくり、がうが
い、みくしり、くしはらひ、みなしろ
かねにてくしたなこひをちふとす、
つくる

おもてかうのきよれう 一反、

うら山ぶきのきよれう 一反、

とうだい、

きやうだいをもちゐる、

たちひとつ、かたな二、まぼりぶくろ六、同きを五

すちにてこれをつくり、しろかねのゆすりつぎを、

あぶらつぎとす、同きふたはわんあり、たき物をい

れてあぶらとす、しろかねのかうがい、かゝけき

とす、にしきのしとねのうちじきとす、

をもてしろききよれう 一反、

へりあかぢのにしき 一反、

うらしろききよれう 一反、

右方から物をふりうとす、

ふんだい、

さうとん、舂整也、

むらさきぢのにしき一反、いろくのあや五十疋
をもちてこれをつくる、からかわ一枚をしき物と
す、

まへにからづくへをたつ、

そめ物二、まほかふぐろ十八、同仁廿三にてこれ
をつくる、したづくゑ、

かたびら五十、そのうちそめ物一くみ十八をもちて

これをつくる、いろくのそめ物十反、をのくと
をしもん、これをしき物とす、うらにちやうけん三

疋をつく、そのうへにしろかねのからあふぎをお
く、

歌宮内卿誅之
からのもんじにて、うたをあはす、

かすさしのだい、

こがねのからすぢり、こがねのふで三、同きすみ、

こがたな、これらをかすとす、しろかねのだいあり、さかう三十をいれたり、こんちのからにしき一反をしき物とす、うらにちやうけん二疋をつく、とうだい、るりとうをもちゐる、

しろかねのかめのうへに、あふぎはなざらをたてて、しろかねのからはな三ふさをたて、そのえだに、しろかねのくさりにて、これをかけたり、あぶらに丁子をいる、みつのもののけんもんさをうちじきとす、うらにちやうけん二疋をつく、

わらだ二枚、

いと百兩にてつくる、

ろくのからびつ二合、

まさゑのからびつのうへに、くれなゐのからあや二段にてつくりなす、はなだのからあや二段にて、あしあふこをつつむ、

きぬ百疋、あさぎのかたびら百たん、あふぎ二百枚かけこにいる、

已上二合にわかちいる、
女院御方分云々

玉小唐櫃二合
合別唐物十段、人々懸子願十五本入之、

建保五年六月十四日庚申

○七月

四日、酉時文章博士孝範朝臣來臨、周章出逢、全無指事云々、清談良久、秉燭之程歸、此次云、漢書之說、受故永範卿之說悉讀之云々、予云、六句之遺老戴白髮、雖人嘲難遁、先年自書漢書、及二三十卷、其餘執未忘、今聞此事、雖少々有受申說之志、如何、待涼氣、急可遂其事由芳約訖、

建保六年

○正月

一日、鶏鳴後出庭上、奉丑寅方、次禮拜本尊、奉讀尊勝陀羅尼壽命經、更付寢、

二日、今夜御方違行幸、中將供奉、隨身蘇芳袴、明日以後、猶可著紅梅由含了、

五日、巳時中將令參御幸、隨身紅梅袴、童二藍、山吹袴、黃單、

雜色二人、舍人蒔木、薄色、水干裝束舍人、衛府殿上人

大略束帶、皆具隨身、公氏卿、朽葉袴、公雅卿、伊時卿、蘇

芳、自餘紅梅、

九日、或人密語云、元日拜禮、予入中門之間、○闕文アリ

十二日、傳聞、今日內裏樂所始延引云々、大臣薨時、雖

薨奏以前、猶被止音樂之由、內々有沙汰、

十四日、天晴、權大納言、兩中納言中將、正大納言二人辭退、兼基

和今夜殿下參、權中納言賴平、顯俊、兼、宗行、參議忠定、和今夜殿中云々、

國通、兼、定高、左大辨定高次第昇進、右少辨資經、兼、

侍從藤親信、藤保平、式部少輔忠倫、修前秀康、但馬宗

長、座主、淡路高階資兼、左大、河內高階泰敏、九條大、藏人

頭伊時、公雅、從三位保季、從四位下資賴云々、未明

參內、太理退出、相逢參殿上、逢頭辨、勞帳等被召了、

事已訖歟云々、權中納言一人在座、藏人仗催可著座

由、源中納言予著座、執筆被仰云、受領舉、自上起座、

座小板敷、權中納言以召使召外記召舉、此間瀧口名

詔、天已明了、先是頭辨退出了、外記持來舉、入宮、三通、

云片、各取之、自上薦持參、取副笏著座了、自上薦重奉執

筆、各復座、次予起座、又座小板敷之間、除目了、執筆

令出給、予出無名門外、左大臣取大間莒、授權中納言、

令退出給、奉過歸入、此間博陸於弓場令拜舞給、御共

殿上人等帶劔取笏、實宣卿爲扈從參云々、可參院給

云々、自御後出來陣給了、予徘徊弓場、權中納言召外

記小板敷給莒、經階前著陣、予相隨著、西向、上卿召官

人置軾、次外記置莒退、此次仰硯、外記置硯莒、上卿依目

大間被出了、仍直移居、殿下、又氣色而進寄給大間、副

笏復座、揖置大間直裾、次卷取黃紙禮紙、返入卷返、黃

紙書勅任、

勅

太政官

權大納言正二位源朝臣實朝

權大納言正二位藤原朝臣家通

權中納言正三位藤原朝臣顯平

權中納言正三位藤原朝臣顯俊兼

權中納言從三位藤原朝臣宗行

參議從三位藤原朝臣忠定

參議正四位下藤原朝臣國通兼

參議正四位下藤原朝臣定高

左大辨正四位下藤原朝臣定高

右大辨正四位下藤原朝臣純明

建保六年正月十三日

次雖可書奏任別紙、先卷取折堺懸紙返入、卷返折堺、一卷書奏任、式部召名、

太政官謹奏

太政官

左中辨正四位下平朝臣經高

右中辨從四位下藤原朝臣家宣

權右中辨正五位下藤原朝臣資賴

左少辨正五位下藤原朝臣長資

右少辨正五位下藤原朝臣資經兼

大外記正五位下中原朝臣師季

權少外記正六位上中原朝臣師光

以下次第書之、外國任人太多、依折境不足、以外記令續加、先三枚、猶不足、又加一枚、外國之間令續加之間、先書奏任別紙、依足召加紙一枚了、卷返書之、

了、卷返書之、

太政官謹奏

丹波國

權守正三位源朝臣通方兼

建保六年正月十三日

卷置之書訖、式部召名卷返置之、又卷返書兵部召名、

太政官謹奏

左近衛府

將監正六位上、

七人歟、書之、

右近衛府

權少將從四位上源朝臣具實復任

、、、、、、、、

以下書了、卷返置之、

次卷返、召加紙、書下名、此間上卿召外記一人、仰大間可卷返山、外記卷之、

四位

平朝臣經高

藤原朝臣宗宣

五位

藤原朝臣長資

藤原朝臣忠倫

六位

橘以良

源親行

建保六年正月十三日

次書兵部下名、上卿命云、四位不候者、可書入復任人、予先年書之、大外記不甘心、內々相觸、後日止之由答了、猶何事有乎、只可書加由被命、仍書之、

四位

源朝臣具實

六位

藤原、、、、、

左衛門尉四人書之、

建保六年正月十三日

書了卷返置之、次召名下名勅任別紙取副笏、大間懷中、氣色掛進寄置笏、奉召名等、次奉大間、復任上卿令被披見、式部召名、不見終卷之、取文他文下名等、入勅任奏任別紙等于笏、召官人召外記、外記參入、蒙目參軾、給莒、次揖被立、仍此間退出了、藏人頭夜前殊有訴訟、被問人々云々、其人又不可然、遂被補上臈二人云々、忠定叙非分三位、兩人補頭、世上之儀、官途之運、思而無詮者歟、藏人方、只賴資一人奔走歟、雖稽古者、猶未練歟、如何、十五日、賴資催明日下名、節會已前、明後日女叙位入眼等共領狀、宗房催節會、十六日、節會、賴資云、女叙位入眼守古儀、雖催申、近

代多被略歟、可在御意、予本自成不審、

十九日、大納言六條三位等暫談、清範朝臣來、中將得骨不好鞠、不便之由、告有沙汰之由、

表紙云、此卷和歌秘說有之、不可有外聞、中殿御會事、

○七月

一日、庚午、

八日、臨昏右佐示送云、明日可被行除目、行幸以前、申時可參陣、申承由、

九日、參內、於御後相逢佐、問任人、答云、都合任人三人也、已在其內云々、自愛抔悅、無物取喻、至于兼官者、非前途事、雖不可濫、於身、此職本自、殊所繫其望也、於家可貴、於人不輕、尤過涯分、朝恩之至不知所謝、少時新中納言^{宗行}參陣、予即著陣、賴資昇與座下折紙、上卿披見、取笏氣色、職事退、上卿移端、召官人置紙、召外記、大外記師重參、上卿仰云、硯折契、稱唯退、少外記持

來硯置之、上卿氣色、予移坐座上、不下、依第
二三本也又氣色立進、取折紙復座、願召官人召外記、外記進來、仰有勅任黃紙可進由、即持來、取之入莒、更卷取禮紙返入、卷返黃紙置之、次摺硯染筆二管、次取副紙笏氣色、置笏書之、勅

民部省

卿正三位藤原朝臣定家^兼

建保六年七月九日

次卷取折境禮紙返入、卷返折境書之、

太政官謹奏

左近衛府

權中納言從三位藤原朝臣忠定^兼

建保六年七月九日

與枚又書之、

太政官謹奏

諸陵寮

頭從五位下賀茂朝臣宣昌

建保六年七月九日

頭書ニ不知本位、申上卿、不知由答之、以官人召外記問之、外記歸來申之トアリ

放續目各卷之、取折境禮紙書叙位、

從四位上

賀茂朝臣在繼

從四位下

中原朝臣師重

從五位下

藤原朝臣長經

建保六年七月九日

四通卷了、帖折紙入懷、取副四通於笏氣色、揖進置笏授四通、次授折紙、取笏復座、上卿披見召外記、々記參、召宮、予此間立退在閑所、暑難堪、日漸入了、雜色少々遣召、出來不平車耗來云々、內覽外記歸參、上卿奏之歸著、召外記尋二省、不候云々、皆下外記、師重朝臣大外記如元由同仰之、予經階前進弓場、藏人以良出

逢、又歸來拜舞、昇著殿上揖、又揖退出、經本路、

廿九日、傳聞、中殿和歌作者、昨日被定仰云々、院仰、序

者右大大納言四人、通光、公經、良平、通具、中納言一人、忠信、參議四

人、實氏、定家、家衡、基良、家隆、雅經、殿上人知家、範宗、經

兼、賴資、行能、信實、光經、依此事昇殿、承用通宗例歟、六位康光云々、

一門之中被弃保季卿云々、定經卿子二人堪能云々、道

之用捨、非愚意所及、

卅日、參院、可有出御云々、先是按察密語中殿和歌事、

爲家今度可參之由、內裏有御氣色、而以父吹舉詞可申

由承之、且存知歟者、予云、詠歌事始終非可思放事、隨

又如形相連候歟、然而當時愚父眼前可加吹舉之分限、

猶極不堪之由依見給、年來加制止、不合交衆、今無指

風情、加增證據、只依晴事、忽可令列人數由奏聞之條、

猶憚思給、只依別寂慮之趣可被召者、非此限之由重伺

天氣、猶愚父可申之由被仰者、早奏達可候歟、按察甘

心、又通平朝臣事、同大將可申乎由、有仰事由云々、予

云、非身上事口入、極雖恐思給、保季卿不入此人數由承

之、家事極澁思歎、爲累代公人歌仙漏此事、不便候歎、
兩方有便宜者、可有御存知奏達、又以甘心密事、今度人
數、於予子息全非所望、定經卿子二人、其內一人、依此
事昇殿之上成所望、舉子之條、甚可見苦事也、今朝此
由舍中將了、少時出御、隆仲卿相共入見參了、予退出、
〇八月

十二日、密々下給御製三首、申殊勝之由、被進院、以御
點可被定云々、人々歌少々、唯今送之、右武衛猶宜由
答了、兩宰相中將、宮内、武衛、知家朝臣、賴宗朝臣等也、賴資、光經、信實先日見合、
大宮大納言、四條中納言、同再三被示序者、御歌度々
給之、自歌已闕如、行能又送之、

十三日、壬子、天晴、辰時今熊野御幸云々、東洞院大路、朝又
給御製、院仰云、松御歌、叶中殿儀歎、〇已下闕文アリ、先御遊、
御琵琶、主上、笙、四條中納言、拍子、前左兵衛、笛、修理、和琴、右三位中將家
關、箏、四條三位中將基真、筆、右兵衛督、付歌、資雅、呂、安名、鳥破、律、三奏念、
樂、更衣、

十四日、今日大府卿參内、序殊勝之由感申云々、

裏書云、

人々云、賴資置文臺、又掌燈、信實持參燈云々、
後日右大臣殿仰云、先例依催立切燈臺掌燈、次仰文
臺事、而今度仰切燈臺事、賴資立切燈臺、未持來燈
以前、不待催進寄、取御硯蓋置之、次信實持參燈、賴
資又供之、不得心、於圓座事者、其後又仰之令歎、
同、

當時人々皆云、山途宇陀、予讀樣定奇驚歎、依慥受
庭訓、不隨時儀、

俗語長歌、或短歌、或神歌、或早歌、神樂、

被引上之時、此等皆外田云、何限和歌、禹臨下讀
乎、

廿八日、自右大臣殿被仰云、九月十三夜內裏可有和
歌、被召題、猶一首祝言歎、可員多歎、如何、題事又可
相計、申云、一首祝事不可及度々候歎、只月題可宜歎、
出題事惣不堪、不能計申、私案、博陸嫡子、母他界悲歎
之間、禁裏宴遊、無會釋事歎、近代之儀惣如此、

○十一月

十五日、參右大臣殿、仰云、右大將爲一大納言兼大將、今大臣有關、早承大饗日、可用意由申入云々、可然乎、頗驚耳者歟、以此由被仰關白、被申曰、家通爲一大納言、他人可申大臣之條、惣不思寄、其上已有申者云々、只可在御計歟、仰云、閑勘先例、可思食定、重被申云、通光競望之上、及先例沙汰、有御不審者、更非所望之限、早可被任官歟云々、通親取時、撰衰老爲上薦時、我已超越了、今通光卿及通親之撰乎云々、惣有可許之氣、昨日退出、今日又早參、若此事歟云々、於所望者尤可謂理運歟、將軍申狀、太有若亡歟、但年中兩度任大臣、并新任大臣一年之內轉任、何代何年之例歟、只有人之沙汰、無此政之汰沙、嗟乎悲哉、兩卿退出之後入見參、又仰云、日次太不快之間、只以別宣旨可除服之由存之、右頭已宣下云々、待持來可除服也、良久六位外記持參、入宮披御覽、止文被返宮、

右大臣藤原朝臣

權中納言藤原朝臣宗行宣、奉勅早可除服從事者、

建保六年十一月十五日

即令除服給、陪膳長俊朝臣、陰陽師國道云々、

今夜仰云、若關白兼大臣時、下薦大臣或受彼讓文、被宣下後爲一上、關白不兼大臣時、無上薦大臣、只自身以吉日、行一上之儀也、宇治左府爲內大臣、花園左府薨時、申兩殿下、勘先例、被沙汰極也者、

承久元年

○閏二月

二日、曉雨漸止、朝陽鮮晴、今日彼岸之始也、仍精進、省年預來請署、入宮、文二通、一通

民部省謹奏

應奉宛諦子內親王封戶漆拾伍戶事

若狹國貳拾伍戶

安藝國貳拾伍戶

讃岐國貳拾伍戶

右被太政官正月廿三日符傳、今上内親王所定者、應奉宛封戶、具狀謹以申聞、謹奏、

建保七年二月 日 參議卿藤原朝臣定家

一通

封戶給奏

應奉宛歸子内親王御封戶七十五戶

若狹國廿五戶

安藝國廿五戶

讃岐國廿五戶

右被太政官正月廿三日符傳、今上内親王所定者、應奉宛封戶、具狀如件、謹申聞、

建保七年二月 日

參議藤原朝臣在判

奥有杉木軸代、有表紙、弘三折入鱗帖、細紙爲紐封之、

奏書加署名給、卷可加判之由申之、予披見經署書伊豫權守、仍忽給紙令書改、加判返給、次封之、封上可書名、片字由中之、定字、書了返給、付藏人奏聞、并内覽返給、加省文書云々、奉勅未調卷軸以前、遭如此事、更無先跡、無妄助無機緣之條、已以露顯、徒可蒙誹謗罵辱、置而無詮者也、

廿三日、水無瀬里梅花ヲ取入衣莖蓋、以隨身奏賴弘爲使獻大内、詠和歌一首相具之、書紅薄樣、立文白薄樣、詠曰、

みなせ山ほとはくもゐにとをけれとにはひはかり
をきみかまに

即有御返調、書白薄樣、立文紅薄樣、其詞曰、

みなせ山ほとは雲井のはるなからちよのかさしの
いろそうれしさ

此事其興多、仍所記也、

嘉祿元年

○正月大

一日、壬戌、自夜天陰、微雨降、未時陽景晴、遲明念誦奉拜佛神、奉讀誦經、今年早改桓靈之政、可逢堯舜之朝、未時

許召使等來、依舊賜酒肴菓子等、去年又如此云々

二日、癸亥、朝天快霽、已後忽陰、晚景微雨、今日國母

仙院拜禮之由、舊年聞之、昨日非指可憚日、不知其由、

右大將拜賀云々、轉權大納言慶也、依吉日見齒固鏡、老後嫺而一日見之即撒

兼信朝臣來之次、令覽家吉書、

三日、朝陽晴、晝間陰、臨昏千壽萬歲來、秉燭之後初月

出雲間、昨日右大將拜賀、前駟十人、實有朝臣、實經、

賴氏乘車扈從、

四日、霜凝天晴、初沐浴、入夜無量壽院已下修正亂聲

遠近聞、女院女房初退出、元三之間、參公卿不幾、大

臣不參、元日家(宗イ)行、基隆(保イ)光俊、二日大將拜賀入殿中給、聖體內侍殿取(改イ)之、賀拜(實基イ)、

公宣、公氏、三日雅親、經通卿、資經卿、賴資朝臣、夜深歸參之後、地震二度、

五日、天晴、右武衛書狀之次云々、女院拜禮元日被遂、

乘燭、上卿雅親卿、公宣、公氏、家行申繼、資經、基隆、保イ光

俊、經高、賴資、氏イ一列公卿座、不垂簾、掌燈拜禮之間、應

官光明光時奉行雜事、光時光資二人聽昇殿、顯後所行歟、中將來、明日左

大將殿拜賀、御共、殿上人去年之儀、實有安嘉門院御給、可叙三位、實

經勞階四位、二人有此事、爲家籠居、嫌御共歟、又中將三位

同依此事歟之由、以行兼被爵仰、爲家元三不出仕、卒

爾不具、實有三位早加叙之次、可申請之由、可申之由、

相國申給云々、其外資季、賴氏、能忠依五人大功、可召

具基定歟之由、又被仰、前官如何、必不可爲五人哉

之由被申、相國幕下可參給御出立所、又於大將亭可被

奉待云々、答イ參拜儀主人香諸大夫、被催、前驅二十人云々、無超

越之恩、同預籠居之怨辭、一旦執行之時無其抽賞、生

涯怨歎之故預此阿黨、前生之罪報、只依此惡緣也、可謂

難堪、元日小朝拜、博陸列給、已以公宣卿、爲節會內辨

云々、轉任大臣皆籠居、非據任官之輩、無出仕人云々、

夜深又地震、連々可恐、

六日、朝天陰、巳時晴、巳時聞書見來 從一位公繼、從

二位在高、從三位隆親、北白河、實有、安嘉實平、中宮、正四位

下、三替長衡、藤宗平、範輔賀道繁、安親職、藤家定、藤實經、源家定、具正五下、源

兼(東一條)藤光資、長男七條藤憲長宣嗣、大中原定繼、同永經、成、丹波忠長、同光衡、從五位上、源資平(氏藤家成、

曾公良、藤忠範、高階泰明、五位四十五人、外三人、(同藤公基(臨時)午時

許依年始日次宜、行冷泉見兩兒、日入以前歸來、宗平

朝臣借弓箭之次云、明日內府內辨辰時云々、權大納

言殿御消息之次云、藏人頭兼受領、平季長寬平九年正

月兼山城守、于時頭、左中辨同惟仲正曆二年正月補藏人頭、近

江守如元、五位藏人又有例、皆近國云々、

七日、坎日、天晴霞登、午後陰、申時微雨間降、雜人說、

昨日左大將殿於冷泉富小路見物云々、前驅十六人、

六位省衛府基定朝臣、能忠朝臣、資家朝臣、賴氏在御共云

云、有教朝臣女叙位、院宮御申文使叙列事等尋之、委

示送之、此人雖有識之餘流、不持家記、常音信、每度委

示之、依有內外舊好也、申始許開梨下山來、明日以後

隔日可參御齋會云々、又可參最勝光院由稱之、不知

可否、是好無參出仕歟、今日二品親王日來參籠、社頭二宮、彼

岸所、令出京給云々、妙香院御坐無動寺、可及二三月云

々、即行向左女牛宿所、今夕實清朝臣來、以來以人令

答歡樂之由、昨日御拜賀、依本所催供奉云々、

八日、夜雨止、朝天晴、加叙從四位上能忠、嘉陽門、當年正五

位下兼輔、七條、承久三年末基氏、臨時、實光、府勢、範輔、實平、實

有、本官如元、入夜中將示送、明後日左大將殿直衣始

御共、殿上人闕如之由被仰、右幕下御拜賀無人者、可

參由申了、勿論之由申、此事本自非可遁避事、早可參

之由答之、所詮皆以不運之相傳歟、親房朝臣又讚岐國

雜掌折紙、民部省年預新儀之責、御齋會之問事之由示之、夜中

下知年預之事、

九日、自朝天陰、入夜雨漸密、阿開梨昨日無爲、公卿六

人座列、刻限以前向右武衛許由示之、御齋會召物事、

可切伊賀國由、國兼申之、仍其由示親房朝臣了、

十日、自夜微雨、忠弘入道告送云、在京武士悉戎服馳

走、巷說云、三井寺有事、不知實否云々、中將又示送、三井寺之南院之黨、打破中院之修正、企狼藉之間、講師負手、依此事、本問左衛門向三井寺、武士馳走云々、年始十五日之內、尤奇怪事也、園城凶徒可滅自門跡之故歟、世間之不善、必發自彼惡徒歟、若不進下手人者可擄取云々、未時許開梨來、著袴御齋會一昨日日入以前事訖云々、存外事歟、即參官廳了、入夜爲方違宿忠弘宅、中將來、左大將殿^{直衣}始、今日延引、明後日可參、只今自右大將亭歸來、近日事、白馬節會公卿九人、內辨內府、公宣、左大將、公氏、實基、親定、梁綱伊平、賴資、外辨參入、不及暗晴儀、叙列、雨儀、被改雨儀之間、次將皆弃梓退入云々、不知案內、次將定事也左大將殿本自依短不令剪杖給、右大將被剪云々、件日實忠參內、手取關腹尻步陣云々、近代尾籠、次將皆持笏、今又依模公卿儀取尻歟、至恩未練之輩無教訓人、任意狂亂、可悲世也、誰知之哉、只如振子之遊、一昨日左大臣轉任拜賀、中納言實基、實忠、言家扈從、件大臣侍、去四日於德大寺家醉

鄉、無是非斯合五六人蒙疵云々、元日關白出仕、御共人、宗平一人、他殿上一人不出仕、暗恐無沙汰之餘、忘身上給歟、二日中納言中將拜賀、三日又被參所々、共人又宗平云々、殿上淵醉、伊成朗詠今樣行事云々、盛兼乍出仕不扈從云々、貫首在共事不見習、而主從不知歟、白馬內辨時綱扈從、左大將殿能忠一人資家參會陣、下車給之間、立車傍云々、其日糺雜犯、廷尉只三人云々、當時種文又爲番長云々、六日御拜賀、外祖東帶、答拜、主客先令立中門給、主人下南階、客令進庭上給、拜了揖讓、主人先昇、次客令昇給、次被引馬二疋、殿上人次自中門廊令出給、北政所渡御御覽、右將軍^{鳥帽}被坐閑所、相國室同被渡坐、榮華繁昌之主、極古今無比類歟、又傳聞、叙四位少將、當時皆不被仰叙留云々、十一日、天猶陰、辰時又雨降、午後晴、天明歸家、午時許心寂房來談、問巷雜人說、春除目博陸任意可行由自稱給、以前除目不任意歟、極爲奇、但元曆大地震之夕、巷說云、今夜重大震、可打返地云々、若見去年事、雜人

之所云出歟、右大臣辭官、子息可任大納言、左大臣又去官云々、只以狂亂爲時政、何事不被行哉、

十二日、朝天猶陰暗、終日不晴、後聞、左大將殿直衣

始、爲家、能忠、資季朝臣、御共令參內裏、北白河院給、

相國參九條殿給云々、各令見物給、

十三日、朝天遠晴、入夜參前相國亭、越前國司奉謁之

間也、加其座、今年熊野參籠、七日歸洛由語之、前內府三御山定持高卿同帥入道本宮四人參會云々、白本宮下向、

明院御所造營、二月事始、六月上棟、八月御移徙、按察丹後國承之上、日時

等事申沙汰由申之、退出之後暫奉謁退出、左府除目一

度勤仕、一定可去職云々、狂亂之世、人之昇進早速、實

以不思議歟、通具卿稱大臣超越由籠居、其實又籠居、

而著直衣、元三中參內云々、世上之儀云而無益、

十四日、遙漢快霽、巳時許中將相共向北山、見勝地景

趣、禮新佛尊容、每事以今案被營作、每物珍重、四十五

尺曝布瀧碧、瑠璃池水、又泉石之清澄、實無比類、未時

許歸廬、

十五日、天晴、午後漸陰、夜月朧々、念佛以後奉書阿彌

陀經、入夜向右將軍亭、以此中將依潔齋事、洗髮之間、不對面之由被示、即退歸、知景法師來云、可參吉水由、大夫僧都奉行被仰下、仍明日可參者、當時不知何事、早可參由答之、

十六日、月蝕、蒼天遠晴、巳時許知景法師來告、富永御領、阿闍梨已拜領訖者、以少年不肖之身、賜先師所領、數々所之內、只一所相國被分奉、無是非給之條、實餘身之恩也、以愚札馳申了、日入以前使者歸來、申時許法印被過談、入夜明月無片雲、

十七日、朝天陰、間晴雨灑、午時許參九條殿、以有長朝臣被仰云、只今以年預賴次、可爲年預之將之由、可被仰中將、其由可告示歟、申云、可爲年預由、去年粗承候此事、故殿御時、親能朝臣御時、定家被仰之時、以久景被仰下候了、仍年預將曹等來告之儀、忽不存候、若所見候哉、歸來云、兩度如斯、而故左大臣被仰師季時、被用賴武云々、此事被尋申松殿、猶付古儀、賴次可宜由被仰、仍如此被仰下間、心中頗不得心、雖正儀何不被用

二代之例、被用故左府哉、抑件事只以人申承之由、人有之、又喚中門廊對面、有例歟、近代近衛舍人對面可宜歟、仍舊恐札、以雜色令恐告、賴次已向丁云々、此事兼不承、頗以不得心、于時見參之間、又召番長種文、御隨身之間、作法子細等、以有長朝臣被仰下、又申上存旨、甚有興、彼所存又不違文書之所裁云々、申承世間事等、秉燭以後退出、於中將門前問此事、行向吉田之間、賴次來、只參入可承仰由、被召仰由、云懸青侍等退歸、甚不得心由稱之、仍以侍爲使者、行向彼家、今日爲御使來臨、他行之條恐申、又被來觸、有事煩、只早對面畏承之由、申之旨、可被申大將殿由、可示送由、計示歸家、可遣馬允光兼由答之、

十八日、天猶陰、已後雨降、申時許陽景見、又雨、猷僧都來談、自冬老病不出行云々、適令暇談往事、又聞所勞由、迎寄今姬、入夜知景法師來、謝江州喜悅事、今日中將參詣日吉云々、十九日、坎日、夜雨止、朝雲晴、中將昨日參詣了云々、

明日安嘉門院御幸、年始、侍御車院司闕如由、依催供奉、賴次答承由云々、今朝示送之、

廿日、辛巳、天晴、風靜、阿闍梨來、今日登山可參坂本云々、除目明日始云々、今年御前儀初度、也、巷說、可被行道理云々、道理之體尤可見事歟、秉燭以後出一條室町邊、見女院御幸、少時左大將被參、牛車、中將相隨、出車出門外、實忠、宗平、公賢云々、不知一定、良久出御云々、殿上人慥不見、賴氏、實清、俊隆、伊成等歟、具隨身東帶、人五人許、自餘不見、公卿經高卿、直衣、光俊卿、東帶、隨身四人、公長卿、家行卿、衣冠不具者皆、大宮右府流之儀云々、定高卿、東帶、院司四人、其賴、知宗、爲家、長清歟、御車

宗房、御後、檢非違使出車三兩、見了歸入、天陰雲暗、廿一日、壬午、天顏陰、陽景見、申後雨漸密、女房參七

觀音、巽地白梅開、去年二月、中旬開、覺法眼來談、自然及昏黑、兼

季三位送書狀、此人住關東之由聞之、不知歸京之時、

廿二日、自夜雨濛々、入夜三位兼季卿、被枉駕、此事大略法

性寺前執柄之御使歟、侍從言家、亞相御共、艷氣之故也、去々年冬以後違背、音信不通、左府之進止者也、異

城他郷之由申披了、彼亞相拜賀、無可相伴者云々、世間之勝事、于今不聞及給、比與事歟、此三品、三年在關東之間、舍兄僧都、去年七月早世、所緣闕而空歸洛云云、人運力不及事歟、自他可悲、

廿三日、天猶陰、未後雨又降、侍從來、參賀茂歸路云云、酉時許退歸、

廿四日、朝陽晴、雲頻飛、經國宿禰來談、未聞除目聞書、巷說云、在高辭兵部、自受二位號顯平叙三位之由有其聞云々、臨昏見聞書、侍從藤公蔭、源定具、山城中原定

職、大和紀久直、參河守藤爲綱、下總平常秀、下野藤朝政、播磨守信廣、權守國通、讃岐權守隆親、大隅江信房、對馬藤範房、左少將源家定、右少將實經、諸司允已上文官廿二人、諸國遙掾介等、左右將監五人、左門四人、右五人、少志拾二人、左兵七人、右兵六人、左右馬三人、正五位下敦直、高階經基、藤公輔、藤定雅、從五位下朝政、常秀、使宣旨左衛門藤忠尙、後聞、經基辭少納言叙之云々、此內兵衛尉藤爲光、左馬允藤忠政、臨

時、其名字可驚、

廿五日、天晴、依冷泉犯土事、女房兩兒等來臨、申時許中將來、自一昨日籠于北山、人々如例遊宴三條納言說除目雨

儀、雅親卿、公宣卿、弓場列宮文、可融立蒞下歟之由、忽成不審明義門內成此儀之間、我加其中示告、用例路由語之云

云、御前儀僅四年之間、又及不重歟、人心如此、三公每夜出仕、五位殿上人等、右府火橫置座前、並宮文、右府無言、左府令置直

云、宮文訖諸卿皆退出、一人在座由語云々、夕各歸了、今夜宿東小屋、風牙寒、

廿六日、霜凝天晴、早旦信實朝臣來談、洗髮、依目病沃菊、入夜女院女房退出、中將來、

廿七日、朝天遠晴、午時許參御室、出御見參之後謁法眼、申始歸廬、近日白梅單紅梅盛開、路頭芬々、

廿八日、自朝天陰、夕雨降、昨日下午名云々、午時許見聞書、少納言藤爲綱、父隆範辭左京權侍從藤實清、宮內大輔藤邦

成、大膳權亮平繁清、甲斐守藤維綱、近江守藤親賴、越後守源季保、出雲守源義清、豐後守安陪資秀、同叙爵左近

權中將藤實平、雜任文官九人、武官廿三人、正四位下

長倫云々、仁和寺南邊牆根、單紅梅昨日見之、語法眼、

今日取寄栽南庭、依早速開也、未時許到來、夕隆範朝

臣來談、三男爲綱頗有書出漢字之志、仍吹舉之、今年

十七、任少納言、自愛之由也、去年內侍所御神樂末拍

子、定半庭火許歌之、即下了、和琴、有資、笛、公成、皆韓

神之後下之、一人與好氏始終勤仕了、殿下殊感恩食由

被仰少將、內侍今度六度未下之、八幡御神樂相加七度

勤仕云々、耽道之思、大可感事歟、雨降後歸、

廿九日、終夜雨、今朝晴、今姬參大谷齋宮、明日行南

京、女院女房歸參、今日渡御修明門院、暫可御彼御所

云々、

卅日、天晴、風靜、今月又空過、如片時夢、

○二月大

一日、戊辰、終日天陰、入夜微雨降、西面紅梅八重盛

開、

二日、夜雨止、天猶陰、已後雨間降、午時許心寂房來

談、後聞、今夜御方違行幸云々、

三日、天猶陰、夕陽晴、右中辨奉書、來七日松色迎春

久、絕句、以榮爲韻、左大將殿御消息者、老味不堪、久絕交、若如

人數有殊子細者、可承由申之也、未時許參九條殿、見

參之次申云、御作文候者、尤和歌可然歟、故殿常仰云、

一門賦詩、不詠歌人、只宇治左府許也、尤可有歌沙汰

由、令教申故左大臣殿給、思此事、尤和歌御好可然歟、

有御許容、即以有長被書出歌人、家隆卿、知家卿、範

宗卿、爲家卿、信實卿、信定卿、地下、有長、公卿皆詠歌

例也、召大藏卿被仰題事、松不改色如何、申云、何事候

哉、序被仰家光朝臣、即可告示此人之由、被仰圓辨、心

閑見參、秉燭程退出、大將殿御著陣、同九日云々、

四日、霜凝氷結、天晴、自九條殿仰云、引見舊記、法性

寺殿初度無歌、大臣之後有和歌、宇治左府初度有和

歌、仍可止歌歟、申云、如今仰之勿論候歟、又被仰云、

天永有饗饌、依彼例可居饗哉、申云、舊儀不限文場饗

饌、盃酌人皆醉鄉、近代雖居饗、全以不行、只爲沙汰之

煩、於此事者、只付近例不可然歟、如何者、

五日、朝天陰、微雨漸降、申時陽景晴、未時許法印被來坐、入夜中將來、公賢中將母去比逝去、其息女腫物病、歎息之餘終命、中將在嵯峨云々、三月可有公卿勅使、兩社行幸又延引云々、

六日、天晴、禪尼參詣嵯峨栖霞寺、

七日、霜凝天晴、九條大夫來臨、忠弘自播州送樹二本、

輪和、日入以後參北白河院、日來依所勞久不出仕由、示

右金吾、戌三點許歸廬、招泰俊朝臣令修鬼氣祭、此冬春之間、世間疫病滿道路云々、

八日、天晴、午時許中將來、昨日參北山、近日每人被充

櫻木、被裁前庭云々、人々物語之中、長衛朝臣等說、一日比一上

享射小弓、負態方鳩一羽、酒一瓶、可進由示賴次、非近習物、只

依召繼事、自後院近入歟、賴次此事不思得之間、剪紅梅大枝、雄雉雌

雉各十羽、如小鳥付之、大瓶入酒送之、納受饗應云々、又親

尊法眼深澤、語或人云、去年翌俊保俄任少將出仕、隨身

裝束欲忿調之間、後見法師取出、一度著用美麗裝束二

具、成奇問子細、或中將如任中納言、隨身不可入之間、

忽其裝束賣之、四具、聞之二具買取由稱之云々、同人人

云、知信等說、歲末年始所進之上林、皆以彼家人所賣、

買取進之云々、事體雖不及注付、依聞驚不默止之、

今日若平相直、日入之程參九條殿、及乘燭參著、右中辨、奉行、大藏

卿許參之間也、人々漸群集、大藏卿傳內々仰、于時予、宮內卿參也

天永法性寺殿初度、殿上地下任位次、相交置詩、後々例無其事

歟、今夜每事被遂天永例、此事如何、且可相計、予申

云、每事被用彼例者、此事又何事候哉、宮內卿云、雲客

若存不可然由、人不可然歟、如布施取之時、不可爲位

次由、有難澁人、但於被用彼例者、又非此限歟、其後二

條納言參入、以有長朝臣又被仰此事、又仰云、天永上

臘納言宗忠基綱、二人在座、而第三人大藏卿爲房、爲讀師、若依上

臘被憚歟、於今夜者只依例儀可有御存知歟、又此御時

故帥入道資、爲讀師者、納言諾置詩事、位次吉例云々、

相分常例也、兩樣共何事候哉、猶相分可置云々、次

左大辨參入之後出御云々、右中辨相觸、納言已下次

第著端座、皆直衣、太府卿次置文臺、大立切燈臺、徹本

暫退下、迫著座

夫

次置詩、序者大內記長貞束帶、副笏參進、頗膝行、置笏置

詩、左廻退、殿下御西簾中、振開御簾、仍左廻退次第置之、左右

廻面々相替、或膝行、或不膝行、持笏人副笏進、置笏

置詩、右中辨在中門廊壁下座、揖立置詩、不揖而退、復

本座揖、淳高朝臣置之、公卿經座中央、進文臺南、向北

座置之復座、予又如此、今夜各於座聊披見、卷之持參、

置時不披之、中納言又立進寄雖咫尺立置之間、殿下即可被

取詩由被仰、即取之、又仰云、文章ヲ可直、殿下服座去カヘテ置之也、願見召寄信盛令重、此間召講師、

義高進著圓座、納言願召寄大藏卿、左大辨各進、在納

言北座之中央、又召右中辨、召寄孝範、淳高、長倫、

雖教音只仰名字二字猶可仰朝臣字歟、大學頭朝臣、文章博士朝

臣、也、可仰、如何、兩翰林參長押下、次孝範朝臣參、

坐其西方、講師讀序了、儒卿二人詠吟三反、次講詩、但

兩人之外不出音、七八人之間、孝範朝臣稱病退出云々、

依地下不成勇歟、講了納言伺御氣色、主人賜御詩、納

言及而取之、披置本詩上、講師讀上、詠吟之間、講師出

頌音、兩卿同助音、講師退後、兩卿猶如本詠之、納言押

疊詩、群卿復座、次主人入御、各勸座、自下退下、予乍

立與宮內卿言談、自然及良久、人々退出之後退出、宿

忠弘宅、依窮屈爲略町數也、于時曉鐘頻報、恩詩、

松色遇春春樂成 料知仙算久誇榮

老松伴得抽貞士 三葉狎恩大樹營

沈淪壽考之身、奉遇三代之新任奉仕、依願運述懷也、

納言語云、忠定卿自年始參籠春日之間、與愛物藤王

巫、同宿、其事不得心、去冬件藤王參金峰山、相公經營

乘新調輿、著色々狩衣、侍四人供奉、母同巫、騎馬在共云

云、

九日、天陰、未後甚雨、夜深如沃、早旦歸廬、自昨日彼

岸、雖精進窮屈平臥、

十日、春雨濛々、申時陽景僅見、雨中閑寂、一昨日人々

言談事、思出注付也、除目職事於朝餉奏申文時、主上御

南一間、關白候臺盤所障子下給、先々御所中央間第二也、關白同候朝餉給了、先

先即此關白伺候云々、彼是相異如何、又初奏吉書日、

日御座如官奏立机帳、後日人成不審之時、關白我不見之由稱給云々、其日候御前不見給云々、宗房經年中障子南、家光經

北、宗房進御座間弘庇、如外辨前召使折向西云々、家

良卿雖任納言惣不見云々、除目執筆一事以上惘然、大

間又散々、於座召宗房、東海道國、何々國、被問、宣

說之詞頗進退谷云々、比興端多、向後又以不及當時

歟、折指數之、每度有七云々、

十一日、自朝天陰、中將來、今夜北山修、二月云々、公卿

直衣、殿上人衣冠、昨日凌晨雨、被遂大將殿御著陣、中納言

宮內卿參御出立所、四位少將關如、欲被渡資季朝臣、

被仰頭辨、稱物詣由不申沙汰、被仰有親、殿下御座堀

川殿、奏事不通由稱之、仍以家光書狀示頭中將、頭中

將奉書於二條東洞院到來、資季參會陣、著座了、御共

爲家卿、能忠卿、敷政門於右將者不憚通之、自餘上官

之外不往反歟、能忠有長皆融之、立其內、老病猶如此、甚奇能也、入

床子座東簾下、經床子座令入給、次將爲家、資季、實清、

所役、事了又歸參九條殿云々、申時參北白川院、謁女房

金吾、之間、新宰相參會、白二衣、入綿、浮文薄色指貫上結、薄花川白裏厚平結狩衣、上下不相應之姿歟、即退出、依權門同座無心也、

十二日、終夜今朝雨降、晝間或降或止、西庭紅梅或開

或落、安嘉門院今夜還御本御所云々、日來御于四辻

殿、修明門院御所也、女房退出、

十三日、天晴、遠忌、晝途嵯峨、午時許請住心房、受戒

訖之間、僧正長者、被來談、被歸之後、上人又被歸、今日

齋會、入夜中將來、次云、陰陽大允云云者在關東、近年如此

者不分別名字、其官讓子息、其子息在京、父妻本白好色、在京、于息又通之云

云、件妻月卿雲客已下相見、正月晦比稱禁裡近習殿上

人者、入臥件所之間、大允搦之面縛、以太刀之峰打、

又打損其面、所乘馬稱察御馬、仍引進於大內、無體說、舍人

男切本鳥、翌日可將向六波羅由相議之間、繼母搦手足

請夜中恩免、大允行武藏太郎許、不出云々、相慎由歟、

件女喚聚世間之聲美、每人調送美服袍已下、綾羅半

臂下襲指貫表袴、常相營云々、件物買取以康入道家、

大炊御門
萬里小路、居住於其所、有此事云々、

十四日、自夜甚雨、申始天晴、女房參詣新日吉祇園吉田賀茂、夜前事又或說云、今月朔日事也、父大允晴光弟云々、子息稱新大允、六波羅近習者也、此說所生之母云々、已及五十之齡、元好若夫、生盛兼朝臣子、如此之輩不斷往反、其夜衣冠之人來、曉更退出、大允搦取件男面縛、車宿以太刀打々切其頸、相具欲向六波羅之處、母從乞請、不曙以前赦免、兵衛佐親氏稱落馬由不出云々、後聞、舍兄成實朝臣有此聞云々、

十五日、天晴風烈、少將有敎朝臣明日祈年穀奉幣御劔役事有消息、委示送云々、今日有所思拜夕陽、西日入山、東月初昇、櫻早花一兩開、梅花未落、春之風景自然催感、中將來、明後日相具母儀、欲參天王寺、而北山向イ弓昨日負熊之次、博奕又負返之間、依其事、身參詣忽留云々、親氏事主上不知食云々、人又成憚不申歟、入夜女房歸參、

十六日、天又陰、夕雨降、自去年十一月、以家中女小女

等、令書源氏物語五十四帖、昨日表紙訖、今日書外題、生來依懈怠、家中無此物、進久之比、被盜失了、無證本之間、尋求所、雖見合諸本、猶狼藉未散不審、雖狂言綺語、鴻才之所作、仰之彌高、鑽之彌堅、以短慮專辨之哉、禪尼女子弟、行冷泉、明旦相具參詣天王寺、

十七日、朝雲飛西、雨猶間降、酉時許雷電一聲、曉更三條河原東邊有火云々、雨中寂寥、晚梅早櫻昨今開、終日風烈、雲奔西北、舟路定有恐歟、

十八日、天猶陰、雨間降、入夜中將來、天王寺參詣、昨日依風波逗留大佛邊、今朝參著之由、下人來告云々、中將依北山弓事空留了云々、明後日經營其事、法勝寺尊勝陀羅尼被遂了、導師覺教僧正、前院御時、依仰法用之時、諸宗僧皆立、今年山僧等相議、又不立云々、

十九日、天晴、巳時許參權大納言殿見參、自然移漏、日入以後退出、秉燭歸廬、忠弘入道只今歸京來、細川越中、之郡、戌終許西方有火、甚遠云々、若西京歟、天王寺有書狀、十七日宿于三島江、十八日參著、

廿日、天晴、雨間灑、未時許女房又有輕服事之由被告、去冬延壽御前之母弟鶴王御前と云、又自年始病、待時由聞之、定其人歟、相門一腹已無殘歟、日來坐于六條舊宅云々、

廿一日、自夜甚雨、已後止、陽景間晴、雲雨不定、曉更

送車、女房於門邊令除服、忠光令參、

廿二日、天晴、風吹、覺法眼過談、御室爲御湯渡御圓明

寺云々、七々一昨日遂持佛堂供養、件願文御室御草云

云、謝返之後、參安嘉門院之次、先行北毗沙門堂歟、見花

樹、不扣車廻四面、末代之壯觀也、已盛開、漸及日入參

北白川院、新宰相著直衣浮文指貫、參入、即退出、行冷泉宿、

方違、

廿三日、天晴、日入之程歸、今日安嘉門院密々渡御北

山、中將御共、心閑可御覽云々、心寂房來談、

廿四日、天陰、小雨灑、未時天晴、天王寺迎下人等送

之、

廿五日、天晴、風吹、午終聊有夢想、今年未遂物詣恐

思、仍明日欲精進、酉時許物詣人著此家、廿二日見聖靈會、松殿大納言忠、母儀相共參詣、七日侍從定實已下

如諸大夫物四五人在與共、母儀與在姫君之前云々、已

擬彼御妻室歟、大納言著淨衣指大腰刀、以銀作成、近代貴賤所相好也、大

藏卿相具子息二人女房、同參詣云々、

廿六日、天晴、洗髮始精進、傳聞、醍醐座主一昨日手水

之間、中風忽不動身、昨日逝去云々、櫻會明後日之由

兼有其聞、右中辨云、大將殿御作文延引、來月八日云

云、性兼房書狀之次云、近日在醍醐、定範法印爲櫻會、

令練習童舞、入興之、翌日洗手之間忽中風、即時終命云

云、無常之世不可驚、

廿七日、天快晴、辰後陰、

廿八日、朝天陰、已後漸晴、中將來、依輕服不面謁、禪尼

被坐別屋、府年預賴次來、付解狀、府領出雲國、出雲國年來

無煩勤仕陣座疊、忽依地頭之妨、不敷疊之訴訟云々、

事已重事歟、先申大將殿、隨仰可侍職事歟之由答之、

定修下山來云、坂本御宿所に日來祇候、聊有御不例

事、不食、咳病但有御宮廻云々、暫於京可服藥之由稱之、退歸了、未時出京、忠光忠康房任相具於山階邊遇納言、騎馬者濟濟焉、依有耻隱于路傍、日入之程參著、秉燭以後宮廻、奉幣之次參彼御宿所、見參良久、今日宜由被仰、亥時許歸參寶前、又退下寢宿所、教成卿每夜奉幣、

廿九日、天快晴、暑初催、鷄鳴以後歸洛、於山階日出、往還之間、社頭路次花盛之最中也、田夫樵父悉插一枝、桃李淺深又滿望、過白河邊、只有懷舊之思、昔與舊遊玩花之所、時移事去、花猶每春不回、古木折盡、堂宇滅亡、新豐遺民只有一身、依恐暮齡之身、不能暫眺望歸廬、左大丞以書狀、又被示直物事、此事頗難辭歟、坊城相公病惱危急之由、於坂本聞雜人說、仍以房任示送承鸞由、本持病更發、昨今又小減由有返事、自去冬未出仕云々、大略損亡之人歟、妻室自去年在伊豆未歸洛、人口狂亂云々、

卅日、辛酉曉更風雨猛烈、後曙爲啼之後、天如土寇冥、少時雲漸散、巳時天晴風烈、終日大風、去夜坂本先々

宿所之女住所二字放火燒失、又去夜宿所燒亡之間、盜賊亂入散々云々、是此邊時々止宿、結怨念惡徒之所爲歟、無緣之物詣賊有怖畏、後聞、成茂弟社司忠快法印童觀(頭イ)八郎等、惣近邊小屋數多燒了、

○三月小

一日、壬戌、坎日、天晴風烈、大風發屋、終日不休、散イ

二日、天快晴、去夜歡喜、光院乾方一町許燒亡、強盜入放火之故云々、午時許參安嘉門院、次參錦小路、大宮、

大納言殿依頻有召也、見參移漏、及日入退出、參北白

川院、謁女房、可イ亥時許歸廬、宗清法印書狀云、幸清所望

已成就、於今者所存遁世之儀者、能可被案由答之、能

季卿養女師季朝臣妹月來病惱、今朝逝去、三品并能忠

朝臣皆遭喪云々、年來養一腹姉妹云々、

二日、天晴、

三日、天晴、

四日、天晴、巳時許參九條殿、大藏卿參會、示合仙家詩事、相共入見參之次、雜談、去月祈年穀奉幣左府當日定、大內記覽宣命草、大臣問云、辭別何書與哉、申云、

廿二社一同被申時、奧書流例也、一兩社有辭別時別草進也、聞之甚有不審之氣、重云、伊勢宣命爭不別乎、申云、伊勢猶於草者、無各別之儀、清書之時、諸社所書分也、伊勢一社奉幣時、猶其社下書、又草奉書伊勢由、兩說候之由披陳之、聞之甚分明之由更有感氣、每事蒙々、中納言中將可行給此事由、兼有沙汰、改之、被行祈年祭了、殿下仰云、法性寺殿以前皆初度被行祈年祭、故內府又如此、故殿爲替其事、先行祈年殺給之後、八條左府家此大將用之、關白故左府又如此、而此人又替此儀歟、天變事雜人皆稱見之由、十九日廿一日廿三日彗星歟、司天皆申不見由、但不蒙密奏、安家等道昌、小小稱見由云々、廣田前海水變血色、日米聞雜人說、事已實伯朝臣申上云々、汲取入桶之後變黃、如紅汁云々、強盜入蘭林坊、面縛守護男、任意取雜物、孔子靈像適修補之後、懼大學寮釋奠、具足等移置此所之間、又放靈像并天神御影裡禮服具悉取之、御書等散々踏散之、翌日吉上見付面縛男解之云々、社稷朝廷事如法窮盡之時歟、悲而有餘、及日入歸廬、夜半許南方有火、以下人

令見、自七條坊門油小路赴南及梅小路、其東西無事云云、

五日、自朝天陰、午後雨降、笠置事如例沙汰送云々、六日、自夜甚雨、終日濛々、入夜如沃、依無衰日之憚、以盛綱問中御門三位悲歎事、秉燭歸來、

七日、通夜甚雨、未時許休、天猶陰、依脚氣無術不參最勝金剛院、聊依有招請參大相國亭、申時、奉謁、秉燭以後

歸廬、性惠房自醍醐被宿、

八日、朝間雨暫休、午後又降、臨昏如注、午時許中將

來、昨日依催參左大將殿、御共參最勝金剛院御八講、

前近六人、令出給之間、御帶表乎自右奉指、乍憚示告、有長令乘御車給之後奉指直、甚奇也、內府、大將殿、二

條中納言、大藏卿、藤三位、長季、隆範、重長等立行香云

云、一昨日又內府、大將殿、大貳四位等六人行香云々、明

日臨時祭使成實朝臣陪從等、頗近日人口事有所思云

云、舞人不聞及、氏通、養父中納言、隆範朝經營云々、新少納言、臣子、雨降

如沃、以舊狀、御作文延引之由問近習人々、答云、御

作文一定也、此事甚無心不可然、是又非指日事、出仕不

令期、儒者遠遼、外人等祇鼻參入、甚不便事歟、使者歸、事已及申時、仍愁著直衣參、甚雨之遠路進退谷了、舉燈之間參著、庭上如池水入沓中、殿下出御、仰云、此雨止歟之由存間、彌以甚、可令延引歟、奉行右中辨參入、又被仰此由、申云、縱雖參入、披講數刻、深更退出、彌可有煩、被仰延引由、何事候哉、以使者欲示告之間、孝範朝臣參入云々、予云、即所可被告示如此人也、已以參入了、於今者還又不便歟、只雖人數不多、以參著人被逐、何事候哉、大藏卿中納言參入、各參御前、又被申此由、仍被止延引之儀了、此間申所勞消息等又到來、兵部卿、今度内々所望可參云々、今所勞由、在大辨、胸病、近日依每事不具、出仕多懈怠云々、儼儀之煩歟、菅資高朝臣、義高朝臣等也、權右中辨無音不參、宮内卿又參入、暫被待親長朝臣等、不見之間、各申可被始由、殿仰云、主人在簾中之時之儀、置時之時如例置之、講師進時取文臺、御簾下向て置之、講師座向西可坐也、講師納言、可被存、少時依右中辨告、各著御前、主人出御、殿下御簾中、諸大夫四人置文臺、敷講師圓座、置打敷立切燈臺、

持燈臺之人取渡、次序者文章博士長倫朝臣取副笏膝行、置燈取高燈臺退、持燈臺之人取渡、次第置之、及于信定朝臣、次殿上人六位藏人高長以下及于淳高朝臣、次宮内卿自座中進文臺南對北坐置之、今夜可著奧端之由被仰、仍大府卿奥座、次第進置了、中納言猶立置之、坐圓座東板、取詩召講師、大内記長良、束帶取笏、昇長押之間、依仰經納言之東向西座、文臺ヲ御簾前ニ置、中納言講師罷、ニ向西坐、召信盛、其詞信盛、令撰重詩、此間召右中辨、兩文章博士、孝範朝臣可近參由被仰、各候長押下、先講序如恒、此兩度講師惣不讀人名、若是近代之儀歟、大藏卿孝範朝臣詠之、納言又聊助音、次第講之、淳高朝臣孝範朝臣腰句再許詠之、至于公卿胸句同詠之、腰句或及兩三反、御作回韻、皆詠腰句數反、又胸腰句、次頌聲了各退候本座、主人入御、各動座、即退下、予即退出、濕損事無極、入忠弘宅付寢、臨時祭加陪從闕如、被求叙四位者之由聞之、伊賀國司歟、有長皇太后宮亮有經子、二條中納言發育、於年齒兄歟、忽出望、仍今夜叙四位、求表袴令著之由、納言狂言、世

間之儀如此、每度陪從幕之叙四品歟、每臨時祭可儲位
記載、日來奉幣之時、春日使偏五位勤之云々、予蜂腰
句殿下内々御覽、頗被感仰、塵外風光催軟語、壺中樓
閣映濃句、艶留玄圃待周穆、翹從赤松嗤漢臣、講之間、
大府卿翹從赤松有被許之氣、

九日、朝雲出、天漸晴、辰後黑雲又奔西北、卯時許歸
廬、臨時祭日云々、未時許覺法眼來談、定範法印東大
寺東南院門跡、可爲仁和寺宮御沙汰由、法皇御在世之
時進證文丁云々、日來傳聞、南京頗憤思云々、南京事可爲仁和寺

御領本也、退歸之後、心寂房來談、昏歸、臨時祭使成實朝臣
雜人當色蘇芳鳳持衣、青衣籠、八人、侍九人、馬副舍人薄色、之由
聞、自餘事不聞及、

十日、天顏快晴、今日服薤、秉燭之程風雨猛烈、電光滿
天、匪直也事、

十一日、天晴雲出、未時許又大風雲飛、女房等行冷泉、
申時許歸、今夕分裁菊、秉燭以後南方有火、不遠、送車
於冷泉、雜人歸云、少將辨辻子之内火也、當時赴西、

久不滅、甚不審之間火滅了、雜人等歸來、出自辻子之
内湯屋、赴南出二條、不渡室町、不出東洞院、中將在北
山、火滅歸來、右中將、前左衛門佐經長、等來、令滅火、存
外晴がましき訪歟、武士等群集二條洞院邊、無通路云
云、火之間又雨澀、

十二日、朝天快晴、南京下人說云、奈良北山濫僧長吏
法師非其病、容儀穢、優美法師、假例人之姿發艷言、掠取尋常家々女

子、已及三人之間、漸有事聞、欲燒拂其住所之間欲逃
去、遂斬其首懸路傍云々、就中信宗法印信弟子僧都最
愛娘去年、住所燒亡之中、不知行方失之、臨此時返送之
云々、未代事、付視聽驚耳目歟、

十三日、天晴風靜、嵯峨高倉殿可見北山之由被誂、仍
奉借車、一昨日又申此由、於亭主有許容、

十四日、朝天陰、巳時天晴、入夜中將來談、十二日於
北山偏淵醉云々、十二日夕幕下被參安、女院女房聊日
來經營事、被出貝拖事云々、花瓶立色々花、立地盤、其
下入扇五十、薄樣等云々、夜月明、覺寬法眼五首、大納

言殿卅首詠出、各優由答之、

十五日、朝天陰、陽景間晴、雲頻飛、午後大風、昏雨降、自曉禪尼例腹痛更發、傳聞、嵯峨洞殿姬君、今曉寅時自廣隆寺退出、於廣澤池逢群盜、共侍終命、牛童初切手云々、九世間狼藉如此云々、盜賊公行歟、西郊方羅

卿二位侍親左衛門云々

人云、事一定也、先入左衛門尉某宅歸、群盜於廣澤邊逢件車、斬共牛童等追散、剝取車中女房衣裝、共人等未死、盜一人負手、被擄留問之云々、末世之法悲而有餘、大秦後夜鐘速於他所、聞件鐘出寺、被逢此事云云、

十六日、終夜今朝雨降、已後止、午後天晴、未時許中將來、先是伊勢前司清定來、依療治事不相逢、心寂房來、病者事示合、先可服牽牛子由之、其皮搗之以湯服示之、脚病不渴、當時不可加灸、笑治必止、病云云又刺止、今日歸嵯峨云々、日來在河東、入夜女房退出、

十七日、天晴、中將來、未時許歸、入夜法印被來、歡喜光院執行不治、被改補尊賢僧都云々、近日八重櫻之盛

也、山上紅梅又當時開云々、一昨日^{十五}、豪圓法印逝去云々、月來不食病、自幼少爲其姑被養、雖母子之禮、實是故尼上之所生、此法印一腹也、相互又知之、入夜女房歸參、

十八日、天晴陰、黑雲來往、午後晴、昏性愚房詣高倉殿亭、明曉下向湯山、

十九日、天晴風靜、入夜良方黑雲細發、乾巽引、

廿日、天陰、已時雨降、臨昏風交雷鳴、申時許中將來、夕陽之後風雨雷電、一昨日御方遠行幸、兩大將供奉、相國見物給、孫子雙給、榮花眼前見之由、自愛自讚云々、前殿又御見物云々、但公卿其外只一二人、實基、公長、經高卿、無公卿將云々、少將通時日出以後還御、欲問名謁、右大將被追入云々、入夜之間、雷鳴漸休、大風更起、雨猶交、塙垣摧破、室屋動搖、怖畏無極、夜半許漸休、

廿一日、雲出天晴、中將相具小兒等參社、自去年春頻預責、卅首歌三月盡日可被講云々、今日構出清書進

大納言殿了、是諸人內風情出來、依前後之疑難堪也、前宮內卿又今日被見其歌、愚歌又注送了、右大臣殿若君北白川院利部卿局發中、爲前殿下御沙汰、今日渡給成實僧正房、依弱少御乳母暫可奉副、今日同可到向彼邊山、自日來音信、借引替牛、嵯峨姬君廣澤凶事之後、重病危急云々、旁不便事歟、

廿二日、四月節天晴、巳時急雨暫降、申時又甚雨、自一昨日季御讀經、今夜定修參番論義云々、

廿三日、天快晴、番論義不入番由定修示之、無益之出仕歟、宿于東小屋、逾十五日、女房退出、

廿四日、天晴、未後漸陰、禪尼又被除服、一腹兄弟

廿五日、朝微雨降、終日天陰、雨間止、季御讀經有僧事、七十二人昇進云々、

廿六日、天晴、猷僧都來談、昨日禪林寺僧正十種供養被請人々云々、新僧正御房御坐、公氏、定高、親定卿著座、實俊朝臣、經行朝臣、宗平朝臣等伶人云々、一日被請予、申難熱所勞之由、不携絲竹者甚見苦歟、今日洗

髮、初念誦、

廿七日、自曉雨降、或止或降、自一昨日三十一字之苦患過休息、北史齊周隋宗室傳抄出之、自餘傳不能追書、帝記后宮先年書之、爲纔知時代也、

廿八日、天晴、巳時中將歸洛云々、申始許來臨、黃昏成茂宿禰來、見合卅首歌、今度歌甚優也、相逢之間、公猷律師過談、是又卅首今朝送之、今度宜之由示送、事爲重問答也、前宮內卿又被見、子息侍從同歌風體甚優美、凡今度歌併得其骨、一身遺耻而已、

廿九日、晦、庚寅天晴、未一點參大納言殿、四條坊門大宮、前宮內卿此中將御對面之間也、信實朝臣參入、雖被待左大辨、依歌數多且被讀上、此間新少將賴氏、參入、仰云、以信實朝臣可爲講師歟、申云、雖聊無詠歌之人、可被用他人歟、已無他人、仍清定何事候乎由申之、予取和歌、披露硯宮上、召清定令讀上之、先是仰云、重歌次第可何樣哉、申云、院中事秀能之外下北面者、不接晴御會、歌合之時雖存之不重歌、依無五位以上、重加事不覺悟、殿中又諸

大夫之外無被召者、只以今案、以祠官二人歌可爲最末歟、若爲位次者、成茂四位事外上座歟、其次々殿上地下位次、公卿之後僧、其親朝臣入道如何由被仰、僧後女房、女房之後可重、今爲僧綱下臘歟、御歌由、只以今案申之、今日前大僧正御房忽送遣御歌、存外之面目由被仰、被召作名、是只最結句ニ、可被重哉由申了、次第令讀上、每人初歌纔講之、左大辨參入、直衣、歌數多、女房歌及秉燭各讀上了、給御歌、不撤他歌置之、頻詠吟、次又讀上彼御歌了、予取歌令卷調、先是大辨退出、次令折折紙、有連歌、清定執筆、十餘句之間三位退出、及五十韻、夜深了、依無心退出、曉鐘已報云々、遠路車遣屈腰、極難堪、數奇之至也、先公御時日夜供奉、如此事者已無一人、愁以存命、又倍此座、歸路思殘涯、徑イ落涙霑襟、後聞、今月季御讀經始、定通大納言上首、甚雨、御前簀子踏入機引尻著座云々、保安之比、先祖大臣取尻大武升切妻由、有所見事也、結願大府、新源大納言、雅、右大將、中納言實親、實基、參議二人資經、大臣不揖、南殿

上宰相不問、出居已下被起座、大將納言密々奇之、聞此聲忽出宣仁門、於敷政門內、自招大外記、大外記參踪居相語、此事更入宣仁經階下著殿上、大臣自召外記、未聞事歟於殿上出居一人之外不見、公卿各又無人歟之由、暫伺見之間、或人云、有教朝臣見ッルハ、大臣答給、其ハ南殿歟、但帶劔シタリッルハ、非出居歟云々、此詞又以不得心、即立被著御前、頭中將盛兼出殿上戶、歷出居座前辨末後、加其座上、次立仰度者云々、言語道斷事歟、雖非其身居其職何不問習哉、不可說々々々、公卿歸著陣饗之間、實基問實親卿、非微音など軾ハ不置哉、及兩度實親卿答云、本自敷たれば不敷ぞかし、如此事縱雖答失錯、猶露顯不可云、况自身之尾籠哉、人々無用意事、逐年如此云々、

廿三日、僧事、權僧正圓淨、大僧都六人、公性、顯倫、宗全、隆聖、覺紹、宗源、權少僧都八人、能玄、良兼、範四、辭仲僧正、玄基、承圓、僧正、道禪、仲舜、顯尊、辭大、公賢、證實、實真、權律師九人、法印八人、圓經、公惠、道慶、道寬、隆快、法眼十三人之中、有木工寮功、法橋廿二

人、法務、覺實、明年天台二會講師、聖玄、東寺灌頂經寬、從儀師相猷、貞審、未曾有事歟、

○四月

一日、辛卯、天晴、頭辨送書、催祭出車、事已闕如、可存公平云々、十大納言、散位六十人之期、五兩出車尤可闕如、去職之後不持車之由答之、入夜定修來、不逢、依窮屈付寢了、

二日、天晴、已後陰、午時許中將來、昨日會合、北山入道右金吾親兼在其座、去月下旬入道相國於中山迎講、

熊請空阿彌陀佛、勅勸在天王寺、依此事推而入洛云々、事非密儀、總公卿列

座、管絃云々、同比通具卿於堀川家白拍子會、友重在其座、發使喚左衛門尉清重、非家人、依後樂招請、疑于後戶開木工山林勲、清重不向云々、

門不禁、雜人道俗集會于庭上見物云々、昨日平座、刻

限參議隆親着二藍直衣、浮文指貫參內、家良、公氏、

經通、資經卿等參陣云々、又云、中納言中將被參、入夜參大相國亭

謁申、女子瘡病事被坐云々、今日落得云々、前宮內卿來加、適出行之人依無心退出、向右幕下亭、時賢卿被

謁之間也、少時彼卿退出之後、及心事歸家、聞曉鐘、三日、天晴、前右少辨光俊先日示送歌合、付勝負返中將了、亥時許未付寢之間、南方有火、須臾滅、後聞、四條南、東洞院東、及高倉孝行光行入道子、式部、中將家人、住宅燒了云云、

四日、天晴、昨日間南京禪尼病、使歸、老尼俄病惱、時行、子息二人看病、禪師、自餘不入其所云々、今朝開、夜

前火滅、及曉又燒亡、梅小路大宮良遍法印房、不修他所燒失云々、

入夜參相國亭、姬君瘡病猶有其氣云々、賴氏少將來

謁、祭使、使節間事等申合、車被訪云々、前駟諸大夫被

相催馬、移馬、未出來、觀本府四人、自上被催云々、武澄、兼廉、兼

一、兼久員、久清子、兼雜色可着打物風流、可付年中行

事物具云々、假令卯杖、挿頭花、綱孟等、可始具等也、退出之後、暫言談歸華、

月未入、昨日祭除目、無殊事、馬助長衛朝臣子、

五日、坎日、天晴、月輪殿八講、明日云々、結願可參由、

親氏重催、

六日、朝天陰晴、午時着直衣參月輪殿、僧俗未參集、殿

下、內府、令出給給之間事漸具、予右衛門督、東、左大辨
同、着西座、內府着東給、三位中將殿、二藍直衣、わか、い、で
のき、生單衣、薄物三
實、加予下給、予可立由、伺內府御氣色、不可然由蒙御
命、一座論義之間、夕陽漸傾、座末難堪、依無心退座、今度修理
二間公卿
座出來、右大辨又來、暫言談之間、四座漸訖、先是左大將殿
令加東座給、
各取布施、大將殿已下、予取第二僧被物了、直退出、
入信乃小路高倉小堂廊、忠弘下人
遣之云々、今夜宿爲扶老骨也、
明日故左大臣殿姬君周忌法事、後家修之給、兩日遠路
無術之故也、

七日、天陰、風吹、雨間降、午時參八條烏丸亭、牛作屋無
中門廊、有
二棟、人未參、謁服方女房暫言談之間、宮內卿東帶、參、未時許二
條納言參、東帶、昨日平野祭申領狀、午時權辨親長、已相
伴內侍參社由告送、事早速、着裝束之間、出納馳來云、宣
命之上、實基
卿、俄所勞、參社之前後被構參哉、頭辨
仰之、仍參內、
奏宣命、又云、今日伊勢假殿日時可被勘、非今日は無
日數云々、又着陣行之、參社頭之間、於陽明門前逢權
辨、早速引了之由告之、于時及乘燭、又請印之政、東寺

長者僧正、灌佛以前可申行之由被詔、仍入門着左衛
門陣幄、少納言惟忠參入、欲行之間、忘深沓、密々乍淺
履着之、行了退出、雖風雨頻降、適有隙、未斜敷蓮道、
有帳、曼陀羅供導師、二長者
僧正、下車入門之間、雨又降、取笠、
猶聊有庭儀、南而橫雨簀子悉濕、仍寢殿東面敷疊二帖
簀子、爲公卿座、三人着之、有堂童子、事訖取布施退出、
又歸宿所、未及昏黑休息、着狩衣、黃昏參殿下、見參
移漏、退下宿所、太白方
北憚之、

八日、天晴、雲出、未後又雨降、天曙歸廬、未時許覺法
眼來談、自御室聊有被仰事、所々有灌佛云々、此女房布
施夕顏付
願、最簡略
之條也、

九日、終夜今朝甚雨、已後晴、中將相具小兒來、示含昨
日西郊仰了、引送馬一疋於大學頭朝臣許、一日所示送
也、

十日、天晴、未時許大丞相公枉駕、言談移漏、爲訪直物
事也、於身不存事也、爲好心之而目、相具硯大略習禮、
當世無沙汰此事之人歟、入道左府老病、不食、近日不被

逢人々云々、此間清定朝臣來、稱大納言殿御使、卅首歌今朝進了由答之、夜前舍仰、退出之由所稱也、安嘉

門院俄令移他所給由聞之、子細尤不審、日入以前大丞

被歸了、月前參女院、卒爾遷御事、尋申女房、依九條殿

御產^六事、可令立給由俄有其聞、北白川院御邊被
申相國被忿申由、右將軍

非忽然事、可奇由被申間、當時延引云々、此間將軍參

入、暫被謁、六月彼御產、先々於他所有難澁之氣、仍欲

奉渡、全非今明事之間、申留此事由被命、不經程退出、

十一日、天晴、相國於右幕下亭連歌興云々、安嘉門院

今日渡御修明門院云々、

十二日、白朝天陰、入夜參相國亭、心閑奉謁、亥時許

歸、

十三日、天陰、右武衛以使者、被問祭使出立事、註付送

之、相國被
招引、使出立右大將亭、車相國訪之給云々、

十四日、自夜風雨、巳時許行忠弘宅、奉待相國、已被渡

之由有告、即向幕下亭、即來坐給、依有好士之老女被

招請、在近國、京
極面云々、即來、不耻人出此座、連歌中將執筆、自

未時許始之、白何々屋、各入興、及百廿韻、戌時許退

歸、老狂之興遊也、宿此宅小浴、

十五日、朝陽晴、暗雲出、午後天陰、招泰俊朝臣令修鬼

氣祭、下人之時行遍滿于遐邇、亂世之凶惡、怖畏無極之

故也、此次語之、來廿日可有改元云々、被秘此事云々、

不知其由、是元仁不快之由、武家去年答申之故、早速

歟、

十六日、朝天漸晴、夕大雨、午時許北白河院、謁女房即

退出、參大納言殿、依日來召也、即見參、相次此中將

參、少時信實朝臣、祭使少將參之後、被始連歌、賦唐何

何色、五六句之後、左大辨參入、忠倫朝臣時々加之、被

置懸物、每句置之、美作守、置亭主御前、扇色々檀紙

也、下給水女
紅梅白、少將每句付之、大略半分歟、予僅十三句、

自晚景甚雨、夜深宿冷泉忠弘宅、

十七日、朝雨漸晴、巳時許參九條殿、見參之後、申時許

歸冷泉、中將來、深更歸、

十八日、天陰、雨降止、夜甚雨、依日吉祭行水精進、在冷泉小屋、

十九日、朝天晴、晝後陰、入夜甚雨、欲伺見使出立所門

前之間、相國可來棧敷之由有芳命、如此座雖不堪、依

蒙命欲參向、未一點許、出立所漸始事云々、公卿定納

言傾狀、牛童車副皆病惱由、今日出障、右金吾一人着

座、中將勸坏了、一身束帶、依無所從、乘八葉車自閑所入云々、早出着狩衣相乘、參

彼棧敷、入無遮小路、自後昇、尊實僧都一人之外無人、

重以使者頻被催促、早參、少時右金吾被來、垣下勸坏

了、渡馬以下依礙不來、依被忿以舍人居伺、令引馬云

云、五位殿上人能定、知宗等來、二條中納言障之外、他

人本自不觸之云々、幕下被出居、不被見使、出立云々、以下人等看

督等早可渡由、被催列見、行兼供奉、之故也、此間聊盃饌、不及醉、鄉、無法

印、依予、交歟、未斜看督渡、甚乏少、檢非違使五位以下五人、

行兼威儀具足、每事美麗、行兼親清子、下部裝束、檢垣夕顏花、五位武

士、去年八十島胡蘇負、依今日無五位俄叙留云々、萬

事只以位記相博歟、今一人老者資季云々、陸親黃門之所學之廷尉也

志不知名、次馬助、長衡子、車花橘、金銅金鐙、兼同、牛童幕下之

童也、いな法師、虫襖飭馬、相國馬、舍人五郎冠者相國、馬副手振

等褐色以下殊以美麗、童二人二藍、山吹衣、付山吹花、雜色

六人、取物四人、如例朽葉付藤造花、其色殊勝、笠、只□□□

口口渡了、以力者法師等不待礙遲參、只可忿渡由被示

使許、申時許自內裏退出、歸入本家云々、一條猪鬃、又々被

忿摧、已打出了云々、車以下諸物皆金銅車文胃額、物見

簾朽木形也、牛童相國、馬助、童之兄、赤色打、少時舞人等渡、

飭馬礙本府府生武澄、襖袴、普通布也、付リウ五、同兼廉、袴同、梓のひ

れ、馬之丁ト、今日渡五位尉、所進之鹿毛、相國、舍人、大將之虫襖打、馬副

唐綾染褐、縫目臥村濃、

頭注藏助山城等、白張雜色有馬副、無手振、

手振リウモン、女房用唐衣物、染たり、蠻繪隨身、差襪、上郎懸勅

祿追前、例事也、四五町許中絕引馬、口への葦毛、實雅卿第一馬云々、去年奉

相國、舍人朽葉打、大將舍人、院御、舍人金松子、礙久員、唐綾柳、兼友乘幸子、紅衣、襪返布

紅衣舞裝束、風流、童六人青打、山吹打衣、雜色六人、二藍打同衣、取

物四人、同、笠、上薄花田唐綾、如尼衣、中立松藤廻赤錦、次中宮使大夫進信房

此料被任、新叙職人也、車上霞、物見千鳥、袖千鳥下有杜若、物見之上有聯子、似博陸公達車、使傍馬、殿下御馬云々、禮府官人、佐伯武、官人秦久任、舍人相具馬部、稱草長者、今日只着居侗裝束、可着蘇芳水干云々、奔童二人、雜色取物等笠立牡丹、

所注先年公宣卿相具、此物着蘇芳色、

典侍前駟陪從有綱等交、若式部大夫等歟、六人出車、毛車皆舊

車、車副如疋夫、次々事如例、見物人々歸了、入夜主人

被歸之後、閑退歸、中將令乘幕下御車、昨日日吉祭、寬

喜僧都在關東馬長、着金銀錦繡、着金笠云々、童頭如何、疫癘飢

饑之中、京畿着金銀、亂世之恒規歟、

廿日、自夜甚雨、朝止、今日改元云々、不見勘文、年號

每日雖改、不改亂政ば有何益、

廿一日、已後天漸晴、傳聞、改元嘉祿云々、依病患改

之、輕カロク尤可謂大切、轉重輕受歟、但於王威如何、誰人所

舉歟、嘉音鹿訓、祿音又鹿、獵場之鹿鹿歟、後日聞、議定

公卿、左大臣、大納言定通、實宣、舉鹿、中納言實親、家仁治

嗣、定高、參議伊平、資經、隆親、賴資、不書漢字嬰兒交此座、如黃門之教訓歟、納言皆着與、上卿不示可著端由也、議定之間云々、興言雜言如猿樂云々、勘文未尋見、後日左大辨被示送、

勘申 年號事

治萬

諸卿難之、萬字被憚永萬、魏畢萬字事イ出來、其は佳事と候き、

尙書曰、地平天成、六府三事、況治萬世、永賴時

乃功、

久保

賴資難之、久字在上、唐久視、久安、久壽被憚之、左大臣舉申、

梁書曰、姬周基文、久保七百、

嘉祿

實宣、定高、資經、隆親、賴資舉之、

博物志曰、承皇天嘉祿、

右依 宣旨勘申如件、

元仁二年四月十八日

從二位行兵部卿菅原朝臣在高

所注諸人危ニ似タリ、然而景氣不惡候けり、

勘申 年號事

永承

文選曰、皇上以徵文承曆、

恒久

周易曰、天地之道恒久而不已利、有所往得其道也、

右依 宣旨勘申如件、

元仁二年四月日

正三位行大藏卿兼式部大輔菅原朝臣爲長

頭注大納言難、承字止訓、

賴資難、恒ユミハリノ訓難、

勘申 年號事、

貞正 家嗣、伊平舉中、

周易正義曰、比者以巫決其情、准有元大永長貞

正、

仁治 定通、公宣、實親、定高舉中

新唐書曰、太宗以寬仁治天下、

右依 宣旨勘申如件、

造東大寺長官參議左大辨兼遠江權守藤原朝臣賴資

頭注大納二條難、正字在下無例、五代之比、終位者

年號正字在下、不宜、

二人治往古難也、明天子待輔佐、不及巨難歟、

勘申 年號事

正應 實親舉

周易曰、文明而健、中正而應、注云、以中正應之、

應久 定通、公宣、隆親舉之

周易曰、文明而健、中正而應、注云、以中正應之、

養萬

周易曰、天地養萬物、聖人養賢、以及萬民、周禮

曰、以富邦國、以養萬民、以生百物、

右依 宣旨勘申如件、

元仁二年四月十八日

正四位下行文章博士菅原朝臣淳高

頭注賴資難、周易貞、正也、其心已同貞應、

左府難、應久、承久在近、應與承一韻字也、相似

云々、

勘申 年號事

弘德

左大臣、家嗣、伊平舉之、

後漢書曰、弘德洋溢、充塞宇宙、洪澤豐沛、湧衍

八荒、

慶延

後漢書曰、慶千代、蓋由此也、

應曆

宋書曰、志曰、聖貞應曆數、

右依 宣旨勘申如件、

頗注

文章博士兼越前介藤原朝臣長倫

弓作拜德不快、舊難也、

庶心反、往古難、

契丹王僞號、仍憚之、

一同今度嘉祿仁治被撰申、猶一同可申由被仰、其時猶此二字可在御計トテ、又被副上貞正、而改元仁二年可爲嘉祿元年、依嘉祿元年例、令作詔書與ト被仰了、

有長朝臣狀云、明後日左大將殿初令駕半部車給、御共人關如、中將參哉、近日僮僕悉病惱不出仕由、承之由申了、昨日召具男等、自夜部又病惱、於今は無一人、廿二日、天晴、午後陰、小雷鳴、去年所栽橘花開、欣感、

廿三日、天陰晴、申時許中將來、自一昨日在北山、以三條納言說、傳聞改元事等由粗語之、

廿四日、天晴、雷鳴頗猛烈、不陰、左大辨明後日直物之由被催、重有問答事等、今日南方地隔民家一兩、忠弘沙汰買

取券送之、不足二戸主歟、

廿五日、天晴、直物明日一定云々、大丞猶有問答事等、

兩度自御室給御書、聊御歌之間也、申所存了、舊年此

道繁昌之餘味、只殘于彼御邊、有悲勵之思、

廿六日、天晴陰、嚴僧正過談、參賀茂之次、世間雜談之次云、

巷說、白河染殿僧都之奉養孫王、不可出家給、不可恭敬之由、自關東示送乳母許云々、又巷說、南海之上皇可有御歸洛云々、彼是縱橫歟、左大將殿一日御車遲々、

晚景乘之、只令參宜秋門院給云々、無他所御參、細工所
廻々及晚云々、忠綱朝臣所勞逐日增氣、以康入道自
關東歸讚岐庄、坂本地頭停止放光云々、左大辨今日又
度々問答之中、新除目任人每人申上哉、答不可然也、有轉任
勘文ば、可入硯宮歟、懸勾可加成束之由存之旨答之、
除目如此、何相替哉、夕中將來、源相公入道、白地出京、
欲相逢云々、

右幕下子息云々

廿七日、天晴、夜前直物之次、侍從公基、藤光成、治部
少輔平範賴、左京權大夫菅淳高、兼、勘解由次官平時
兼、乘、左近中將通時、從三位範宗、正四位下和氣清
成、宗房、從四位上家光、從四位下安部業經、正五位下
源通經、藤經雅、同光朝、止治部從五位上紀文平、藤基
長、從五位下藤能基、安部清宣、藤經俊、平時親、丹波
通方卿給守藤定兼、備後藤經俊、肥前中職景、薩摩守中原盛範、
任人七十三人、公卿給之外也、五位藏人親俊、

願注今度始聞之、經親依惡病死去闕云々、

午時向北山勝地、少時主人以下、被座泉屋之上出居、暮

下、予、中將、信實朝臣、永光、長雅、康茂等、被始連歌、
何山河、何賦物、甚強不得風情、酉時終百句、七八句
許始間、覺寃法眼加此座、事了先退出之後、聊付僕、日
入之程退出、巷說、孫王貴重事普謳歌云々、日前造宮
之間事、國造於社頭被射殺、所儲材木并彼本社等、依
穢可造改哉由、可有仗議云々、從三位高階經時卿賜紀伊國、去比
已下向、臨見而歸洛云々、此事同今日所聞也、忠綱病
猶逼迫之由、有其聞云々、今日路次初見達智門東間破
壞、宮城之衰微滅亡、逐年逐日現形、悲矣々々、

廿八日、天晴、有炎旱之氣、大丞音信懷中紙捻事并紙
夾算事、大臣放召名之間、委々被問云々、有存旨、用此
儀由答之、又紙夾算懷中歟、仰外記令入歟由被問云
云、無由事被見付、又被嘲弄歟、此時不可被用由示含
之處、猶可用此說由重示觸、已露顯了、上野國通方卿
給云々、末代只徐福文成得境歟、申時許中將來、法眼
所示十首、清書付其使了、音信之次

廿九日、朝天聊陰、炎旱故歟、但終日陰、入夜微雨、未斜參

後高倉院御女邦子

安嘉門院、一昨日夜自萬里小路殿還御云々、不經程退

出、後聞、政始、

實基卿車在陽明門跡云々

一寢之後南方有火、法成

寺朱雀西、勘解由小路北云々、度々付法花堂打滅云

々、不經程壞止云々、

卅日、庚申、自夜雨降、依過三ケ日、三位範宗、侍從光

成各送賀札、三位在笠置、留守者取之云々、

○五月小

一日、辛酉、朝天漸霽、範宗卿送昨日返事、

近日在笠置、爲內々畏申、自地

馳上

入夜參相國亭、

昨日被歸云々

心閑謁申、

二日、天陰晴、範宗卿問拜賀事等、委注送、宿忠弘宅、

方違、中將來談、府手結次將一人不領狀、雖付頭中將、

又不催出云々、今日示送兼教朝臣許了、自身先兩度可

着行、

三日、巳時許歸廬、經國宿禰來談、入夜中將示送、未時

參內之後、參安嘉門院、令伺馬場之處、廳頭申云、自大

將殿未被下新調物具、仍遲々云々、酉時依其告着幄、

他將不着、吉上二人、以駕駟一疋、三度馳渡、

四日、自夜甚雨、未時天晴、騎射物具爲行兼沙汰、借右

近物具終事云々、不可然事歟、女房自女院退出、近日

傳聞、上人空阿彌陀佛、

專修念佛法師

依山衆徒訴訟、被出關

外了、而依入道相國招請入洛、於中山修迎講、歸天王

寺之間、煩時給之由日來聞之、自去月下旬、在一條高

倉邊、只今往生之由、閭巷騷動、天下貴賤尼女悉群集、

面々各々捧珍膳供養、其物皆用風流飭玉結花、入菓物

飯菜、每數受之食之、往生及十餘日、病漸付減、供養不

怠云々、一昨日公氏卿新妻

前上皇少將、後參安嘉門立后、彼卿以之爲妻居其宅、難產

終命云々、彼卿妻妾死者已三人云々、皆又依產歟、

五日、朝天晴、沐浴以後依徒然、未時許向左近馬場、埒

之體名字許歟、此中將、少將實清、大將殿家司四五輩

着座歟、不委見、

輦中央間上之垂東西

、射手遲參間歟、殆及數刻之

後上幕、

三間

、射手上馬、大將殿番長種文以下四人、

皆若二藍

機物指實、是例也

、吉上等又上、此間少將書手結文歟、種文父子

經幄東北西、跪坤方申隙、

近代皆如此、且是不然歟、行弘早世之後無射者

、小男一人

射之、其從者男改立的、此男賴氏孫云々、近代存舍人

作法者、只賴氏之一流也、可貴、次三兵等四人許射之、

用同次求子訖、垂幕之間歸了、見物車六七兩立、不似

例、但皆以破車也、子又如此少時中將來、實清書儲文、下堺

ニさげて書、家司長朝、職事國基、有長、兼教、惟長、

基邦、着三獻、長朝以下不執續酌云々、自餘事如力存例云

云、通時朝臣遠江早倉庄安嘉門、不進年貢、被付廳云々、是

予外家親忠親弘、有事故、依殊御遺言所知也、通資卿

無故申給、全無事故、而承久三年無是非沙汰、所返給

之庄也、

六日、天陰、微雨漸降、夕甚雨、女房行冷泉、入夜歸、

七日、終日雨降、鴨水頗溢云々、

八日、朝天猶陰、已後又雨降、坂本御消息之次聞、定修

漏最勝講云々、當時之政於一身露顯事歟、尤可謂道

理、

九日、夜雨、朝止、天晴、馬允盛綱死去云々、貧家雖無

恩、常見來、及于去月在家中、近日久不見之間、聞死由、

無常之習、不可始驚、

十日、天晴陰、未後微雨降、忠弘持病、此三四日又重發云々、其宅小兒、又自七日有溫氣云々、

十一日、自夜雨降、已後止、天漸晴、夜月明、嬰兒病有

世間一同之疑、仍忠弘宅不能同宿、可居隣家云々、母

行其所、可看病由下知了、中將來、右武衛被來談、故院

御八講、於七條院御堂可被修、北白河殿被壞無其所云々、今年依日次

宜、以御忌日爲發願、五日八講、後々以結願可爲御忌

日、先高倉院御八講、於最勝光院被行之例、綾小路宮令

申行給云々、彼本御八講先始七月、之後被加之、是御存

生之時御願、於事不相似事歟、法勝寺阿彌陀堂女院宮

宮渡御、無便宜云々、持明院殿被造之後、於彼御堂可

被修、今日臨時奉幣云々、宮內卿問神祇官門西掖座事

子細等、答之、或人消息云、一上直物事爲問尋、追從師

季、先送犬子唐人衣帽子、次引牛一頭云々、武衛語云、

臨時祭頭中將奉行、已刻公卿車濟々、不參內、而依無

人、催參長講堂御八講、實親卿、公賴卿、親定卿、經時

卿五人參、皆自殿下被催、辨加六人行香、數刻之後退出之時、

伺見臨時祭、事未始、但日入以前事丁云々、陪從御禊之時、不發物聲、又渡北陣之時、不隨使、藤大納言實實喚寄頻語、按察又奔走、彼等云、必非相隨事云々、是依陰陽面縛事、云兼日、云當日、雖奔走、遂不相從、使渡了、遼遠之後渡北陣云々、又季御讀經日、中納言中將^{右府爲上卿}行香、自昆明池南行之時、不隨上臈、經散花机東云々、去年勤使之時、公宣卿取花欲插右無穴、而冠欲落之間、使插左之由示驚之時插左、侍從親行見之、後朝申博陸、於禁裏此事有沙汰云々、雖非大失錯、諸事其沙汰不委、又不經使舞人之所致之不覺也、末代人皆如此歟、昏被歸、

十二日、朝天猶陰、小兒只同事云々、

十三日、天晴、今日洗髮、始干手陀羅尼、依世間怖畏也、近日權勢之女黃門修明門院亞相^{入道左府兄弟僧女}、已病惱云

云、又宣經中將如侍時之由、誦經者稱之云々、及可然之人歟、又云、非宣經、當時尊重入道右府嫡子云々、十四日、天晴、夜月間陰、下人說云、祇園別當執行共時

行難存命云々、依此事又有謠言等云々、安嘉門院渡御七條殿、今朝事云々、公雅卿寄御車、中將一人之外無他人云々、如此事三位中將^{實有}尤可參歟、無衣裝僮僕之沙汰籠居、左道事也、

十五日、天晴、傳傳說、少將經雅已卒去云々、入道右府忠賴逝去之後、所秘藏之嫡男也、母死子又死云々、於花山院之內終命云々、亭主被渡粟田口、

十六日、天晴、未時許中將來、昨日參內、日來定有所勞不出仕由、披露人々、昨日親俊初奉行七瀬御祓使、七人催出云々、七條殿御八講初日、關白殿、右大臣、大納言雅親、右大將、中納言家良、通方、實基、參議家行、資經、隆親等云々、公卿被尋辨、資經高聲左少辨卜喚、奉行辨親長奔參、通方云、口口口辨也、滿座咲盡、大臣云、其身承伏之上、不可有沙汰云々、兩院宮々御北御所御堂廊、只御廳聞時許、可渡御之體也、抑無御車沙汰、竊可奇、巷說云、顯俊卿此病逝去云々、如此之時、虛言從橫、不可信、後聞、最勝講出仕云々、有病惱之聞之

人、大納言定通卿、參議具實云々、公氏卿妻觸穢、近日可被宣下新制云々、大谷齋宮御腹痛病之由聞之、仍雇中將令參方進、宿東隣小屋、

十七日、天晴、聞曉鐘歸付寢、雖聞鐘月未及停午、依夜

短歎、諸寺鐘皆報、

中將書狀夜前參、大谷殊被悅仰者。

十八日、朝天陰、終日不見陽景、雨脚灑、入夜晴、入夜前大納言忠良卿薨、夜前葬送_{家中}云々、年六十二、雖

非器之性、柔和心操歎沐浴清淨、着衣服參佛前、念佛終

命云々、但日來煩邪氣云々、此尼上亞相、參大谷齋宮、

即歸云、花山入道右府并少將弟侍從共病惱云々、少將

今夜葬送、今日七條殿八講結願云々、明後日最勝講

始、今度又可有僧事云々、

十九日、坎日、朝陽晴、昨日結願、傳聞、內府、兩大將、實

基、資經、伊平、隆親、公雅、光俊、公長卿、殿上人廿人

許、家光朝臣參內所語由中將示送、入夜中將來、安嘉

門院只今還御一條殿、大將被寄御車、自他路參會、一身參御共、出車實

經、伊成車、北白川院今朝還御云々、公氏卿妻懷妊、而

受病而懷胎死去、觸穢之間、彼卿又病惱、養母實綱卿

女_{高倉院}、又逝去云々、又賀茂定平朝臣依此病死云々、

高倉院女親房朝臣右京、又有危急之間、

廿日、_{庚辰}天晴、已後陰、入夜雨降、今明日依有所思、閉

門立物忌簡、今日最勝講始云々、猷僧都奉請小字經、

却溫神咒經、入竹筒打門上、今日奉書同經、二局、承源

之本也、即承源令供養、

廿一日、朝天猶陰、雨間降、晚天晴、夕陽見、閉門猶書

昨日經、五局、靜俊又奉書二局、以靜俊供養、爲屋中守

護也、嵯峨經結緣物一課、奉送之、

廿二日、天晴、依窮屈今日解齋平臥、中將示送、昨日申

時參內、酉時事始、中宮大夫、二位大納言、基家、二條中

納言、定高、親定、具實、隆親、公長、賴資、出居二人、實

濟、堂童子宗明、能定、顯嗣、_{乘高子}、貞時、證義者範圍云々、

夕座群卿競出、若冠二人在座、

廿三日、天晴、心寂房來談、示合老病事等、忠弘逐日有

待時之聞、相替先々痛體歎之由示中將、入夜之間來自

北山、臨昏即歸了、後見病體只如先々、血出之時絶入、連々間看病等成恐云々、不知一定事、昨日職事非職

六位五人除籍、五位藏人親俊削氷之役送不可勤之由事云々、但役送可勤之由領狀之上、親俊重不勤歟、可

張由出詞之間、於被張者、不可五位六位差別之由、有述懷之輩、不日讒言除籍之間、五人相連而同時退出、

破藏人町具足、小舍人主殿司惜別而流涕、信繁子行綱等無双近習也、女房又流涕、於事禁忌匪直也事云々、

知宣子一薦、永雅弟新藏人、左府中補云々、所殘時行病者、籠

居物爲長卿子非職一人云々、未曾有事歟、一昨日申時許爲出居參内、自北自三條坊門、直衣男相具侍一人、

融左衛門陣、後間、侍從實兼參中宮御方之姿云々、又

自清涼殿長橋方、御乳母大納言直衣不替下袴、歷道場、寢臺

盤所東御簾入此間、不下鬼間格子、如宗明者褰御簾

往反道場、盛兼着美服、唐裝束、職部等所織之近代物也、大納言殿隨公宣

卿、如踏下襲出門戶給、上薦昇簀子着座、揖之間一兩

步立留、頻停立待給、甚無便宜云々、禁中之儀、人々進

退實獲麟之期歟、堂童子二人自神仙門西昇殿往反、又不撤花莖退出、于時頭在小板敷、公長在火櫃下云々、今日中納言中將晚景自内退出、事訖之間歟、

廿四日、朝天陰、雨濕、已後雨漸密、時々休、最勝講結願云々、經高卿書狀云、於殿上家禮事、先々何樣哉、中

納言中將參給、顯俊無爲出仕歟、定高卿不動座不禮、依上薦歟、答云、先々別不見及、如此事只可依主人之命、又自

身之存知歟、人々所爲樣々不同承之、

廿五日、朝天晴、

廿六日、天晴、未後陰、經高卿書狀云、最勝講初日行香不足、通方資經卿置笏參進之間、中納言中將起御前座、

於小板敷解劔把笏被歸參、見之兩卿歸來、把笏出上戶

之間、資經又思返、歸置笏御倚子前、行香訖、通方取家

嗣卿笏歸來、彼卿來之後取替之、有不請之氣云々、行

香猶及新儀、狂亂之作法歟、尤叶末代之議、

廿七日、朝陽晴、漢雲暗、已後遠晴、午時許心寂房來

談、近日傳聞世間事、金峰山藏王堂燒之後、被付造國

司、有新造沙汰、以之可安堵、無其沙汰歟、急可燒拂高野之由、吉野惡徒中之、當時以武士被拒之、已及廿餘日、兵極煩暑熱難堪云々、高野又以大師御手印緣起京上、可爲高野領證據顯然、奉見于諸人云々、彼是全無成敗、而已歷一ヶ月云々、法勝寺承仕法師之子童二人搏打、昇九重塔放九輪金物、兵士等聞其音騷動、天曙發人勢昇塔求之、童深隱、遂不見、因父承仕令喚出、自第五重壁中出現云々、他金物月來皆放之、當時在檢非違使手云々、承仕法師心操、是又每人事歟、申時許法印被來、定修漏于最勝講事、山門奇驚云々、可被撰之山僧非器、不思議物云々、高野僧三百人許參博陸、宗房相逢問答之間、宗房法師原云、僧徒各其詞、異口同音放言云々、光親宗行耽吉野之賂、不決此道理、汝今又如此、磨滅舉趾可待由不惜詞云々、入夜中將來、最勝講終、關白青朽葉下襲、左大將實基二藍下襲、大將殿行香了即退出給云々、所傳聞也、

廿八日、朝天陰、辰後晴、雜人云、權大納言中宮大夫公

宣卿夜前薨云々、見任十八年、雖無才智、能藝、爲相將之子、其性不好戲、無言咲狂氣、心操頗有廉直之氣、無橫謀商賈之間、常着朝衣、有勤公事之心、最勝講第二日出仕云々、可悲之世也、春日東洞院邊、有法橋義圓、宿曜師云々、頻致所々追從、有當時之器量云々、顯平朝臣家言談、歸家之間受病、七ヶ日而死去云々、其姪爲親、俊之愛物、

頭注去比途運羣野死人、一日之內六十四人云々、進退不尋常、雖似無故實、無輕忽之體、有公卿之度、

於當世頗異其他、父母共存命、可痛者歟、

廿九日、晦、陽氣晴明、雲屑往來、昨今暑熱如燒、但南風頻扇、女房行冷泉、青侍說云、近日入道左府被出行、途中有武士千萬人來遇之音、或甲冑、又馬蹄、無眼看物、共侍或

聞、或不聞、被奇驚、共人之中聞之者皆病惱、但此事通方卿從者之說云々、若彼卿之虛言歟、

○六月大

一日、庚寅天晴、午後乍晴雷鳴、中將相具此家人々、行嵯峨云々、入夜歸、

二日、辛卯、天晴、右武衛家有所勞人之由傳聞、以忠光問

之、女房腹痛云々、去月廿二日殊增氣周章、其後無殊

事云々、公家有殊御慎御祈等云々、內藏助貞行冷泉萬里

小路、夫妻依其病死去云々、先是主計頭定平死去、後

聞、貞行夫妻不死云々、右幕下音信之次被送冰、下官

本自不堪炎暑、愛冰懇切也、被傳聞歟、昔於禁裏暑月

參時、常別賜削冰、今思往事更感舊恩、狂說云、南方

舊主可歸給云々、安嘉門院昨日渡御冷泉殿、御同宿云云、狹少如

嶋、丑時宿東小屋、即聞鐘歸、

三日、天晴、未時黑雲過、晴天雹降、中時大雨、暫時、右幕下消

息云、盛兼朝臣可昇進云々、彼闕今度可奔走歟、絕思

了、只被加御秘計歟所仰之由答申之、

四日、天晴、

五日、天晴、未時大雨降、聊消暑、夜猶不止、幕下示給、

送消息於盛兼朝臣、可申入由返事到來者、於彼昇進は

有必然之氣色云々、世上之政每聞之摧心肝、人爲刀

俎、我爲魚肉、思而無益事歟、夕中將來、相國御命、今度

事心力之及限可奔營、可示付範輔被申女院云々、事非

無實者、爲面目本意、高野住侶依無裁許歸本山云々、

百日之內可
見贈云々、

六日、天晴、夜前中宮大夫葬送云々、依無日次經數日

云々、又下人說云、女子於同家亡、共葬送云々、其事不
聞一定

七日、天晴、雲収、未後陰、夜又晴、中將以使者告送、關

東二品有獲麟之聞、所披露不
食病云々、河東武士等集會、右幕下

被送使者、返事如此云々、定是終命之由飛脚歟、去々

年法皇、去年義時朝臣、今年又如此、天下勝事、若是人

道之推而所行歟、夕方又傳聞、相州可馳下云々、不知

實否、

八日、陽景晴陰、雲腐住來、巷說、二品雖病重由、當時

存命云々、未時許女房參詣賀茂并祇園旅所、入夜中將

來、行兼爲相國御使、馳下關東云々、

九日、天晴、省年預國兼來、省文庫重可示職事由詔之、

只同事雖爲紙筆之費、又書愚狀、以國兼令觸頭辨、全

不可有沙汰事也、凡世間事不足言之時也、

十日、天晴、曉更長綱朝臣以使者告送、關東五日之飛脚到來、二品之病漸以減氣、當時無爲之由云々、天下安穩之計歟、

誤脱アルカ

十一日、天晴、小雷、承明門黃門來臨、中將來、除目非當時事歟云々、

十二日、天晴、未後雷雨、不經程口、早旦心寂房來、左手之苦痛更不止、逐日如増、三所加小灸、午時以前灸了、手十七、左手頭廿一、

十三日、天晴、午時大雨雷鳴、不經程口、中將告送、關東猶以必定之由、夜半許飛脚來着云々、中央減氣披露如何、世間又定噉々歟、隱逸安穩之計何爲哉、又重云、當時非必定、自六日其病又増氣、相州馳下云々、

山僧之下法師說云、近日志賀浦三井寺領之、件梨木邊異自天降、

鳥來集、其鳥大如唐鳩、色青黑、翅甚廣、引展之三尺五寸許、羽數多也、有四足、其足如水鳥、居水上又在濱不懼、人々集取之、其鳥甚弱、人取之見弄之間、不經程死、其始不知數、數口之間人競取、漸其數少、或者食其鳥、

即時死了云々、於恠異者無異議歟、何所誰人恠哉、可怖之世也、又台嶺蝶雨、先々有此事、必山上大亂出來時也、只案之、佛法王法滅亡之期也、可謂道理、此事日來傳聞之、件法師眼見之由語之云々、

頭注

又或說云、件鳥水鳥之中本自有之、名隱岐の掾セウト云々、彌可奇事歟、

今夜行幸四條壬生云々、

十四日、天晴、在京武士大略下向之由、只聞巷說、又雜人云、廣元入道死去、又云、武州病惱、且是依一事稱虛言歟、未時許中將來、夜前相州參相國亭、今度在京初度歟、増氣之由示給之狀彼自筆也、不可下由雖示給、承増氣由、爭今一度不合眼哉、仍存往反廿日由所馳下也、路次七口、

子息四郎、武藏太郎可在京、廣元他界了、然而子息長井入道不令下向之由申云々、白直垂折烏帽子、主從十人皆同、歸路三條京極

邊百騎許打加云々、行兼延時爲相國御使、今日晝下向

云々、申時許笛師式賢來談、凌暑熱相逢、昏退歸、今夜

自四條壬生還御、中將供奉由稱之、

十五日、天晴、早旦女房等向嵯峨東北房、爲經結緣也、
夜前殿下渡御一條室町云々、相州曉更下向云々、辰時
送之人、自勢多邊歸京云々、昨日三條大路棧敷、日來經
營之人皆停、無見物之人、馬長僅少々馳渡、京中向飛
礫之、凶徒等稱老衆若衆物、自春之比立別、稻荷之次
欲勝負者、昨日老衆集六角堂、若集京極寺、今日欲遂
會稽、依此聞、馬長成怖、自東洞院皆騎馬馳通了、凶
徒期與以後之間、使廳者等奉扣神輿、日入之後、令入
給之故、臨昏無其事、京極寺凶徒猶爲示勇氣、三條西
行徘徊洞院邊、多著胃腹卷、又以白布結頭、又以菖蒲
薦等結付背、古今雖有打飛礫者、全無如此事、武士乍
聞之不制止云々、是又恠異歟、極爲奇、後聞、老衆不好
此事云々、子時宿東屋、聞曉鐘歸、方達十五日、

頭注 留京武士兩國司子息、相州 二人、本間左衛門久家、中務宇

間左衛門、石川六郎云々、

十六日、天晴、未時黑雲忽覆、大雨降、雷電、入夜月晴、
聞巷雜人說又嗽々、關東銳卒蜂起之由、下人等怖畏云

云、中將示送、今日相國參內給、退出 東方事全無聞及
事、入道今月二日參鎌倉云々、十四日行幸、公卿通方、
公長、基保、經高、次將通時、爲家、資季、被渡 藤家定、
信盛、內侍所劔璽盛衆、職事親俊、少納言爲綱云々、十
四日、右大將、實基卿、公長、光俊、

十七日、天晴、申時許嵯峨人々歸、

十八日、天晴、小笠原當時在京、於武藏太郎許聞由、關東平

懋之說、告送中將許云々、夕中將來、一昨日參內、非指
事、博陸御消息、後日必可參會云々、盛衆朝臣傳之、今夜頗涼、

十九日、天陰、禪尼詣中山阿彌陀堂、四十八日、每日四十八卷阿彌陀經禮拜等今

日訖云々、

廿日、天晴、此兩三夜似早涼、無盛夏之暑熱、去月極熱、甚之故歟、

廿一日、天晴、暑氣今日殊甚、夜猶頗涼、東方無爲之聞

披露、

廿二日、天晴、中將來、東方事減氣、相州不可來由使雖

來向、已依出路、猶遂前途由有其聞、其後又有增氣、巷

說彼是難信、

廿三日、坎日、朝天陰、間晴、雷鳴、雨灑、不濕地、長清朝臣云、蓮花心院御忌日、平二位俄所勞、無公卿、爲之如何、自五月朔所勞、籠居日久之上、近日殊增之由答之、

廿四日、凶會、天晴、雲收、未時許乍晴、大雨、小雷電、爲違秋節欲行冷泉、心神惱而殊違例之間、子時乘車出門外、聞鐘歸入、

廿五日、甲寅、天晴、未時乍晴、大雨及雷潦、助教師行朝臣示無牛由、取忠弘入道牛引送、去年範宗朝臣牛也、依學明經道人、致便宜之忠、未時許經國宿禰來、凌暑氣相逢、日來

在京神人訴訟、日々向武家、又申博陸、範輔酩酊惣不成敗云々、關東始逆修善、不食病身

廿六日、乙卯、天晴、女兒病後、依日次宜、今日歸入道許、母來此宅、今日無雷聲、於今無執心歟、

廿七日、天晴、夕中將來、相撲小長洲依無實之罪科、爲鴨禰宜資綱、被追放相傳之領地之間、一門者并傍輩相撲、不可勤北野祭放生會等之由訴訟、社家又以

祝光兼觸送此事、長洲可遂問注由進申、仍此事爲申參大將殿、勤內陪、參一條殿之處、前殿下御出之間無人

而退出、除目近々之由頻謳歌、大臣殿以書狀、頻可示範

輔由有芳命、盛兼朝臣又可申由雖傾狀、其實難知事歟、祭主在京、成長朝臣之賂定盡其力歟、國通卿有關東舉狀、重被示遣大理、背道理由云々、是巷說也、

廿八日、天晴、申時許小雷、或人云、相州八駿之蹄出京、六ヶ日之卯時着關東云々、彼病增氣由告送之時、

重下知之狀、三帝二王重可奉禁固、如此之時、各守護等、全不可有上洛之心、各可固其營之由下諸國云々、雜人等巷說水火、門々月々老經等二百終、申時許女房等行

冷泉、

廿九日、天晴、坊城相公消息云、西郊持佛堂、八月之比欲開眼之處、女房俄欲企遠行之間、明日如形遂之、欲馳下、聽聞哉、六十日病惱之上、近日又腹痛相加、勿論之由答之、於中將は可行向之由、以書狀示送、依腹痛之氣、申不定由、可構向由示送、

卅日、己未、天晴、田夫已愁炎旱云々、奉書阿彌陀經、一卷、暑氣無力難扶起、去今兩月遂不能出行、秉燭之程解除、後聞、相公堂供養、中將聞早旦之由辰時向、事遲遲、申時始、源三位時賢、一人、無他人云々、聖覺法印說法道觀、又仁和寺僧綱一人爲請僧、布施廿許、繪色紙形等美麗、其後安嘉門院六月祓陪膳、又爲相國御使參關白殿云々、自關東彼一家人々、殊可祇候禁裏給之由示送、仍雖非指事、如此申遣之由、又爭不忿申哉由被申、有快然御返事云々、

○十月大

一日、戊子、凶會、遠天快晴、今日初沐浴、咳猶不復例、二日、天陰、陽景間見、長綱朝臣來談、未時許參前殿、大將殿見參、相國參給云々、申時許見參、仰云、坂本今病危急之後、讓天王寺於妙香院之由申給、其事又被付相國、申云、今年此事殊驚思給、年來取立給之心操、至于最後變改歟、縱雖有其望、誰人許之哉、可由此事者、日來無爲之時、急可申給、先度依病解送、世間之競望是

纏頭、依難成敗被返授、其時請取給、猶非賢廉之道理、今至于臨終之病被申此事、只爲招人謗也、可悲事歟、臨秉燭程參北亭、又被示此事、彼存知同子案、頻雖被示付、我此事不可口入者、尤可然由答申云々、關東今年十二月、必可有御元服之由、二品被示置、幕下爲加冠下向歟、當時雖以披露、无カ中將必可相伴理髮者、供奉不及是非由申、但是又逢夕良昇進之期、赴遼遠之路之條、又前途之妨歟、於今者其身事老后非可口入事、亥時許歸廬、

三日、天晴、入夜時雨間降、入夜中將來、十一月八日行幸以前可有除目云々、

四日、朝天陰、未後天晴、巳時許中將云、只今參一條殿、御產御氣云々、有長朝臣又告送、馳參、當時殊事不御云々、陰陽師一人奉仕御被護身、猶非火急之體、午時以後召諸壇阿闍梨、陰陽師五人列座、二棟東並寶子候侍自立蒞戶役之、侍從兩人取大麻、自北間遣戶傳女房、東南阿闍梨卒伴僧各加持、五壇中壇僧正御房、三井良寺

雲、山、嚴海、東寺、成源、山、行兼、醍醐、金剛、夜叉、愛染王真惠法印、北斗賢海法印、不參、於宿所祈念云々、上乘院又修給云々、不問云々、定納言、大藏卿、三位親房朝臣、信定朝臣、入道、源榮表、等、往反、未時許平安成了、今一事又不經幾程、諸人悅喜、予自兩江着沓下立、親尊法眼在此邊、少時入道來云、殊以無爲、嬬君、每事相應云々、此後送出、長朝々臣參入、先是以云々說聞及、七條院太奏御所、夜前群盜散々云々、予問此事、只今參彼御所所退出也、事已一定、不及、秘藏、六人許亂入、大番者三四人負手云々、未口之法不足言事歟、臧武仲不能口盜宜口口、別當家行以任納言、十日可口口之由申請、被任之後無解送之詞、近日解太理一職、不罷、督、以家定可任中將由申、博陸嘲弄給云々、衛府督三人、散三位解一職之條可然哉云々、親長範輔申藏人頭云々、去比雅久罷番、以久員久清被替云々、久員數刻在中門、予送出之間、被召廻西方可引御馬云々、不見其事早出、五日、霜凝、天晴、夕陰、入夜雨降、午時許參七條院、聚洛院僧正被參云々、女房被出逢、怖畏急難之後、渡御他

所之儀、各雖庶幾品、是存今明之罪科也、付怖恐有耻之由被仰、無其儀之由陳之、御氣色之趣、尤可然之由申之、送出參御室、謁法眼、被仰御歸之由、依無心送出、

六日、自夜甚雨、已後漸休、未後天晴、今日宜秋門院御懺法結願、雖無催可推參、依甚雨止了、未斜着直衣平細、參彼院、女房達被出逢、今日非結願、九月小之時七日結願也、明日無人、猶搆參哉者、老老惘然忘却由申之、送出之間昏黑、宿入道冷泉、中將來言談、一昨日御產、餘氣事外物忿、如先々有御絕入之氣、仍大臣殿參入給了、大將不可混合由、依今明被坐庭上、一時許周章之後無爲、僧正出給了、其後無前御事云々、早出之懈怠歟、昨日又參北山、幕下被居出云々、所望事、以書札被付盛兼朝臣、又以女院御書被申由、宣旨局返事、御產之中間到來、旁雖丁寧、範輔懇望云々、定被補歟、關白家近習不有盡期、又今年關東御元服事一定云云、幕下爲加冠可被下向之條一定歟、如當時者理髮被

召歟、極寒之遠路、爲人難堪事歟、此事又及風聞者、彌職事之仁不相應事歟、甚以不便、

七日、天晴、未一點參宜秋門院、內府烏帽出逢給、申承

之間、左大辨參入云々、頭辨又參、相府入御之後、大辨

暫言談、平座、通方、伊平、賴資、盛兼朝臣、親長、範輔、

爲綱參、三獻不召侍從云々、列見、親長、賴隆、宗明立

申久云々、良久僧參、不被始、予大辨着座、被出散花之

間、中納言定、參着、頭辨又來加、懺法之間、頭送出了、

事訖取布施事如例、長清、隆範、重長、時綱、資季朝臣

已下也、臨昏退出、猶宿冷泉、沐浴、

八日、霜如雪、天無雲、天曙歸廬、經國宿禰來談、今日

嵯峨聖覺法印說法、爲聽聞詣向云々、昨今大理前大納

言實、音信、櫛風流云々、依此事預權門消息、心中極冷

然、

九日、天晴、已後陰、申時晴、東石藏進恩札之次被仰

云、名字香隆寺僧正寬空相似云々、仍改之、慈觀來甘

日爲受戒、密々可向南京之由御消息今明、猷僧都過談之

間、肥前實清朝臣來臨、相共言談、志深庄禪尼下向間沙汰等、辯說舌端、更非恒規之所云々、如此事一人聞之甚無益、僧都弟子禪師爲下向之前鋒、尤可被聞由示了、兩人共難信、其陳狀所聞不思議、

十日、丁酉、天晴、辰時許出京向嵯峨、先入東北房謁人、問此善事之儀、先度事、願主念佛房勸進、以結緣所出物、造阿彌陀堂了、又爲造食堂今度始之、聖法印說法、無障者始終、有指障者、其日者可謂他人慶忠能立已下讀誦、又寺僧書寫之一字三禮之行云々、以五種行、以結緣衆會之力、可廻

向食堂、仍各同心集會云々、聽聞局一間別鵝眼二貫、磨牙三斗、油五升云々、道俗男女馳走、但導師能讀法印局無此課役云々、但證寂房云、爲知音人々聽聞、別請受禮堂西間懸簾、入其所可聽聞者、次入中院休息、中將來、酉時許聞集會鐘入聽聞所、今日導師京有請用事、及晚景云々、入西門、若狩昇西階入其所、南第二間、格于遺戶也女房同寄車在此所、懸儿帳帷、說法感淚、次懺法、寺僧等并客僧讀之云々、曉又一座了讀經、暫聽聞、月前歸

宿所、

十一日、天晴、昨日無暇日暮、仍不擇日次、凶會、今朝參

法輪寺、渡川、老尼此坂猶如攀雲嶺、即歸宿所、今日說

法早速云々、未時聞鐘、如昨日入籠中、女房又來、說法

信解品、事丁能玄又讀經後各退下、懺法可入休息之間、

中將入道被來談、亥時許歸京、留守者告云、昨日午時

於川合社北邊、禰宜資賴宮廻之間、着笠法師袈裟、奔向、

拔刀此間自田中同意者等五六人奔出、殺害、所從氏人等各雖相從、一人無

相對者、東西逃奔、任意殺害、相共東方奔去、向今道方、

無爲逃去了云々、是又勝事歟、長曆之比、上社神主夜

中被殺害、於白晝者未聞及事歟、

十二日、天晴、未時許又參聽聞所、先是證寂房來臨宣談、藥草喻品

說法了、讀經不及須臾各退下、東北房亭主招引、此女

房被參法輪、日入以後歸來、相共歸京、於西大宮邊臨

昏、乘月歸、禰宜資賴夜前葬送、船岡方、其仇更不聞、只

推量計、大略所疑在兄弟云々、前禰宜入道、權禰宜、川

合禰宜等皆一腹弟、資賴一人他腹兄也、有其疑云々、細川人夫召

上、送二條納言許、九條殿掃除之料也、

十三日、朝雲四塞、雨漸降、終日濛々、青侍等三權禰宜

資通可私殺由被仰下云々、

十四日、曉雨止、朝天晴、自昨日頗有雜熱、今日付鹿

角、臨昏心寂房來見、不可有大事、鹿角宜由示之、

十五日、天晴、巳時陰、午後雨間降、夕陽晴、教雅少將

以使者尋、別當五節女房扇二枚可相送由消息、何樣物

哉、答云、扇近代檜扇、細面、塗雲母、シタニカキノカラサメル、書繪、山

野之味、野筋等五六分許人形、金銅蚊目以村濃、若奇、絲貫之、絲末結垂物也

者、入夜右武衛被送談、是兩社行幸供奉事等也、裝束

只例打下襲表袴可着如何者、何事在哉由答申、去十三

日兩社行事所始、源大納言上卿、着之間、又以絕入、如

放生會之間、口廳東門寄車昇載云々、耽賄賂撰神罰、

上卿初度行幸、極以不忠事歟、參議未定云々、一度不被

仰、是又不思議歟、

十六日、霜凝天晴、寒氣入骨、雜熱頗發、膿汁出、猶不

平癒之間、遠路之乘車有事煩、仍若參仕者、雜熱所勞

加療治之由、可披露之由、示送中將許、返事云、風病腹
病更發不能參仕云々、夜前寒夜宇治綱代乘船云々、其
病道理之令然歟、不足言、父子領狀不參、可爲老後之
狂事、不願後日增否、當時之耻、忽出立、日入之程着直
衣出門、已及暗參着、殿下此間自七條殿密々渡御云
云、黃門信盛御供御車未引之間也、入御了參上、暫隱居障子
上、行步進退不叶、貴人御參有恐之故也右金吾、直衣、親尊附正御供、在此邊、時雨
忽降、信盛云、中將可御車、而忽所勞云々、仍資季朝臣
可付云々、極以痛思良久左大將殿御參、先令參內又有警蹕
音、內府其後與金吾在公卿座、又良久長季卿東帶、加此
座云、先參此御所、姬君主令渡給、爲寄御車參七條殿、
御共歸參、但殿下御御車、出脫力令門外給云々、此間各問事
具否于信盛、答云、可率黃牛車、被用大將殿御隨身下
簡、而依少年者難叶、行弘子兼能子一座與末座可率由被仰、最末申
云、末者可隨役者、末二人上簡可隨者、一二可率歟、上
力口未勤仕如何云々、大略難行弘子歟此事強申、仍申口下、御新
仰猶可令率云々、依如此事遲々云々、定高卿又加座、

今夜事御車、內府牛出車、殿上人車、爲家朝臣已下三兩歟長清朝臣
付御車、資季朝臣松明歟、信盛引導陰陽師、又於入御
御所同引導之、次付脂燭、可入簾中水、兼安無水火重、
黃可有之、此等皆有先例云々入御之後、吉書可供五菜、幼主御事、內
府御命云、雖有夫妻子息移從、五菜必一人二供之、不
可有兩方云々、聞此說申殿下、仰云、行幸時供天子、又
供后宮、全不可限一人、尤可供兩方者、既云、有其步御
幸、供奉人事、又殿上人前行、公卿扈從、一脫、殿上人公
卿前行、一脫、今夜被用院司、四位、五位前行、公卿殿上人扈
從御後、之說、三說皆有之云々良久之後、內府出給、三人御坐座
上、信盛覽日時、入宮、引禮紙開見卷之、入之返給、參東
西妻戶奏之、返給直下、又經程進、申出御由、四人下
立、入中門列立、北、上信盛進御簾下、伺申歸出、召陰陽
師、陰陽師入中門、自庭昇階、中央入簾中反問、歸出
了、寄御車、將相奉仕給、將西、相東立屏風、送坐給之後、庭公卿踞
居、其難堪之間、中納言先出中門外、次於中門外懸御牛、出御、大將殿四
卿以下、院司前行、不委見、出門南行、新御所南小路東行、

深泥、入南面東門、縱牛率御車、衣冠顯官等歟、今夜無召繼、又無長御隨身、立門

內、陰陽師進作法、漸入御車、立中門內之間、不堪行

步、予送出、內府入此御所、四門參給云々、聽事不幾、月停午之間歸廬、昨

今柑子橘樹造屋葺置、依霜結也、

十七日、天晴、兵部來談之間、猷僧都又來臨、於同座相

謁、各歸了、實清朝臣來、以人問答、今日東方有音信事

云々、無殊事歟、武士多入洛云々、或云、例大番料、或云、二品骨送高野供奉、多茲

來云、其內又巷說、遠所貴人似可有吉事云々、兵部云、

永不可信受事也、若散在依有事煩、奉都合千一方之體

之事歟、其間又定有子細等歟云々、青侍等云、權禰宜

資通已補正、社家文書文事可渡山、頭辨仰出納、出納以

所下人仰下、而子息男成被語人之疑鎖籠、所下人二人

念一人歸參、申事由之間、重來打破門、令引文事了、其

間件宅有若腹卷者等、奇惟由路人相驚云々、父被殺害

之時、腹卷尤大物歟、資賴尾籠者也、始終如斯、又云、

非轉正、只承社務、又云、資賴九日剪資前一事、社後、櫨木、

翌日有此事被問云々、近日剪社頭舊木、殊勝之櫻在其

中云々、

十八日、天晴、禪尼自播州歸洛來臨、此事猶有厭却之

志、招僧都、且示合實清辨說事等、此僧都高階家仲可來

住此家由、此間示付之、愁煩狀了、是仙洞之昔堪和歌

之由、暫有其沙汰者也、歌會之時被召寄、後年漸無其

沙汰、在伊平卿家、近日殊愁世路云々、

十九日、天晴、未後忽陰、時雨、未時許中將來、除目其

日未聞、推之、關東、使相待歟、相國面達執柄給、今度所望人殊不聞

可奏由答給、但範輔一定補由世謳歌云々、成長又宣陽

門院迎姬君、最初懇望在此事由資給云々、但委奏聞給

云々、天王寺別當事、可被補二品親王之由、而雖有勅、

今明更無承引之氣云々、任意非據、博陸人力不及事

歟、山衆徒日々蜂起、被補園城寺者、可燒拂由相隊云

云、今日幕府姬君行始、被渡相、國京、半部車、前驅二人、長政、朝仲、左

馬頭隆宣在共、出車二兩、中將車、實經少將車云々、乘

燭之程、兵部來臨之次、近日猶巷說又云々、遠所事等

在人言條如何之由予問之、答云、推之、若其所改替事有

之歟、雖方角改、吉事難有歟之由推思者、愚推頗相叶之、又云、若有如然之次者、還又重疵癰出、人凶事等出來事もや候べき、只以目可見、予云、世間逐日快然、全無人凶事、定無殊事歟、只不運一身之外、皆吉幸之充滿歟、何足恐哉、送歸之後、向右幕下亭而謁、移時刻歸廬、明日仁王會、一代檢校定通卿依五節神事不勤之替可出仕者、此間雨降、驚駭二足置鞍、相具下人等進東石藏、爲東大寺受戒、密々令詣給云々、今日奏免願事、可催次上卿由示之、於闕請者明日可補者、

廿日、自夜甚雨、暗雲滿天、午刻天漸晴、申時陽景僅見、一代一度仁王會云々、入夜家仲來相逢、自今夜宿此家、

廿一日、霜凝、天晴、終日沍寒、酉時雲慘風烈、嵯峨善事自今日四ヶ日、導師參天王寺、可請他講師云々、傳聞、昨日仁王會、右大將、上者、通方、實基、隆親、賴資、盛兼云々、次參北白川院御所之體不思議、其座狹小、爲堂童子被踏、事體驚目、依逆心發早出、不見他事由、

幕下消息也、其次被示送云、十三日兩社行幸行事所始、事訖程上卿徒跳走出、前駟等又馳走、不見眞實、絕入之體其音音側聞、毛車はあしく云々、宿東門二車一出來、白衣男乘之、束帶裝束不恠、而男捧持之、男遣送出由、辨範輔申殿下、後日參內給之次、語宣旨局給云々、依大納言上薩先相觸、定解送歟由存之處、即領狀有如此事、初度行幸若有不慮事者、定有誹謗歟、内々解送可宜由、可被召仰具實云々、宣旨此由示具實、先及誓言、申無此事由、翌日申、絕入事全不候、道路潤濕之間、着少將衣着檄由申云々、奏狀猶非普通歟、又具實内々申、依有急事脫裝束、事訖送出之體、不可有謗難事云々、天下勝事歟、乘燭之間暴風雨降、入夜中將來、安嘉門院渡御修明門院御所、御共右衛門督御車寄之次云々、昨日逢盛兼朝臣、不忘往事之由有芳心之詞、是皆虛言歟入道右府又舉宣經、於日來不仕者、無處于披陳、日々以後可奉公由申之、近日每日出仕、世以稱兼宣旨由云々、家光稱所勞俄籠居、無行幸行者是又非直也事、時兼承之云

云、左府以足張國司爲彼別當、行幸以前可被補之由、示送盛兼朝臣云々、天王寺別當事、主上直被仰於御前、有領狀氣、送出以後、禪閣子息早可被補由被奏、返事云、宜蒙勅定、局思煩者、禪閣云、さるの冠者などの云事、聞入立ぬればあしきぞ、耳三不可聞入云々、

廿二日、朝天晴、一昨日決尊等歸、淨照房云、夜前深更罷歸、腋有雜熱事、罷留下方云々、閑窓徒然之餘有懷舊之心、行歡喜光院、僧徒等成群有遊覽之氣、自門前道、參北白川故院御所、少々見廻地形之勝、繼猶以君他發消陽之榮、還爲荒廢之地、風流足惜、見右武衛近日新造之居、日入以前歸、

廿三日、霜澄々、朝雲收、申時許右武衛被來談、八幡行幸延引、來月廿五日云々、本自兩社之間、卅日頗無其謂歟、此延引又定有事故歟、入夜中將來、北山不動愛染王奉遣被安置各有一堂云々、次辨家光其陰腫云々、

廿四日、辛亥、朝天陰、微雨間灑、巳時許許住心房受例戒、暫言談之間、信實朝臣來談、入夜女房參安嘉門院、

自一昨日御修明門院云々此出仕始終更雖不可詣事、近日無人之由依頻召慙令參、

廿五日、天晴、午時兵部來臨、言談自然移漏、申時歸、長清朝臣遂消息送カ、臨時祭、彼間事、如行粧共人事大略先注送、次第追可送由答之、兵部今日雜談之中、雖無益事注之、下官先年於故殿見額櫃ト云物、大内以下所諸寺額、每數被移置、予申云、是被寫何所本哉、仰云、是皆法性寺殿御本也、當時在執柄當時許歟、先年邦綱卿被出奉入道殿所被寫也、今日事次語云、伊經傳先祖額本事、全非父相傳、定信置賀茂上御社寶藏、伊行不傳之、邦綱卿聞此事、召神主重保令被出之、被令カ非神物、只仍私持之、全非法性寺殿御物、而依優其家、先祖依書等授與伊經也、入道殿下更不可持行者、又法性寺殿以假名令注給、公事六司抄在父卿許、傳得由稱之、如此事等多聞之、法性寺殿老給後、加州寵愛甚、故入道殿御母壯年早世之後、尊忠法印御母五條元丹波、又寵愛之盛、連枝經光白晝入局犯之、又近習女サユ、見此氣色奔參、申此由

之間、自開其遣戶御覽之時、懷抱之最中也、即白晝被
追出之、送出後依此事行住坐臥不快、御氣色大略懨
歟、還以御不會、以之令薨給云々、太子申生言即此心
歟、高力士又其志同歟、今日習相之由頗自諷、予問余
今明日葬事、又有饗應之詞、先年見光親宗行範茂等、
有惡相、無兵刃之相、有雅有其相之由語之、

廿六日、天晴、霜凝、辰時許出蓬門行嵯峨、中將昨日來
云々、未時許聞鐘聲入例局、此臨聞、每度皆持衣、侍一人相具、持衣、今日說法

藥王妙音品、兩品拜說以後退下、中將歸京了、

廿七日、天晴、巳時鐘鳴、今日導師出京、故家經中納言十三年忌日云々、之

故被忿云々、即入局、普門陀羅尼嚴王品被釋、事了證
寶房於局暫言談之後退下、奈良禪師諱尋來、爲明日口

聞今日來着云々、入夜沐浴、

廿八日、天晴、早旦出門外之次、隣家三位入道保盛、依先

日音信相謁、往事言談、亡息事等、且多蒙芳心之由謝
之、即歸、心寶房來、齒熱療治事等、雖加針血不出、至
極熱氣如此云々、未時鐘鳴參入、今日有弘來、入局後

女房來、如日來今日雜人僧徒、內陣禮堂群集、不知其
數、日來所書寫法華經、又澄最房勸進一品經、又最勝
王經日來結願、勸發品解說之後退下、不經程歸京之路
頭、導師車一町許在前、北望行列歸家、入夜中將來、
參安路門之次、相國付宰相云、重申給、博陸御返事如此、示給
事、不可忽緒御沙汰、可申此旨云々、是每度事也、武州以書狀

申相國云々、書狀送行乘許、冷泉中將官途事不便、如此事雖非

可申事、可然之樣御沙汰候哉之由云々、其狀被付、定
相語合書之由存給歟、盛兼朝臣近日成業兼卿聲、宣陽

門和合之計云々、除目行幸以前之由有其聞、新任人於
事有煩歟、諸事不得心、關東御元服事、義村等之存旨
猶難測量云々、可得姓給由有議定之輩、是深引博陸之

心歟、

廿九日、天晴、霜凝、夢想紛紜、依慎思閉門物忌、木葉

落黃、菊花悉枯、後聞、今日新大納言初度作文云々、公
卿定高、賴資、在高、爲長、經高、宗房、長貞講師、

卅日、朝天陰、辰後雨漸密、辰時許兵部過談、又實清朝

臣來、以人問答、

○十一月小

一日、戊午、自夜大風、朝天晴、烈風吹寒樹、終日不出簾外、

二日、天晴、少將有教朝臣過談、時々被尋問公事、其好漸久之間、無隔心可憑之由被示、有識之家之餘流也、至恐之所存、可同心申由約束、申時許參室町殿、見參之後、入夜退出、能三品云、一日比少將有資參庭上申云、依奉憚不昇、南祭陪從裝束可申請、仰云、被憚思者、裝束又可憚如何、隨其左右可存、申云、此事申合人重可申、昨日又參入、坐于對代南面公卿座、所司相對之、際子上可宜、答云、是依參大將殿着此座也、所司答此事不然由、起座退出云々、去今年不參此殿、依資時入道教訓歟、又雜談世間事等、不知實否、今日中將次郎魚味、忠口沙汰其事云々、

三日、天晴、法印被來、承明門院黃門又來臨、初三月甚明、不異弦、

四日、霜如雪、去疾晴、沐浴、短晷空昏、夜深教雅少將來門前、寒夜依無術、稱風病由不逢、

五日、天晴、參室町殿、先是長清朝臣來臨、臨時祭彼之間事云々、給長秋納言記一合、退出了、

六日、天晴、見舊記、

七日、天晴、心寂房示療治事等、冷泉若目有小恙由聞之、見可療治由示付、參室町殿、今日除目云々、日來不聞及、又例事歟、仰云、大將五節出仕被催、參入御覽可出仕歟、參入夜逢退、頗有煩哉、申云、少年御出仕御共、得心之人少而物忿、夜陰於事不重候、只御覽日御出仕可宜候歟、殿上人廻北陣之間、殿上邊極物忿、旁難計心歟、大略申止之、晚陰退出、入夜中將書狀、相國重示遣盛兼望臣返事、今日除目不及廣候云々、猶遇繼歟、

八日、天晴、辰後陰、昨日除目、任人八十四人、侍從藤忠兼、玄蕃頭賀茂兼宣、中宮權大夫伊平、兼、左將監藤範昌、藏人、左中將實俊、從三位盛兼、正四位下公賢、依

此事所被行哉、更不得心、除目而不足言事歟、右武衛
送使者云、昨日參校少路宮之間、存外會遇、橫父辭兵
衛督、以子息可任少將由忽被仰、子息昇進全無其好
由、參女院申入、度々令申披給、纔以無爲、向後猶可恐
云々、是偏爲隆親兼帶歟、非尻者捻難居官職世歟、實
亂世之最也、伯資宗朝臣消息之次、去月廿七日廣田社
寶殿以下炎上、假殿經營云々、諸社如此事理尤可然歟、
可驚了、一昨日夜大谷齋宮御所、群盜稱三位藏人源氏、
打合、不入御所追返了、其身被抵死去云々、依此事昨
日渡御宜官局家云々、禪尼行冷泉、入夜被歸、若目事
頗宜云々、自春令在京狂巫女、其父重服、去月過了、今
日參社頭云々、依右幕下之憐愍、伴女坂本造屋云々、
傍輩等嫉妬、有障礙之心云々、伴社垂跡以來無火事、
忽神火出燒給、非如失火事云々、

九日、自昨日陰、已後晴、早旦兵部來談、及午時、申時
許中務大輔爲繼、來談、安嘉門院番勤退出之次云々、其
後參室町殿見參、親房朝臣同候、亞相初度作文、博陸

出居給、而自初御坐與座之上、亞相坐外座上給之間、
公卿着座進退失度、然着與座、尋常之儀、置詩之後主人出座
橫座給歟、是不被知之故也、
置詩之間、經父子座中、進退定高卿讀師無便于取詩、相
議經實子入亞相座上、座其座上、兵部卿座于父子御
中、大藏卿坐于講師上、火耀文字不見、不能講詩、淳
高序、長貞講師、宣實詩云、誰人斯席不長生、所作如此
歟、誰人斯席不長生モ、ハ、メ、ナラと讀如何、有議作改云々、尤恠異
歟、又有去變云々、

十日、天晴、日吉狂巫其名名來云、來十六日二宮種子經
營、萬事闕如、可少分助成、鑿牙二課可給由、遣入道許
了、亥時許教雅少將於門前音信云々、青侍等答方違他
行由、此羽林必深更來、老病寒風依無術、夜深不逢人、兼
所誠也、先是性忌房自粟田口來被住、高倉殿、被座覺心房
逆修所云々、伴僧富
有、獨步鎌倉三條宅也、
修逆修、

十一日、天晴、今日故左相局御遠忌也、依懷舊之思、參
八條舊跡之間、鏢門無人跡、八條院御所東已爲民家、
築垣之內或麥壠、或少屋、南山古松僅殘、窮老之病眼、

哀憫之思難禁、更廻軒參東一條院、定納言此兩三日祇候之由、言談之次云、此御所可爲格子、又雖無階隱間、

猶可有階之由中之仰云、更不可然、可爲部、此事申

殿、尤可爲格子之由被仰、仍申此由、重仰云、是何の料

ノ、若有吉事之時被借之料歟、退申此由、此上有恐不

可申之由被仰、五間四面寢殿、檻欄長渡無其間、被仰

旨尤有興、惜哉、末代無双、明德皇后之賢慮、空遇亂政、

過斯時、次參宜秋門院、向也、謁遣老禪尼達、入夜歸、中

將來之間、教雅少將又音信、依寒風隱居、中將令謁、

十二日、自夜雨降、頃之沃菊陽、爲方違宿吉田、謁法

印、

十三日、朝霧漸霽、曉鐘鼓歸廬、兵部雜談、入夜月無片

雲、

十四日、朝天陰、申時許微雨、不經程風烈、參室町殿見

參、日暮退出、

十五日、天晴、風寒、南隣地口二丈許、鞍馬住僧欲以北

小路出雲路地替収、今日得券、長者僧正以他筆被示、

不乞所勞自朝、無述由、彌無所憑、芳熱已廿年、入夜兵部

又言談、

十六日、天晴、沍寒、昨今奉書阿彌陀經、申時淨覺法眼

過談之次、聞世間事、東大寺東南院々主定範奉讓法親

王事、月來嗽々、可被下官符之由母后骨張給、此事本

寺衆徒強訴事、又非常時之面目、強不可請取給由、御

室并寺中輩、内々示申給之趣不被用、去比公家可被進

請文之由有其沙汰、自女院被奉其草、披見之處、無品

法親王應申解、端書以下文章極不尋常、此事摠無先例

之間、極難量可否、又視了已講通親公于、維摩當講、有摧折詞等、又

約而入定範室由載之、云彼云是、事頗輕々、御室聞食

召大藏卿、被逢此御方、且相計、見苦文章等令置之、被

消書進令參高野給之間、於女院又被置其狀、只如本

書成被進、隨被成官符了、而寺衆徒峰起、打付大佛殿可

逐電云々、朝威已輕忽、當時無成敗人、傳聞、施藥院使

彼某、長、夜々奉取宣陽門院御腹、此事依有驗、六條殿近

邊忽充諸御領、被造華亭、又造倉廩、被積海内財寶、御領

人悉奔前納言教成、山階土木無休止時、剪撥祠之灌木、

以其木欲充新造社棟木_{奉祝}之間、忽中風、言語斷絕、

子息僧_{法眼}、馳向由聞之云々、御室來月還御之由有兼沙

汰、追年範之由被仰遣云々、入夜中將來、_{自北}俄五節夜

夜并兩社行幸可出仕、_{相門幕府之命云々}尤以穩便、本自庶幾由

答之、加與丁家季朝臣被下記錄所、已成勘文、_{加與丁有道理}

而評定之座、範輔勘文可改置之由示之、滿座一同成勘

文、各連署、今有紕繆者、可有別勘文、推而可置由、無

其謂之由雖相論、已以無許容云々、世間之儀更以不足

言、經行朝臣家宣卿子依五節出仕料昇殿、忠行卿子忠

兼依行幸舞人任侍從、時儀如此、推之信繁法師所草文

章歟、伴法師有此分限文章云々、青侍等云、依關東今

明資賴子與資綱法印兄弟資通等、於六波羅對決、範輔

朝臣親尊法眼等列座聞之、大略資綱所爲之由、武士等

引資賴子云々、資通并資賴子共賂于範輔、資通五十

貫、資賴子百貫、兩方取了云々、

十七日、朝天陰、辰時雨雪忽降、其後間濕、心寂房來、

依先日仰、相具參室町殿、令渡九條殿給、即歸廬、今夜

可在京云々、後聞、今日行幸巡見上卿前駟六人、參議

并_{威儀}是、大外記、大夫史、檢非違使等各行粧之威勢、參

議一人打梨云々、上卿自七條朱雀歸歟、風雪殊散々、

笠被吹破云々、

十八日、天晴、宿雪不埋庭草、心寂又來、令參、即歸來、

又歸西郊、今日奉書阿陀陀經二卷、

十九日、朝天陰、陽景漸晴、參室町殿、渡御北亭之間、

智圓已講參會、示大乘會經營事、先師舊好難默、而一

重領狀了、參北亭、只今還候之由被仰相國、宗明云、

今日除目云々、不可有御忘却之由、重示盛兼卿許了

者、關東御元服事、_{來月廿日新亭御渡}只以新議自可戴冠給之由

欲示送、歲末年始之遠行、旁不穩便事歟、彼御官又不可

過征夷大將軍、是前右大將之吉例也、坐遠境、任次第

顯官、已不吉事也、此由欲示送者、每事可然之由申之、

又參南殿、大府卿內々注申御名事、師嗣、_{殊舉申之、勘文之本文等、皆吉}

_{之上、打聞風拔}道良、道嗣等也、被仰旨等大略同前、申尤

可然由、又召在繼朝臣、内々被問日次、廿日以後廿九日、乙卯、時午申云々、當時風聞々々可注之由被仰、申云、風聞之習不載時云々、注其日不載時者、若不分別之輩しどけなく存候歟、只内々勘文何事候乎由申之、仍進勘文由被仰、又先々其日以前定御冠之次、調御冠日注申之、仍相計可申由被仰了、又侍始政所始事、同可有勘文云々、此等事明日以飛脚可遣云々、實雅卿舊妻近日入洛、可嫁通時朝臣云々、義村爲知行庄之地頭、年來不被訴、心操爲上郎由成感、有此婚姻之儀云々、竊案、義村八難六奇之謀略、不可思議者歟、若依思孫王儲王用外舅歟、近日被聽昇殿云々、老幸之時也、後聞、昇殿辭事云々、臨昏退出、中將送資雅中將、尋常物也、仍行幸料進殿下、今夜安嘉門院還御冷泉殿云々、隆實云、何中將勤口吉祭使、可着關腋歟、以下事問諸人云々、後聞ば基定朝臣云々、

廿日、朝天漸晴、五節參入云々、愁歎與老病責身摧心、徒思往事、乍生如亡、除目、左衛門督實基、別當、右少將

藤基長、家行卿二男、未時許隆範朝臣相具少納言爲綱來臨、初見之、言談之後退歸、日入之程兵部又言談、獻舞姬人、大納言定通一、中納言家行、伊與、丹波、

廿一日、天晴、未時許中將來、夜前出仕、今年若束帶云々、自五

節所邊向北陣、有資等相具、如範輔者又相儲云々、隨頭辨者

實俊基定等歟、十人許云々、女房下車之間、大略無見

沙汰之人、公卿五節女房車三兩、六人、第四車童女下、

六人有其例歟、不知事也、今度出仕初見面之輩、侍從資信、新殿上、藤時賢子、同

賴行、三位賴男于新、同實憲、公佐于兼綱、左大辨家宣子、新、師季、新少副、内府御共人歟、

時高、範輔于、出御帳臺、公卿殿下、内府、右大將、新大納

言、茲染打、童女昇降無殊事、貫首舞之間、戸隔不見及

云々、出哥實俊、顯平、有資、資季、公自云々、今日殿上

着座、家光、實俊、顯平、定平、資季、時兼、信盛、兼輔、

公有、後聞、出仕殿上人、四位六人、實俊、顯平、家定、

經行、資季、定平、時兼、信盛、兼輔、時高、賴行、信時、

顯嗣、顯氏、公有、親氏、實清、實直、公員、貞時、兼綱、

高階忠賴、源何業、同信宗、兵衛、藤教行、同夜出仕、長清、基

定、家時、經賢、信實、範輔、光時、宗綱、公綱、

廿二日、自朝天陰、午時許雨灑、即止、沍陰、寒氣難堪、

不聞世事、今夜女房推參云々、臨昏女房自冷泉殿退出、

貧家之細士意略、逐年無興、難堪語、證寂房示付、今夕送

之琵琶前別當料、風給前大納言料、於其物美麗也、尤傾感、今日殿

上着座、家光、實俊、顯平、資季、時兼、兼輔、童女御覽、

公卿兩大將、新大納言、伊與童家定、丹波、實俊、

廿三日、天沍陰、琵琶前別當料、鳳給前大納言料、送之、果願了、女房

等朝間渡吉田訖、巳時許參室町殿、御覽御馬、仰云、一

日名字事、密々有違亂、俊親宗親改名、於定高卿許見及加

難、名字三重夕音、他人全不知、一身習傳、師嗣有殺音

云々、我於關東欲加難之由出詞云々、此事更雖不可

信、出難者可劣無此事、又大府卿定執論歟、仍不語

此事、只欲用道嗣如何、申云、彼所申必定虛言也、然而

及武士之聞者、定一旦信用候歟、尤無其益、只中納言

不申此事以前、依御名一字、被川道字之由被仰、中納

言可宜候歟、於事惡氣不當者也、御信用不可候歟、又

仰云、中將明日來哉、片舞之間事、可扶持之由、委欲示

付、早可申含之由申退出、以書狀今日明旦之間、可搦

參由云送、傳聞、寅日淵醉、槌初夜鐘之後始事、昨日又

乘燭以後カキ祖云々、去年又如此、於今者殿上淵醉可爲深

更事歟、去今之凌遲以之可知、未時行吉田、少時證寂

房被來、暫言談之間、住心房被入坐、即始講筵、尺迦

三尊、法華經請僧三口、墨染裝束、說法之詞殊發信心、

隨喜感歎、事訖即始懺法、此次申上四十九體佛、一鋪

是爲每日佛、每日一鋪佛、是爲七日佛、今日分釋迦三尊也、明日以後五々日、證寂房可爲

導師、此四十九體、今二人僧相替可供養也、每日宛七體、懺法

之次可付之、七日佛、例時之前供養、是常儀之由、證寂

房評定之、懺法半許之間、歸一條了、淨照房來談、在仁和尚

後聞、內辨右大將、少三通方、盛兼、外辨經通、參議多

參云々、內辨初度無違亂、一條以中將爲使、被進九流

櫛於殿下、其後參前殿見參云々、

廿四日、天晴陰、夕少雨、即止、早旦兵部來談、可向關東

之由也、即行吉田懺法之間也、每日供養、靜俊啓白、七

日佛樂師、證寂房黃昏之、能說了、例時、今夜宿吉田、

廿五日、朝陰、雪飛、申時陰景晴、西風甚利、巳時先冷

泉中將裝束之間也、蒔繪螺鈿劍同般用之、軀事予不知之、劍軀可爲同體

之由先年上、見了向棧敷、六角南、大宮東、寒風甚難堪、時刻推移、申

時許神寶舞人渡、四位二人之外無見知者、皆又新舞歟、令

花、或付、非藏人小男、藏人五位六人之中、兵衛佐親氏、

紙、或付、諸陣尉各一人供奉、檢非違使又一人、左衛門

權佐、四位、看督四人、相具火長二人也、馬助歟、不見

知、左馬頭隆宣、不具隨身、具左兵衛佐又不知、衛府僅一

府一人歟、上官等如例、少納言爲綱、右兵衛督、舍人、薄

馬副四人、隨身四人、今日行粧尋常也、左兵衛乘陸梁

馬、頭行事宰相別當、實基、看督火、騎馬被備陣口云々、通方卿、新大納言、蘇芳二

重織物下襲、殿下近衛一人、楊弓箭相副、具少隨身

二人、布衣在共、維色云々、新源大納言、已右老若之氣、次

如將監者只二人、是又、次右大將番長武信揭焉、每

物華麗、裝束非染衣、明日被、左大將殿番長又揭焉、御隨

身付菊、遣花、次近將十人許歟、三位中將高實、紅梅下

前木袴、製、宰相中將具實盛兼着例裝束、次家光朝臣染衣歟、

時兼、右兵衛佐顯氏、家衡子歟、無六位衛府、其後殿

下御車也、天晴雪止、神感雖可然、無千乘萬騎之儀、是

末代之相止歟、未見事也、可謂奇異、見了歸吉田、入夜

不動供養、右大將隨身付作鶴、番長加桐枝、

廿六日、天晴、不聞世事、在吉田、朝靜俊懺法之次、夕

千手供養、即例事了、申時許行幸聞還御之由、今夜家

修神祭、依晦日忌日也、

廿七日、坎口、天陰、少雨降、雪間交、朝懺法之次供養、

證寂房、又夕地藏供養、五七日、ねりぬ木二衣、別祿名、新

三位、右武衛、長清朝臣面々、臨時祭事等問答、

廿八日、天陰、不雨、中將適來、昨日自早旦北山夜宿、

今朝歸京云々、五節以後地不付寢、不便之體歟、行幸

日事、殿、大納言、三位中將、右兵衛不參社頭、駄餉所

兩大將別當參候、家光陪膳、時兼役送、上下皆取弓、

下袍、無殊事、桂川橋、只一人、淀橋、次將、具實弓加鞭不下

前、入御菰屋之時諸卿下地、博陸未參行以前、具實昇

緣上久座云々、入御之後奉送左大將殿、參御宿所退

下、翌日參同御宿所、兼日之沙汰、奉作御用、其後參儲

社頭、參御車下、順運、參給、即事始、源大納言、奏、兄參、新源大

納言、雅、大納言通方拜舞、右大將、蘇芳下重、前木將、左大將殿、

青黃下、重蘇芳將、重蘇芳將、盛兼、紅梅下重、前木將、拍子經通卿、

參社、笛次將等對捍不取祿、與實俊中將取之、寄御輿之

間、出御時、其實不下御簾退下、示申大將被告、更昇下

之、浮橋之間、雅人騎馬競見渡、以御輿長令加制止、仰

檢非違使令禁制、於本宮有鈴奏、今度舞人定平、源家

定、兵衛親氏、左衛門信時、中將、家衛、忠行、侍從

親保、侍從通、前內府弟、師季新聲、藏人、非藏人、四位陪從源泰

光、藤有長、近衛司、左、通時、爲家、師季、宣經、資季、實

清、右、實俊、有教、兼輔、御後殿上人兼綱一人、社頭居

衝重、又無五位侍臣、範宗卿消息之次、今日臨時祭出

仕人注送、通方、經通、親定、其實、隆親、賴資、盛兼

公長、云々、右兵衛督又出仕由有書狀、明日可來由領狀、不

請他客人、今日無人、伊成、賴行、實直、爲繼、實秋、氏

通、資信、貞時、範昌、信宗云々、懺法之次、靜俊夕高倉

殿渡坐、奉理、證寂房普賢供養例時了、中將又依大將招

引馳歸云々、夜深歸來、出場方證寂房言談之次、連歌、

皆同無骨、甚無興、曉鐘報付寢、後聞、庭座丑時始云々、

近代事每時如此、重坏通時、師季、還立御神樂二十九

日、巳時始間雨降云々、

廿九日、戊、丙、朝天陰、雨雪霏々、申後甚雨、懺法之次供

養、證寂房今日遠忌、例事送嵯峨云々、未一點許右武衛

入坐、於聽聞簾中相謁、除目之時汰沙等委聞之、狂女

禪尼等同意偏推、而稱辭退之由歟、博陸被信用奇君之

計略歟、隆親調備衛府具云々、末代人心向後有恐、於

此事自女院具被申披云々、少時導師法印、被來、即始講

筵、阿彌陀三尊、雖如日來辯說、雖例事猶以殊勝、各拭

感淚、此法印同聽聞、事了武衛被物之次、被取別祿、

紅梅被物、中將少納言爲繼數反取之、被物三重裏物、絹、

二衣也、綿、各懸、色々布二結、各十、宿衣一領、小袖二領、各裏、

也、中將自置劔、入綿、請僧一重一裏、武衛猶被取被物過

分也、撒布施了、導師衣劔自取之被出、武衛即被歸、甚
雨極無心、例時了西郊兵舍、又歸給、有弘、女房等依滿七
日今夜猶留、中將予歸一條、雖耻輕微、已果宿願、傾
感無極、宿此家

○十二月大

一日、丁亥、五陰不見陽景、法印武衛送書狀、昨日感悅
也、早旦女房等皆歸渡、申時許兵部來談、夜半坤方有
火、

二日、朝天快晴、夜前火六角堀川東云々、昨日殊寒、

三日、天晴、五寒、依寒風不出低廬、女房歸參、安嘉門
院、中將自北口口賀茂行幸籠路今日忽改、去夏少將經雅

母子死去、華山院天下名家歟、今有此沙汰被改云々、

東大寺衆徒訴訟嗷々、閉大佛殿、可放火之由披露云
云、

四日、天晴、性愚房行醍醐、有通四姉
成母手契、左大辨尋荷前次

第、依引失書山注送之、

五日、曉雪積地四寸許、朝猶紛々、日出之後、出門向北

山勝地之間、相國過給、控車漸々扈從、於搦門之南中
將馳來、先令參、蒙招請之宗明、參堂前暫眺望、又歷覽
所々、旁催興、如入仙窟、暫可休爐邊之由雖有其、誤ア今
明不堪者、成無心之思、僧都尋實、中將資雅朝臣出來之
間、申暇退出歸畢、午始會參室町殿之間、信實朝臣來
臨、兵部可相逢由、日來誂此事、仍告此由送迎車、相謁
之間、漸及申時、各謝遣、停出行了、今日於北山幕下談
給事、臨時祭夜、時兼顛到于女房戶前、暫不起揚、出納
進而扶持、通方具實兩卿岸幘咲壺、高聲、時兼忿怒氣色
尤盛、立神仙門外云、老者のたうれて絶入する事は常
事也、強不可被咲、此詞尤有其理之由、人頗許云々、近
日又罵大貳云々、是又頗得理云々、隆圓法印逝去云
云、日來病惱、不聞委事、末代拔群之學侶、其器可措、
前殿仰云、有風氣、心寂房有可被尋仰事、召進哉、申可
遣召由、

六日、天晴、未時許心寂房參室町殿、御風氣不快云々、
大府卿暫言談之後相具退出、召入有御問答等云々、八

幡行幸、幸清不被許所留者、不可受取神寶之由申殿下、逆鱗被仰子細、承伏請取云々、俗別當不叙三位者、不可申說之由、範輔朝臣不及申上、罵置勘發、出來申訖云云、

七日、天晴、申時許任尊法印示來臨由、於社頭時々雖合眼、非殊知音、驚出相謁、辯士舌端、蘇秦張儀之再誕也、談話自然移時刻、已及夜半、興味難盡、自今以後不可有懺芥之間、約束謝遣、末代辯是非只如此人歟、朝臣之中無知物由者、相州子息次郎入道、去二日死去云云、成師弟之約束、於和歌尤得骨、足痛悲、

八日、自朝雨降、行幸依雨延引歟由問中將、不延引云云、已一點許右將軍已參內之由聞之、仍向一條北、宮小路東棧敷、往反有煩、不願供奉人分散儲近邊、不經程神寶渡、悉覆席、正夫皆着蓑、舞達來之間、例御乳母車先過、奴袴男衛府等都合十人許、先是又車一兩過、奴袴衛府各一人也、人々按察女房云々兩人共參歟、良久渡、大略如八幡、付花枝者撤之、裏形木紙糊等如元付之、衛府

僅一兩歟、檢非違使二人之内、赤衣秀繁、黑衣佐經方馬宛一人、權頭助清、兵衛尉不見、少々打入西辻之歟、史外記等、少納言爲綱、兩兵衛督、行事宰相別當新大納言、兩大將、今日皆不被着染衣、次將笠混着不見分、大略如前歟、通時不見、具實卿紅梅下襲、袴、隨身袴付丸文色々彩色歟、家光朝臣、時兼、信盛、醫師、采女正員、陰陽、不知、左兵衛佐、不見分、博陸御車見了歸廬、南暫止、雨漸滂沱、行幸以後頗宜、

九日、天晴、故北政所御忌日、雖有推參志、昨日窮屈、腰疝之上無僕從、休息優臥、不聞世事、

十日、天晴陰、雪間飛、午時許中將來、一昨日行幸雨俄下、雨皮寄御輿、盛兼次將參只三人、爲家、資季、實清皆左也、實清渡右、宣經參

口花門、師季、實俊、教雅、藤家定、賴氏、兼輔儲路頭、下御社安御輿、並屋東面御輿前陳南也、大將以下皆跪深泥、具實昇御輿前陣、召次將令解雨皮、右將有便目實俊、實俊又指其子令昇、但示之自御後令昇、解雨皮緒還下、具實進役劍璽、右大將被追却具實隨身、於前陣昇者無加詞人、

父又見之云々、御禊間、上卿通具於幔外指笏振手參着

軾不揖召御禊了、立取御幣置之、拔笏置湯之間、自幔使取笠

外諸人示驚之間、更歸立庭中、親定卿取花出立向、巨

無霸與導州民極難及歟、相構指之云々、御神樂訖歸

參、奏御願平安山、即出乘輿赴路、數町之後、出納俊基

尾籠無故喚返之間、忽歸參於幔下下輿、人々告無召返

事由之間、忿怒又乘輿、前駟騎馬於幔下乘、甚無便云々馳歸、今度

其實自御輿之後遲參、無故失錯歟件卿裏こき紅梅下襲着

之、但八幡奇菜之裏山吹色也、人屬目相具童二人、隨身袴同付九色々、文、

兩社可着同裝束由、已以宣下、更施風流、相具前不具

別之、違勅歟、左大將殿自下社置退出給云々、雅親卿

始終供奉云々、勸賞、從二位親定、正三位具定、上卿、從

四上範輔超辨親長、正五位上師方、又稻荷祇園行幸賞、從五位上久朝、

範繁、昨日參北山、按察、右大將、實親、通方、定高、公

賴、公雅、經高卿、公卿二人早出、殿上人二人加、隆範、

爲家、參人家時、基定、宗宣、實經、實清、賴氏、隆宣、申

時許參室町殿、仰云、風氣復尋常了、來廿日除目、大將

欲令出仕、宮文參習禮、十九日佛名由聞之、出仕參行

宿申其由、可示中將、又申承他事等、又仰云、末子元服

事、兩兄已八歲遂之、皆悉八歲如何、又可待十一歟、

當時遂之者正下、定難被許也、皆悉從上願違恨也、不可急哉予申云、於御元服俄作者、只被

急遂、何事候哉、正下只可被申候歟、若雖不被許、又何

事候哉、只早速御昇進可爲大切、仰云、名字盡了、兼平

隆通等如何、予申云、各常出來名候歟、又三位宮內卿

兼平猶可被憚候哉、愚案房實猶神妙由存候、色頗有御

許之氣、是不混俗之故也、於今者上字多在名下、下字

又在上、何事在哉、最勝寺供養、法性寺殿紅梅下襲、萌

木袴、紅梅地平緒令用給、於紅梅袴事者所不見及也、

入夜退出、前齋宮昨日渡御神祇伯一條之由聞之、過門

前、仍參入、又謁伯、良久言談、亥時許歸家、東隣有失火

疑、人少々訪來云々、但非失火、車轅ヲたむる物依燒

薪、人驚之云々、少將雅繼在障子上、又仰云、此不用

童、逐日狂氣、近日所籠置也、不拘制法、

十一日、天晴、宿申等示送中將許、十八日弓場始、廿

日除目云々、連夜勤宿又有人嘲歎、可相計由示之、今日大臣殿參內給、可御共由答之、長朝奉書、內大臣殿來十三十四日可修八講、聽聞示由云々、腰所更發難治、若扶得者、十四日可參由申入、夜兵部來臨、明月皓然、

十二日、天晴、心慵、日空暮、前齋宮戶部尼、來談云々、不知世事、智圓已講重音信、大乘會十六日可始云々、長季卿送書云、射手作法之中、射初矢時、弓若折者如何、取他弓猶射乙矢歟、答云、弦切之人、初矢切之時、如替絃有作法、但雖未射乙矢、又依絃切退入之人間有之、以之思之、弓折人只可退入歟、於後々度者、以他弓可射哉、此外無所見者、

十三日、朝天陰、午後雨遂降、未後漸密、臨昏如沃、教雅少將送使云、會參弓場始次第、委可承、答云、於弓場始、地下將出仕不見及、可被尋有識人歟、入夜雨止月明、

十四日、天晴、傳聞、前大納言實宣卿次男侍從公蔭、五

節以後於近衛宅逝去云々、頭中將一腹也、法印被來之間、西九條尼上渡坐云々、不經程被歸云々、賀茂詣次、今年八十七、知宗送書云、明後日安嘉門院御佛名、範宗卿之外無參公卿、構參哉、同夜北白河院被行、又無其人云々、罷官以來不致朝衣沙汰、勿論之上、自夏足有所勞、不能着沓由申了、

十五日、自夜大風、朝雪積庭、巳時許陽景出、欲見門外雪、大風難堪、猶與之間雪又消、未時許淨照房來談、入夜雪猶紛々、若積者、曉更可出門由召僮僕、

十六日、自夜半月明雪止、地面猶斑積雪、不幾返遣微牛、午時許參室町殿、自一昨日御九條殿、御懺法被修、又宜秋門院於月輪殿念佛有御聽聞、還御廿日比云々、水驛即退出、入夜中將來、興福寺衆徒訴訟、東大寺東南院事、門徒僧綱悉入洛、今日參殿下、急可被止仁和寺宮官符、若無裁許者、東大興福可燒拂由申之云々、近日仕人欲無捧祿之由、家光存其裁許之由、秦兼憲先年濫訴、天王寺相論、稱守屋府生是也、所、左右成藏人所牒、賜仕人之間、天王寺驚申、此事家光又周章、成返其文之間、

政力

仕人悉逐電暗跡云々、朝成之輕忽、成敗之變改、實以如夢事歟、相國一日參內給、面奏達鶴望事給云々、持明院之造作後了、元三依御所闕如、俄安嘉門院可渡御右幕下亭、土用以後此沙汰出來之間、不加修理云々、十七日、天晴、霜結、此兩三日寒氣入骨、蓮華心院庄々又可勤勵分役之由經奏云々、今世事搃不能問答、萬事猛於虎、

十八日、天晴、依昨日音信、近年荷前事等少々注送之次、經高卿云、昨日爲參大乘會、先參殿下之間、會延引云々、車馬群集、人勢及三四町、門內僧徒充滿、無所容身、南京訴云々、以左少辨賴隆申入所望、一宗滅亡、大佛殿已下今朝可化灰燼云々、又大明神御入洛、歲暮大事出來者、有御後悔歟云々、仰不分明、猶奏申之間、然者申沙汰こそはせめと被仰歟、叮籠悅申退出了云々、但此事當時北白川院、彼宮全無御承引之氣、事體定及大事、次三井寺又失了云々、弓場始延引、廿八一昨日北白川院佛名新像多云々、奉書阿彌陀經二卷之間、腰

忽損不能行步、

十九日、天晴、奉書阿彌陀經一卷、以下人尋所司許、左大將殿不令參御佛名給云々、內々可被告仰歟、今朝宮內卿返事云、宮適有令去給之間、猶可被讓人云々、除目任人又喧嘩嗽々云々、午時許中將來、自相門委細狀、重被遣盛兼卿許云々、吹舉之詞雖無其恨、其上無思、非計略之恨歟、今夕參佛名云々、夕兵部過談、及月出、

廿日、霜凝天晴、入夜雨降、京官除目云々、及申時世事不觸耳、夜漸深、中將返事、殿下御風氣、除目延引明後日云々、丑時許東方有火驚騷、依吉田不重、遣下人等、釋迦院僧正住所放火、不移他所云々、

遠力

廿一日、天晴、未時許經國宿禰來、除目爲申成功者事、日來在京云々、南京事未功、僧綱在京、衆徒頻送使、可奉出大明神由結構云々、天王寺昨日被仰下歟、三井寺僧徒又分散云々、大外記師季依師兼正上加階不許、忽辭所職、兼官等、二門者皆辭官消息不書官書名二字、布衣長絹附衣、參

殿之間、去十二日退被行其賞、賜同日位記云々、師季云、不居顯官以前、正上無例由被仰、尤可謂其理、但正上者辨官延尉佐大外記所叙來也、大夫史全無叙例、隆職再任、此間宿老至時建久初叙之、其後國宗公尙叙之、已三人也、是又可謂新儀、已非舊例、季繼更不可超師兼、於超越者、雖顯官以前、蓋被叙哉云々、是又一旦之理也、萬機之政偏預諮問、騁于宜時之世絕其威歟、隨又恐惶被行其事云々、中將事今度宜之由人稱之云云、怨家之嘲弄歟、社頭之間新儀難堪事、不可勝計、妄成藏人所騷致濫妨云々、夜深中將來、盛兼卿於內裏可達由相示、仍參會、雖無開出事、明日於里亭欲覽申文、其後御參內之後、此事定被太政大臣殿歟、只今不可有披露、藏人頭二人昇進儀出來歟之由相示、一昨日御佛名之次、於中將者無其人歟、只近習之中有啼泣奔走者由密語云々、佛名公卿、定通、家嗣、經通、定高、賴資、具實、盛兼、經高、範宗卿、出居爲家、師季、有教、資季、有資、賴氏、以資季申拍梨云々、又少將內侍云、宣旨殿

被廻秘計歟、家行卿去職云々、聞此事寒夜目不會、及曉鐘、

廿二日、戊申、天晴、午後烈風、飛雪入夜止、到于申時、世事未聞、心中鬱々、秉燭以後重相尋、冷泉女房返事云、只今有喜悅之聞、雖憚披露且抃悅云々、雖未信受、感淚先灑、亥時中將書狀、盛兼卿消息、事已一定云々、除目大略、權大納言實親、二中納言、任日、上御超家具、權中納言具實、

二宰相、賴資、大辨宰相、參議公雅、止衛、府督、公賢、藏人頭、中家、將一、賴資、勞二年、將如元、家

頭、左中辨、年廿七、辨官二人、新任親俊、三事、超補日、將、任左大辨、

經、資經卿辭參議中將、是痛賴資超越歟、右衛門督隆親、藏人頭爲家、範輔、

任右大辨、披見拭歡喜之淚、六ヶ年以來久雖焦心肝、今浴此

恩之日、壯年猶早速、多超于先賢、二十八藏人頭、將相

之家猶以幸運之輩也、况時議偏爲先厚祿、凡骨難容其

身、非相門丁寧之吹舉者、爭遂此望、深恩實非筆端所

及、即時又自相門預芳札、盛兼卿消息已到來之由也、

面目旁餘身、亥終許東有火、如隣家、川崎門前之路西

也、只歸下人、後苑之空地但北風利、而煙炎赴南、周章

之間不經程滅、川崎之西門燒了、兵部來訪、火間又有相門之恩問、火滅之間、中將馳來、於今夜者、不可有出行之由、雖示其使還路云々、今夜密々參內、宣旨局殊廻秘計之由有了寧之詞云々、云日來、云今夜、天氣快然甚忝云々、

廿三日、曉雪積地二寸許、朝間猶散漫、早旦參向相門、

謝申深恩朝イ今朝イ云、此程出詞、猶無恩許者、只非一旦之

事、不可出仕由、日來所存也、本性有所存、細々不申如

此事、申出之由及外聞事、又不可默止、今成就之條、又

尤可具申、仍今日凌雪候可參內、且是存堤坊也、彌增

面目退出、參室町殿、良久見參、左大將殿夜前令參除

目給、左大臣、宿于五節、不被參陣坐、閑所云々、又依無他上

卿、取一莖、次通方卿六度膝行逆行之後、拔笏又逆行

如前、未聞之說也、次具實卿取第三宮鳴板、父綱賴攝師時卿記、乍見不

歟、別當依家禮不列立、曉鐘以後家光朝臣召仰、左府通出宿所、

又在殿上方、此間初着陣、即列立云々、兩相府陰居、各將二位之得分馳走之故

歟、除日事等申承退出之間、右武衛扨掇、即被歸云々、

相共女房向冷泉、武衛又坐此家、相共言談之次、予示驚

東大寺滅亡、可悲痛事也、雖籠居之身、依存朝廷之忠、

此事所申出也、於今者無是非、女院可令去給事歟、爲近

臣之身、爭不令陳申給哉、雖無許容、此事可令奏申給、

依之雖有不快御氣色、冥顯全不可有御痛、治承之大事

必然可出來歟、雖百千度愚詞、可令申給事也、答云、本

自存此由、不願身涯分、可申入之由許諸退出、以下人

相尋除目、未訖云々、午終許少舍人、衣冠來告、補

貫首給之由、當時依無人、以馬允伊員、經瀧口一騰、相逢、申事

由歸出、賜祿、正、一仕人料白布各三段、二人料六段也、

藤文章博士來臨、即謝之、若光朝臣來、又相違、按察早旦被

送使者云々、依近、及未時大允通重來、拜賀可忿申、日

時強雖非上吉、以早速可爲先由示之、答云、今日上吉

日也、當國忌廢務日、是勿論事也、明日、遠慮、明後日、

厭口、被忿者吉例多云々、只明日可宜由答之退歸、可

進勘文由答之退歸、予向右幕下、心閑謁申、黃昏歸來、

瀧口列參之間也、但當時人數只七人云々、列立事宿

前、西上、兼宣朝臣於近邊宿所、着衣冠之間遲々經程、北面、

甚無心、秉燭以前出來、相逢下薦、傳上名簿、一薦取之

授之、兼宣取之、昇中門外沓脫持參歸出、仰聞食由、即

退出、先々此列參、於門前施作法、殆及時刻云々、今日無此事、自殿下忿遂拜賀、歲末公

事等可申沙汰之由被仰云々、明日一定由相定、此後御

倉小舍人列參云々、衣冠、又仰聞食由、是近代事云々、

不知及事也、次所衆列參十二人云々、下薦二人取松明

列立庭中、當中門廊裏戶程、四上、下、折北、西面立、不知故實由侍等離之、兼宣如前取名簿

持參、歸出之間、所衆昇侍所着座、即起座退出、此事又

更非先例由、忠康也、所衆也、等驚奇、密々令問末座者、申云、

參頭辨殿時、侍喚昇之、仍着座、坐始此座、由申云々、撥不知物由之

所致云々、去年初參、今年爲上薦、萬事不足言、無知子

細者云々、入夜初見聞書、任人大略如夜部聞、左近中

將家定、中納言替、從二位實基、高實、超家行國通以下、基輔

兼忠卿、可驚、只辨士舌端之得分歟、從三位家時、此政超數輩上

義、雖母后年預、成長、達止大辨、大略解却歟、四位賴隆、基氏、少將、侍從

能定、源親氏云々、任人之體又超過先々、將監廿二人、

左十衛門廿四人、左十兵衛卅一人、左十馬十四人、左九戌

終歸家、相國參內給云々、

廿四日、天晴陰、賀札等到來、已時許參綾小路宮、即依

召參御前、先申朝恩抃悅之由、次去夏所勞數ヶ月之

後、行步不叶、不出仕由等申、次天王寺事、雖非指御所

望事、於當時理運之至、不可及猶豫事、松容力停滯奇思給

之處、遂成就、神妙候之由申之、次自招客申出云、東大

寺事甚不便、衆徒之結構、又雖奇恠、末代惡徒、心操更

不知物由、無云甲斐事出來者、奉爲公家極以不便、此

事女院御所去思食儀、極大切候歟、又依天王寺事、園

城寺閉門戶逐電、依東南院事、東大寺化灰燼者、理運之

天王寺、不當三井寺又爲傍例、彌爲一同之儀歟、被宥

彼者、尤理之有無、頗露顯候歟、此事雖非人之身、極歎

思給之由申之、但去夜已被去仰之由、聞之由被仰、御

氣色快然、旁申感悅由退出、隆親朝臣信定朝臣同時來

賀、各謝遣之、向冷泉之間、右武衛又來坐、爲女院御使

參宮、東大寺事已被去申之由云々、昨日依予勸勵、日

來所存已符會、思切直參御前泣申此事、所申可然哉之

由、且可被問高位有識人、如此事、非如女房并信繁等
可思慮事之由申入、頗有宜御氣色、感悅退出之間、自
關白殿、此事猶不便之由被申、此間大相國被參、即被仰
此由、被申給旨偏同愚案、仍忽被去申、南僧徒成歡喜、
今朝下向云々、新補最前天下無爲、極所庶幾也、大外
記師季朝臣來、中將^{口來}、令忿調、偏憑扶持之由令示含
了、夜前禁色宣旨到來云々、^{宣下}、持來使稱先例有祿
由、下品絹一疋給之云々、此事不聞及、近代事歟、及日
入漸着裝束、縮線綾表袴、<sup>雖申所々無常物、先年臨時祭所相
儲袴、忘而在物中、求出着之云々、</sup>
下襲、^右縫腋袍、蒔繪劔、紫綵平緒、馬腦帶、先是出
納、<sup>二通有裏紙、卷一禮
紙、不入櫛如何、</sup>此間前少將大夫經成、
來、於此所相逢、弟國司任侍從事、嚴父不知之、<sup>九條大納
言殿申任</sup>
給云、今夜相議不具共侍、人々或自拜賀日、有召具瀧口
事、<sup>通方伊
時等、</sup>或相其私衛府等、而嘉應御記無此事、仍不具
其人、隨身四人、<sup>蘇芳袴
新賜之、</sup>雜色三人、牛童賜裝束、新車大
臣殿御牛也、可參所々、先關白殿、<sup>內藏頭諸中繼人、二拜
了昇殿、中吉侍候由、隨出</sup>
<sup>御有無
可遣止、</sup>次內、入月華門立無名門外廊柱內、^{西第二、}拜舞、

解劔撤笏、昇小板敷着端座、<sup>長臺盤下程、坊
城大臣殿如此、</sup>藏人書簡、宇陽
陵了、申吉書候由、出御有無又同、次兩女院、次大將
殿、前攝政殿、^{中繼、}次太政大臣殿可參由議定、出門以
後予歸家、一寢之後又來臨、先參殿、<sup>中繼人不見知、以
此人申吉侍候由、</sup>仰
有營事、不見參、付件人內覽返給、次先參兩女院、<sup>宗保
朝臣</sup>
<sup>于藏人
中之、</sup>次參內、又付侍奏覽、返給書、下書下出納、上卿
語、二條中納言定遲參、久相待下之、<sup>伏座、經
柱外、</sup>次參前殿、
大將、次參大相府、夜深人定、不見參、明夕可被行下名、
其事訖、軒廊敷板敷、可爲內侍所御神樂御路云々、
廿五日、雪埋地、頭中將來臨、荷前事可申沙汰、初奉行
頗有憚歟、今夕內侍所御神樂、先可奉行由被仰、只今
欲可參修明門院、次欲可參關白殿、荷前可申沙汰事、
先觸官外記、<sup>各消
息、</sup>大宮三位知家卿被來賀、良久言談、謝
遣之、晚景向冷泉、於關白殿逢時兼、御神樂所作、拍子
隆範、[、]定平、[、]笛經行朝臣、筆筆忠行卿子侍從、
<sup>行幸舞人
之兄也、</sup>今夕昇殿、和琴有資領狀由、左大辨<sup>本奉
行、</sup>示之、而
逢藏人申故障由、時兼語之云々、又參伏見殿<sup>宣陽門
御幸、</sup>由

有其聞 仍先問時賢卿、不參者可催資雅朝臣由有殿下仰、次參內 殿下令參給、於小板敷入見參、以狀遣問時賢、御裝束奉仕人、藤大納言輕服、可催大炊御門中納言、家闕、不參者可催右衛門督由被仰云々、只今所退出也、中納言返事未到、仍可被用意由、以仰示右金吾、秉燭以後又裝束、欲可^{直衣}參之間、予歸家、所作人事不委聞、見物者說、殿下令早出給、仍候御裾、實忠朝臣御劍云々、

廿六日、天晴、未明下名、任人注送、雜任又濟々云々、刑部卿淳高、文^{定中納言}博士周房、勘解由次官忠高、左少將資俊、右少將通忠、御神樂無爲云々、仁尊法眼金泥一切經、一切事訖、渡經師之由、入道送經師請文、即送法眼許了、未時許覺寬法眼過談、賀夕郎之恩、清談移時刻之間、又任尊法眼來賀、又言談之間、證寂房^{黃昏}、來臨、法眼相替出訖、今夜宿此家、過夜半坤有火、頗有宮城之疑、驚騷遣見之處、源大源言通具卿家、不移他所^{自內}出、云々、中將束帶馳參內訖云々、新補間、火事非重

事、傾哉無極、

廿七日、天晴、中將舊狀、夜前馳參內、其後殿下御參、頭辨時兼、近習之輩少々之外、又無參人云々、荷前使納言參議散位一人無領狀人云々、早書散狀、只今參殿下可申由示送之、申時許參、町殿、仰云、大將內辨習禮、漸似可令練習、於南面有其事、又似往事、催感涙、向西揖、向乾二拜、令練給之間、所見如何之由被仰、聊遲くや候らんと申、可然由被仰、わざと早速ならぬと思食者、物念ニ見之候歟、漸々御存知可候歟、從三位語云、除目夜、內府於鬼間、具實所任納言、平可申請由奏申給、其事不許、超人可叙二位由、出聲啼泣給間、遂被許、依之別當又叙云々、宗房^{不任大辨}、閉門籠居云々、荷前右兵衛督可參由半領狀、不知次第云々、參注送、

廿八日、天陰、未後微雨降、入夜甚雨、可被構參由示送、武衛領狀、範宗卿又參云々、四人出來者神妙歟、二條納言昨日予私相語了、^{廿七}不堪定明日、或云、一身任歸路可參內由有芳言、宮內卿又參云々、四人之由、

早可告外記由示之、今日頭中將隨事御請宿仕、明日臺盤云々、洗髮精進、今夕新大納言拜賀、頭中將申繼云々、後日、頭中將初勤陪膳、夕膳成實朝臣勤之、其後宿仕、荷前四人參、辨闕如、賴隆依殿依右筆又逐電、無申幣物事者云々、奇恠々々、

廿九日、夜雨止、朝天陰、參大相國亭、下人云、夜前渡給西殿、參室町殿、見參、大將可令參節會、若爲外辨、一二者猶伺候可見由所存也、又密事上皇不御同所、母后拜禮他門、不參由、故入道殿所令書給也、仍拜禮以後可參由所存也、尤可然由、相國夜前被渡此西亭訖、多被造改上、中門被止瀧口、寢殿南弘庇有階隱、壞改法皇御坐屋也、歸家行冷泉、節會小朝拜可奉行間、御教書數十通書之、公卿催事等、予云、貴種人々多被答表書、如此事喧嘩其無益、須有其禮、內大臣殿、九條大納言殿、紙、節會御參事可承存、爲散狀、內々所申候也、伊勢前司殿、清定、出羽前司殿、親泰、兩二位大納言頗踈遠、懷紙書私文、謹上堀川三位殿、兼季、謹上土御門侍

從殿、定實、大納言殿節會御參事、爲散狀存知、內々所申候也、恐々謹言、不審御教書之體可宜歟、左大臣爲散狀、內々所申候也、某頓首謹言、進上綾小路中將殿、如此人書進上字、書子息名云々、信盛一定不可出仕歟、可申切追儼可奉行由被仰云々、不堪定夜、押職事分配、頭中將之分重事多、頗強事歟、律師來、依無假予出會了、安嘉門院女房退出、元日不可候、明夕可渡御右大將冷泉亭也、內侍所御神樂又有成功者、奉行以前召付者云云、出納等舉之、件申文爲伺、追儼之次、凌雨持參殿下、予今夜宿忠弘宅、依所也、今朝着直衣浮文指貫參上、資雅朝臣直衣、顯平朝臣束帶、定平朝臣、實清、少將、藏人五人着臺盤、勸盃新藏人、於年中行事下御覽云々、

卅日、雨止、天間晴、已時在忠宅出門參詣、自昨日有哦氣向寒風、申始許着成茂宿禰所儲之寄木之舊跡敷設等過差、自去年如霜葉欲搖落之、或齒遂拔落了、其跡已如愈、無血氣、暮齡之令然、何爲哉、不奇此所取之可歸京也、昏黑家主來談、秉燭以後奉幣、親成孫申祝、又歸宿所、夜深入

指出廊簾中、成茂又借之、今夜社頭無可然之人云々、下人群集無其隙、過辛崎之間微散客、

嘉祿二年

○正月小

一日、丁巳、壬午、立春、曉天遠晴、星輝照耀、大殿開訖出寶前、歸宿所、暫休息歸洛、於打出濱邊天漸曙、於法勝寺南門乘車歸家、未一點頭中將光臨、新年之面目餘身、闕腋巡方魚袋、羅半臂、縮線綾袴、螺釧劍、右大將草手、紫綾平緒、隨身四人、紅梅袴、色頗濃、自近年、瀧口二人、一膳式材、牛童、末座云々、花田、黃衣、可早參關白殿之由示合、鷄鳴之後參內、四方拜、信盛奉行不催儲次將、良久而御湯殿、前大納言被奉仕御裝束、於鬼面閑談、依無他人取御劍、信盛進御草鞋、直御裾、不取之、入御屏風內、信盛獻御笏、次入御、置御劍退出、于時天曙云々、自是參左大將殿并太政大臣殿、

欲參關白殿云々、六十五年之壽考、光華養眼、恩父之陰德歟、子息之至孝也、每見欣慰、是只外家之餘慶也、申終許密々乘新車、依吉口也、遙伺見拜禮之門前、日入之後事訖、左大臣以下參內、昏黑歸家、後聞、一條殿、於二棟殿令出、南面前、次參西亭、出陣間事、委教訓給、次參關白殿、大外記師季朝臣覽叙位勘文之間也、即拜禮、大納言殿、新中納言賴資、右衛門督、左宰相中將、盛兼、宮內卿、新三位、家時、左大辨列立車宿前、南頭立其末、頭辨申事由、自中門戶參、自中門內歸出、觸氣色退立北、屏前、公卿一列、當第二人立、兩頭已下殿上人一列、外記史家司以下一列、二拜即退出、聊休息、參北白河院、拜禮訖間、不昇而退出、參內、殿下參給、於御殿弘庇覽節會、公卿散狀之次、小朝拜御裝束兼可奉仕歟、奏事由之後、可奉仕歟之由申之、兼可奉仕由被仰、仍仰藏人、新藏人未練失度、一身行之、撤平敷御座、其跡敷毯代、立御倚子、殿上御倚子也、藏人昇之、垂母屋御簾、左府以下著殿上、此間御裝束、家闕別參之、博陸著殿上給、新大納言、自下起座、出無名門、著靴列立、殿下立給之後、

下小板敷、帶脚、不取出無名門蒙氣色退歸、昇小板敷、

出上戸、於年中行事邊奏事由、與頭辨參進、辨持御靴、袈裟

御簾、四五卷許、寫出御、著御訖、奉刷御裾、退著杏引裾、天持上之

取笏歸出、申聞食由、博陸以下次第列立、出御以前僅主殿官人立明

此間於神仙門外著靴、出納令著之列公卿後、職事四人也、六

位在後、高長公卿中央程已下先退、上臈經前退入、此

間內辨可令候給歟由、尋申左府、被答可候由俄而出陣、內辨

以官人被召、先是外記奉外任奏曳裾入宣仁門、經柱外著靴、頗引寄而

內辨授筥、諸司奏付內侍所、微唯、氣色許右廻出宣仁

門、賜筥於藏人、路間令持藏人一人取脂燭前行、於鬼間內

覽、次付內侍奏聞、返給出陣、路間令持如前返下之、內辨被

結、仰云、列令候、次又氣色、仰云、諸司奏付內侍所

聞食、右廻退入、參御殿、即出御、殿下御裾取殿下御裾、於

御後供御靴、頭辨供之近仗陣頗遲々、著御々帳內、內辨著

兀子、內侍臨檻、時乘扶持之內辨謝座昇殿、開門、關司召舍

人、少納言宗明參進、蒙召、外辨內府良平以下云々、差

信盛令行御膳事、藏人不備采女、采女不候然而催出了昆屯之間、內辨退出、

定通卿行事、不押笏紙此間於御後車戸下、催指油事、御酒

勅使隆親卿、宣命使盛兼卿、內辨付內侍奏宣命見

參、宣命拜了、還昇之間、入御給、御靴進御草鞋、付御

劔內侍、還御本殿、殿下令退出給、此後退出、初度事無

違亂、可謂面目之由後朝示之、仍記之、小朝拜關白殿、

家實、左、內府、忠房、定通、兩大將、實親、兼經、家嗣、通

方、經通、賴資、高實、伊平、隆親、以下不立盛兼、經高、家

光、節會外辨、內府、忠房、定通、實氏、兼經、家嗣、實

基、定高、參議四人云々、大辨被仕去夜追儼上卿經通卿、無

參議云々、

頭註引陣次將、左資俊、資季、家定、少將實光、教雅、右實

忠、有教、實清、雖無入御、無候陣之將云々、不知案

內也、

二日、天晴、日入以前頭中將又來臨、瀧口三萬々、四萬今

日參陰明門院、中山、岡前若宮、尼三位前納言各相謁自是可參殿下

者、夜前曳尻著靴、公卿有不密之氣、右將軍云、雖爲重代藏人頭、

云々、人々聞之今夜淵醉、資雅朝臣、顯平朝臣、有資朝臣、

弟侍從、侍從伊成、公有、時兼等領狀、實忠朝臣又隨體可參者、又親氏兵衛定供內裏歟、日入之後、初月似弓、高懸空碧、夜深見物雜人云、殿上人貫首以下親氏以上、九人著座、顯平朝臣、實忠朝臣不參云々、殿上事訖、參宮御方、

頭註一薦高長預五獻、時兼劔云々、

三日、朝陽映霞、今日右幕下出仕、相具給之由聞之、密出一條空町邊見之、一員供奉、前驅八人扈從、頭中將被參前殿、少將實清追馳參、次被參西亭、訖歸來、此間頭辨一條西行、秉燭以後、實清朝臣來相逢、今日前驅也、先安嘉門院退出之間、大炊御門高倉邊、關白殿東洞院南行給之間、一員前驅等相互下、依程遠扈從車不下、大納言殿、宰相中將、殿上五人御共云々、其後將軍被參前殿、相國、北白河院、冷泉內裏、七條院、東一條院、宜秋門院殿下御所也、之由語之、纖月明、

頭註前驅實清、藤永光、高光經、藤行光、高忠廣、橘長敦、同朝仲、同以邦、番長武信、

四日、朝天晴陰、已後微雨、即止、天猶陰、鶴若叙辭事、去年萬事嬾而不廻思慮、五歲依吉例慶賀、後思入止此事、伺氏爵哉由雖相示、若有其隙哉由、今朝相尋高三位、返事云、於今年者、長季卿申給了、明年早可申沙汰者、今年事定歟、可申明年之由、兼所示送也、夕頭中將來、叙位當時無付申文之人、內覽之時可請頭辨、元日節會尋常、殆近年不見之由、有出詞人々云々、關白殿當時公卿座、中門廊之奧四間也、北一間與數御座、南北行其前板也、格子遺戶門也、北第二間以南端有壁於此所內覽、簀子如例膝行、立超遺戶之敷居、更突膝可膝行歟、叙位座藏人頭勸杯之儀、居程向方不審、此次除目瀧口所衆勞帳、藏人頭不入柳莒之由有其說、舊記多入之持參、此等事申前殿、仰云、內覽申文於遺戶間歟、簀子一兩度膝行之後、無疑立可昇長押、勸杯事、取杯經簀子、坐關白座良方、向南勸杯之儀如恒、但雖御前可取續杓歟、於執筆大臣杯者、可返五位藏人也、勞帳雖藏人頭入柳莒持參、執筆取文、頭取柳莒退歸也者、又申文捧杖之時、文下可在何方哉、卷目上歟下歟、結文

時紙捻突融歟、仰云、卷目或上或下、兩說、紙捻可突融于鳥口、文下在外、主人此等事示送、但續杓事、猶可尋勘之由示之、

五日、曉雪埋庭草滿籬竹、陽景雖陰、白雪漸消、叙位又上階以下驚目歟、無聞及事、每事偏以入道內大臣殿御次第用之、御前續杓不取給之由答之、強不被處無禮歟、可隨彼御次第由示之、

六日、朝天快霽、頭中將書狀、氏爵爲氏被叙了、叙位不委見、神祇伯資宗叙三位云々、五歲叙爵中將之例也、慶賀之後、思出此事、可示付宰相中將之由、歲末思寄之處、無事煩早速成就、幸運之前表也、欣感無極、已時許聞書到來、從三位資宗王、正四位下大中臣宣經、隆通、從四位上信實、鳥羽院寬治二年御給賴基、去年出家之由天資季、臨時、源仲兼、中宮當年平親長、臨時、從四位下藤經季、宣陽院賀茂在友、祖父在業家、安陪忠業、御祈、平有親、菅長貞、藤忠倫、同、菅義高、同在賴、正五位下藤隆宣、中原師光、臨時、藤經行、嘉陽門院貞應大嘗會大中臣親基、與父平時高、

止利部輔藤信時、藤爲經、臨時源顯定、同、源親行、同、同通

氏、橘以輔、高重經、藤守高、外記同孝綱、同、從五上藤

定仲、從下宣實、鳥羽院保安大嘗會兼綱、源長信、藤仲忠、簡一源

重長、藤定、實尙、門院從五位下經氏王、天曆下部是光、

入內、藤範昌、藏人清秀昌、式部同氏繼、史藤利朋、民部

中師景、外記源季通、天曆御後藤爲氏、氏、橘經元、同、藤長

繼、無品藤子同隆兼、准子同隆兼、准子藤公世、女御諸衛以

下卅九人、臨期申出之、即給之、於鬼間入見參之次、頭

中將嫡子、氏爵面目之由、面被仰云々、感悅無極、上階

人不幾、是又善政也、旁欣感、

七日、天晴、霜凝、自舊年爲舌頻歌、午時許女房相共行

冷泉、節會內辨、內府可早參由、一昨日觸奉行職事給

云々、未時裝束、先參殿下、此間密々行陣御見物、右衛

門督隆親參、隨身二次中納言家嗣卿、維色三次中納言經

通卿、次宰相中將伊平、萌木袴、隨身二人、又紅梅袴、

相具人自西參、藤兼左大辨洞院南行、內辨參給、前駟

四人、時綱朝臣、小侍從、師季中將、弟大輔車宣經中將參、舊車、色流、藤蘇芳袴

隨身、次定通大納言、管車、前駟四人、前駟取下襲尻、次

重一

右大將前駟六人、隨身近衛、紅梅袴、少將賴氏扈從、取

沓、冒額車、次左大將殿、前駟六人、侍從能忠少將雅繼

御共、此間歸冷泉、又歸一條、著裝束、布衣、下袴、參室町殿、

以後、能三位言談之後見參、戌終許退出、見物雜女等

云、內辨被下下名、謝座之間日暮了、再拜之間初立明

云々、出御南殿、日入以前也、殿下御裾、頭中將取殿下

御尻、先是進御草鞋、宣經朝臣、實清付內侍云々、右陣

實忠以下、少將實蔭自胡床落云々、顛倒之後、起令替胡床之間、列坐人風腰相待

云、後聞、頭辨奏外任奏以後、被仰加叙云々、正五位下

知宗、安嘉門院、實親、又公氏卿子、依實尙超叙云

云、叙列式部、親長朝臣、兵部、資季朝臣、信時云々、叙

位宣命使經通卿、御酒勅使隆親卿、三獻之後、入御之

後退出之由示送、

頭註東一條院御給、侍從公綱、依上薦多不被叙、

八日、天陰晴、念誦不出行、兵部送書云、來廿六日可下

向東方云々、

九日、朝陽晴、淡雲晴、未後天漸晴、日入之程參室町殿

云々、藤三從束帶參、今年初出仕參、御堂由稱之、見參之間、左大將殿

令參御堂給、紫御指貫、腹白結、今夜自結指之內融、自

前縫目出之組之、前々自外、突融也、萌木御衣、令出給之後、暫有

長朝臣言談之間、即令歸入給、修正已訖云々、早速未

聞事歟、宗房不兼大辨、忿怨拋入辭書於盛兼卿家、不

見返事籠居北山云々、資經泣訴實宣卿、不可爲賴資下

藹之由大奔走、實宣卿又廻計略之間、稱內裏別仰、具

實可任由、資經聞之、又馳向實宣卿許、怨辭之處、又內

裏無其仰云々、所詮例之謀書出來、稱內裏之仰歟、不

堪此怨、去職舉辨官、又在高卿說、俊親本家一定任權右

中辨由書折紙、殿下令持參內裏給、而顯俊卿懇切申

破、遂令任爲經、凡此除目之間、或怨言、或約束變改、

每人有訴訟云々、末代只嗽々之外無他歟、向後又可察

事歟、通具卿稱歲末之節料、家人等供物之次、盃酌燕

遊、通方卿來、醉鄉酩酊、彼卿歸後、主從付寢、前後不

覺之間、爐火不治、自內火起、疎遠之侍見其光雖驚駭、

付寢之輩猶不驚、件侍打破腋戶、呼叫之間、著小袖許

出自內之間、文書珍寶一物不取出云々、實是非人力事

歟、白馬日、書加叙之硯無令撤人、外辨出之間、硯猶在

仗座、左大將殿令示告右大將給之時、諸卿又奇之、外

記進取之云々、內辨雖立給、參議尤可令取、大辨又不給下名以前摺墨、

內辨可授下名由命給、先摺墨可給由陳之云々、誰人作

法哉、定通卿著外辨、召外記問詞、源大納言、二位大納

言被參歟之由問之、外記惘然而不答、重問上臈不參

歟由、外記猶不答、召使不參給と可被申由訓之、其時

然申此由、聞之後令下式莖云々、此問狀又未聞事歟、

不知上臈不參之由者、居大臣之次兀子之條又如何、頗

前後相違歟、內辨三獻以後退出云々、後聞、右大將被

行其後事、宣經朝臣取坊家奏云々、

頭註叙位夜、大臣被問議所裝束事、大辨失東西、問納言

座、通方答起座歟由、大辨起座了、又不知東西數剋

在閑所云々、實可悲之世也、

十日、自曉更雪紛々、已後雨脚滂沱、雲雨終日暗、頭中

將書狀、踏歌又可申沙汰由被仰、

十一日、朝雨天止、天猶陰、未後陽景僅見、陰雲又掩、

臨昏出蓬門、乘燭之程參東一條院、謁女房、內侍殿、今

年初出仕由申之、相次參宜秋門院、西殿下、御所也、謁女房、武

衛、戌終剋歸路、月明入蓬門之後、南方有警蹕音、博陸

殿下自御堂退出給歟、傳聞、歲末廿六日二位中將基忠

剋除髮髮云々、不知其故、

十二日、蒼天快霽、春日和暖、心寂房來談、自河東來云

云、相州子息男女、來廿六日引卒下向、掃部助他腹、一

可在京云々、左衛門尉信綱等四五人、今明之間入洛、

又卷說出乘燭之程參室町殿、咳病之氣慎風由、大將殿

被傳仰、即退出、參相門、西華即奉謁、向方違所之由有

其命、無程退出、但將軍去廿九日元服給了、其間事信

綱可達委旨云々、一昨日參內、頭中將當時有其譽由宣

旨局語之、代々藏人頭家記、口傳委授之由、示含了者、

極以爲面目、

十三日、朝天陰、陽景陰間見、踏歌節會月他儀歟由示

送、算道勘申、月蝕不可正現云々、可有出御之儀、可申沙汰由、昨日殿下被仰、內府以下兩三人領狀、自余未見返事云々、兵部來談、昨日卷說又無實由稱之之間、僧正被來、兵部代退出清談之後被歸、定蒙加長者四人、勤仕今年御修法云々、淨照房來、仁和寺僧申律師文持來、可付頭中將云々、長寬以往之儀歟、更不可有詮事也、其事以盛宣、密令付內藏頭、早可申入云々、晚頭頭中將來、今日初不參內參北山、只歸路之次云々、此間新相公又被入坐、公事等爲內々問答也、十日甚雨遂拜賀了、今日欲著陣、於北山日空暮之間又延引云々、乘燭以後謝返、中將云、一昨日具實卿直衣始、相具前駢云々、末代之新儀又加增歟、宣經節曾出仕之間、正笏付內侍、博陸殿令屬目給、有御氣色云々、陣中置路、近年無沙汰、如平地諸陣口等、或深泥或流水、有下車之煩、如此事等近日加下知、少々令修復、又諸人車次第立上過町之半、如此事等可加制止之由示含云々、不負喧嘩之傍難之程、繼絕興廢之儀、極大切事歟、今夜伯拜賀云々、

十四日、自朝陰、陽景間見、入夜雨降、禪尼被參詣賀茂、御齋會內論義中將出仕云々、十五日、夜雨止、朝天猶陰、午後奉書阿彌陀經、此間頭中將來、昨日御齋會、經通、賴資、隆親卿、家光等參、出居將實忠定平等以下多參云々、依無指役退出、踏歌、內大臣、土御門大納言、二位新大納言已下七八人領狀、春日祭使未役少々雖催、當時無領狀、夜前御齋會御裝束之役、入夜實親卿著直表往反徘徊、近代無識少年等暗于禮儀、不可驚、適可辨是非之人、全無其分別、只世之陵夷歟、夜宿東小屋、十五日方遠大風發屋、十六日、朝天猶陰、聞曉鐘歸廬、此間風頗休、申時許行冷泉、日入之程裝束訖參殿下、春日祭辨分配左少辨、重服云々仍催右少辨、大原野分配也、兩社一身難勤仕、可隨重仰、可申領狀由申云々、近衛使未役之輩、皆以不可懸催之輩也、實蔭辭退、通忠、少年未轉也今朝頭辨宿仕、後朝著臺盤、昏向東亭、謁申右幕下、戌終剋歸廬、隨月之春夜、往年猶難忘、

頭注
著事盤殿上人、資俊、時兼、時高等之輩五六人、

十七日、天晴、雨雪間歇、早旦注送、內大臣、內辨、土御門大納言、定、二位新大納言、基綱、三條大納言、實、大納言殿、兼、土御門中納言、通、別當坊城中納言、國新中納言、賴、藤宰相、公雅、御酒勅使、中宮權大夫、右衛門督、宣命使、左宰相中將、盛康、左大辨、祿所、少納言惟忠、坊家奏取繼、實忠朝臣一獻、國栖、御酒勅使、二獻、立樂、三獻、舞妓踏歌頗遲、藏人稱儲之由無沙汰、內辨不立、舞妓拜退出、土納言行內辨、始終、御所宣命拜了入御、無殊違亂云々、踏歌大人數、未見之儀歟、中間無入御、可謂聖代、未時許覺寬法眼來談、高野還御、當時二月三月之間歟、定日未聞云々、臨昏歸、

十八日、天陰、未後雪降、漸積地之間、自昏雨、終夜、經國宿禰來談、白地出京、明日可下云々、經範大內記世以雖許、範輔朝臣舉源遠章、範輔兼帶也、不可申妨由、誹謗近臣等云々、無術計之世歟、

十九日、朝天晴、雨猶濕、午後漸密、臨昏雪又交、申時

許參事町殿、見參之間相國被參云々、及秉燭出逢、御出居方給、申承被歸入之後、猶見參、入夜退出、

廿日、朝晴、漸陰、已時許大學頭朝臣來臨、子息經範、柱下所望事、殊可奏達由、可示付頭中將之由也、此命以前自最初承、及時限此事委細可奏達事、已爲道理之專一、執奏不可有難由、申含了由答之、又相國被加詞、爲待御使參殿下時、同示宰相中將云々、懇切之氣色、以身察之、極可哀憐事歟、無程退歸、申時許行冷泉、除目事等猶言談之間、縫殿頭業綱來謁、寓直右幕下之好、常來臨此家云々、殊以本懷、可被扶持由示付之、甚分明之器量歟、尤可貴、春日祭使當時無領狀之人、但實俊中將內々出立由、廳頭和譌云々、今朝依御鞠、直衣參入、於南殿如形、近習不堪聲云々、

廿一日、天顏快霽、除目始云々、信實朝臣過談、巷說猶嗽々云々、

廿二日、天晴、猷圓僧都來談、可向右幕下亭由相示、付一行訖、兵部書狀、相州病重、子息四郎、今曉揚鞭下向

云々、日入以前參室町殿、今朝宇麻左衛門時房云男郎等

來西亭、自去十日本病增氣之間、子息馳下、掃部助

時盛來廿六日可下由中之云々、信綱左衛門尉爲申將軍御

元服事馳上、雨雪依路煩、今日著鏡宿、明日入洛云々、

他雜人說、相州終命歟云々、夜前大將殿令參除目給、

左內兩府已下著議所、宜陽壇上并議所壇上等經之由

被仰、議所論一定、可經壇上由見出云々、九條大納言殿宜陽壇上不除坤柱

自壇廻給、又莒文列如叙位、基嗣卿立給、又當柱南方云々、上首可當司馬長

柱、大將殿令立加給之間、又進出給云々、內府又自議

所進弓場之路、經宜陽壇上軒廊壇上下東二間石階給、

常說、自宜陽中出類南間、入軒廊出二間、一說、自宜陽壇上下石階、一說、自日華門經階下歟、此說頗珍事歟、取莒人大納

言殿、基、大將殿、新大納言、乘、其儀大略如恒、但惣早

速、頗忌膝行、突膝之片膝ヲ、やがて用膝行之儀也、

是本自一說歟、家嗣卿取最末莒鳴板云々、又新大納言下長押

時不鳴之、具簀子時、東端ヲ度々踏鳴給云々、自錄事歟、定

納言參會、相共見參、予先退出、泰忠朝臣今朝馳來西

亭、有三星台變之由周章云々、日來被催密儀詩歌、

來廿五日、左大將殿當時延引可宜由予且中之、又被仰可然由、

廿三日、天晴、已時許兵部來談、遠所事猶無爲由存歟、

夜前除目參、兩府、大納言四人、忠房、定通、基嗣、大將中納言國通、

參議公雅、盛兼、家光、無殊事云々、夕參室町殿、昏黑

信綱入洛由雖聞、今夜不參、入夜退出、

廿四日、自朝天晴陰、雪間飛、已時許除目清書云々、夜前

公卿兩府、大納言雅親、左大將殿新大納言、參議伊平、

隆親云々、任人參議經高、大內記源遠章、頭辨斐弟云々、兵部

卿經賢、宮內卿成實、左京權大夫長倫、左少將隆盛、左

衛門權佐親俊、從二位兼經、正五位下實任、家任、諸國

國司等少々云々、文官諸國之外五十餘人、武官七十餘

人、山城藤業清、大和中原師式、伊賀藤俊季、下野藤

爲範、若狹平永家、淡路源經尙、豐前中原氏繼、豐後藤

忠久、其妻武藏太則時氏也、仍可付時氏由關東許之云々、本自醉狂、飛驒前司知重、白拍子奉行人、官

軍其印太兵衛、雅親卿一也於彼宅亂舞之間醉鄉、知重被折

肱、印太被蹂躪云々、又醉中馳出向宇治、夜中假宿所

之間、字懸多被摧破、向後尤可恐事歟、今度除目、予出申文、貞應元年給、石川在久遠江權目不賜任荷、秩滿、以甘南備杜蔭申任丹波丹後播磨等目、任播磨少目、酉時許信綱參一條亭由、聞雜人說、相具龍蹄等云々、不聞委旨、

願註自廷尉選兵部卿者、天下之珍事歟、爲世爲身無詮事歟、

歟、

廿五日、天晴、安嘉門院御幸止了云々、但例密儀、八葉車云々、夜前事依不審、問有長朝臣、信綱參西亭、不參此御方馬二疋付行兼、令進一封狀、進女房御方、他事不聞及云云、泰俊朝臣今朝注送事、去七日以來歲星與鎮星合犯、相去二尺所太白順行、又犯歲星、三寸明曉定三星共相犯歟、然者驚位施行之文、天下慎歟、奏聞之後、具可注申、尤心懶而不出門戶、白梅初開、

廿六日、天晴、未斜中將來、下名明日云々、參內殿、只今參北山、信綱今日參關白殿、可申將軍宣旨事云々、叙位事聞申歟、不聞委旨、又御姓事、信綱相伴行兼、參

春日御社、可申請改姓可否云々、推之凡子賦、御名賴經云、藤氏之爲源氏、未聞事歟、此事又凶人之勸勵歟、年來氏社氏寺修彼御祈、今如此、殊背冥慮歟、俊親依義村之吹舉、爲兩國司之耳目云々、定咄追從橫謀之詞歟、可悲之世也、

廿七日、天晴、昨今剪庭前小樹、續八重櫻枝、五六日入之程參室町殿、中納言同時見參、今夜彼叙位事可被計叙之由申云々、雖參春日不可改藤氏云々、神慮本自不可有議、及沙汰愁信受之條存外事歟、又有存旨、土州可爲大將分之由示付、今夜任國司、經成、以此次父朝臣申旨等具申之、當年御給一度給哉事也、黃門云、伊賀守依寺僧正御房御命所令任也、其人備後前司季兼朝臣孫、即是殿下公達、故左府已下母儀之兄弟云々、依相國房、申公俊參議事、主上三度被仰、博陸猶經高可堪所役由申請給云々、尤可然、忠定又今度兼有其沙汰、父卿一日之中三度被申訴訟之由、仍被仰切了云々、廿八日、朝天陰、忽雷電冥晦、天如墨、須臾之間休、遲明

注送下名任人、侍從清兼、顯平刑部大輔季宗、同少輔經範、右少將藤賴經、右衛門權佐信盛、征夷大將軍賴經、正五位下賴經云々、土左守藤經成、下名任人文官十九人、武官七十四人、宮城使親長、賴隆、東大寺家光各判官等云々、雷電之後、自己時蒼天遠晴、

廿九日、晴、乙酉天晴、朝天群鳥渡天、羽音似懸、阿治村云云、京中非尋常事、可奇、下人等云、此兩三日如此云々、奉書阿彌陀經、今日甚和暖、去年所栽單紅梅僅開、入夜頭中將來、一昨日早旦參一條、先是自殿下有召、爲彼御使參關白殿、自令逢給、中先申被申之旨、夜前信綱參上之由承之、將軍元服官位事、御計可候由申入由來觸、定被聞食候歟、且可承御存知旨者、仰云、爲申此事也、叙位任官事無指申事、但官不可高之由申云々、此間事、只可隨御存知也者、歸申此由、重申給云、前右大將本位從五位上、叙正四位下、又叙從二位、是別儀歟、賴家叙從五位下、叙正五位下、任左少將、右中將、故右大臣叙從五位下、任兵衛佐、叙從上、正五位下悉叙之、

少將賴家例不吉、兵衛佐近例殊憚思給、可爲侍從之處、近代非人等、京中關東宛滿、武士定處輕忽歟、任官事本雖存不可然由、自彼官位事由申之、就之猶叙正五位下、任右近少將宜候歟、侍從又將軍兼官乎、左右只可隨御計、歸參申此由、又令出給、仰所存即如此、侍從仰似主實將軍不相應、右近少將可宜歟、此由可申沙汰者、即令參內給、參御車簾、追參內、令入御直廬給、以季宗朝臣被仰暫可候由、其後徒日臈、又及深更之後、於鬼間又蒙仰、正五位下右近少將之由被仰云々、今朝又依召參殿下、依天變事、早速可被行季御讀經、且分配由云云、且可申沙汰者、承仰退出、勝事出來、參議正四位下行右近衛權中將兼中宮權亮公賢朝臣、自剪本鳥置厨子內、不知行方去、亞相悲泣事已一定云々、是月來雖舉過分官位、內無恩顧之志、其心偏好權門富有之婚姻、禁制無緣之妻妾之餘、爲戀子息之心、出仕之計以下、全無其扶持、身上衣裝已下棄置、不足言、如此事心勞之故、月來發此心云々、禁裏近臣之中、適心操落居

云々、可悲也、年廿四、嚴父賢慮之餘、遺失一子歟、去々年任大臣時、經執柄人之家嫡、近衛大將昇進、訴超越由、懇切競望、不存國忠、剝加十大納言、議經七ヶ月塞萬人之望、辭刺闕新任之官、舉少年之夕郎、一門他門不論貴賤、八人上薦超越、自最末補之、此間自由昇進、偏以任意、是既背冥鑒歟、彼任官此珍事、只如夢、心中又察之、悲而有餘、父無憐愍之思、子忘忠孝之道、次男又去冬終命、匪直也事歟、

○二月大

一日、丙戌、天晴、入夜雨降、送消息於右武衛許、依近年之傍例、罷督加任見任事、可被出懸望哉之由勸之、返事同心、傳聞、入道參議定經卿薨云々、不知日來所勞之由、大貳當時行宇佐遷宮事、定去其職歟、罷大辨任都督、憂超越辭參議、次貳重々之不吉、不便事歟、依度々御消息、申時許參大納言殿、近日御坐大宮東、^{五辻}梅樹成林、遠望如雪、見參移漏、入夜歸廬、二日、自夜風雨、朝間如沃、午後休、天漸晴、禪尼女子

凌雨物語、七ヶ日參籠、日入之程參室町殿、見參之次仰云、來五日十六日會講、每日四座、四ヶ日大般若新寫供養、此日來被催、又延引之儀出來、爲之如何、極以不覺、忘却之所致也、此事度々及日時沙汰、空以延引、自夏及改年、正月又念劇之間、以彼御月忌可宛其日之由、又被定、已被請僧、被催人、而春日祭之月祭以前、修嚴重佛事、甚可憚、又無其例、昨日思出之、依憚思猶可被延哉由申女院了、予申云、於例不候者、神事尤可恐事歟、非指事延引已如斯、至神事月忽被遂之條、不可然候歟、此間有女院御返事、此事自去々年夢想之告重疊之上、近日猶遲引之由、殊有冥告等之中、彼御怨辭之餘、猶重可出障、定又不行歟之由、兼有其告、御堂尼御前事見給、今如此、極恐思給、只依禪尼身之私願、不顧神事遂行哉、今度延引之上、又違亂出來之條、更非可難事、極以不使之由云々、彼是進退谷由被仰、於公事者、院中以下事也、但氏后猶無例、雖執柄皆接其座、又修佛事之例、知息院殿於京極御堂有修法并大般若供養等、以此等例猶果遂哉、彼御本意極恐思者、予

申云、月來雖承御追善由、未知此子細、聖靈殊念思食

由、於其告候者、只願萬事可被遂行歟、御平生之時、雖

賢廉之御心、於火急頗以露顯、遲怠事殊被處奇怪、况

拔苦之御願、雖片時可被愈遂歟、本爲女院御願、公所

有御著座之例、雖非御所中、又有修法大般若之例、只

可被遂候歟、久御思惟、猶不可延引由、重被申女院了、

近日殊世上不靜、三星合已逼犯、元久春有此事、永春日御

社櫟木南門前若宮御前、或燒或顛臥云々、雖非其職、猶恐思之

由被仰、久申往事、移時剋退出、定經卿蘇生云々、

三日、自朝風沙惡、雪間飛、昨日物詣之長途、風雨深

泥、路人只如入水中云々、但無爲參著、

四日、曉雪降、朝間紛々、辰後漸晴、猶間飛、御室昨日

令入仁和寺給云々、自前野令御、新相公昨日拜賀、來九日申

行政之由、消息之次、下官初參并列見次第尋之、云名

家、云器量、雖可恥遼東之豕、初任之時、當世先達之所

爲非無不審、如此事相互有芳心之人也、中山內府所

作、列見次第少々注川、參議事又改、勘付少々所見次

第等、指圖謬記等送之、此、仍不出行、冬無

五日、朝陽晴、漸牙陰、月輪殿十六會講、今日以後四々

日云々、頭中將依彼御追善事、雖憚布施行香、猶可參

由詔之、召具、昏向前中納言亨、二條、吊新宰相中將事、

被出逢、悲歎之氣色可謂道理、來八日可令拜賀事、偏

以經營、其間事々等示含、廿六日、廿八日母正日、修小佛

事、早旦終其事、盡有他行事、即歸、其夜半許所從一人

不知行方逐電、至于今日不知其在所、不孝之至不及左

右、氏神之所棄置給、非歎息之限、但又無子息、心中只

可察云々、清談良久之後、又向西宮官家、參內訖云々、

中納言、云禪尼實保卿二娘、教通朝臣舊室、相謁、藏人頭朝恩、自愛之

至、又依老耄之懈、存外之疎遠之恐等陳之、亥時許歸

廬、天陰牙寒無極、未付寢之間、南方火見、京極西程

歟、以下人遣見、歸云、楊梅萬里小路之由、洛人之說

云々、

頭註今日任尊法眼於日吉供養金泥一切經、修法會、山上

衆徒悉集會、舞樂等自曉更及終日云々、

六日、朝天陰、微雨降、春日使未催出之由、今朝聞之驚奇之、昨日參月輪殿、日暮事始、座狹不著座、無詮而日滿退出云々、內府、大將殿、新中納言、賴資、二位中將、知

家卿、家光朝臣云々、今朝聞、承明門院黃門之娘、押小

路姬宮戶部、予有猶子之儀、日來密在公賢朝臣家云々、去三日

出家訖、至于其同宿本妻光親卿女、又時々猶通、大略被制、

此兩人之故云々、今朝聞、夜前火六條院新在家云々、

七日、天晴、宿雪不隱庭草、朝宗消法印送生麝、其體偏似狗、

其類細長、於鴨カヒコ者只片毛猶也、鸚歌と云鳥爲一見也、可進殿下云々、其鳥

大同鴨、色青、毛極濃柔、特如鷹而細、食柑子栗柿等云

云、喚人名由雖聞其說、當時無音、不經時刻返了、午時許

參御室、於途中雪霏々、隆毫法印僧都中山内府子、參會、寬濟

僧都入見參、良久而出御、見參以後諸覺法眼、及昏歸

廬之後地震、參宿金翅鳥動歟、今夜忠弘宅、日來依忌

方違爲本所也、

八日、天晴、天曙歸、去三日正五位下前土佐守源國基

卒云々、前日出家、今年六十一、文治之比侍中也、久見馴之、

去除夜參詣社頭、隔障子通夜之由聞之、今忽逝世、

雖世習足悲、近年依爲寬基大僧都之父、隨分之富家

也、

九日、朝天陰、已後雨降、終日不止、社參之人今日歸

來、

十日、夜雨雖休、朝天猶陰、未後天晴、午時許參大納言

殿、北邊大宮、依所勞打梨人々參入之日、尤有恐、暫見參、一

昨日御講結願、公卿十一人參云々、內大臣殿、大納言

殿、左大將殿、中納言家嗣、定高、賴資、二位中將、知家、

範宗、家時卿、家光朝臣等也、少時知家卿參入、信實朝

臣、家長朝臣等在御前、被尋頃中將、未時許參入、穿直衣、

即以清定爲講師、被讀上三首題、訖有連歌、賦何歌何

戶、自然及五十韻、乘月退出、寒氣如嚴冬、

十一日、朝天晴、雪宿屋上不隱地面、日入之後、參室町

殿、見參之後退出、頭中將來談、春日使未役、實經、實

蔭、雅繼、七度被食、可辭職中被仰、基氏、通忠、不及、雅繼有可解官之沙

汰、新補奉行人憂不便之由、申入合幕下之間、少將在其座、推而被領狀、仍參殿下、申實經可勤仕由、并雅繼冬祭可存知之由、可申歟之由申之、早可仰之由被仰、仍示其由了、卒爾之使、每事周章、大將被訪蠻相隨身之間、陪從裝束闕如、召府者中將今日沙汰給之、辨賴隆、內侍勾當、下向云々、

十二日、天晴、霜結、雜人說云、相公在所尋出、或云近江國、或云仁和寺奥云々、

十三日、天晴、遠忌事送嵯峨、請申住心房受戒、今日齋食老屈、寶篋印陀羅尼、阿彌陀經、法花經一部、及終口、前

中納言家行卿年來所被借置之無文帶、稱所勞無術由、被返送之、件帶即借送不相公了、依先日消息也、未時

心寂房來、令參軍町殿、入夜中將來、昨日爲申季御讀經定事、參內府、令出逢給、衣箱、直衣、依頻御氣心、昇座末長

押、超疊居板、依未隨神態不能參勤云々、其後以書狀催二位大納言、故隙、又催土御門、今夜可取返事云々、

明日可參社、瀧口所乘各三人召具、今夕皆悉引送馬

正、昨今人々送之、皆是大臣殿人々也、神馬一疋、又密々可給親成茂等、其外召具私共人三人、有弘、伊良、(左馬瀧口、)光兼、右馬經武者所、各儲例碗飯一具、奉幣訖後、可送風流破子、以女(如イ、桑絲、)懸子、入假筋具、料、有弘、所乘、伊良瀧口、可持向云々、可乘車由、予頻雖加詞、稱有事煩、只自宿所步行云々、淨衣騎馬、馳入其宿所、著束帶奉幣云々、威儀頗缺歟、

十四日、朝天陰、午後雨間降、未後雨嵐烈、終夜、近日前

宰相中將信將卿家之門并築垣邊、京中博奕狂者成群、儲座雙六之藝、自家內雖制敢不承引、家主觸此由於

河東、遣武士悉擄取、不洩一人、削其鼻斷二指、隆親卿

小舍人冠者在其中、惣不免一人云々、於此事者若被禁一耶先生歟、一之要事歟、涅槃講結緣物三種、送有長朝臣許、

十五日朝、雲分飛行、雨間濕、中將昨日參社無爲、雨雖

降非甚雨、親成束帶申祝、依一昨日音信不審、以有弘

問前中納言病、歸來云、聞被歸持明院由、行向之處、中

將返事云、悅承了、於入道者已待時之間、前後不覺

云々、昨日榮花、今日之悲、實如夢、今、西園寺修二月

云々、

十六日、天晴、風寒、未時許參室町殿、見參、明月前退出、家行卿十三日出家待時云々、

十七日、天晴、雜人說、家行卿已以薨去云々、入夜向右幕下亭、清季卿車在門、於車中待退出、相替而入、清談之間、聞曉鐘一聲、依無心歸廬、實宣卿參日吉、歸路鎌法勝寺地、釘拔之間、忽怒令打破之、親尊送使者、且恐警之由、以披陳之詞、示披道理之間、稱不知之由、欲出下手、只密々可被致修理由重示送、和平欲修理云々、權勢之體、頗非恒規歟、

十八日、天陰、午後微雨、午時許依預召參大納言殿、家隆卿在客亭、加其座、被待知家卿爲家朝臣之間、各遲遲、申終許參入、始連歌、百韻、置檀紙、賦何聲片何、亥始許事了歸廬、窮屈難堪、

十九日、天陰、雨濕、申時陽景晴、兵部親氏書云、左大將殿詩歌廿一日被縮云々、入夜頭中將來、今日殿下尊勝陀羅尼、申始許、依申臨時祭使事參入之間、事未訖、

中納言顯俊、定高、隆親、範宗、成長卿皆早出云々、

多向宰相入道定經卿吉田逆修經高卿一人在座、依參會取布施、不帶經笈、頭

辨持笏、殿上人次將等又不帶劔、長清、隆範、實俊、資

俊朝臣已下云々、季御讀定、他人遂不參、右大將領狀

云々、臨時祭使又欠如、宣經、實忠、顯平被催、兩次將三度固辭

殿下內々御氣色、顯平痾動、

廿日、雲往來、天晴陰、土御門殿黃門來談、相公於京刺

頭、未知其所、後朝入仁和寺與、光俊卿舍兄上野入道不被尋出、

暫在嵯峨、大納言相傳所、又被送大原、但其身猶無止住止云

云、未時許參室町殿、見參之後、大府卿參會、依風烈退

出了、

廿一日、天晴、已後陰、入夜微雨、申時許參前齋宮、

一條家主三位出逢、言談之次云、公賢相公在彼上人

宅、敦通朝臣年來與彼上人甚深知音也、仍敦通所爲

之由有人疑、恐其事已與上人違背云々、臨昏參室町

殿、見參之間漸入夜、文人遲參、歌仙先參集、爲人無心、今夜

御書所作文、出題之間、儒者多指合、又依地下之愛、申

病之輩、恐其事不參、被待藏人高長之間、良久少將雅繼朝臣被召付公卿座哉之由、密々示親房朝臣云々、仰可然哉、予申云、英雄之輩隨時儀有此事、建久之比、公定朝臣被召付、是又何事候哉、仍有恩許、戌終中納言定、參入、相次依仰各參進、二棟南面三間也、西第一間端不敷疊、中間奧端高麗、東間奧紫端端也、予依仰在奧、大將殿令出居給、烏指、直衣、紫御指貫、令出、殿東面北一間裏戶給各動座、御座定復座、諸大夫置文臺、現舊、敷講師圓座、立切燈臺、直掌燈、次自六位置時、最末少年不見知、藏人高長、束帶、侍從親季、兵部親氏、刑部少輔經範、右少將雅繼朝臣、置時退同、予吃驚、召付公卿座末、資高朝臣、孝範朝臣、大藏卿、布衣、自座中進、下官、布衣、中納言、直衣、置時之次、即押直文臺、向四、御座、取詩居坤角板、押直圓座、殿下御座中、詩師座向四也、打返文臺召講師、其詞經範、次召孝範資隆、可近參由仰之、予所案大將殿御會也、又召親氏、令重時、大藏卿進居講師良方、予依不堪在講師後疊、又示少將頗令近寄、次第講了、大府卿孝範朝臣之外無音講了、納言給御詩、重

本詩上、講了各退下、兩卿各退去、辭歌、少將同退出、予在端座上、召役人令直文臺圓座、詩八主人令取給、被置御座前、又召親氏召公卿、三位三人、家隆、知家、直衣、範宗卿、予、親氏可參由仰之、講師也、直圓座之次、頭中將可著座由殿下被仰、加奧末、束帶、次置歌、予進取歌、次第如中納言、召信實朝臣令詠歌、知家卿時々助音、其外無聲、講了予卷寄歌、置之復本座、主人令入給、動座、下簀子之後退出、未及曉鐘、雨降擁笠、

廿二日、天晴、一昨日夜、北白川院御入內云々、步儀、庇御車、件御車物見、黑漆云々、公卿殿上人爲告上臈皆在御後、新源大納言、雅、右大將、中納言家嗣、經通、具實、參議經高、隆親、三位光俊、家時、兩頭以下云々、心寂房來續梨木、自六波羅、武士、來、關東有執事云々、武州之女嫁相州嫡男、四郎、依有愛妻、光宗、頗固辭、父母懇切勸之云云、

廿三日、天晴陰、近寒、今日季御覽經定云々、午時許參室町殿、見參移漏、入夜退出、明後日相具人々、密々可

連歌由申定之、

廿四日、天晴、夜前北白川院還御本所云々、

廿五日、天晴、午時許參室町殿、未時許人々參會、相國

幕下被加此座、東面、內御出居也、定納言、予、知三品、爲家朝臣、

東帶、信實朝臣、有長、執筆、皆上結之體也、賦何草下何、

戌時許百句訖分散、宇佐遷宮去年不遂之間事、近日

以消息被問公卿、可有解謝哉、造作事今年猶難叶、何

樣可行哉云々、無府解、無官外記勘文、暗被問云々、

或人密々說、仙院入內之間之儀、御所極狹少、無進物

所、以懸外居如近代、供御膳、依御浴殿已下、要所不儲、

密々以弊車、往反冷泉御所、不知度數云々、御所中宮

御方之西面母屋、只一間、庇二間、母屋重大文疊、庇小文二行如普通、后宮

可有御對面由、宣旨局申之、忽奉渡女院姬宮御坐厚疊

大文之上、后宮奉居庇小文疊、遷給之後給云、至極之理歟、主上渡御、

同小文之上、敷菅圓座一枚云々、內女房局女院可御覽

由兼披露、每局結構、求美服懸竿、儲厨子置物具、乘燭

已下仙院步于局前、巡見之、令人宣旨局給、進贈物、

砂金云々、扈從權門黃門、紫染物一與之云々、又宣旨相具聲

大納言、可爲女院女房入立之由申之入臈中云々、世上

之儀式只如此、隆衡卿偃臥雲居寺山庄、不口入云々、

稻荷旅所神主本是自本社補之、七條村民之所補云々、自忠綱時

爲細工所沙汰補之、一度、以之爲例、自後院細工所補

之、左相府之時、耽任料每年改之、或一年二人補之云々、而今春得

替之男、其心嗽々、不拘制法、不可去職由對捍之間、自

使驅追之、追入其社內、奉抱神御體、自垂跡未遠改之、縱火燒

死、垂跡之地已爲火葬之所云々、稻荷祭可被行歟事

未定云々、宣陽門院養子姬君有入內之儀、后宮父相國

惣依不快、可被止女院執事、以後院大臣可被改庄々、

皆可改易云々、非管長門宮之怨、兼失世路之計歟、昨

是今非、世上何爲之、去比鴨前禰宜法師資綱、殺害舍兄

禰宜資賴、事一定由、稱有證據、自關東重召取禁固之間、漏

剋博士賀茂宣知緣坐、共被禁河東云々、資賴子男依爲

義村緣者之夫、被處實犯云々、

廿六日、天晴陰、此十餘日忠弘法師病又以增氣、水漿

不通、待時云々、病體如此、已涉年月之間、且雖不驚、於今度者更無憑云々、今日季御讀經始云々、自十九日禪尼始懺法、今日結願、法印被來、

廿七日、朝天陰、辰後雨降、兵部來談、來月中旬可下向關東、相州付減了云々、入道法印逐日待時云々、

廿八日、朝陽晴、漸陰、午後雨降、終夜滂沱、午時許參大納言殿、見參申承往事、申時許退出、忠倫朝臣云、一

昨日御書所作文題、仙家花柳多、春字、以中宮殿上爲其所、頭辨、直衣、師季朝臣、東帶、有教、朝詠、直衣、雅繼朝

臣、直衣、長倫、、、親長、、、經賢、、、淳高、、、著座、下薦雲客儒者群集遣戶外、殆不辨其人、連句六十

餘韻、後見之無名之句多、自遣戶外、辨官已下、勸修寺日野等少年其數云々、正光講師、成宗朝臣不參、其子文

章生連句執筆云々、

頭註文人殿上人信盛、著座、顯嗣、時高、知宗、宣實、兼綱、

廿九日、終夜今朝雨濛々、午後陽景晴、日入以前參室

町殿見參、左大將殿令參季御讀經結願云々、仰云、右將軍御讀經始參內、又忘却不指南殿上宰相、去年奇告、此事今年如、公事猶可恐事歟、今日無上薦者、又以不審、秉燭以後退出之間、大將殿令入給、雅繼少將在御共、有僧事云々、不聞委事、

卅日、凶會、天晴、午時許見僧事、大僧都六人、少十七人、律師二十人、法印九人、守靈殿之法眼十五人、法橋廿三人、

二會講師承性、同准講師論圓、天台灌頂長退、承源、宮內無所慕、而頭中將申任權律師云々、光華之餘得境

歟、未補有職人、又驚耳目歟、依時儀之無是非、施師檀之面目、尤可謂得時、未時許中將來、臨時祭又以闕如、

顯平朝臣依父僧死闕由、有申阿闍梨志之間、伴僧在江州、不知存亡、相尋之間、已有輕服之疑、實俊故領狀、

季御讀經初後出仕、稱出立由、今朝俄出、卅日穢、本自季御讀經初後出仕、稱出立由、今朝俄出、卅日穢、至極

不當著所好也下被仰云々、舞人家時卿子一人可令勸由申、定平少將、弟顯氏之外無領狀者、凡時儀難治事歟、御讀經始、右

大將、新大納言、中納言經通、國通、定高、賴資、參議經高、三位資宗、參議家光、隆親卿遲參、出居實忠、實俊、有教、實光、大將起陣、於弓場南殿、上卿忘却可傳由被

示、仍向陣之間、定高卿家光朝臣尙在陣、是示此由了、

賴資早出、行香不足、頭中將加之、堂童子時兼、知宗、

宣實、兼綱、先加出居座、仰御願趣了、御論義夜、興福

寺法印殿下御弟也、被參、仍先著座之後、藏人頭追著綱所、內

示申、先實首可被著由被命、綱所被成恐歟由申、仍被著云々、結願日、左大將殿、中納

言通方、具實、在南殿、爲候南殿被召、著陣參議伊平、經

高、隆親、盛兼、三位公長、大辨家光、兩日南殿、出居師季、實

俊、賴氏、實光、遲參、南殿雅繼、源家定、堂童子信盛、能

定、宣實、兼綱等也、出殿上戶仰度者、行香不足、頭辨

加之、御書所作文密々御覽、新大納言近參候給、殿下御坐廳中、主上時々

出御西緣御覽、供其所連句同閑食、及曉鐘、女院御入

內之間有鞠、不堪之輩皆相交、只川近習云々、

○三月小

一日、丙辰、天陰、夕雨降、午時許心寂房來語云、前右

少辨光俊出家云々、未時許前但馬守家長朝臣、相具子息兵衛尉家清來談、年十七、有好士之志之由也、日入以前退歸、

二日、天晴、午時許詣故左府後家御許、太秦、光家一日

來示事爲悅申也、謁女房兵衛退出、參南院、謁覺法眼、

御室此間御他所云々、即退出歸廬、夜宿東小屋、爲方

違也、聞曉鐘歸、

三日、朝霞隔竹樹、天晴、冷泉女房、明日下向有馬湯云

云、

四日、天晴、日入以後參室町殿、寺僧正御房參給、於

御出居見參、退出給之後、暫見參退出、有長云、一昨日

二日、宣陽門院執事被仰左大臣、前相國年來知行庄々

悉被付渡云々、巷說云、后宮不可轉、可被廢云々、罪科

何事哉、其居住家二條北、油小路西、角云々、心中可察、

但入內六月之由披露、大夫實基、權大夫盛兼、亮範輔、

權亮無其人、顯基可出仕云々、是又猶卿二品之所構

歟、法住寺法花堂頻有光、是又光華之現形歟、彼大臣

猶深有所構云々、無兼日之披露、而俄可辭大臣、爲新亞相昇遷也、今夜內府始候官奏給云々、

五日、天晴、使節被押懸宗平朝臣云々、極闕乏之人也、不得心、宗清法印消息云、弟子章清直叙法眼、雖父祖之例自愛云々、寺務以前越階面目歟、臨昏兵部來談、入夜中將自北山來、今日不出仕、將軍已下會合昨日臨時祭定、於朝餉

奉仕之、殿下令候給其後參御直廬、與信盛候御前、承仰、入

內事聞及歟之由被仰云々、昨日又有女官除目、經通卿行之、大辨將之、從三位藤成子、是尼也、宜官局叙之也、尼之名字事、關東二品北白河院之後其例如此、於

今不憚歟、入夜官奏事、其作法於事有不審、其事訖、於鬼間

又奉調殿下、數刻言談、追從閣多歟、曉鐘以後、殿下御退出、

參御共、襄御車簾退出云々、中宮當時猶無退出之氣云

云、入內事祇候人々已謳歌、此后宮大略有嘲哂之氣

歟、尤可退出給歟、臨時祭宗平已領狀、舞人三人之外、

遂不出來、

六日、天晴、今日仁王會定云々、左大臣參陣、參議平、俄

參由有消息、未時許頭中將來、安嘉門院渡御修明門院

御所、參御共、右衛門督、寄御車、後保在御共、於此家改直衣著束帶參殿、舞人少納言爲綱一人催出云々、

七日、天陰、已時許小雨降、即休、去月行南京者今月歸來、最勝金剛院御八講、脚氣殊不快、藝晴共不參、笠置事一昨日請文持來、病者入道法印猶沙汰之、出身病七

夕日許、雖渡邪氣猶更無其憑、追邪氣了云々、

八日、天猶陰、新宰相公雅消息云、可出立祭使可相訪之

由云々、近日如此事勿論之由示之了、冷泉小童來、日

入以前歸、今日俄暖氣相催、書間不著綿衣、

九日、天晴、風吹、早旦心寂房來申案內、已時許令參室

町殿、奉加灸點、歸來暫言談之後歸、武州婚姻事、四

郎相州嫡男、猶固辭、事已嗽々云々、相州子息惣非其器歟、

成出家之支度云々、依悲本妻之離別也、如公實朝臣

歟、晚陰兵部來臨、清談移漏、

十日、自朝天陰、已後少雨間降、已時許參室町殿、見參

之後、大府卿暫言談退出、大府卿之說、入內四月、立后

實爲東南院院主、賴惠可爲東大寺別當之由、以賴惠申殿下、與福寺聞之、一寺之訴依及朝大事、已以同心、拂成實本房之處、今不相觸而忽和與、不當之由憤憤、可被流罪成實賴惠之由結構云々、又或云、吉野訴訟之時、可被造藏王堂之由、蒙裁許之處、無其沙汰送年月、猶可燒高野之由相議、而勒精兵云々、前相國中宮退出無日次之由奏聞、件人執事知行庄三所被召渡、要室相傳之領、當時不相違云々、教成卿於一條相國亭、女院之狂事等披露之由有其聞、又庄二ヶ所被收公、三所可被止之由有沙汰、忠行宥恕申止一所云云、近日事偏忠行資時取權云々、內大臣依建禮門院入內之例、大臣二人可扈從由被申、又權亮無其人、次男可令元服之由被申云々、

十一日、天晴、未時許法眼來談、來十八日高雄供養導師、御室可御坐之由、北白河院懇切被奉御使、御辭退、且其由被申博陸、其事可然之由、有御返事云々、先年文覺骨張之時、北院御室御固辭云々、申時許頭中將來、左大將殿以御使被召、仍參彼殿、是鞠興歟、一昨日參

之次、依仰蹴鞠有御感言等云々、只今密々見毗沙門堂花、具實卿乘自車來之間、退隱了云々、入夜歸來、臨時祭之間事大略具了、舞人實任、侍從、顯氏、兵衛、親氏、同、光衡、中務、忠兼、侍從忠行次男、爲綱、少納言、親賴、侍從定平、朝臣弟、貞時、中務、高階忠時、兵衛、藤長繼、右衛門檢非違使、陪從有長、定高卿業扶持、家、五位親章、當代藏人、今一人闕如、猶不出來歟、可付馬部、重坏四位家定朝臣領狀、今一人當時雖催出來、四位殿上人隆範信實之外无領狀、猶催廻可申由被仰云云、公卿內大臣、二位大納言、三條大納言、左大將殿、新大納言殿、別當、權中納言、基賀、二位中將、參議公雅、隆親、盛兼等卿領狀云々、調樂三度可行由、藏人加催、近年五位舞人惣不參、內參事絕了云々、御馬御覽、御馬乘又闕如、申殿下、下薦只一人可被催遣、左大將殿行弘子男一人可被遣、又私示送久清武信等許、子息等可構遣由相語云々、上中下人々不仕、實力不及事歟、中宮十五日退出給云々、及曉鐘之程聞有火由、開戶、北隣社司之妹宅也、良風吹、周章青侍一兩雖昇屋

上、惣以無人、兵部來臨、出門見之、本自寢殿雜舍二字之外無他屋、依車宿遠不付、漸滅了、可謂冥助、算博士、衛、最前來問、火滅之間、冷泉東西雜人等適出來、新中納言賴、新宰相經、以良朝臣等有使者等、自相門預恩問、

十二日、霜凝、天晴、巳時許參相門、覺法眼來會、主人被出之間、予於閑所謁新宰相、祭使事等周章之由也、幕下又被加其座、相次主人出逢給、明後日^{十四}下向湯山事等也、未始許參東殿、又見參、及酉時歸廬、密々行毗沙門堂、乍車廻見櫻花、日入歸、

十三日、天晴、不聞世事、後聞、將軍令申給禁色事被宣下了云々、

十四日、天晴、自晝陰、入夜微雨、猷僧都來談、顯尊法印一昨日逝去云々、六十一、自去年長病、如亡送旬月、遂事切了云々、又傳聞、法橋杲云八日死去、年八十云云、以謀害妨吉富庄、後又和與、入道殿御時、依無沙汰之非據預庄務、元久之比自仙洞被召禁之次、適被停廢

此事了、猶雖有濫惡之心、依恐世上不出詞歟、長命遂有限、往年相馴者也、又可哀憐、

十五日、自夜雨濛々、終日滂沱、臨時祭甚雨、定失威儀歟、前殿仰云、今日大將可參由申了、而雨儀上薦多參歟、旁無出仕之要歟、且可觸此由者、即示送中將許、返事云、日來領狀之人、當時未變改、御參不可候歟、即申此由了、雨無聊間、抑當今御踐祚之年、恐老勤使日之外、臨時祭每度雨脚、極奇事歟、

十六日、自曉雨止、天猶陰、申時許參一條殿、爲觀音寺新所御覽御出云々、退出了、夕心寂房來、入夜令參一條殿、傳聞、南京淨惠房^{并波入道成實朝臣}、一昨日逝去云々、六十

七、治承之昔同日昇殿、^{右兵衛佐侍從}、同夜付簡、去年於石藏參會、無指持病、騎馬無煩之由言談、今聞此事、情思遺老之殘日、只拭悲淚耳、

十七日、霜結、天晴、曉心寂房歸嗟峨、未時許頭中將來、一昨日臨時祭、雨儀如例、使舞人^{十人}、土庇、陪從壁下、^{下壁下出仙花門召之}、庭座召勤之、^{頭中將來昨日臨時祭事聞之}、初獻、內藏頭、陪從時

兼、二獻、內大臣、五位殿上人顯嗣傳杯、五位藏人可傳
由有御命、仍相催之、信盛來傳之、瓶子侍從、侍從能
定、又五位藏人可取之由有命、又催之、信盛不能兩役、
時兼申不及由、仍申此由、勸盃之瓶子五位藏人不存と
など許容給、而無重命、不被重命者、惣不可有沙汰、及沙汰者、猶以體先例可被催出歟、前後相違、
陪從杯信實朝臣、三獻、三條大納言、實親、瓶子、宣實、陪
從宗明、重杯家定、雅繼、兼日各相觸、不可嫌人之由各
領狀、臨期家定父入道所勞獲麟難見放云々、雅繼有
隙、殿下御參之間申此由、仰云、隆範資俊可勤、資俊願平在御
共、陪從信盛、捧頭臺於弓場殿、信盛乍立賦之、公卿九
人、內大臣、三條大納言、新大納言、兼別當、權中納言具實、二位中將、參議公卿、隆親、盛兼、兩頭陪從宗明
取第一、其殘信盛賦之、別當不拔笏、出仙花門了拔之、
賢者父子常有此事、舞時召頭辨、舞人四人舞、陪從有長朝臣、業家
朝臣、亮清、重清、兼久藏人左府家者、付馬部出來、範昌、當代藏人、所作儀闕、五位加了、三人云々、使
蠻繪隨身著壺脛巾、舞人信時、實任、顯氏、親氏、光衡、
馬部取松明、直垂男、親賴、實雅具男云々、定、白服雜色四人、付馬口、無他從者、平賴子、當色六人、忠兼、殿下令咲給、
爲綱、高階忠時、藤永繼、檢非違使隨身帶狩胡籙、著

壺脛巾、奇異事歟、雖行本御禊陪膳頭中將、役送信盛、
中將取人形、出御最前供御笏、是一其夜后宮退出給、
御坐三條坊門、故左府亭、大納言實、中納言家嗣、公卿三人供奉御車、無啓將、父大臣猶在三條
油小路、后宮父子陣南北、頗嚴重之居所歟、昨日申時
許、使六位舞人許參、初獻、時綱、宗明、二獻、知宗、兼
綱、祭日參侍臣、隆範、信實、時綱、宗明、顯平、資俊、五位、知宗、貞時、兼綱、宣實、顯嗣、時定、宗綱、御服
前夜調進、近代無此事云々、但不足事等多、少々密々相訪、又使隨身裝束等少々助
成、裝束又借之云々、事了於御直廬、今日每事無爲之
由、有御感仰云々、
頭註捧頭於弓場賦事、永久有此例云々、近例雖雨儀、常
置長橋也、
十八日、天晴、坊城納言於西郊修善、聽聞乎由一昨日
音信、昨日一條殿御佛供養、不催外人、一身參候之由
被仰之間、予不向西郊、女房車早旦行冷泉、中將相共
可向云々、已時予參一條殿、二棟南面底立小佛臺、奉
懸來迎繪像、源心僧都迎接之本云々、左右又立短佛臺、奉懸摺佛、件
佛北政所御誕生日以後至于今日、日別時數、自令摺給、大藏卿願

文、殿下御阿彌陀經、觀音偈、大勢、品、御自筆經被

清世

安之、此間內府參給、於東面御出居御對面、予同參其

所、少時聖法印參、被始講筵、獨候座、無請僧、有諷誦

說法、又以珍重、事了予取錦被物、資季朝臣取錦裏物、

被押出御衣、卿三服衣 二重織物予又取之、資季未退 來之同也次從僧撤被物

布施、導師特別祿退出、其後暫不退出、親房卿云、大理

自刃傷之由、有世間之聞、從者背 侍云々紕彈之職如何、縱雖有

勘當者、可及自身下手哉、未曾有事歟、又或說云、依母

儀之狂事有此事云々、非心所職事歟、少時退出、入夜

心寂房來、戌終許又令參彼殿、夜深女房歸、聖法師七

夕日每日說法、今日頭中將只一人取布施云々、道觀能

立三人懺法、

十九日、自曉雨降、終日朦々、叡山法花堂三昧僧年七

被突殺了云々、世之殘運 之餘歟

廿日、天晴、午時許新相公來臨、出仕之次云 云、直衣言談自然移

漏、臨昏被還、此間又歌人下州來謁、女子等歸了云

云、

頭註 近日前大納言兼宗卿被聽本座、通具卿參長講堂八

講、機染血色、足有穴血出、不願之猶出仕云々、

廿一日、天晴、午後雨忽降、夜猶不止、午時許小婢著

帶、猷僧都護身、盛宣持 之向又修祓云々、去年殺害之鴨禰宜

資賴之子比々良木禰宜、遂補正禰宜了云々、是即關東

之吹舉也、義村之 所爲歟

廿二日、自曉天晴、申時許或遠來云、宜秋門院俄御不

例之由、於妙香院御邊承之、危急御云々、依往年事等、

極成不審、馳參室町殿、御出了云々、有長朝臣云、此未

時以後事云々、仍馳參九條殿、殿上方殊以無人、無指

事、直入臺盤所壺方、謁女房、日來御灸治爛之上、又御

齒令惱御、一昨日有御蛭飼御針等、今日可有伺伺之

處、御頭風發御、殊不快御、仍有御針許、二品卿、被參之

間、且被止蛭、未時許俄御增氣之間、有此披露、只今頗

御落居、常被渡御邪氣、今年依無此事、以御灸之際、御

邪氣得便歟云々、仍更出公卿座方、猶謁此人々、戌刻

許退出、遠路甚窮屈、

廿三日、朝霜如嚴冬、今夜寒如冬、梨桃花落盡、欸冬盛開之比、如雪之霜未見事歟、但是非凶事云々、

廿四日、自朝陰、午後甚雨、昨日仁王會、公卿經通、具實、公雅、經高、隆親卿、盛兼卿、參六條殿云々、檢校定高卿、家光朝臣、行南殿、猶御殿行香一人不足、頭中將加之云々、出居實忠、資俊、家定朝臣、南殿定平、實清、廿六日直物不可有任人云々、近代非大除目無任人、如何、四月上旬可有祭除目云々、

廿五日、終夜雨降、朝止、巳時天晴、黃昏參室町殿、頭中將參、有御鞠云々、於南面入見參、不經程令入給了、即退出、女院別事不御之由、入道兼時、語之、

廿六日、天晴、猷僧都來談之間、中將書狀云、直物俄可奉行之由被仰者、是重事也、當日事極不便歟、職事可存事雖注進、卒爾事定不調歟、依不審行向之處、已參殿下了云々、不存而早參不穩歟、仍不入門而歸了、其後無聞及事、

廿七日、自夜雨降、午後如沃、雜人說、今日稻荷神與令

入京給云々、忌礙限不嫌火葬地歟、未時許中將書狀、無別違亂、玄蕃允一人、左少將實任、左衛門尉二人、兵衛尉一人、正五位下藤家清、嘉陽門貞應二年、藤公綱、東一條當年、終日雨降、閑庭欸冬盛開、

廿八日、朝天晴、送恩狀之次、平相公返事、一昨日參陣、唯一人云々、依當日約束、何大臣氣色、雖蒙目無其詞、參議作法作不審移著奧座後、蒙一言示此事、被答忘却由、次第不足言、錯亂散々云々、進大臣前掛、取旨、復座之後取出勘文、懸紙卷取入硯宮、持揚披見、此後事不及是非、整入

文書之次、新除目召名成束、勘文、先結直成束緒、以刀切之、其後取落文等多々、忘却、更取出篋外欲差加、一通多入、殘不入、公卿給八通、更無不審事、之文見之間經時刻、奉行之間惣以無爲、一昨日奉行之時、次第等奏覽了、申文整事等委申了、執筆云、直物申文不加懸紙、被加僻事也云々、答云、加不加兩說也、及數通之時、尤可加之由存之、雅兼卿餘口之時結之、不餘之時不結之由執之云々、但彼嚴父卿奉行時加之下了、子息可疑哉、召名一司ヅ、繆見先差夾管、次摺之、改正司之外、國司

公卿給以前直之云々、抑書新除目之間、大臣白地起座、無納言、而參議只二人又可起座歟、臨時不案得、大臣參議只二人相對時、大臣退出、參議平伏在座、其例多歟、又新除目猶漏脫事等多、書年號之後、更書入小字、猶懸年號、發書也、可然也、書了、新除目叙位等又置硯右、笏置右膝下、橫置之、頭右、下左、召名申文、又座右方ニ如此置之、如山岳懸袖云々、無識少年被授重職、有限公事陵遲如此、可悲也、未時許參室町殿、仰云、八重櫻半開、逢明日盡口良辰、密々欲詠花三首如何、雖不堪申領狀、見參移漏、戌時許歸廬、昨日可入內給姬君春日詣、權大納言殿裏、四韻作文云々、清範朝臣入道、夜前入洛、老母重病云々、舊好難忘、欲音信、遠所讒言連々之由聞之、若不納受者、又何爲哉、

廿九日、晦、甲申、霜凝天晴、昨今牙寒如嚴冬、未見事也、行水之後書阿彌陀經之間、已一點許前宮內卿參室町殿之由有消息、愚歌一首不構得之間、時刻推移、未一點參入、三品早退出云々、參差、妙香院御房依有召

見參、御命云、定修蒙不請由不便、有恩免者爲本意、依不得心者、雖不親近、於被加御詞者、又非強所存由、愁答申了、二條納言同時入見參、予暫立謁、經高卿由也、大府卿又參入、兼高朝臣等雜談之後、又參御前、被披三首歌、御詠、二老、爲家朝臣、今朝、有長等也、次中納言退出、昏黑予退出、一昨日權大納言殿四韻初度作文、平宰相、大藏卿、左大辨參、在高卿不可出仕著座由、自去年申之、於簾中聞之云々、賴資卿任納言間、頭儒不可爲下薦之由、依所訴止交衆云々、是其望在納言之故歟、中將賜關白殿練云々、於事快然歟、可謂面目、件繼禪閣殊怖惜給、每年只兩三被奉云々、後日中將來談云、去廿七日、依宇佐遷宮事、可有石清水一社奉幣使、源氏納言、次官殿上四位、中將師軍已領狀、藏人佐信盛、奉行使具實卿、宣命上卿父卿催具之處、廿四日具實卿犬死、穢由示送之間、爲申此由參殿下、路次先參內、具實著直衣祇候、信盛云、承犬死穢由、今已參內、禁裏可爲穢、奉幣延引歟、具實云、犬死穢不可憚、奉幣當日御神

事也、信盛云、犬死乙丙穢、古今忌來之條勿論、早可申此由、即參殿下、於庭上具實卿申犬死由、已參內、觸穢由申之、廿七日姬君參春日給之間、殿下御神事、乍驚令出南面給、信盛取笠參南階下、申子細、於奉幣者早可延引、參內之人不可參殿下由被仰之間、盛兼卿可參彼御共、不知此事參內、與具實連座、忽聞此由、御共欲留之間、通具卿聞之、穢僻事由稱之、頭辨行向問其子細、彼卿云、通具每曉啜未醬水、件未醬水自隣家持來、一身啜之、家中他人不啖也、其所犬產子、其數三、其後其犬子死、聞死由後忌件隣家、不令通人、故一身犬產乙穢也、非犬死、而其實不聞分此子細、申犬死穢由也、我身欲詣賀茂、以之可被察之、殿下聞召此由、召泰忠被卜穢之有無、卜云、猶有穢疑、仍盛兼卿猶不參、範輔朝臣俄參御共之間、直物奉行所被仰他人也、依父子之虛言、公私之煩繁多、爲國家不當不善、不始于今事歟、件奉幣灌佛以後云々、直物之朝向左府亭、問參入剋限、被出逢、有早出之志、納言一人、相構可催出由

有命、各催之、家嗣通方卿所勞、定高卿觸穢、賴資卿灸治、經通卿神護寺供養上卿、無其人間、申時許觸申此由別當、又虛病云々、大辨直物之間、公卿給申文各兩三度、不漏一字讀上、大臣聞之處分、悉下勘八通申文、已經數剋云々、

廿七日、稻荷神與令入京給、後院所造神殿、修清祓者、不可奉遷由、社家申之、後院退絕清祓、重可被宣下由、五位出納俊基直物中間來觸、今夜不能申沙汰由答之、頭辨夜中宣下云々、

○四月大

一日、乙酉、天晴、午後漸陰、申時雨降、入夜間平座、雨以前事訖、權大納言、兼、白二條中納言、定、新宰相、經、左宰相中將、盛辨賴隆、少納言宗明、爲綱參云々、二位新大納言綱、左大辨雖被參、早出云々、祭除目十日之比可被行云々、

二日、坎日、朝雨止、天猶陰、申時又雨、二條納言依前裁約束事音信之次云、昨日參平座、陣座上卿不被起以

前、四人皆起退、宜陽殿座皆悉不動座、只守參宗明朝臣取續杓、賴隆朝臣不取、上卿有可取氣色、拔笏之後取之、上卿被召仕官人、侍從無其沙汰云々、直物之夜、執筆參議下襲、鼠喰損之云々、未曾有事歟、若有心之鼠歟、可恥哉、表相鼠之篇歟、入夜頭中將來談、昨日梅宮祭、藤宰相公雅、左中辨親長行之、辨有親爲經申所勞不出仕、少將實蔭著例束帶參內、諸人屬目云々、予推之、中宮祭陪膳之次、父子忌白重事、令參之次出來歟、兩頭五位藏人時兼猶著白重云々、信盛佐廷尉不著之、昨日帶劔用平緒具隨身參殿下云々、參議自正月雖有其闕、範輔朝臣所望由有其闕、依強望之思、于今不申此事、而六月御入內事可奉行、又可任官司由云々、然者不可任歟、但彼朝臣不被任之間、此闕可被置者、又非可懸望、依範輔不任、以三位被加任者、補頭之後、正月經高卿加任、又重被任三位者、爲職可爲向後之恥哉、仍於被任者、尤當其仁之由存之、十二廿二日被補、廿四日隨事、廿五日內侍所御神樂、廿八日荷前、元日節

會、小朝拜、踏歌舞、春日祭、季御讀經、臨時祭、卒爾直物奉行無殊遠失、非失前途之分限歟、又依堪公務暫被置之、器重專不可候、云彼云此、不背道理歟由、具示付宰相中將、抑兼帶事、勿論非身之涯分、但自土御門院御宇以來、放埒叙三位之外、頭中將任參議、不兼中將之人無一人、被補頭之時、依相國申請、被優訖、有雅信能之兼帶、無其故事歟、是又只可隨御計由申之、直物之日頗有聞食御氣色、不知當時之許否云々、壯年夕郎之職、自愛更不可有餘念、但職事之身、於事有其危、若有恩許者、八座極安堵、可謂上計歟、前官之子相並拜任、上古綱繼吉野、參議寬德實成、公成、中納言康平隆國、隆俊、中納言承元公時、實宣、參議先例如此由、先日予所相示也、賴隆朝臣又夕郎之望、逢境懇切云々、三日、朝細雨漸止、入夜又雨、心寂房來談、示合雜熟事、今夜欲違夏節、冷泉方依大白方、爲宿吉田、酉時許赴河東之間、前行使者歸云、大相國已渡給、兼不承之由、留守者申之、即歸來、宿東陰陽師宅、

四日、天晴、聞曉鐘歸來之間、雨漸休、

五日、朝天陰、午後微雨、入夜漸甚、依故入道殿下御忌

日、已一點許參月輪殿、直衣、例之有文直衣、無人寂寞、殿下自昨夜

渡御云々、謁女院、女房殿見參之間、內府令參給、此間

僧兩三口參、奉行人長朝、未參、午終許出來、僧二口猶遲

參、直衣、例之有文直衣、左大辨直衣、指實、偏如參、暫言談、未斜僧參後、

被始講筵、初座御經供養、定立、論義訖間予退出、依不

叶步行、不取御布施也、內府大將殿令著給、長朝奉行

堂童子二人座直衣、例之有文直衣、之外無人、僧定立、範信、覺通、貞

雲、公性、性經、三井寺、家、不見知凡僧二人、大貳已講、回

公、已講、諷誦、前殿下、內府、妙香院、上乘院、御子

歟、息許、凌雨不暮以前歸家、窮屈失度、

六日、終夜今朝甚雨、已時天顏忽晴、午時又雷雨、未時

晴、午時許頭中將來、灌佛領狀公卿、二位新大納言、

兩、三條大納言親、以下云々、左大將殿可令參給由、昨

日被仰由告之、一昨日禁裏於御前密々有連歌、成實朝

臣、親氏、女房之初學兩三人、廿句許云々、一薦藏人高

長催女使出車、答不持車由了、申時心寂房自嵯峨送

蛭、仍俄願邊伺之、依而上雜熱也、入夜中將來云、殿下

仰云、入內御屏風和歌事、於長保文治者勿論、其中央

猶有之歟、又無和歌之時、猶關新屏風歟、此等事無指

所見、若付歌有見及事歟、可相尋者、仰旨先畏悅申、此

事於和歌方、管見無伺見事候、但非指證據之說、只長

保之後、和歌絕無此事、被興詠之由、文治頻觸耳候、但

於屏風御調度者、大略每度新調之樣傳承之由許、可被

披露之由答之、古人之過差、必然不被用舊物歟、新調

屏風不舊和歌、定爲常例歟由、心中所存也、

七日、天晴、招請承明門黃門、令裏灌佛布施、簡略名ミ

エダスキ薄物、小單文裏、白張、薄物以胡粉、字也、きこえぬ

虫の思だにと令書、以几帳手橫竿、以黑紐結付之、其中

入蛭也、

八日、自曉甚雨如注、已一點蒼天忽晴、午時又陰、雨止

之間、令進女房布施了、未斜又蛭伺之、

九日、朝陽薄陰、已後晴、午時許頭中將來、昨日灌佛、

殿下^{御直衣}、大納言殿早參給、公卿皆遲參、及申時三條大

納言、左大將殿已下、同時多被參內云々、申事由、於小

板敷、二位新大納言雖未被參、且可被始歟由示大納言、

大納言被示可昇由、仍昇長押、被申可始由、即申事由、

仰可始由、公卿仰可催出居由、即催之、左少將資季、

、定平、實光、右少將實清著座公卿大納言、大將殿、權

大納言殿、別當著座、定高卿足有所勞由相觸、置布施

不著座退出、參議六人^{親定}之外、之中、隆親卿著座、灌佛著

座之人五人、兩頭、出居二人、^{齊季}五位信盛、六位長

繼、^{檢非違使}依日暮出居下蔭不令灌佛、少將實光置布施、

不拔笏出上戸、更經青瑛門復座云々、夕雖參女院、事

遲々、即退出了、時兼更衣以後稱病籠居、信盛昨日出

仕、日來一身出仕、大將殿、權大納言、灌佛御作法一

同、^{兩人著白重給}頭中將昨日始著染重、^{浮文}女房布施新制無

殊差別、但無錦歟、有造錦云々、今日參相國第、可參殿

下云々、晚頭五辻三位來臨、言談自然移時刻、月傾西

歸、

十日、天晴、夕兵部來談之次、最前範朝卿邊雜人等奔

走、女院御不例由稱之云々、依不審相尋、萬里小路殿

御邊全無事云々、若又宜秋門院歟、其後無聞及事、

十一日、^{凶會}天晴、未後陰、夜深雨降、

十二日、自夜甚雨、午後忽晴、須臾又雨、

十三日、夜雨止、朝天陰、已後雨間降、戌時許北方近邊

有殺害者云々、左兵衛督侍被殺了、若是妻之所爲歟云

云、下手者四人、過蓬門奔馳云々、

十四日、天晴、頭中將參詣日吉云々、新宰相音信、明後

日依入內、姬君御名字定有召云々、借送中右長秋永久、

兩記、未時許又齒飼蛭、依熱氣不休也、申時許中將來、

參詣日吉賀茂歸路之次、教雅少將於賀茂相逢、長秋記

一部相儲、可借送由約束云々、役夫工事、偏可依建久之

例由、殿下被仰云々、然者限一所何有異議哉之由、示

舍入道法師了、明後日殿下御參內、三品事宜下以後、

御拜訖御退出以後、^{左大臣}依本所告可參之由、頭辨相

示云々、

十五日、天晴、念佛之後、窮屈偃臥、

十六日、天晴、申時許雷電猛烈、雨降、中將示送云、可

被補宣陽門院院司姬君御方職事之由被仰下者、殊面

目之由、可被畏申之旨答之、未時許蛭向飼飼訖、今日事

後日間平宰相、返事狀、依催申剋許參入、於三條坊門

西洞院邊逢雷雨、寸步猶難叶、暫參中宮、過雨脚參入、

先是殿下、左府、土御門中納言被著座、有御名字定、

今朝新中納言賴
安持參勤文云々、被定長字了云々、其後人々被起座、此間

宣陽門院自開門入御、殿下寄御車、左大臣凌雨躡居庭

上、傳聞、次姬君渡御、殿下御車、前驅八人、權大納言殿、左宰

相中將扈從、令入自正門給、大納言殿被寄御車、其後

殿下御參內、新源大納言奉勅行叙品事云々、頭中將奉行、殿

下御拜賀之後御歸參、令著殿上給、次左大臣、新源大

納言、權大納言殿、土御門、通方、高倉、經通、別當、權中納

言、具實、中宮權大夫、右衛門督、左宰相中將經高著座、

件人々皆
被補院司、相府奉仰、範輔、仰之、可勘入內日時之由、便仰頭

辨云々、仰宣俊朝臣令勘申之、相府披見勘文、留座前、

次藏人持參硯紙例文等、置權中納言前、納言取例文、

永久、次第取上、先是左府以日時勘文獻殿下云々、令披

見給、即被返例文、留相府前、相府氣色權中納言、權中

納言書定文、書了下宰相、次第見下之、又取上、納言又

次第見上、左府見了獻殿下、殿下御覽返授左府、加日時

勘文莖、以頭辨被奏之、即返給被下頭辨、造始御帳日

時勘文、先之奏之、召行事右中辨賴隆朝臣給之、次殿

下令起座給、大納言殿、經高、端座、降居長押下、中宮權

大夫平伏、右衛門督同之、可爲家禮之人云々、而此禮如何之由有沙汰云々、左羽林、

左大辨動座、與、其後諸卿猶在殿上、次勅使參入、頭辨

申事由敷座、遷渡殿、藏人役之、召勅使令參著、權大納言殿令取

祿給、宣陽門院五位判官
代、宣實、傳奏之子、勅使纒頭、降自對代南階再拜、

先之、此間諸卿爲見物被起座了、女院還御、姬君同之、

今日前右少辨光俊出仕交衆、可加宮司
歟云々、何面目哉、後聞、

殿下御御倚子前、頭中將依召參小板敷、猶依御氣色昇

長押進參、仰云、藤原乃長子可叙從三位、ながしの字

也、蒙仰出陣、新源大納言、在奥座、進寄仰此由、又

問其字、如被仰示之、退歸之後、上卿移端、召大內記宣下云々、殿下類被尋仰宣下了歟由、令伺見申事訖由、

次殿下令出無名門給、令立廊內西第二間西程給、進參

蒙御氣色、歸入奏事由、帶劔把笏、還出申聞食由、歸入

於空柱方撒劔笏、賜出納、蹲居神仙門腋方、御拜舞了、

令退出給、奉送歸參、內侍本所告頭辨、參入、把笏、立中

門外、頭辨出逢、昇脊脫入妻月中、之、自內脊脫、來召、次昇外脊脫、入妻

戶自廊柱內北行、經對代南簀子著透渡殿、件渡殿三間寄西方南北行數

高麗帖一帖、其上數箇、押寄箇于北方、居其南四面、此間宣陽門院判官代宣實取祿進、

權大納言殿於對代南弘庇、指笏取祿進、於座良方賜

之、頗坐向給之、赤色唐衣地摺裳、濃袴、拔笏令退歸給

之後、祿懸左袖退立、下對代南階、在中、一許丈進西、向

乾二拜、于時雨止、庭猶濕、自庭上出中門、於屏程著脊、祿隨身取

之、不歸參內、直歸家、後聞、前右少辨光俊今日出仕隨役

之間、誤懸裾、人嘲之云々、後聞、貴人御名長子云々、

左府遮可撰此字由、示賴資卿云々、

十七日、朝天晴、土御門殿黃門自昨日俄違腰、不能動

身云々、招心寂房令見之、加灸點云々、予左手痛近日殊增、仍指上三手頸之上、一灸之、不聞世事、

十八日、天晴、奉書阿彌陀經、一卷、成茂來談、江州神領

之水訴訟、爲申殿下在京、去比清範朝臣參社之次相

逢、稱母病不審由即歸洛云々、參大原、自篠岑參社云

云、或說云、母無病、只去春聞巷說、欣悅之處無其事、

不堪不審、爲聞京中之形勢、稱母病入洛云々、月未出

之間、行入道法師宅宿方遠、四月中

十九日、癸卯、天晴、午後急雨降、雲漸漸、甚雨、小雷、病與憂

在身、辛苦而不眠、聞曉鐘一聲歸廬、雲陰月黑、小婢俄

病胸、及曙落居、朝天晴、今日除目云々、稻荷祭云々、

過夜半頭中將馳來云、只今被下任人折紙、任參議兼侍

從、以頭辨不兼中將、不可遺恨由被仰、此兩職日來懇

望之、申入之上勿論事也、自愛餘身由申了退出云々、

運之早速、更非筆端之所及、任人等大略傳聞、藏人頭

宣經、中將宗平、基氏、正四位下有敎、超隆、文章博士菅

原長貞、長倫朝臣、算博士以光、兼、給、任宮內少輔云

云、成實、宮內叙三位給紀伊國、經時重申參議人、三位中將實有、於藏人頭昇進者不競申、於被任散位者、殊訴訟由相國申給、甚保自女院不限度數被申、女院御乳人信繁母參宣旨殿局、數日居住資申新習具定事、忠定委細書狀數十枚、給恰難棄之間、還被任藏人頭歟、朝恩極忝事也、未及三十而加八座、實言語道斷事歟、隆親越上臈三人、可被叙正三位之由濫望、殿下不被聞食入、依資申雖有綸言、更不可然由令申給云々、偏不知物由之所致歟、不足言事也、兵衛尉久說舊勞、勅負財事、自宜秋門院依被仰付、被任了由、夜中以書狀申彼御所了、此事言談之間、聞鷄鳴退歸、披見曆、廿一日重日、無障、早速可被遂拜賀由加詞了、所恨者不逢最勝講五節祇園御靈會而昇進、但其事皆有事煩、所詮經頭任參議人之前途、只此事歟、年來所不借人之有文無文帶取出令持之、毛車明日運寄、可被修理由示了、眼前見公卿、愚眼之宿運不似身運、足驚奇、此間雨止月明、廿日、天晴、午後急雨即休、知音人々、少々送賀札、已時

許見聞書、文官卅八人、左將監十人、右將監九人、左門尉十人、右門尉十一人、左兵尉十人、右兵尉十一人、左馬助平邦繁、左馬允四人、右馬助藤家國、右馬允六人、加階去夜聞及之外、從四上伴氏、正五下公有、親氏、馬允伊員申左衛門尉云々、拜賀明日之由、當時經營云々、未時許雨後郭公初聲、但及十餘聲、頗無念、廿一日、乙巳、朝天陰、未後天晴、今日拜賀、每事略義、只以早速爲先參議之處、予最不吉身也、仍憚思不行向、又席門之體極見苦故、不可來臨由示合之所、示送事、有文帶螺鈿劔、兩物幕下被送、前駟二人、一人乘宜也、今一人隨其身式部大夫也、下被送、如、光行子雖父被預、現隨右召具云々、雜人可隨在車下、可參所々、殿下、大納言殿、次大相國、次前殿下、左大將殿、次北白川院、安嘉門院、內裏、次中宮、左府亭可向歟、可隨體、次宣陽門院、三位、次宜秋門院、次東一條院、幼主、十箇所猶以難堪歟、七條院依遠略云々、牛車副如形賜裝束、退紅仕丁持雨皮、入夜星躔清明、近日連々雨不降、尤欣感、

廿二日、凶會、朝天陰、申時許雨濕、夜前拜賀無爲遂了、於殿下暫昇堂上、宰相中將言談之後、參左大將殿、向透渡殿、妻戸前敷圓座掌灯、左大將殿令謁給、其後所々無指事、宜秋門院兼教申繼、女房濟々相謁云々、不向左府亭云々、今明出仕之體思煩、日來之車差綱參內、何事在哉之由答之、巳時許公猷律師來談、慶事也、次僧正被來賀、今朝送賀札於菅翰林許、返事云、

翰林者當道之所重也、累門之所經也、未覃四旬應此撰、情思先規、少其例、就中吏部翰林父子相並之條、正家、俊信朝臣、永範、光範卿之外不候、自愛無極候之處、被仰下候之間、彌添氣味候了、恐惶謹言、

午時許覺寬法眼來臨、是御使云々、存旨等畏申、廿三日、坎日、天晴、少納言爲綱來賀、未時許心寂房來、令參土御門殿、女房腰已有減云々、土佐守經成、來賀、入夜宰相北山歸路之次來臨、夜前參四辻殿、安嘉門院其後參內、退出之時、藏人高長取脂燭會釋、急可賜主殿司由相示、廿七日著陣、晦日直衣始之由、撰日次

又可向祭使出立所云々、

廿四日、天顏快霽、未後忽陰、未時許向右幕下門前、被出此山訖云々、行冷泉、又他行吉田、云々、實清朝臣來會、相逢退歸、申時許向御乳母三位家、適相謁、此間勾當內侍來會、共言談、秉燭之後歸廬、今年女使兼忠納言女云々、每年爲此三位沙汰、大略被出立云々、

廿五日、朝天陰、辰後雨降、終日滂沱、依甚雨不出蓬門、昏黑以前之程南方喧々、若使以下渡訖之間歟、一事不聞及、甚雨之上風雨加、定濕損歟、觀武澄兼廉云云、本府官人、後聞、典侍中宮使花深之後、見物人歸去渡云々、

廿六日、朝天晴、已後間陰、未時大雨、暫休、巳時許參室町殿、見參之間、海住山入道長房參、暫御對面之後、又見參、大雨之後退出、爲長卿說云、宣陽門院御不例氣、內々有御祈等云々、十六日吉事之夜、長講堂有光明、人々吉事由作稱、心中成恐、巷說不知實否、長貞朝臣殊奉公之院司也、定聞及歟、家衡卿又內々語、成恐辭年預、卿二位舉資賴、前頭、欲補資賴、固辭云々、左丞相又管領精好、彼院

過于兼日之案之間、同心結構、忠行等又有失望之氣云云、

廿七日、辛亥、朝霧似秋天、又陰、微雨灑、已後漸晴、已時許示送、著陣無爲還丁由、尤以欣感、直衣依指貫遲遲、晦日可著之、警固之料相儲浮文、於今者欲著綾薄色指貫云々、

廿八日、朝天快晴、予往年新任之時、著陣參政所、列見之後勤吉田祭、次第相應此宰相、神事十一月以前無祭、仍隨神事以前、諸公事勤否、諸家記等雖有所見、當時常說等不審、仍問平相公、返事云、神事奉行以前、奉幣使勤仕了、是先例歟、季御讀經仁王會等、有上卿者、南殿著座不憚、但無上卿者、可憚由存之、伊平卿去々年無上卿、獨著南殿之由承之、神態以前不可然由存之、連座事、佛事已下凶事無憚由存之、法勝寺卅講等隨催參入、但無上卿之參、辨氣色可仰鐘由、請益事、神態已前可憚歟、去十二日隨神態、平野、三月法勝寺尊勝陀羅尼、無上卿、可參行由蒙別催、雖參入著座不奉行之、辨

直仰鐘、始行之、如神今食毛不可憚歟、但未勘見、先例不憚由、舊記候之樣覺悟、惣有上卿事不憚歟者、傳聞、鴨祐道祐高等、昨日於河東問註、祐道有理之由、閭巷又謳歌云々、糺間被決之後被補、尤可宜歟、物忿事歟、今年祭之間、祠官不隨事、氏人等纔供奉云々、祐高日來養父之由、其事已露顯、武士彈指云々、實犯者山法師現在云々、件下手並同意者、皆召留于河東、糺間之間白狀云々、不補禰宜以前、尤可有此歟、雜人云、使少將參下御社之間顛倒云々、

廿九日、朝陽漸陰、午後微雨、入夜滂沱、已時許參室町殿、獨候御前、多申承公事間事、申時許雨降後退出、去比殿下召大貳、宇治懈怠勘發、大貳披陳、大略其理極之間、欲遣勅使事殿上人、臨時、停止了、只可構忿由被仰云云、出雲大社遲怠、國眼代夢、滿于虛空大女房、依此訴訟入京給、可訴申大神宮由示給云々、深成恐之間、家行卿薨了、所々同時造營、實以不便事歟、昨日有教少將八幡奉幣使由示送、先度延引、奉幣使被發遣歟、今日召賴次、可爲府年預由、被仰資季少將訖云々、於舊例者、少將多行此事云々、

三十日、甲寅、自夜甚雨如沃、巳時雲膚散、陽景晴、午始許行冷泉、新車出來云々、袖帽爰如唐菱、スチカヘナ方斜物見

之下同花散花、小八二筋猶打之、但物見之下二筋不打

也、未二點許著直衣、直衣色綾薄色生指貫、若鷄冠木

衣、白生乘新車、有弘相具、此事雖近代之儀、非必可具事歟依病侵力屈、

即歸廬、昨日八幡公家、奉幣訖云々、歸廬伺蛭之間、相

公又來臨、先參北白河院謁女房、參殿下、俄而御參內、

早可有退出、公卿被坐之時、不乘車由、御出之次被仰、

居地上、御出以後退出、參安嘉修明院、各女房見參、入

夜知範朝臣來臨、相逢、依舊好言談良久、前右馬頭公

廣朝臣去月廿五日出家云々、盜取兄姫爲妾、仍父卿勘當去二月伴女

產之間終命、因茲出家、本自狂人也、但笛酒繼父云々故賴範卿相傳數萬

卷文書、子息忠範去比出家之間、左大臣無故押取云

云、

○五月小

一日、乙卯、天顏快霽、未時許參一條殿、留守侍云、今

朝密々渡御北山云々、即退出、

二日、天晴、午後陰、酉時雨降、尊實僧都自去月不食所勞之由聞之、以書狀訪之、入夜宿忠弘法師宅、

三日、曉星見、朝天陰、巳後晴、鷄鳴歸廬、午時參室町

殿、見參之後相國參給、自北山爲方違即退出、騎射次將頭中

將雖送數度御教書、無其人云々、今日荒手結、少將家

定著行、明後日少將實清無上薦者、不可着之由申云

云、資季朝臣申身所勞云々、此儀者父子每有公事、必所勞定事也自今以後

近將之出仕於事不便歟、賴範卿文書事、彼卿年來知左

府家領、依有其好、先年有可付屬之間、非可驚事云々、

人々說理非不同、冷泉家中執權之女周防之母在錦小

路之屋、俄受病、但稱近臨終之由、高聲念佛云々、承源

日來祈之、去夜夜半許終命云々、

四日、天晴、未時許雜人云、承明門院女房里亭宿者、於

武藏太郎時氏邊而盜犯、家主備前內侍之從者尋常者武

士等面縛而出了云々、或又云、掌侍之姊備中前廣尼之

女、爲博奕橫謀者妻、伴夫已爲盜、因茲武士等來擄取、曾

幹多以及傷之間、伴備中母子同被面縛了云々、稱資實

卿子僧二品親王御弟子、此備中中子云々、又有稱盛兼卿兄弟子

僧云々、備中昔者濫吹之狂者也、老後過此殊歎、

五日、天晴、未時許參室町殿、見參之間、不經幾程府廳

頭久參入、次將一人八條少將、被着、仍始、事了由申之間、依

有見物之志、密行向馬場望見、已射了云々、但一人只片

舞之間也、但再出舞、不得心、此舞先々只求、予許也、若駿河舞加歟、次垂幕將北面

居物、職事相替勸盃、三獻歟、次取祿、次少將起座出幄外、

職事三人又出、少將乘車、有衛府一人褰簾、壇下、隨身

袴、蘇芳色、薄紅梅之袍也、未見色也、不知其由、見了

歸參之後、持參手結文物、結付如泥障切、是恒例也、披御覽、下堺、垂天

書之、被進大將殿御方、如本加封、其上書封字、可返給

之由被仰、中少將皆悉五六度催之、不領狀由、頭中將申

之了、依羽林之餘勢、猶出馬場、老狂之數奇歟、夜坤方

有火云々、不久滅、付寢不知、

六日、天晴、夜火、近衛油小路獄守下部男宅、群盜入打

合之間、欲擄留盜人之時、在門外盜等放火、燃揚之間

逃去、伴男負手欲終命云々、每夜之盜、是又道理歟、相

公音信久絕、連日於北山醉鄉云々、已忌奉公之道乎、

午時許適來臨、日來在北山、夜前退出、今日猶幕下招

引、又可向雲林院邊云々、身窮屈實不便事歟、通具卿

又新造居住、堀川構潺湲之間、具實卿稱勅定、入二條

大宮泉、盜取奇巖佐石云々、入夜兵部來談、今日祐道

等兄弟、又爲被召對、行河原東、頭辨同行向、祐高稱武

士之偏頗之由不向云々、雜人之說也、

七日、天陰、微雨降、午時計大風發屋、酉時大雨、即休、

辰終出京參社頭、路次雨或降或休、與中老骨窮屈殊

甚、平臥宿所、成茂馬場、秉燭以後、奉幣之後臥宿所、申時

許親成來談、近日午未時許每日如法經、自山門下給、

有供養、上下成群、

八日、天晴、朝陽出、參寶殿、宮廻歸宿所、黃昏成茂來

談、明曉依新日、吉和官出京、月入之間參寶前、即退下之後雨降、

九日、自夜微雨或休、午後甚雨、夕後如沃、待雨隙之

間、晝憚稠人、及昏黑雨殊甚、不出門戶、

十日、自曉雨止、天晴、日出之程宮廻、申時許但州家長朝臣

來談、社頭如法經、今年大原僧正御房殊取行給之間、

百箇日參籠、每日所作箇、不可闕云々、予恥稠人不交

其衆、月出後宮廻、昨日分

十一日、天晴、日入之程宮廻、歸路月明、行向家長朝臣

宿所、下野也、其妻也相共談往事、月沒歸、

十二日、天晴、

夏の夜のそれたにのこる山の端をいそさし月は

木かくれもなし

返歌家長

夏の夜のそれたに残る月よりも忘れし君は木かく

れもなし

入夜宮廻、月朧に、

十三日、坎日、朝天陰、入夜宮廻、奉幣之後雨降、夜如

沃、

十四日、夜大雨、曙大風、遲明出宿所、濱間風猛烈、於

山階漸休、後陽景見、巳時歸家、未時許相公來臨、去七

日九日參法勝寺、無他人、但不仰鐘、令辨行九日先參内、

誤脱アラシ

候馬之競馬、近臣參會、十日七條御堂御八講、初日參入、關白殿、先御坐、公卿坐

廣中之間、諸卿在殿上、左大臣、新源大納言、後來加、右大將、權大納言

殿、中納言經通、參議隆親、爲家、殿下御著座、令列行

香給、光俊卿座加、同十二日又參、定高經高、公長、光

俊、家時卿參、其日歸洛、參六條殿、供花之最中云々、

兩參内御方、最勝講廿三日始由時兼催云々、近日頭中

將人未見云々、定修注進僧名、其中公性宗源辭退云

云、

十五日、天晴陰、午後大雨洒、申後微雨下、念佛又偃

臥、窮屈如亡、

十六日、自昨日雨猶降、已後南風吹雲、雨脚北飛、傳

聞、去今年宋朝之鳥獸、充滿于華洛、唐船任意之輩、面

而渡之歟、豪家競而繁養云々、旅獒曰、犬馬非其土性

不蓄、非此土所生不蓄、以不習其用、珍禽奇獸不育于國、皆非所用、有損害、弗寶

遠物則遠人格、

十七日、朝天陰、巳時雨又降、右武衛音信之次聞及、基

保卿依不任參議、御八講之間、不出仕籠居云々、

十八日、曙後雨止、陽景不見、

未後雨風、又起雨降

前殿御不例由、

昨日傳聞、驚申、昨日加護身無爲由被仰、細河庄役夫工

運華心院修理兩方責計會、一時來如春風春水云々、

十九日、夜月雖適晴、自朝又甚雨、午時陽景見、雨降不

定、白日雖見、黑雲間晴、入夜月明星見、昨今心神極

惱、是只老屈歎、

廿日、夜雨間降、雷電、朝猶甚雨、

已後天晴

河水出云々、徒

然之餘見近衛川原、不及洪水勿論、午時許覺法眼來

談、去比關白殿以助清朝臣、宮早速可奉授灌頂給由、

自比白川院度々被仰、雖不知案內事、依頻仰加詞由令

申歟、此事大師御遺誠、五十以後可爲灌頂師云々、而

北院御時、連々御病相續、危急令及度々給之間、有種

種祈請、又被尋古老、人々被申、故院卅五御年、爲初例

令奉授給、

元曆元年歟、御弟子宮十九

此宮十七御年、又依故御室御病

急、又十九以前令奉授、

師宮年四十七、自其明年御病危急、四十九而令終給

今年御年

卅一、宮廿一、分限器量不及北院十分之一、卅五猶以

有恐、況不及彼哉、存旨只如斯、不被責仰之條、旁迷是

非由令申給云々、入夜相公來、心神惱而付寢、前後不覺之間不相逢、

廿一日、天陰、微雨間降、後又滂沱、終夜今朝服蒜、夕

定修來云、爲示論議事、向道澄僧都許之次云々、興福

東大兩寺僧綱依訴訟悉參洛、

在其中云々

又參妙香院、證誠

法印今年無相伴門弟、初日可伴之由被仰哉之由、以貞

雲申之、有仰云々、彼法印事尤可同心、以有其招引、可

爲本意之由示含了、

廿二日、終夜今朝雨降、終日如注、雲猶赴西北、明日最

勝講始、縑素定有事煩歟、

廿三日、終夜雨降、朝暫休、已後又間降、已時許行冷

泉、未三點許參內、

殿地聖文表務、縑、毛車、三位中將舊車、於御直座

右府、右大將、左大

將大納言通方、經通、參議隆親、盛兼卿云々、小舍人

注送云々、人數已多、若行香有早出之人者、可存歟、又夕

座人々早出者、可著座歟由相示即歸、未一點許定修參

內了、中童子、

二藍、紅、引へ

從僧大童子二人、妙香院悉有御

沙汰云々、牛童子牛童也、令著黃香牛、借法眼、中童子馬右武衛被借云々、隆親卿未時許著直衣、相具雜色一人、出門西行云々、不得其意、歸廬之後又甚雨、昨日同終夜不休、後聞、戌終事訖退出云々、

廿四日、朝間猶微雨、辰後休、未時陽景見、申時又大雨、巳時許能玄僧都來談、明日日吉祭馬長經營事云云、不知餘命、可隨堪之由答之、雖服薤今日精進、不聞世事、

廿五日、晨月間出、朝陽忽鮮、一日自御室給歌、付勝負早旦令進之、午時許法眼來、早速書進、被悅仰由示之、小僧昨日向兩證誠許、別當僧正出逢、有芳心之詞等云云、乘燭後相公來臨、初日可致家禮之人多、依無便宜不著殿上、徘徊御後邊著、公卿著座之後著殿上、同行香、御前人殿下、雅親卿、兩大將、權大納言、乘、其殘通方、經通、賴資、公雅、盛兼卿、家光朝臣在殿上、仍早出、朝座頭辨申事由、頭中將雖有御尋、不日之間、以辨被申、仰鐘之後、出居良久不見、不存故歟、師季資俊在弓場、實俊後題四方、師季愁爲替地下人、

先資季着了後昇、非雅繼實光云々、身裝束隨身之體各不知恥、信盛、宣實、左、顯氏、貞時、右、爲堂童子、證誠法印、殿下御隨身等前行拂人、是先例云々、宣經帶劔把笏、在渡殿、事始之後在小板敷、又不仰御願趣、頭辨仰之、夕座申事由之時、猶帶劔笏、言語道斷之儀歟、後聞、後日前中將說云、應德元年頭中將、中山、子不出居、少將基家朝臣一人候、子不帶劔候小板敷云々、第二日九條大納言、基定高卿歟、親定經高等卿參歟、不慥聞、今日二位大納言、忠、別當隆親、盛兼卿、爲家、家光朝臣、大辨一人不著御前、夕座別當退出、行時印云云、大辨著御前座、堂童子時高、兼綱、宣實、貞時、出居有教、定平、青朽葉下殿、家定、通忠、已以成人作法尋常、實清、其衣裝不似初日、頭中將昨今不帶劔、彌非可然人、教訓其身自由歟、浮文袴、頭辨自初日唐裝束、各不改云々、明日實宣、國通、賴資、公長卿、自身又領狀、結願、左內府、基嗣、實親、通方、經通、高實、經高、隆親卿、家光朝臣可參、隨不催云々、時兼今案上薦張一日催歟、

廿六日、天晴、雖手振目盲、依黃門懇切、承明門院姬宮、源氏物語之內三帖、紅葉賀、未通女、藤裏葉、書進

之、自冷泉送寒氷、今年初見之、予本自好之如良藥、昨今暑熱已如盛夏、入夜見物雜人等云、今日公卿前大納言、實、中納言國通、定高、具實、賴資、著座、參議親定、爲家、夕座著大納言辨定高卿早出、出居實俊、有教、定平、實光、實任云云、實清夕座替父著座云々、未審有如此歟、堂童子左賴行、顯嗣、右知宗、能定、

廿七日、天晴、最勝講日々所作僧名、

證義者、前權僧正範圓、法印聖覺、法印權大僧都實信、

初日、朝座講師實信、問者證慶、讀師尋乘、唄

審範、散花定兼、咒願範圓、三禮定親、

暮座講師隆譽、問者尋乘、讀師證慶、唄圓憲、

散花經承、

第二日、朝座講師公緣、問者審範、讀師圓憲、

唄證慶、散花光性、

暮座講師親緣、問者道喜、讀師審範、唄尋乘、

散花實緣、

第三日、朝座講師宣舜、問者定兼、讀師道喜、唄圓憲、散花定修、

夕座講師雲快、問者圓憲、讀師定兼、唄道喜、

散花經承、

第四日、朝座講師覺經、問者經承、讀師光性、

唄尋乘、散花實緣、

夕座講師璋圓、問者光性、讀師經承、唄證慶、

散花定修、

結願日、朝座講師範實、問者實緣、讀師定修、

唄道喜、散花光性、

夕座講師定親、問者定修、讀師實緣、唄審範、

散花定兼、咒願範圓、三禮定親、

惣在廳、公文從儀師、

午時許心寂房來、霖雨之間在嵯峨云々、言談之次云、

中將入道公棟、嫁新妻獨步云々、時房朝臣子次郎入道

之舊妾也、彼等妻妾皆雖參商、分與所領之間猶有其力、本妻常海之女、又不離別、

猶相兼歟、近日卿亦在嵯峨、朱雀堂二七日云々、是依

清範在京、不知入內事之由表之歟、其南地賜道令作宅、是又爲陰居披露歟、道繼者能茂之父也、乘燭之程相公乍立來、幕下被向吉田泉、歸路之次云々、即歸後定修來、暗然之後不舉燈、賜祿諸卿探之云々、論義憑道澄之處、腹黑歟、定親所答如流、甚以後悔云々、但所存欲重難之處、結座物忤、被仰鐘云々、異樣事歟、朝座範實不能取條、甚不便云々、但實緣所問論義、出弓場之後、人々尋問、問者重難相論、名譽之璋圓已下、無得心者云々、定是各非器之故歟、有僧事、眞惠任僧正、自餘不聞及、今度妙香院御深恩不知所謝、但非後々可期事、明年又內府禪師可參給聽衆、明後年講師請定被申歟、其後又去年以前所參之雜人可競望、旁非貧僧之所期、唯不經道補僧綱之一分、先後以六月會題者、可爲先途之由、今夜陳之、適穩便之案歟、可然之由答了、明日參妙香院可歸、蝸廬甚近隣、故法印之舊跡逐日荒廢、留守僧等病惱、時行、怖畏無極云々、

廿八日、天晴、僧事、

大僧正圓忠、

僧正圓基、權僧正眞惠、大僧正道尊罷所兼任之、

權少僧都淨眞、晴圓、圓寬、隆盛、

權律師印圓、中宮御祈所功、豪圓、房金、乘覺、昌快、

良承、

法印行寬、教嚴、珍譽、

法眼最尊、懷賢、功、覺宴、重慶、功、隆快、

法橋理心、靜寂、昇イ圓寬、

五月廿七日、威儀師宣經、

乘燭以後、宿入道冷泉小屋、依滿十五日也、

廿九日、癸未、自曉雨降、時々雖休、終日不止、聞曉鐘歸

蓮屋之後、雨忽降、今日無暑熱、平相公音信之次、一昨

日公卿分配、一上被行、大辨執筆、依無他人、被召著與

座、爲傳文但三條大納言、實、追被加著、參議作法驚目、

每勤役皆以言語道斷云々、爲末代公事滅亡、受生大辨

歟、可悲代也、今日止薤、心神更不復例、

○六月大

一日、甲申、夜雨漸止、朝天間陰、未時許大雨忽降、夕晴、亥時許又大雨如沃、終夜電光照耀、

二日、遲明雨止、未時許大雨如沃、又止、臨昏又雷電、河水溢之由聞之、出鷹司末見之、先是水已落云々、中島并岸草等皆顯、無指事、但於下邊者不往還云々、偃子狂言云、霖雨是廢后之淚云々、夕後雷電猛烈、大雨如沃、匪直也事歟、戌終剋雷聲止、雨終夜降、

三日、遲明大雨如飛礫、路頭門庭皆如河、辰巳時許大雨殊甚、諸水流溢、蓬門庭上偏如池、草樹皆如菰蒲、午時雖雨僅止、水更不略、今夜又降、定及寢所歟、此地低濕、無水門、逢此時尤失計歟、及酉時夕陽晴、而東南猶雲暗、夜深又雨降、雜人說云、來八日前大納言實宣卿執左宰相中、云々、權勢與權勢、尤有其理、但奉養經營入內之人、同月之嫁娶、頗無先蹤歟、此大納言在世之間、所歷甚多、但少年之時、最初爲基宗被者執之狂女也、弃之、爲外祖後妻之雄盛卿女、今爲左右殿、宜旨(三位)家中云々、其後壯年正四位下、四位中、爲關東時政、國通卿、臣、弟也、以家地與卿二品、越上藤四人

補藏人頭、任參議、歷大理職、昇納言、預分憂、豐後、又迎阿波三郎平時、稱忠綱相副向、依其事頗似忽緒、背散

慮、被改定、喪其妻之後、又迎二品所養之小女、有雅、爲

若妻、更兼左衛門督之間、遇承久之亂世、周章即時逐

若妻、即爲新主御乳母施其威、而加亞相之刺、預兩國

之溫潤、罷官所舉之嫡男、今又成婚姻、實是天下第一之賢

慮歟、可貴、予遇末代而依見此兩人、國通、遂不辭齊之婚

始終之吉憲、似至恩之父哉、自愛而不悔、忠弘法師一昨

日參詣日吉、臨夕歸來云々、湖水溢而不人通、雖通山路、

山階細流皆爲大河、不及渡、披山自一切經谷入京云々、

四日、自夜雨猶降、朝僅休、又降、臨昏暫止、雲猶赴西

北、水又如昨日、築垣之中地窪一尺餘許、不能通水門、

以下人汲潦水、令擲垣外南地、件地高、其水、仍不堪昇、今

夜適雨不降、夜深眠覺、不下、乍臥望見、南方有火、光明

遠照近邊間、而無人聲、不出臥內、而又付寢、每眠覺、

此光明更不滅、已及三時、疑是可燃御願寺歟、其程當

蓮華心院最勝光院、鷄鳴以後以下人尋冷泉邊、天明歸

來云、未知何所云々、

五日、朝天猶陰、時々猶少雨、申後漸密、終夜雨、昨日大納言殿和歌并連歌、家隆卿以下入興云々、下人說、夜火果而是最勝光院云々、予雖非可緣之身、幼稚之昔、眼前見彼草創之時、築壇被引地、雖未出仕、耳聞供養嚴重之儀、爾來繼體守文君、雖寶祚相傳、只有權勢近臣之貪、寺領無一分之修理、佛聖燈油斷絕、布施用途滅亡、齋堂粉閣、逐年月爲埃塵、只青苔砌上、有春花施艶、五十四年之後、眼前見化煙之光、悲歎填膺、獨嗚咽、土木之壯麗、莊嚴之華美、天下第一之佛閣也、惜而可惜、悲而可悲、已矣云々、遣青侍宗弘、令見彼御堂、未時歸來、南西之諸門并半作破壞、塔不燒、預承仕等悲泣之外、人不見云々、面々述懷、佛供燈明斷絕、諸庄兵士一人不參、夜半許御堂火付之由有告者、驚出而見之、五六人許奔出、一兩承仕、寧及是非哉、佛像已下不及奉取出云々、今熊野依程近、雜人等群參滅得云々、六日、夜雨雖不止、朝後漸休、辰後又微雨、或人云、三

位長季卿謀害、任僧綱事露顯、被處恐懼云々、後聞、件卿所知行大和社依破壞、賜造作之功、件功雖召付無其人、適不被先任者、不可濟之由有申者、所給之成功、先爲令究濟、雜掌等計略歟由陳申云々、頗無故實、但以長季自筆、某權律師事、僧事之時必可被任、且可存知由、可令下知給、右衛門權佐信盛奉、謹上、藤三位殿書、此狀被尋之處、綱所取進此狀云々、但流罪贖銅不便之由、被宥恕而恐懼云々、事趣不似源卿等謀計歟、只是至愚之所致也、侍從親行出家云々、與父卿違背、狂事之由有聞、或云、爲強盜入父家、青侍掇得見之家督也云云、又是依通其妹、與父違背由有說云々、

七日、自朝天晴、今日見陽景、已時許洗白髮之間、經國宿禰來、不能梳髮、沐浴以後相逢、最勝光院預法師武士糾問、已承伏云々、聞相公腹病發由、酉時許行冷泉、今日無殊事、御入內已有催、來十九日三位殿可有御入內、可令扈從給者、依宣陽門院令旨範輔奉云々、領狀了者、予云、其間尤輕役、一事可勤仕歟、答云、調備有

行脫力

煩、只如桑糸、欲送宰相中將許者、日沒之後歸了、所々築垣無全、家破壞、

八日、天晴、日入之後兵部來談、今夜羽林相公嫁娶云

云、近衛宮小路、東家祖母居住、與侍同宿云々、日來修理、

九日、天晴陰、午後晴、隆範朝臣相具子息少納言來談、

參安嘉門院、又可參內、御入內、依催領狀云々、又安嘉門院御方馬

少納言騎之、

十日、天晴、午時許法師被來、談世間事等、中將入道公

棟、新妻本目大欽、列座于衆中孟明、其比セトノ、無程離別、又公法橋定圓閣梨、公棟朝臣其妻列座云々、

性僧都、圓實法、第三郎、念佛宗、先年入松殿春日御愛物、局被搦、僧

又爲新夫云々、セトノ法橋依資經卿宇佐之功、已叙法

眼云々、公保卿子也、少將實經朝臣年五十八、參列女御入之誤脱ア窈窕

爲識之可行、左少辨親俊與大貳資經、女離別、其女、是又顯

俊卿教訓歟、當世之賢者所存皆如此、洪水日自祇園、橋過之云々、中將

入道實時、奔年來同宿尼、聖光法印、與白拍子同宿、共騎馬、

向最勝光院炎上云々、未斜相公示送云々、爲訪病信實

朝臣、範綱前掌司、來臨之間、遣告經國欲始連歌、家研來哉、

迂馬、經國不對重服者、仍止之、依聽聞之志馳向、良久而

經國來、先是長信朝臣來、相議迎好士禪尼、在光時家、不經程來臨、南

面一間、下格、中障子、懸引物爲其座、於東面作泉方始之、

于時酉始歟、賦物了行之、自然入興、在座、不覺悟時刻

之移、好士等不起座、有五十句云々、予不知賦物、不能

御入送禪尼之後初方等送出、長信早速起座、有公事云々、康茂替執筆、

予歸廬、不食無力之身、入興忘窮屈、歸來之後前後不

覺、只水飯許食之辛苦、鷄鳴之後付寢、阿闍梨來、明曉

登山、依無食物月來在京、旁依失便宜、不顧餓死思立

由稱云々、

十一日、天晴、遲明定修登山云々、定首陽山歟、後聞、

一昨日九日、天文博士安陪廣俊逝去、病溫、脚氣入、

十二日、天晴、臨昏相公來臨、參一條之次、明曉右幕下被參籠

春日、昨日藏人佐信盛來談、夕雀耶之、好云々、明日行幸供奉、左

大將殿、左宰相中將、公長、成實、資宗等卿云々、今夜

供奉人々所爲頗不同、馬副二人取松明前行、二人張

口、可用此儀之由示定了、信盛說、時兼書下長季恐懼

之狀、從三位藤原朝臣長季詐令任權律師、宜恐申由云云、此狀詐任宥者、其罪卿及流刑贖銅歟、已被宥恐懼、

唯可恐申之詞可足歟、不審之由語云々、尤可然、頭中

將華族之氣非例人、御教書狀、馬長可被騎進者云々、

人々少々^{不知其人}、馬長依有故障、難騎進之狀如件、^{此語文等出來}

近日乘口云々、長季所爲、先々謀書之輩、成嘲弄之詞、

更不存身上事云々、近代職事辨官、度々有此事云々、

^{右珠中樞右中有其事}、彼卿依無緣恐懼而已、其實卿父子借右幕下

馬副裝束、祭使供取伏組、改結其後、不被取寄云々、件

人行召仰、不可供奉云々、近年自儒卿資實、此事出來、

^{公實卿又好之}、新任弱冠不足言事歟、貫首在小板敷之時、諸司

悉往反無名門、主殿司又取平物、不傳藏人直授之、如

此等事止之訖、當時英雄、皆以復新儀云々、昇進之後、

出納等常入來、^{有奸之由歟}、雖不堪事、連歌猶有餘興、來十六

日猶可被招彼人々之由相示、徒然之餘老狂歟、

十三日、朝天陰、雨間濕、已後甚雨、及乘燭雨止、月見、

今夜依祇園御靈會、行幸四條壬生嘉陽門院御所云々、

辰時許道澄僧都來談、^{著法}、土亞相^{一鐵萬里小路}、室^{武藏守泰時孫}、爲父

義村朝臣、每年修八講、去年請顯尊隆圓聖覺等證義者

已下、今年圓經已下八口云々、東大寺東南院事、親王

雖令去給、於定親者奇恠不可補之由、女院有御憤、成

寶依別當懇望、公家又可然由、有御存知歟、而興福寺衆

徒、成寶賴惠可被流罪之由、猶頻申之間、事未切云々、其

上又東大寺之中華嚴院、村上御願華嚴宗之本寺也、件

領山城膳司、云所、興福寺領袖依論界、還可停廢一座

之由、興福寺衆徒蜂起、兩方訴申此事、任道理、度々雖

被下長者宣、興福寺更不承引噉々、依如此事久在京、

難堪由語之、定修所作甚神妙、他宗僧徒褒譽由等語之、

若是響應之詞歟、末代僧俗、貴賤上下、唯貪欲之外無

他心歟、諸苦所因可謂道理、萬事之破滅只在斯事、不

限愚老之沉淪歟、黃昏雨漸休、依供奉行幸之由行冷

泉、宰相已參內訖云々、馬舍人馬副等未參、^{馬副裝束并馬茶毛左等}

^{相中將供進之}、不經程出門、二條堀川邊雜人等云、幸路可爲三

條云々、尋問不詳、慙向三條猪隈邊、經時刻御乳母三

位車過了、是近代定事也、但侍二人打梨、猶良久而車少々行過、若不騎馬

供奉人歟、少時先陣進來、左兵衛佐顯氏親氏云々、

依時不見分其體、此中有還前者不待心、少納言宗明歟、左大辨、二人取松明、馬侍

從宰相、同前、宮內、同、伯、同、此人無其間、伯卿馬後又

如相較、近將等渡來、近年不見知人、尋問中將宗平、

、少將家定、盛清、賴氏、實隆、次御與、後陣頭中

將、宣經、宰相中將、盛清、賴氏、實隆、次御與、後陣頭中

信盛、行經、威儀、二町許中絕、有松明光、猶不退歸之間、

賢所渡御、驚恐又縱牛、車中極無傾宜、前陣無人、後陣少將實

任、職事時衆云々、十五、此後歸了、權中納言具實卿行

召仰列立、而不供奉云々、近年宿老人不當歟、公長卿

又列立、乘車大中納言十九人、參議五人邂逅、行幸無

人、不便歟、就中左右衛府督四人檢非違使別當、不供奉、任意

事歟、今曉右大將參籠春日社七箇云々、

十四日、天晴陰、雨不降、未後又雨、入夜甚、宰相今夜

不供奉行幸、參向北山云々、是又世間之儀歟、近日其

厩無馬一疋、恩意之所不及也、入夜宿忠弘宅、方違、後

聞、昨日慶忠僧都逝去、龍體遺物也、今年九十五云々、

十五日、朝間猶微雨、天明之後歸廬、後聞、祇園使中

務、家時宣命上卿新中納言頭中將奉行、念佛奉書阿彌

陀經、依無力平臥、

十六日、天晴、已一點許行冷泉、依數奇也先是信實、來、

相公暫言談、行幸實清爲左將上臈、仍數名謁事、其後

家定參、入御御所、列立如恒、公長參云々家定留階下、撤御

輿訖之間、宰相中將未復列以前、進來問名謁、公長已

下三人稱籍、參議不稱、家定退歸名謁如何之由示之、

早速候歟之由答之、奔出了、其後中將復列了、鈴奏之

後、中將猶可稱之由示合之間、又六人名謁云々、左道

事歟、頭中將存華族之由、表白寢之間、殿邊頗有其沙

汰、近則、公氏、通方唯如他人、其身所異彼等哉云々、

賴隆可嘗之由相議、範輔、今夜初言談由稱云々、入

內扈從公卿、二位兩大納言、基房、新源、雅親、三條、實親

參十四日行幸、病增之由披露、借其車不參、日來車隆親卿召定云々、中納言家良成超越之怨不

領狀、其後參殿、申難供奉子細等、御返事扈從人有十八

九人云々、事不可闕云々、不具事等可構參之由、可蒙
仰歟之由存之處、被仰旨存外有恐由相示退出、雖他所
出仕無之、於此事者可相伴歟、無益之由、內々被仰云
云、通方領狀、實基、國通、所勞不任心之身也、有定高、具實、
賴資、參議七人、經通構得者可參、公雅、進出車、不可出
車通具、定通、家嗣、經通、公雅、盛兼、隆親、成長、三位
被仰今一人忘却、三位不被催、不可然事歟、徒賜位記、更成實
獻實宣卿車、宣卿、當日御小使左中將宗平、
無一人云々、通時去冬、被補頭之後、老親居、師季、其體安勢被下、實忠、其日出仕云々、
露順日、頭中將、先例諸院殿上人地下皆被催之間、借馬
鞍衛府具之人千萬、今日猶書札多到來、一夜行幸殿
下、大納言以異樣密々御覺、三條予在其西一町、不出
堀川東、可謂冥加、少時覺法眼經國宿禰等來會、始連
歌、賦形此賦物極強、日入以前終百、客人退歸、休息之
後、入夜歸、天陰月暗、今日殊暑熱難堪、
十七日、天晴、扈從公卿山事猶還不審、予示合平宰相、
返事云、車副平禮未思得、儀事文治兼光定長卿垂之云

云、故入道左府實房、說必可垂云々、仍存其儀、雜色平
禮垂尻上結由存之、二人取松明前行、車後如何不審、
賴資卿又示合存此儀云々、唯可隨傍輩相同之儀由、以
之示送、二條納言今夕又示合之、坊城納言又被問宰相
云々、文治之按察之儀不分明歟、炎暑如燃、
十八日、天晴、夕西北方雷電、暑熱如燃、構扶奉書阿彌
陀經之間、右衛門大夫俊輔來臨、聊有示告事、志深庄事、可傳後家
尼上事、實付書狀了、明日雜色平禮、於車副者、可爲立烏
帽子之由、相公示之、
十九日、壬寅天晴、未時許雷電鳴、一聲猛烈、雨不降、
申時止、心寂房來談、平相公消息、車副殿下御車副立
烏帽子云々、可守上抑可夾尻歟、可垂歟、唯可隨人々儀
由答之、暑熱如焦、定納言書狀又如此答同旨、希代嚴
重之儀、有見物之志、先欲行冷泉、暑氣如火飛、心神忽
違例、不能起揚、申時許家中青女左衛門佐俄振出、開
口不言、又大唉、又如啼如吠、又吹火、如此狂之間、以
男令負、遣垣東宿所了、其後猶無言語而狂云々、極爲

奇、酉時禪尼女房等行冷泉、入夜心神更不尋常、遣青侍等可見物之由示令、月雖出暑熱猶不宜、終夜辛苦如晝、

廿日、朝天雖陰、蒼天間見、巳時雨灑、天又晴、午後天

晴、鷄鳴見物車歸來、青侍等天曙歸來、大炊御門、堀川見物、宰相示

送、去夜殿下以下公卿十九人殿上人五十人許供奉、所

所薰物使、七條院左衛門佐信時、祿中宮權大夫伊平卿取之、北白川

院、薰物、右中將實忠、祿平宰相經高、安嘉門院左少將俊

保、祿右衛門督隆親、御書使右中將宗平、一獻實忠、、二

獻中納言通方卿、三獻新源大納言雅親卿、鷄鳴後於二

條堀川各下車、公卿著座之間天明、末座依無所役退

出、左衛門尉伊員所見之說注送之、

先殿上人、次前驅、御車、後騎、

頭、童二人、雜色七人、出車十兩、單重雖薄女房持扇平頗亮、仍麤半如上之由見物者稱之、今案半上獻、見師時

殿下、前近八人、御車簾、上、車副、立烏、雜色、平禮、上結、

左大臣、前近八人、衛府長國文、簾、垂、車副、立烏、雜色、立烏、上結、

二位大納言、簾、上、車副、立烏、雜色、二人、下結、

新源大納言、雅、簾、垂、車副、平禮、雜色、七人、下結、

權大納言、簾、上、車副、立烏、雜色、三人、平禮、

土御門中、簾、垂、車副、立、平禮、四人、下結、

別當、隨身看長火長等前行、簾、垂、車副、立、平禮、二人、上結、

坊城中、國、簾、垂、車副、立、平禮、五人、上結、

二條中、定、簾、垂、車副、立、平禮、六人、上結、

權中納言、具、簾、垂、車副、立、平禮、八人、下結、

新中納言、賴、垂、立、平禮、六人、上結、

二位宰相、親、垂、平禮、同、三人、上結、

中宮權大夫、隨身頗見苦、垂、立、平禮、一人、上結、

平宰相、每物美、垂、立、平禮、九人、上結、

右衛門督、垂、平禮、同、五人、上結、

左宰相中將、自同路參會、依仰不供奉、垂、立、平禮、上結、

侍從宰相、垂、立、平禮、上結、

左大辨、車副等不尋常、如匹夫云々、垂、立、平禮、上結、

此相公乘黃牛、(相國御牛)猶不可然、事歟、晴時不用黃毛云々、近代用之歟、

供奉人後聞之、宣經、將、頭中隆範、前、越淳高卿、刑部師

季、左中實忠、將、右中顯平、將、左中顯平、內藏宗平、將、左中有教、右

將、家季、前越信實、後、前越經賢、兵部經行、前兵時綱、大膳資

季、左少親長、將、左中資俊、將、左少定平、將、左少有資、將、左少家定、左

將、賴隆、右中宗明、言、少納有親、權右中辨時兼、藏人光俊、右

辨、信盛、藏人右衛伊成、侍從俊保、將、右少隆盛、將、右少親保、侍

從、長朝、前大實光、將、左少時高、為範、右少隆宣、左馬信時、左

門、範朝、治部大輔光氏、光親顯嗣、右兵光衡、中務大、宗務

佐、通忠、右少親氏、左兵賴行、侍從為繼、中務能定、侍

從、實清、左少為綱、言、少納宗綱、伊忠、侍從兼綱、宣實、氏

通、侍、藏人、二人夜前一獻頭辨、二獻二位宰相、親定不

廿一日、天晴、去夜聊涼、右大將昨日被歸洛云々、宰相

示送、昨日殿下、新源大納言、雅、權大納言殿、大炊御門

中納言、家嗣、權中納言、具實、新中納言、賴資、平宰相、右

衛門督、左宰相中將、盛兼、侍從宰相、兩貫首依召著座、

一獻頭中將、乍折敷取盃參進、人々先過殿下御座之間、

仰云、是勸盃歟、獻盃歟、如何、跪申云、範朝可持參之

由申、此詞殊不便歟、經高卿仰云、折敷不可然歟、就此仰折

敷ヲ入膝下破之、人々云、破次勸盃取杓、瓶子藏人、二獻

左宰相中將、忘不取杓、殿下瓶子光氏、三獻新中納言、取

杓、瓶子時高、汁物下膳議申上、今日又參內、彼御方之

儀大略同、年來又破露臺、如最初南壺弘云々、露顯來

月朔日、

廿二日、天晴、暑熱難堪、右衛門大夫俊賢又來、先日示

屋事、已沙汰取丁之由告之、雖不可知事、答神妙之由、

昏黑宰相來、參吉田泉、相國渡御、大將三條昨日殿下、權大

納言殿、通方、具實、伊平、經高、隆親、盛兼卿、四位宰

相二人、兩貫首令著座、公卿座餘、未座者殿上人座、有執事、伊

立、二箇日如是云々、此事先々予平隆親等初日立賓、經高不立、此宰相不

未見及、經高卿之有所了見歟、一獻頭辨、二獻左大辨、座下

氏、殿下御盃傳通方卿云々、擬大納言殿、三箇日之間

光俊、前右頻出仕、高聲言咲云々、去比頭辨右中辨等、內

內各沙汰之後、頭中將之禮節進退頗普通、不致無禮云

云、此間伊平宗光僕從隨身如匹夫、近習等又隨身多著舊物、

昨日爲相國御使、北白川院三局、殿下三箇所御入內無爲感悅之由被申、御返事又被悅仰云々、三箇日女房押出候車裝束歟、蘇芳張單重、明日雖無指事、可束帶出仕、來廿六日可參蓮華心院、御忌日之由予詔之、無催云々、七條院御不食危急御云云、同可參由、相示太奏、

廿三日、朝天陰、未後雷鳴急雨、前夜暑氣又殊難堪、今朝又同、未時許心寂房來、冷泉若^{君脫力}大夫、目有熱氣由聞驚

之間、令恐向、臨昏歸云、事頗不輕、療治又進退谷、但如今案示申了者、彼女房等惣不信如此事、仍以盛宣、

子細委可達相公^{又在吉田}、由示了、三位中將入道通平、病逐

日增、在桂山庄云々、入夜宰相來、前右中將忠嗣^{爲細恐扶持}、

品家人、令檢知其住所之處、甲冑弓箭以下打松等、其具足多儲之、二品喚寄剃頭、送入于高野了、衣食事猶可

扶持云々、六條朱雀男女二人、有被切頸死人云々、是即侍從親行也、依惡行父卿令切之由、人以披露也云々、老

後不祥、又狂氣歟、宿運可悲、息女又姉妹由云々、

廿四日、陽景或晴或陰、急雨間降、雷電頻發聲、山上東塔橫川猶欲企圖諍云々、江州所領境相論之上云々、

下人等說云、切頸者不及有疑、親行并基忠卿妻、^{七條院高倉局}、

先年付親行、逝去本夫家之女子云々、曝屍于路頭、見物者成市云々、抑雖惡逆之所行、帶官位爲雲客者、

非武士之家、斬罪可然哉、京中所行、旁可謂不可思議、路人不見忍、而折朽木被覆其女陰云々、末代之令然、

世上之恥歟、又々雜人說、大略同出家、白晝門前令切之、令引弄不陰忍、各爲尼法師形、後聞、伴姉同出家、

在長樂寺、父觸本寺僧搦寄之、即青侍等夜陰於家中斬之、不及深更取弄之間、隣下人等多見之、只本性不覺之至云々、

廿五日、天晴、午後乍晴雷鳴、未時急雨、雷鳴一聲、猛烈雨止、人云、入道帥定輔卿息女^{承久禁中別當}、逝亡云々、能

彈琴云々、雷鳴一聲、如墮頭上、後聞、叡山水飲之上落、蹴殺小法師一人云々、申時許又一聲、

廿六日、天晴、南風頻扇、未時許異方雖暗無雷雨、而雲

晴、八條院御忌日、厩相公、示可參蓮華心院之由、已時

許法眼來一條御使之次、談、女院月來御不食之上、三四日御腹

病頗有御減、殊事不御、宮高野御物詣必定朔、奉送可歸京者、

廿七日、天晴、申時許雷鳴微々、相公昨參七條院、殊事不御、

女房、蓮華心院光盛卿、長清、隆範、等、知宗奉行、參

御堂、於西面入見參、法眼先相還、女房行冷泉、夕歸、雜人說縱橫、雅行

卿武士等成憤之由等云々、後聞、盛兼卿說云々、實事歟、又殿下被停恩

給之所領、不知實否、又云、本自無恩給

廿八日、天晴、已後陰雨灑、不濕地、入夜雨降、

廿九日、坎日、終夜今朝雨灑々、午後止、天猶陰、入夜

晴、巷說源三品出家云々、又不知實否、

卅日、癸丑、天晴、法印被來、山上猶不靜云々、酉時許

修板、兼宜、陪膳、自今朝受病俄惱亂、頭痛腹張、支節苦

痛、

○七月大

一日、寅甲、水危、朝天陰、辰時雨降、午後雨止、酉時又降、早

旦法印被來、昨日內々令遠藤下事也、今日御露顯、女御宣旨云々、入

夜相公來、午刻許參內、毛車、依下薦不着座、仁壽殿代

代今度皆浮線綾末退云々、東南有押出、蘇芳單重紅引倍木女郎花表襲二藍唐衣、

文告、殿下、左大臣、二位大納言、忠、新源大納言、雅、權

大納言殿、兼、土御門中納言、通、坊城中納言、國、新中

納言、賴、平宰相、左大辨、在公卿座、內府自御殿方被來加此

座、殿下御坐簾中、招入左府官、頭中將令持御書於小舍人參、

不帶、立恭禮門良方庭、頭排下逢昇申事由、南西東一間、公卿座奧座西也、

開格子遣戶、次敷座、小文高座、其上加茵、馬助家邦、豐前守能範、建保殿下御覽也、

敬賀也、依左大將殿御名改也、頭中將取御書持參、紅檮檮、立文也、就同間簾前進

之着座、茵子西、押寄、一獻左少將定平朝臣、帶御符笏、高階仲國、着勅

使座、下勸之、拔笏退、二獻左中將師季朝臣、今日被川永、久、雅定朝

臣應而目、有御符、經勅使座後、擬問、無路、着座上、茵被押、落疊西、右馬權頭佐

清、帶御符、取瓶子坐勅使東、擬前、差及入酒勸之退歸、以

輔定雅子、定清、北行三枚、爲永敷圓座、忽座西緣南、三獻左宰相中將、盛

卿、跪作合邊、依殿下御眼路也、指笏取杯、瓶子殿上、五位光氏、經勅使前着座

上、坐題、如例、揖引取裾、喚寄瓶子、進座、其西、傳杯拔笏、揖起着南

端圓座、季宗定雅居勅使肴物、土高杯二本也、家邦取一本置相公前、四獻別當、瓶子兵部大輔兼綱、其儀同二獻、退著中圓座、範輔居肴物、五獻新源大納言、瓶子時高、持坏不掛、不着圓座直退歸、次兩卿起座、女房被押出祿、又出御返事、同薄樣與也、勅使懸祿左袖、右手持御返事退下、佐清等撤座肴物等、次殿下參御殿方給、亞相冠從、良久頭中將自長橋來、召兩相府以下、此間敷筵道、次出御、師季取御劔、頭中將進御草鞋、御強務令踏合給也、御引直衣打御衣張御袴、殿下左府內府二位大納言右大將、順迎參、公卿數多雖在座、不被加其座、直參者盤所、此間被出弘庇、尤可然、權大納言、御路經長橋仁壽殿露臺同北腋戶、經簾前入御、中央間師季指入御劔、女房取之、殿下令塞御簾給、加帆帳、頭中將殿取御草鞋、殿下自簾前渡公卿座給、公卿出御路腋戶、跪于仁壽殿露臺東緣、依出次第下腋在北、各立經南殿御後之北緣、着公卿座、奧座、殿下、內府、雅親卿、通方卿、國通朝臣、隆親朝臣、盛兼、頭辨範輔、持笏、端、左大臣、忠房朝臣、右大將、權大納言、別當、經高朝臣、家光朝臣、頭中將宣經、不帶一獻、範輔朝臣指

笏、造奧座、瓶子、藏人、繁茂、二獻、右衛門督隆親、瓶子、宣實進端座、勸左府、左府擬于殿下、三獻、國通朝臣、勸奧座、瓶子、知宗、二獻之後居汁、兼居之、之由、大辨申上、三獻訖、冠從公卿起座、師季自本路進取御劔、殿下令塞御簾給、宣經獻御草鞋、還御如前、次左府已下公卿皆著陣、末座不向、頭中將仰女御宣旨事、左大臣召辨仰之、次親族拜、依雨降經御後、列立弓場內、北上面、依別仰藤氏公卿、至于賴資家、光十二人、皆列立、右大將被被能仰、殿下令加弓場列給時、左府內府以下、經御後列立之間也、又拜了還入給之時、群卿東西分散、仍給頭中將中之、但還出時猶不可帶劔由、入道右府今日此間不及人家禮云々、重被示此由、應保中山內府并中宮權大夫忠宗、每度帶之、猶不可帶由被命之、故不可帶之由、今日相語云々、如此事末代之人之尾籠今案歟、不足言事也、於高遣戶方、御乳母已下女房并殿上人給祿由、雖聞不見之、事訖退出歸家、日未及昏黑云々、事不始以前在座之間、內府今日不可居汁由、被難通方卿、先例皆居之、永久自然忘却歟、雖無其事、大治殊有沙汰、兼被居由相論喧々云々、聞之人、滿座有奇驚之氣、大治法性寺殿殊

有御沙汰被居之、在御記云々、本性每事有如此謬難、是先世之生得歟、

二日、朝天陰、巳時許急雨間降、自晦日咳病俄惱亂、去夜雨中暑熱、心神殊辛苦、無爲術、及曉鐘辛苦不眠、去月^{下旬}、從三位行治部卿藤原範基卿薨、年來飲水之病、每度稱木崎湯治、在但馬國所領之間終命云々、其本性飲酒如陳後主、權勢之時爲贈口口^賀嗜飲食、離別之後衰損、

三日、天曙又雨降、辰後止、午後晴、咳病極惱、心神如亡、未時許五辻三位^{知家}卿來臨、稱所勞無術由不調、以青侍謝之、自前殿有御音信、此間事傳聞之說少々注進之、夕宰相示送、今日先參內、大納言左大辨於陣、定法勝寺御八講僧名之間、先參彼寺、公卿參集、上卿出、平宰相、左大辨四人、朝座了行香、大外記師季堂童子二人、^{亮清}、夕座始間各退出、證義者^{聖覺}、最勝光院八講、於蓮花王院阿彌陀堂可致修云々、^{辨有}賴隆所勞、有親行法勝寺、

四日、朝陽清明、咳病辛苦惱亂、或人云、修明門院御母儀三品瘧病、日來危急、昨日被落得云々、顯平朝臣說、雅行卿事、惚殿下不知食、無御沙汰云々、^{實侍}說也、後聞、虛言也、^{所領二所一}定被收公、

五日、天晴、心寂房來談、河東武士本馬左衛門妻他行之間、竊盜入其宅、衣裝資財無餘殘取盡云々、依秋節宿本所、^{忠弘}宅、

六日、秋節、天晴、聞曉鐘歸廬、未時許相公來臨、相門腹病發給、^{昨日惱}氣生給、今日無殊事由命給云々、去廿五日雷落

一條^{室町}殿寢殿巽角、柱格子并格子內角木天井等如摧破、格子有大穴云々、於法勝寺源平兩卿說、雅行卿一定出家事體猶不穩便、不可在京之由有沙汰云々、於殿下御領之一定被召了云々、右大臣^{入道相國去年七月薨、今月爲一週之忌月、}母儀入滅、今度不可着服歟之由被猶豫云々、武藏太郎嫡男^{五六}歲、可爲修理亮泰綱^{女子二}之由、泰時朝臣成約束云々、東方之習皆如此占定云々、七日、庚申、天晴、隆昭律師昨日未刻終命云々、詩歌得

骨之人也、月來長病之由聞之、法眼昨日歸由示送、令拂文書、雖咳病不減、午時許沐浴、下食時已、

八日、天晴、暑熱如焦、欲寫經、心神迷而不成字、而偃

臥、三位知家卿書狀云、昨日蒙早旦催、辰時參大納言殿、一

有情無人、依仰相待、前宮內西時參入披講、乘燭亭主、

信成卿、家隆卿、信實、賴氏、家長、成茂、下野隆祐欲退

出之處、當座三首如已、人定後退出云々、

九日、天晴、申時雨降、不濕地、夕又降、帥殿御忌日、依無

力、只讀寶篋印陀羅尼、阿彌陀經、女房行冷泉、昏黑歸

來、此間路人嗽々云、誤アラン道口平相公侍闕靜、於出雲路路

頭殺害二人、而奔入禰宜祐高宅云々、相公行石藏山庄

歸之間、侍等少々步行歸之間、有此事云々、黑雲滿天

如暗夜、暑熱如燒、

十日、天晴、以書狀問平相公、返事云、立后廿九日藏人方

奉行時兼、借文書爲撰出、向石藏之間、宣陽門院有召、

忽馳參、留子息青侍等、令撰文之間、晚景各罷歸、乘車

騎馬之輩先歸、步行者等遲々、遇雨論笠、忽及傷、召仕

者三人死去了、無申限云々、殺二人者、又貢手、曉死云々、未時許淨照房

來談、自石藏出云々、今朝目中忽有紅色、又不見、驚恐浹菊湯、

月前早涼生、適休息、夜深黑雲過月、

十一日、朝陽晴、雲多聳、知家卿音信之次云、雅行卿至

于今月二日一定俗體云々、甲州所領、定忠入道稱先祖

領申給了、殿下御領被召止出仕、其上無重沙汰由、殿

下御氣色云々、說々不同也、又返送歌一卷之次云、八

坂律師覺經、只今來臨、一昨日彼卿來、六條入道入道許、二字恐衍

俗體、於殿下御領者被召由、內々可觸旨、彼入道承仰云

云、自一昨日座下有雜熱、其體如火ぶくれ、依痛詣心

寂房、雖非大事脚病所爲也、可付車前草鹿角者、目熱以

黃菊摺鹽可冷、夜致此療治、相公來談、去八日參蓮花

王院最勝光阿彌陀堂、中納言、定高、上卿參議親定、家光、

辨有親、知宗、惟忠辨所勞爲代參、辨又參、參入云々、巷說橫川磨滅、

閑月、又云、語西塔欲侵東塔、日吉如法經已退轉、本聖人在

川、又云、興福寺衆徒蜂起、不知其子細、若是成實事、範圍辭別當、或說

云、大乘院實尊僧正被補云々、衆徒存知甚僻狂欺、氏后欲

立給之時、尤可存機間哉、兼宣旨十七日、御退出廿五日、立后廿九日云々、禁中尼三位以賀茂伊平、令造滋野井家、所緣群卿已下納涼云々、家經法師民部大夫五位、實稚卿、外祖父、死去云々、

十二日、天晴、辰時許心寂房來、熱氣已散、仍付車前草葉、目又似少減、備後前司來訪相逢、所勞且是依歌辭、也、不可被驚、秉燭之程、河東武士馳奔由悲說云々、須臾之間、依醉鄉有事、加制止無爲由又風聞、月清明、終夜照枕席、

十三日、天晴、傳聞、左近少將俊保出家云々、保家卿二男彈箏、帥局養子號長尾少將、親尊僧都聲也、當時天下權勢也、發心定有故歟、後聽其妻難產、已終身之間、眼前遂其志云々、夜月清明、

十四日、天晴、午時許雲雨自北起、雷聲亂發、不及一時天晴、前殿白地還御一條之由被仰、雷落之後、被加修理云々、炎暑如焦、雜熱未平愈、心神如亡、猶平臥、入夜相公來、一昨日河東事、大炊助親直、鎮西守護、能直子、於菅十郎左衛門武藏太郎近習者云々、宅醉鄉之際、向家主放言、主客互難及

拔刀、傍輩滿座取付而押出、親直放本鳥、着大口許、騎馬歸宿所、白晝之間見者多、武士等又雖相馳加制止云々、十五日、月蝕、天晴、早旦請住心房受戒、是爲先妣出離也、暫言談被歸、午後又平臥、夜前少將俊保妻室葬送、少將入道、今朝入高野云々、今日法成寺殿下依參給、公卿今夕被催云々、青侍等云、午終令參給、多、先是前中納言、願俊、平宰相、經高公長卿東帶、大辨、從給、三位公長、範宗、左大辨在堂前座、各下、御共殿上人師季朝臣、實俊朝臣、伊成卿、今二人云々、年少、山上事日來委不聽子細、家長朝臣消息之次、今日示送、中堂領木戶庄、橫川領新庄、八條院御寄進、以來五十二年、云々、堺相論事出來、東塔衆徒放言申貫首、切鐘木之間、東塔道理之由忽被宣下、橫川被下宣使、可被、正現非由縣餘云々、仍去五日橫川諸堂打付行法退轉、九條殿常燈滅了逐電云々、慈惠御廟光明、又去月十一日十禪師御正體一面、自酉時至于翌日申時、令動搖給、卜筮等極重云々、但於此如法經一事者、依非公事、御沙汰不可打留、日來西塔不與力、而昨日又依拂執當事、西塔及鬭亂、又傷終命者等多云

云、出山月帶蝕、皆既、于時天漠無雲云々、予在西面、須臾之間其光漸白、終夜清明、

十六日、天晴、暑熱殊甚、未時許覺法眼消息之次云、文章博士長貞朝臣日來所勞、昨日終命云々、父卿心中悲而有餘事歟、云器量云官途、惜而可惜、世上之無常、痛哉悲哉、

十七日、蚤宿、天晴、承明門院黃門被來談、暑熱逐日如增、心神如亡、未時地震、非大動龍神助歟、七月兵起云々、

十八日、天晴、靜俊註記來之次、岡山上事、今月四日橫川衆徒打御廟拜殿、閉諸堂退散之後、密經廻坂本邊、今曉過橫川、自大原坂下山出京、如當時者、此上無公家御成敗者、燒拂本堂、奉堀御廟、可逐電由相議云々、山上社頭怪異不可勝計、只是佛法破滅之期也、入夜宰相來云、廿二日祈年殺奉幣使領狀、欲書定文者、俊保少將妻不死云々、夫又不入高野、

十九日、天晴、未時大雨不濕地、西北雷鳴、曉更禪尼女房等物詣、今朝依日次宜、以使者向大府卿并三位家時

卿、俊保少將出家并女房病事三位返事云、少將事無申限、女房所勞

又無憑之體也、旁無申限云々、幹林有發病之上、脚病入腹中歟云々、悲歎之詞如察思、或人云、昨日頭範輔卿昇立長櫃十合伴長櫃折櫃立紙、如菓子積、錢各十合納之、法師原付之云々、今日俄有小除目云々、後聞、謬說云々、暑熱終夜苦惱、後聞、今夜俊保室實逝去云々、

廿日、天晴、炎暑如燒、午時許小浴、覺法眼所勞不減、而涉日云々、今日示心寂房、明日令行向、

廿一日、天晴、炎暑陽景逐日如增、更無爲方、入夜宿本所、宰相來臨、明日奏幣祈年設、上卿左大將殿可書定文、

但使當時一人領狀云々、不足言事歟、暫言談之間召使來云、奉幣延引、來月三日可被行者、依無使歟、兩女院持明院殿修造之後、御渡來月五日、公卿直衣云々、

廿二日、乙亥、七月、月中天晴、午後大雨、即休、暑熱如焦、曉鐘之後歸廬、午時許法印被來臨、亥時許坤有火即滅、姉小路卿川云々老庄應御下文只今到來

云々、可謂理運、世間有謀反者出來之聞、武士等一兩擲取、雖拷問全不承伏、不指同類、黨類三百人成其謀

之由風聞云々、又云、於一切經卷、武士所取無表書、書狀、三十二通、事體顯顯、京中八十同心云々、

廿三日、曉更微雨、自朝陰、午後雨間降、女房行冷泉、

夕歸、明日有除目云々、

廿四日、朝天晴、暑熱難堪、逐日如重病、更不似年來、老屈之故歟、不可堪忍、

廿五日、天晴、除目、神祇權少輔大中臣隆重、吉田、社功、同宣

親、去年兩社、行幸功、中務丞橘範康、神寶、藤資忠、同、源厚政、神大

宮、內舍人藤爲基、止利部、丞親、少監物中俊平、內侍、藤廣安、時臨

給、縫殿允平家致、神寶、藤親澄、大神、文章博士菅資高、治

部卿藤公長、民部丞中清景、刑部丞藤季真、御所、木工

允大江季光、字佐、掃部允大江以基、右京權大夫平宗清、坊城、

伊勢守平光衡、越中守藤光俊、日向守平兼親、兼、侍從

名譽之、左近將監九人、功、右六人、功、左門十四人、右十

二人、左兵十三人、右十四人、左馬五人、右二人、正四

位下範輔、從四上賴隆、從四下藤家時、從五位大中臣

知經、從五下弘氏、民部、惟宗文元、中原行兼、便如、同永

親、同、是近日急用之成功歟、初度行啓範輔定叙三位

歟、超左之、相門示給云、昨日下午官所申入之處快然、定有

其沙汰歟者、申感悅之由了、予姊妹雖沈淪之家、官仕

十餘人、皆於所々着禁色、在一身無此事、年來之恨所

申付也、少將有教朝臣間立后、四位侍從啓將等事委答

之、臨昏女房爲見物行冷泉、大弼保綱朝臣借鞍馬、仍

借申右幕下馬、可引送由、示付忠弘、宰相腹病餘氣、

窮屈不出仕云々、後日示送、後車殿下、上、雅親、兼

經、上、家良、上、通方、經通、實基、上、定高、具實、賴資、

親定、經高、隆親、盛兼、上、基良、上、家光、範輔、後騎供

奉、師季、實忠、有教、家季、資季、資俊、定平、時綱、信

實、家實、宗明朝臣、時兼、光俊、伊成、時高、親氏、公

有、隆宣、賴行、顯氏、伊忠、家清、知宗、光資、兼綱、宣

實、氏通、實宣、貞時、二位大夫、光盛、藏人仲業、曉鐘

鳴、見物人歸來、路次同御入內夜、頭註、

左衛門尉源光兼、宰相所申任云々、春夏申任二人過

分事歟、

廿六日、天晴、暑氣難堪、如重病、而待晚涼、夜猶辛苦、

鷄鳴以後僅休息之後、禪尼俄風病、其身冷有寒氣云云、燒薪着綿衣、驚奇、

廿七日、庚辛、天晴、病者無殊事、汗出之後頗復例、朝沐浴、又有咳病氣、日夜念誦、身苦力屈歟、今明有所思立物忌簡、廉付物忌、治部卿送誓、任八省卿者、如省官年預、有給祿事歟、近例不審、當時歷此職之人不覺悟、

所尋申也、兩省初任時、共無指所爲、如形拜賀、治部下名以前民部

當、着陣、依參、議也、年預來觸、於民部者聊覽吉書、治部猶無

此事之由、註一紙送之、宰相腹病猶不尋常、雖無力立

后日可構出仕由示送、三々日可構出仕由答之、屬夜景

相公來、三位事下薦超歟、訴訟由雖申入、無左右仰、事

體範輔欲起家光歟、宮內卿成實爲翌君可行八幡云々、

所從共人濟々折花、顯俊卿結構入勸修寺、

廿八日、辛巳、赤日逐日增熱暑、法印被來談、隔物言談、

不能相謁、橫川僧徒歸坐、座主被宛馬一村云々、內藏頭有消息、四位侍從事、

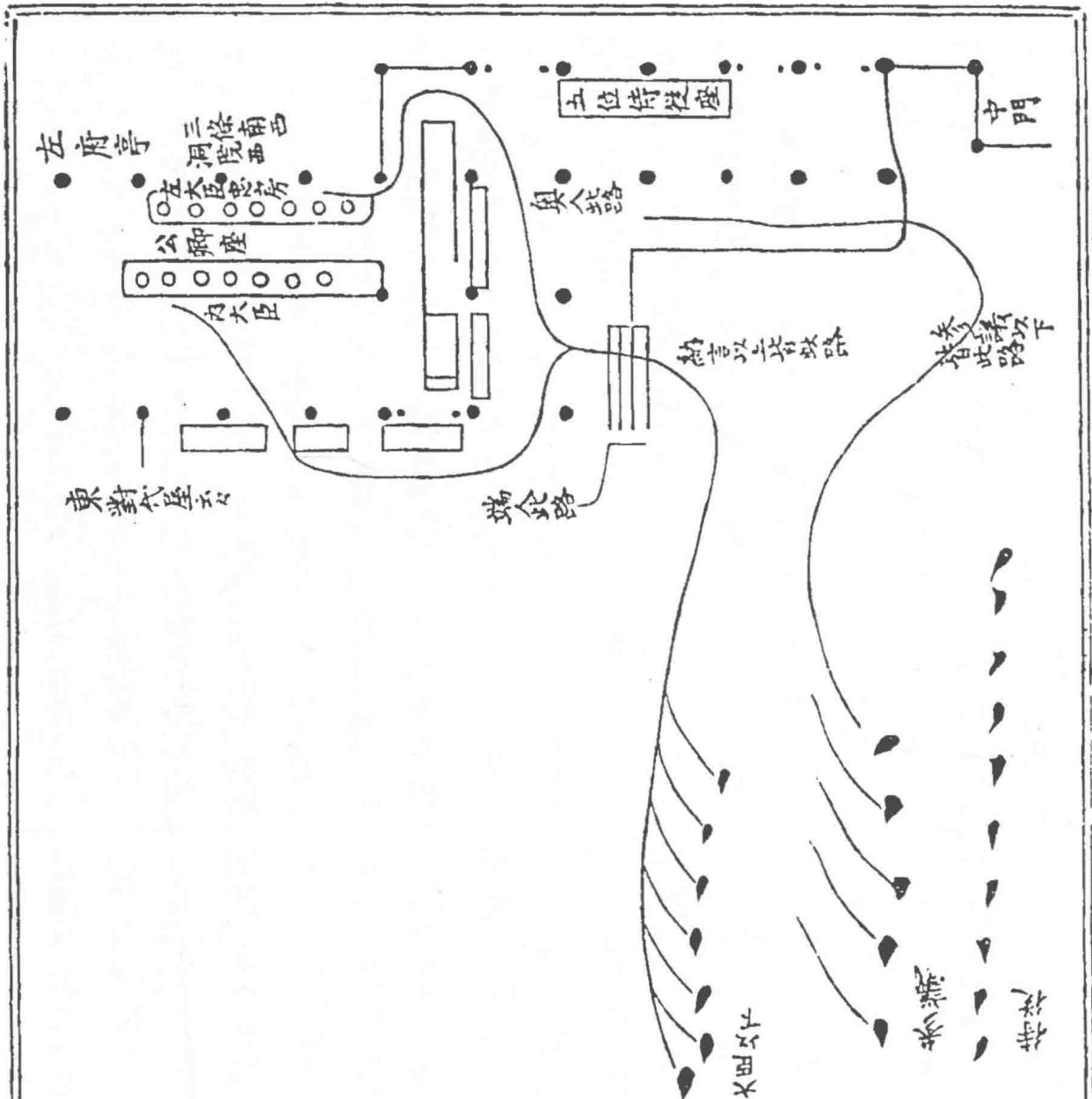
粗注進之、昏源中將册命消息、并四位侍從啓將等事

被尋、大略示送之、以元永記註出之、明鏡之由感悅、如此事不論和疏委細示之、

嘉祿二年 七月

五百二十五

廿九日、壬午、天晴、皇后冊命日也、今朝日次宜、小婢退出、行白河邊小屋、平相公消息云、今日早々終事、可有出立儀由云々、出仕之時見及歟、不逢其事之由示了、外辨上卿爲納言之時、起座之間已次不立歟、不立由存旨答之、內府出仕給云々、赤日雖照耀、涼風頗颯然、酉時許右武衛被來談、持明院殿御渡口口無儲日造作之體、今日見之、更難出來云々、成實今日直衣始、參女院、直衣色甚濃、具前付鐵作肩、今日備威儀、進發于八幡、爲幸清聲、共人着錦云々、新制如何、奉述心事、日沒被口口口口後日傳聞、申刻內裏事始、中宮爲皇后宮、女御從三位長子爲中宮、左大臣、內辨、內大臣、練給、大納言忠房、雅親、中納言家良、家嗣、通方、經通、實基、具實、賴資、參議伊平、經高、隆親、盛兼、爲家、家光、四位宰相在三位中納言後如例、列立了、召賴資卿、放列參進東階、揖昇立內辨後西、口口指笏、內辨賜宣命使、拔笏右廻、副南檻下階、揖立軒廊東二間北方、內辨右廻經簀子、副北欄下階揖、於西第二間揖、宣命使出同間、自簷下東行、下東一間砌、步



出練、歷大臣後加列、宣命使步出、當日花北扉掛、西折練去、宣命版五尺許立、宣制訖左廻、至于四位宰相前程練、其邊圍經四位宰相前加本列、中宣命內辨以下退出、左廻內辨二丈昨練、練樣被替、練樣內府以下不練、經下薦前、通方卿經高卿左廻經下薦後、於土御門內裏、有此儀之由、各陳之云々具實卿右廻經下薦後、後口云、我毛左廻家光朝臣又左廻云云、引陣將、左、資季、資俊、實光、實清、右實忠、有教、實忠、實光、左府被出之間退入云々、宮司大夫兼經、無參權大夫實基、亮範輔、權亮定雅、入道右大臣于侍從大進光俊、權大進範賴、亮于、少進經氏、經高六位、清佐子、大屬資朝、口口、四位侍徒、宣經、實忠、實俊、顯平、宗平、親長、賴隆、資俊五位、時兼、伊成、賴行、伊忠、能

定、啓將、定平、有教、信時、信盛、親氏、顯氏、召仰上卿、左少將、右少將、左門、右門、左兵、右兵
通方於本宮列立庭中、拜後昇中門、各退出、于時及夜半、

依座狹不可着座、大辨外大略退出、冊命勅使師季朝臣、
取祿人、大夫、被渡御調度藏人、忠時、殿上人隨其役、外辨
內府忠房、雅親、家良、通方、伊平、經高、伶人殿下、笙、
左府、拍子、家嗣、和琴、經通、笛、實基、比巴、盛兼、篳篥、基
良、宗平、有資、付歌、寢殿透渡殿二棟常儀云々、殿
下御座端、中宮大夫着與給、左大臣、與、別常同與着、
初獻、殿下、左府兩人先去座之時、左府可着端之教由訓、
庭訓、仍忽着端座、通方卿袖上、此袖ヲ被免て、揖可
起山示之、揖退出丁山、後日稱之云々、今夜內府
儲休所歟由問亮、申不候由、重被儲之例、有由答
給、後日經高卿、年々雖尋見舊記、此事不見及由稱
之、
卅日、癸未、天晴風吹、南京東林院僧都、云僧來門前、
稱病不逢、以青侍兩三度問答、不知其人、故僧都弟子
云々、年來不聞及、宰相昨日窮屈、今日不出仕、入夜地

震雨度、軒宿鳥動歟、七月兵亂云々、

〇八月小

一日、甲申、復日自朝天陰、北風颯然、未後陽景見、自曉暑熱

不休、來五日持明院御渡被催云々、光時祈年穀來六

日可被行、頭中將、奉行四日上丁釋奠歟、入夜相公來談、未一

點出門、有參內之志、於東洞院、平宰相車馳融之間、不

參內、而相共參宮、早速事可始由被催云々、大納言忠

房、雅親、大夫殿、中納言家嗣、通方、實基、具實、參議

經高、盛兼、爲家、家光着座、殿下衣冠、令着端座給、

昨日無、座并四位侍從座偏同一昨日、殿上人兩以、頭中將

御着座、座取孟進之間追若、宗將弓箭宗平、賴隆、定平、信盛、平初初獻、亮於中

門方取坏、不見、其事自弘庇經四位侍從座上參進、二獻、

此相、揖物揖起與座、經殿上人末、出弘庇跪座、末間妻戶、四、腋

柱之程取孟、子持來、定政、定清瓶子、皇后宮權大進光氏、經西簀

子南第二間進御座北、持孟勸坏取續約、拔笏揖之間、坏

及雅親卿、立經本路之間、頭中將進受大辨坏、即復座

居汁物、殿下陪膳保綱朝臣、納言已、下乘居大辨申上箸下、三

獻、通方卿大路同、但入殿上人座上妻戶、南第一持盃不

揖、不取抄經本路復座、次殿下令立給、參議皆動座之

間、經高卿退出了、端兩人、次第二退下簀子了、

殿下自南而簀子令人給之後、暫復座、大納言被立之

間、皆競立、別當具寶等不揖退出之間、皆立了、此間舊

臣仲家頻列役諸大夫云々、昨日忠房卿以下濟々不委

聞、初獻、亮、二獻、經高、作法編、三獻、賴資卿云々、氏

院參賀云々、入夜涼氣頗成、

二日、凶會、天晴風吹、曉更有涼氣、初着綿衣、晝猶暑

氣、不似日來、西風頻扇、

三日、陽景晴、雲屑發、自朝甚暑、午時許僧正被來、扶

起相謁、相次心寂坊來談、日來風聞事委談之、美濃國

高桑次郎と稱者、搦取在六波羅、謀反事承伏、不指同

類、又覺心房と云者、柳師之、爲京中之張本、在一切經

谷、其身逐電、伴者從者大夫房搦得、卅三通之書狀、

有表、入武士手、當時内々沙汰、武州六波羅四方堀堀池、

口一丈五尺、深一丈云々、諸國七道徒黨充滿之由披露云々、長井入道

廣元子、執聲、侍從氏通云々、後聞、又說忠行卿、法印被來、禪尼

遺似、歎申事將執申、幕下被來會云々、予不口入、不運

禪尼與彼家人相論、更道不可行、又承明黃門來、夕皆

分散、雲間見初月、

四日、天晴陰、入夜大雨來、法印又被來、以實清結解被

送尼許云々、是皆存内也、不交詞、未時許巷說、南京衆

徒發向宇治、武士騷動、旌旗馳奔云々、隱居之身不知

事根、源氏皇后給立給最中、氏寺寧可然乎、足奇驚、今

日釋奠、中宮大夫參給云々、平相公示送、又云、當時無

衆徒、かつ手小森二社神輿、神人巫等相具在宇治、武士

欲相禦云々、菅十郎左衛門と云武士已下、三百騎許馳

向了云々、入夜方違、相公來會、吉野法師年來所申、入洛

事、武士可召向由、仰訖之旨、盛兼卿參内之次奏聞、

今日依、明日御渡、公卿甚少、不備歎云々、右大將、右衛門

督、宰相中將、右兵衛督、宮内卿、侍從宰相、左大辨許

歎、隆親卿造作賞、超三人可叙正三位由、老妻懇切奉

責云々、六日奉幣、上卿左大將殿、使新中納言、賴資、平

宰相三位藤原等云々、藤宰相公雅新任之上申任少將、

朝恩重疊、惣不出仕之由、上下奇之云々、御幸、母儀仙

院許御渡同、七日御幸始、本御所其後安嘉門院、近代密儀

可渡御云々、中宮御方と稱女宮、齋宮卜定事已定、件

宮雅親卿可奉扶持之由、承久三年以後中請之、近日

忽辭退云々、仍又禁裏三位可兼行由中請云々、偏是卿

後身歟、萬方皆執行如資朝卜定所當時泉殿云々、立后夜頭辨罵大進

光俊云々、典侍祿可送由光俊澁也、亮云、元永一度有

此事、典侍早出之間、忽有此儀、其外典侍不早出、皆於

本所給之、何故可被送哉、光俊云、被送遣、是流例也、

又一向被用元永由、每事有沙汰、此事被川何例乎、亮

云、全典侍不出時、無被送例、流例とはなかるゝ例歟、

我身例也、此詞吉事之中頗以有憚、賴資經高等卿表其

氣色云々、今日前中納言顯俊鳥羽平渡、入勸修寺、前驅

六人之中、兼宣父子若男始出仕、供奉侍廿三人、兩辨男辨侍、弟

人、若男光氏等扈從、人々多見物云々、以四位侍從座、爲

第二三日殿上人座、事非先例歟、如何、南廂侍從也、挾

先年也了、

間、公卿座二行難敷、依立仍如此云々、第二三日全公

卿座不可爲南廂、如立后日敷之、殿上人座許在弘庇、

是每度事歟、甚不得心、

五日、終夜雨降、今朝猶濛々、午後間晴、聞曉鐘歸廬、

此雨歸來之後漸甚雨、日暮無雨氣、北白河院持明院殿

御渡云々、戌時出東洞院西、正親町數刻相待、殆及半更、

松明光漸近、殿上人近年不知其面、老眼又不辨、具隨

身之輩、袴體不尋常、十餘人歟、其中實清少將、有教朝

臣、時綱朝臣、信時、左衛門佐中將實忠朝臣爲上臈、

但隨身二人以松明前行、偏如公卿、如何、侍從宰相、三

位家時、成人嫁娶、女子他界不滿廿右兵衛督、左宰相中將、

隨身右衛門督、如馬右大將、新源大納言、雅親、御

車、大夫尉季繁、出車、宗平朝臣、牛童傳冒額車二兩、若

光俊、半車上車分見了歸了、後聞、付御車院司不

見、若見失歟、或云又六位着衣冠供奉、六日勝造行賞隆親

卿叙止三位、伊平卿一人被付外云々、臨時恩歟、一身被見

任公雅、偏是不仕之經高、顯官、基保、依女院御幸持明院事被超越、頗失家之面目歟

不光俊卿被超越了、所被行、頗以似無是非、只老黃門之愛念吹舉歟、安帝之伯榮、過外戚之權、供五菜云々、右大將陪膳云々、御膳家時卿調進云々、無攤、有水火、童半物裝束不懸取懸之、如何、裝束懸局竿、御服皆具紙、檀紙置之、近代之儀如御塗籠、置物事無之云々、下人等云、造作之體疎荒、凡卑如一日、棧敷假屋破壞、定無其程歟云々、

而注殿上三獻初獻長清持參、二獻隆親、三獻經通、右大

臣御車寄、二位大納言、經通、賴資參會云々、

六日、天晴、新年穀奉幣云々、早旦能登守長政來臨、進恩札之次、九條殿仰云、上卿欲令早參者、聊有被仰事、東一條院於七條殿有御佛事、所勞猶難扶得歟、故不催外人者、中納言定、又示此由、雖可扶參、自四月中旬長病、不出門戶、只此一事、出仕頗似有所思歟、仍連日雖不便、宰相可憐參由屈之云々、此事尤可謂神妙之儀、纖月清明、早涼始生、

七日、天晴、送舊札平相公許、返事云、昨日痢病俄更

發、雖無術、勸賞後期依有事恐、未斜扶參內、須之上卿御參、奉行人不見、不知其次第、不可說、數刻不始、後開、中宮將還賀之事、今日被行云々、可有先例歟、不審々々、及申刻適事始、又請奏無用意、依此事又及日沒、秉燭參下社、夜半參上社、病增氣難堪、神祇官不動座、中宮大夫殿奉行給之時、不可動座由事切了云々、新中納言說也、但範宗卿遲參云々、定文侍從宰相書云々、勸賞之間事、大相國頻被申云々、公雅卿事不許云々、釋奠中宮大夫殿俄止給、甚雨狼藉、廟堂自下藹出、大辨任意新儀、辨等迷惑云々、都堂壁外、北、東上、西、南上着云々、未時宰相參七條殿了云々、予猶不及出仕由示了、秉燭以後、俄而行持明院、惣門邊伺見、無車馬之員數、殿上人少々參入、先是隆親、家時卿參云々、相續此宰相參、次具實卿參、良久人々少々騎馬之由、雜人稱之、仍出正親町洞院、見物人數不幾、公卿只三人、每事不足言、檢非違使季繁、公繼、長賴、次出車、定平、家定、冒額實光見了歸、今夜初下蒔着綿衣、

八日、天晴、早旦行水、午時許聊寫經之間、相公來臨、

腹病赫外無治術、先遂參社之後可企者、昨日參七條

院、直衣、內府、厚四大將殿、定納言、二位中將着座、東殿

加他所、南座範宗卿、爲家朝臣在其北、同座、以同庇爲僧座、

無禮盤、新道釋、妙香院戒師、寺僧正唄、其弟子法印御刺

手、法印入御殿中之後、戒師御布施、手長助解由不官忠高大臣被物、中納言被

物、二位中將御衣香染一具、信定朝臣絹綿二結、

御衣之外各六歟、唄大將殿以下手長六被物被物、範宗香染裝

束、宰相、已下殿上人取之、長清、基定、信定、資季、宣

實、忠高、信盛奉行云々、女房內侍美濃遠了、少將覺寬

來十日可、中納言云、日來不知之、佛供養有其志、布施可

儲由兼日被仰、去五日兩僧正雖有指御障、必可參給

由、可申由被仰、依此事、覺知春日御詣候哉由申、去

春參詣之次、早申了由被仰云々、事了即可還御九條

殿、無他事云々、次第甚所甘心也、是已乘燭以後也、馳

歸不及休息、不解裝束、則參持明院殿、無人不便由、被

申博陸、更無出來人、按察寄御車不騎馬、具實直衣、淺

參冷泉殿、入御冷泉殿之後、有御贈物、安嘉門院令其後還

御訖之後、安嘉門院密儀渡御、右大將御車寄親保侍從、

等二人扈從、此御方無可爲殿上所、又無公卿以下參着

座云々、不足言事歟、後聞、御所以下無敷設云々、入夜

女房參修明門院、夜半以前歸、

九日、天晴、早旦心寂房來、昨日請招、相公令探腹、無

殊事、風所生之腹病也、赫可宜由示之、咸安堵之思者

也、心寂云、高野僧徒離山、未時參九條殿、仰云、入道

權大納言只今參女院給云々、仍欲參彼御所、暫可相

待、即令參給云々、予又自南門參入、步行、只以女官申

女房、無來謁人、前々逢人、各出家、若無假比歟、即歸參之間、故相公信能

子侍從來談云、伊時卿白河宿所之隣、加賀前司泰光朝

臣、奉幣使申障之間、頭中將付馬部、其家如埃塵摧折、

可彈之箏、和琴、相傳箏譜、母儀和漢文書師顯大、以下雜

物悉取訖、已欲立道路云々、英華之餘流也、聞之落淚、

少時還御、見參、今月下旬可渡一條、冬十二月、可有大將

方產事、其時又我身可歸此亭、一日奉幣定、大將著奧

座之間、頭中將來、如言逐電、依不聞詞欲喚返、不歸奔

重可示、粗駐送之、

十二日、天晴、傳聞、高野之間事、關東狀、藏王堂燒失事、召問兩方、真偽爲聖斷、差期日被召寺僧等之處、高野無相違參上云々、吉野不參、其召十七度、遂以不參、城介入道殿、人殘留于高野、仍高野僧徒八十餘日住京、空歸山云々、其時吉野申狀、奏事不實歟之由被答仰、高野無過意之旨、被裁斷之後藏王堂造營、國ヲモ被寄、功ヲモ被付て、可有沙汰之處、于今未斷、仍舊訴不盡歟、猶早兩方被召決、任道理裁許可候歟之由、去九日定季律師定案僧正弟子、持之上洛、一通進殿下、一通付長者僧正、去九日自殿下、高野寺僧少少、來十七日以前可參洛由、被申御室云々、彼申狀尤可然歟、或人云、去比頭辨納涼于河上、又說非河上、松尾神主桂川作私屋招請遊宴之間、遠州來射犬、矢及私屋、辨乘船去、放之間、事及喧嘩、大丞侍被切本鳥、秘之不議云々、兵遠州制私屋破者、又令作人、召酒食宴遊、頗辨料諸馬奪取歸云々、衛大夫重幸於同國司許飲酒、六十三盃、金州兩、染物一、折敷預之云々、伊時卿推參不面謁、未時許飼蛭、齒并耳後熱氣多所也、日入以後、禪尼又風病反吐、燒薪出汗、今夜子又心神頗違例、老後之身、若依蛭違例

歟、

十三日、天晴、司天說傳聞、今月十一日、甲午昏戌時與歲星鎮星共相犯在同度、月去歲星一尺四寸所、月去鎮星二尺四寸所、歲星去鎮星一尺六寸所、甚不快之變云云、可恐可歎、昨日之奏見泰忠朝臣、今曉家中青女有夢想、仍十五日曉可修泰山府君祭由、示泰俊朝臣了、風病今日無殊事、相公來、中宮八社奉幣今日云々、來十九日齋宮卜定、方嘉門御姊、其所冷泉殿自他風病無術之間、有馬湯來月下向哉由、威儀土御門大納言、湯屋管領示送人、每人領狀、不下知、只甲乙同時會合、依勢力遂之云々、天王寺湯屋伊員相知執行云々、然者天王寺何事有哉由示合了、十四日、天晴、久不雨、所々井水皆乾、蛤明方知放生會上水云々、放生會上卿、定高卿、宰相家光朝臣云々、他官不聞及、未時以後蛭向飼、漸及昏、白月清明、老屈之上行水之後、不見月、病臥、十五日、朝天遠晴、未後陰、過夜半微雨漸降、夜前除目

云々、兼不聞及、皇后宮亮基定、權亮實世、兼、中宮權

顯後權三

大進藤賴俊、曆博士賀茂道茂、兼、權天文博士泰忠、兼、

筑後守藤資賴、肥前惟宗光尙、內舍人一、大膳進一、左

將監二、右二、左衛門六、右四、左兵四、右二、左馬三、

右二、從四位下藤顯經、正五位下津守經國、使宣旨、

右尉中原明能、近年仲秋三五必陰、炎旱猶自今夜雨

降、

十六日、自夜雨降、已後大風、未後又甚雨、又風、未時

許又左手伺蛭、

十七日、終夜風雨、今朝猶微雨、未時陽景見、申時又

雨、晚頭行本所宿、方遠、傳聞、放生會放生會神人成訴、至于午時神上卿、前駈五人、

兵衛大夫家廣、稱一門由近日住彼鹿嶋使六位進、又一門民

部大夫二人、紀宗尙、左衛門尉某、普通侍也、依歷文、召具云々、雜々無極歟、

侍六人、宰相侍四人、無前駈云々、及曉雨休、

十八日、朝陽出、申時急雨不溫地、辰時歸廬、未時手又

飼蛭、去十日未時日吉十禪寺御聖體又動搖、自未時及于深更、山上

者聞之、參事見云、云、左右二令動給、

十九日、天晴、入夜雨降、今日中宮氏寺參賀云々、昨今

暑氣猶殘、夜不法眼書狀云、高野事逐日嗽々、去十三

日宮終御退出、十五日令入仁和寺給、十四日參向河內

國往生院、遠近馳走、極以窮屈、住侶皆離山、猶被召張

本歟、可燒堂舍塔廟由相議云々、伴張本被下衣宣旨、

其後又住侶所存未聞之、吉野神與未歸給云々、今日后

宮參賀、頗有不定之聞、未時許內藏頭消息、參賀一定

云々、乘燭以後相公來、明後日左少辨申行政、依無參

議、參哉由相觸、不願未練、失禮可參歟、失禮更不可

痛、早可參由示了、必可急事也、便宜可謂神妙、

廿日、朝天陰、時々少雨灑、未時許參月輪殿、宜秋無人

寂寥、庭院松間翠簾僅見、都護右金吾及渺茫往事、漸

及晚頭武衛禪尼又參、日來在里南庭岸爲水壞損、引北山

土被築云々、酉時許參東一條院、又無人跡、少時而女

房被出、不知其人、無幾言語參西殿、少時見參、戌時許

歸路、於冷泉門問明日政、延引廿五日、依物詣不參云

云、可謂遺恨、

廿一日、朝天遠晴、消息之次家長朝臣云、去十日十禪
師御正體動搖、眼前奉見、至于十四日五、夕日時々動搖、又一昨日十九日十
餘體動搖云々、未時許宰相消息、不慮信實朝臣成茂來
會、欲企連歌、老狂即行向、召加康茂、給具カヒ賦之、
四十餘歌之間、日已沒、而先出向一條相門謁申、自然
雜談、月已昇、歸家聞曉鐘、昨日關白家、下家司一人、
番頭男七八人、依有被仰事、遣宇治神人許、無是非張伏、
各流血、骨髓摧、昇載而歸京、此間神輿歸入吉野給、無
聞打擲之子細者、又雖有警固武士、承神輿不可入京之
由、不承可制打下家司者之由之旨、稱之不聞入云々、
信繁入道爲北白河院、爲御使下向關東、昨日歸參云々、
公雅卿可被作同日位記之由頻被申、已無勅許、可辭參
議由雖有教訓、其身猶豫、依惜國務、不同心歟、事未切云々、申時許
行冷泉、行啓供奉事等問之、此間有、去年新舍人一人事
不被載、建曆制、有之、近年二人少々見之由聞之、仍染裝束二
人何事有哉由一日示之、但非同色、是又常事也、故邦
綱大納言每騎馬、必黃香薄色、二人非同色、定有所存

歟、每事承法性寺殿仰之人也、萌木朽葉儲之、馬副裝束申幕下、去年行幸不異新調、近代人家所召仕之中間と稱スル冠者二人、忠弘下人二人用之云々、日入以前令着裝束、馬、申幕下、番長常騎川者、雖鞍、鏡按、同被借送、雜色平禮如恒、今日參内、關白殿御坐宮御方、即覺御裝束、昇殿人二人、被仰下、權大進賴俊、今一人不聞、侍從代四位四人之内、秦光朝臣返給箒譜、可勤仕由申請、可想事歟、件雜物慥可返給之由被仰、頭中將稱齒痛籠居、件物在貫首牛童宅之由人々咲之、近日禁中無貫首、大辨依難務念忙不參云々、公卿十三人之中、家嗣卿今日申所勞云々、及日入有幕下御消息、番長武信俄霍亂、權隨身雖相催各對捍、求出歟可參、不出來歟力不及由、内々可示宰相中將由也、如此事頗無由歟、但雖領狀日々皆相疑云々、即示送彼人許、可披露由有返事、乘燭以後着裝束、有文、螺鈿、腰地、參之後出洞院西、行押小路南程移時刻、以維人令伺及、夜半被寄出車了、勸改事、大夫殿正二之外無他事、拜賀申願云、公卿着靴云々、獨以良久、轉陸云、上藤、御車立二條南程給、是占其所、不令立車、下人云、前驅六人歟、御隨身在御車前、左右取松明懸榻、顯平朝臣、資俊朝臣扈

從、下車在御車傍、以舍人等、頻雖被催行列、遲々不進來、僅渡來物次第不分別歟、有如京職者、急過諸衛官人等融了、不論衛門兵衛歟左衛門權佐三事、看替、火長皆冠、諸衛尉帶平胡錄、馬助信繁弟歟、以輔子不見知、等不分別、侍從代四位家長、泰光、有長、皇、后亮、依此有經子、事叙、少納言惟忠歟、不體、左大辨、馬副取松明、二人張、此宰相、左宰相中將、領身、前木袴、市比、帶、弓筒、隨身松明、平宰相、每事、尋常、右衛門督隨身、松明弓箭如恒、新中納言、松明、打梨、權中納言具實、馬副、松明、土御門中納言通方、同前、二位、中納言家良、雖具居伺、其體如匹夫、二位新大納言基綱、有居伺、舍人、二人、馬副二人、松明二人張口、自餘在後、新大納言雅親、馬副八人取松明、行列馬前、雜色五六人取松明在後、光明未見事也、亮、看督長、火長、隨身各四人取松明、馬副松明前行六人、松明在後、有居伺、前行、是、事也、本小隨身、布衣交雜色、別雜色追前、近衛府者等、左少將定平、右中將實忠、御輿大進光俊、權大進以下皆悉歟、不見知小男等多、采女、殿上人、長清朝臣、有教朝臣、隨身、如、家季朝臣、雅繼、資季、時綱朝臣、時兼、少年、少將已下濟々、不知之、右兵衛

佐顯氏、右衛門權佐信盛、火長衣帽、糸毛車、金作毛車十兩、皆中上、應持、第八車一、不上之、開付、不得心、童車不見、資季朝臣等渡之間、開曉鐘聲、各逐々扣馬之間、又移時刻、半月昇天了、歸廬、

廿三日、天陰晴、及日入行白川方之次、依懷舊之思、見歡喜光院、大破已勿論事歟、於今者無處于修理歟、見舊遊之遺跡令痛心、於車中聊合眼、無下車之便、依憚外聞、即歸家、相公來談、今日參內申暇、殿下御直廬、明後日參籠社頭、七々日之後退出、可服蘇之由也、前夜入御所、寄御輿之間、通方卿先退見之、兩大納言已下、至于賴資卿逐電、隆親卿以下殘留、兩大夫加列、亮問名謁早出、可謂奇怪、又見物大路、車前燒松明之人、不可勝計、不知誰人、僧俗殆不燒火之人少、其中顯俊卿顯現勝事歟、雅親卿馬口信久、入道、子、左衛門尉着狩衣取付、頗匪直也事歟、宣陽門院御車、大炊御門邊云々、伊平卿御共、寄御車、夜前付宰相、有示實忠中將事、答本意由云云、左府邊甚以疎遠、近年雖如胡越、彼人之事依思往

年事、不忘其好、四位舞人啓將、時行啓之時、頗可有所思之由也、左府不存對揚由、兼被命云々、偏腹黑之故也、不足言、今日後院院司兵部兼綱等、催成菩提院事、書狀云、依天氣執啓如件、是左府教訓云々、天下事惣被亂朝廷事歟、因茲建久之比、辨官必行如此事也、諸卿今日驚奇云々、

廿四日、自朝天陰、早旦洗髮潔齋、自今日始寫經、午時奉書始、老屈以毫浮滯、不奉書終序品、日已暮、燈前又絕思、未時許雜人云、自夜前有其氣、今日巳時生女子、無殊事無爲云々、法印被來、禪尼始如形穢法、昏前修理大夫音信、稱病不逢、

廿五日、天陰、朝微雨、相公參詣日吉云々、終日寫經、奉書方便品、老屈力疲、短晷影暮、

廿六日、天陰、雨間灑、申時晴、終日寫經、筆浮滯不奉書終誓喻品、日已暮、老屈之至也、入夜忠弘入道云、九條殿自昨日御不例物忌、今日頗宜御云々、不聞及驚歎之也、廿七日、天晴、九條殿御不例尋申僧正、別事不御、有護

後日或人云、大臣使者侍、夜中入借取文書之間、失火云々、身之由有返事、仍不參、去夜太政官廳西文庫燒亡云、就官文、列見考定具足留置之、云、社稷滅亡悲而有餘、博打凶徒成群盜、取雜物放火、少々被擄云々、終日寫經、及授記品端、今日十四枚也、

廿八日、天晴、終日寫經、及乘燭終化城喻品、今日十六枚、

廿九日、壬子、晦、天晴、申時法印被來、日來、彼岸有懺法、供僧三人之外聖覺能立云々、終日寫經、日入後終之、四卷及寶塔品、今日十、四枚、

○九月大

一日、癸丑、天晴、忠弘自彼岸始、逆修小善云々、以燈蛾儻爲其飛、今日請證寂房云々、依暇惜不聽聞、宗雲僧都送長櫃、

請前裁送之、終日寫經、不書四卷之殘、奉書五卷、宰相

明日歸京、北山布施取之料云々、

二日、天晴、午後陰、申終雨灑、已始許宰相歸洛、夕示送參西園寺、三位四人、公俊直衣、知宗、時賢、宗時直衣、基定朝臣、宗宣朝

臣、實經朝臣、實任、實清、賴氏云々、自五日可服赫者、終日奉書六卷、至法師功德品、每日十四枚、懺法僧等

歸了、鵝眼密々與之云々、各一連、

三日、自夜雨降、未時漸晴、終日寫經、日入之程奉書

終、寶塔品、口誦品、注師功德品、

四日、朝天遠晴、女房行嵯峨、未時許覺寬法眼來談、成

海法眼今朝逝去、七十六云々、北院御室近習也、今日

聞、晦日又有除目云々、範細列務權、因幡、安藝、自分三々、因幡守藤盛季、中宮御分、宰相

中將國務、舍兄侍從兼之歟、後聞、頭前內府大略可飽餘云

云、去年募重任功造八幡宿院、不日造畢、今年不被告

得替由、無故被停口由憤憤云々、一時許眼法歸了、昏

嵯峨相具性惠房歸、夜深奉書終第七卷、

五日、丁巳、天晴、土御門殿黃門來臨、日入歸參、於燈下

奉書終第八卷、今生最後之勤歟、無事障遂宿願、心中

欣感、

六日、天陰晴、午時許小雨聊灑、終日至于戌終刻、奉書

無量義經、

七日、天晴、終日及秉燭奉書普賢經、老後宿願無事障、

滿足心中極欣感、

八日、九月朝天陰、辰時陽景晴、殘暑久殘、昨一昨日晝

夜着帷、今朝猶熱、未時許行冷泉訪服藥事、當時無爲、

酉時許宿入道宅、自戌時甚雨、

九日、天陰、微雨間降止、終日陰、天曙歸廬、今日魚食、

日來之筋力疲而終日不覺而付寢、老亂之甚也、暑氣猶

入夜着帷、

頭註後聞、平座、三條大納言實、新中納言賴實、宰相中將伊

平參、隆親、盛兼、上卿召侍內壺、召侍從云々、

十日、天晴、夜月清明、入夜淨照房來、明後日故左大臣

殿後家御共、參天王寺之由告之、九月中旬彼寺殿重無

双之晴、縹紫競光華最中歟、桑門交衆極可耻、十月中

旬之比、遂參詣可宜之由示之、懋許諾、

十一日、天晴、已後陰、申後微雨、已時許高倉殿寄車招

未時許良仲來、近日在比叡家由聞之、官文以燒亡、列見物具多燒了云

引性惠房、參給日輪殿云々、入夜省年預國策、以子息

云、如此事、有沙汰歟由之、答云、當時只立后占事、川途經營之外、全

男示送下部松久、今日申時許巡檢之處、省文庫爲盜被

不承他事云々、可然云々、壞穿、驚見之處、有松明等落散之跡、於紛失物者不能

早可申職事、一日比頭辨參天王寺、共人三百人云々、未歸云々、仍以書狀付藏人佐、信盛、近日頗有分明之氣由傳聞、三事辨、器量不足言物歟、社稷之滅亡、是存知事也、先王之圖帳、難留於末代者歟、雖奏達、更沙汰不可有歟、去夏御乳母三位桃伊平、賀茂、後聞、非滋井云々、二條家方達、錢三貫進之云々、世以成喻、神主、造滋野井家奉迎母儀、仙院引出物鵜眼三十貫、各一貫裏紅梅檀紙、御共女房入興、分取喜悅云々、今後性兼房語云、醍醐座主、僧部歟、三母儀尼、彼宮御子息、皆悉此尼所生、當時在有通卿姊、稱新阿彌陀佛尼之房、件新阿彌陀佛母、證憲法印等之妹也、依此緣高倉殿嘗被坐彼房、主客居住之人、此尼偏奉仕爲奴僕、件孫王達以親王後家雅親、爲養母、件養母依照實母不懸養、件尼之父入道法師、同相具在醍醐云云、彼座主御弟孫王武士、不可出家給由有示申旨、通具卿聞之、內々已可扶持申之由所望云々、爲劉氏之名字歟、付視聽只令痛心宜矣、范文子使祝家祈死、

十二日、自夜雨降、終日微雨、藏人佐返事云、今日亡母遺忌也、彼付他人哉者、又示送次官時兼許、返事云、依

所勞不出仕、仍又示藏人佐了、近代職事厭却奏事歟、十三日、朝天漸晴、藏人佐返事、不日可奏達者、其狀返給國兼了、未時許參九條殿、見參之間、寺僧正御房參給、相共見參、日入以前退出、於近衛萬里小路邊西日暮、新月昇、歸廬之後、白月雖清明、老身誰人音信哉、夜深相國送一首給、

十四日、朝天遠晴、已時許心寂房來、左手苦痛事重示合、肩下臂上三所許、加點二所灸之、

十五日、朝天清明、入夜微雨降、近日又旱魃、井水乾云々、露外不濕地、今朝佛經供養、名字依日次宜、送西九條、中陰之所阿彌陀畫像、法花經一部、被物代采絲、一疋、請僧二口相加、裏物三、短尺、誦經一、裏如形事、以女房書狀、送尼上乳母子三條故二位乳母、許、已時許有返事、入道事傳等有之、雖無息無極、依存物由、所沙汰送也、貧家無計略、人定成嘲歟、昨日當五七日歟、禪門返事云、以之爲此喪家之面目云々、兩三日徒然之餘、裁替庭樹、

十六日、自夜微雨降、未後止、終日陰、今日灸肩、

十七日、朝天猶陰、南老嫗地給直物可沙汰之由、忠弘入道今日來示合之、半分已賜了之由來告、黃昏參大相國亭、心閑謁申、月昇歸、明後日九條殿令渡東亭給云云、巷說左右大臣辭退、各任大納言、家良卿依懇望、被

艶雅親卿官、又納言三人昇進云々、末代人任官如打火歟、按察今朝過差折花、參天王寺可出家云々、現當之望忽然、貧老一身遲引旁增耻、

十八日、天晴、巳時許相公來臨、蘇以後滿七日、五節不蒙催云々、藏人佐奉書云、
當省文庫文書紛失否事、本省加檢知可注進之由、可令下知給之旨、所被仰下候也、且被仰合官候之處、申旨如此候、守護事、可有沙汰之趣許儀候也、其間先本省下部、殊可令宿直之由、可有御下知候、仍上啓如件、

九月廿四日

右衛門權佐信盛奉

謹上民部卿殿

兩條

一、民部省文庫文書實檢並守護間事、

右件實檢事、本省尤可加檢知了歟、於守護事者、去年新制之中、當省事無被仰下之旨候、依時議可有其沙汰候哉、

一正八幡宮造營用途事、

右代々仰日向大隅薩摩三ヶ國支配庄公田、其沙汰候也、且文治五年宣旨目錄註進之、以前條言上如件

九月十四日

左大史小槻季繼

當省文庫文書紛失否事、本省加檢知可令註進、兼又守護事計御沙汰之間、本省下部殊可宿直之由、謹承仰候、以此趣可令下知之狀、謹所請如件、

九月十八日

民部卿定家奉

私申、

守護事雖無先例、諸司之中纔所殘、當省文庫尤重事候歟、本省下部本自唯一人候之間、年來雖奔營、得其體有若亡候、被計仰下候者、尤公平候歟、

午時許任尊法眼來談、移漏退歸、

十九日、天晴、巳時行冷泉、不經程備州來、又法眼來會、招請長政朝臣、好士禪尼同來臨、午終始連歌、賦物何々事、家仲康茂在座人與、及秉燭終百句、客人退歸、暫休息歸家、老狂之數奇歟、通具卿上卿獻五節由有消息、自餘不聞云々、

廿日、天晴、未時許三條宮、堀井、一日任尊法眼聊傳仰旨、仍所參也、入見參、申終退出、相公來臨云々、

廿一日、天晴、去夜夢人云、故大僧正御房青水、又補座

主給、心中驚思申給、詞云、山門事衆徒濫訴等、惣不可申沙汰、只時々可然物、懷中持參許也云々、此事殊叶寂慮、快然之由人語之、恩意此事叶時儀歟由聞之、其事猶承久以

前之朝思、以當時座主已被止職由聞之也、又心中存之、一昨日定修難安塔述懷

等示送、有此事歟、若有一分恩願歟、可相待哉、又不然者、思切可赴他方歟由、竊思之、依奇思記之、未時許參室町殿、中納言東帶見參之間也、雖無指事參內久不參云々、於北中門內、御覽彼卿牛、予欲向西亭之間、被參此殿云

云、仍不經程退出了、去此卿二位痢病、雖危急又付減、無爲云々、

廿二日、朝天陰、辰後晴、未時許法眼來臨、言談之間能州又來、皆連歌之餘興、數奇之故也、申時許各歸、入夜宿入道宅、

廿三日、天晴、遲明歸、入夜平宰相消息、有五節資、先年註入可送由也、日來湯治籠居云々、

廿四日、天晴、五節注文公信卿國通卿自身時、送相公許、使者空歸、

居住石藏云々、

廿五日、天晴、申時許參室町殿、僧正御房御坐、同時見參云々、入給之後參向西亭、心閑調申、戌時許歸、

廿六日、天晴、早曉已久、諸井無水云々、早日能州來談、令見卅首歌、事外尋常之由相示、悅喜退歸、多年好士也、灸爛苦痛不出行、

廿七日、天晴、午時相公來之間、相國過蓬門給、所從等依常眼路、招乘車給云々、其後女房等行冷泉沐浴、此家依無水也、傳聞、修明門院令去萬里小路殿給云々、不

知其故、

廿八日、朝天陰、已後晴、今日以盛宣令迎寄女兒、居住于西小屋、有所思猶不混合、未時許法眼來臨、依召昨今參殿下、高野大塔可被營作、被寄國敷、被付功、歟、迫可被仰、以之爲勇僧侶可歸住由也、今日大略被仰定、明日可被下御教書云々、傳說、清範朝臣入道今日揚鞭云々、

廿九日、朝天陰、已後小雨間灑、申時以後漸甚雨、申時許行忠弘冷泉宿、依無水爲沐浴也、

卅日、自夜甚雨、未時陽景見、又陰懸山、夕陽晴、朝沐浴、午時許相公來談、今日向中納言通八講所云々、甚

雨有煩歟、明日可參平座者、以後、備之、未時許歸家、暑熱之

間、忘他事平臥、適涼氣之後、灸等又辛苦、不覺而及九秋之盡、浮生老後可悲可痛、入夜忠弘進南地、可加入地券、去年所相傳之殘地、老嫗券、今日賜直物訖所請取也、西口三丈

五尺、雖不幾於此地、至要之所也、於奥者南北九丈五尺云々、土用以後可築築垣、以件三丈爲門前、向南欲立門、

○十月小

一日、癸未、天晴、秉燭已後相公來、未一點參內、毛車、于時人々未參、

不經程人々多參、即着陣、中納言家嗣、公氏、通方、經

通、參議伊平、隆親、移宜陽殿、上問參會、經高、盛兼、與右金吾、同時參、等卿、

藏人左少辨親俊仰無御出由、上卿召外記、問上臈參否、

申不、參由、召辨、左中辨親、長朝臣、仰宜陽殿裝束事、歸申裝束訖由、次

移着、九人着座、平座人數、頗以過分、一獻少納言爲綱、二獻右少辨

爲經、次居飯汁、中上、上卿召侍從、末座參議目爲綱、歸

來申侍從不候由、次三獻左少辨、次上卿召召使、召外記、

向座上見文奏、見參後座傳參議召少納言、其詞少、納言、目上

臈、宗明朝臣參給文、次又召辨、又目上臈、左中辨親

長朝臣參給之、次自上臈次第退出、奥座公氏、經通、隆

親、盛兼卿等也、經青堀門退出、參宮御方之間、中納言

定高卿參入、于時日未入、主上并博陸於南殿御覽云々、職事

等皆參、親長朝臣着例下襲、兩藏人佐又如此、自餘辨、

少納言、兩頭、時兼等白重、隆親卿着舊袍下襲、伊平卿不

具隨身一人云々、五節隆親、經高卿、上卿通万卿領狀、

被催信濃仲、辭退國云々、明後日有小除目云々、

二日、天晴、短晷徒暮、

三日、天晴、初月鮮明、有除目云々、

四日、天晴、聞書到來、內舍人平季衡、大宰少貳藤資

賴、乘、左衛門尉藤親尙字佐功、右衛門尉大江家致、同、左

兵衛尉大中成綱、同、入夜能州來、心神遠例不相逢、

五日、天晴、今朝於中垣邊、初見嬰兒、今日四十一日、午時向右

將軍亭、相國坐給、即被始連歌、昨日有、亭主、兩人、此宰相、信

實朝臣、有果付都、當時時護摩、在中門南廊、被請出、長政、永光、秀能入

道、如願追著座、賦叫皮何絹衣混合、百句、秉燭已後分散、

此間殊可有方分連歌由被議、

六日、曉更時雨、朝天晴、申時許聊時雨、又晴、大宮禪

尼來談、去比雨降、夜竊盜穿通具卿之士倉、取所收置

雜物、鴉眼三百貫、沙金一壺、濃州桑糸六十疋、鋤鍬云

云、盜等其間有喚玄蕃允之音之由、隣家下人等稱之、

仍召寵其男、非實犯云々、往年在此家取也、稱炎上之訪、京畿口

因營儲物皆被取、歎息無極云々、侍從言家補地頭事、

非實說、爲亂庄務本地頭所構出云々、詔相公令參宜秋

門院、御親法結願、昨日今日暑氣猶殘、心神惱于夜方長、曉鐘

之程北方有火、出雲路道祖神、舍屋相連無空地、北方殊恐思之

間、無爲滅了、

七日、天晴、心寂房來談、此間付相州、綜常在京云々、

哺行向吉田、依口相方請此所爲本所、大將被入、鞠興

云々、暫在途中、乘月被歸之後入宿、及曉雨降、

八日、天陰、雨降止、鷄鳴以後歸、朝沐浴、心神猶惱、念

誦不幾、泰俊朝臣云、雖儲本所、今夜明日冬節、猶可宿、當時

居所北方、他所、於一宿者南、大將軍方、全不憚、仍宿北小路

小屋、此家北一町、

九日、夜雨間降、朝天霧深、晨時天晴、已後大風、曉鐘一聲歸家、未

後風休、時雨間灑、女房參詣賀茂、紅葉之盛云々、前齋

宮一條、明曉參詣天王寺給、和品三品父子引卒御共云々、

十日、天晴、午時許女房向冷泉、此間竊盜頻入云々、

警固者、備後前司來、令見歌、即歸、入夜參向相門、前宮內

卿不慮來會、相共奉謁、言談移漏、彼卿先歸、不經程歸

廬、霜月皓然、

十一日、天晴、雜人說云、六條宮御出家者黑衣、儲大捨笠、成遊去之計給、武士見之奉籠、依此事、京中黑衣法師可停止由、武家致沙汰云々、又云、三位近衛中將於武所飲酒家、遲引牛歸家、伴牛賣之、本主又尋取其牛、不引牛可與起眼之由、後悔云々、昏兵部來談、下人等云、源亞相盜重繼、已承伏云々、

十二日、天晴、午時許大府卿稱路次便之由光臨、驚出相謁、悲歎子細、聞之落淚、其上前殿忽御勘氣、被召土佐之波多訖、悲之中悲歎、又以爲恐爲耻者、此等事當不觸耳、驚歎無極、謝進之後、又大宮三位來臨、言談移漏、自然入夜了、

十三日、天晴、午時許猷僧都來臨、昨日釋迦院僧正逆修曼陀羅供、導師今日歸入宇治云々、未時參室町殿、僧正御房又御坐、同時見參、先是國通朝臣口來在關東、參會、漏天文博士之恩、依傍官等申、本官猶可被止由風聞、依恐思申暇、暫可在京云々、及酉時南方有火、二條

室町云々、即退出向冷泉、火甚熾、宰相自幕府歸來、暫面謁、乘燭以後歸廬、火自四條南室町出來西出町南、至五條坊門烏丸、於大政所旅所之北止云々、宇津宮入道一昨日入洛、與入道一人唯二人騎馬、法師原少々步行云々、偏是爲學法文也、過明年一年可歸云々、關白殿明日令人宇治給、御間供奉人頗副云々、高野吉野事、關東委有被申旨、其使者爲聞上之御成敗在京云々、今度事初以將軍御消息之狀言上云々、其次又被奉御書於前殿、左府辭退事已顯、或說云、於右府者兩大臣辭退、頗可爲勝事、仍可任太政大臣由有一說、相公云、坊城納言獲麟在有洲河亭、由聞之、明日爲訪罷向者、公卿昇進如打火歟、

十四日、天晴、依徒然、堀庭裁南新地、家僕倦了有疲色、

十五日、天晴、黃門病昨日頗宜之由相公示送、但不行向、女房試相訪、法印被來臨、

十六日、天晴、法服音信之次云、對馬國與高麗開諍之

由有巷說、未聞事歟云々、依末世之極、敵國來伐歟、可恐可悲、未時許相公來、夕參相門奉謁、亥時許歸廬、雲雨久絕、白月每夜清明、

十七日、朝天無片雲、午時法眼來談、來月廿一日御室五部大乘經供養、代々如宰相參吉田事次、相示高野吉

野事、定喜律師爲關東使先日入洛、申長者僧正事之中、頗有不實之沙汰喧云々、高麗合戰一定云々、鎮西

凶黨等號松浦黨、構數十艘兵船、行彼國之別嶋合戰、滅亡民家、掠取資財、所行向、半分許被殺害、其殘盜取銀器等歸來云々、爲朝廷、太奇怪事歟、依此事舉國

興兵、又我朝渡唐之船向西之時、必到着彼國、歸朝之

時、多隨風寄高麗流例也、彼國已爲怨敵者、宋朝之往反不可輒、當時唐船一艘寄高麗、被付火、不殘一人燒死

云々、末世之狂亂至極、滅亡之時歟、甚奇怪事也、

十八日、庚子、朝天遠晴、源亞相消息、菅野長尙依夢想、

於北野講歌可詠云々、老病前後不覺、於相公者、早可令詠之由答之、今日出垣南見新地、

十九日、夜天始陰、朝雨僅落、終日雖陰、小雨間灑、已

時許行冷泉、少時備後早旦能登、前攝州住吉來會、始

連歌乎、何々所十句許之後、成茂來加臨、昏能州依幕下

召起座了、戌時許強終百句、各退歸、備後宿云々、予歸

廬、禪尼服赫不來、法眼昨日約束、今日無音、今日暑氣

流汗、近日蠅多於夏、

廿日、夜雨僅灑、朝雲忽晴、辰時又陰、中宮御封宛文省

奏等、年預子男持來、請署名詔事、民部省謹奏字、仍加名

二字返給、或人云、維摩會、辨忌火長弓箭使者馳殺馬

二疋云々、入夜少將教雅朝臣來臨、依舊好移漏相調、

此間雨尋常降、已以滂沱、

廿一日、曉月清明、朝天遠晴、近日只掘栽庭樹、僅養心

神、女房等行冷泉東沐浴、此近邊水絕了、

廿二日、天晴、入夜參河權守清綱卜云人忽入來、雖不

知其人相逢、陳其身上事、故右馬頭公佐朝臣胤子、爲

馬助亮清被養、爲當今代始藏人、至于極薦叙爵之後、

參左大將殿、而依外戚所憑、飽圓僧正寺務停止之後、所

宛給之所領相違之上、爲外舅信光法橋被謀詐、母子之

身已磨滅、極憐愍、同宿哉云々、事體實雖不便、身之分
限不能許容、非計略之限由返答了、

廿三日、天晴、午時許參室町殿、只今有御出云々、入見
參、菩提院舊禪尼爲相訪行間由被仰、不經程退出、未
時許上總國司來臨、大納言殿御使由也、言談移漏、乘
燭以後歸、相公又來談、宰相中將所勞加灸治云々、黃
病歟、尤不便、夜深宿北小路小屋、十月

廿四日、丙午復、辰後陰、自未時微雨間降、聞曉鐘歸入、

自仁和寺迎車來、車不覆雨皮、共侍兵衛
府二人松明、雜色二人、迎取嬰兒衣蓑蓋

入、阿末加津、打時、人形、細長等、ウアヤメ等
裏具之云々、先指入車、

次乘、小兒御方ト云女子抱之令乘、大進ト云女房寄
車、日來約束無變改、幸甚欣感無極、

廿五日、終日天陰、法眼消息無爲來着、三人握翫感悅
由、殊以快然、入夜南方炎上、高辻堀川邊、

廿六日、天晴、巳時許行冷泉、人々久不來、未後各來
會、法眼備州、能州、攝州、禪尼、康茂、賦何金下何、甚
固而停滯、初夜鐘之後、百句終分散、又約後會、十一月

十九日、十二月十日云々、即歸廬、山上又物念、西坂寄
橫川切房二字云々、定修告此由、逐日棄置失度世之計
云々、

廿七日、朝天陰、陽景間晴、宗清法印使者來、見南築垣
之地、三四本所詭付也、住吉使又來見云々、各示付之、

近代人之新儀
已以同心可耻、南隣番匠男南地本土
老嫗子、造其宅、其地本土法師

所從等來打破其屋、聲々喧嘩之間、番匠擲取所來法師
一人面縛、法師等空逃去々、入夜番匠并面縛法師皆行

他所、其跡無人云々、

廿八日、庚戌、朝天陰、有雲間、已後晴、今日居礎日也、
吉時午時午申故令居石少々、辰時許昨日法師相語、武
士來欲擲番匠、令逐電之間、擲取近邊下人等、又壞所
造屋云々、能州來談、依好士也、申時許參室町殿見參、
入夜退出、

廿九日、晴、凶朝天陰、巳時雨降、漸以甚雨、大宮禪尼書
狀云、夜前侍從歸洛、來着此宅、平河兵衛藤馬ト云男
二人、自關東送來、母子可和合同宿、又書狀相模守
時房妻、送

書於右兵衛督母子、可和合山可相傳、志深庄地頭有將軍御下文、但領家領所不可替云々、事之遠亂世之誹謗、偏是以母子違背爲本、於和平者、是本意之理連也、勿論之由答之、雖非遠路之往反、武家之教訓、可謂穩便之儀、夜雨適尋常降、

○十一月大

一日、壬子、曉雨漸休、朝天忽晴、權僧正被過談、相門示給東隣地事、本主已領狀云々、申感悅之由、

二日、夜雨降、朝天晴、時雨猶灑、西北遠山雪白、未時

許右武衛被來臨、相州妻室消息、

言家與世可和平事

藤平馬ト云

男來、示可傳由答了、言家依妻可產、又可馳下云々、酉

時參室町殿見參、仰云、頭辨逢人云、五節以後可有任

大臣二人云々、事實者、尤可爲大切、若是虛言欺、難知

事也、中納言參之間、予退出、

戌時

大府卿近日勘當之由、

於所々吐詞云々、又公良揚鞭馳下關東、不穩便事欺、

依違太白方、宿西小屋、

三日、寒霜凝、朝天晴、未時許行入道冷泉、申時許右武

衛被枉駕、清談移漏、喚寄小童、日入之程來、但着直垂、村邊、相具裝束取入、忽令著改薄物白狩衣、組紐、浮文、紫指貫、裏濃蘇芳、衣二、青單濃袴、予令着之、武衛相具被參二品親王、

侍二人被具光兼又相具

初參以後、直可歸宿所

由示了、予歸廬、小童年十二云々、

四日、朝天遠晴、夜霜如雪、入夜宰相來、吉田祭、

二位新大納言

配、若可然者、欲參新嘗會、又有催欲勤仕由相示之間、

宰相中將消息到來、被叙三位訖云々、今夜有小除自、

藏人佐信盛又示送、其身轉左云々、左大辨同叙由告之、

今朝風開、光俊一昨日還補五位藏人、中宮春日祭使、

日來結構可爲職事由出立云々、前大納言實、又給信濃

國云々、通方卿改任上野國司、

近代以仕國司爲其得分

拜賀猶可

被具前駟之由示之、父子連座、雖不出仕、猶極不穩事

欺、剷除之遲々、世定成嘲欺、

五日、朝天遠晴、未時許相公來、直衣、爲畏申參殿下之

次云々、夜前參內申入之、少將內侍云、左大辨侍讀勞之

由、懇切申之、上薦許申者、可被付上之由申請、可然乎

由被焚、有勅許之由語云々、拜賀日、今日之外無之由

道澄示云々、重問之處、拜賀十日十一日宜、著陣無其

日云々、然者十日拜賀、五節以後着陣何事在哉者、除

目、侍從源資道、通、且親朝臣子、朝時同母弟、東舉狀、中相以云々、中宮少屬安倍盛

朝、信濃守藤隆雅、實信卿、宮分、越中守藤賴俊、左衛門權佐

信盛、少忠紀末光、右衛門權佐平範賴、使宣旨、三位爲

家、家光、忠弘夜前歸京、今日來沙汰候事等、朝間奉書

阿彌陀經一卷、入夜南西方有火、大炊御門、北室町面

小屋云々、經程不滅、但不出町外云々、亥時許又坤方

有火、秦基朝臣家云々、少將雅繼同宿、春日祭使也、定

違亂歟、

六日、天顏快晴、夜霜雖如雪、晝無雲氣、蠅成群如盛

夏、乘燭之程參謁相門、近日三星合變、一昨日已迫寄

之上、夜部炎惑融月中、甚重事云々、明後日東殿可令

渡此家給、仍可住北山者、兩卿御產、左大將殿來月、殿

下三月、重疊無間斷、關東招請女房下向、雖示奉由、依

七日、天晴、午時許法印被來、大將被向吉田云々、未時

法眼來臨、且爲御使向宰相許、被悅仰、由也、已罷出了、此由可

傳之旨答申、

八日、夜霜、朝霧、陽景快晴、忠弘入道、來依吉日、令居

新屋持佛堂小雜舍侍、一文間、平屋、等四字之礎、

九日、庚申、天晴、春日祭近衛府使右少將雅繼家燒亡、

申觸穢由、以會參氏人爲代云々、三ヶ日事也、何不指

替他人哉、中宮使藏人大進結構經營云々、申時許宰相

來、日入之程行吉田宿、亥終許南西方有火、不知何所、

聞曉鐘歸廬、

十日、十一、月節、天晴霜凝、今夕宰相申慶賀云々、牛童車副

賜裝束、前駟衰老盛親朝臣、近日有答、已罷居、云々、尋之示可來、此家仲雖非

當職、依無人可相具、雖可行向方違、後朝窮屈、又土門

居所極見苦、不可被來由示送了、可參所々、內、中宮、殿

下、中宮、前殿、左大、持明院殿、不可過之歟、戌終許盛宣歸

來云、參內訖、盛親朝臣還、相待間夜深、牛童、薄色、白、

十一日、自夜雨降、臨昏休、月明、家仲云、夜半許罷歸、

參所々、如昨日示云々、今日關東女房入洛云々、宰相送書云、藏人佐奉書如此、何様可申乎、卒爾之間、尋常之儀不可叶、前驅裝束如夜前者、白晝可見苦哉、奉書云、明後日大原野祭上卿無參仕人、吉田祭可隨神熊云云、存公事勤仕此祭哉由者、返事云、辭退有恐、經營又卒爾、然者申難早參由、前驅京中乘車、於七條桂川邊騎馬、如夜前、打梨、及黃昏參社頭、雖夜際遂神事哉者、建保二年冬祭勤仕之愚記注送、依次第引失也、

十二日、天晴、昨日東方女房粟田口儲車、先入冷泉之後、宿周防宿所、大炊御門、萬里小路、後日可居四條東洞院云々、大原野祭事、左佐催出左大辨由示云々、芳心歟、今日立新屋持佛堂之柱、打定固渡桁、口來於入道、宅道儲之、泰俊朝臣云、變實事非三星合、去五日出了、犯火了、又火了犯木了、木與土不入犯、然而占文不劣三星合、又月耀犯彼三星、不快相重、熒惑近哭星三尺二寸、今朝明定追歟、匪直事者、夜半許行出雲路面小屋、川崎住、僧房、不及一寢、聞鷄鳴歸、依明日太、白方也、

十三日、甲子、朝天清明、風寒、今日依吉日南方立門、已時、新屋上棟、西京、極末、小路更開東西、家西築垣、西、四丈餘置之、向伴路南面立唐門、前路二丈之南、可有芝築垣、其東三丈餘、依隣境之竹、此路不通也、門內七丈餘立屋、狹小丈間、三間四面、其東立持佛堂、六尺間四面、有、屋西有五間丈間、平屋、可爲、侍所、卑小以儉約爲本、然而造作之名字人定屬歟、雖不似涯分、依思序門之耻也、予不知其事、只入道法師營之、泰俊朝臣先日勘日時、申時上四字棟了、番匠男修理職方未、未、生云々、入、馬、二疋屋料、賜之、檜皮茸、五位、馬一匹、壁塗馬一匹、又各、給祿、隨分稱作法、有進拜事等、不委見、入夜宰相來、今日參北山、此東隣事、其直法申狀、非普通奇怪也、當時所相傳所之近邊地事、可尋送由有嚴命問、忠弘入道令書進假名狀、又勞去秋、一通相副、明旦欲獻覽、新嘗祭右金吾勤仕云々、諸事冷然、中宮淵醉、預催公卿、殿下、左府、右府、右大將、大夫家良卿、經通卿、實基卿、權大、具實卿、隆親、盛兼卿云々、十四日、乙丑、朝天快晴、早旦內藏頭使者來云、年預職

景日來無爲、一昨日頓病、昨日終命、忿劇之比寮務牢籠失東西、如此時何樣可計略哉、明景又月來病惱、當時不快云々、答云、寮務不及一年、非分事不尋知、罷過天今加推察、年預雖死去、目代下部相共暫行事、強不可及闕如歟、又云、明景雖病者、知案内者也、乍在穢中、小事問答如何、答云、此事私難計申、尤奏聞可被隨御氣色歟、但明景子定多候歟、輕服非深憚、以其身爲年預、私語問明景、可爲公平歟、尤可被奏問哉、櫛風流名字、雖心中冷然、依先日懇切消息、送通方卿許、造最小之屋、左右後各立一翼、其下又敷一簀、屋上葺青櫛二裏、有櫛、四裏敷屋前并左右屋前栽、枯蘆屋中居張小兒、管小袖、有文、隱天棲志攝津國乃心也、以赤地綿爲水引、都合十裏、最略櫛也、已時許法印被來、向北山由也、同冠禪尼參北野、入夜法印又自北山被歸來、聊依示連事也、送力五節參入、傳聞、張臺供奉公卿、殿下、內府、兩大將、中宮大夫云々、中宮淵醉出仕人、重長、顯平、實俊、有教、賴隆、資俊、時綱、有資、源家定、四位時兼、信盛、隆盛、有時、兼輔、實光、賴

行、信時、實任、家清、顯氏、公有、親氏、賴俊、實清、實直、伊忠、定兼、光氏、忠高、資信、範賴、經氏、經光、定雅、菅高長、高忠時、源仲業、藤永經、平繁茂、非藏人源仲遠、藤有倫、藤仲綱、

十五日、丙寅、朝日間陰、陽景漸晴、時雨聊灑、昏後頻降、如形風流送平相公許、詔承明黃門作出、以薄樣作莒蓋入櫛、如敷、其上以薄樣水、結文、付竹枝并文付水、是袂衣雪歌之由歟、女房參詣北野、不聞世事、曉鐘之程青侍等云、只今中宮淵醉訖、着座公卿如兼日之聞、蒙衣法師昇五節所、東北門武士擲取剝衣、可打付宿所由稱云々、

十六日、天晴風寒、時雨猶灑、童女御覽、隆親左大臣、兩大將、中宮大夫着座給之由、雜人傳語之、扶持殿上人一人不知其人云々、北野三箇日參詣了、後聞、付人第少將隆盛、今日許出仕云々、今夜入道關東、參北山奉謁云々、

十七日、戊辰、天晴、未時許宰相來談、夜來時々見物參

入、夜兩頭各以藏人二人令取脂燭、相及、出仕殿上人實
俊已下相隨、中宮潤粹、初獻大進光俊、二獻亮藏人忠
時、取瓶子暫被響應、三度、相出朗詠、人々相、勸盃人差
劍復座、又祖如例、右衛門督右兵衛督等衣冠、每夜見
物參入、夜公長又見物、非近習、可奇、又夜々直衣侍臣不交
衆見物云々、可謂奇怪、

一今月十二日、癸亥、昏戌時熒惑犯哭星、第一星相去八
寸許、同十四日、乙丑、戌時犯第二星、相去二尺許、晉孝武帝
太元廿一年六月、歲星犯哭泣星、是年九月帝崩、宋書
天文志云、晉安帝隆安元年正月癸亥、熒惑犯哭泣星、
四月有兵喪、

一同月十六日、丙寅、昏戌時白虹見西方、從來往戌、白虹衆亂
之首、百殃之基也、又云、白虹見臣有變、虹首尾至
地、流血之象也、東晉紀云、白虹見國有喪、易政連
連、災變如何、

右京大夫親房朝臣齋宮卜定用途受領功涓塵可訪之
由、度々示送、闕乏之家心事相違、雖有其耻、常合眼

人、指經營名字難默、最小分隨尋出、今夕送之、有欣悅
之返事、

十八日、晴陰不定、入夜星踈明、夜前節會內辨內府、外

辨、土御門大納言、始終不入御云々、可貴公卿、雖有遲速皆出、內辨宣命使、此宰相許云々、雖不入內陣無將、伊

平替澤云々、左大將殿、中宮大夫、中納言、家長賴實、參議六人、

公雅不出仕、盛乘名治一夜許參、小忌具實、蘇芳裏下襲着小、是例下襲白西(雨

尻許改之、蘇芳下襲ト書故實ヲ、父卿依不受有識口傳不

知之、任盜取家文書、蘇芳ト得心歟、無疑事也、定通通

方卿稱不知由、御酒勅使二位、召大歌別當、侍從、別當代、定高、宣

命使皇后宮權大夫、大辨祿所每事無爲云々、上首定通

卿不入備後五節所、仍各引、少將有教朝臣送櫛、三裏、答

芳志感悅由、依一日示送、人夫送平相公許、爲運樹

十九日、朝天快晴、今日好士等、例連歌之由約束、予有

風體不向、信實朝臣來、宰相向北山丁云々、法眼音信、

廿七日以前不能出京云々、明日卜定、姬宮、自持明院渡御冷泉、御

渡、殿上人可前駟有催云々、日入之程、二位範宗卿來、

坐言談、入夜歸、一寢以後即有火、驚駭之間曉鐘報、北

二町出雲路之東、川合祝某家云々、失火不移他所、無程滅了、

廿日、霜凝霧深、天晴雲盡、宰相來、明日參吉田祭、如此祭、更不受可然口傳、粗見江次第、又隨當時形勢、召使引導辨行事不澁思、又忘帶了、抑明日欠日也、初度事不可然、只初逢氏社祭、又依大原野遠、無是非行之歟、頗不普通事也、不沙汰日次云々、予又老耄忘却了、猶可具前駢云々、白晝人可觸目、自吉田家出立可宜之由示了、此御時未入御五節所云々、可謂善政、但女房數十人、寅辰夜群入取櫛云々、平相公五節所頭辨實俊、顯平、有資等入_{節會夜事不始時}、朗詠今樣亂舞盃酌、重長成紅顏云々、追舊儀歟、

廿一日、遲明時雨、朝陽即明、吉田祭宰相着行冷泉、女房母室祖母來會、冷泉此家人々、又行向對面云々、未時許右衛督被過談、昨日臨時祭御馬御覽、定平朝臣候毛付、成實束帶正笏參內、待七八人許相從、_{無雜色}、停立門內庭上云々、寅口相待從實直亂位階行列、實信卿見之、

雖奇驚不能制過了、其實下襲構衣斐染云々、節會衣裳押倒寶聖障子、_{板障子也}、齋宮卜定依御障、延引廿六日云云、入夜女房歸、吉田祭參勤了云々、

廿二日、癸酉、霜凝天晴、臨時祭、依明日太白方、宿出雲路面小屋之次、暫不下車、立大路相待之間、亥時許松明光見、鈴聲漸聞、舞人八人過了、後經半時許、使乘車、奴袴者兩三人、衛府四五人歟、蠻繪隨身、雜色當色朽葉青衣、於近年可謂尋常、先是陪從乘破車、_{三四人乘歟}

其外不見、太奇怪也、使之後又舞人一人、依懷舊老狂見了後、入小屋一寢、聞鐘聲歸、今日參內公卿乘毛車人、_{三條大納言、此宰相當車土御門大納言}、家嗣卿、伊平卿、親定卿、不著綱牛

{道力}童進之云々、伊平不具隨身一人、不足言之體歟、雜人等說也、{口入以前之間見物云々、其後事不知}、後聞、出仕公卿定通、實親卿、左大將殿、中宮大夫、家嗣、公氏、通方、實基、定高、具實、賴資、親定、伊平、隆親、經高、爲家、家光卿、夜陰之後不委見、退出云々、使右少將資季朝臣、舞人公綱、侍從、顯氏、兵衛、親氏、同、賴俊、侍從、貞時、中務、光衡、同、氏通、

侍從、忠兼、同、高階忠時、平繁茂、陪從有長朝臣、顯經朝臣、仲房、邦康、德兼、範昌、所作親繼、親賴、親季、經尙、藤親能、源家尙、還立此宰相、公長、韓神被召立、即早出云々、

廿三日、天晴、霜如雪、氷結、入夜風猛烈、雲飛揚、

廿四日、風寒雲晴、朝天間晴、昨今牙寒、地凍風寒、未時許法印被來、明後日卜定、姬宮御車寄被催、右大將被申所勞了、仍廿七日仁和寺不被參云々、相國自一昨日坐實清宅云々、予稱病近日熱居、奉書阿彌陀經一卷、

廿五日、十一月中遙漢晴、朝陽鮮、終日寒風牙烈、午時許長

猷僧都來談、結緣勸進云々、依庭弱、雖小事不能領狀、

申時許葺門榆皮裏棟了、門前芝築地築了、門前路三丈、四尺許也、關

東每年貢物、今年以將軍御消息被進內裏、頭辨北白川

院右兵衛督云々、武衛書狀云、進御物相副解文進上

之、可令披露給、恐々謹言、月日、右少將判、右兵衛督

殿請文、以此旨可令披露給、光俊恐惶謹言、如此可

書歟者、此事先例傍例無之、只以今案、此定可宜歟由答、

廿六日、朝天牙、甚寒、申時許雪降、即晴、番匠等自今

日來、口來於愚弘、宿所本作入夜相公來、明日參仁和寺、臨時祭日

人々參、及秉燭五位藏人光俊、於露臺方高聲喚大理、

其詞別當殿云々、爲令見上御局打出云々、別當無、奇解、二獻

之程退出了、重坏長清有親云々、近年中少將皆隱遁

歟、排頭花及伊平卿、定高親定卿、先早出云々、還立人長召使時公長

卿推參、御簾中喚壺云々、雜人說云、一日比幸清法印

初行聲三位成實家引牛、名牛乞取、盛乘卿、馬、關東貢物、察御馬、以紫染物作

莖蓋、積五節櫛如山岳、所具子姓六人、悉同盡積櫛、酒

如淮泗、幸清飲酒五十餘坏云々、今夜齋宮卜定、

廿七日、遙漢晴、寒風烈、申時許雪埋地、仁和寺宮五部

大乘經供養、秉燭以後相公示送、公卿獻源大納言雅

親、前中納言範朝、皇后宮大夫、土御門中納言、通方、高

倉、、經通、別當、二條中納言、定高、右衛門督、平宰

相、侍從宰相、左大辨、右兵衛督、三位範宗、殿上人頭

辨已下廿餘人行香、及此宰相、宮大夫二人不立、聖覺說法、人々又落淚、堂童子行光知仲云々、殿上人長清朝臣、隆範、家季、宗平、信實、定平、伊忠、顯氏、賴隆、親俊、有親、奉行、隆盛、隆宜已下不見分、錦被物一、御綾五、唐綾五、廿重已下委不見云々、

廿八日、朝天晴、严寒、

廿九日、天晴、昨今風休、严寒、臨昏任尊法眼送庭樹二本、櫻、雞冠木、雖及夜景栽櫻、加衣天明且可栽、

卅日、辛巳、天晴、風靜、栽雞冠木了、忌日事如例令修、請申任心房受戒、午時、自曉扶起、寶篋陀羅尼、阿彌陀經、法華一部、不堪老骨終日所候也、讀勸發品了、日已沒、幽靈至于最後之夜半、暗誦此品、終思其機緣催悲淚、今日葺始屋檜皮、南面、

○十二月小

一日、壬午、朝天遠晴、未時許將盃式寶來、每來必對面、自前殿有召、無牛童、而及秉燭參、仰云、子息首服事猶

思立、但非去秋所示、是依不當之心操、月來棄置之童也、年十此間雖不將來、頗復尋常習手跡、已似能書、相國猶可令首服之由被示、其名字猶宜歟、實字之所殘良實、能實一門公卿也、但其字替強不憚、恒佐經輔、雖先祖長良御名能長有之、依字替不憚之歟、伊實、近代皆用公卿不憚、猶有事疑、房實、月來予舉申之、等也、又其儀可爲密儀、於密儀者皆嚴親自加冠、六條殿、基、松殿、故殿、隆忠公、道經、兼基、入道大納言、教、此中爲前官人加冠、只道經許也、極不吉、兼房於六條殿出居最密儀、兄養父、內府、兄養父、故殿、中宮大夫、故左府、非養父、此例當時爲兄不吉也、仍大將可憚、因茲欲請右大將、雖親昵又已他人也、然者可有馬并贈物哉、暗儀贈物野郎也、能實元服、大宮大夫俊房居鑾、被引馬也、是又不吉也、可何樣哉由申合、松殿御返事、大將被引馬、被贈裝束直衣、有其例、鑾又有何事哉、名字近代用一門公卿已多、良實於僧名者不可憚、房字爲上事、此家之外無之、頗可驚耳目、又雖先祖不至高位如何、重申能實例不吉事等、然者止鑾被引馬、何事在哉、理髮可有祿哉者、此儀如何、申云、於良字者、第一御名之由、大將殿御

時所申候也、字替時強非同名、僧名勿論、是御家嫡御

名也、今被用勿論候歟、於愚意者、公卿同字名、猶不見

吉例、房實又宜爲後々御名歟、其日十三日甲午、叙位、欲

申試正下也、相國以侍從宰相可奏

御冠御直衣

由被示、自內

定可被仰博陸歟、但左大將殿可有着座、兩大將相親以

之爲詮歟、公卿直衣、殿上人衣冠也、申承退出、

二日、夜雪埋地、陽景朝未晴、已後天晴雪消、依老病不

出門、只卷箔望遠樹、陽景頗和暖、工匠不來、楡皮不到

來云々、初月高懸、爲遠南宿西小屋、

三日、朝天陰、午後寒雨降、曉鐘歸、雖雨適降、近寒無

極、入夜之後、雖聞簷溜、深更又止、

四日、終夜今朝雲暗、雨不降、訝寒、辰終陽景漸見、午

後陽景和暖、女房物詣、

五日、霜凝天晴、午時許法眼來談、五部大乘經口、雅亞

相帶劔把笏參入、

時撤之

通方卿有奇氣云々、殿上人廿

二人兼被中、博陸頭辨又爲御使參入、申其人數等、

布施以前

出、一昨日左府後見藏人大夫入道と云、高力島有物死去、訖

井彼堂別當法橋之舍兄、彼家中第一者云々、

六日、天晴、雪飛、未斜出門參綾小路宮、謁公性僧都

公一法眼等、少時見參、月前退出歸廬、宰相來、來十

三日可着陣、

早旦之由存不具前略

七日、朝雲往來、陽景漸晴、蓬屋近邊井水逐日乾盡云

云、末世之人無飲水之計歟、雨雪共不降、何爲哉、未時

參前殿、御浴之間、左大將殿見參、仰云、依高麗來擊之

疑可仗議由、一昨日大貳語之云々、不知委事、末代之

極歟、畏而有餘、退出、昏行冷泉、爲沐浴也、宰相明々後

兩日、可參西園寺八講、

二日之儀

留宿此家、

八日、霜如雪、天遠晴、

謹奏變異等事、

一、今月四日、乙酉、昏戌時月熒惑星、

相去一尺二寸許

謹檢天文要錄云、占曰、月犯五星、其國亂亡、民人有

背其君者、不出二年、又云、月犯熒惑、內亂貴人薨、

又曰、月犯熒惑、其君失坐、又有病憂、貴人傷、內兵

起、五穀不生、人相食、期不出年、遠二年、又曰、有觀

者、乙巳、占云、月熒惑相犯、戰勝之國大將死、天下有貴女之憂、期不出年、遠二年、五星占云、月與熒惑合宿、國主亡荊州、占云、月與熒惑行、國大將死、同日同時太白犯哭第一星、相去六寸許、

一、五日、戌時犯第二星、五寸許、

謹檢天文要錄云、哭星主哭息愛悲也、甘德曰、哭星主喪車、天地瑞祥志云、太白犯哭星、有哭泣事、又云、五星犯哭、天子有哭泣事、宋書天文志云、晉孝武太元四年十一月丁巳、太白犯哭星、占云、天子有哭泣事、五年九月癸未、皇后主氏崩、又同廿一年六月、歲星犯哭星、占云、天子有哭泣事、五年九月癸未、皇后主氏崩、又同廿一年六月、歲星犯哭星、占云、哭泣事、是年九月帝崩、

一、同月七日、戊子、昏戌時太白犯歲星、相去八寸許、

謹檢天文要錄云、歲星與太白合、飢爲疾內亂、又云、歲星與太白合、相易、一云、土功興人民病、又云、歲星宿太白、四夷侵內、一云、女后有喪、又云、太白與歲

星合、有白衣之會、不出九十日、又云、太白與歲星合、有破軍、天下大飢、天文錄云、太白與歲星合、亂關易改、天下兵甲起、右變異等、謹以申聞謹奏、

嘉祿二年十二月六日正四位下行陰陽頭兼權天

文博士石見介安部朝臣泰忠

日出以前歸廬、能登國司來、依寫經不相逢、阿彌陀經、書了、經國宿禰來相逢、酉時許歸、宰相宿北山不歸云々、車立此家、

九日、霜凝天晴、未一點參宜秋門院、女房云、今日人不參、殊有其忠歟云々、不經程導師房經律師法眼、參云々、即被始請僧二口、講袈裟鉢衣、繪像阿彌陀、文殊、彌勒、三尊法華經一部事了、予取布施、被物、裏物色々有一結、請僧裏物兼教、奉行四度取之、日入退出、窮屈直歸家、日在衣、

十日、自曉天陰、巳時許雪忽降、新中納言賴資消息、攝津國勘濟公文事奔走候也、前司能教猶子候、一向爲身大事奔走候、當省事平可蒙御恩候、任近例如班荷者可成上候、可存其旨之由、給御下知狀、可付國兼候也、

大略沙汰寄候了、此事狂可有御許容候歟、口可給候、如小祿も、國兼ニハ漸々可沙汰給候、不可白紙候、只今書急可被沙汰由、下知之狀有弘奉書、付彼使了者、省官不請事也、年預國兼示送云、勘濟公文續文事、先例年預成返抄事候、于今度無其沙汰候之間、今朝尋申候之處、被下御教書、依爲省陵遲之基、申子細候了、其理可然哉、無述事候、答云、近代之人惜有限用途、語無故傍輩不領狀者似貪欲、仍所改書狀也、有可被陳之旨者、早可答其子細、有人語者、雖後々可送書狀、有存旨者、又可示其旨者、西園寺八講初日、八口、右大將、三條納言、土御門中納言、侍從宰相、堂童子以邦、忠廣、結願、九日、大將、大納言、二條中納言、二位宰相、平宰相、侍從宰相、右兵衛督、宗宣、加行香堂童子、實清、行光、殿上人信實、實經、兼輔、信時、知宗、賴氏云々、十一日、天牙寒、雪不埋地、黃門又懇切、又書送書狀了、十二日、天晴、今朝無霜、午時許參一條殿、妙音院御對

面之間見參、出給了、後仰云、明日首服叙位申正下、未聞左右、此間自相門、進此宰相書狀給、狀云、被仰博陸、以範輔委可申由令申給者、仰云、若抑留歟、大將之時我大臣也、仍叙從上了、今度於我始申正下、故者子、禪閣、前執柄子、殿下、前關白猶子、師長、有其例、何不被許哉、近代之儀、凡人諸家、又至于高實卿、越階無所據、先例事多被行、限此事被仰者、元服可延引也、此由可申相國、予參彼亭申此由、所詮只以職事令申給許也、其上不被許、延引尤宜由命給、歸參申此由、以信盛今朝被申之處、信盛物詣之由申云々、二位中將俄稱病者、侍從宰相可爲扶持之人由被仰、今度不可居饌、只加冠之人引馬許也、先々不居饌、皆又自加冠、請他人時多居饌、彼是斟酌用略儀也、秉燭以後退出、又參相門謁申、亥時歸家、

十三日、天晴、自晝陰、宰相今朝着陣三位之後云々、不具前証、只令儲官人、早旦參着云々、同日隨他所役向、上臈有指事之時、不憚例多云々、巳時許宰相來、早旦着陣

了、今夜參一條殿、昨日內裏日禱、明日大聚會五卷日可參、廿日尊勝寺灌頂、分配、廿一日弓場始、廿二日、兩女院佛名、同夜宿前外記廳又修理、結政被移官廳云々、今日可宿始新屋、日次宜、每事依違遲々、未敷板敷、不葺終、來廿一日壬寅、又吉日云々、入夜以下人令伺見、公卿右將軍以下參進云々、

十四日、自曉微雨、宰相返事、夜前每事無爲加冠、實任、應從、

公卿、左大將殿、二條中納言、定、平宰相、侍從宰相、左

大辨、理髮雅繼朝臣、脂燭實任、公綱、替脂燭重長、兼

康、圓座有長、家守、置物具、信時、能忠、忠高、奉行藏

人佐信盛、引出物御馬、左大將殿御隨身引之正五位下禁色事、皆

以勅許云々、已時許爲中夜前事、參一條院見參、仰云、

自關東申任槐事、書狀今朝到、表書頭中將殿近日此事雖無聞

事不可厭、可經奏聞歟、可示相國、少時退出參東亭、夜

前移徙其東降新亭云々、後朝憚思、仍歸家、臨昏行入

道小屋沐浴、亥時許歸、雨止、雜人說云、公雅卿猶解

官、範輔任之、宣經申三位、忠雅公中納言于通方不聽禁色、又我子由入道中、賴隆頭

已一定也、而親長泣申北白川院、又被獻御書於禁裏、如兄去辨可補、仍光俊加辨云々、近衛中將失前途之時歟、自定經以來昆籠、辨官去辨、超人之道出來、近將之耻自是始、每聞之摧心肝、難堪事歟、定經、親經、狂事也、通具謀橫、親國、清長、兼定、盛經、宣房、成良、猶放埒、親輔、經高、雖有器依家卑六人習于定經之故也、宣經三位甚僻案歟、非其理

而雖貽其職、於爲散位者、前途可戴兼忠、基良、具定、

基保、光俊、實有、實平歟、此輩何被超越哉、於其身極

無益、於朝廷又非據歟、末代事又如此、

十五日、朝雲漸晴、臨昏雨降、百更月晴、終夜不定、午時許心寂房

來、有觸穢事、又城外久不來、今日法勝寺大乘會五卷

日云々、依人多明日可參由、催宰相由示送、今日新

屋打長押了、少々立妻戶、念佛奉書阿彌陀經、今日廿八卷

十六日、朝雲分飛、牙寒、終日陰、午時許參常住院僧正

御房、見參之間前中將忠明朝臣、參會、相共見參、予先退出、

參殿見參、及秉燭退出、向今出川新所謁申、月昇歸家、

今日始被參持明院御所之次、女子事被申出、於被申者、不及左右由被仰、偏是存子息由申訖者、恐悅申、男女子息、依此恩言遂前途、已無遺恨、此申限申之、

十七日、天晴、霜如雪、午後陰、辰時許除目、御前座事未訖由、聞難人說、秉燭之程見聞書、參議範輔、兼、中務丞四人、侍從良一、藤輔長、源雅家、內舍人四人、監物三人、皇后宮權大進平時親、少進源遠兼、權大屬、少屬、權少屬、大舍人允三人、圖書一人、縫殿二人、內匠權助菅原長忠、源實澄、式部丞卜部基朝、大學允中賴高、益博士菅有景、治部丞一人、玄蕃五人、兵部一人、刑部十人、少判事、宮內丞、大膳進二人、大炊允二人、主殿允二人、典藥一人、西市一人、修理進三人、參河權守、相模權守、豐後、左少將藤實躬、藤家任、將監九人、右少將藤實正、將監八人、左門尉廿人、少志一人、右門佐藤資能、右尉十二人、左兵衛十八人、忠康在其云々右兵尉十四人、左馬允七人、右馬允八人、兵庫一人、從二位忠行、散二位已三人歟正三位公雅、基保、正五位下賴氏、

實清、從五位上大中盛清、藤清一、藤能教、藤津功過、使宣旨、左衛門尉友景、左兵衛邊、藤人頭、右中辨賴隆、

十八日、朝天快晴、早旦相門恩札云、女房禁色事、一昨日殊申入、恩許之由、只今可其告、殊悅思者、男女兩息依吹舉之恩、各遂生涯之望、感悅餘身之由申之、予姊妹十一人、面々官位悉有此恩、是被優祖父歟、於身無此事、年來之鬱訴也、縱雖沉淪之家、可被優外家之由、口來所申付也、今有此恩、不肖之身、男女之榮、分已以滿足、後白河院京極局、母爲忠朝臣女、自仁安至于治承唯一人、祇候乘御車後、近者奏者餘人、申暇出家之後以三條局爲替、八條院坊門、內三位公佐等之母、同院三條、予一腹、後爲盛賴朝臣、同院按察、後爲大納言宗家卿室、同權中納言、母民部少輔顯妻、同院按察、已上(下)皆予一腹、同權中納言、其女也、後爲賴房民部大輔妻、同中納言、始終宮仕、御高松院新大納言、同權中納言、乘御車後、朝臣母後爲、左衛門督家通至、建春門院中納言、同權中納言、八條院同人、立后時利參、上西門院五條、在仁和寺、爲五宮御乳母養子、前齋院、式子內親王、女別當、乘御車後、他腹、同齋院大納言、當時存生、承明門院中納言、存生、已上禁色也、先考爲籠居之人、官途遂雖沈淪、法皇於事有思食故歟、女子禁色、男子昇殿、付時御恩異他、於下官身以此恩許、

爲微望之滿足、未時許參一條殿見參仰云、除目議所、
二獻居計之由聞之、近代無此事、尋中內府、返事云、長
保二年御堂例也、於舊例者不限此事、近代一獻不居
計、用來之例也、何強被行長保之例哉、被送大間、無殊
事、但少々有不審、其內尻付五節所申云々、是何事哉、
獻舞姬之人申文是勿論、其外五節所誰人事哉、先例有之、
歟可尋、
又諸宮給以御申文、最初可任、于大間面、其官最初不
書、在功等下若付折紙書之歟、不得心、大將取菟文退
出、曉鐘之程云々、出仕參議只二人、平大功課讀帳書定
文、大辨兩役納言可見合之由、內府被稱、又如何、經高
給下勘文、此役人無人之時、被召著定事歟、予聞此事
心中極爲奇、除目必公卿可出仕事也、乍居其職不勤
一役、存外事歟、縱雖不堪功課定、何不勤清書哉、極
非本意事也、退出之間、依參會謁前中將、秉燭之後歸
家、
十九日、夜雪埋庭草、朝天無行雲、辰後雪霏々、午後天
晴、宰相來、夜前參東一條院御佛名、中納言定高卿、範宗
卿、長清、基定、信盛、

宣賀、乘下名明後日、日、廿一今夜內御佛名、可參、廿一日弓場
始可參、一昨日大乘會五卷未時由催、早參、無人之間、
參修明門院歸參、公長卿辨有親入夜出來、上卿公氏卿
咎辨之遲參、脫アラン于退出、行道及亥時、除目宰相濟々由、聞
之、仍休息、後聞、參議只二人、經高給下勘申文、被休着
書定文、賴資卿見合、家光讀帳又清書、關白殿仰云、此
除目令任者不任、不令任者多任云々、日來予牛一頭、
可被求出之由詵之、今日引送之、凡卑者也、留之以本
牛班、今夕欲令修土公祭也、雖有上牛之氣、依人見知
厭却云々、戌時許泰俊朝臣來修之、七條院御不例依無
憑、相國今日參給云々、
廿日、夜雪埋草木、朝天無雲霧、今日適葺終新屋、一字
宰相狀、夜前參佛名、中宮大夫、皇后宮大夫參、六人
伊平疏輔之外、行香訖、中宮大夫殿退出、終取祿、出居師季、定
平、雅繼朝臣、三獻云々、頭中將稱病不出仕云々、未時
許參向相門、申一昨日感悅事、昨日參七條院、御不食
已送旬月了云々、卿二位此十日許祇候御、處分等皆被

候定、修明門院、北白河院、御室、齋宮、雅親卿妻、法印某、二人入此內云々、日入之程參西殿見參、移漏退出、除目大間薄墨人不見分、清書宰相申出、任人折紙書之、任人又被書落事十餘人、諸官散々、馬允任輕負、兵衛衛門任馬等有其數、內々被仰外記被改直、書落者下名可任云々、於事人不爲可歎、御一家之耻辱在此事歎、

廿一日、天晴、風牙雲飛、除目下名射場始云々、弓矢入弓於袋送宰相許、公卿弓尤入袋令持、臨刻限取出尋常也、已時許宰相來、明日荷前擬侍從、使可勤仕、當日定大辨不參者、可右筆、使親定、光俊、家時卿領狀、上卿當時闕如云々、今日弓場始、射手催出公卿、又闕如云々、左宰相中將弓矢物具可借由示云々、所持物具借送之、吉時酉時云々、日入申四刻云々、秉燭以後乘車、出北門、自西大路更入南門、入新屋禪尼女子同車、故乘後物着白衣同里衣、今夜宿始、雪又降、廿二日、癸卯、雪埋朝庭、已時天漸晴、半作之家每事未

具、南面懸翠簾許也、三間四面五間、兩端欄子壁、第二間妻五間弘庇之內、すぢかへふち四端四面二間、(南四) 午刻許宰相來、

聯子之內、格子上簾爲客座、以北面爲居所也、相具女房、夜前參射場始、不知其故、曉鐘之程事始、左中大夫等、將宗平朝臣來、召不留階下座、資俊、定平、地下少將、

數種始、昨日件少將示送、地下少將勤仕出居哉、答云、終在座、賭射出入幔門、地下尤有便、於弓場始者、遲參早出皆

用無名門、件門內爲殿上人座、地下將惣不通神仙門、於事無便宜歎、又地下候座事無所、是可被尋有識人者、

而遂參勤云々、是僻人之教訓歎、宗平自前立坐云々、資俊自後着歎、定平自後着、教雅同歎、父卿、用前、公卿、中

宮大夫殿、具實、伊平、隆親、盛兼、爲家、已上六人着座云々了後、中納言賴資、參議家光行下名云々、奉行光

俊書掌、藏人左衛門權佐、信盛、射手三位隆宗、公長、成實、四位隆範、家季、資俊、定平、五位賴行、賴房卿、大男、顯

氏、氏通、假申病之替、藏人忠時射之、三度無中的矢、不延度數、因茲無勝方拜云々、代始可然哉、惣以不重、審

右中將實忠一中、取御劔、惣不着出居、依無兩頭勤陪膳、

依右府命乍帶劔勤之云々、其詞云、舊記難解劔人事所見出也云々、何人認記乎、此大臣之劔、一事以上解時帶之、帶時解之、末代將相、偏只以犯亂有其職、次貴賤何時陪膳、乍帶劔勤之哉、不知公事大概世上之趣者、昇高位之所致也、又見之無制止之人、悲代也、始終無入御、可貴、事終入御之時、教雅一人在出居、頻伺公卿、兩將無其氣色之間、示警蹕之由、仍三人警蹕云々、如教雅、予所存伊平一人可稱也、役送光俊、次下名、文官十二人之中、治部少輔光資、民部大輔藤宗氏、大膳權亮小槻文宣、修理權大夫皆在賴、紀伊守源長廉、左少將具教、將監十三人、右少將藤親氏、對監十八人、左衛門尉十五人、少志一人、右衛門尉十四人、志一人、左兵衛佐藤公員、尉十七人、右兵衛尉十七人、左馬允十一人、從五位下藤季清、同伊賴、同兼教、小槻兼教、同敦兼、總殿權助如元宰相參內、以後實忠示合叙事等云、申左府、惣不知由被答云々、答云、上臈中將候出居勤召、第二將取御劔坐替、定例常事也、陪膳諸事一同解劔、勤仕之

役歟者、其後又云、左府書狀云、陪膳解劔人難之事所見出也、可帶云々、偏是天狗之說歟、公卿猶解之、侍從候陪膳、寧可帶劔哉、然乎惣藏不知世間之儀之所致、不足言、狂者任大臣、末世之極歟、新屋之壁等雪水之間、不塗得之間、明日已入土用、旁不構得事多、

廿三日、夜雪積、朝陽晴、已後陰、雪積地二寸許、午終許如一昨日、同車行冷泉、宰相夜前參荷前、公卿不參、別當行事先令書荷前定文、付職事奏詞、荷前擬侍從定候云々、至于後田邑權中納源朝臣具實自讀令書、其後授土代、進寄取之、大理不行荷前由稱之、自陣退出、參議親定、召召使行事云爲家、三位光俊、家時着外辨、次第如例、諸公事陵遲不足言歟、廿人納言不勤山階使、夜前安嘉門院兩女院、御佛名、經通、定高以下四人參云々、去廿日七條院仁和寺、範宗、家時、無行香、廿五日中宮御佛名云々、今夜關東人可來此家、爲對面女房暫留、予先歸家了、實忠帶劔無謂之由、內々有御沙汰云々、頭中將昨日出仕、前夜申所勞、以帶劔者陪膳、後朝貫首出仕、旁無所據歟、是皆新儀、

將相教訓歟、

廿四日、雪解天晴、夜前親忠、前修理大夫、資雅、親仲朝臣等、

於冷泉遊興之由、傳聞、午時許請住心房、聊釋佛經、

故尼上、申始許書阿彌陀經之間、大地震先有鳴動聲、良久、但如

壁殊不壞、危宿又不苦歟、天變地震、恐而有餘、

廿五日、朝霜如雪、陽景快晴、未時許參一條殿、明惠房

參入之間、及日入之後見參之次、仰云、除目執筆大臣、

乘半部車參內之由、右大將語之、是何故哉、又奏闕官

帳、不拔笏復座、左府聞之嘲云々、任人八人書落、甚遺

恨事也、實是御一門之瑕疵歟、左府被申兵仗云々、世

間勝事盡期不可有歟、地震又甚、不吉鳴動事殊爲凶云

云、每聞恐怖、入夜泰俊朝臣來談、地震鳴動甚有恐、

廿六日、天晴、未時許法眼來談、七條院當時殊御事不聞

歟、卿二品祇候之間、殊獲麟之由披露、彼人退出之後、

指事不御云々、

廿七日、霜凝天晴、午事許參相門奉謁、不經時刻歸廬、

典樂寮送白散、非每年事、若使者隨進止歟、

廿八日、朝霧漸晴、辰時又鳴動地震、巳時許行冷泉入

道小屋沐浴、宰相來會、廿五日參中宮御佛名、雅親卿、

兩大夫、皇后宮大夫、參議七人、外、三位範宗、成長

參云々、申時歸廬、新二位馬瑙巡方等帶尋之、示宰相

借與清水谷少將了云々、隨在小巡方帶送之、今度冷泉

女房謁申右幕下室云々、

廿九日、庚戌、天晴、馬瑙帶宰相借送、仍又送二品許了、

豈圖六十五廻身、霜雪在頭猶遇春、自咲何日今在世、

若掛壽考代沉淪、今日無沍寒之解、入夜見台嶺火、光

照耀大嵩之篠原歟、光明廣博、未見如此事、

明月記第二 終

文	田	難
傳	口	波
正	重	常
興	男	雄
	校	

明月記第三

目次

安貞元年	一
同二年闕	
寬喜元年	八二
同二年	一五八
同三年	二七〇
貞永元年	三三二
天福元年	三三三

文曆元年……………四一四

嘉禎元年……………四三六

補遺

建仁二年……………五〇五

建保二年……………五〇五

目次終

明月記第三

安貞元年丁亥

○正月大

一日、辛亥、朝雲散、陽景晴、遲明奉拜神社本尊、今日精進
念誦、午終許宰相來、飭劍、譯文丸柄、金魚袋、紺地平緒、堅文襪
地表袴、夜前深更自關白殿賜新車、宰相中、將傳給、自去夏元三
可賜之山被仰、月來被儲御車、右大辨拜賀賜之、仍其
後更被新調賜之云々、自是參殿拜禮、左少辨親俊、儲之云々、明後日
右幕下可扈從、明日可參廻皇后宮、淨土、兩法親王、宜秋
門、東一條院九條、者、不具共侍、相國御牛、殿拜禮訖、人々可參、女院
拜禮、持明、云々、壽考六十六、眼前見金紫之榮、望眉目過
于榮、啓期何耻宿運哉、後聞、殿下拜禮、公卿、中宮大
夫殿、前中納言顯俊、中納言定高、賴資、參議隆親、經高、
盛兼、爲家、兩大辨、頭辨賴隆、申次殿上人、賴隆、宗

平、有教、家季、經賢、于在、有親、光時、光俊、時兼、信盛、
親俊、忠行卿兩息、爲經、一綱、爲總、忠高、經氏、範賴、家清、
殿拜禮、殿上人雜、
雜陳不立事也、
頭注

定高卿相具信盛、爲經、忠高、

女院拜禮、左府、練、二位大納言、忠、右大將、中納言家
嗣、公氏、通方、顯俊、實基、國通、具實、三位、賴資、參議
隆親、經高、盛兼、爲家、家光、實有、範輔、殿上人、賴
隆、有親等、以下七八人云々、
頭注

左府共別當相具官人、實忠隨身蒔木袴、實光紅梅
袴、顯俊共頭瀧口二人、親俊、賴俊、
皆持笏舞踏、

拜之間秉燭、小朝拜、關白殿、左大臣、內大臣、大納言
忠房、定通、兩大將、中宮大夫、中納言家嗣、公氏、實
基、其下臈不立、節會內辨內府、二獻以、定通卿請取御酒、
勅使經高、宣命使家光、殿々出軒廊、斜經公卿列後、當日花門、
高、盛兼、爲家、兩大辨、宣、
命下殿時出、見宣命間出、
揖、掖右、不揖而久立、不退出人、隆親、經

二日、天晴、頗有和暖之氣、

三日、天晴、宰相昨日參內、中、陰明門院、坊城納言、宣

明門院、東一條院、宜秋門院、修明門院、岡前宮、龜朝、皇
后宮云々、今日右幕下屬從可參仁和寺云々、午始許密
密出於二條東洞院邊、見右大將參內、前驅八人、一員、在前、
番長武信、車後下臈隨身騎馬、侍從宰相、三位中將、
紅梅袴、隨少將實經、實任、牡丹車、偏以如、賴氏、實清、各
四人、共侍童雜色等自路南行、別人數威儀不異執柄、歸路
於近衛室町邊奉見博隆、自持明院參、居飼舍人八人、一
員、前驅八人、御隨身上臈四人、御車下臈隨身、前驅四
人、亞相、御車衛府長、小隨身又着布衣、騎馬、宰相中將
宗平朝臣、定平歟、資俊、忠行、又有相車、大將
殿、一員、前驅八人、御共、能忠朝臣、雅繼朝臣、隨身紅、
別當參、有前驅四人、殿父一門人、中納言時、無殿上人、經高
卿參、相具退紅仕丁、持雨皮者也、他諸大夫宰相三、大夫進經
氏相具、車竹笠彩色、右衛門督參、相具弟、見此等歸家、于
時申刻、日入以後宰相來、參內之後參七條院、右大辨、御
室歸路、自一條大宮被留、參持明院所來也者、自是令
參承明門院、

四日、天晴、已後陰、夜前殿上淵醉、兩頭以下十三人殿
上亂舞了、參宮御方、星のまされ、又歌白薄様云々、以雜
人說聞之、已時許依日次宜行冷泉、今日女房始出行云
云、不經程又行東宅、即歸家、申始許又鳴動小地震、裏
宿也、臨昏小浴、
五日、天晴、夕陽晴、入夜忽急雨、少時又月明、叙位被
行云々、平相公音信之次、元日宣命使事粗示之、作法不思議、入眼
御齋會等少々問答之、及曉鐘有騷動之音、後聞、此北
小路、北、富小路、西、犬王大夫ト云、鴨氏人宅群盜入散
散、出一條方云々、年始早速怖畏之世也、
六日、霜凝天晴、叙位、正二位、顯俊、經通、從三位、範
輔、任意加階、各、正四位下、藤行能、實世、經賢、平親長、
藤賴隆、從四位上、源資俊、藤時綱、大江周方、源家長、
源定平、藤雅繼、源有賢、從四下、大中臣仲宣、源具
敷、藤隆盛、大中臣賴繼、藤兼輔、同實光、源通忠、正五
位下、源遠章、平惟忠、從五上、藤仲資、丹波忠茂、同
以長、安部清長、藤親泰、同爲總、源親具、同資信、藤定

兼、同資親、菅長成、藤家範、菅良賴、藤教信、同忠高、同公基、藤公親、中師世、清良光、中師弘、藤公光、

五位五十二人、外從五位下一人云々、
頭注

末代人名字、偏一門先達歟、濫吹之世也、

宿此屋之後滿十五日、仍宿北小路小屋、聞曉鐘歸家、七日、霜如雪、天快晴、不聞世事、

八日、天晴、夜深微雨、臨曉甚雨、昨日加叙、正四位下藤資賴、正五位下藤顯嗣、從五位上藤貞時、從五位下橘知資、左少將具敷、隆盛、右少將通忠、叙留云々、沐浴精進、右武衛消息云、前少將知光朝臣去晦逝去云

云、去年五十九、法皇昔幸父卿、病席之日、忽任左近少

將、年十六、前派路守從五位下爲近臣之一分、法皇崩御之後、依關東

之舉、加禁裏之近習、遇建久之政、遇絕叙留、又依源內

府之纓言、漸々不快之上、依女事仁和寺僧、愛寵一分、永以棄置、

承久亂後自關東雖入洛、遂以不幸、時房妻依親肥僅雖

憐愍、不及世途之計、遂以終命歟、是一門之積惡歟、申

時許宰相來談、昨日內辨上、午時可參由職事催之、仍

早參、及酉時內辨參入、內府通方卿等在陣、參議可着由被催、仍着

之間右大將被參、仍起了、相次左大將中宮大夫參給、

左大將參着、其後不着、左府以伊平卿令書加叙、大辨

在傍、不勤入眼人書之、未聞其例、
頭注

後聞、橘知資檢非違使叙爵、賴隆下式部召名一通、

內辨不答、伊平又書之了、不足言事歟、

外辨、內大臣、兩大將、中宮大夫、中納言公氏、通方、實

基、國通、定高、其實、參議經高之外七人、範輔在叙列、兩大將

升降、依家禮之煩不昇殿、於御後見物、又早出、內辨立

親族拜之後、不相觸而早出、右大將被勤之、叙位宣命使

具實以右手如搢笏而步寄、不足言事歟、御酒勅使隆親、

宣命使盛兼、祿所左大辨云々、今夜參法勝寺修正、上

卿實親卿辭退、通方卿爲上卿云々、中納言上卿殊被擢其人事也、如何、十日

結願日可參法成寺、有僧、內中宮女房可有見物云々、御

齋會始、雖領狀今日公卿十三人、大納言三人、定通、雅親、兼一、參由聞之、

仍結願無人欲參、政始未聞及、節分行幸、仁和寺、七條院御所、又廿

一日重可有行幸、依齋宮入御、諸司可被遣左近府云々、

此等事不開子細、左近尉自仁和寺當王相歟、如何、中將宗平今年日、始持

笏、年來不持、今更持之何故哉由相示、隨傍輩也、然者

可棄由答之、又制止實清少將、笏於定平等皆持之、近年之何也、

不足、但頭中將不持云々、可持者不可、依職事哉、入夜伊勢前司清定來

臨、稱歡樂由不逢、以人謝遣、寒月臘々、鐘鼓遠聞、只

思往事、與誰爲歡、

九日、遲明雨止、朝雲漸分、終日風寒、入夜雨、朝聞傳

聞、左大將殿御產氣由、今年未出仕、依願身、仍不參、

誰人說云、去年見來、參川權守清綱依強盜被擄取、養

父馬助亮清同被擄、於父者被道、放了云々、伴男博奕不善、久有其聞

云々、當代侍中歷極庸云々、於父者適重代之仙籍舊物

也、可悲之世也、雅亮德大寺左府以下爲彼家人、亮清

者當時左府遂爲源內府家人、其後子息三四人之中、雖

被驅仕各無恩、被通貧歟、是末代之式歟、自高倉院藏

人久見之、御產盡後人々退出、有落居御氣色歟云々、

北白河安嘉門院御行始、渡御今出川新亭云々、

十日、終夜今朝雨間、朝天漸晴、遲明女房參詣日吉、依

老骨難堪、付幣、手足病依不堪遠路也、遙拜許也、共人、家仲、

有弘、申時許歸、即參賀茂、入夜武士數多、引馬十、入盛宣

西小屋、依群盜狼藉、自今夜被分配所々之于阪、暫入

此屋、欲待月入之由稱之云々、不知實否之間、成怖之

處須臾出去訖、行東方、其後無聞事、後聞、非虛言、差、內中

宮女房咒師見物、今日、延引十三四兩日云々、

十一日、天晴風烈、寒風慘烈、北山之盤、白雪映日、午

時許法印被來之間、忽南方有火、法成寺南大門之前大

路東云々、馳向之間火南北分燒、但北火留訖、南火於

勘解小路南程滅了歸、北風如刀、乘燭以後依方進出門

之次、行冷泉間行幸事、不委聞、供奉人并輦路、但今夜

仁和寺殿、明曉七條殿、明日御逗留、十三日曉更還御

本宮云々、不供奉還御由、兼而奏聞了、不具馬副、右幕下三品、實有、被供

奉、資雅、實忠、宗平、實經、實任、敦雅、親氏、新任、實清

等聞供奉由云々、去九日兩女院御幸、密儀、按察寄御車、光、俊家時、基氏朝臣等

共、母院ねりぬき三御衣、同御薄衣、唐綾御小袖、御袴

自、女院二重織物、紅梅薄匂御衣、十、同御小袖、紅御

袴、內、宣旨三位在御共、鈍色織物二衣、唐綾小袖、三、白袴、若

夫黃門薄色二衣、袴、小袖、左金吾紅梅二衣、又同、被置也、臺盤所唐

綾二百段如檀紙積之居、御綾折敷各百段、二枚被置之、三

位猶薄樣裏銀南具、被副、悅喜櫻應吐詞云々、今夜宿八

條、賴重、明後日又可供奉還御者、有見物之者、行陣口

見、右大將以下少々人々參、後立二條猪隈、雖經時刻

立明未立、無其期由聞之、月漸見車、西鳥羽依避年大將軍在四也、

程遠、依恐曉鐘、猪隈西行、向城南勝光明院西大路、在

家之中借請法師住宅、出券、忠弘沙汰也、以此所爲本所

差饌付寢、入夜月明、於堀川尻、見行幸松明、

十二日、壬戌、立春、自朝天陰、暮雨降、曉鐘以後出鳥羽、未曙

歸、北邊長途寂寥、

十三日、終夜今朝雨降、宰相示送事、節會行幸供奉、右

大將、別當盛兼、爲家、基保卿、近將左、資季、資俊、定

平、有資、家定、源、教雅、家任、實清、右、實忠、基氏、有

教、親氏、賴氏、實直、少納言爲綱、職事宜經之外皆參、

左兵衛佐公員今曉雨皮、兼掩之、公卿、盛兼、爲家、基保、資

宗、近將左、有資、家任、右、基氏、親氏、少納言遲參、鈴葵、於日花

門爲撤雨皮、奉安御輿、四面、自壇上示此事、各未練、不

聞入、適聞之不撤之、寄南階、近衛未練、甚不便、政移官

不參、除目、廿三、廿五日、轉輪院國忌、廿六日入眠、申時許陽景見、雨

猶間降、女房見物、今夜一定云々、夜月猶不晴、入夜招

請、今姬欲誂繪、

十四日、朝天陰、已後天晴、夜前御堂、殿下、中宮大夫

殿、二位中納言、前中納言、顯、二條中、定、平宰相、宰相

中將、侍從宰相、兩大辨、中宮女房見物、咒師五手、曉

鐘以後事畢、今日北山即歸、參官廳之由示送之、後聞、

御齋會上卿、通方、別當僧正迎卷、伊平、隆親、經高、爲家卿於官廳及夜

半、右將只一人雅繼、雇定平歟、初獻勸盃、二三獻雅繼

云云、

十五日、自朝天陰晴、夜月暗、自夜咳病、寒風甚、念佛

之後平臥、

十六日、天晴、入夜月明、土御門殿黃門相具禪尼信實朝臣妹、

被來、誂繪、今日女房參安嘉門院、日入之程雜仕令參、

薄前木柏、蘇芳單衣、次令參局女房、其後以後、令參、今度

用宰相車、弘在共、柳衣、表白織物、紅單衣、赤色唐衣、地摺裝、□

御方と云、定修、乘後、去年依心中冷然籠居、依

被聽本望今日令參、於今者可遂奉公之志、後聞踏歌、

內辨二位大納言、忠、外辨土御門大納言、定通、二位新大

納言、關、右大將、三條大納言、實、中納言、國通、具實、

賴資、參議、盛兼卿之外七人、親定不昇殿退出、勤仕、御酒勅使不

出東廂廻臺盤下、宣命使隆親、祿所範輔、內辨具實、隆

親、經高、爲家、範輔取祿退出、始終無入御、公卿將近

仗不候云々、極不當事歟、伊平舞妓拜之次逐電、

十七日、早旦雪降、陽景漸消、午時許僧正被來談、去十

四日、僧事不被行、追難小僧事、聖護院辭大僧正、座主

被補之、超成、其替依權僧正任日之一、別當僧正實尊補

之、而聚洛院、山、當時御持僧先年御師弟、舊勞、其當可異他、

今一腹舍弟補正、失面目、可辭御持僧并權僧正由怨辭、

主上御納受、北白河院又助成給之間、有欲加正之間、

彼人任日下臈也、第一妙香院同天台之上、顯密兼學、於事

無瑕瑾、何被超越哉由山門逼辭、其次常住院具尊、當時

名譽、又世許之、其次親嚴度々國忠不蒙其賞、所存中

之間、頗難被成敗歟云々、舊勞之鬱訴、爲朝不忠事歟、

頭注左大將殿姬君翌日渡給云々、

申時許宰相來談、踏哥二位新大納言出外辨、於橋東揖

南行、即入日花門、其後不見、雖非可然之所、若於日花

門內見物歟由、人々存間逐電退出、或人云、自宣陽殿廂

昇東階、自職事信盛、內侍之傍、入御後退出云々、此人

先々無如此事、極以不審、內辨出軒廊、四五尺之程被

練始、練止事他、人之程也、他事無指違例、於其身尋常歟、御酒勅使

置敷、上臈頗不得心、若日暗不被見分之間、隨見被召歟、

宣經朝臣行幸供奉不催人、而出所勞籠居、分配事多不

催具、而臨期申宿之間、內々御氣色被改分配、如臨時

祭被替信盛等大略被處、不足言歟、諸參議依執達之字

奇怪、催事不領狀云々、

十八日、夜月明、朝天陰、雪霏々、未後雨降、閑居寂寞、

前相公忠定卿、音信不通之後、今夕送書狀、同宿武衛

掌侍歌令合點、更不變舊意之由答之、

十九日、天陰、屋上宿雪白、今晚相府方違河內龍光寺、

故法印領、相公又供奉云々、齒熱氣之餘右目下腫、連々熱氣

可恐事也、自二品親王給獸炭三十籠、故僧正如此芳志、

不忘往事由被仰、畏申、

廿日、庚午、天晴、面上腫如增、招心寂、不來、貞基朝臣

稱午日又不來、明日可來云々、今日杉板障子三間畫圖

了立訖、女繪文字木書之、

廿一日、天晴、無霜、地水皆凍、左府自去十一日重病危

急云々、食饌之得時、猶有盡期歟、內府被乘人口云々、

ツカキ水書大臣墨薄由也、落馬大臣、書落馬傳聞、女叙位_{其日}不如

御乳母三位_{實宜}、叙二位云々、變異重疊之世、存國忠

者可慎極位、寬平阿智古與今事異歟、後聞、母禮尼成子已

時許侍醫貞基來、車前草加齒針、面腫腫可充由示之、申時許

心寂房來、煎煎桑連鹽可洗由示、於針者不可然云々、

彼是不同危思、今夜母儀仙院入內御幸云々、入夜聞

之、亥時許前聲響蹕等聞之、

廿二日、霜凝天晴、秉燭之程宰相來、密々相府幕下入

給、見廻蓬屋給之由青侍告之、深隱閉戶、即歸給了、宰

相來、只今自吉田同車歸給之次下車給、不口之功感給

云々、偏是嘲弄歟、但最初入給、門戶之光華也、可祝可

祝、夜前御幸、大將、御車經通卿、政上卿參隆親、爲家、

基保、公長、家時卿、殿上人、長清、付御基氏、宗明、時

綱、信時、爲繼、知宗等十人許、無他近將、曉更還御、左

府病重、昨日上表了、方違之次、於片野狩獵之興、幕府

公雅卿尊實僧都供奉馳走云々、雉兔麋鹿之興云々、叙

二位之後禮尼參、北白川院宰相中將扈從寄車、實直親

氏等相具云々、

廿三日、霜凝天晴、今日遠江守時政朝臣後家牧尼、於國

通卿雙、有巢河家供養一堂、十三年忌宰相女房并母儀、

字津宮入昨日向彼家、亭主語、公卿宰相招請殿上人、

公卿直衣、殿上人束帶、一長者前大僧正導師云々、關

東又堂供養云々、餘慶照家門歟、雜人等云、秉燭以後

取布施、導師按察、布施以前早出、當司皇后宮大夫、亭主、平宰

相、侍從、宰相、治部卿、皆直衣六人、宗平朝臣、定平朝臣、實

經朝臣、隆盛朝臣、亨主爲子云々、實蔭朝臣、隆範朝臣、信實朝

臣、家任、少將、氏通、爲綱、諸大夫三四人、人數不幾、孝

綱、盛忠、宗室子手、長等役之、

頭注導師相具綱所、備威儀、讚衆僧綱六口之中道寬供奉

云々、公長取誦經導師布施、此宰相取別祿餘劔、兩

人二反、

今日除目始云々、前攝政殿泥塔供養、定高卿能定等變改、阿闍梨入夜下山來、

依乳母法師所勞也、

廿四日、朝天陰、終日不晴、貞基朝臣來、加針、腫漸減了、

廿五日、天猶陰、未時雲晴、依嘉承贈后國忌、除目入眼

明日云々、未時許宰相來、談一昨日事等、法金剛院西

見物車多立、宰相早速之、問車有兩三、遲來人々極嚴重、導師威儀具

足遲々云々、

廿六日天晴、風寒終日不休、依滿十五日宿北小路小

屋、西方有火、此間聞曉鐘歸來、火炎熾盛、下人等云、

大宿織手等悉燒亡云々、壬生東土御門北大垣內、是又

諸人織綾之牢籠之故歟、此間風休、不出垣外、先是又

南方有火、勢歸遠遠、若是鳥羽御願寺歟、

廿七日、天晴、未時西風猛烈、白雪散漫、須臾晴、朝聞、

夜火匣西不燒、群盜度々襲來放火云々、武士巡檢無詮

事也、昨夜沍寒過嚴冬、至于未斜不見聞書、關東禪尼

今曉引率子孫女房、參詣天王寺并七大寺長谷、於東大

寺萬燈會云々、冷泉女房姪者也、雖善事不穩事歟、當

世之風、骨肉猶不拘于教誡、況邊鄙之輩哉、臨昏見荒涼

聞書、如抄物、神祇三人、外記史、中務、三、侍從源通成、藤

盛季、推之復任歟、源顯親、內舍人五人、少監物、二、大舍人

助、圖書、一、縫殿、二、陰陽大允、小國、式部丞菅在章、

治部、二、玄蕃助、二、民部丞、二、兵部、一、隼人、一、刑

部權大輔橘知宣、丞九人、宮內、二、大膳權亮源行定、

木工三人、大炊助小槻秀氏、允、一、掃部、三、內膳正懷

遠王、彈正忠、一、右京亮清原光行、兼、山城守源邦定、

大和三善忠光、攝津藤忠時、出羽平知康、佐渡藤孝久、

薩摩惟宗盛忠、左近少將實光、四位後將監、十右中將

有教、少將良口、將監、十左門、七志、三右門、一

志四、之中多左兵、八右、十左馬權頭平季繁、允、三

右允、十兵庫助藤光盛、允、一四位季宗、正五位下

藤業義、從五上四人、五位七人、使繁茂、藏人

備後權守經高、阿波權守爲家、參議兼國、阿波非恒

事歟、勘見近例、朝方公定、

遙授等不書、無偏之化末代之善政、下官一人、卿勞十
年、承吹舉過絕他事、以之察之、

廿八日、天晴、風烈如刀、巷說云、尊長法印長嚴僧正弟

在吉野與戶津河、云々其所有黑太郎者、其內五鄉已

同意、寄熊野取熊野甲冑、欲渡阿波、黑太郎之弟依恐

神威不同心、凶黨欲殺之、仍逐電告熊野人、熊野聞之

嚴兵云々、長倫朝臣近衛南、去夜群盜入、

廿九日、天晴、夜沍寒無物取喻、今朝天地悉冰、雖有警

衛之聞、群盜連夜害人云々、無從之貧家余命何日哉、

申時許相門賜使者、左衛門尉東地勞直經五、沙汰取送之

安貞元年 正月

由有具命、自相逢畏悅申、女房夕退出之後、乘車行新
地南口見之、二戶主余四十丈許云々、但於竹者悉可被
召之由答申了、當時花亭被栽竹最中也、仍申此由、近
隣民家等視聽、尤爲面目者歟、

卅日、庚辰、朝天陰、微雨不濕地、雲漸晴、入夜大風左府夜

前薨之由下人等說、一定云々、年五十三、少年而才藝

之譽、十六而任參議、再歷大理、共逢殃去職、遂歷將

相、先以致仕、更還任大臣、貪欲忘耻、心操挾凶、以下

女爲妻、子息有禽獸之聞、父祖三代各歷一上、不過一

廻、此大臣雖及三年、又十四ヶ月歟、白馬節會爲內辨、

月中已沒、世上無常歟、自去年管領宣陽門院事、未滿

一廻、又或人云、去十一日脚病入腹中腹張、請取要上

房弟子、瀉藥服之、痢下、血多無力危急、又請止藥、痢

止、其後無殊事、言語如例、食事雖違例、家人等稱減氣

由之旨、昨夕俄周章、遲明事切也、午時氣絕由稱之云

云、今夕密々移于德大寺云々、入棺以前行他

願注後聞、今晚云々、午時一定由家人等稱之云々、群盜

又連夜蜂起、去夜入陣口、武家雖有警衛之間、全無守護之實云々、岡前別當三位^{有雅卿}、悉被剝云々、又人云、左府姑禪尼驚此事、行向問於仁和寺宅即死去、^{喪家混合、珍事歟、}夕女房歸參、

○二月、小、

一日、辛巳、天晴、法印被來談之間法眼來、酉刻歸、安嘉門院渡御岡前、^{修明門院云々、}魔界有聞、群盜又充滿云々、如何、

二日、天晴、夜前下名云々、神祇、^{楠少尉、大舍人、三}少監物、一、治部、一、刑部、三、大膳亮、一、進、一、大藏丞、一、掃部、一、臺忠、二、修理亮平信繼、參川權守和氣邦成、伊豆守藤實重、飛騨藤盛行、陸奥權守安藝重貞、權守俊康、土左權守和氣宗基、左中將資季、少將氏通、將監、^{四、}右中將實蔭、少將兼輔、將監、^{十、}左門、^{十、}志、^{一、}右門、^{八、}志、^{五、}左兵、^{六、}右兵、^{十、}左馬頭藤親季、^{侍從也、隆宣被改任云々、}允、^{八、}右馬、^{八、}從五位上藤公輔、^{右大將息、}管時賴、五位、^{藤實雅、同教高、}使宣旨左

尉藤兼親、右志中職兼、中章俊、掃部允下部朝臣、止召名、從三位藤宣子、宰相來、夜前爲相門御使、參關白殿御直廬、付宰相中將、申後院別當事、^{右幕下、}沙汰時可奏由御返事云々、竊以此事、強不可被申歟、必非將相之仁、如何、左衛門督別當已辭退、具實隆親競望謗言云々、又人云、大理又病惱、喪家此病充滿云々、侍從宰相必衛府督最前闕任來由、一旦可申入之趣示含了、誠信、^{永祥元、實資公任雖先任、長德三加左衛門督、}實成、^{寬弘五七廿八、同資平、寬仁二、萬六三四左兵衛、}經任、^{長元九十、長久四左兵衛、}後明、^{承保二十二月、能實、永長元、同二雅通、久安六十一月、仁公光、保元三八、永曆平二正右兵衛、}行成公能依爲大辨、直任納言、親能不申衛府任納言、基平居職終命、愚父願衰老辭退帶劔、永親以來十四人之中二人大辨、二人任中納言、一人□□、一人辭退、七人任衛府督、一人任中將、此官猶規模、父子歷之、可謂光華、一寢之後南方有火、煙炎太盛也、以下人遣見、三條町及室町東云々、

三日、大風發屋、沍寒入骨、巳時許鳴動大地震、^{月宿早野、江河枯訖云}

云、二月、寒氣殊甚、大風過于日來、怖於嵇康、不出臥內、
又早歟、四日、春日朝天晴、風適休、至于泔器悉冰、沍寒無極、
 依大風之際、未時許參相門、前相公暫言談之後心閑奉
 謁、算博士政衡勘文、今年正月卯酉日、左大臣重厄之
 由、雖爲辰日、日歟、正月符合云々、又四月七月國重事
 必然之由勘之云々、極以可恐事歟、後院別當猶申由
 有其命、愚意竊雖有可思、恐逆耳不出口、次參前殿、又
 見參、粗申所存了、頗有御來十四日少將殿御拜賀、常儀
 晴元服人必有勅祿、拜舞、六條殿密儀元服初參猶有勅
 祿、松殿密儀依諒開無祿由記之、故殿密儀、內々雖召御
 前無祿、前右府道經、內府等又無祿歟、近例又如此、強不
 可申沙汰歟由被仰、申可衛府長稱文、殿上人當時參可被
 催由被仰、大臣事其後無聞事云々、內府除目今度無別
 事歟、經高書、大間字分明、今度無落事等歟、但女叙
 位輪轉勘文皆悉叙之、師季此事爲後々極可爲違亂、何
 爲乎山觸上卿、高定、上卿以時兼申執事、□□□□周章忘
 却了、速可切除、山答給、仍切棄、此事失錯之中第一

之遺恨歟、人必迷惑事也、可存之人於此事失錯、極以
 爲耻歟、一日比奉謁松殿之次、納言內辨必不可立替壇
 上元子、相撲奏雖納言、大將立壇上取奏、已爲內辨、何
 不坐兩面元子哉之由被仰云々、踏歌內辨練樣足ヲひ
 としむる様ヲ被練由聞之、其事又雖非恒說、令用之由
 被仰、妙音院入道用此說由令語申給云々、墨染御裝束
 楚々、猶全無毫味之氣、了々分明云々、九條大納言、基
 大臣所望消息、被付實宣卿由聞之、被付人如何者、竊
 案之、甚不可然事也、今度大臣事雖被申、更不可出于
 兩人外、極愚事歟、又仰、入道大納言昨日登山、暫可被
 住橫川云々、此事尤尋常之儀歟、秉燭以後退出、藏月
 高懸、其光清明、不異半月、
 五日、天晴、未後陰、入夜雲暗、雨雖降即止、東新地
 向南立土門、今日正月節內日大又々少令栽木、自此庭來
 十日密々可披歌一首由今日送題、前宮內卿、領狀、備後
 前司、信實卿家長朝臣、稱他行由此外宰相長政許也、故
 不披露、題栽松、寒氣頗宜、

六日、朝天快晴、顯俊卿肩腫物柑子許、恐灸不燒云々、
顯平朝臣說、由盛宣語之、一茶一落不待秋歟、賴隆懇望衛府督云々、

但州能州等領狀、又示教雅少將了、領狀、午時許心寂

房持來木二本、真木三尺許、先年所栽(其力)去年枯、仍又栽之自八重梅、未時黑雲覆天、

西風吹雪、陽景又間見、又以返寒、

七日、宿雪僅隱地、連日寒風不休、雪間飛、終日沍寒不

出戶外、

八日、朝天陰、雪頻飛、已後晴、風猶寒、今夜三位中將

實有卿、於無舍小路、時々相國居住給家也、實清入道宅迎新妻、實

雅卿妻之弟也、母儀去年入洛競望之聲中武州可許云

云、羽林幸運之來時歟、家嗣卿依此事去妻云々、忠信卿女也、其實又懇望

云々、但願以前事歟、尤可慎向後哉、下人等云、尼二品

慶賀喜悅由、自讚自愛、相親之輩稱慶事、備饗膳儲引

出物、群集云々、三合御重厄之年、尤不穩之事歟、沉淪

之愚老未音信、雖憚吉事、定處等閑歟、志同時胡越不

遠歟、

九日、天晴、風適休、未時許又風、夜前除目云々、左衛

門督具實、隆親卿、別當宣旨、無雜任云々、明後日宰相
勤仕大原野祭云々、左大將殿分配御障職事備云々、或人云、頭辨今度申

衛府督、辨官可任由ヲ以稱云々、右大辨有恐事由人又

稱之、或無實云々、明日前宮內卿可來會之由有約束、

世間人口猶依無答、今日只歌許可賜之由、重示送之、

十日、朝天陰、午終天晴、未時許備州來、先是宰相來、

衛府督事、二品并宰相中將丁寧申入之由、各以有與言、

御氣色頗宜、經近將中將、壯年人任衛門督、又可謂理

運歟、於今度非遺恨之限、頭辨雖懇望、從者等惜辨別

當不成勇之間、漸如思變云々、周防和泉兩國相轉禪罔

御懇望云々、此外無他事、明日大原野辨爲經內侍少輔義高媛、

各可早參、遠路網代車何事在哉由示了、謁備州之間少

將來臨、不經幾程三品被來、於南面暫言談、相待但馬

能登之間經時刻、黃昏兩人來、仍令掌燈、各着座、以硯

蓋爲文臺、當座人置歌、能州爲講師着圓座、三品讀師、

額固辭、再、備州但州詠吟非無興、不着座人、經國、成茂、

兵衛尉家清、下野、女房、家中、掌燈等役雖往、反、歌兼取加、兼立切燈臺、

講了連歌一枚可有由各相議、賦松何々竹、其句不尋常、頗經程、一枚了分散、三品被出之間、宰相相儲馬、毛鹿左衛門尉伊員取松明、有弘牽之、存外由頻有響應、此間月清明、尤有餘興、可謂老後之數奇、

十一日、風寒天晴、夜月明、宰相參大原野云々、家仲、有弘、伊員、

光俊、忠康、在共、綱代車、以書狀示昨日光臨事、又有彼書狀、以忠康

示少將、又以書示家長朝臣、入夜副北山峰、細雲毛色、東

南發、但他雲毛色、多在天、月明夜深、宿東北小屋、方達、

十二日、二月節、天晴風烈、鷄鳴歸、禪尼左顏腫有熱氣之

疑、招貞基朝臣令見、非殊事、遂鹽可充由示之、

十三日、天陰、陽景間見、入夜雨適降、忌日事如例送嵯

峨、齋食寶篋印、阿彌陀經法花一部奉讀、經國宿禰送

橘下枝、濱松三本、各栽畢、

十四日、天晴、細雨、面腫昨日有增無減、貞基每日來、

今朝押付藥、付紙、更不可有大事由稱之、極難信、早旦安

嘉門院還御云々、送私車、此家八葉車、共人有弘、光兼、先渡御北白河

殿、御難其後還御云々、申時許未時許宰相來、昨日參

內、春日祈年穀奉幣、上卿中宮大夫殿、使、經通、親定、範

輔、範宗卿、御劔、頭巾御、裾頭費、來十四日前殿渡御、

左幕下、冷泉幕下、室町大臣殿西亭、各可渡御云々、有

教朝臣奉幣、御劔申領狀之間、臨時祭使被催、申輕服

山云々、戌終坤有火、後院、姉小路堀川、人々參內、殿下同參給云々、

十五日、朝天晴、顏腫有增無減、貞基又來、猶雖不驚恐

每度替藥、頗不審事歟、午時女房退出、未時許招心寂

房令見病者、是丹毒瘡也、尤重事歟、大略無療治術、付

大黃可試由示之、又加寸留、日來貞基不稱重事由、極

爲奇腫、已及胸、面腫更匪直也事、若是可及大事歟、無

爲術病也、留心寂房、且加咒術、夜半過宰相來、西園寺

修二月、或日、大將公俊基保卿着座云々、成實著直衣參

內云々、

十六日、天晴、今夜腫頗宜、似付減云々、巳時許宰相

歸、心寂房歸嵯峨、午時許經國宿禰來談移漏、孝道等

父子往生、人無穢由稱入、左府穢中參所々云々、未

代之儀不足言事歟、其喪家人前大理已下時行病多云

云、不似往生之儀歟、三月社頭入講之次、可始每年恒例和歌會由示合之、雜談移時刻退歸、秉燭以後宰相來、

十七日、天晴、屋上夜雪白、病者已似付減、極以欣悅、心寂房來、於今者無怖之由相示、感悅無極、申時許參一條殿、親房朝臣語云、前中納言腫物加灸火針之後、當時雖無增、清成朝臣只今參入、明後日許若有增者、必死由稱之云々、最基白始療治、明日出家云々、年四十六、於予父子之齡也、見參月出之後退出、

十八日、天晴有春氣、宰相來、昨日有御鞠云々、高麗事并宇佐遷宮、去年空不被遂、可改任大貳哉由、可有仗議云々、明後日皇后宮院號定云々、今年釋奠無宴座、大臣未時許參二品親王、明日天王寺令參詣給云々、以法眼公□□、申

入口來籠居由、物詣明日之間、有取亂事等由被仰、即歸家、前黃門出家之由有其聞、夜半過地震、

十九日、天陰、申時雨雪漸降、入夜甚雨、巳時許宰相來、少時備州來、相逢之間法眼長政朝臣經國等來會、

待但州、移時刻、且始連歌、若何中何云々、殊以不得風情、一枚訖之間但州來加、秉燭以前終百句、各退出之間掌燈、青侍說云、山西塔衆徒、江州住人左近將監某、塔下彼岸所可造營由、以宮司法師加催之間、是山僧鬧諍、打摧御正躰、打調使法師、衆徒之怒心如水火、山門騷動云々、座主參普賢寺、一昨日歸洛、未被致其沙汰、彌忿怨云々、

廿日、曉月朝陽晴、夕陽不陰、夜天如墨、俄甚雨、夜前宰相參前殿、少將殿御拜賀出立所云々、及深更云々、冷泉右大將亭自昨日令渡御、又爲扶持參內、有御前召、頭中將賜御衣

拜舞、御作法神妙、先昇青瑤門參弘庇、帶殿、賜御衣拜舞、出仙花、又經無名神仙、於殿上口解殿付簡、中宮御方

同有召、有御送物云々、其尋常之儀歟、頭注

信盛奉付簡、頭中將對揚、

御供殿上人、基定、能忠、雅繼、資季、公綱、

心寂房來、餘氣時々雖有赤色、已付減了由示之、女子二衣紫村、牛一頭志之、稱存外由歸嵯峨了、單紅梅花僅開始、

廿一日、欠日、天晴、平相公返事云、昨日院號定、日來雖

傳聞無相觸人、一昨夕始蒙催、申始參陣、其後公卿少

少參入、內府及夜半參給之間、睡眠之外無他、議奏之

趣、內府、藻壁門、土御門大納言、定、四條、五條、三條

大納言、實親、延政、大炊御門中納言、延政、安喜、大夫、

南三條、延政、高倉中納言、延政、新中納言、賴資、東二條、

安喜、權大夫、談天、延政、右大辨、新三條、延政、經高、

同上、但新三條申上度々難座、賴依其
雖不被用歟、可爲東二條由加申之、新中納言、新加延政難、

是謀反者名云々、安喜之由被定仰畢、左大辨不出仕、不

知其故、仗議雖有其聞未承定說、若不可被行歟、願納

言出家一定云々、昨今未承增否、院號以後參本所、天

曙退出云々、司天傳之說、太白順行向昴宿、入犯者大

慎云々、太白食昴、和漢各微不空云々、去十八日子時

地震、月行無度、爲金翅鳥動、本文又不快云々、櫻小木

三本裁之、

廿二日、天晴、未時許大宮三位、知、來臨清談、申時許

參前殿云々、酉時自嵯峨使者歸、持來櫻木一本、裁于

南庭、又有咳病氣、心神不快、

廿三日、天晴、申時甚雨、入夜雷電猛烈、猷僧都來談、

昨日殿尊勝陀羅尼參、二位中納言、新中納言、賴資、平宰

相、宰相中將、盛兼、左大辨、右大辨、三位成長、賴資卿依

催右衛門取布施云々、
賴佐、

廿四日、朝雨漸休、已時陽景見、法眼引送黃斑牛、是故

左府牛云々、去年去彼家、可謂吉事、覺寬牛額白黑等、宜賜
進左府歟、(イ召)取
其牛所登送云々、夕宰相來、三箇日在幕下許、安房、不聞世

間事云々、

廿五日、天猶陰、時々雨降、夕甚雨、咳病甚不快、雖心

神惱亂、依有限思企事洗髮、經國來、今度和歌會依作

者面々故障、思止由語之、尤宜儀也、日來雖不甘心、此

境節依人宿願不能加制止、自身思止可謂神妙、僧正又

被過、依洗髮不渴、此間正僧正競望嗽々云々、聚洛院

以御持僧訴母弟、實、
良尊、院、轉任良快、妙香、
院、依任日

上臈被訴申、道譽、前僧、
正、爲常住院師、不可被超由被申

云々、師弟兄弟喧嘩云々、

頭注

家長稱障、信實八幡御幸經營、教雅少將輕服、泰光

朝臣加倍從申所勞、行能重服、

廿六日、終夜今朝猶甚雨、終日濛々、雨中寂寥、心神極惱、

廿七日、朝天晴、午後陰、日出之程出門參日吉、乘車、

粟田口深泥甚危、長途早梅花盛開、關寺內八重紅梅多

開、午終許着社頭宿所 馬場王子宮、路東之角、休息、終日

成茂來談、今月上旬又御聖跡頻令動搖給、自去年頻有此事、年來更無

之、風不吹他物、不動、極以恐奇、西塔事可有裁許由有沙汰、近日落居歟云

云、乘燭以後奉幣、親成痢病所勞、以孫令申祝、與衣一

領、歸宿所又休息、子時入夏堂、通夜懺法訖退下、

廿八日、二月自朝微雨漸密、終日濛々、夜猶降、遲明出

宿所、於山階逢大宮禪尼與、已終許歸家、長途車中老

腐破損、足摺損、歸後見之、極恐思者也、以書問心寂

房、令付猪油、宰相示送、夜前行幸、左大將殿、別當、侍

從宰相、右大辨、宮內卿、宗平、資季、資俊、定平、氏通、

資雅、有教、親氏、賴氏、職事、宣經、時兼、奉行、光俊、少

納言爲綱、還御之後於弘御所東壺蹴鞠、宗平、資雅、親氏、宮御方女房見物云々、明日仁王會可參所々、

廿九日、晴、已朝天快晴、昨日足、當時無殊事、近江國造

大宮料米吉富分百四十餘石、今日之中可究濟山、官使

來責忠弘法師宅、月來雖聞此事、伴法師私語知忠、付

奉行職事信盛欲被免、近代橫謀之輩、依一旦之好、無

音職事相替、爲光俊奉行此事出來云々、是非不及口

入、午終許心寂房來見足疵、非殊恐、相構不可膿、自夜

部令付猪油、又加寸留、即歸西郊了、禪尼病後今日初

沐浴、無爲、是又存外事也、

○三月大

一日、庚戌、彼岸始、朝天快晴、朔日無爲、風靜有陽春之氣、午

時許法眼來、一日比注送卅首題內、十五首撰出、宰相

以下可然好士可誂由、好士等勸進由示之、密々御氣色熱、題一

兩直付作者、侍從宰相、大宮三位、信實、家長、教雅、隆

祐、本被書之、前宰相中將信成、已詠歌人云々、尤可被

補歟、家清何事候哉、長綱忠綱、得其骨山見給、藏人大

進光俊堪能如何、答云、彼御邊不參來人也、若自然事

歟、即退歸、未時許宰相來、十五首事示了、一夜行幸無

殊事、左大將殿御共人不奉引下靴御前、令入中門還御、成實外給奉告即令引下給、前庭不覺不便事歟、

無他人、天曙後俄蹴鞠、宣經相加、往近臣四人、忽被開宮御方臺盤

所妻戶、殿下自御直廡令昇給、在外晴歟、地濕、鞠極以

狼藉、昨日仁王食、公卿定通上卿、雅親、兼經大納言家嗣、經

通、國通、南殿、經高、範輔、南殿、公長卿出居、實俊、宗平、

資俊、南殿、氏通、親氏、辨遲參、上卿云、傳大辨仰鐘、雖

納言上卿有其例、天喜土御門大納言時、範輔卿云、常例史雖承之、

只可隨上宣、此間親俊參會、仍仰之、自北白川院公卿

一人不參由被申、仍被催人々、定通經通卿相共參彼

院、四位諸司宗明遲參、以五位光時始之、上卿退出、與

經通卿參安嘉門院御方、事始間退出、又參東一條院、

一身行事、女院令參春日長谷給、定高卿御共云々、顯性僧都ト云山僧死去、賴

賢家光卿輕服云々、前殿仰云、忠弘法師宅爲壇所可召

進、召仰了、

二日、自夜甚雨、終日滂沱、壇所事、嚴海僧都自來十日

比可參由被仰、自西郊十五首題可示人々由法眼示送、

實非、少年好士等少々示送之、入夜宰相來、去月廿五六

日北白川院有入道納言八講、二日、四座、結願參人、賴資、公

賴、盛兼、爲家、公長、基保、光俊卿、初日基保光俊卿參

云々、西園寺懺法、聖覺、慈賢、隆譽、能玄、有果、聖覺

能玄之外三人供僧云々、

三日、夜雨止、朝天陰、已後陽景見、心寂房來、足無殊

事、以車前草湯可洗之由示之、召使等入來云々、前官

籠居者全不可然、近代之人無芳心之間強來歟、賜酒肴

菓子、如形十合、立紙折櫃也、每度如此、小事不及變改、仍不留之、

四日、天陰晴、官使入來責云々、一旦依職事之宥如、今

日雖立使、不申披其子細、後日更不可隨事歟、一庄滅

亡之期也、宰相在北山不聞入云々、

五日、朝陽快晴、定修來、妙香院返給富永之山被仰、但

牀興寺可給他人由有御命、依讓與可示合由、昨日申之

云々、勿論事也、無故被停廢、奇思之處、返給者、可爲

本意由答了、今姬今日歸參深草齋宮御所、月來自然、運引也、定修

案洛院

云、仁王會次正僧正三人被加任了、良快、良尊、良尊尤可然、於道譽者被超越、前官如予者歟、他事不被行云々、

六日、天晴陰、終日無事對垂柳、永日空暮、

七日、自夜甚雨、已後休、一昨日前殿仰云、最勝金剛院八講結願殊無人、相公初日可參云々、止其日結願可參由示之哉、早可令參由申之、宰相朝間有障、難早參由答之、不知何事、猶可構參由重云送了、依足病今日不能出門、笠置事雖有若亡、每年沙汰送之了、忠弘宅官使藏人大進芳心停其責、卅一町中任造八王寺例由、致其沙汰云々、雖無始終不以苛責歟、後聞、內府、中納言、定高、賴資、參議、爲家、家光、三位、知家參云々、八日、自朝天陰、入夜月明、夜前宰相依宰相中將消息、自法性寺直參殿下、今晚又馳參北山由、以下人說傳聞、推量後院別常事歟、已時許前殿仰次、此由風聞云云、竊以此事不甘心、鳥羽管領細工所等事、不似將相之仁歟、

九日、夜霜白、朝天晴、臨時祭云々、廿一日下、使按察長庶男隆綱云々、數多顯官不勤之、任意厭却歟、昨日北山懺法結願、宰相一人、三位五人、公俊、基保、知家、實有家時、後院相國可奉行給云々、入夜宰相示送、參長講堂、八源雅親、通方、賴資、範資、公長、成長、家時卿參、臨時祭使隆綱朝臣、前民部大輔舞人親保、顯氏、賴行、氏通、通行、長信、親賴、六位忠時、親氏繁茂、仲達、非藏人七日調樂、親氏、家任、公有、六位一兩見物之間、引破幄令顛倒、以幄爲綱、眞力陪從爲魚引繩之、令零假板敷、陪從悲痛泣申殿下、親氏爲舞人歟、陪從不可勤神事云々、去年嫌成實勤使不相隨、意趣云々、公卿、大納言、定通、大夫殿、中納言、家嗣、公氏、早出、經通、具實、參議、伊平、隆親、爲家、範輔、三位、公長、早出、初獻、頭辨、二獻土亞相、瓶子能定、陪從隆範、衝重顯嗣、三獻大夫殿、瓶子兼綱、陪從基定、五位藏人、役、光俊、一人御笏、頭中陪膳、此相替、前將、常不見習、前召、中將、後召、辨、重坏家季、資俊少將、云々、近習少年所爲不便事歟、舞人身不參、調樂見物末代之極歟、

十日、天頗快霽、午時許法眼來談、爲御使參殿下之次、法金剛院寺領領家相論、尼忽寄山門續事、件尼公氏爲妻、女房依產死去云々、母法橋誠仁ト云法師妻也、退歸後證寂房來臨、及日入歸、

十一日、庚申、朝天陰、午後大風、未後陽景間見、入夜、微雨、安

嘉門院八幡御幸、早速之山傳聞、昨日雨止被充仕丁、日出之裝束、忠弘調進、

程行彼御所邊、見之無一有情、辰時許長清朝臣參、又

良久定高卿參、其後此宰相參、舍人二人、花田山吹衣、柳笠薄色衣、申

請察御馬爲毛、云々、有弘、光兼、伊員、時廣相具、少時三

位中將、東帶諸大夫一人、侍四五人在車後、被相具居伺、大將馬、中次、於車未見云

云、歸家休息之後、出一條東洞院見之、大風揚塵、雨脚

灑落、午時許御幣神寶過了、冠二人持標、爲朝二人持御幣、幸櫃二舍兩面覆、冠男二

人騎馬、經時刻殿上人僅九人、少納言爲綱、侍從能定、

中務大輔爲經、右少辨爲經、未知、少將賴氏、隨身、左衛

門佐信時、中將、不見、萌木袴四人、基氏、有教、隨身、兵部

長清、付御車、實有觸、有居伺、右兵衛督、舍人黃香、薄色、

左兵衛督、侍從、宰相、中納言、定高、大納言、實親、被具居

側、御車庇、大將調、御車副、白張白衣、平禮、大夫尉、

安貞元年 三月

十九

親清、下部色々結染、召繼長賴次、花田、出車家定歟、外戚、實任、牡丹、偏如執柄、車、見苦文也、賴氏、舊車、侍衛府二人、衣冠、各相具、衣、山吹表襲、紅單衣、エ、遲々無人、甚不便歟、右大將、被服、別當、俄不、韋負佐、藏人頭、顯官輩皆不參、不似初度被刷之儀、今日御衣、大將御信繁入道令、調進給、御領云々、薄萌木十、山吹表襲、赤色御唐衣、皆二重織物、御車後、御車殿、七柳表襲、赤色唐衣、修明門進給、於社頭以御輿令出坂給、御輿光盛卿調進、蘇芳、力者大相國召進給云々、無浮橋沙汰、被催御庄々船云々、夜前內府被申行直物、初度、不聞及、見聞書、神祇祐、右少史、中務丞、內舍人、少監物、玄蕃、民部少丞惟宗、久言、刑部二人、木工權助藤廣經、修理權亮平時氏、武藏太郎、若狹守平長基、隱岐守源義清、守護彼國、サ、キ左任官云々、將監、左五、衛門、左九、志二、兵衛、右六、馬、右二、正五下宗綱、實宣卿眷屬、從五上賴俊、侍從、五位二人、平範賴、義清、左官城判官、主典、防河判官等云々、十二日、自夜雨降、朝後休、寅時許家仲歸來、至愚本性無指見聞事、宰相於二條壬生騎乘替馬、長途供奉御車

遶、赤江大渡以組船渡御車并出車、日入之後若御高房、供奉人列立、其後退下宿所、不經程歸參、依憚姬者、不登山、家仲自赤江前陣、御幸又漸成歟云々、適供奉人社頭又無人、甚等閑之儀云々、女房書狀、長途供奉、近邊悅思食由被仰云々、入夜宰相來、昨日大風之埃塵、長途供奉難堪、三位中將基氏爲經四人終始供奉但、還御天已曙了、自大炊御門東洞院留了、大納言、左兵衛、三位中將參仕、殿上人又九人之中、猶多不參社頭云々、勸賞事、幸清平申請例讓、重被仰追可申請由、左宰相中將參詣南山、明曉進發云々、昨日相國幕下、同車給、被立室町面門、忠廣、永光、衛府長(兼參)殿下御車、右大辨、頭辨、資俊、定平御共、御土子三人、門東、各露顯之儀也、常住院御房後車濟々駿牛、通具、具實卿同車、文白直垂、葛袴、宿西小屋、方近日西庭內、紅梅盛開、

十三日、天快晴、鷄鳴歸、未時許當亥方遙有火、賀茂西方歟、今日依下御社一切經、車馬多過、

十四日、天晴、已後陰、夕陽晴、東地築築垣、

十五日、自夜微雨降、已後甚雨、未時休、申時晴、相門御消息、來廿日可行影供三首題、凝風情可來會、足所勞、當時不能出仕由答申、凡老羣身卅一字難連出、如此事每度難堪、北八重白梅盛開、奉書阿彌陀經、

十六日、天晴、午時許宰相來、影供事每月被定其次、孔子賦、今月、大臣殿、行兼、宰相、三位中將、朝仲、行寬、大將殿、賴氏、少時法眼來臨、遣車迎禪尼之間、三位被來會、此間且始連歌、寂真房在京由禪尼告之、仍招請能州成茂等、次第來、康茂家仲已以十人、甚多、人々來後更改賦物、一之何々子云々、愚老不能加詞、山月漸昇分散、可調數奇、明旦又依連歌催參、五辻大納言殿云云、不甘心、

十七日、遙漢清明、或廳、或大風、永日徒暮、

十八日、自朝陰、午後雨降、申時休、乘燭以後又雨、奉書阿彌陀經、足所勞不減之上、腰損不能起居之上示宰相、愚老不交者可爲遺恨、可延由有相門命云々、旁無心與難堪、爲之如何、或人音信云、尊長法印戴烏帽子

攝發、爲戶津河住人聲居住云々、橫河長吏忠快法印一昨日早世云々、門徒圖諍張本也、受病七々日、事跡時行歎云々、冥罰歎、當初同甲子由聞之、舊遊之零落可悲、十九日、終夜今朝甚雨、午後雨止、申時晴、相門重病有招請命、不來者可延引、依恐申可參由、宰相來、一昨日於大納言殿詠百首云々、主人、信實、家長、清、定、定見苦事也、

廿日、天晴、午時參相門、四池、信實朝臣相共奉謁、前宮

內卿、一條少將、賴氏、行寬法印次第隨參入、預招引、幕

下、宰相、三位中將被加座、皆端、主人下、宮內典、信實、賴氏、法印

等在障子東、家長朝臣、永光、長政等在弘庇、秀能入

道、行兼、知景在其後座、西橫座敷東京茵、三尺安木像、

衣朝直衣、持紙、筆眺望氣色也、其前立机、以唐綾、白琉璃器六盛梅櫻花、又唐

綾折敷居青琉璃酒器、傍置小瓶子、二行座之中央置連

歌懸物、百物云々、每、物十積之、其中中央立瓶子、よはひはおいのし、はあ、れと此歌文字ヲ以絲置之、

立梅櫻花、各着座了、先勸影酒、信實朝臣參進入酒置

之退、次置文臺、黑漆數、圓座、次自下置歌、殿上人以上經座

中置了、長政爲講師、將軍讀師、各進寄講之、披講了復

座之後、三位中將、朝仲、行兼等退座、始連歌、何水何木、人數多而頗狼藉、自然經程、入夜事訖、腰折歌殊叶亭主賢慮云々、每事、快然、初夜鐘之後分散、腰痛足疵甚不快、

廿一日、天晴、送遣夜前懸物影前物等、更以存外、不依連歌員數、只被送老者許歎、是宮內只一句可無興之故歎、事頗過分、非歌興之體歎、入夜宰相來、自早旦供奉北山、只今被歸云々、昨日愚歌殊叶賢慮云々、可謂存外本懷、

廿二日、天快晴、初有暖氣、冷泉女房外祖母時政朝臣後案、來

臨、冷泉依消息禪尼被行向、愚老不知如此事、只惘然

之外無他、夕兵部來臨言談、戌時許退歸、

廿三日、天顏快晴、此間毗沙門堂花盛、軒騎成群云々、

廿四日、自朝雨降、未後休、入夜又降、此家東垣下本主

老嫗作小社之跡故、儲小壇爲潔齋地、只五尺、許而已、爲持佛堂

之後、依無便宜、今日以宜日次、連伴壇土令安新地、良

角檜木二本棕櫚一本同堀渡之、以伴所又欲奉安小祠

之故也、歌仙下州示過山、送櫻一枝、聊贈答之、奉書阿彌陀經、

廿五日、自朝大風拂雲、朝陽快晴、僅開始花、遇風雨散了、栽椿踰躅木、良方築垣左衛門佐と云女房宅端方、北壺檜垣柴垣等、

今日終其事、

廿六日、土用始天晴風靜、午時參前殿、妙香院御對面之

間、暫可候由被仰、退出給之後見參之間、慈心房海住山、

參入、又御對面、此間左大將殿見參之後、又出御、及日

入退出、窮屈殊甚、任大臣事、重示合關東、返事未到之

由、博陸相國御對面之時有御命、右大臣去年除去入道

相國服、未着陣、而着吉服先是母喪、參內、其比家嗣卿稱輕

服不隨神事、博陸聞此事、彼是已相逆、不審之由尋問、

再三問答之後、更爲服者籠居、依此事多失世間之人望

云々、

廿七日、踊忌天晴、巳時許行向毗沙門堂、乍車廻見花、

已過半落敷、晚花猶殘、即歸廬、夜宿西小屋、方達、

廿八日、天晴、已後陰、晚鐘以後歸廬、南面出机帳、親王舊室

御座之由也、開門雜人群集、或人云、一昨日花山院入道右府亭、有鞠

興、資雅朝臣、教雅朝臣已下會合云々、又云、一日比

柳持衣返帶云々、周房朝臣衣冠相具布衣子息二人、又有定平、少將、

相具中宮半物雜仕、見毗沙門堂花、半物着薄衣云々、

頗見苦事歟、半物見花者、事宜人可相具歟、

廿九日、天陰、申後甚雨終夜、

卅日、己卯、自夜甚雨、未時休、及日入參相門、清談之

次、去廿二日後院廳始勘見先例、保元三條內府、此事不內覽

奏聞、只於家覽吉書下之、故左大臣內覽奏聞、於殿下

被書下云々、其事無所據、召問資朝之處、全不知先例、

左府御時如此由申之、仍以光俊當時行事院司、保元內覽奏聞

不候、近例有其事、無音止之者有其恐、仍保元之時如

此由申、殿下猶可奏由被仰之、可奏聞由相示、御返事

云、尤可隨保元例、不可有內覽奏聞、仍用其儀、召問資

朝事等、京邊京外院領、左府悉爲我家侍恩分給之、其

事更不可然、悉可爲年預資朝、沙汰、於細工所者、左府請

取時、自女院三度信繁如舊之由被仰、遂以停廢、適爲

我沙汰之時、爭不返給哉、早可奉行由示付了、但其間事、如彼等訴訟、儘可致其沙汰、無故耽賄賂充催課役事、尤可宥如之、於烏羽者仰付知信、但後院御庄々、或請所或地頭等進年貢、於別當所々停件年貢、可築烏羽堤由、下知行村法師了、心力之所及可營烏羽修理、但於御所者申請上御使令檢知、可請取由申博陸了者、今沙汰之大概、實清廉之儀歟、尤可貴、補此事之後、不入來主典代應官等、可止應參山下知了、近日付所々緣申可被免由、不開入、但資朝申請之輩、隨形勢可免之、其條又以私偏頗、不可申由仰含了、流淚退出云々、少時歸廬、少雨又降、歸入之後大風、其響如牛吠、他行之間、前左馬權頭長綱朝臣入來云々、初學歌人也、依其詞優加勸勵之詞、

○閏三月小

一日、庚辰、天晴風烈、貞應二年埋核梨木花初開、
二日、辛巳、朝天陰、去々年春所繼之八重櫻花欲開、以之養心神、冬春之間栽木、皆以不枯葉各萌、午時許參常

住院僧正御壇所、

大炊御門京極檢非違使知某宅

見參之後退出、心神不

快、不參他所、去二月令轉僧正給之間事等、委令語給、

權僧正五和尚稱帝御師由、平申加任、妙香院、一和顯密

之器量、山門之上臈、旁不可超越由衆徒成怒云々、二

和尚身雖當時無緣、爲一門上臈、難堪由申間、前僧正

道譽忽稱師匠、平欲妨昇進、旁難堪、申子細旨之處、正

月已過了、成不審之處、仁王會之次遂被加三人、尤存

面目由者也者、前僧正事卿二位奔走云々、除目僧事沙

汰、猶以口入可然哉、

三日、朝天陰、終日不晴、午時許參妙香院僧正御房、見

參頗移時刻、中正僧正御度也

退出之次參前齋宮、本大谷南方小風酉時

許歸廬、宰相來、花山院鞠、教雅朝臣頻招請領狀、當日

稱足所勞由了者、夕女房退出、入夜青侍等說云、去廿

七日夜內藏寮寶藏、群盜燒穿亂入、累代寶物拂底了、

禮服乘七條河原小社、件盜露顯、已被搦由云々、

(頭注)

求出禮服、奉置內藏頭家云々、盛宣自其家來所談也、

件禮服流于鴨河、於鹽小路河原下人等引上云々、

法性寺五大堂鐘盜取、又七條院御堂佛具等悉取之、
堀門地凡所々公私每夜如此云々、多擄得於河原連々
亂入、斬罪更不被拘云々、是只社稷之宿運盡了故歟、又可謂
道理、

四日、自夜微雨、終日漂々、秉燭以前女房歸參、

五日、終夜今朝微雨降、午後間晴、早旦聞、昨夕以後御
產御氣色由、馳參冷泉殿、御產成了、不昇而暫在庭上、
驗者僧等懸御衣出之間也、賜從僧等、歸入令加持、男子平產云々、

可被引御馬、被催御隨身、遲參之間逢惟長、示遲參由
退出歸家、境節尤足欣感、未時許心寂房來、女房少々
加灸點、

六日、朝天快晴、午時許嚴海僧都來談、日來依御祈候
冷泉殿云々、今朝大宮禪尼音信之次云、北隣大納言殿
群盜駕車馬、亂入散々、深被秘云々、每聞消魂、余命何
日哉、連夜有此事云々、申時許參相門、申昨日無爲御
廢、又不例之人姬君、訪申、於今者一分無其馮、只相待日
數、依方忌來十一日欲渡他所、其以前無事者以之爲大

切、其體非人姿、只如打置紙、此四五日又每日發惱者、
法住寺邊河原田雖非幾、是爲別當得分、以之可充法住
寺殿三御堂佛供由示含資朝、但其內長講堂安置二體、
釋迦、阿彌陀、本尊之阿彌陀、三條和國非後院別當、只宮門執事、仰主典代

景宣、奉渡左大臣僧正許云々、此事勝事歟、可尋沙汰
由示資朝了、近代人心、實言語道斷事歟、日入以前退
出向幕下御許、自然移時刻、戌終許歸廬、大納言殿群
盜已被擄云々、按察典侍之下女之夫、

七日、天晴、晝漸有陰氣、未始許前大進兼高朝臣不慮
來臨、於當世適稽古之人也、清談自然移漏、及日入嚴
親黃門長女未嫁、兩納言姊、年六十九猶存命、和漢之才智、公事
故實、家之秘說超過于連枝、其家地庄園等讓與我身由
談之、入夜宰相自北山來、宰相中將密々令申相國、左
大將殿大臣事已一定也、但今五六日殊不可有披露者、
爲示其御返事、只今欲召向者、今一闕被沙汰之間歟、
二人昇進尤可然事也、實是博識長嫡、大臣闕無異儀事歟、依時事異、
八日、自夜微雨、申時止、一條不例人危急之由、聞傳傳

說詣彼亭、命云、病者自可渡他所由云出、又可出家由同示之、仍今曉渡乳母家、實雅、今朝令出家了、於母儀者猶相副之、於我者不見事體、不可過此間、在大將殿御事、夜前博陸有御告、今朝又宣旨二位示送、大饗此東亭、已最吉所歟者、即歸廬、去々年所續八重櫻花初開、

九日、天晴風靜、夜月朧々、禪尼行冷泉、未時許、昨日遁世人遂他界由、以下人說聞之、相國被參內之間云々、十日、朝天晴、欸冬盛開、足疵押付香藥、今日落平瘡訖、經四十餘日、已時許參相門、命云、病者昨日申時許事切了、臨終正念殆無比類、平生於事無言語、無好事之跡、此間每事分明、依自示出渡他所又令出家、昨日事已一定、早可還給由告母堂、又請聖人可高念佛給由示之、自身念佛數百反、引五色絲、氣絕了、後事不觸耳、一向示付住心房了、二百貳、即於當時居所與地、同上人可被沙汰由示付之、此次予奉向一條北邊地、此事不憚歟、凡不憚云々、心中極悅思、於此宅終命事、依此事思煩

之處、證據極以感悅者也、又命云、昨日奉謁執柄、雜談諸事示合給、其間事故不書之、退出之次逢親尊法印、即歸廬、未時許寂真房來談之次、義懷中納言法名猶被□□之由教訓、天下賢者之故也、即時可用親字之由承諾訖、

十一日、朝天陰、已後小雨灑、未後雨止、分栽菊、夜前七條東洞院有炎上由今朝聞之、經時刻云々

十二日、自夜雨降、午後止、申時天晴、黃門所詔之古今今日終、老眼書寫進士御門殿、經廿餘日、自御誕生奉付、依懇切之志詔付之、爲緣者之證據染老筆也、女房今朝退出、洗髮夕歸參、明後日此女院渡御北白川殿、四五日云々、近日無由事歟、

十三日、朝天晴、午後陰、夕雨灑、依夏節今夕行幸七條殿云々、乘燭以後爲違夏節、行七條北小路壬生鹽物景房宅、亥時許雨漸密、亥終時許聞行幸由、出七條見之、御乳母宮內卿成實又他公卿一人不見、車渡、良久衛府佐一人渡、有隨身不見分、若信時歟、伯三位、騎馬侍等在共、又衛府佐、次右兵

衛督、左兵衛督、機務、隨身二又中絶之後別當、新任別當、看

無、人取松明、次近將十餘人許、御輿覆雨皮、天顏端嚴、次將甚

多、不能分別、又衛府佐等歟二人許朱紱不見、次殿下

御車、見了歸付寢、於納言者不參歟、

十四日、癸巳、四鷄鳴以後雨止、朝天晴、聞曉鐘乘車、鷄

鳴歸廬、今朝安嘉門院渡御北白河殿云々、

十五日、天晴、自晝陰、送書札知三品、返事云、熊野惡

黨欲奉迎阿波院之間、守護小笠原太郎今朝馳下云々、

日入以前參相門、阿波事云々說、兵船卅艘許寄阿波、

已以合戰、守護代臨陣親自合、雖攻寄御所前、戰士館

而、西遂引還了、仍守護馳下、件代官蒙創云々、但不聞

何日事、月來風聞事已露顯歟、此事只增歟、甚不

便、此宰相依女房等忌、忌輕服不參云々、極以爲奇、乘

燭以後退出、月暗、任大臣其後無重沙汰云々、暑氣忽

生、今日着帷、夜猶甚暑、

十六日、天陰、朝微雨降、未後天晴、前修理權大夫請取

柳枝、及暑氣定枯歟由雖答、猶送使、仍取冷泉柳枝送

之了、自往年依愛垂柳、多爲人被請取、已爲所々老樹

云々、

十七日、朝間晴、雨灑、辰後天晴風烈、午終許行寬法印

來臨、相謁示合歌事、即歸、老後好此事、但無未練之

氣、不存見苦之肺、仍頗加感言、禪尼行冷泉、夕歸此、

未時許宰相俄依召馳參內裏之由聞之、入夜來、依召衣

冠馳參、以二品仰任大臣事、已一定訖、此由可告申相

國、關白殿又於弘御所有召、仰云、左大將任大臣事、已

事切了、殊悅申由可告申、又中宮大夫同可任給由今日

承之、尤悅思給、又此事猶以如頭中將可被仰歟、雖問事面可申事等多、今明令參會給

乎者、依不存衣冠雖異樣馳參申此由、畏悅承候了、明

後日許早可參入候、此事以職事、被仰前攝政可宜候

歟、歸參申此由、其後雖臨昏有御鞠云々、一夜行幸、經

通、出御々具實、初騎馬以後隆親、盛兼、基保、光俊、資

家、近將、左將十二人、右將六人云々、師季奉仕雨

皮、無指笠者、被催示之後、宗平指之云々、實世、右中

將、實忠、有教、少將濟々云々、侍從宰相爲期衛府督

也、其事不被許者、猶兼本官、又有其例、彼是間猶欲申者、尤可然由答之、

十八日、天晴、午後陰、安嘉門院還御持明院云々、奉書阿彌陀、今日季御讀經始云々、定通、雅親、經通、伊平、隆親、盛兼、爲家、範輔卿、領狀、時兼奉行之由夜前語之、定脩出仕之由、先日借牛、其出仕不知可否、

十九日、朝天陰、已後甚雨、未後風相突、辰刻許冷泉女房產

氣、非火急之躰由聞之、已一點許女房相乘行向、於北庇相儲其事、陰陽師道繁門生歟、修祓、有驗者事、非取頻之

躰、入道近日在京、來臨相逢、依無指事入道歸了、午終許予

又歸、無指所作、窮屈無術故也、昨日御讀經、定通、雅

親、基家、隆親、盛兼、爲家卿、兩大辨參入、上卿奏事

由、右大辨一人候南殿、着御前座、即上卿退出之後加

座末、頭辨仰御願趣、出居、宗平、資俊、定平朝臣、右中

將實蔭、左少將家定候南殿、結願、定通、雅親、親定、伊

平、經高、隆親卿領狀、阿波合戰事無其實、熊野前海上

往來船悉取之、漂沒其人、崔鬼險阻之上、儲石弩構城

郭之由有其聞、南海地頭等各警衛之由、又有其說云云、彼是實否難辨、至于未時只同事由云送、風雨相交偏濕無隙、乘燭以後送使、猶同事由答之、風雨暗夜、家中無人音、

廿日、自夜雨止、天猶陰、午時晴、猶同事云々、但卜筮

自一昨日廿日巳午時之由占申、更不可驚、一定吉事由

頻稱云々、但事躰猶極恐思者也、午時許又行向、入道

來會、驗者若微々歟由夜部下之、又請加律師某、長殿僧正

弟子、先年所此母堂座云々、兩度許取頻、未時無爲誕生、男子、後事即訖、

奔出乘車了、驗者二人律師女房衣一具、阿闍梨二衣、各引龍蹄、陰陽師

事送大允道繁許、門生三人修祓、其身稱今朝御乳母二位被

送書狀、存別奉公之由、奉成功給信濃國哉云々、承功

程可申由申之云々、伴國爲齋宮御料、前大納言給之、

官掌國兼近代好其夫、請取國務、齋宮御相折、二箇月致其沙

汰、下遣使者之處、伴使無存命之計歸洛之間、大納言

被辭申、國兼二箇月川途、可爲左衛門尉功之由申請云々、今月入御諸司用途詮分闕

如之間、馮國務名字進成功乎由被尋求、但競望者數輩

出來、而頗有被仰旨、被尋仰云々、隨功程可申請由相定、且相尋入道、答云、件國第一國司不中用國歟、其故鎌倉近習侍、夙夜勤、厚之輩、二百餘人居住彼國、爲面名主之間、其嗽々可察、雖然名字懸國務名、期相轉者何事在哉、由同答之、予所案又如此、少將定平進五百貫可給由申請、殿下仰、其身頗非國務仁、又其力定不可叶歟云々、

廿一日、天快晴、小兒來廿四日沐浴着衣、四月一日垂髮日次云々、參相門、真惠僧正圓經法印來會、各別々謁申、一夜之後未參內、明後日參可奉謁博陸、大略之儀、來月三日兼宣旨、十三日任大臣歟者、即歸廬之間、家長朝臣兼來臨、入北門相逢、大納言殿御使也、於木綿御逆修所可有詩歌會之由、禪閣頻被仰、老者殊可參有御氣色云々、於彼御命者實難背、雖老病難治可扶參、抑密々申、任槐之最中、詩歌御興遊、頗可有御存知旨哉、如何、家長朝臣甘心歸參、

廿二日、朝天陰、申後雨降、以書狀尋家長朝臣、返事

云、彼比遊興頗可有斟酌乎由申、尤可然由有御氣色、但可被申本所云々、折節詩歌尤至愚之沙汰歟、未時許經國宿禰來談、秉燭以後退歸、信州事猶可進濟五萬疋五百實云、之由、傍輩競望、可爲其定由、卿二品示送云々、一條申、信州五萬頗韻外事歟、不可過三萬哉、彼緣者等、又於三萬者當時可相儲由示送、仍重爲申合參一條由、入道法師所告送也、

廿三日、自夜甚雨、終日不止、午時許長政朝臣來、示合十五首歌事、傳聞、信州事猶爲五萬疋歟、不可請取由相門命云々、是又可然事歟、

廿四日、自曉雨止、天間晴、奉書阿彌陀經、今日四十五卷、殘三卷也、

廿五日、朝天遠晴、巳時許宰相三位同時來會、次攝州來、少時能州來、始連歌、何書何氣、人少甚遲々、秉燭以後分散、三品云、來月七日大饗二獻勸盃可勤山、親房朝臣內々仰由有消息、奉行人右少辨爲經也、是只告送由歟、宰相云、來月二日兼宣旨可扈從山、右少辨送御教書、前攝政殿申領狀了、饗十三日由有其聞、七日若爲川、意備備出歟、今

日被築室町而築垣、依破壞之氣、又新造被修理、通具卿辭退、大納言可

籠居由月來有其間、已出辭書由、按察昨日被示送右幕

下許云々、尾籠之至極歟、信州實事當時急事、早速成

功無請取人歟、進三萬疋可給由重被仰、仍今朝件物可

進納何所哉由尋申、宰相中將返事未到云々、二位中將

任中納言之上、兩頭昇進由必定云々、近代貫首不過數

月歟、關白殿祭御見物機敷、左少辨親俊營作、被仰入

道納言、依修小善平辭退、讓鹿田庄、以次男令作、備後

讓嫡男云々、

廿六日、朝天快晴、傳々說、信州無音三萬疋之條、博陸

雖有御許、實宣卿猶依求五萬疋、尋廻萬人之間歟、去

夜盛宣小屋四垣外、竊盜兩三人剝取衣裝云々、無人蓬屋已

相近歟、

廿七日、遙漢遠晴、忠弘告送信州事、夜前又宰相中將

已被仰下了由有消息、亞相攝々口、狀等多云々、宣旨二品又其成功物

可送我許由被示送、仍今朝欲沙汰送、二條、町家、此事云置宰

相、參相國方違共桂方、訖云々、折節遠行不、可然事歟、黃門局消息

云、南海事今日始散不審、熊野太郎下云者在彼國、件

男此狀到來由觸守護代、其狀云、可付我方哉、可付守

護方哉者、守護見此狀、國中周章馳走、騷動無極、但無

指事、送日數之間、去十五日夜海人爲釣魚、漁火多見、

存敵向來由、又以馳走、其後軍兵守護御所、往反人不

通、此使者猶竊以入洛所申云々、事體不論實否、於南

海之狼藉者、滅亡之期來歟、可悲代也、法印被來談、入

夜前左馬頭長綱來令見、少年初學頗得其骨、相逢委示

合之、

廿八日、天晴風靜、已時許相公來、自方違所歸、只一人云々、大饗必定

七日云々、十三日有傳由泰忠申之、本自七日、吉日也、依卒爾被用十三日云々、國事已可給由被

仰了、功物昨日二百貫已被返抄、今日百貫進了由忠弘

示送、已時許詣幕下亭、尊實僧都同時謁申、僧都立去

之後、良久歸筆、

廿九日、戌中、朝天晴陰、今朝令築東地築垣、三本、給也、未斜

依預招請詣幕府、即被始連歌、西土、宰相信實朝臣俄被

招引長政知景等也、賦差物引物、近日物每人一同頗、爲珍、用先年物、秉燭

以後終百句、忽然詠聞三月盡歌、各退出、夜前以實經少將被勘發、法印其所行不落居、不當事等云々、不足言事歟、爲方違宿忠

弘冷泉、宰相備後又在此所、忠弘法師云、今朝爲使者向四條、入道在所、

國務事等示合、依朝恩預國務由、以消息先可被觸武州

并駿河、被國守護、一事以上可被計行由、尤可宜、補鄉司下

而々使者事、近代定爲牢籠之端歟、只無音而可被相待

彼等音信哉者、此事皆予至愚之所存也、相叶賢慮尤以

神妙、一昨日職事時兼御教書到來、紙屋、信濃國務事可

令行給者、依天氣上啓如件云々、事切了尤神妙、

○四月大、

一日、己酉、朝天陰、天曙歸家、性惠房出京、

二日、天晴陰、已時許參前殿、一條昨日所々修理訖、直見

參、今日扈從公卿二條納言定二位中將、昨日所勞由被申、今日又可被參由、

侍從宰相、左大辨、三位中將、實有、殿上人能忠、雅繼、

資季朝臣、實任、永久例四人云々、日暮者可參由被仰被擬尊者、

左大祿請取役侍從宰相可存知者、又仰云、尊者牛飼所

舟事所注置、無船者定而下家司老翁訖爲着舟由申之、

未獻不審重可勘見、奉行爲經自昨日所勞、溫氣、信盛爲

職事、初任饗無職事例、太政大臣饗爲房長兼宗賴等奉

行、准據何事在哉、未決之、臨昏雨如注、每事不及視

聽、終夜大雨、

三日、朝後漸休、已時青天開晴、去夜無殊事、信盛俄奉

行、二位中將猶不被參、左大辨被留扈從、四人、加定座

云々、今姬自深草退出、

四日、天晴、前宮內卿書狀云、按察入道昨日朝入滅、實教卿

月廿六日病日來不聞及、足于悲歎、其身雖不書漢字、非

雷提攜絲竹音曲、在世之間、拜趨之忠不懈、請習公事

口辨說之、出家以後猶出仕、所々交衆不止、於事有古

老之要之人也、年七十七云々、昔所聞七十八歟、長命

之盡期遂以如此、可悲可痛、子息公賴公、橫南相繼世許之、公長

卿、諸方出仕、四位少納言宗明、爲基宗卿子、出仕勤厚不似傍輩、入道公廣

朝臣、笛神樂酒多以隨父、皆以至愚難及父歟、已時許參前

殿、牛童車副裝束、祭以前衣一領單衣一領、單衣歟、可

着帷歟、建久四五年御賀茂詣、牛童着衣重帷由兼時

申之、予申常儀祭比衣單衣着歟、建久二年新制舍人牛
童被止單衣、仍着帷候歟、無殊新制者單衣可宜歟、御

斟酌又因何被用單衣、居伺可着襖、布、冬襖、夏帷也、一昨日召仰

嗣、一人時每度可任、大臣日時勘申、二人任時或其

日可任大臣由有被仰事、其時於里亭、不勘日時、今度用常嗣、二人共

被加日時、彼殿公卿、家良、賴資、經高、盛兼、範輔、基

良卿云々、內辨家良卿被扶參由被申、每日發病云々、

出仕人通方、經通、定高、賴資、經高、盛兼、爲家、家光、

範輔卿歟、雖勤內辨所勞猶有早出之者、琵琶難扶得云

云、後聞、經高不參云々、今日月輪殿八講發願、宰相可

參由一昨日詔付了、入夜宰相來、參內之後參彼殿、左

大辨同自內參、即被始四座了退出、參東一條院、明日

定高、賴資、家光卿參云々、

五日、自朝天陰晴、巳時許參向相門、不例氣云々、仍氣差、出逢

給、近日流布事歟、有小溫氣、顏已腫、心神甚苦、又有

寒氣、高野老僧以木筆畫墨繪、詭造障子、昨日持來山

有命、障子被張唐綾、筆勢實以珍重、見了參東殿、終日

日薦、依仰舊御次第、臨昏退出之次、參承明門院、日入
之程歸家、

六日、天快晴、辰時許自殿給御次第、可清書由被仰、老

眼極見苦、已爲明日、遲筆難書出由依被仰愁染筆、宰

相來之間又稱有召由、參一條殿、爲御使可、誤脫アラシ、參殿云々、法師許之門、

今朝青侍說云、早終命了、兼知死期、澡浴請淨、臨終正

念殊勝云々、壽永二年被賞蹴鞠、被任左近少將、文治

五年父有事之時解却、前官之後出仕、還昇四位叙正、私難波宗長、

下、又承元之比被抽任刑部卿、建保叙三位、兄弟共早

世、於鞠者堪能之人絕了歟、恐於口傳故實者誰人傳之

哉、諸道次第陵遲、可悲可痛、光家書狀云、近日頗有奇

思事、今日依參御出行御共、不能委申、雖須馳參、此間

疾侵不堪遠路之乘車、不審無極由答之、縱雖有非分

事、是人非可諫申、殷紆捨三仁、將奈何爲乎、

七日、朝天遠晴、初三月在星上、其間二寸許、依昨日不

審、送書光家許、彼殿侍通業書狀云、昨日御出東石藏、

法勝寺、侍從參御共了、左衛門尉通員御車等夕被返了、從侍

一人、事體勿論候歟、以此旨可申者、依聞驚已時參前殿下、申此由之處、只今有彼御消息、已遂年來本意之由也、猶今年許被延乎之由只今答了、又以大藏卿欲示子細之間也、少時大藏卿參入、此間被進御返事又到來、已被載法名了、觀空、於今者勿論歟、大藏卿猶欲參、車不通坂七八町之由聞之、騎馬依絕思今日不能參、宮內卿已會、暫相逢、申時許退出、御產御祈事雖聊事可勤仕由昨日申入、於八幡大般若御讀經事可致沙汰由被仰、基補仰奉行入夜送註文、可沙汰由仰忠弘了、光家來云、此事日來更不承及、昨日只可御共由被仰、俄乘御車後、夜前明慧房被參、但夜深退下宿所、今朝早旦被遂了、於今者、以下闕文アリ申時許參前殿見參、今日大炊御門東洞院邊有放牛、突往反之人、懸車牛、大藏卿逃去、其牛雖無事、車破之由語申云々、信盛牛死、賴隆牛又損云々、通具卿大內材木非一身事之由陳申、自官尋所運牛童可沙汰云々、於吉祥院前河有取鮎人、近邊神人等、四至之內殺生禁制之由制之、稱貴人臨給由不聞入、神人猶

制之間被打調、或刃傷、此事人稱源大納言兵部卿間、雅親卿由申殿下被問之、雅親卿請文、於吉祥院前釣魚事、老翁全非思寄事、天神宮御知見歟云々、漸聞之定通卿也、仍被問其事、請文誓可申左右云々、以使者示在高卿云、年來殊申承此事、尤私可被尋、無是非被訴申、尤非本意云々、返事云、先不承御慮事由、聞彼卿由已言上、付其請文所承態也、於今者爲休神人之愁歎、如形下部一人被付被召付廷尉者可宜哉、大納言又云、件所非院領云々、於非院領山者、爲向後極不便之由答之、重云、武士去比於件所漁、已無其制、依人被答之、無其謂、返事云、其事承及、相模太郎去比於件所欲企觀漁、神人等是神領山稱之、不知而所來也、急可下船由相示即去了、寧可訴申哉云々、重示送云、俟武士之威被輕歟、我又武士也、早向其所、件神人皆悉斬首可見申云云、在高卷舌夕退出、詣相國亭、聞出行給山、歸家之後心神極惱、近日總心神遠亂、偏惘然如無魂魄、極恐思、夜深頗宜、

八日、天晴、日入之程出門、伴中將向前宮內卿亭、爲訪
旅行事也、但偏難談、侍從稱參清水寺、夜深出逢、下向
事爲湯治也、所詮播州所領滅亡、在京無力之故歟、甚
不便、清談移漏、夜半許素覺法眼來談、肥前國御領、八
年十五日大風高鹽昇、住人百余人牛馬數百漂沒、大略
向後十餘年難興復大損亡云々、凡鎮西云國云莊、多以
損亡云々、亡國之殃至極之道理歟、親兼卿女民部卿局
亂以接談、去廿二日出京參隱岐云々、本人四卿病常侵不
堪宮仕之故云々、從三位能成妻隱岐內侍死後、與一條棧數女
房雅繼備正藏妻近衛殿近衛顯同
宿、伴女今年六十、又語小僧服却離別云、去中旬之比出家云々、年六十四、
九日、終夜微雨、朝雲漸分、天間晴、雨又瀧、源大納言
送書狀云、明日可參考定、老屈於事難治、當省文庫庇
借與哉、於休息所爲待刻限也、此事又雖不甘心、適委
細之狀不能辭返、國兼又內內有好者也、定約束歟、仍
令書下知狀付其使、如圖帳文書、若朽殘者被引散歟、
遂那智之棟上、預與州之相博、實是抽賞之盛歟、又兩
社行幸上卿云々、於神慮何、可悲之代也、中將來、獨

於庭上相逢、世間事無殊聞及事、八幡行幸十一月賀茂二
日、五節前後甚不謂、又關東將軍今年猶可元服給、下向
歟、彼是指合云々、一昨日參女院、重具申入由相國命
給云々、

十日、朝天清明、時雨乍晴灑、風寒、夜前戌時前大僧正
慈圓遂遷化、今年七十、三塔識物由者、悲泣如喪父母云
云、傍家又成歡喜歟、法性寺禪閣之最末息、後法性寺
禪閣之一腹、長于台嶺之密宗、其行法勇猛精進也、建
久三年補天台座主、同七年辭退、依傳隱、其後四度還補、
每度辭退、園城寺實慶僧正他界之後、補天王寺別當、
自三箇年以來居住東坂本、去七月有所願之旨、被奉造
八王寺三宮御體云々、今月朔之比忽作祈願之儀、示付
三塔之淨侶、被祈速疾遷化事、自其間所惱、此間脫漏、納
(勤カ)アルベシ、物知行六ヶ年之間一度不勤之、前司又不動云々、以其
狀又仰國兼、彼國無納物由、極無實由披陳、省家國務
之詞不見、所詮可依納物有無之實否、近年勤來之例不
及口由答了、後聞正念無違亂、自他唱釋迦寶號、狀首

西面臥給、其日奉請法親王、入夜以下闕文
アルベシ

十一日、自朝陰雨漸瀟、風明聊涼、已特許法眼來臨、言

日及未時、宮僧都遊大井河之間、武士來向、騎馬歸家、依定通計略武士雖去、始終猶有沙汰歟、及申時

心寂房來談之次云、去八日午時許罷向菅十郎左衛門

許、其辰時許法印終命日也、武士委談其間事、年來熊

野又洛中鎮西等經廻、此三年許在京、茂盛子兵衛入道

尋逢爲友之間、伴法師從父兄弟、山伯耆房又知音之

間、兵衛入道忽挾貳心、以告此事、可爲扶身計由成支

度、以使者觸武州、武州成悅、以書狀、可擄取之由示送

河東、狀五日到來、忽議其事、伯耆房向法印許、早具恐

敵我身出門之時可入由、兼與武士約行向、武士稱避暑

由、行向二條大宮泉、菅十郎、菅原、小笠原、甲冑入車運之、又乘車四

兩、合引馬、行彼近邊之間、伯耆河東武士成群之由聞

之、罷向見可歸來由稱、出門應武士、奔去之間、菅十郎

手先押寄、法印取劔入一間所、如仙、人說、先奔入男被突、三

挺、歸出、次入者又被突、淺手、次自害之後、入車向河東、

乍車入門內、法印問云、あの男は誰ぞ、人云、修理亮殿

武藏太郎こざれ、又あの男は掃部助殿、これは見き、次

云、只早頭をされ、若不然ば又義時か妻が義時にくれ

遣さむ誤脱アラシ藥されこるてくはせて早ころせ、衆中頗驚此詞、次昇

入菅十宅河四、之後、小笠原十、各稱我先入由、以使者問

上綱、答云、先入男突之、次入者又斬、三人也、其後久

無見者、遂見者等、當時在男等之外無之、再問之、なん

でう只今しなんする我等、などか人に被語て虚言は

いはむ、復問、希有也と答、又和田兵衛入道說、年來京人

に知音由云、如何由問之者、又云、京中に知人事何要

哉、甚無益也、更無之云々、又尋水、無由答、世を打取

て、六波羅殿と云て、居物、寧無水哉、甚不覺由辱之、求

與之、食了、八日辰時許只今臨終歟、若改帷手合懸佛、

高聲念佛、乍坐終命、武士等稱往生由、跡無屍香、各讚

歎之、又兼我身必圓明寺に可埋、於河原不可曝由示合、

菅十、我云つれば土用不可憚者、仍相送其所葬之不斬

頸、當時只異口同音稱美云々、兵衛入道は召取置武士

許、後日當別不知之、伴法師之縁者、と歟、入道宮僧都知音、依之被

資云々、飛脚奔了待歸來、有尻引之沙汰歟云々、此僧雖如此後日聞之、武士猶相議切頸由云々、從三位清季卿自去月癸亥、廿七日被請之、更不可存命由示送、今

月一日逝去了、本飲水勞云々、遂不出家口口口口心中有

所存歟、本自僻案之異人也、叙上階可忽出家由奏聞、

勅許、臨最後病猶不口口本妻惟義娘、又皇子祖母之佐

尼同心看病、本妻所生女房前司、光盛卿猶子又大夫等馳走

云々、臨昏雨如車軸、終夜風雨、神今食定失進退歟、

十二日、朝天漸晴、未時許半乍晴大雨落、不及溜、夜適

見月、黑雲間聳、自春所傳聞之太子石御文、今日始眼

見、末代每堀土御記文出現、河內國太子御墓邊爲造立

堂曳地、瑪腦石曳出畢、其石記文云、但兩本玄隔相違、

主無入字人王八十六代時、東夷來、泥王取國、七年丁亥歲三月

四月十七日、雖資來可爲賢王之國、三十餘年豐饒、其後可有閏月、四月廿三日西戎來從國、世間可爲豐饒、賢

王治世卅年、而後自空、猿猴自空下、滅亡人命獼猴狗可喰人類云々、彼石納

置天王寺聖靈堂了、今所見傍所書付之說、文章今一

倍、當時愚暗之雜人筆歟、人王獼猴等之字、頗有古文之

跡、逐時代而頻出現、其事每度有實哉如何、四月已退訖、

十三日、朝天又陰、已後晴、夜月清明、平相公音信可有

條事定仗議等云々、高麗及返事右少辨爲經奉書、其紙高麗紙口口口代々

來見高麗紙之書狀來廿二日詩歌會可擬風情、右大臣御消息云

云、五十餘日所勞、近日殊增氣、出仕勿論由申之、夜月

適明、出南庇適銷憂、

十四日、朝天晴、終夜風、昨今聞蟬聲、

十五日、天晴風吹、明月無片雲、日入以後宰相來、昨日

參四條殿、前夜行幸、日朧夜前還御、供奉中納言具實、

盛兼、參議爲家、宣經、次將賴氏、實直、親氏、頭中將雖

參不陣列、實直一人渡左、次將未練、近年萬倍、一昨日

此人數外三位中將基輔許云々、少將公有參內侍所、源

相府之新妻參詣行神樂、亂舞之盛也、

十六日、天晴、日出之程參上之後、參大和御宿所、見參

之後及巳時赴歸路、夜前之幸人歸久我云々、同道無詮

之、路頭尤有耻歟、於法勝寺南乘車歸廬、範宗卿音信、

廿八日祈年穀、使實基、賴資、盛兼可勤、松尾新大納言上卿、伊勢幣之間家禮如何、答云、大辨中將定存家禮歟、一同之進退宜歟、如然事我獨在之時人屬目、於群儀之宜歟者、

十七日、天晴、招寄心寂房令探腹痛、無指事由答之、右足指此四五日有如水袋物、令見、又非別恐、雖同物之體有赤筋、有痛氣也、可怖癢、而出者不可怖、以針刀刺之出汁、偏水也、付車前草葉、

十八日、天晴、長賢得業來、入道左府多年猶子也、不聞其事、夜前始出京由稱之、懈怠之至不足言歟、至愚之性歟、今日安嘉門院還御冷泉亭云々、日來御北白川、入夜女

房退出、能季卿參會、心閑見參、過夜半退出、僧正祈雨致結願了、繼力云申正僧正不許、追可申請之由被仰云々、御拜賀後事不功者、來廿三日可被遂云々、

十九日、遙瀛清明、夜前暑氣頗宜、朝間似秋氣、巳時東方女房冷泉母儀、群狀到來、十一日被終之由告送、件狀即覽相門了、他方音信未通云々、猶令增不審者也、

廿日、天晴雲收、午時許中將來、夜前左衛門尉知景爲相門御使馳下關東、女房可修御佛事、行兼相具可下向云々、連々經營實有其煩歟、入夜參前殿、定納言參會相共見參、顯俊卿懼家中惡病、遣要辭美濃國、郡智造營、忽被求國務造作之人、通具卿懇望給之云々、吏務定有神威歟、別當辭可被任替、依此事有除目云々、未知一定日、謀橫於末代萬神道歟、祈年穀奉幣、廿三依京中穢延引之由、昨日宣下云々、大將殿御拜賀來月云々、夜深退出、

廿一日、天晴、夜半大雨忽降、二長者僧正被來談、祈雨四箇日雨降、雖申賞正僧、又以不許、結願退出了、又申僧綱二人、猶無許仰語、此驗已三度、如此事今更無優劣之沙汰、只有懷舊之思云々、

廿二日、甚雨如沃、午後間休、夕陽僅見、大雨雖地濕、井水未潤云々、近強盜殊蜂起、又引牛盜車云々、盜賊公行、時運可愁、外記顯不燒、南所燒了、大風拂口、淑景舍之北舍一字殘云々、左近府行村法師守護師季々繼等、騎馬在陽明門邊云々、大臣公卿已下、依朝家大事

馳參人無之云々、左少辨親俊居住前出納_{建保}之_比、久一宅燒了云々、博陸祭御見物棧敷、件辨營造云々、上皇不願京中大燒亡、修明門春日御幸、最勝成勝等燒亡後朝日吉御幸、後鑒是即天魔滅之期、宿運之盡時歟、累代之禮服、先爲群盜汙穢、重又寶藏燒失、朝廷之滅亡、舉趾可待、生而遇此事、悲而有餘、

廿三日、朝天陰、已後雨漸降、不濕地、御禊延引廿七日

云々、他事不聞及、安嘉門院女房今夕退出、晚頭閭巷

騷動云々、後聞、檢非違使行兼次男左衛門尉_{左衛門尉基綱}云

云、他行間、舍人男大路置馬、草運入門內之間、男一人

來、取其草逃去、稱草盜追欲搦之間、他郎等男見付、制

止取放了、其後件男黨類、成群亂入門內、以飛礮打宅之

間、又他郎等聞之外來、拔劍奔懸之間、十餘人群入者

逃散了、相門侍雜人等隨聞、馳出之輩數百騎、群喚其門

欲搦取亂入物、_{者力}自相門道算博士政衡、殊被加制止之

間、無爲分散、件亂入者範輔卿從者云々、入夜以使者

事越被示遣中宮權大夫、中宮司慶之次、早可申入由答

之云々、範輔連々武勇得時之故歟、可恐之世也、彼處

奇怪今日又下云々、供奉前口機緣僧又相同歟、無其賞

有其儀、今度論議不見苦由稱之、不口實否、人所作此

閑梨御房之外無尋常事云々、今日殿下、右內府、大納

言定通、通方、具實、盛兼、伊平、家光歟云々、頭中將取

智圓祿、頭辨取定親祿、入二間經僧綱座前云々、所語

不幾、一昨日少將親氏入冷泉殿、_{其所爲公性宿所}着沓在堂上、

童部等答之間、互謗言之間逃歸、法師原群出罵辱白

者、被口口鳥歟山詞及母、路人側耳、自禁裏語口口申

可搦取童由下知、公人等雖入僧等嘲弄、又罵辱之間喚

返件輩了云々、無識近習權門之體、奉爲上有其耻歟、

深更雖怖畏、夜半許歸了、後聞、頭中將可申事由有庶

幾之氣、仍頭辨讓之、右府遲參給之間、內府召之、昇

小板敷欲昇長押、日煖懸膝長押候、源卿等咲壺、內府

申可始由給、奏之歸來、又如此辨や候と被問、申不候

由、內府被仰舍、於小板敷乍坐仰舍、又滿座嘲弄、夕座

右府蒙殿下御目、又召人、頭中將猶懸膝、如犬突口左

右手、滿座大臣以下先咲壹被申口由、歸來如前坐、右府仰辨や候、頭中將高聲、仰合、右府歎息、此上可何様乎、殿下虛有聲、於今者重不可召歟由被定仰了、

廿四日、天晴、未時又雲雨、半天不濕即止、日出之後得業叙法眼由示送、朝恩珍重、偏是大乘院之深恩云々、

遇此時有此事、誠是神恩之至也、不可云盡、午時見開

前僧正顯教任意代也 一乘院不經僧綱師書、僧正覺朝、權僧正實信、不經權權大僧都真通、真

忠、公豪、少僧都十四人之內、覺經、隆快、實瑜、示之、律

師三十二人之內範實、第一、法師十五人之內良算、宿曜、

能性、尊實、法眼十二人之內長賢、法橋四十二人、二會

准講證慶、一身阿闍梨道實、世上之獲麟、只除目僧事

之面歟、上皇御在世一度僧事、律師十八人、世爲勝事、

奈何、于今世口口、中時許法眼來、借宰相車、向別口權

別當房竝前大納言許、僧正着香染出逢、口口興福寺

伽藍大明神之奉爲、懇切舉申由命給云々、芳言之至

實餘身之面目歟、又借此車參殿下竝新僧正宿所、今日

南京僧綱依有申事、群參殿下、山階寺題廊破壞、已欲顛倒事云々、依過其程

待夕云々、自他皆明日可下向、即欲參社頭者、宰相來談、今度興福寺僧正以下五人任之、於末代少歟、今夜暑氣已以難堪、寒暑廻轉如打火、七旬病者徒過旬月、悲而有餘、

廿五日、天晴、未時乍晴大雨降、暑熱已難堪、只臥閑寂之所、夕定修來、爲六月會問者、明曉登山、

廿六日、天晴、今日始雨不降、曉更定修登山、午終許法眼來談、僧事口法親王頻雖令執申給、遂無勅許、有事

故乎云々、相門影供六月可被行由、今日被示云々、暑熱老病萬事難堪、

廿七日、天晴、已後忽陰、大風起、雲飛揚、法眼借送保元元年七月舊記、年來未見、馳筆書寫之、終夜大風、雨

間落、後聞、忠行和一條高倉群盜襲來、人多而不入云々、夜深早涼成、始着有綿物、山

門僧又依妨專修、發法然房之墓、破壞其墓堂、以濫僧等令壞取之間、自武家制止、不知此欲陵礫山所司等之

間、訴訟又嗽々云々、近日謀反惡徒蜂起之最中、時節負同心之疑歟、甚無機間、

廿八日、天晴、朝雲有秋色、朝間風颯々、終日風、夜有涼氣、着綿衣、酉時許南宮小路方有下人圓諍、殺害乃傷云々、此間又出雲路此家長方、方有失火、雖聞騷動聲、未見煙出之前打滅云々、今夜行啓初御退出、不能見物、後聞、公卿雅親、家良、家嗣、大納言、具實、賴資、盛兼、中納言、基良、二位、隆親、經高、爲家、家光、範輔、參議、基輔、光俊、成實、三位、宣經、參議、內府乘車供奉給、晴大路與權大夫寄御輿給云々、近衛、家定、賴氏、少將、衛門、廷尉、左右兵衛、左公良、右顯氏、殿上人廿人許云々、出車十兩、公卿皆家光宣經之外、有馬副、但納言四人、參議二人、具人書之、雅親卿每事如例人云々、殿下於右兵衛督家前令見物給、

廿九日、天晴、朝間有涼氣、晚涼又似秋、夜深有小袖之上猶重綿衣、

卅日、丁丑、天晴、申時許相來、京畿殊無聞事、相門吉

田泉造營已功成寄云々、今日腹痛極難堪、心神違例、皆是老屈之至也、日入之程六月於南面修之、

○校訂者云、當四月ノ配、開本并同補寫本關ク、今野宮本ニヨリテ

之ヲ補ヒ、柳原本并大學圖書館本等ヲ以テ校勘シ了ル、而ルニ今其本跡ヲ接ズルニ錯亂混雜解シ難キ處甚ダ多シ、藤原能成ノ出家ハ、公卿補任之ヲ嘉祿元年十月トナス、而ルニ今之ヲ八日ニ配シ、考定ハ八月ノ事ナルヲ九日ニ配ス、又十日ニ悲願還化ノ事ヲ配セルモ、コレ嘉祿元年九月二十九日ノ事ナリ、且ツ炎暑ニ苦ミ、秋涼ヲ悦ブ等ノ語アリテ、何レモ四月ノ事ニ合ハズ、然レドモ猶四日ノ配、藤原實教薨去ノ事、并廿二日京中群盜蜂起ノ事等、當時ノ史實ト符合スルモノ亦尠カラズ、恐クハ是兩篇蟲鼠ノ餘、斷片ヲ拾聚シテ一巻トナセルモノカ、今一々之ヲ甄別スルノ煩ニ堪ヘザルヲ以テ、姑ク此ニ原本ノ儘、載録スルコト、ナセリ、

○七月小

一日、戊寅、朝天晴、暑熱又難堪、夜景猶無涼氣、
二日、朝天陰、辰後晴、宗清法印書狀云、自山階寺差所司、宗清以下權官等許申送狀云、別當法印有訴申事、就其事可被遠流之由、衆徒訴申、次官等同心、幸清者可有後悔之由觸送云々、正權別當近年喧嘩之上嗽々、定増色歟、今夜又暑熱、及巳時乘車出一條大路、待曉鐘歸入、星躔照耀、不異微月、又無露、
三日、天晴、未時許不陰而大雨、不及溜、暑熱如焦、法

勝寺御入講始、通方、

本上和實親卿任大納言之後辭之云々、自今具前駐人不可行此寺、

賴資、

經高、光俊、宣經朝臣參之由傳聞、初月織於絲、去山纔

五尺許、

四日、天晴、近日山門小法師原、於路頭見及所破却念

佛者之黑衣剪笠云々、又好其宗立伺法師原尊卑之家、

觸送可迫却之由云々、東一條院無此謗云々、通方卿家

成群好色等、近日逃去云々、

五日、天晴、今日信州前使發向云々、

隨分小舍人冠者之中、適可殘者也、爲威儀任

右兵衛府
歟云々、

六日、天晴、入夜宰相來、法勝寺公卿一人不參由、聞之

一身參入、辨有親行之云々、一昨日左大辨一人、昨日

中納言經通、左大辨云々、南都別當權別當參仕、僧正才

智顯現、論義精好之間、朝座一座、經數刻始夕座退出、

先是參中宮、家良卿兄弟、通方卿、經高、範輔卿參入、

山門之訴強盛、可振神輿之由、頻以騷動之間、今日雅

親卿參陣、左大辨參結政、張本隆寬、本山僧、律師、空阿彌陀

佛、成覺等流罪云々、后宮雖令發給時、下又早令落給、

仍明後日被召、今日驗者

親殿付正弟子、已以隱居尋求云
中院權大夫弟、

云、善惠房上人

字津宮隨
還之師也

山門訴訟、入其數之由聞之、周

章書誓狀且進公家、妙香院又披陳給云々、吉水前大僧

正歸依、爲臨終善知識、以之爲證據云々、惣藏下知、濫

僧等隨見及可陵礫申示含之云々、

七日、遙漢無行雲、稱川崎惣社祭、自日來打鼓、今日申

時許一條東行云々、今曉神輿出左近馬場北、更今日歸

入云々、朝間令拂文、申時許望南庭、召使一兩猶入門

音信歟、

甚無其謂、只以不迫序之所、猶爲其身之要歟、菓子酒肴與
名字云々、近年此非如知及之處、去官之後猶如此云々、

八日、天晴、自朝暑熱、或人云、去五日爲行條事定、一

上參陣、左大辨宣經朝臣參入、納言一人不參、召大外

記被問、無納言而被行之例申不候之由、仍只被定賑

給、於公卿分配者、條事以後可定之由、示之退出、

六日參
中宮入

云、召使每日來催、條事定數度被行歟、面々吐嘲
哂之詞、一上之職已甚輕忽歟、是又本性之令然歟、炎暑難堪、偏

如病者、又或說、中宮行啓夜、基輔卿左右手持弓笏、在

殿上座云々、宰相不語此事、若不見歟、

九日、天晴、宰相示送云、昨日已始刻參中宮日薦、酉時

許無爲、驗者親殿僧正弟子律師、座南面簀子、頭辨進仰任僧都

之由、權大夫取御衣賜之、家良卿賜宣陽門院御方祿、

女房殿上人皆悉送車下、殿下御隨身前行拂人、次參殿

下、基良卿賜御劔、被引御馬、實宣、具實、忠行、經高、

家光、範輔、光俊、成長、基輔卿參仕云々、酉時參陣、賴

資卿爲上書最勝光院尊勝寺御八講僧名定文、依無人

參最勝光院、蓮花王院新御堂也、右兵衛一人參、夜半歸云々、公卿

不仕、太不便、送書狀于親嚴僧正許、昨日嚴重之儀、佛

法驗德門徒之光美之由也、返事云、新僧都定嚴驗德實

以未曾有、面目餘身、今日又參上了、歸來時且可申此

旨、其次云、東寺丈六千手令顛倒給、爲世爲宗殊憐思

給者、入夜宰相來、昨日賞、勅定被仰大僧都之由、殿下

被定仰少僧都了、其後參內、入見參之次、少僧都歎由

有御尋、定高卿申腫物由辭退、齋宮上卿闕如、被催公

氏卿、無故申故障、當時無其人云々、入道大納言定輔

卿面腫物危急云々、年六十五、癸未歲、愚老一年之弟、公國公定卿同年

出雲國務人相續終命、當時大社造宮無叶神慮人歟、自上皇御在世時橫

管領相撲事、今以遁世身偏張行、末代奇異之其一歟、

自少年其本性爲事讒言、以謀詐之詞、爲二代琵琶之帝

師、爲故內相府吐讒言之詞、近年寓直于相門、一條、皆

悉子息可候猶子之儀云々、又以納受養應、世上之儀如此、長

賢法眼今夜送入之次云、田樂頭已被差、可經營者、

十日、炎旱、夜無露、今夜暑氣又過于日來、寅時許雖聞

雨露之音不及溜、

十一日、天晴、地乾、未時許雷電猛烈、三四聲、雨不降、巳時許心

寂房來談、帥入道定輔、一昨日一定入滅、清水過、嵯峨念佛

房爲善知識行向、歸來披露云々、山門訴相觸諸宗、悉

令追拂念佛法師原云々、入夜靜俊註記來、招寄問衆徒

事、沙汰甚興盛、專修停止之沙汰、日々雖議定、其事未

有一定云々、當時谷々悉行如法經懺法最中、其隙成此

議定之間、惣念事未定云々、雜人等云、近日天狗狂亂

殊甚、滅水鐘樓之下、以白布縛付法師一人、聞叫喚音

求出、不言語飲食、兩三日加持之後蘇生、本在伊勢國、

去春入洛、經廻歷旬月、依無餘糧、六月十二日下向本

國、於途中勢州、本見知僧^{山伏體}、相逢、洛可伴來山之間、

相共更歸京、先出大內、又他僧來會、又相引入法成寺、

^{實踐數}、依貴人之下知、以此僧衣帷令取酒、盃酌亂舞、

又相引入法成寺、又相議入清水禮堂之由雖存之、狂心

不知其實、座禮堂叫喚之由語之、不覺悟縛、樓上事云

云、參詣人等憐愍、令着衣裳下向伊勢云々、^{其間事等、崇德院當時御于鎌倉竹中、僧都參}

十二日、炎旱盛、而草木枯槁、昨日相門吉田泉被造改

移徙白晝云々、午終許雷電猛烈、其音如徹大地、聞雨

音^{不及}、暑熱彌熾盛如燒焦、入夜下人說、昨日有除目、

不知何事、

十三日、炎旱如燒、聞書傳見、中務丞修理亮以上十六

人、左將監九人、右六人、左門十三人、右八人、左兵十

一、志一人、右兵同數、左馬六人、右五人、使宣旨左衛

門尉藤行康云々、大略諸齋宮等功云々、臨時內給甚

多、內外之功相積被行歟、信濃國司待除目之次由一日

稱之、今不任、不得其故、巷說云、武士等少々遣八幡、

是南衆徒可燒拂宮寺由有其聞云々、臨昏宰相自昨日

所惱頸腫由傳聞、欲沐浴之間不行向、母儀念到、即歸

云、昨朝參吉田之間、心神違例之上顏腫、仍早出之後

腫漸增、但近日人多有此病云々、又問國司不任事、答

云、不知除目、不申云々、例之懈怠之所致歟、尤兼可示

付權勢事也、宮司黃門日夜言談、不知除目、至愚之性

歟、

十四日、天晴、夜月間陰、大谷齋宮御所惱重之由傳聞、

令書狀示送戶部局、自朔日令發給云々、午未時之間暑

熱難堪、不能念誦、甚無力、月出後、南地之口家中之青

女、此間立門屋、有一間棧敷、雖半作懸簾、於其所禮不

輕、歸來之間、坤有火、南風甚到、是柱松之失歟、傳聞

姉小路堀川及三條坊門油小路云々、陣口歟、後聞內裏

南築垣火付云々、

十五日、朝天適陰、^{雨脚雖瀟瀟不濕地}、天即晴、未時許小雷、陰雲電

雨、簷溜初落即止、終日風吹、但無涼氣、

十六日、天晴、宰相書狀云、今日右大臣殿御着陣、兼日

蒙催申領狀、此病以後、所勞無術由觸奉行右少辨、件
寄狀辨他行、持歸之由、青侍等懈怠不告示、身受重病忘
却之間、只付遲參催始覺悟、爲恐有餘者、本自懈怠忘
却、不事重事、青侍等博奕偃臥之外、送日月無所作、其
失如此、老父長病、簡居八十餘日、不預一言之恩問、四
月新任、過六月令着陣給、子細等又不及耳目之境界、
懈怠子細不當、有何面目出微言哉、早達吉慶之兩方、
可被披露之由答了、近代之儀、貴賤細素皆同心之賢慮
歟、日入以後、乘車出門、參大谷齋宮、依聞御不例也、於東方舊
堂請出女房達申入、事體偏古墓之靈氣歟、尤可令避此
所給由加詞、不經程歸家、暑熱適宜、月前有秋風、
十七日、天晴、宰相自昨日殊增氣之由聞驚、臨昏行向、
疾體甚重、於面腫者漸々減氣、溫氣又寢之後、自昨日
又更發辛苦、青侍等云、振鈴大腫、近日諸人有此事云々、食事又不受之、氣色太
弱、乍驚示泰俊朝臣、令修泰山府君祭、今夜在入道法師
東屋、依八月節也、聞曉鐘歸廬、相門之室、森下赤痢、涉
月增減、昨今又被增云々、

十八日、天晴、申時許大風雷鳴、雨適降、不及地濕、禪
尼又被向冷泉、申時許今日不增于昨日之由示送、平相
公消息云、來廿一日於殿下御直廬可有事定云々、又二十三日右
府詩歌御會云々、知家列示之、心中竊不甘心、甚不可然、南京性惠房音信、乙
姬依病、危急出家、當時待時、事未切云々、入夜長賢法
眼出京、忽無宿所由云送、依無其所、可宿狹小之西面
由答之、夜深來宿云々、
十九日、天晴、入夜適聞雨脚、前殿下家司親直以御教
書來、宇都宮入道家人稱有負物、其屋打簡山可尋沙汰
由云々、無緣之非人不論親疎者、如此事口入無承引
人由雖令答、殿下御教書可示觸山懇切云々、如此事御
教書到來頗輕忽歟、口入深憚思、所緣名號實正疎遠、
旁以難堪也、前齋宮御不例猶重云々、宰相今朝溫氣
寢、心神不似昨日由、有女房返事云々、適慰心中、
二十日、朝天陰、小雨、午時晴、雨間降、宰相如當時歟、
平減云々、禪尼行冷泉、申時許歸、法眼借車向所々、夕
歸、

二十一日、天晴陰、法眼向覺教僧正房云々、平相公有音信、御直廬定猶逃片足申歟云々、予先年逃足、此事敬由歟、就之博陸御前何可異仗座哉、先達又有此儀云云、殿下御一門仗座無其事、若依人歟、弟姫法眼妹去十八日未時遂逝去云々、抑假事、雖姪僧娘也、依不審尋法家、雖僧侶、猶可有其假之由答之、仍欲解除、

二十二日、天晴、未時許平相公有消息、尤芳心歟、以之散不審、

昨日依重催、日沒參内、先之右大辨參候、殿上邊暫言談候、秉燭之後人々漸參集、土亞遲參、及深更候き、其後各參御直廬、相府自彼屋東面、如御即位時被參内、土亞已下出自油小路門令廻參、此路是非如何

不審候、但いかにても候ぬべきにや、
左府土亞兄弟 右幕下 三亞 二條新藤兩黃門左右大辨人々着座之後、召頭辨被尋高麗牒狀、即持參獻殿下、次第見下、至右大辨座下、一見之後暫置之、兩大辨之間、以誰人可令讀哉否事、被仰合、於委細太雖無心候、依一日仰粗注進候也、可被勘付候歟、努々

不可及御口外候、

返々申候へば、今はじめたる事には候はねども、酒ばかりうたてき物は不候けり、淺猿候し、さすがに末代いかににてもそはと覺候へども、如此議定なとはさすがなる事候ぞかな、是自身事は不然、他人事は努力令早啓候、凡於事、逐日公事之狼藉、事々凌遲事、あはれにこそ覺候へ、窮屈之餘、鳥跡彌狼藉爲思候、

廿三日、天晴、法眼今朝下向南京、知音人々相屬經營事、田樂一人分可防山許容人
三條相國、同亞相、此相公、右武衛、覺教僧正、前女御殿、興福寺別當、前別當範圓云々、權門前亞相有芳心詞、公氏公俊兩卿、弟大僧都、各約束足絹之由語之、
廿四日、天晴、未後大雨、雨止天猶陰、夜雨滴、巳時法眼覺來談、相門室赤痢已數十日云々、依其事參彼亭云云、右府御會、明日之聞如何、不得心、心寂房又來、同時相謁、即各歸了、一夜議定、定納言依所勞早出云々、未時許心神忽惱、暑熱之故歟、又有痢病氣、

廿五日、壬寅、朝猶微雨、漸晴、已後間雨降、未時甚雨、昏
棄車出門外除服、終夜暗雨打窓、今日又造日吉官使宮
仕法師成群、責吉富國衛所濟云々、昨日法眼又談此
事、御室御領造日吉役大工野宮、前後左右譴責、無寸
分心隙云々、

廿六日、朝雲暗、微雨灑、午時許行寬法印來談、相門依
室家不例、明旦被渡西園寺、月來此亭怪異非一云々、
病者被渡忌諱方事、諸人雖不甘心、陰陽道七人占申最
吉由云々、驚此事日沒之程扶起也、參向前殿、右大臣
殿渡御候、暫與彼御方人言談之間、還御之間入見參、
其後謁申幕下、赤痢已過一月、始非急林
之間、但月來不食、極
以危之上、此亭有銀花等恠問、依占吉被渡、此間公俊
經時兩卿各訪參云々、以人被謝、頃之主人謁給、方忌
皆有不忌例之上、占吉縱有不慮事、京中旁可見苦病
者、又殊於彼所終焉庶幾之者、京中憚思事、雖年來愚
意所澁、可依人方忌、猶如何由雖申、被思決事勿論、歸
宅之後若有不慮事者、尤可參籠之身分限歟、尤可有用

意由示通、無思得事之由答之、

廿七日、雲飛、天間晴、今朝相門被渡北山亭、女房與、主
人車、侍各
二人云々、無
人尤宜歟、

廿八日、天晴、未時大雨如沃、即晴、早旦參北山、於北
野前下車之時朝陽出、少時奉謁、昨日來著、無增、依病
者懇切請明惠房、出家無爲遂了、其後始懺法、其志偏
營臨終作法、西無屋望見山葉、可凝觀念由相示者、安
倍家基朝臣末子藏助家弘、喪父之後無渡世之計、忽發
心參籠那智、苦行不退、攀昇三瀨、每日三千三百三十
度禮拜、每夜臥白沙上、奉書五部大乘經、晴明有此
行云々、未供
養之前、御殿燒亡、經同
燒失、更發心又奉書、已書終之、爲求
軸表紙、始出京、傍輩等悉發信心、敢不成猜心、加吹舉
之詞、請伴男令修祭、七人於赤山如法泰山府君祭、苦行
者、
其、初出京之時、遇此事、頗爲奇異事、此一事有憑由有
命、即退出、於泉方謁申幕下、言談之趣同前、昨日爲扶
持、兼相儲寄興、更以無事、下輿被行步之間、頗有安堵
之心者、花山院前相府有使者、其使稱女御殿、大臣以上
人、家人

自稱末代之希異、每觸耳彈指、親王之室稱女御、何例哉

賴仁經子

即歸家、晝暑熱猶過午、日來萩花開後、未遇如此事、人

云、山門衆徒之怒彌熾、吐惡言云々、張本三人流人各

隱于引汲之所、不知其所在、朝威輕忽、人心狂亂、以之

可察歟、

廿九日、晦、丙午、天晴、未時許宰相來、憊悴甚、病後昨日參

北山、重日不、四三品、家時、時賢、參入、每人謁之傳申、臨

昏入道、生、參入、詔、自盡可相待由示送之間、乍無力日

膺云々、但遠所之輩、多不知物由之處、若雖及大事、不

及是非可參籠、又如小管乎不、存外可謂神妙、武士猶存仁

義歟、八幡、第六卷、賀茂、家、松尾、宜經、去廿六日有祈年

穀奉幣、家時卿領狀、忠定卿送書、懇切可申所勞由詔

之歟、其書狀依人懇懷書通之、奉行時兼猶可勤仕由書

狀、彼卿又通之、猶可申所勞云々、重雖通其狀事、依無

答依人語辭申、只可隨上仰山直示時兼、彼卿事不許、

急可勤由返答、仍勤仕云々、其次日有御方違行幸、二

十人納言不參、別當右兵衛口口參入之處、忠定卿早

參、此人可令供奉歟、可追却歟由、抑行幸被申、殿下已
參入了、只可任彼心由計申給云々、仍通夜祇候供奉還
御云々、

○八月大

一日、丁未天晴、日出之程出門、參向北山奉謁、依可有

佛供養、不經程退出、參前殿見參、已時歸廬、今日密々令、

二日、天晴、暑熱猶雖盛、今日北風甚利、已刻許東有火

不遠、一條南堤、不經程滅了、先是早旦於棧敷伺路頭、八

葉車、牛童二人取付其前、有白張男一人奔走、猶似

昔日召繼、車後出單衣重、有退紅仕丁淨衣、非楚々、騎

馬男五人、其體頗、騎馬、共雜人云々、女被詣賀茂歸路歟、

其體不尋常、山衣、有仕丁者、共人可、禪尼行冷泉、衣房頸腫

溫氣癢了云々、三郎嬰兒又頸有熱氣云々、宰相無力、

庭弱不便、

三日、朝天陰、辰後又晴、申時許日吉うれしや水女奔

入、宰相共參北山、不例重御座、幕下悲歎給由稱之、又

去朔日社頭大殿開夜、衆徒三百人許叫喚、宣陽門院立

飼念佛法師十二人、十人宛壯年女房十人局給、二人又御物寵愛事甚奇恠、以濫僧之輩、可奉責、無許容歟、可振七社御輿之由、放高聲、參詣雜人悉側耳云々、別當三位、宗祖御室如例百日參籠、退出之時盡過差修神樂、敢無衰苦之體、人以褒美云々、伴女又自北山稱被召奔出云々、今夜宿北小路小屋、待曉鐘之間、坤方遠々有火、僅開遠鐘歸入、

四日、庚戌、天晴、已後漸陰、入夜雨降、以書問宰相、大略增氣歟、度數夜間十六度、昨日申時以前七八度云々、昨日無外人、公相公三位中將云々、今明有慎事、立物忌簡、不出行、五日、辛亥、天陰、不見陽景、少雨僅降、物忌如昨、

六日、壬子、彼岸始、天陰、朝微雨、已後漸密、早旦詣北山、宗保朝臣來云、度々訪來、尤本意也、依無暇不對面云々、自一昨日修法護摩息災、皆結願、偏善惠房念佛、自今日又更被始懺法之由、私相語之間、又打謔念佛要文等釋之音聞之、宰相今夜宿、只今退出云々、大納言、兩法印、能性、釋實三位中將之外只今無人云々、不經程退歸、欲參前

殿、被閉兩門、御物忌固云々、仍歸家、昏黑宰相來、彼御病於今者只如待時歟、幕下片時不立放給、只一身奉仕、一昨日爲御使參殿下、被召御前、蒙仰之次、放生會宰相關如之山被仰出云々、上卿賴資卿被責出歟、此籠居事雖當時未了、定心中思決了、相籠居者即可著服歟、左右只可隨彼御命由答申、今夜休息、明日可參者、七日、終夜雨降、朝天漸晴、未後欲詣向之間、宰相使奔來云、只今事切給了、聞之後周章馳參大將軍堂西程、奉逢北政所御車下車、在馬頭在御供、入西園寺門、於中築垣戶邊、招出宰相、自今朝今日一定由示給、明惠房被來、兩上人共勸進念佛、聲更不弱之間、人猶非今日事由成疑、遂無退轉氣、未時終給、其後只今一時歟、兩人未出外方給不能申由示之、仍只示置永光朝臣、庭上佇立無便宜之間、不經程退歸、中將入道、宰相云、他事未聞及、籠僧六人、慈賢、印圓、能口、貞雲、明通、此兼代、實時相逢、又於南路逢有長、又逢親尊法印、於北野逢能季三位、參前殿、北政所此間可御實清入道宅、殿下只今御其門前云々、日入之後還御云々、參御前、此

間又親尊、家時卿、雅繼中將參云々、月欲入之間退出、

八日、朝天陰、陽景間見、申時許雨漸密、今日開、夜前

葬送了云々、堂東山、湘良方云々、承明門黃門局來談、通具卿

身照、又痛腹底、通方卿造營白河邊、龍華口方歟

九日、終夜甚雨、今朝猶降、法眼田樂裝束料絹、昨日件

使送了、依恐轉々、所念尋也、冷泉宅忌穢不混合云々、宰相只相具

忠康云々、朝左目內赤筋亂滿如紅色、但無苦痛、問心寂房、

可應蓮菊湯於眉上者、申時許沃之、三位入道、家衛、淡

路國省功下文、齊宮御月料云々、近代無例由有消息、令書一行、

付其使仰年預、一省長官不知事、猶有人恨、聊以無答、

十日、終夜雨如沃、朝天晴、夕雨灑、目病頗宜、

十一日、天晴陰、入夜雨降、定修下山來、依腹痛發欲服

蒜、衆徒連々嗽々誹謗貴人云々、適涼氣、取入灯、

十二日、朝天間晴、晝後猶陰、法眼過談之次傳々說、尊

長法印曆書日記、在外、件曆已在關東、有好人々如明

鏡云々、大炊助入道武士預了、又遠江群衆、留關東了、

適京中之哀加歟、高麗重送牒之由有卷說云々、若又持

向于關東歟、

十三日、天晴、夜月適清明、日入之後參室町殿、仰云、

此中陰之間、惣無可修佛事日次、今日一日吉云々、仍供

養阿彌陀經、修始諷誦、北政所今日同令著服給云々、

悉說又有狂亂任官之聞云々、辨官四人立官、兩少辨可至有六左中云々、時儀非

可不被行事歟、面々輪轉、狂亂之奔くら歟、近邊家

家郎等雜人等成群儀結黨、強盜、欲打入此殿御邊、其謀

洩、而行兼告于翌長親、已弼取張本四人云々、末代之

怖畏、向後可恐歟、

十四日、庚申、天晴、已後雨降、漸密、見舊記送秋日、腹

病不快、後聞、實病附都母儀今日亡逝、長病云々、

十五日、自夜雨降、終日不晴、夕休、放生會、中納言賴

資、參議範輔、辨有親云々、今日忠弘召寄佛師、可奉造

文殊像之由令示含、自去年思企事、依無物送年月、細

河庄到來物、口非今日奉始、仍不及日次、

十六日、朝天晴、未時參前殿、大藏卿同時見參、少時詣

向北山、於門下謁法印宰相、雖隨居不可著服、猶依命不供奉葬送、只屬禮許也云々、各

入、有勞事不出山、蒙命退歸、依無日次、來月七日、五七日以

前、可被修法事、是御堂萬壽、并鷹司殿例有之云々、尤吉

例歟、入夜宰相來、於庭言談云々、

十七日、發亥天晴、去冬栽木、早天枯、今日令堀棄、又

栽小木等、自夏不食之氣依不止、今日服藥、宿脫力

十八日、天晴、昨今只栽庭前小木、入夜忠弘宅、

十九日、九月天晴、開曉無歸塵、十月可有公卿勅使云

云、中宮權大不知其故、只江州無緣庄、爲官使苛責重疊

歟、辦官四人皆可賣弁、範輔顯子、範隆任參議、右親俊爲經親和頭、親其御、親三佐

可爲右大辨左中辨云々、世々狂亂逼迫歟、天下遍可謳

歌也、親定召參議出雲兩事申他國云々、

廿日、天晴、午時許俊範僧都來臨門前、依朝暮社參人、

恐穢疑、出門相謁、乍立謝遣、

廿一日、天晴、適屬秋氣之後、草花已凋零、秋薄之盛

也、節物時節如馳、七旬之餘算何日哉、

廿二日、天晴、傳聞、關東三條、建保藥中上綱師也、故二品近習、萬人厚祿、承久亂依範度

卿聖、事智恐懼、以聽之、比歸參、又恐擊將相、於粟田口宅死去云

云、體弱死了、白口水後聞虛言也、其息女宰相典侍亡去、出云々、其夜葬、母猶在關東云々

源注件息女雅經卿女、範茂卿爲妻女也、通時朝臣解官之

源也、

廿三日、天晴、已後陰、及未雨降、晚漸密、已時許僧正

被過談、前殿此兩三日御于今出河云々、若君又不例御

坐、依被渡邪氣、令避其所給云々、

頭注前右大臣百々日參籠春日云々、猶宿願歟、

廿四日、終夜雨降、朝休、或降或止、今日止薙、朝沐浴、

廿五日、天晴、薄暮之天、雲慘風冷、忽有蕭瑟之氣、深

更雨降、

廿六日、自夜雨降、終日濛々、夕休、

廿七日、天晴、風冷雲飛、

廿八日、天晴、未時許心寂房來、家中病者加灸點、傳聞

聖覺法印一昨日歸洛云々、

廿九日、天晴、宰相來、於砌下言談、去十一日安嘉門院

御幸始全不延引、彼相國被張行、召繼可被催進由頻被

示通、猶不得心之木性歟公雅卿自廿日比來籠、此間無殊事、宰

相還後、空休來、夜前入、言談移漏、日入以前歸、祭主出京付便、又例幣下向之程可下云々、今年七十九、無餘老、

卅日、歸忌、天晴、未時許如例齒蛭飼、寒天之後依無蛭、此療治不可叶、仍以不失時企之、及日入參前殿河山見參、戌終許退出、

○九月大

一日、丁丑、天晴、夜深雨聊降、朝洗髮潔齋、

二日、壬寅、天晴、風吹、入夜雜人說云、大納言通具卿申

時許菟云々、不知、道俗男女之所稱、稽古有識公卿、今

年共滅亡歟、是少年之時、遇光輔宗業讀書之名號也、

於公事者、不足言之人也、以自讚之詞、爲卿二品廣元

等被歸伏、京畿得其名、誰人辨其虛偽哉、但彼兩儒之

說、他人不受其一卷、於當世可謂拔群、今已亡去歟、

三日、天晴、午時許定修來、專修念佛所行奇怪、愚意所

存、破彼宗之文作之、成草由示之、少年淺膚如此事、付

善付惡發言極無由、不可然由雖示含、取出三帖草子可

一見山詭之、內典於事不堪、雖不可分別是非、置之退歸、宰相來、全無聞及事云々、本性也、日入之程、參今出河殿、仰云、天變至夜重、熒惑太白相犯、一昨日犯右執法、今夜犯左執法云々、先例建久六年云々、山階衆徒蜂起、大明神已奉渡移殿、可令入京給、多武峯衆徒殺害御寺領神人、仍寺衆徒燒多武峯數百家、仍天台衆徒進訴狀、頭辨以件狀下南京之間、衆徒忿怒、賴隆放氏由訴訟、殿下逆鱗、召籠使者五師於政所之間、衆徒怒如水火云々、

四日、庚辰、天晴、今朝立物忌簡、依有所思也、雜人說、

通具卿今夜石藏葬送、兩息、左食言、拾遺、處分相論云々、

五日、辛巳、九月中、天晴、後陰、未後雨降、去夜宿北小路小

屋、曉鐘歸、方遶、人云、陰明門院崩云々、愚札之次申前

殿、御返事云、雖聞危惡獲麟由、未聞一定由、發心地經數、月御不食云

云、又云、修明門院令煩雜熱給云々、又云、七條院猶危

御座云々、南衆徒之訴三々條悉裁許、歡喜落居云々、

信實朝臣來談、月來籠居、猶不出化、明日可有除目云々、大納言以下事歟、

辨官四人新任、可見勝事、仕丁裝束二具加笠進之、有長
行、爲昇布施長檝也、大納言殿安居院呂聚三卿等介拾

栗云々、相資、家隆卿等、信實朝臣預能不參、

六日、夜雨止、朝陽晴、巳時出門參仁和寺宮、不經程入
見參、來九日令參高野給、十五日還御、入御之後謁法眼歸座、宰相今夜宿

冷泉云々、日入以前參今出河、見參之間、明日御佛事

布施行兼調進、昇立前庭、明弁可供養云々、依優龍僧

也、聖覺法印此中陰八度可勤云々、秉燭以後、佛師奉

渡御佛觀音立像、來迎脇士也、仰云、本所奉造中尊三尺、脇士

可奉安也、甚美麗、給祿、御衣、明日法事曼陀羅供、眞惠、

辰時其以前可有供養云々、右大臣殿御方供養也、錦

被物一、御綾四、鈍色綾五、練單、例布施、和裏、鈍色裝

束、童裝束二具、親房朝臣調、綾懸子、數鈍色香等、絹一、懸

子綿糸、各百兩、色革、一枚、紺藍摺白布、各一、請僧、被物三、

布施和、綿布三、願文俊親朝臣草、倭也、兵部卿經賢書、其手、北政

所正日之朝云々、依無日次、被用式掌日、事次今夜除

目云々、或云、雜任許也、大納言以下十三日可任、實宣

卿還任、下向公卿勅使云々、國々所召種、

七日、朝陰、晝晴、巳時許聞書到來、式部任人四十五

人、安房、紀伊、宰相信濃猶不任、十三日可、稱判官代、宣陽門、

將監、十六、右、十四、左門、十四人之內、右門、十二、左兵、七、

人、右、十六、左馬、十三、右馬、十二、從四下賀茂俊宗、正五

下丹波基□、和氣光成、從五上安部親忠、藤定俊、藤光

國、從五位下中原仲景、修理大佛判官中原尙繼、陰明

門院瘡、初度、御不食、水漿、令待時給、修明門院難熱有

御療治事云々、或人消息云、故源亞相葬送、子息三人

并家人藏人五位等、色々布衣、如折花、騎馬在車後、各其馬

前有取松明者、如御幸渡京中、此事有先例歟云々、凡

末代事、例之有無不能分別是非、武士二三百人供奉云

云、又云、土川中、依無遺言不犯土、

八日、自夜甚雨、巳時天漸晴、小念誦之間、短晷空暮、

九日、天晴、風烈、夜霜結、午時詣北山、今日昇堂上、於

泉方奉謁語、亡者臨終正念、并夢告示給、於佛前祈申、

生者不審、經五々日、人^{其人}云、生孔雀王國、明惠房、

慈賢僧都、聖覺法印等各云、是即阿彌陀佛國也、阿彌

陀乘孔雀^ニ給像有之云々、仍遣其像可奉供養、我通世

事、又可辭後院之山、云送關東、共委細之旨示送、仍又

當時思不可遂、聖法印又來臨、^{予不}又謁申、幕下自畫奉

佛云々、即退出、晚雲飛、時雨灑、草木蕭索之色、滿望

動心、歸入蓬門之間、召使等來每見衣冠、不忌棄置之

怨、不忘舊好由聊問答、伏地稱唯退出、

十日、天晴、

十一日、天晴、霜白、寒暑之廻轉、於末代只有夏多無春

秋、情思往年事、萩花盛開之比、下著小袖、上著生衣、

參成菩提院不流汗、菊花開後、依初霜結、色漸移、顯然

如斯、今年八月七日馳詣北山日、炎暑如盛夏、此三四

日菊未綻、寒霜愷々、是依人界之罪報、只遇寒暑之苦

之故歟、日入以前參前殿、見參之間入夜、^{宜秋門院又}乘

月退出、

十二日、天晴、申後陰、夜深雨降、午時許參宜秋門院、

^{先是殿}謁女房、^{武衛備州}御不例晝殊事不御、僧正御房

參給、寺^{下御座}相次參東一條院、謁掌侍、短晷空暮退出、途

中入夜歸家、兵部過談、夜深歸、除目之由聞之、

十三日、朝雨降、巳時晴、月明無片雲、除目延引云々、

青馬飛東歟、

十四日、天晴、朝霜不異雪、申時許宰相來、今夜宿家云

云、

十五日、寒霜如雪、朝陽快晴、菊藥纔綻、入夜心神苦、

是只老苦也、適飲食物更不下在喉下、因茲胸腹甚苦、

又彌不堪食事、唯是殘日之少故歟、

十六日、朝無霜、天晴、依蒙仰、日入以前參前殿見參、

月昇退出、夜月清明、徒臥吾廬、昨日定毫僧正於仁和

寺房修八講、著座公卿、忠定、家光、範宗卿云々、亡兄

家長範宗諱也、忠定近日水魚云々、

十七日、天晴、短晷徒暮、菊花白、漸開、

十八日、天晴、日出之程詣北山、^{于時}前藤宰相出逢、暫

言談之間、懺法僧達昇了、^{因染、貞盛依每日傳}師同裝束、甲製裝、時少侍從宰

相來傳命、於東出居奉謁之後、出給于聽聞方、各參其

簾中、道場之北如例、東第一間主人坐給、善基房實時、中將入道、道場

東南二間為頭座、北一間為聽聞所、北第一間以北二間、大將、僧正、法印、公

子、藤宰相、同東座、三位中將、若服、侍從宰相、實經少將

等也、先每日懺法、次每日佛供養、阿彌陀佛像、日一繞云々、法花經一

部如例、貞雲說法切腹尼、有心、次奉懸幕下自筆阿彌陀

像、臨終著給衣為御衣組、設□□供養物飲食、唐破子云、衣服、

書置給文為裏紙、錦被、御被為席、染、以銅為松枝付之、臥具、物在中云々、醫藥、歟、委不見分、聖法印、袈裟、即

說法、三部經金、有諷誦文、如願文、辯說如例、一座了後、

親尊法印引籠付之與、自西渡來力者、笠雨皮持力者各相

副、見了出東中門廊方之間、公卿殿上人濟々、今日不開、

同、嚴重、庭上久清等在中門、甚揭焉、仍自東壺方經泉屋

東北山中、自堂之門逃出、窮屈難堪、

十九日、天陰、宰相來、昨日退出之後又三座、六七日大納言上佛學兵

衛入道、臨時兩佛事、著座取布施、公使、基涼、家時卿四人、殿上人十人

許、賴氏、實清、伊成、實任、實尚、侍從四位、隆範、信實、基

定朝臣、今日自下野進彼御訪物、女房沙汰歟、絹百疋紺百、夜

前事了宿京、只今歸參者、夜深宿北小路小屋、曉鐘歸、

廿日、冬節、天陰、時雨降、自未時漸密、入夜宰相來、依修

明門院又御增由、參彼御所、先日御減御沐浴、基成、其後

御增、基成奉灸、療治不可然、非可惜身由被仰云々、今

夜宿京、明旦欲歸北山云々、

廿一日、夜雨止、朝天晴、掘檻紅葉四五本令栽之、

廿二日、天晴、去夜巽坤有火云々、不知何所、白川方歟、

堀川邊云々、未時許參前殿、室町殿昨、見參、日入以前退出、

天忽陰、大風猛烈、歸家之後風雲彌暗然、中宮大進光

俊奉書、宮可被發遣鹿島使、下總常陸國省符可成之、

即下知年預了、

廿三日、天晴、時雨灑、依徒然、伺見紅葉早晚之程、法

勝寺內鶴冠木未及半、僅染始、櫻植悉紅、詣禪林寺僧

正御許、閉門、入小門謁申、酉時許參大谷齋宮、明日可

令渡一條給云々、日入後歸廬、入夜雜人說、北山聖法

印臨時作事、依夢告被供養阿彌陀像、龜孔、導師退出、別

之後、被引籠付關東布施、每物五十六人也、綾、三百、絹、綿、

絲、染絹、紺布、藍摺、砂金、三百、今一不將軍、奉送給物云々、衆僧之富有末代無比類歟、

廿四日、天晴、徒然之餘、見白河方、歡喜光院破壞、已及顛倒之期歟、南廂如無、舊遊之戀、慈悲淚難禁、又見尊勝寺、無金堂之間、如入他室、地攝取木葉間、法師云、御八講於東藥師堂被行、寺家之庄々、徒割分國領、宛滿于天下、空爲魚食法師破戒尼之衣食、曾不致一分之修造、本寺悉顛倒無實、末世之法悲而有餘、又見近衛末高陽院御堂、堂舍如昨、今新造、庭上白砂紅葉如入佛刹、是依禪閣之管領給、被催其修造之故歟、遂執末代之政、依此善歟、足于嗟歟、今日北山最愛弟姬君佛事云々、後聞、今夜子時許齋宮御禊、入野宮給云々、不知而不見、

廿五日、天晴、風靜、朝天無雲、北山正日佛事右幕下被修、又北政所御佛事今朝被修云々、忠弘入道病又發之上、面已下腫云々、今度殊早速發歟、愁不可憑事也、何爲哉、凡付萬事老身之殘涯無其計、下遣信濃使者法師

歸來、召出問國事、先無梯、皆作其路爲人馬通路、更級里對于姑棄山、在里之南、四云々、あさまの嵩燃、峰石之燒也、我黒ち煙立、夜火氣見

くま河大河也、廻流于國中、入國自南端及于北方、善光寺六ヶ日之路云々、善光寺近邊號後廳、爲眼代等之居所、於古は尤廣博國、溫潤之地歟、亂以後隆仲卿使者不忠檢注、百町鄉只麻布之類二三段注之、一國已如此、已以不足言事云々、國中皆熟田、依無米穀之述上、住民皆豐饒、末代國務、更不可有得分云々、在廳等即皆當世之猛將之輩也、寧隨所勘哉者、入夜下人等說云、北山三座佛事、盡善盡美、海內之財力、中陰之忌景、盡了日歟、月卿雲客諸大夫折花濟々云々、依雜人之說不知其人、

廿六日、朝天陰、宰相來、一昨日或人獻五節由稱之云々由示之、一度蒙催、因辭退之後已無音由答之、昨日公卿皆直衣、定高、隆親、不取、布施、爲家、公俊、基保、布施、範宗卿云々、殿上人、布衣、東帶、隆範、基定、實忠、花田、能忠、白襪、衣、白衣、薄色、生、家定、中將、東帶、實經、同、實忠、色、信實、賴氏、花田、實清、張衣、

青神衣、貞時、能定、東常、諸大夫、實清、老、永光、光經、知仲、源色生、

知資、兄弟三、人云々、行光、以邦、知業、季宣、範昌、

頭注

青衣、往昔秋不見者也、近代如此、

頭中將催中宮行啓四日、云々、酉時許詣相門、町亭、奉謁

之後、參東殿僧正御房、御座之間、推參之次御言談、御弟

子^{大貳}、僧野宮木柴^{諸國、如云々、}忽勤仕之、叙直法眼、法師勤

野宮事、有其例歟由申之、不知例之有無云々、除日被待

關東返事云々、巷說盛兼可仕大納言云々、範輔不辭

辨、辨二人可闕云々、入夜退出、

廿七日、陽景陰晴、晝大風、法印被過談、自仁和寺御堂

給御書、去春和歌十首、取重次第、北院御記如此、今度

愚詠、相國大將、與凡人、仍、可相准乎、僧綱、公卿、子父子、家隆、有職殿上人

可重歟、彼御記、文治三年七月廿日右府^{實定}、被來臨、有

和歌會并連句連歌、和歌重次第、先規以僧爲上、以俗

爲下、然而大臣詠上有職等重之、頗似無禮、仍法親王

與大臣、僧綱與公卿、凡僧與殿上人、如此三重相對、以

僧爲上、以俗爲下、可宜歟之由、示合右府并隆房卿之處

神妙之由相計之間、如此思定了、申云、北院御時、御議

定之上、他門他宗猶以可爲例歟、於御所中勿論候歟者、

然而彼御定、頗有不審事歟、於今者不可有子細、尤可

被追彼例歟、去夜夢、小野右府來坐給、六十許老者、非、長丸みて、服又不少不多、き、けなる形、冠なえたる直衣也、坐長押上、予坐其下、予云、偏

存御家人之儀、疎不可思食、氣色甚快然、予乍恐重申、

枉理御束帶にて渡御候乎、不審事等欲窺申、有許容之

氣、更衣之間、裝束未出來、事體更衣以後、朝之此歟、異樣舊裝束取寄、

可着之とて被立去訖、此間心中思之、如內辨之體、殊

勝賢者之說、面見之可問申、無限可有興事也と思之間、

夢覺訖、予本性慕古人之心極深、近日殊日夜握翫彼記、

長和、依此執心見此夢歟、存吉想之由、

廿八日、朝雲南飛、時雨頻灑、木葉飄色、離菊散匂、四

時廻轉之中、所染心肝、只近日之景氣也、未時許東持

佛堂忽顛倒、依無長押、申時參室町殿、殿下九條殿御渡之

間也、以侍一昨日御風氣之由承之、依不審參之由、可

披露于女房由申、一昨日事不宜發惱、昨今無爲之由被

仰出、即詣西亭、明慈房戒事云々、即退出、參大谷齋宮、伯三位一日入以後歸廬、

廿九日、終夜今朝甚雨、晨時雲晴、朝陽鮮、雲飛風烈、時雨間降、昨日顛倒持佛堂、即如本取立之、不云日次由、陰陽師許也云

云、柱少々折改之云々、歛圓僧都拜堂之訪、細川物最小分可送由、下知入道法師了、宇治供僧之讓難被免棄之、補別當云々、依名聞棄利養歟、甚不便、

卅日、丙午、天晴、風靜、巳時參御室、一昨日給御書之次、依申可參由也、見參之後、與法眼言談、未斜歸廬、

南院南築垣之內、紅葉如張錦、九秋已暮、惆悵何爲、只對菊葉之孤叢、悲蕭瑟之知晷、齋宮戶部來次云、法眼經營田樂裝束、甚美麗之山衆徒褒譽、六人二藍、川相紅打衣、

置唐綾、白、筋又縫物、六人朽葉、置同青筋、又縫物指貫、此亦末濃縫物云々、又云、陰明門院八月之間水漿不

通、如待時、偃臥給、此卅日許時々起居、又有食給時、偏無本心、只吐天狗之詞給、其隙又如死人、全正念不御坐云々、可悲事也、彼相國才藝闕如、無社稷之忠、只

以□旨爲事執國柄、恣申任官叙位事、皆末代之亂政也、子孫之滅亡、依無其冥加歟、去廿四日御禊、母儀仙院御見物、隆親著供奉裝束、先參入寄御車、御共侍一人不出、以隆親私從者共人、御傍親少年等連車上後前簾、大納言家良、中納言盛兼、別當右大辨等以下供奉渡上簾、車前太無便宜由、於博陸殿下、家良卿述懷云々、

○十月、小

一日、丁未、天晴、已後陰、入夜雨降、朝自相門、右衛門尉來令堀東方竹、自春有命、入夜傳聞、平座、權大納言實親

卿、中納言通方卿、參議、伊平、爲家卿、權辨有親朝臣、左少辨親俊、右少辨爲經、少納言爲綱着座、少納言初獻、右少二獻、左少三孟留參議座、三獻之後召侍從、二獻之後飯汁、目錄給權辨云々、老眼雖沃菊猶不減、

二日、終夜今朝雨降、終日陰、細雨間降、及日入、陽景見、夕宰相來、相府御膝有增、來十三日下向于有馬給、又御共與

實經少將參、明日中宮御入內、自六條殿、明後日臨時除目、獻五節舞姬人、定高、中納言、範輔、參頭、近江、顯平朝臣、忠房卿、依遣大宮不詣時、

顯平朝臣其參河、七條院御分、御老春日行幸十二月一日云、

三日上出五節、病已復、如何、入夜又甚雨、定納言消

息、風流掃事、蒙昧倦墮不領狀、宰相三郎夏秋其身不例世間無障、今

日百日食餅云々、戌時許佛師奉渡文殊像、依吉日最初

雖示今日由、日來懈緩忘却、已以魚食雖懈怠、先奉安

室中奉禮拜、即沐浴、

頭注行啓、內府車、家良、盛兼、基良、經高、爲家、基輔、公

俊卿、□□、資季、□□、無諸衛、出車三、公氏、通方、

盛實車、

四日、遲明雨止、奉拜文殊委奉見、多年宿願適成就、

又法華經金光明經料紙色紙預經師令打、目病猶無減、

已盲目歟、夜深宿于北小路小屋、夜半西方一町之群

盜入、斬女感動聲近聞、每夜曉鐘之後歸廬、

五日、辛亥、十天晴、未後陰、巳時許見聞書、神祇二人、

權大納言實宣、參議賴隆、左中辨有親、右中親俊、權右

中爲經、左少辨時兼、右少光俊、兼、中務丞三人、內舍人

一人、監物二人、縫殿助、允、式大丞、一、少丞、二、兵部、

一、刑部、八、木工、二、彈正忠、一、修理大夫基定、年五十七、少

進、一、勘解次官平經氏、兼、伊勢守藤資廣、伊平尾張權

守平盛尙、甲斐藤家國、近江源清兼、美濃藤清成、賴隆

云々、信濃信忠、出雲平有時、有親備後中原師季、兼、院

經高云々安木藤惟兼、筑前藤家賢、豐後守橘助村、薩摩橘公

業、對馬藤爲清、左少將親保、將監十一人、右少將伊

成、年卅源顯定、將監八人、左門十人、右門八人、左兵十

人、右兵九人、左馬六人、右五人、四位、親俊、藤宗綱、

大中臣隆時、定繼、賀茂兼宣、正五位下定雅、從五位下

平光衡、大中臣宗經、橘助村、藏人頭親長、五位藏人範

賴、

六日、曉雨止、朝天陰、未時晴、爲見故禪門之造佛、向

清水谷舊宅、非幾年紀木老屋舊、寂寥之閑庭令痛心、

即歸來後式賢來談、月前退歸、宰相參宜秋門院、左右

府島賴、高實、定高、爲家、知家卿、隆範、重長、信實、能

忠、資季、能定、忠隆、長朝、奉行、

七日、天晴、霜凝、斜陽徒暮、殘菊漸衰、北山月忌無殊

人云々、

八日、天晴晝陰、午時宰相來、信盛愁鬱辭兩職云々、
是又辭案、必定高卿又辭納言舉之云々、
定就辨置歟、
輕々歟、皆不詳、

九日、朝雲漸晴、入夜時雨、無程晴、未時參室町殿、存
外平相公參會、暫清談、修理大
夫在座、參御前、不經
程、合渡九條殿

給、北門奏
御車陳、出御之後還出、猶三人言談之後、相公退出

之後退出、今日以左衛門佐信時東帶、被遣東寺長者僧

正許、右大臣殿御方吉事帶護身云々、又御被始歟、次

詣今出河、此三四日
被座云々、口問土御門中納言通方、被來會聊言

談、同時依無心退歸之間、只今被座他所云々、又參前

齋宮、伯卿
宅、即歸宅之後雨降、

十日、天晴、風慘烈、日入以後詣今出河奉謁、膝事雖

有馬湯、定難得減歟、是只依老漸々衰歟但小瘡又難

治、仍所下向也、勝間田膝足疾雖聞有驗、美作國非可

下、凡世間極無益、只隱居之志、付視聽可痛哭事多者

歟、平相公伊賀國所領、兩上皇御時各被下宣旨知行、

近日自北白河院欲被奪取、候于持佛堂小法師、
稱得寄文取之云々、雖申入無許

容、重可申、又或淨侶偏愛着女色云々、

十一日、霜凝天晴、水盡凍、甚寒、法眼過談、白七條院櫛櫛
風流被申御室

云、謝遣之後、申時許參前殿見參、兼時朝臣入道、一昨日

依所勞增行吉田宅由、匠作語之、今日尋申所勞事問仰

云、一昨日朝行吉田、夕死去了、承驚無極、年六十八、

子二
年兄、女院此殿大略一身奉行、於事違亂候歟由申之、仰

每事散々、如失手臂者、十餘年之間、水魚之交、同僚之

好、悲歎銘肝、芝焚蕙歎之謂歟、申承雜事、乘月退出、參

前齋宮、謁昔齋宮、好子、少將禪尼覺朝僧正妹、
年七十三、三位中將實

有卿外祖母也、互陳懷舊之思淚濕袖、往事渺茫、徐摧

肝膽、寒月過午退出、

十二日、天晴風寒、洗髮之間猷僧都來臨、不能謁、入夜

宰相來、爲中暇
參內裏、明曉下向一定、出京淨
衣騎馬、修理亮時氏引送

馬一疋、可謂面目、中納言依重示、童女柏袴領狀、藏部

又濃袴四具、右大辨布百段、依示送領狀者、

十三日、天晴陰、日來給置源氏二部、返上于室町殿、以
家

本粗見合、
川捨其詞、申物詣山、私本一帙、第二同進之、夕僧都又來

談、宇治供僧不可兼由被仰切了、又語云、湯山邊赤班
瘡盛興、僧正御房常在昨日歸洛給、御共重部題三人
重惱煩多云々、聞驚無極、旅宿之間不審不可云盡、此
兩宿予如赴他界、先年抱瘡兩息又同、極以怖畏、無由
供奉歟、只可仰冥助、

十四日、庚申、天晴、天曙出蓬門乘車、參詣、已終着宿所、
成茂約束、儲通津伊殿云々、愁入、是備御供之所也、甚
有恐、臨秉燭時奉幣、歸入宿所之後、前右府乘車、參着、

十禪師彼岸所云々、七ヶ日今夜被奉幣、被着淨衣、其家子
省略之、又六條宮舊室入指出廊通夜云々、夜深入夏堂
於京相屬、便宜殊神妙、此間依恐分改宿所、

十五日、朝陰、已後微雨漸密、終日不休、入夜如沃、懺
法訖、參二宮以下坂口伏禮退下、今日依雨煩不出門

戶、老者依思人明燈不出、夜又有行步之煩、光盛卿妻過門前、孫男前行、少時
實重子退紅仕丁捧幣、共人等在興後、偏如諸院密儀御

幸、百日籠依甚雨不宮廻、亥始參通夜之間、腹痛更發
難堪、丑時退下、

十六日、朝少雨、天間晴陰、雲未散、午時許狂女剪垣外
木、不知其名衆徒咎之云々、以宮侍法師、路頭木不可剪、早可

植替由示送、仍示俊僧都、忽掘送雞冠木、高於感悅令
栽之、又相副日入以後宮廻退歸之間、於鳥居下逢前中

納言、敷成互雖不隱、又不言談遠過了、光盛卿今朝宮
廻云々、常參之人集會之盛甚晴也、子時參通夜之所之

後、納言奉幣、具子息四人並一人、即壓庭上、通夜每度如
此云々子息不休息、六歲童同云々、

十七日、坎日重曉大風、曙止、朝陰、懺法訖退下、未時許

俊範僧都被過談、往事懷舊等自然移時刻、日入退歸、

月出、不曉之間宮廻、子時參通夜、懺法之間時雨忽降、

聊休止程退下、後又甚雨、

十八日、朝天晴、短晷空暮、前納言齊信、此和參籠之間、丑
坐庭邊暗、雨夜取笠、少年子息右府參籠之間不上格子、猶不被

又皆悉在傍、信力實勝人然、前內府女、往平構二棟人、遣入一分歟
云々又與平二位每朝宮廻、夜通夜不見、上下無他所從

乘舊輿、匹夫二人昇之、淨衣小冠一人相從、昇居御前、次寄
直下、前門開明障子、其跡雖無益事、人心之依徒然記之、
露顯歟、輿身之跡甚不便

昏黑宮廻、丑始參通夜、

十九日、曉時雨、朝晴、懺法訖退下、日入以後宮廻訖、前納言昨今音信、依往事之戀慕向彼宿所、二宮被相互述當社之信心、又談舊年之視聽之間、自然移漏退歸、子時參通夜、

廿日、曉月清明、朝天遠晴、懺法訖退下、未終刻行向俊僧都房、良久清談、親成宿禰尋來、圓長僧正逝去、二位妻室輕服、曉更出京云々、奉拜先師御影、懷舊之思拭淚、黃昏歸、不入宿所奉幣、忠成時雨間落、送使者、忠成二品宿所、日來雖期、此次不得便宜、出京遠恨由又副使者被示、又答之、

子始通夜、

廿一日、曉月晴陰、懺法訖間、錫杖退下、不經程乘車歸京、於四御井河原天曙、歸廬之間時雨瀧、同陰、青侍說

云、昨日自關白殿御教書到來、申物詣明旦歸京由了云云、極以不審、依日次宜、午時許始寫經、金光未時許中宮權大夫消息到來、非奉表書只書名字、

指事不候之間、久不令申、何事候哉、抑令辭戶部給、令申一級給候歟、其儀未被變候哉、如何、内々御不

審問令尋申候也、且此樣侍從宰相殿御物語候キ、恐恐謹言、

十月廿七日

盛兼

民部卿殿

封之、無禮紙、立文也、

依老病無隙候、自然懈怠不啓案内、罷民部卿申一級所望懇切候、於今者蒙味有若亡候、如傍輩上下諸事不存知候、只叙一級可爲現當之名聞由思給候、凡人

不任納言叙正二位、參議師成卿于時延久五年四月

卅日正二位、年六十五、其例候歟、年齒雖相過候、聖

代之德政、所仰皇恩候也、便宜之時洩御披露候哉、

定家謹言、

十月廿一日、民部卿定家附文、加禮紙表書、書民部卿、日來有指祈請旨、

今生相待事、實人御存命之間、遂不可奉見者、速蒙其

告、早速素懷、七ヶ日空無其告、鬱々歸洛、今日此狀到

來、若是可擬冥告歟、相扶筋力參室町殿、二通案、經御覽了、黃昏歸廬、去年歲末此事示件宰相、相忘而不申

山稱之、心中雖有其恨、定知不可被許分限歟云、而無答、其後不出詞、外官除目時可申歟由問之、兩卿加階叙位之後甚無詮、於今不可申由答了、而此狀到來、頗不得心、若依不許示忘由歟、今又此官公用出來歟、爲被選見任人被求闕歟、太以不審、但若被許者、本意相違之後、更難無氣味、爲向後嬰兒又非無其要、猶一得之內歟、被仰旨又同愚案、

廿二日、天晴陰、終夜風雨、開門寫經之間、巳時許前殿仰、無相違之條神妙者、不知除目之間、申請開書、中宮權少進藤業茂、治部卿親長、民部卿公長、散三位任此官之始、無分別歟、左衛門尉藤康職、御新功、藤盛高、初野右、藤時綱、東大寺七重御塔左兵衛尉藤重忠、臨時內給、藤爲實、功、嘉祿三年十月廿二日、正二位定家民部卿叙之、正二位者人臣之極位也、不逢亂世者爭叙之哉、可謂身上之得分、尤希代之珍事也、心中甚自愛、以書狀畏申之由示中宮權大夫、有返事、顯平朝臣、經通中納言不變更、好山歟送賀札、終日寫經、夕終第一卷、

廿三日、朝天漸晴、未時覺法限來談、先是缺圓僧、都定修等來、退歸之

後參室町殿見參、入夜退出、昨日登山、參僧正御房下山云々

廿四日、天晴、終日寫經、信實朝臣來談、不知戶部卿事、隔

物言談、加賀前司、泰光朝臣、來門前音信、以人示指日念誦

由、示位田省府事、令見一日聞書了、日入以後、住心房

入坐受戒、曉鐘之程宰相書狀、只今無爲歸着、大臣殿

同還給了、云經廻、云路次、無爲無事者、欣悅無極、

廿五日、天晴、終日寫經、終第三卷、夕宰相來、昨朝天

明後、出山着水田之間、烏飼左馬寮後院鳥羽綱平行事

等、數多人數計會、忽被引綱手之間、亥時許着水無瀬

殿、猶又被上赤江、月不出以前、自赤江乘輿給、曉鐘各

歸家、前宰相清水少將等也、權侍經長供奉、申終許有長朝臣來門前、依寫

經假惜、稱他行由了、

廿六日、壬申、朝天晴、申始許西風吹、雨猛烈、夕陽晴、

終日寫經、開門戶稱他行由、有長朝臣又來、稱御使、

并藤左馬權頭長綱來云々、各答他行由、戌時許奉書終

第四卷、自幕府被送自草願文、來月百日常事云々、尤申感歎之由、

實以優也、

廿七日、天晴、寫經直付字等、今日終功了、信濃千田鄉

廳官今日成送之、日來遲引、甚懈怠存外事也、即付有

長朝臣遣之了、及日入中將有教朝臣被過訪、參內之次來帶、清

談良久、昏黑退歸、一日故源大納言法事所、中門廊壁

下敷紫端殿上人座、妻戶內長押上、有公卿座可然歟、彼家白不生時此所殿上人座云々、定有所見歟、但不隔物

被直下、頗無傾宜歟、答不知由了、后宮殿上以下關白家公卿座、皆

末座有紫端、稱殿上人料歟、其日通方卿在座云々、師季朝臣

以下殿上人、覺朝僧正曼陀羅供、翌日稱正日、又招請不向、又

其翌日土御門大納言以寢殿爲堂、父公忌日修八講、殿

上人座對代長押上高麗疊、彼是不同如何、五節可出仕

事等被示合、淡色衣、重白衣白單衣如何、答何事在乎由、

頭注後日申殿下、一上以下家殿上人公卿同長押殿用紫

端、攝錄以後以長押下爲殿上人也、

廿八日、天晴、未時許定修來、日入之程歸、入夜宰相

來、昨日參殿下并內裏之次、畏申加階山各申之、不知行

幸之間、今日御方遠依無人、內々被仰別當、可參由被

仰之間、俄供奉、中宮權大夫、近日上卿只一人勤仕、是別當又依闕如行之、不供奉

侍從左大辨、宮內卿、宣經朝臣、賴隆朝臣、具之、左將、

宗平朝臣、資季朝臣、右、親氏、賴氏、實直、兼申請、不

供奉還御、忠弘法師此四五日又赤班游、耻而秘之云

云、今日殊危急之由聞之、匪直也事歟、

廿九日、晦、乙亥、天顏快晴、霜如雪、不知僧事、送書法眼許

之處、返事副聞書、權少僧都定季、珍祥、先朝將軍口皇子云々、權律師快全、

實位、藏高、慈曉、道成、陰明驗者、法印覺寬、公全、法眼泰

承、公眞、嘉祿三年十月廿八日、上卿中宮權大夫、職事頭治部、辨右

中云々、未一點參室町殿、見參之後詣今出河、又奉謁

口入、之間、秉燭以後南方有火、人々云、冷泉方歟、即退

出、先向入道法師宅、病只同事云々、兒子等付減、次詣

右幕下亭、於東面被見火、三條白河云々、即被謁法印、同座言

談、及和漢之故事、夜半歸宅、廣隆寺官僧都、關東議定

事切、以小所、三ヶ所、被充存命、可居洛外由示送、其所猶

以地頭可守云々、讓于定毫之所帶不許、仁和寺親王

御室御弟子、取之可知給、廣隆寺別當御室之寺務更無例云々、是東大寺東南院、定毫

以定至威被領知之會稽云々、修明院御腫物、御頭、止藥
歟、又令腫給、仍于今被付大黃、不及御湯、陰明已得減給、驗
者、寬快勸賞、快全是也云々、泰乘は泰家、妙香院子以養路、

○十一月、大、

一日、丙子、朝霧不見咫尺之草樹、天晴、未時許參權大納
言殿大宮見參、臨昏退出、

二日、天晴陰、短暑空暮、夜風慘烈、曉鐘之程南方有

火、大風、一時許不滅云々、其後寒夜如經年、推之群盜放火歟

三日、朝天晴、漸近陰、夜火七條殿之北町云々、不知、寒

風殊烈、不出戶外、

四日、近寒、陰晴、未時許參室町殿、右大臣殿仰云、明日

欲着陣、輕服、聞春日行幸山、延引了、上卿、大納言宰相、

伊平、辨、有親、親俊云々、口家卿參、付親房朝臣、申宜

秋門院御領事等、御使、資經卿申聚落院僧正御返事、提

院領事、親房朝臣中繼、各退出之後予歸廬、

五日、晴陰同昨日、宰相有惱氣、流布事始歟、禪尼向其所、夕

歸、無殊事慎寒氣、只以輕勤爲望者也、近日下民中依

此事終命者不可勝計云々、鴨權禰宜、關東不快者、資通、依此事死
去云々、

六日、霜凝天晴、申時許參室町殿、右大臣殿見參、行兼

明曉下向關東之間、殿下不出御、親房朝臣語云、行幸

定延引了、親長書御教書、進上二位大納言殿、被返又

率、已三四度後、前日夕書改表書、家人名、其時有返事、依

有所勞不能奉行之狀如件、當日朝內覽其請文之間、依

無上卿延引、異姓人不可行、此貴種皆不被出仕、仍可

催實親家嗣兩卿云、亥時許、月未入、行兵部宿所、北沙門、官

談、近日民家等、群盜比屋公行、依有怖畏、自盡□□雖

無心不睡、而聞曉鐘歸廬、談往事等、父卿所得之名、薄未失、因賀茂御舍邊云々

七日、十一月中、霜結露深、朝沐浴、今日寬治大納言御忌日

也、故精進、申時許詣住心房許受戒、秉燭以後歸、伊輔

卿女、二位局、稱御方、權勢之時知音一分也、去夏音信存現存由

之所、九月逝去、以持佛并小田園讓與之由被語、浮生

無常、忽催悲哀之心、近年有小恩領、參宣陽門院出、去

夏示送之、年四十、七云々、曉鐘以後、南隣樺忠社北、群盜入云々、近

日無間斷云々、

八日、癸未、朝霧陽景、又晴陰、晝過風靜晴、申時許自僧正

御房、常任給黃班牛、雞老等昏乘之出門歸入、今日依有

所思、奉書始地藏十輪經、十枚、聊奉送小雜菜等於住心

房、加薪、宰相有樣同事云々、下人等說、公家后宮此事

有御惱氣、漸御減云々、夜半許又北方有呼聲、京中近日

止六人守之、仍過土不闕夜云々、無從徒家何日(爲力)說、

九日、甲申、天晴無霜、已後大風近寒、春日祭使少將伊

成除目任右、忽被渡左勤仕云々、是又他將不勤歟、辨

藏人辨、光俊申時許前殿仰、依神事在西亭、來乎、即參

入、節會習禮有其志、依寒風思止了、入夜退出、

願注今日又雖舊御忌日、依春日祭不念誦、

十日、初雪僅積、朝天晴、定修妙香院御共登山、借牛、宰

相僅出由聞之、申始許參一條殿、四亭、於南面內辨御習

禮始間也、以二棟代屋爲陣座、職事仰內辨時、東面ニ

令座向給、外任奏披御覽之時、禮紙當底ニ半折而押敷

天、文ヲ取天披見、卷之、次卷禮紙置之、把笏目外記退、

召官人召職事、謝座向西揖、次向乾、左右各二足許、二拜、先突右

立、次向同方揖了、三四步乾ニ進天、次第ニ右ニ步廻令

練返給、次第事大略如例、雖有下薦、猶可仕大辨之由

被仰、宣命見參返給時必見文數、若落失は重進物所御厨

子所一度ニ被尋之、小忌臺盤下セ、大宮座北ニ移セ、一

度ニ被仰之、匏羹ハアツモノト被催、白キ黒キ別々ニ

被仰、大歌別當召時、先把笏起奏之、中宮權太夫藤原

朝臣召ム、召大辨詞、大トモヒノツカサノ藤原朝臣、

召中將、左のちかいマモリノツカサノ藤原朝臣、大略

事如此、入御之間即退出、微音不聞分程ニ天、去夜博陸殿

下以使者被申左府、日來存御風由之處、御惱之體已赤

班瘡也、公卿勅使春日行幸、今年可延引歟者、於御減

以後者、勅使猶被發遣、於行幸者可延引歟由被申云

々、宰相今日殊有惱氣由、聞之出之間辛苦歟、地體又

咳病極重云々、

願注宰相ヲ召仕始御酒勅使之時、外辨上ニ宰相座、誰ニ

ト問、其人答詞ハ只如常稱名、平宰相、左宰相、中將、

侍從宰相、左大辨之體也、

十一日、霜結、天晴薄霧、宰相去夜殊重頻反吐、今朝多出由聞之、予昔安元元年二月亦班、同三年三月之間、共如赴他界、蛇瘡以後雖蘇生、諸根多缺、缺力身體如無、其後五十年、存外壽考至于今、非尋常身、依此事尤恐思之處、果又如此、猶以怖畏、夕長延入道來談、

十二日、天晴、今日又寫經、夕終一卷、又第五卷三枚、當時依料紙枚數合也、未時許鳥落物骨、令見人骨、有血云々、仍令取棄、令立穢簡、五枚、不具、近日東北院邊穢物如山云々、依近有此事歟、宰相今日頗宜云、

十三日、凶會、霜凝天晴、雜人說、土御門納言室、一條親門女、切只實卿、赤班疥邪氣相逝去云々、加、去夜丑時、下人等今月以後死亡不知數云々、內藏頭音信、帳臺出御不可候五節所、若有所存事歟、依穢氣以盛宣示返事、出仕之間不見及之間、不存其儀、殿邊定其沙汰候歟由也、

十四日、己丑、朝天陰、夜月清明、帳臺無出御之例、中右

記元永二年、御物、其年之儀不注之、保安元年、關白殿被忌、止內覽、

內裏無遊興、中宮、入興、此外年々懶而不能引見、吉富公卿勅使來責之由、昨日入道法師愁悶、今日職事奉書、國司請文恩免狀送之、無日不沙汰之所致歟、

十五日、庚寅、天晴風靜、自早旦及夜景寫經、終第、五卷、扶七旬之老病徒臥寒窓、寅夜明月無片雲、獨思渺茫、乍生如亡、

十六日、天晴、未時許長延入道來談、稱遁世身不忌穢、十九日可下向云々、平相公音信節言、無出仕參議由被催云々、長延云、神宮禰宜本六人也、崇德院御時加補七人、一禰宜氏良懇切舉申子息之間、承久二年被加八人、今案此加補、尤不可有勅許事歟者、予又思之、公卿加任必有不吉事歟、向後可有斟酌、四位大外記又師元師重只二人也、二條院並承久朝也、近年神宮事詮分無御成敗云々、可恐事歟、不聞世事、每夜明月動老病之心、此家少年此中句以後又悉病惱、老者又相、交云々、宰相猶不快云々、

右共落、

廿日、天返陰、臨昏雪飛、未時許參室町殿、知家三位參會、近日宮直宜秋門院九條、占宿所御座之事等、述々被申合、爲御使往反之由語之、次見參、仰云、今度內辨無爲勤仕、如聞無殊失、尤悅思、但多有非分事等、各示含了、外辨上首家長卿、始終祇候、雅親不着外辨而列立、謝座昇殿不着座、直訪五節所、取擲出去下、存內也、公氏、賴資、大歌別當、小忌座不下以前早出如何、訪五節所、盛兼、小忌、參議、伊平、隆親、訪五節所、經高、家光、範輔、不願、賴隆、小忌、召仕參議事、依永久例自下召之、家光、御酒勅使、經高召大歌別當伊平、宣命使家光、祿所人々訪五節所之間、相待、初度內辨必待之、家光不蒙上宣而下殿、催昆屯令居之間追返了、非分事、仰小忌臺盤下大歌座移北事、仰之家光只移大歌座、不仰臺盤、昇之間又仰之、是二子所在、定如此盤、定失錯也、存別承由也、舞妓推參著座追返、是三、小忌上卿存二拜由、離別喚返舞蹈、是四、博陸始終見物給云々、有童御覽云々、今日被召舞人馬、引通御馬御覽云々、又御馬乘闕、被召御隨身、今日未時備、親長奉行、兼日不承、只今相

辭他行、遠所物詣、極有恐由被申了、左府不被參、帳臺童御覽、被參中宮、去年又如此、如何、是無他機、私追從切之故歟、於公事者被略歟、初夜鐘程暗夜退出、後聞、近衛舍人一人不參陣、官人引御馬云、不足百事歟、廿一日、天晴陰、猷僧都來談、十六日拜堂、當時在白川、弟子法眼房、寺別當猶有自愛之氣、可歷先達、覺朝、當時長近、禪覺、勝成、不拜堂人不拜、至僧正已上四人、公胤、至僧正實、圓僧正、更時、真圓、圓惠親王、實慶、覺覺、僧正、公舜、法印、有觀、法印、猷乘、法印、覺泉、僧都、覺喜、僧都、經國來、明春宿願欲行大法會、白經五部大衆經供養、依家時卿勤、寄進北白河院、院司可下向其旨儀不審多、如此事尤可尋有識由答之、但當世有識實者誰人哉、式部大輔書願文、大學頭咒願云々、每事相應歟、人望之令然也、頭中將自昨日稱所勞、非流布事、有公卿勅使供奉變改之疑云々、頭治部供奉云々、經房卿猶子云々、昨日殿仰云、依後一條院御夢想、赤班瘡事被下官符、皆可書文云々、麻子瘡之種我作□書之、或遁此事、又輕役也云々、仍今日未役

輩三書之了、忘却一寢之後、思出方遼、乘車出北門外、待曉鐘歸入、

廿二日、丁酉、減日、十二月節、天晴、間陰沍、臨時祭日也、午終欲出

行之間、證寂房來談、近日在兼時期臣聚家也、四十日許、歸後參綾小路宮、

入新所御門之間、下格子無人、下人等其異方又新造作

所渡御云々、以人伺、可參此所云々、仍參入、中納言入

道、仲經卿、親尊法印、公賢法眼、列座加其中、暫言談、法印

退出、宗雲法印來談之間出御、人々退、心閑申承、出御

之後退出、歸家及秉燭、今日人々云々、伊時卿、三位、出

家云々、不知其由、經侍從、父少將、父兵衛、時任、督中任、中將藏人

頭、叙三位之後、近年不出仕、只與季時入道等嗜酒、流

轉所々、出家者任意遊放之好歟、年五十一云々、初夜

鐘之後、依狂心行南棧敷相待、臨時祭、亥時雜人取松

明過、以人令問刻限、答云、使只今參內、舞人皆徘徊二

條面云々、時儀之陵遲不足言歟、寒夜無人之境徒送

夜、纖月出山、曉鐘已報之後、舞人漸々過行、但七人別

不取松明、又騎馬所從不過一兩者等有之、不分別其

人、使四位侍從能忠朝臣乘車、如前駝者二人、其內民部大貳政範

相交、今一侍三四人歟、雜色白張、其後又有弊車一兩、

人若男、若陪從、見了歸付寢、舞人、賴行、維忠、少納、侍從新、定實、

光衡、中務、資信、侍從、季賴、不知、實隆、不知、貞時、高、

階忠時、源行綱、加陪從家長朝臣、有長朝臣、孝繼、業

繼、爲定、邦定、範昌、信宗、所作親賴、親季、源範綱、

御介小舍人藤繼所注送也、

後日使談、後聞、定實昇殿、今日依公卿着座不昇座、

歸立之次可付簡、松殿仰、於舞人裝束は、帶劔持笏

可着由稱之云々、遣老御說、若爲實は老狂給歟、先

達所爲炳焉也、何物帶劔可昇殿上哉、上社上御馬、

日出還立、左大辨候、事訖退出、午正中云々、召藏人

頭、不見使、折烏帽子雜人在瀧口戶邊、此通路定平

衣冠在緣上、高聲告貫首來由、使聞之、自雜人中融

出、貫首又聞定平聲歸去云々了、又直衣殿上人多在

南殿見物、

廿三日、朝天快晴、午時許詣今出河、心閑奉謁、次參前

殿、北政所頗御不例云々、維長語云、昨日大臣殿令參

職事頭治部

內給、刻限可申由申、相待之間、秉燭以後御參、職事女
房內外兼仰御服事于藏寮、隨領狀、當日早旦只青色御
袍一領進之、本御服只一具、內外周章、殿下又被仰之
間、其後更令織御服之間遲々、使裝束秉燭以後給之云
云、右大臣殿、中納言定高、賴資、參議隆親、經高、家
光、

關白右大臣御座殿上之間、實世朝臣於小板敷、乍立取
御贈物云々、未練於事不思議、曉鐘大臣殿還御云々、

重坏隆範、信實云々、時儀於今
定役歟

廿四日、天晴風靜、終日寫經、此四五日口熱又發、寫經

之間顏腫、頭面之熱臨老彌增、無計略者也、日來物詣

後聞、非爪、依其細工、作六箇切手

者今夕歸、傳聞、伊時卿去比切手爪之間、誤切其指、疵

腫與通身、已及根鈴腫難存命、仍出家云々、父經藏人

頭爲前內府信清、賀、爲卿二品親姪、院近習之名字、河

陽名謁等奔走、遂無成、可悲之運也、

廿五日、天晴、晝後大風、終日寫經、第二卷廿枚、奉書、

廿六日、天晴大風、五寒無極、今年今日初取寄火爐、

廿七日、天晴、去夜寒氣殊甚、皮膚破損之故歟、未時許

大炊御門中將來臨清談、公事之間少々被示人也、無隔

心問答、漸經年序之間有音信歟、先祖長秋納言等少々

被見、要須事尤多、可貴之家也、五節之間事少々聞之、

去年有資以資信可令出歌由緒稱、資季等不許、今年實

俊以弟實隆、名字不當、可令出歌由示勅使大納言、大納言此

事可計由示賀中納言、中納言又示資季之間、資季不承

伏、有資又妨、遂無人望無其事云々、資季有資等寄事

於堪能上立、行事定平等又上立、如此輩不云位次最後

舞云々、往年出仕時亂位次者更不見及事也、逐時代而

自由之所行、又察向後者歟、又云々說、大納言勸勅使

訖、翌日可辭官云々、光親
例歟、可謂狂事、中將實俊、今年五節
不出仕

子息三人、少將二人、兵衛佐勅使供奉、父子四人出立

云々、爲中將者子二人少將、或又父子同時少將、尤天

下勝事歟、參議父子人又存此儀歟、自他縱雖有例、可謂

希代事、參院、有童御覽、扶持人本被儲雅親卿賀、臨其

期乍出仕稱未練由不付、被催諸人皆遁避、信盛付之云、女院御沙汰、□□導州氏延尉、時儀不足言事歟、件少將美麗、而其元日祖廻不着殿上、不候中宮淵醉、只廻了退出云々、雅亞相之教歟、參入夜瀧口遲參、參會中宮北對之東方云々、

廿八日、朝天近寒、無霜、終日陰、今朝年來所伺之船此間有、日來在籠中、不委見、令見之瘦病氣、死、損無極、但至昨日食物如例、寒氣殊甚、齒熱隨寒

冷有增氣、手痛殊以苦痛、終夜病惱、宰相餘氣猶脆弱、春日行幸依難扶得、申所勞無減由了、右武衛宮內卿等借馬了由示送之、

廿九日、霜凝天晴、去今兩月之間、唯一日之外雨不降、諸水又涸云々、寒氣雖難堪雪不降、是又向凶年歟、陽景快晴、寒風適休、巳時許爲見物行冷泉、以下人令窺精進屋、無人寂寞云々、午時勅使參內之由聞之、良久參神祇官云々、大路車漸無其隙之由聞之、仍乘車、女房車一、令持柄、有弘在共、予與宰相乘、又雜々女房乘舊車、出二條東洞院邊路出精進屋、二條南室、町東云々、二條、東、洞院、南、三條東、

云々、洞院面二條南一町、殿下御車可立、不可立車由舍人等拂之云々、二條南洞院西角程二條面、立車、時刻徒移、僅自神祇官退出之由聞之、龍聖二、人云々、神寶已於大炊御門、東、洞院、南行、四姓使不見、又及數刻、落日已沒、神寶過了後、殿下御車過給、八葉、御牛身白、班牛也、左衛門尉、稱宗左衛門惠、一云々、行通、下野武茂、故左府御隨身、非常時上、只二人在、御共、右大辨宗平朝臣、有教朝臣連車、此外無人、二條南町半許被立御車、御共人車在南北、此間勅使雜物、湯桶至手、極盛極等、渡、此路舍人等雖制止猶渡、御車前甚見苦、行事等不覺不教訓歟、如此事尤可加詞事也、中將實陰車又赴此路被追返、日入以後僅渡、六位前駟歟、折花布衣者二人、樣々當色所從等不辨見、又不見知五位二人同之、次源仲親、仲家舍弟云々、本在此家、盛親、閑防、知忠、國策子、元曆小藏人、往年基兼、改名以後其名忘却、忠廣兄也、皆小舍人童雜色等、樣々水干當色也、次若男折花布衣、以人令問、民部卿子云々、兵衛佐公員、東帶隨身、蘇芳袴、又布衣男、令問中務少輔云々、不、知、後聞、光衡云々、東帶隨身二人、蘇芳袴、少將甚長云々、又布衣男、美濃、前司、少將實任、東帶、隨身蘇芳、少將隆盛、

同上、基權右中辨爲經、束帶、少將、二藍符衣、曾衣紅、藏人辨
行卿子、一門之上成親卿外孫也、束帶、隨成親卿外
光俊、束帶、宗綱、四位、少將、實任、身折木、少將
雅繼、束帶、野郎、中將實蔭、中宮權太夫一家好歟、隨身、兵
部卿經賢、近日與父怨、敵衆驚駭、中將實俊、衣冠半靴、不帶劍、頭中將、隨身二勅
使、半靴、穿鶴毛云々、龍、賴次、例袴、久清、唐綾袴、共付帶、
此間已暗、不憶見、所張之蓋繩細短、少將實直、袴衣、花折置、
此地、具調度懸、妻黑羽、青丹唐、隨身二人、童二人、雜色六人、
皆唐紙、此外、中將家定、少將公有、長途供奉由、日來
聞之、當時不見、侍十人、五位準人正云々、衛府等雖折
花已及昏黑、不辨其色、衣櫃等如恒、見物車競歸、入冷
泉食了歸廬、夜前中宮行啓六條殿、大納言雅親、家良、
中納言盛兼、權大、賴資、參議隆親、經高、啓將有教、定
平、御後殿上人、光資等供奉由傳聞、今日事、云人數云
美服尤得時、但及昏不能委見、宰相引送馬二疋云々、
行事辨有親昨、日俄催幣料、即付吉上忠弘、法師宅致
水火資云々、賴資卿又付殿下小舍人、殿下元三嬖貴之
云々、內々申入、恩免云々、

頭注

後聞、實直猶不下向、留京了云々、又後聞、有親不帶
幣料、不具時刻移、上卿左府早參、大忿怒勸發給云
云、後聞、怠狀云々、又聞、不召怠狀、赤班瘡殊重、吐
血難存命、仍被宥云々、

卅日、乙巳朝天陰、辰時細雨漸密、依違忌閉門寫經、例
事送嵯峨了、至于夕甚雨、入夜休、夜前中納言經通卿
執誓、光親卿女、左府中納言云々、後聞、非今夜來月十日
由云々、

○十二月小

一日、丙午、朝霧不見向屋、已後天晴、大風發屋、心寂房
來談、爲見病者向三井寺云々、法印被過談、承久二年
令入御室給、尊覺、若宮、清季、依修明院仰渡梶井宮給、御出
家來十日爲受戒登山、雖密儀參御共、公蒙僧都、入道左
明神法、靈快僧都、源內、三人連車儀云々、此事尤可被用
密儀事歟、
二日、凶會、天晴陰、大風、此冬雖非別病、心神惣違例、
身體不調、氣根如亡、餘命之不幾歟、

三日、戊申、朝天陰、陽景間見、未時許參前殿、大府卿候御前、來十日改元云々、今朝被仰云々、在高卿、賴資卿同進歟、左大辨六人有例山中云々、議定公卿誰人哉、左府參給云々、年號字、當時公卿讀解人尤不審、彼卿退出之後、自然入夜退出、今夜月高懸、又非纖月、

四日、朝天陰、雨霏々、不經程止、中時許雪雨又休、自前殿春日行

幸建保、事被尋仰、書進愚記了、平相公改元、定所見被尋、承久貞應改元日事粗注送、鴨祝光兼來、殿下御祈奉仕、祐通之亡替所望之由、夜粗申出事也、

五日、庚戌、曉雪埋庭砂、朝雲晴山嶺、未時許詣今出河、心閑奉謁、日入之程歸去、夜盜破北築垣、依不寢者聞適退去云々、此間連夜事也、

六日、天晴陰、去夜盜入法成寺、取佛具金物云々、日入以後詣右幕下亭給謁、初夜鐘之後宿忠弘法師宅、方遊、滿十日

五、

七日、霜凝、天晴、巳時雪降忽積庭、遲明歸蓬門、午時許右武衛被過談、雪中閑談、當時行幸供奉公卿、右大

臣殿、中納言定高、盛兼、參議隆親、宣經、三位光俊、成實許領狀、上卿大納言忠房、行事宰相、伊平、中納言賴資、參會南京云々、不足言事歟、無可立片舞人、行事上卿、宰相、隆親、光俊、成實、可立由有沙汰、一日於御前更非涯分、然者定高、賴資、可立歟由申之、中宮權大夫咲云々、件納言、拍子、經通卿、云々、如此之時、雖有行幸頗不審事也、朝親行幸奉行院司、于今無其人、當時御所南庭、池北、六丈又無中島、近衛引陣南、全無其所歟、中門廊三間、中門外又極以狹少、每事無便宜云云、夜前聞、御佛名導師山僧法眼、奏實、付所領事有成相論事、僧範卿後家莊、機勢時可傳知、二品山約束、依之二品猶可知、被處彼僧不當、被觸座主、座主早可被召問由被申、仍職事範賴以書仰大理、大理仰檢非違使擄取之、亂入引張、令乘車、召禁、山僧之習被仰本山、本山不放進之前、被擄召僧綱以上者事無例云々、依之山門又訴訟、隆親、範賴、可被解官流罪之由訴申云々、卿二品被追京中、所領可沒官由同申云々、又件二品資貯之倉、在中山、生涯之世途重衰微者、以之可在世之

資財積置云々、群盜入件所悉取之、斬殺兵士匹夫云云、近日盜蜂起、無從旅所、於事怖畏之間、昨日忌宿入道宅、今日見曆、歸忌太白旁可憚、仍又雖寒氣難堪宿南棧敷、京極東也、北十町東二町、猶非正方、此忌八町云々、一町不憚故人說也、聞曉鐘一聲歸寢所、

八日、天晴、昨雪盡消、大風、寫經之間覺法印來談、寒氣甚、朝夕之間書第三卷、此小兒自昨日有流布事之氣、家中於今人、數已皆悉、

九日、天快晴、近寒殊甚、無霜、今日宜秋門院北政所御忌日也、老病遠路不能參、硯水爐邊根皆氷、寒風入骨不能出寢所、北山昨今八講云々、

順注後日間、公卿勅使欲奉納之間、御戶鏤更不被開、禰宜等恐惶、勅使令破開云々、更無例事歟、

十日、朝天晴、無霜、晨後又大風、昨今寒氣極難堪、經通卿聲又延引云々、一日或者云、近代卿相家々多成長夜之飲、各結黨群集所々、好而食鶴鵒、尋常山梁等述日群飲之座、猶乏少之故歟、昔先考之命、鬼侍之食物也、

事宜人不食之、壯年之後視聽、可然宴飲之座皆相交、今又聞此事、爲知時儀之改、雖無益事注之、又竊近代月卿雲客之良肴云々、少年之時、自越部庄持來菰苴、鬼山鳥云々、是皆非尋常之食物、可賜青侍由先人所被命也、又經長左衛門佐等食狸云々、午刻許招心寂房令詣右幕下、後招時也、中時許參室町殿、改元事、右大臣殿令參給、左右府、大納言、中納言定高、賴資、參議經高、兩大辨參云々、六人進勘文、賴資、在高、家光、爲長、兩翰林、可舉寬元爲長、文曆在高、由被仰、不見勘文、秉燭以後退出、寒氣難堪、

新藤中納言

建長 後漢書曰、建長久之策、

治建 周禮曰、以治建國之學政、

顯應 晉書曰、禎祥顯應、風教肅清、天人之功成矣、

菅二位

久保 梁書曰、姬周基文久保七百、

文曆 文選曰、皇上以叙文承曆、

左大辨

元德 周易曰、乾、元亨利貞、正義曰、元者善之長、

謂天之元德、始生萬物、

嘉觀 史記曰、從臣嘉觀、厚念休烈、

大藏卿

貞永 周易註疏曰、利在永貞、永長也、貞正也、言長

能貞正也、

寬元 宋書曰、舜禹之際、五教在寬、元元以平、

資高朝臣

安貞 周易曰、安貞之吉、應地無疆、

長養 毛詩正義曰、長養萬物、萬物喜樂、故曰凱風、

和萬 尚書堯典曰、百姓昭明、協和萬邦、

周房朝臣

政和 毛詩曰、治世之音、安以樂、其政和、

文應 春秋內事曰、仰觀天文、俯察地理、始畫八卦、

是天地之位分、陰陽之數、推列三光、建分八

節、以文應氣、

祥應 天地瑞祥志曰、政教兆於人理、瑞祥應乎天

文、是以三皇邁德、德曜順軌、

先日所蒙仰候之年號字註進候、行幸念々之間、即不
令進上候き、且不可念之由、蒙仰候之間懈怠候、其
後連々被纏牽念忙、于今遲々、返々恐思給候、此中
周房朝臣文應、大府卿於菅二品之許見之云、春秋內
事何文哉、年號尤出文可分明歟、而常不承如何云
云、就之二品又傾奇候云々、其後大府卿參一條殿申
此趣候、折節賴尙參上候之間、被問此事名目候、賴
尙頻傾案、遂不覺悟、申云、春秋副文歟、而當座不案
得、退引勘可申云々、如此候間、二品若は大府卿之
難被問本主候歟之故、付外記之後、更取替此字候、
文永々々後漢書文と候しやらん、其本文猶尋承可
注進候也、俊朝賴尙真人參上申云、見在書目六之中
一切不見候云々、此事雖其憚候、爲御不審委細言上
候也、須持參候之處、歲暮念々之間、且進上候、爲恐
候、恐惶頓首謹言、

十二月廿八日

兼康上

實高朝臣勳文

前殿

十一日、天晴風寒、夜半改元、安貞之由、以御書被仰、此字存外事歟、終日寒風、不出臥內、

十二日、朝天快霽、風適休、辰後又大風、入夜兵部來

談、相州上洛、熊野又止了、孫歌仙入天亡之故云々、今

日狂巫九奔入、十禪師南門東腋下人頓死、朝見付之

間、社頭忽穢今日七由種之間、即退出了、可驚奇事歟、

十三日、天晴、又大風、午時許宰相來、行幸遂依所勞

不能供奉由申入女房、六角雨、大宮東、儲棧敷、一昨日

神今食卜合由頭中將責之、所勞力不及由答之、又乙

卜合勿論々々、儘可參由示平相公、公卿以上者勿論儘

字不聞及、故大納言職事、儘、儘字奇惟由被訴申、爲

五位職事所傳奏也、甚不可然由答之、伊平卿所勞、隆

親不聞入、右大辨機所勞、左大辨一身奔營難堪由申之

間、終日祇候殿下、自殿內々被仰、平相公參勤了、上卿

賴資卿云々、四位舞人、侍從公綱被叙四位勤仕云々、今

一人隆盛朝臣、侍從通行、少將實清、兵衛佐家清、御殿

身、中務貞時、侍從範繼、黃門殿、範定實、平繁茂、源教行、國基子、新藏人、

十四日、己未、遙漢快霽、終日和暖、天明遲來之由自冷泉

送使者、辰始行向大理門、寂寞人不見、供奉人所從等

未往反、路頭又靜、已始行棧敷、二條町陣毛車一兩見、

若上殿下自夜前令宿直廬給云々、六角大宮棧敷南有

季時入道棧敷、北檢非違使仲親云々、檢非違使一人不

供奉云々、言語道斷事歟、路頭又靜、見物車不幾、依隔

河西無棧敷、以下人令伺內裏、大將殿未令參給、舞人

近將等少々徘徊云々、及午終刻御輿已出御由聞之、前

陣猶見來、神寶適過了、又移時刻、舞人見來、新藏人國基

行、子元北白河殿人童二人、二藍雜色四人、白菊平繁茂、檢非雜色不

著當色、侍從實隆、童一人、白張雜色侍從範繼、黃門殿付

紅梅、絲結雜色朽葉、白梅、中務少輔貞時、童二藍歟、白

梅、雜色朽葉、付松、新侍從通行、童一人、雜色白少々、少

將實清、隨身指鞭、二藍袴童崩木、紫付雜色、夕才付右兵

衛佐家清、隨身袴押鶴、鶴童二藍、鶴金雜色松重、鶴

九、鯉、

取注

此人々不見知、以下人令問其所從聞之、

左番長下毛野武俊、故左府番長云々、白唐綾、梓比禮付之、行幸舞人、近

衛舍人相副、近代久不見歟、侍從公綱、童一人、雜色二人、法師

三人、少將隆盛、通身二藍袴、童唐木、雜色朽葉皆洲流ヲ送、所具雜色、皆國通卿

雜色云々、父子之儀不得其心、

京職只官人代許歟、亮不見、隼人正成員帶黑漆細劔、

甚奇事也、左衛門尉四人云々、無佐、兵衛尉一人、無佐、

無左右馬允、右權頭佐清、左頭親季、童二人、此後又中絶

甚久、陰陽助國通、上官兼衛府者、著綠衫、關腹、平胡鏡、此

府、蓋著洛外行幸也、少納言爲綱、宮内卿、舍人二人、薄背、馬

右兵衛督、舍人(薄色、黃香)馬副雜色、後聞、別當、下部十人、

二行前行、突白杖、唐紙細縷衣、京中行列未中宮權大夫、唐詞、御

新源大納言、二位大納言、居飼同、左大將殿、重國如例、

也、威儀御馬等、左右監監各一人、番長、武文、府生久員、

蘇芳袴、下臈近衛持平胡鏡、馬副上臈持御笏、左將、伊

平卿、宣經朝臣、唐木袴、紅梅下襲、隨身袴縫目押廣唐綾、宗平、

藤家定、已上、中將、定平、親保、實任、少將、右將、有教、實蔭、

已上、中將、紅梅半臂、下、賴氏、源家定、實光、二人左將云々、

中將、通忠、唐、唐木袴、賴氏、源家定、實光、在右陣若被渡

歟、藏人頭親長、頭中將不參、稱病云々、貧乏之至歟、衛府藏人忠廣

甥、着青色、帶弓箭、在職事列、衛府藏人棄本陣、陪從只一

人供奉、少納言惟忠、御後殿上人云々、無兵衛陣、右衛

門佐資能、在能子、童二、權佐範賴、尉一人、當時行幸之時、

殿下御車、前駟、仲國、仲家、爲永、爲範、以輔、自余

不知其名、舍人黃香、四人、御隨身袴染分如例、見訖歸

入忠弘法師宅、一條無水、爲沐浴也、入夜猶月明、沐浴之後聞、亥時

許忽雨降、終夜甚雨、甚見苦事歟、今朝前殿御書、向

黑木屋事已一定也者、此事甚可然、年來相互無此御

好、極無由事歟、行幸間事後日間有教中將、粗注送之、

出御時列立公卿、左大將殿、二位大納言、源大納言、

中宮權大夫、藤宰相中將、別當、右兵衛督、京許、馱餉、

祇候、頭治部陪膳、範賴役送、浮橋皆下馬、頓宮入御、

乘燭之程、頗有不審事、右大將、二位大納言、中宮

權別當、宮內、宗平、有教、定平、親保、責任、出御、劍

璽役定平、供御草鞋、出御戌刻、雨以前入御社頭、

夜半許歟、供奉人多、留京不幾、翌日刻限、依雨遲々、黒木屋公卿、

兩管止、右大臣、二位大納言、源大納言、中納言、經通、盛

兼、賴資、實相、伊平、隆親、三位成實、伊平、隆親、宣

經、京留云々、片舞、右大臣、兩大納言、兩宰相、加陪從

人、經通卿、松子、此間又難甚雨、猶爲晴、盛兼卿、儀、染髮來、蘇芳下重、袴不染、公卿

祿、大臣、親長、盛兼卿、隆親、惟忠、此外人不見、舞人

定實取公卿祿、未見事云々、出御、戌刻、頓宮、卯刻、入御

本宮、午刻、十六、勘賞、未承一定、

別當祿、中宮權大夫、權別當祿、顯平朝臣、別當自

身法務、權別當讓經、間任、僧都、

十五日、自夜甚雨、未時休止、夜月明、早旦歸廬、始煤、雨脚

更不休、今朝之儀定有煩歟、未時雨漸有間、今日す、

拂、小童昨今殊重、昨日不飲乳、此病之間、又痛而不小、便、尤聞驚、自夕聊飲乳、

及曉小便云々、

十六日、朝天晴、晚後大風、又發屋、良算法印送勘文、

存外壽考、不圖迎六十七年、兄弟十余人之中、七十之

齡纔二人、餘算幾日乎、

十七日、朝陽快晴、辰後又大風、寒風超於日來、

十八日、癸亥、凶會、天快晴、夜前小浴之後鼻垂忽病惱、志深

禪尼昨日入浴由來臨、小兒猶溫氣不止、其瘡已枯了、

甚不得心、猶不受飲食、

十九日、甲子、天晴、招藏助貞行問小兒病事、重役輩多

如此、猶歷日數は非無恐由示之、更無爲術事歟、午時

宰相來、一昨日依召參殿下、爲御使參太相府右大臣殿

令臨黒木屋給、殊爲本意面目、且直雖可申、還天事々

しくも候へば、便宜之時令傳申給哉、又浮橋事極以公

平、其由又令奏聞了、烏羽修理之體已如復舊、殊感恩

給由等也、浮橋十五間及前夜已闕如、諸國之力已盡、無

計略由行事辨申間、被仰此由、即遣侍等、以後院力不

日令渡之、烏羽沙汰者等態闕事、辨欲募左衛門尉功、

猶不足山等對捍之間、所遣使者即加下知、無爲令渡了、頓宮守護事、被渡御物事等、剩悉致沙汰、鳥羽修理

朱雀面悉如新作路、超過白河院御時之山見物稱之云

云、行幸賞其夜被行了、從四位下時兼、左少辨、如元、爲經、中辨、

伊平卿雖申二位、當時不許云々、當時上臈、國通、定高、具實、基輔、公俊、兼忠、具定、

朝親行幸雖被催沙汰、更事不可行事歟、萬事徐福文成

誑誕多云々、不催可催事、弘慈以下全無其沙汰云々、

爲經奉行雖示諸事、大理想不成收、長清朝臣今朝送背、打出料綿細川庄任

應催、十九日以前可濟云々、當庄播磨國依無綿非計略

限由答了、不足言沙汰歟、今日內御佛名式、廿一日節

分行幸、私方有忌、不供奉、自明日大乘會、廿五日京官除目云々、

尊勝寺灌頂分配、也、上卿具實、楳水以下猶盡氷、井水猶乾、雖严寒無雨

雪、
頭注

後朝甚雨、何樣可被行乎山、自殿下被申、右府寛治

永久例分明候、暫可被待歟由令申給、仍被待云々、

內府御供奉、兼日被調儲、下裝表袴、云文云色、一事

不違、右府令著給、雖無被供奉、いかいせましと、內

內有其沙汰、且入興歟、引出物馬御秘藏鹿毛云々、
灌頂、於法勝寺藥師堂行之云々、

廿日、夜雪埋庭砂、朝陽出即消、天間陰、雪紛々、小兒所

惱猶同事云々、已經二七日甚恐思、夜前御佛名、上卿、

大納言、基綱卿、中納言賴資、參議、經高、爲家、賴隆云々、上卿

不申事由、鐘以前被催出居、鐘以後出居可着座歟由

申、出居着て鐘をば沙汰して令打るぞかしと被答、奉

行右佐散々云々、又書三會四灌頂僧名定文云々、午時

許僧正來臨、言談之次聞及、口來、不知、成實僧正逝去、覺都

僧正辭長者、定通加上、故云々、東一條院先帝共此事御惱、各御減

輕御、酉時許長賢法眼來、依明後日參賀、內大臣殿大、臣以後歟、出

京云々、又宰相來、佛名事御導師一人闕如、範賴忘却

不沙汰歟、秉燭以後思出尋、所望物始仰之、件法師其

後參之間及深更云々、不打鐘以前出居昇、有通、定

平、公有、左、經高卿等、猶可被申事由歟之由申上卿、

上卿更被尋職事、範賴徒既進沓脫、蒙命通女官戸、又

歸來同座沓脫、次打鐘、公卿着座、定平申、柏梨少將二

人勸盃、無三獻、取祿時範賴僧綱儲赤掛、上臈不答而取、平相公示此事歟、但不及取返、凡僧料白云々、定平問名謁、無貫首、右大臣殿有可令參給之聞、定平宿申事、周章來問、答急由立去了、昨日政始、賴資、家光卿參勤、大辨不候、御佛名云々、靜俊注記云、西塔兩谷依泰實事、日來閉戶絕跡、又有不同心輩、不用其訴之處、件黨自昨日更籠于釋迦堂、若有制止之輩ば、放火可滅亡由結構、阿波院皇子校小路千日入堂奉制、是依青蓮院門徒、關白殿召貞雲、此事可制止給由被仰、妙香院不拘制止者、可致其沙汰云々、取注、泰實禁固之替未補、

廿一日、天晴、消息之次右幕下返事云、安嘉門院中事辭退已了、實宣卿可申沙汰云々、每事定叶時議歟云々、自今以後定猛於虎歟、今夜御方違行幸、五辻、秉燭以後宿入道冷泉宅、病氣寒夜不能遠行、入道法師云、自信濃干桑二合、横、梨子一果、今年不實、錢五貫持來、無他物、廿二日、丁卯、立春、正月節、天晴、有和暖氣、遲明歸家、昨今早驚初啼、未時許中將來臨、清談自然移漏、春日行幸出御之

間、右將只一人也、被渡乎山雖相示、頭不沙汰、一人不渡之樣承之、不然云々、予本自不知右近事、粗見先蹤、一人之時猶渡歟、不知可否、於頓宮宗平先開釐戶、殿下先可上御簾由被仰、仍上之、非所存由思歟、通具卿云、入御時先開釐、次上御簾、出御時先上簾、次開釐、爲先御所方云云、理順叶、但所見及人々皆又上御簾、社頭御與寄今度極高、上板敷ニヒトシク造之、仍伊平昇西階之間、殿下御坐極無便、駄餉之所殿下御參、親長獻御盃令取給、即返給、令置木折敷給、御膳頭陪膳撤之、於御輿後各分食、親長、定平等四五人也、依招預其列、此事定有例歟、又尤大件事也、但先先全不見及、黑木屋盃留成實手、不下殿上人、親長類雖不預其、宗平取殿下御沓、實任取右府御沓、法眼今日着法服、平賀、出仕、及日入歸來、別當僧正殊被引龍蹄云々、中將昏黑歸、

廿三日、戊辰、坎、天晴、法眼曉更下了、

廿四日、夜雪埋庭沙、朝陽快晴、宰相示送、昨日大乘會唯一人參、今夕東一條院御佛名、明日分配灌頂、明後

日中宮御入內、連夜寒風無術計者、實難堪事歟、諸公
事皆爲歲末下旬事、爲人無術事歟、

廿五日、天晴、朝雪霰即消、夜部佛名、定高、知家、範宗

卿、長清、基定朝臣、盛兼、兼高子、行香云々、今夜除目云

云、去廿一日左府俄所勞之由、申殿下給由、傳々說、廿

二日自前殿被尋申、昨日不快、今朝宜隨體可出仕由被

申云々、仍右大臣殿昨日令習禮給由、有長朝臣密々所

示也、改元定和漢例字釋當應會釋等、殊被加御詔、諸

人奉褒美云々、春日御供奉毎事分明、進退有度、由博陞

奉讓給云々、昨今精進念誦、依無力又平臥、解完唄可

來語由晉信答所勞無從由了

廿六日 天晴 一品簪王公相厚三粒之印 即表請示

之、當時內々仰也、未破宣下、最前申合披露由有返事、

昨日興藥寮、今日施藥院送白散、故拾例錄紙一帖云、紙申

時許大慧聞黃、庵見及云々、神祇小祐、權少外記清教

隆、中務丞中原幸重、臨時侍從藤公親、藤隆兼、內舍人

臨時、侍從藤公親、藤隆兼、内舍人
内給

八人、少監物四人、大舍人、明經、圖書二人、縫殿五人、

治部二人、雅樂一、玄蕃一、民部惟宗、兼親、刑部十一

人、宮内三、木工三、大炊、典樂一、掃部四、忠一人、

臨時、左京進一人、修理權亮小槻元清、山城藤以行、參

河權介清宗清、丹波守藤實遠、伯耆源盛朝、壹岐藤祐

康、左中將通忠少、將通行、將監十五人、右中將良實

將監十五人、醫師一人、左衛門十六人、醫師一人、右十一人、

左兵十八人、右十五人、左馬十三人、右馬十人、從四位

上平有親從五位上源邦定國五位四人今度適無

公卿昇進歟 後世除目出仕三公 雅親盛氣經高

卵奔走、清書宣經綵長 懸不借人、人間不存□□無

十七日、天青、夜而于啓興、權大夫、二立中將、寺從

宰相、左大將、三位中將、基輔、宣經朝臣、夜前被行内

寺所御神樂、拍子、資催朝臣、當時未定平朝臣、笛、經行

朝臣、確稟、忠兼、和罕、隆綱朝臣、御劍、資雅、今夕荷

前、賴資、範宗、家時卿、賴隆朝臣領狀宰相申所勞云

前、賴資、範宗、家時卿、賴隆朝臣領狀宰相申所勞云

々、夕又云、依重催參勤者、朝現行幸正月廿日比由、詞許披露、實無其沙、下名又今夕云々、

廿八日、自夜雨降、宰相來、夜前荷前、範宗、賴隆不參、依無辨及深更、賴資卿行擬侍從定等、末座中納言未聞事歟、大

納言以上尤可行事也、徒依及深更、兼語大外記、師季、於

閑所書儲懷中之、即取替與家時、只三人着外辨、中宮

權大夫天台座主宣下、少納言惟忠、給宣命登山云

云、件惟忠一日平野祭、依續延引、使失禮散々、不替仗座、進欲取幣、宮主示之

之、乍立指笏、悉取御幣、橫持返置之時倒之、指入案之

下、久不引出、唉壹云々、去廿四日列見、定高卿參官、

依無一有情參殿下之間、賴資卿又稱參列見由、仍申假

參法勝寺大乘會結願、家時卿只一人云々、藏人辨行

之、依無人無行香參由、女院佛名夜語之云々、觀音院

灌頂家光、東寺宣經、又皆不參、尊勝寺、於其寺藥師堂行之、僧正

櫻井、行之、取大阿闍梨布施即逐電了、今日考定云々、

世上之儀更不可云、每聞驚之、考定、定高、家光卿云

云、下名今夜又無參議由聞之云々、此間事惣不催、

傳聞、參者自然勤歟、詔信實令畫新繪、今日持參內裏云々、正治元

年新日吉小五月也、以成定朝臣記書之云々、申時許雨

中南方有火云々、見之如薰爐、即滅、後聞、大炊御門高倉云々、冷泉降歟、

廿九日、甲戌、晦、夜雨間降、朝後漸雨止雲晴、雲住來、日晴陰、賀茂

權祝保孝來、依咳病不逢、少年之知音也、共戴白髮、未

時許下名、聞書到來、中務丞二人、內舍人、五、少監物、

三、縫殿、二、刑部、四、木工、三、掃部、造酒正中原師弘、

左將監十七人、右將監十四人、左門十四、右門十二、少

志二、左兵衛十六人、醫師一、右兵衛十四人之內、藤成

通、附玄、姓名、左馬八人、右馬九人、房任其一云々、眞言院

功、從四位上丹波賴季、從五位上中原師季、從五位

下教行、安部泰重、夢歟非夢歟、家仲諸國權守示付藏

人辨、可秘計由日來約束、雖小事遂無沙汰、依人事異

歟、戶部十年不被任丞、又是可謂道理、入夜女房參安

嘉門院、此官仕極以難堪、雖忘耻猶有煩、依隨責難通、

纔不默止許也、

安貞三年

○三月小

一日、己巳、天晴、午後陰、自晚陰、甚雨又風、未時許覺法印過談、宰相來會、相具小男、今日殿下河原御被、午終許出御云々、不見其餘、安嘉門院渡御北白河殿云々、月來籠居、女房參會、夜深風雨之間歸來、

二日、庚申、自去夜甚雨、已後雨止、西面紅梅去年白北移、盛

開、南小櫻又開、

三日、辛未、天晴、午後陰、入夜甚雨、未時許參殿、仰云、宇治念思來廿三日也、於御前有長朝臣書可催人、殿上地下諸大夫大略書之、公卿扈從、右大臣殿、定高卿、爲家卿云々、明後日五日改元定職事皆虛病、奉行牢籠之間、外記未觸、進勘文之人、今日遂老頭請取云云、是又非知耻之儀、只不願失錯之本懷耶、最勝金剛

院御入講所被催、濟々焉云々、申時許御參內大臣殿同令參給之間退出、

四日、壬申、自夜甚雨、已後雨止、午後天晴、午時許大炊御門三位院宗來談、謝遣參殿之間、證寂房又來臨、清談之後參殿、渡御九條殿之由、有若宮仰、上下一人、不可然事歟、即退出、

五日、癸酉、今日改元事、所參公卿濟々云々、定無座歟、左右相府、按察、土御門大納言、追中願山云々九條大納言殿、

右大將、三條大納言、土御門中納言、中宮大夫、左衛門督、二條新藤納言、二位宰相中將、平宰相、左右大辨、

新宰相賴隆云々、新宰相中將宣經、才卿滿朝歟、不參

只侍從一人歟、年號不見勘文、只大府卿言談之次聞

之、賴資卿正安、建長、在高卿嘉德、左傳曰、上下皆有萬

嘉、毛詩正義曰、萬物嘉樂、家光卿、禎我朝未用、祥、弘長、喜觀、爲長卿、

貞永、寬喜、資高朝臣、德和、寬政、天休、未用、國房朝臣、

寬安、養寬、文永、今日尊勝陀羅尼供養、寢殿南面云々、導師、

長者僧正、不召具綱所、依事煩略之云々、公卿定高卿、公長卿五人云々、僧

俗皆參、御佛遲々被責、未始持參、近代一補以北面爲僧

前所、先例立所此事訖、殿下可有御參內、未時退出、竊

行毘沙門堂見花、已以盛也、適無人之時也、乍車內見

南西東三面花、歸了、後聞、有觸穢事云々、無人其故

歟、夜月明、又久不入、此春如此、

六日、甲戌、天快晴、已時許竊入歡喜光院、往年花樹之

跡、一株古木不殘、堂宇傾毀、不能昇見、徒寄數多之民

煙、不知大破之佛閣、悲痛無極、次入殿下御領故三位

中將舊跡、適見古木之花、卅六年之昔、訪亭主之病之

後、今又初臨此所、彼是懷舊之思難禁、次又見北白川

殿、是又大破、事與心相違歟、午時許歸、未時心寂房

來、灸左肩、入夜幸相來、改元寬喜云々、大略一左大丞

與藤大納言靜論之詞、相互似過云々、納言云、禎祥極異

樣、不及被勘申云々、大丞答云、於此年號者、文治之度

故中納言所擇中也、仍貴家跡所舉也、非可被難申云

云、納言閉口、此外有忿怒之詞等、

七日、乙亥、天晴、夜雨降、已時許欲參殿之間、前匠作

行能朝臣來談、謝返參入、仰云、宇治可爲廿二日、康和

之例、支干符合故廿三日右大臣初御作文、予被催乎、廿五

日北政所御物詣、來十四日幕下亭御渡、右大臣殿其夜

同御渡、一夜出御他所、宇治還御日可御高倉也、祭使有沙

汰、被催實陰具教朝臣云々、此間予申行能朝臣申旨

了、世途事、一及未時御束帶御出、最勝金剛院昨日又如此殿上

人師季朝臣、宗平朝臣、有教朝臣、資季朝臣、能忠朝臣

等也、宜秋門院無別儀事云々、仍不參、直退出、房被

八日、丙子、自夜雨降、及巳時天晴、朝侍從來談、申時許

式賢來之次、聊聞龍笛聲、雖不分清濁、猶抽感情、夕暉

尋師來、白地出京、明日可下、

九日、丁丑、天晴、夜深雨降、先年所繼八重櫻花二開始、

又先年栽下枝同僅開、眼前待得之、午時許行能朝臣來

談、依永日難消、送書之次、欲連歌由示送之故也、而人

人皆變改、空難談、宰相及未時來、法印依寺中聊有物

念事、武士擗強盜不退出御所由示送、備後不來云々、漸

同類候間事

及申時匠作歸了、與宰相行毘沙門堂、乍車見花歸來之間、法印又來臨、彼是參着、又空歸、入夜又尊實法印被過、相續拾謁、老骨屈了、

十日、戊寅、自夜甚雨、已後天晴、大風、未時許伊勢前司清定來談、

十一日、己卯、天晴、已時許參殿、民部大輔康基云、自昨日御內裏、即退出、今日仁王會云々、未時許成茂來談、

十二日、庚辰、天晴陰、晚陰雨降、已時參殿、昨日仁王會、殿下御着座、右大臣殿、大納言家良、家嗣、中納言

實基、定高、參議伊平、南殿、隆親、爲家、宣經、南殿、頭中將加行香、居長押上、大臣暗而不見由被仰別當更出、不知其由云々、午

時許退出、未時詣右將軍亭、臨昏始連歌、深更甚雨歸廬、賦御何々馬、

十三日、辛巳、天晴間陰、性慈房、去九日來臨伴高倉殿被向西郊、例講始入夜侍從來、依脚病無術、乍臥言談之間、宗平

中將被示可逢山、仍扶起相謁、良久謝返、故亞相治承二年爲婚姻之始、予可有猶子之儀之由、先人被示付、

後命云、如實子常可同宿、車文可相替者、予雖少年、頗有所思、便宜成猶子之儀、雖可憑申、改本家之人、非所庶幾、近則少將公房爲實長嗣子、實教爲公親嗣子、通能少將爲師能子等之例也、出仕之時存其禮所緣十二年、非無其好、故今中將常爲嚴親不快、雖無同心之體、又至于老後、互音信之人也、仍不可存疎簡由示之、宰相又甚深之知音云々、

十四日、壬午、朝天陰、午後雨漸降、石清水臨時祭日也、已一點許詣相門、圓經法印奉謁問也、退出相替奉謁、退

出參殿、中納言申雜事之間、漸及午尅、範賴此間參、申重坏等、散狀甚遲怠歟、公有之外全無隨催者、次將悉

申病、又不參御共云々、時儀不足言歟、御出又通、未時退出、雨漸甚、後聞、殿下、右大臣殿、大納言家嗣、中納

言公氏、綱代盛兼、參議伊平、隆親、爲家、宣綱、重坏師季、如例打梨能忠、使左中辨、白頭維色帶色衣不具取物云々有親、舞人賴行、爲繼、能定、

光衡、忠兼、長成、貞時、教定、藏人左門尉泰季、兵衛尉惟清、實清法師子、陪從家長、仲國、二献大臣殿、經光陪

從重長、三献家嗣卿、瓶子宗氏、陪從信實、初献親長、

陪從經光云々、早旦道澄僧都來談、稻荷祭馬頭、每年五月五日、指六條以南富有下郎云々、去年被指者、稱日吉末社神人、拔梓櫛棄之、社家山門頻訴申、無成敗、自夏及歲暮、社家恐御慶之始、正月十五日以後申之、信盛兼教雖申沙汰、不被決斷、信盛逃隱、改元事已及今日、稻荷祭不可行歟云々、事極未曾有歟、如此事尤可被忿仰事也、臨時祭舞人、無新舞重坏、無領狀公卿、舞人數不足、每年不異、近年事心中之恨也、

十五日、癸未、終夜雨降、朝後猶陰、大風、未時許宰相來、明後日數奇微行事示合、承諾歸、

十六日、甲申、天晴、巳時許參殿、稻荷事社家頗承伏、今年可廻秘計由申云々、是又被申合座主、自今以後可差彼神人、申給御教書云々、中納言參、申明日氏寺參賀事等、又宇治之間事等、窮屈不遑記、一昨日不仕殿上人光時、定實、付簡之後未參內云々、親季昇殿云々、中將資季宇治供奉、不可具隨身由申入云々、此識者父子、共不足言之人歟、

十七日、乙酉、天晴、午時出蓬門、相過之間問宰相、答可來由、向九條知家三位宿所、今日有可來會約束、遮而避而馴向也、示入來臨由、驚示掃塵由、少時招請、下車入亭堂、被下向可拜栴本之影由示之、即披細櫛懸之、一軸半、紗絲也、暫言談間、宰相備後具能來、及未斜法印下覺來、以能登令讀上、歌題庭上花、浦春月、久恨戀、於一條蓬屋可謂由約束、此三位出題也、不來人々歌子持來了、行寬法印、例尼、家長朝臣、家清、成茂、長政等也、法印相具題、御前物、居机、菓子、八和机、并其、管皆御彩色、折敷二面、一居齋、へにざ、唐墨二廷、一盃盛唐菓物、一折敷居酒盞、同筆、二管、茶碗物、又相具小瓶子、予取盞盛酒居之也、又有破子六重、取重題御前、次述歌、此間一献、先供題、頻以巡流、或相讓、亭主入興、漸及秉燭、以後終百分散、未及昏黑之時、予引馬、供題也、密相馬也、予退出、亭主發下達、次雖窮屈參宜秋門院、謁武衛衛教清退出、月黑歸家、雨降、十八日、丙戌、朝雨休、天漸晴、今日書止觀、未時許三位又被來謝、入夜侍從來、十九日、丁亥、朝天晴、午後陰、午時許參殿、仰云、渡大

將家事猶一定、宰相家北邊不可然由、其難多之上、有人之夢想、仍念思、廿三於彼亭可有詩歌會、明後日、廿一申時許可渡九條、東面暫入御之後、不經程退出、偃臥、令分裁庭菊、

廿日、戊子、朝微雨間休、午後甚雨、

廿一日、己丑、自夜甚雨、已後止、未時天晴、侍從來、明日供奉殿上地下可別列由、一昨日被仰、告送之間、此事難堪、數輩超越之後、剩殿上地下差別、可增耻由示之、

然者可申所勞歟、一身難定是非由答之、與心房被來談

之間、家長朝臣來、可參殿下北面由所望云々、謁了參殿

之間、已御參內、御車寄云々、依上紹逢信定朝臣、示付家

長朝臣申旨、言家事等、右大臣殿見參之後退出、晚頭

出門、秉燭以後宿九條民屋、忠弘從夜深殿下入御女院

御所云々、

廿二日、庚寅、天晴、風靜、辰時參殿、九條殿女家平朝臣忠

高等、前駐等等參、少々參御前、仰云、供奉人猶雖遲參、早

欲裝束、大納言早可被來由、可奉使者、可仰奉行人、

其邦、即仰此山、兼教已召御裝束、見物之所、河原之路

無閑路之間、遲出可無骨、仍退出、乘車九條南行、出河

原南行、相國被立河原南方云々、仍不進立浮橋東妻、

信實卿良久之後、前陣居伺舍人等立進、御所舍人裝束諸大

夫前駐漸來間、座主宮御車後車十三兩、法師原立前打

路、車甚喧嘩、南過給了、各進來、兼教、花田織有長朝

臣、平禮、侍從敎定、侍從言家、前□□守有長朝臣、平禮、

侍從忠俊、左馬頭親季、侍從能定、勘解由次官忠高、

浮線綾白人、左少將實次朝臣、隨身二人、紫袴、不負右中辨爲經

朝臣、平禮、左少將雅繼朝臣、隨身二人、黃袴、不負大膳

大夫時綱朝臣、平禮、左中辨有親朝臣、平禮、左中將資季

朝臣、帶劍、不侍從能忠、右殿指赤扇、此事稱故左中將宗平朝

臣、不帶劍、無隨身、又無雜色、如匹夫物持劍、頭治部卿

親長朝臣、衣冠、打融在殿上御車、人三四人之前下膳御隨身、步行、檢

非違使大夫尉信綱、衣冠、次居伺舍人、各二前駐重長、以

良、家盛、帶劍、兼仲番長賴岑、官人久員、御車、下膳御

隨身步行、次前驅四人、清定、清□、清邦、□綱、次侍、御衣櫃等渡了、檢非違使隨兵悉着錦繡、見了歸入宿所、改衣裳參宜秋門院、山御々所也、實經少將參、依北政所還御御共參、但殿下還御之後、一度謁都護退出、歸家、午時、窮屈無極、可還御、仍退出云々、謁路入冷泉、明、入夜源中將被來談、

廿三日、辛卯、天晴、午時許參殿、乘燭以前御渡之由聞之、依被召車退出、即令進新車、夕住吉神主國平來、入夜車稱不入山歸來、今夜右大臣殿御作文和歌等訖、可令渡宰相家給云々、文人中納言定高卿、參議經高卿、家光卿、大藏卿、爲長、三位中將實有卿、殿上人淳高朝臣、師季、、長倫、、親長、、頭、國房、、雅繼、、有親、、時兼、、光俊、、信盛、、忠高、宣實、、兼宣、、繼光、、地下信定、、孝範、、資高、、長清、、範房、、忠倫、、偏義、、高光、講師經範、親氏、、久良、、長成、宗範、良賴、高嗣、高長、菅原在氏、歌人兩宰相、侍從宰相、大藏卿、知家、中將、實有、殿上人行能、、親長、、信□、、

光俊、講師、經光、地下信定、孝範、、家長、、有長、、親氏、隆祐、侍從、

廿四日、壬辰、天晴、入夜宰相來云、夜前詩講之間、天已明了、歌講師光俊、讀師平相公、其後右大臣殿入御冷泉、立馬二疋、牛一頭、又作厨子一脚、居手箱二、皆以物、其中置紺帷六十云々、今日令乘件牛給云々、

廿五日、癸巳、天陰、今晚北政所令參着春日給云々、不聞委事、朝日依難熱療治籠居、去廿一日楊梅町邊依民家責負物事、日吉二宮々子法師致苛法之間、河東武士壹岐左衛門、從者等爭論鬪爭、已打殺宮子法師了云々、依此事山衆從又騷動云々、

廿六日、甲午、朝天忽晴、風烈、難熱猶不減、行能朝臣消息云、來廿九日直物之由承之、壹岐島所望、懇切猶申入乎、月次御屏風題土代、書出進上之次、進入其狀、有不便之由仰、魏家宅屬他人、詔贖賜還五代孫、依貴賢者之餘流、申此人之望、不可爲時之非據歟、夕暉尋禪師來云々、爲讀嵯峨經云々、又靜俊注記來、問山上

事、此僧說云、廿三日有此狼藉、宮主法師或終命、或乃傷、衆徒昨日三塔會合議定、欲中請件左衛門尉云々、昨日文珠樓燒亡、卅余年之間、此事已三箇度、初度師子頭尾取出、其度大原上人等造之、次度師子頭不取出、纔取出尾、今度乍其身引出、曉房兩三燒了、餘燼付之歟、及朝樓燒云々、侍從言家來、直物申四位事示合、可申座主宮之由示合、次將之望不二叶、暫叙留、近代不失前途事歟、予先日教訓之、

廿七日、乙未、天顏遠晴、兩株八重櫻盛開、先年所繼之枝已爲花樹、歟

冬漸落、心寂房來談云、廿三日松尾社御輿迎、依先例桂供御人等、儲船八艘奉渡之間、西七條住人等乘神船、加制止之間闊評、奉神輿於河岸之間、自社家奉送之七條住人更昇奉送神輿、又奉棄河邊、事已未曾有云々、件日神主死去、其職競望云々、死神主弟、正福宜第一、嫡子權禰宜第一存日受讓、甥、死神主兄神主嫡子弟歟、嫡子正親云々、吳公子光歟、諸社諸寺不靜、極不便事歟、今日逢靜俊、聊有誂付事、侍從又來、參座主宮、申四品事、治部參會、被仰付申云、直物

延引了、來月四五日之間有祭除目、信盛奉行也、依小庵所勞、申暇欲籠居云々、山門事、武士怒欲申請神人下手人、山門又欲申請武士、但可被打殺者、非實宮主之由、貫首尋披、被仰武士云々、武士又申請神人、下手事可被構宥之由、以治部被申殿下云々、夕連歌、禪尼來談、

廿八日、丙申、凶合、天快晴、下人等云、陣邊有警固武士云々、山門猶嗽々歟、不聞世事、秉燭以後南方東有火、後聞、大谷隆宗卿家、不移他所、

廿九日、丁酉、石力、天晴、未後天陰、入夜雨降、以右衛門尉時廣問右藏入道中納言病、自去冬不食、自今月別身體腫、水漿不通之體云々、同訪新

宰相、午時許歸來示返事、廿年之最弟超越又遁世、今獲麟云々、自出仕之時衰老、手足瘦而腹脹云々、九旬之絕景空過、八重之紅櫻猶殘、徒望閑庭、獨痛心府、

○四月大

一日、戊戌、朝天陰、午後雨降、午時許侍從來、今朝向藏人左佐許、予送書狀、示付四品望、又參座主宮、仰云、武士山

門噉々、互申下手、更不可落居、依無由辭申天台座主、昨日面奏、如此事折節、不能口入者、尤可然事也、此事實朝家大事、何事過之乎、甚以不便、

二日、己亥、天晴、朝洗髮、奉書尊勝陀羅尼經、九枚、安嘉門院女房爲受興心房戒、被渡乎山上、猶噉々、遍帶甲冑云々、京中又武士往反云々、天下無艾安之際、可悲世也、入夜宰相來、昨日參平座、參入、退出之間雨止、中納言公氏、實基、盛兼、參議經高、爲家、家光、宣綱、辨有親、時兼、宗明、一獻有親、二獻時兼、三獻宗明、孟留中將手、三獻訖、上卿仰大辨召侍從、少納言宗明召之、申不候山、上卿召內暨召外記、奏見參之間雨降、經御後退出之路用青瑣門、職事信盛奉行、頭治部著赤色下襲、今日武士俄馳奔、粟田口十禪師祭有帶兵具者、見之相驚云々、今日又打神人者、山僧因茲又奔者等有之云々、連日事歟、宰相可居住室町殿云々、貴賤成怖所一身居之、與鬼相撲歟、不被信用之身、不及加詞、三日、庚子、朝天陰、已後晴、風烈、午時參殿、無出御、

密々令渡高倉給云々、僧正御房見參、去廿五日護持僧初參、無見知殿上人之間、侍從宰相有參會哉、申參被申繼、但信盛又出來、相公被褰御簾、殊面目之由被仰、大府卿參入、暫言談、相共退出、信定朝臣相逢之次、言家申四位事示付了、頻懇望之間、怒加詞、衆徒之訴、當時只被仰關東、可隨彼申由被仰歟、實此外無他術歟、

四日、辛丑、天晴、午後陰、微雨降、午時許參殿、衆徒重可奉奏狀、所打殺神人、非關東沙汰、山下手事、又可被仰在京武士之由事云々、之由、有其聞、

仍不渡御法性寺殿、可有御參內云々、付有長朝臣、申前宮內卿申子息侍從、一階事、其後見參、申按察被示送事、大藏卿同候、入御之後中納言參入、付信定朝臣、申條々事之間退出、座主令辭退給表、已被付治部、昨日于今不內覽、懈怠不思議之由有沙汰、

五日、壬寅、自夜微雨降、已後天晴、早旦按察書狀云、宜秋門院御八講、忠定卿出仕云々、顯通大納言依嚴父之勘氣不出仕、上皇御時已被解予官職了、今何故可出仕乎之由也、即以愚狀申殿下、仰云、不加催、奉行人不

入散狀、尤以驚思、若如女房所申歟、早可申此由者、即達此由訖、父深被禁斷出仕、子強好交衆、又增不孝耳也、世又子息同心之輩多、極以爲奇、未時許覺法印來談、來十七日御室有御物詣事、勝尾篋尾等、又河尻方有勝地、暫御覽云々、時之機間極以難測事歟云々、此大多聞人相論訴訟等、公氏卿妻母尼座主覺紹府都近口御室法印稱御方僧也、行寬法印論也、修明門雅親、件法印、一方付定高卿、行寬申北白河院手御引舉、座主仁和

寺宮、攝州小領、相門被付修明御方云々、

六日、癸卯、天晴、朝間按察消息、昨日忠定儼然云々、驚思食由乍被仰、無爲無事歟、極以不安由也、惣不承及由答之、巳時許參殿下、進覽彼狀、一昨日參云々、不知其事、昨日又參入、不可出仕由被仰了、修正之次、今參仕如何由仰之、去年參入神妙由、女房被申、仍存每年事由、二箇日參入、又不可出仕由、職事未申由申之、早退出可宜由仰了、其上猶加着座、即起座退出了者、實不穩便事歟、今日參內之次奏事由、不可出仕由可仰職事者、仍書此由達按察了、山衆徒重進使、三綱所司社司、殺害神人

事、所行是時氏郎從也、何被仰關東、早被仰時氏可給下手人由云々、可有御參內、於陣可承之由被仰、座主已辭退、被返辭書、猶實有固辭之志、必可被納之由被申云々、聚落院僧正御持僧、懇望、天氣衆徒等一人無其方者、若有宣命者、追返可拂由結構云々、妙香院補之、是殿下御自由之謗必然歟、不被補之、衆徒又可出事云云、人イ是又可似彼勸勵歟、旁尤不便、猶只被返本人宜歟、又定玄圓經等參入、南京傳法院事等多申之、世上事實以如亂絲歟、御參內、今夕行幸御供奉御車、四條殿云々、申始許退出、今夜宿東小屋、夏節也、曉鐘之後歸、七日、甲辰、天晴、按察又有消息、以愚狀進上、仰云、昨日洩奏、有入興、御氣色快然、今日重申事由、所仰下之由可仰職事者、仍又達此由、又無山口入歟、所々女房有戀志人也、塾居不聞世事、八日、乙巳、天晴、午後有陰氣、入夜風雨猛、今日暑氣著帷、九日、丙午、終日雨降、

十日、丁未、天陰、少雨間降、巳時許侍從來、參座主宮、
已御辭退之依雨氣不止、願身涯分不出行、臨昏俊範僧都
山開云々來臨驚謁、依妙香院補座主給出京、依明日遷宮事、明
曉念歸山也、依御持僧號望、有勅許之氣之由、多披露、
彼門徒依無一人、更無可承引者、鎮當時嗷々者、可被
補由内々依被仰、以梨本門徒被助成此事乎由、被申大
原僧正、以其書狀被命門徒張本等之處、去七日重三塔
會合橫川、未來以前且成議定、其場有落書、披見、天台
座主、長子眞言止觀之道行法清淨之人用之、今度尤可
被撰其器之由哉了、惣衆徒一向稱可然之由、梨本門徒
雖其數多、更不出一言、仍奏聞此由、殿下無御口入云
云、相國又被奏此趣之間、昨夕内々被仰可被補由、來
十二日可被下宣命云々、十一日本社遷宮遂了、後朝是
冥慮令然歟云々、予答云、殿下御政之後、此御門徒殊
可被勵忠節、而正月最初被出喧嘩事、甚失本意、其事
被達關東、未申其左右歟、今重有山門喧嘩嗷々事、武
士衆徒共其憤難散、當此時新補、必定被鎮此喧嘩、如

存安穩之計歟、尤所願也、末代之儀事與心相違、當殿
下御政之最初、園城寺長吏天台座主各有骨肉之新補、
若無如存之安穩之計歟、世以失本意歟、先計此事可和
平乎否、如何、答云、其事尤似暗難知、極以茫事也、但所
謂天台座主之任、其器量又無其人、冥顯之道理雖末代
空哉者、乘燭以前退歸、所示尤可然、但猶此喧嘩之間
暫被過歟、可無守權之謗歟、雖自然事、關白、一上、右
大臣、左大將、右大將、天台座主、三井寺長吏、興福寺寺
務悉爲骨肉之親服、併非世之非據、竊思之、寧無其節
乎如何、入夜甚雨、

十一日、戊申、夜雨止、而朝霧深、非秋冬、而頗希事歟、雨間降、申時
天晴、夜月明、今夜日吉三社遷宮云々、行事辨光俊、下
向云々、

十二日、己酉、天晴、已一點參座主御房、吉水、逢全兼律
師、申御慶事、少時見參、相容之次、御拜堂之儀、被止過
差乎山申之、寺領國務等、殊絕嗜欲之源、被舉顯密之器
歟、自然可爲安穩之計歟由、伺之退出、參前座主宮、謁

公性宗雲兩人、被仰有勞事由、有長朝臣爲殿御使參入、即退出參殿、午終許被立梅宮神馬、南庭敷御座、御願舍人著如例、神馬一疋、初冠引之乘尻十人引御馬、入西中門列立、東上左衛門尉中原良基已下云々、御被、有長朝臣遲參、中將師季朝臣參會勤仕之、役送重長、奉行、使所雜色兵衛尉康宣、小冠、是康房子男云々、陰陽師在繼御被了、御馬引出東屏戶了、自下臈更引入本戶乘之、出西中門了、入御、依南圓堂修理事、來十七日可有御方座主宮渡中御所、今日被中之由、雖有沙汰、召民部大夫雅範、被問其破壞之子細、去比下向檢知及大破之間、今月難終功、仍可爲六月事之由在繼申定、祭除日、十八日歟國々等就望如雲云々、按察申子息不可出仕事、去九日信盛可仰下由被仰了云々、平等院有小怪、鐵汗出、露故歟夜前遷宮無爲無事、國司造營以後、次第事過差未曾有、衆徒落涙感歎云々、右少辨光俊、參、申其間事等、自然消永日、日入退出、

十三日、庚戌、天晴、巳時許有敎中將被來談、相謁之間、

備州具能來臨、中將歸之後、法印宰相禪尼會合、相待三位之間、及申始被來、宜秋門院娘君可渡御殿下事不定、被待御返事之間、不可出由被仰云々、其後連歌、法印今日被儲酒膳、甚過差、極以痛思、各可置懸物之由雖有議輩、予堅制止此事、勸他經營、極不尋常事歟、但州參日吉、今日歸京不來、長政朝臣灸治不癒云々、燈下讀上三首、昔後思花、郭公初聲、寄桂樹、連歌六十、依經時刻各分散、天晴月明、定修來云々、不知之、言家又來云々、頻來臨無益、殿下御方遠有無、今日事可切云々、十四日、辛亥、天晴、午時許參殿、御方遠延引六月二日云々、見參、不經程入御、治山之間事、聖覺但馬國務、貞雲祇園別當、左府已講西塔院堂云々、三事一々非其仁歟、如此沙汰極可招謗難歟、甚不便、殿下此事不可然由、雖示送無承引、重欲示之由被仰、本自不似顯密之器量、世務頗不調御座歟、尤遺恨事也、前座主、淨土寺國務被付執當、修理終不日之功、山僧載其德云々、能說之吏務、極存外事歟、西塔成源之仁歟、

十五日、壬子、天陰、自朝甚雨、臨昏間休、聖法印國務、貞法印祇園、隆承僧都梨本庄務、房中悅喜放光云々、諸苦所困無逃人歟、折牡丹花供佛、

十六日、癸丑、朝天陰、少雨降、巳時許參殿、申按察消息事、忠定卿不可出仕之由請文到來歟、可被尋仰、伯盛、一州事非可期事歟事、無御存知哉、此由書愚狀示達了、仰云、明後日中宮院號云々、本可招親長朝臣、可中沙汰山被仰左府參入、屏風

歌事等、於今欲沙汰、強不可憚披露歟、長保例先御裳着、次叙三位給之後、度々有御書等、待賢門院只叙三位、當日有御書裳着、近例皆用之云々、多子太后之時被用長保、但依女御代先發着、今度只一向用長保如何、申尤可然

由、十一月庚辰日支干已同彼例、最吉日云々、而豐明節會日也、節會日雖有例嬬子、此事如何、申云、節會更不可被憚候、豐明如法午時被始行之、更不可及其障、以支干一同、尤可爲御本意候、又仰云、御名彦子、長保御名立早久是最吉、是又立久尤吉由爲長卿申歟、又仰云、於今者少々可申私得分、雅繼中將不可及謗難歟、

上臈二人、資俊定平云々、申云、轉任事重代非重代、爭無差別乎、自他之所歷也、雅繼朝臣更非々據候歟、實清申中將云々、申云、偏與父同官一度、猶世之勝事歟、上臈已多、甚不可然、又實雄召被任少將由被申云々、其事勿論歟、今度諸國事不可有沙汰者、入御之後退出、十七日、甲寅、天快晴、宰相自今日參罷日吉、七箇日云、前宮內卿行能朝臣有消息、日來申入了由答之、

十八日、乙卯、天晴、午後陰、辰時許初聞郭公云々、但十聲許、鳴北方、未時許兵部少輔入道來談、今日出京、出家後初、在大原僧正御房中、如昔近習云々、明後日計可歸入云云、酉時許歸、

十九日、丙辰、朝天陰、昨日院號鷹司院云々、除目、神祇少副一人、少納言兼宣、相傳、侍從源通教、內舍人一人、臨時、少監物、同、內藏助安部光景、內匠頭丹波賴賢、兵部權少輔平惟忠、少納言、刑部丞藤有廣、八幡功、典藥頭和氣基成、自去冬長基中相傳、少弼皆在章、山城介中成長、但馬守源兼康、有長朝臣子、加賀權守也、左近少將實雄、將監藤時長、右近中將

藤雅繼、將監同藤能行、藤遠經、臨時、左門尉藤盛綱、
群行功、藤祐光、同、三善宗衡、右門尉同信綱、八幡功、惟宗光

守、少志伯有久、左兵尉藤信行、群行功、藤家氏、臨時、右兵

尉藤季兼、賀茂臨時祭功、藤廣成、臨時、左馬允藤實綱、石上吉

忠、右馬允壬生義教、寬喜元年四月十八日 正四下

賀茂在繼、從四上資隆、正五下藤宗氏、左馬頭藤親季、

同教信、從五上藤親季、陪從、同隆祐、白川院昭和元年未給、從五下

藤雅清、使宣旨右衛門府生中原爲國、典侍藤信子、午

時許參殿、進家隆卿畏申之狀、昨日院號定、左大臣、內

大臣、權大納言、家氏、中納言通方、兩大夫、定高、賴資、

參議伊平、經高、兩大辨、應司大略一同、五條、談天、藻

壁、朔平門等少相加云々、依咳病不快早出、

廿日、丁巳、天晴陰、中時許雨灑即止、近衛季武來、爲陳

身上憂也、尤不便、當時之儀、如予重代存忠不趣他方、

貧者皆被棄、力不及事歟、瞿麥初開、

廿一日、戊午、天快晴、自昨日咳病殊增、去夜辛苦、病與

憂不離罪障之身、皆是前生之宿報歟、連歌、禪尼來談、

賴氏少將一昨日連歌、隆祐在其座、此間少將可下向關

東云々、狂巫唐衣調賜之、花打左袖押錦、付金銅丸文、

又造賜笠上花、杜若架中栽之、去々年巫覡等多差日照

笠、光二川唐笠、常此笠如舞人取物笠、張錦付總九緒等、長胤

得業、四朝得業第子云々、取定納言書狀來、秋季頭可訪由云々、

依所勞不逢、休期日遠輕役可存由答之、月出於南棧

敷、子終開曉鐘歸、四月水鷄頻送聲、

廿二日 己未、朝天遠晴、侍從來、四品不許事斟訴、

一度鹽中出天氣不分明、覺法印來談、廿七日御室高野御參不重山中殿下仰云々、

詣、來月廿日比還御、當日無定旨歟、寺領依狂尼濫訴、無是非

被成下宣旨、覺紹僧都領、寺僧等迷是非云々、如此事極不便

事也、心神殊惱、不經時刻謝去、去年歲末土用中、居士

座被作御與宿屋、如車宿屋也、壞渡爲一條棧敷云々、如此事

今年暫可有用意歟、今度祭不及壯觀事歟、近衛使只一人無引馬云々、

申時刻巷說、山衆徒嗷々欲留明日祭、殿下只今御參

內、御使頻參座主御許、問巷物忿云々、關東已可被行

罪科由內々申之上、時氏猶不承伏濫申、天下旁不靜、雖

末世之常儀、尤可恐歎者歟、與心房今日自南京歸被來、春日若宮千木忽折云々、極可恐事歟、

廿三日、庚申、天顏快晴、不聞世間事、成茂子將監補小比獻禰宜、彌施威儀云々、祠官幸人勝絕者歟、巷說云、正僧正院、聚落、近去云々、帝師護持僧含恨終命、本不運之人、得時無詮歟、況無所寡乎、早可念遁世之身也、

右武衛云、依大理招請欲向祭使所、其間事可示送、又無其故、可有謗難哉如何、答云、思子息前途、人不論親疎訪此事由、有古賢說、何事在哉、粗示其事、但中納言國通、賴資兩大辨可向哉、著座更不可過兩三人歟、太無益事歟、依檢非違使信綱渡、見物成群云々、且是追從歟、

廿四日、辛酉、朝陽陰晴、南風吹雲、中時午時許、宰相來、今晚歸京、昨夜祭前衆徒衆徒非人許於門樓前、成騷動之群議、制止方又自西方出來、且問子細之間、漸逃去云々、成茂子帶劔具隨身、又具又具宮仕法師二人、二官其弟合著當色六人、父子三人刷威儀、巫覡面々過差、但笠

錦不多云々、法師又出京來臨、同事參太和棧敷云々、咳病猶以辛苦、不逢法印、漸及黃昏、南方雜人喧々、乘燭已後青侍等歸云、檢非違使渡了、六位八人之中武士以東、新和五位二人信綱親綱子山城內藏渡了、近衛使車渡後已暗、使不見來、見物之輩多歸了乎、又甚雨、遲怠陵遲甚不便、萬事如此、可痛者歟、

廿五日、壬戌、夜雨止、朝天陰、昨日使申時參內、又抑留檢非違使、我行棧敷之後可渡由、別當示舍、仍各及暗天云々、寮頭三位娘五句老嫗放埒所々、時賢宗源基成已下入替其家典侍隨神事、悲哉、末世之法只以橫謀立身、昨今雖精進不行水、

廿六日、癸亥、自夜甚雨、夕休、病中按察消息、廿三忠定有請文示由尋信盛之處、返事如此、已以如夢、有種種詞等、信盛狀、彼卿被止出仕由雖承、可遣御教書由未承之云々、先日三四度申入、以被仰下旨答申之處、今職事狀實如夢、迷是非由申入之、無御返事、使者終日臨夕歸、萬事反掌、病者力不及、付右京大夫可被申

由答申之處、今日又書狀云、付汝詞付京兆申、返事云、又可遣御敎書由被仰信盛了、但不進請文、定有橫謀之樣歟云々、又宗適雖通先日虛言、此仰猶不得心、予所存先日誠可遣書由被仰者、信盛不承由返答、何樣事乎由被勘發、可爲沙汰之道歟、仰下之由被仰職事、不知由有書狀、無其沙汰、而又遣書由京兆返答、頗以不足言歟、病者於今不可知大小巨細、前後相違、存外事歟、傳聞、侍從宰相可居住一條室町殿云々、鬼物現形、上下諸人逃去、一身居住、是又非尋常之儀歟、予去此宅可令居住由、先日於姊妹之前述懷云々、相對不云此事、老後之身以對草樹適休憂、本性自昔聞板屋之雨不眠、況能登難掌官使、高部苛法甚以怖畏、非思慮之限、此事成遺恨由歟、不示觸、

廿七日、甲子、朝天快晴、已後大風、夕休、宰相以下人等云、可渡室町殿車並匹夫等可送牛童、當日之告不他行候、早可催遣山下知了、只付幕府之近隣、不知身上之安否歟、借進蝸舍以下事、一言不加微言、只賢者之自

由也、今日御室令詣高野給云々、陰雲晴、無事煩歟、法印已時許書狀云、高野衆徒蜂起狼藉之由、昨日酉時飛脚到來、今日御進發令留給、可期秋歟云々、末代衆徒諸方狂事、不足言事歟、未時宰相兩息來、旅所塵掃之間相待云々、入夜病者已睡眠之間、大膳大夫於門外音信、驚起相謁、暫言談、職之陵遲公事苛法次第加增等、末代事實不便歟、雖事舊彼祖父、源綱先人之出也、不忘舊好、不可被思放之由相示了、

廿八日、乙丑、朝天遠晴、雖心神不宜、依垢穢沐浴、申時無殊增減、

廿九日、丙寅、天晴陰、夕雨、夜密、夕宰相來、居住當時無殊事、今朝被免御出居屋、二棟移座、一昨日參校歟、

大將兩法印前相公、父子、密々殿下右大臣殿渡御、最密共、使渡事、未取松明之程云々、

卅日、丁卯、自夜微雨、病後今日始念誦、咳又不尋常、按察消息云、忠定請文適入手、尤爲本意、雖遲怠存外、非始終之無實者、尤穩便事歟、疾無減之上出仕甚無益、

答出仕無期由了、書止觀十三枚、

○五月小、

一日、戊辰、凶合天陰、直物今月之聞、宇治供僧闕、面々所望

之聲親疎送書、或來門前、甚以無由、更非舉達之仁、又

疾重出仕無期之由答之、不逢人、

二日、己巳、凶合自夜微雨、終日不休、明日病宜者可參由、一

日申大納言殿、猶依□□□申其由了、

三日、庚午、天陰、微雨降、已後陽景見、

四日、辛未、天陰、雨間降、依始精進洗髮、未時許右武衛

被過談之次、一昨日參法勝寺、公氏家光卿三人、近年

三綱等參惣不見云々、去月廿七日兵衛佐拜賀、於弘御

所方密々御覽云々、入夜宰相來、於相門連歌云々、幕

下夜前被參殿上議定、祭主讓補護否云々、群議大略可

被行御卜云々、其後腰勞由不被接連歌、近日被沙汰貞

觀政要、爲付驥尾求其本云々、

五日、壬申、朝天晴、貞觀政要借送宰相、適披書卷、雖一

卷可懇求也、牡丹花盛開、此花逢端午日、年來不見之、

相麥此間漸綻、午時西面爲寶、爲寶鼠喰破、頗依驚思、泰

俊朝臣令占、病事火事驚也、卅五日之內、九月十一月

節中戊己日可慎、

六日、癸酉、天晴陰、巳時許出京參社、雜人歸京者無間

斷相連、越關山之後漸以希、出濱之後無人、未刻着宿

所、酉時奉幣、資成申祝、入宿所後少雨、山上宣旨到

來、左衛門尉爲清、兵衛尉無流卿衆徒又群參議定云々、少年等猶兵衛禁

獄由雖申、老僧等制止云々、子時參上、指出通夜、微雨

間降、寅時錫杖了退下、

七日、甲戌、朝天晴、辰時宮廻、新造寶殿、錦繡之色、金銅

之光、照曜驚目、廻廊夏堂、至于山下小社悉新造、殿重無

比類、京音信之次傳聞、醍醐僧徒數十人、先群參冷泉地藏堂群

參殿下、無裁許者可離山逐電由申云々、諸寺諸社不靜、

甚不便、不知何事、推之、賢海法印得境任意所望之間、

本寺又恠惜歟、末代唯以貪欲爲先、子時參上、通夜、錫

杖了退下、

八日、乙亥、朝天陰、如霧、晝徐晴、辰時宮廻、酉時許神

主成茂來談之次、頗真賢者不見、可相逢由傳示、即許諾來臨、良久言談、本自雜士名人也、及亥蜚歸、即參、懺法訖飯、

九日、丙子、天晴、早旦禰宜親成來、今年八十八、自生年十歲相見、不圖五十九年師檀之好、退歸之後宮廻、靜俊注記來、六月會勅使房論義忽預其請、二十臘之後猶被撰其器、今年十七臘、存外面目也云々、此次問山門事等、法性寺座主公圓僧正、前天台座主、一度有例云々、一西塔院主成源定了、子時參上、懺法訖退下、

十日、丁丑、天晴、辰時宮廻、日入之程俊僧都來參、依召參、爲清□□二人可流日向國由關東申云々、同國不可然事歟、衆徒雖有申旨、老僧等加制止、大略落居歟云云、亥時參上、僧都又參會、猶言談之後、病等懸見發、丑時退下、

十一日、戊寅、天晴、巳時宮廻、申時許登坂、參八王寺、即下、子時參上、懺法了退下、

十二日、己卯、朝天陰、未後雨徐降、辰時宮廻、申時雨降

之間奉幣、親成申大宮祝、頻雖謝、適參爭不申哉由頻稱之、依雨降堅相止、以絕令申、飯入之後雨漸甚、風又烈、有事煩、在宿所、昨今雖物忌、旅宿只抽敬神信心、不付物忌、

十三日、庚辰、曉天漸晴、返明出宿所、於戶津濱棄松明、巳時歸座、宰相來、最勝講廿三日由粗聞云々、持明院殿八講第二日、公賴經高卿已下、今日參云々、窮屈之餘痔病發、

十四日、辛巳、朝天陰、陽景間見、巳時許覺法印來、今日御室俄有御佛供養、依可申沙汰、今日不可在其座、仍所來示也、言談之間備州來、法印替暇、次但馬、前能登、三位

入道、宰相先是來、信忠等七人始連歌、賦背何手何之間、禪尼來加、成茂又來、備州聊儲着物等、秉燭百訖講歌、光日五月雨朝、庭夏草、寄螢戀、守長朝臣出來月

十七題、名所夏月、名所夏水、名所夏戀、分散、月陰、祭主讓任殿上議定、去月、可被行御卜云々、大略不許歟、祭主大成恨、可辭官罷居由忿怒云々、押小路尼宮六條院領五々所召取之內、光俊卿家定等在其中云々、世上怖

畏之外無他歟、後聞、今日持明院御入講結願、殿下令
着北座給、南座右大臣殿、源大納言、兼大炊大納言、
忠房、權中納言、實基、新藤中、朝臣、別當、右兵衛、三位
長清云々、隆親不動座云々、北白河殿相國被修造之
間、光俊卿奉行、

十五日、壬午、天陰、入夜猶不晴、月蝕、戌時禪尼女子等
密々詣戶加之尾、明惠房於件所每月十五日晦日被授
戒、天下道俗如佛在世列其場云々、予雖結緣大切、耻
稠人無從、貧者非人遂漏其教化、尤所悲思也、今任興
心房引導參向云々、申始許飯來、衆會群集入狹少壺
稱、不及見人、爲長卿列其座山人稱之、盛兼定高兩卿
殊在其所云々、非人之漏人數、現當以同、來廿一日奉
爲故入道殿下、集會月輪房、有一日經云々、九條大納言殿御消息之
之、予無催、依無恩重被處不快歟、自晚雲晴、月輪不見
云々、有効驗歟、

十六日、癸未、朝天猶陰、入夜侍從來、女房煩邪氣加護
身云々、一昨日殿上人廿餘人參、

十七日、甲申、天陰、未後晴、午時許心寂房來、左手腫事
更無減之故、又令加灸點、待來月可飼蛭者、

十八日、乙酉、天晴、未時許侍從來談、參殿下云々、歸之
後興心房被來坐、女房等受戒奉謁、病久不出仕由陳
之、書終止觀第三卷、

十九日、丙戌、自晚雨、朝後漸密、夜深大風、又灸左手、
二所、一昨日加點也、

廿日、丁亥、自夜大風猛烈、雨又降、未時陽景見、朝間法
橋貞賢來謁、日比在京、今日下向若狹云々、

廿一日、戊子、朝陽晴、辰後陰、午後更晴、今朝物忌、開
門念誦、宰相之門御共河陽方、方迄、法眼來北屋、物忌、

明日例御共借車、有長朝臣書狀、來月三日河陽御方違
必定也、故入道殿下違時事等少々有其事、彼時供奉

古老所殘只二人歟、予雖其座雜事等、至愚本性不知
之、綱手夫員數等更不存、唯或其用者可定事歟、又有

撮飯等云々、風流破子、贊殿供膳、辨合料之外不見歟、
如然事可依時儀歟、所勞彌增氣、不出仕由示之了、

寬頭註

月輪殿一日經供養、聖覺後日言家語、定高、賴資、知家卿、經時卿、師季、能忠、有教朝臣、時綱朝臣、言家、諸大夫兩三云々、殿下御左府直廬云々、

廿二日、己丑、天晴、午後微雨降、今姬今朝下向南京、季武來門外、無與之述懷去比□長近光不仕追却、召加賴種了

云々、是又爲一座被加上臘爵訴云々、於賴種者不被召仕、極不便事也、今被加適可然、近光本自無由者也、唯被求他所奉公者、被棄御邊年來物、甚無詮事歟、漢宣帝故劍今有何益、

廿三日、庚寅、天晴、最勝講始云々、法眼長賢已時許來、奈良禪師御房聽衆令參給、殿上人兩方御隨身可奉迎送云々、得時御運歟、尤以嚴重、入夜宰相來、參最勝講、早出、禪師御房自御直廬參給、殿下、左大將殿御隨身前行、殿上人師季朝臣、有教朝臣、雅繼朝臣、賴行、能定等在御供、公卿殿下、左大臣、右大臣、右大將、中納言通方、經通、定高、參議伊平、隆親、爲家、範輔、宣經、堂童子信盛、能定、兼宣、宗氏、治部卿仰御願趣云々、明日可

參公卿、大納言雅親、中納言國通、賴資、參議經高、家

光、範輔、此宰相五卷可參禪師御房御所作五卷日云々、

一昨日方違水田、有小屋江口遊女群參、聊給假裝具等、不

及衣裝、大將前宰相等供奉、後聞、廿一日有御方違行

幸、左大將殿、別當、右兵衛督、宮内卿云々、

廿四日、辛卯、天晴、念誦之間、清定朝臣來談、歸之後懺

法之間、法眼來談之間、越前々司來、彼是及數刻、甚難

堪、歸之後又讀、例時之後、右兵衛督被過、明後日可參

內、故院八講、兵衛佐初令勤童子、初度無失、尤爲悅、爲

御使依召參殿下、類有此事、且爲面目賢海法印申事被申云々、此

事甚無由事也、自御慶最初、賢海益頻所求先圓滿獲得、

爲人不便事歟、雅親卿弟所帶相論也、武衛被歸之後

又傳聞、賀茂神主伊平昨日未時死去、祠官等舉首所望

云々、今年所々惣管座主長吏多得替、尤有怖事歟、今

夕初見寒氷、依最勝講、小舍人之所送歟今度北政所春日御籠御供人、

依不審內左馬頭、伊豆、重長、範後、惟長、侍左衛門尉親直、

俊清、右衛門成季、大膳亮近茂、敦尚兵衛尉重茂、重賴子之、已

上七人、兼教御送參、行兼參御迎云々、或人云、此御共人連日飲酒高會、酩酊前後不覺云々、甚見苦事也、如此事尤可被撰其人、可彈指事也、

頭註後聞、最勝講、內府、源大納言以下云々、

少將資俊着座、實蔭不着退出云々、

廿五日、壬辰、自朝雨降終日滂沱、權祝保孝來云、以權禰宜補神主了、超正、其替權禰宜以彌平可補由殿下被仰、勅定事未切山風聞、但先年能久自無職超諸社司、加權禰宜有例云々、後聞、云繼青侍餅案也、諸社司之中運者加權禰宜、彌平又補、其社不知何社云々、內藏頭一定辭其所帶、最勝講御服不沙汰云々、於殿上被仰下藏寮年預、視聽所及大小事皆以非據歟、縱始末雖不叶事、最初尤可被行理運歟、時儀尤可長大息事歟、

廿六日、癸巳、曙後雨止、天晴陰、前宮內卿女房病獲麟云々、一昨日今朝相訪、猶無其憑云々、後聞、權禰宜補神主、超正禰宜、被問

公卿、又有御卜云々、權禰宜已下次第轉任、昨日最勝講、殿下、右大臣殿、大納言雅親、大將、家嗣、中納言公氏、通方、經通、實基、定

高、具實、參議隆親、爲家、宣經、出居宗平、雅繼、實蔭、兼輔、實任、堂童子信盛、宣實、能定、知宗云々、侍從來門前、病者不逢而歸、夕定條來、不逢、最勝講聽衆、座主舉申給、殿下無御返事云々、拜堂供奉事、無一事之恩願、可騎馬之由有資云々、不運法師以文拙交衆、尤無由事歟、只可暗跡雲霞者也、

廿七日、甲午、終夜今朝雨降、巳時天晴、早旦式賢子信賢と云男入來、依病不逢、宮內卿送書及一冊、於北野可遂三合、可出十首題、一書送云々、定條曉更登山、六月會云云、法眼書狀云、別當僧正轉大僧正給、他僧事延引不被行、雅徧僧正以後法務大僧正久經殊勝云々、神德佛恩可貴事歟、依行步不叶、夜深乘車、自門外行南棧敷方違、曉鐘以後歸、

廿八日、乙未、漢雲遠晴、今日見及最勝講僧名、

證義者 僧正實尊 法印聖覺

初日 朝座講師 覺遍 問者番範

暮 公性 問 良遍

第二日

間聽

良盛

親緣

道喜

第三日

憲圓

問 尊家

幕講師

長靜

圓一

第四日 同

經圓

圓盛

同

聖基

經海

結願 同

智圓

實緣

同

公命

定兼

威儀師 嚴儀、忠在從儀師相圓、總是僧事、大僧正實尊、

圓基辭退替、五月廿七日

廿九日、丙申天晴、申時許侍從來談、所勞隔簾乍臥相

逢、

○六月小

一日、丁酉、朝天陰、巳時晴、法眼云、今日禪師御房御共

參法輪寺、以一神川連日借牛車、明日歸南京云々、或雜

人云、昨日戶加の尾稠人衆會、如互登踏、聲々嗽々、不

及聽聞之間、聖人不說法被歸入云々、世間妖言、此上

人類有被終命之聞、旁不便事歟、後聞、衆會依無其路、

弟子僧達引手被超融之間、胸骨連而不及言語被歸、今

日有例哉云々、前宮內室病頗宜由有返事、

二日、戊戌、天晴、今明物忌也、此僧丹波國氏家之子、於、去月當世論議之明敏拔群、

十五日山隆眞法橋頭學、死去云々、去年中碩學三人逝

去云々、是佛法滅亡之時至歟、帶妻子出學富有者、張

行惡事充滿山門、隨以有拙賞恩顧、天下緇素非富有少

年者、更難交肩歟、

三日、己亥、天晴、午後自南陰、少雷鳴、今日川崎始川

講、雨忽晴、申時雨止、天猶陰、上人勸進、天下人爲每日頭、國母仙院、博陸殿下數

多、前執柄、太政大臣、三人云々、奉加、各別當加松殿歟、奉加、加署、先日來門前

示此事、原憲隱逸、旁不可交貴人中、於輕微消塵者、可

交雜人中山返答了、今日聖法印說法聽聞衆又群集云

云、此上人關東武士、承久三年在戰場、又參佐渡御共、

發心出家入洛、又參天王寺、勸進如此事云々、

四日、庚子、漢雲遠晴、晝間陰、此兩三日黃梅落風、閑中

催興、

五日、辛丑、天晴、去夜一條富小路小屋群盜入、已時許宰相來、此間大路連日相門雜遊之間、窮屈不來云々、昨日殿下渡御吉田、御隨身侍等密々競馬云々、相門又北山、不參、明日國通中納言西郊家作堂供養、因經國語人々行向、一昨日殿下御方遠止了云々、以行兼被見南原修理事、無材木一枝、今月沙汰勿論、仍無其事云々、懈怠無其沙汰、御方遠延引、實以隨時儀歟、吳志云、周公立法、而伯禽不師、非欲違父、時不得行也云々、黃門書狀之次、關所聽聞哉山被示、三ヶ月老病庭弱有命、已不能出行由答之、

六日、壬寅、天晴、未時許大宮三位來臨、言談之間法印又來臨、不食所勞、殆如忘名字、已及數月、依無心神無違亂、怒出門爲御使向幕府之次云々、自他所勞甚不便、三位先退出、臨昏法印退歸、窮屈又失度、

七日、癸卯、天晴、與心房光臨奉調、久依無召不參殿下云々、

八日、甲辰、天晴陰、午後雨降、書止觀第五廿枚、前宮內

音信、女房所勞得減了者、當宮內又令見其歌、

九日、乙巳、朝天雲漸晴、午時雨降、未斜止、已時許宰相來、ありす河佛事、公氏、經通、隆親、經高、範輔卿、殿上人十一人云々、其日依召參殿下、以惟長仰云、鞠有見物之志、六月不可然乎、申云、不可依時節、早可隨仰候、又年來出仕下郎等可被召者歟、仰何事在哉、人々且可計申、資雅朝臣、宗平、隆重、教定、宗教、賴教、

飛經、此內常參仕人定被召候歟、仍今日欲參件御鞠者、

資雅領狀、教雅相觸、依所勞久不出仕云々、午時許心寂房來臨、示合老病事、傳聞、自春比巷說、頻稱石、

此隆石云々、日來在相坂方、雜人云、此石有靈、依歸

痢以風雨常不止云々、相國巡取其石、被引此山云々

一日比以牛

十七頭被引取了云々、又云、其石有穴、似獅子頭云々、

春比疾病又稱石病、定又虛言歟、

十日、丙午、天晴、每夜黑雲掩月、昨日鞠依雨延引云云、

十一日、丁未、天晴陰、今日宰相所緣女房於在洲河修正日佛事云々、語人々行向云々、後聞、家光卿長清卿訪

來、服薙之後、今朝洗髮讀懺法、例時等猶依無力又平

殿上人十餘人

臥、與心房被來坐、嵯峨朽損堂有其主要者、可被壞取之
由申之、甚喜悅、明日可見由被命、

十二日、戊申、終日天陰、午時許齒并手左、蛭飼、今年始來

月朔日座主拜堂給、定修出立事、徧可被致沙汰、猶可

騎馬由被責催、領狀云々、遂以無與於供奉者又不被免、是

皆時儀、依被賞富有者也、與心房被見破堂、雖荒廢朽

損可壞取之由、喜悅爲本意、一條富小路虛空藏堂修理

爲相加也、入夜以人間宰相、答云、今日所參殿下御鞠

也、資雅、香布衣琉璃同色、紀內山加良、法師、香布二藍、宗教、刑部卿、秦賴

和、香長、賴教、民部卿、先三百揚而落、次三百六十、存外各

尋常、殊有與之由被仰云々、明日供奉行幸之由示之、

後聞、宰相先着下袴參、相國參給、相共、被透木枝、其後

退出、兩中將來會思、頑愚老翁之子、爲壯年素食公卿鞠足

名譽、一念不存事歟、

十三日、己酉、朝陽以晴、又雨降、承明門女房來談、

入夜狂出三條大宮邊欲見行幸、供奉人車等漸過之間、

猪隈可爲御路云々、仍立猪隈東油小路南、三條猪隈云

云、夜已深、前陣適來、檢非違使知景、從者武士數十人、佐信盛、

此宰相、別當、看將火長舍人男打梨、中納言、盛兼、左衛門督、兩大將、

武信兄弟各隨衆、近將十人許歟、三位中將、實有、經光歟、後陣之

馬雜人等纔過了之間、有步行人、隨身取松明、驚奇之

處、賢所渡御云々、又縱牛、極以恐懼、嚴重渡御、範賴

右、御後職事近將皆不知子細歟、供奉人馬後甚有恐、

仰出納等待路頭之澄奉出定事也、其後歸來、暫在大

路、不經幾程聞曉鐘歸入、月未沒、入夜雨止、待鐘之間

纔見月、

十四日、庚戌、天猶陰、申時大雨灑、夜月初明、昨今殿下無御出仕、右

大臣殿令宿候給、右大將同被候、男女房有手鞠與、兩大將其寶隆親爲

家殿上人等少々有御馬御覽、兩大將三卿盛衆兩番長兄弟久清賴種子

楊馬選御、實基卿伊平、

十五日、辛亥、天陰晴、未時許雷鳴、午時許與心房被來、

受戒之間安坐、心神彌疲、又平臥、夜深月明、

十六日、壬子、朝天陰、陽景間見、未時雷鳴降雨、侍從女

房邪氣病甚重由昨日示送、仍問病體、猶又相具病者可

物詣由、尤可尤案山示送、一身明日參詣由答之、靜俊

注記來談、午後又蛭飼、齒少々、左山月出雲漸晴、

十七日、癸丑、朝天陰、已後晴、午前大入夜女子參修明

門院、近日可渡御二品中山近邊之間、可參由一日被仰

云々、以彼中山可爲御所云々、不知其由、佐渡督典侍

通忠朝病獲麟、有上洛之聞云々、又隱岐西御方、同種之

病發被歸京云々、

十八日、甲寅、天晴、夜月明、午時許住吉神主國平來談、

今日書止觀第五廿一枚、入夜宰相來、十二日鞠殊有興

由被仰、人々皆優美云々、

十九日、乙卯、天晴、未斜大雨瀟、今年草樹花實皆遲、黃

梅猶纔殘、昨今初聞蟬聲、但萩女郎之中有纔開花、是

只自然事歟、夕女房等行室町、

廿日、丙辰、天晴、相門昨日腹痛不快、非殊事云々、長病

事幕下有恩問、又被送寒水、今日殊暑、

廿一日、丁巳、凶會天陰、已後晴、相門和歌、病中心神不能詠

出、入夜以使問宰相、答云、彼御腹痛今日又不快、歌延

引廿七日由承之、近日々夜宴直無寸暇者、

廿二日、戊午、凶會天晴、未時許雷鳴猛烈、此三々日暑熱殊

甚、雷鳴殊猛、大雨即晴、今日貫算之昇天之日歟、末代

猶不忘歟、

廿三日、己未、天晴、風吹、已時許備州來談、子息宰相又

來、午時但州來臨、不經程前能登三品會合、始連歌、禪

尼成茂等追々來加、賦何所何殿、但州出題賦物、有看

物等、伊勢物語風流發句、每事有風情、尤丁寧歟、人々

褒譽、能州等入興之間、連歌不及句數、秉燭以前讀上、

歌題名所夏月、名所納涼、寄名所戀、其歌多宜、秉燭之

程各分散、人々言談之次聞之、入道納言、顯俊其病日來

無少減、如有增、已經數ヶ月、及十日許言語絕而只い

ひき許、此兩三日之程氣絕了、在世之間信心行法不怠

人云々、極悲事歟、又顯圓法印他界、年七年來飲水云

云、禪尼暫言談、又歸了、依病可在籠中由、日來隨約

束、題者入興、依丁寧之志、構扶著座、今年馬長內裏十

二騎、安嘉門二騎云々、

廿四日、庚申、天晴、午時雲雨即晴、人云、基綱又入洛、仍可有除目云々、昨日高野傳法院定毫又訴訟之間有沙汰、依此事法印昨日不來由觸送、暑熱殊甚、雖精進沐浴、懺法例時之外平臥無力、

廿五日、辛酉、血忌、自曉雨降、朝間雷鳴、及巳時雨間止、未時天晴、依

陰雲聊涼、暫念誦、未後偃臥、人々聊音信、右武衛、一日被示合事、法印、不使云々、於清閑寺、兵部入道、書如法經、但馬返一昨日歌、宮內卿詠歌點、

廿六日、壬戌、天晴陰、已後雲晴、少雨間濕、八條院御忌日、宰相參蓮華心院云々、今朝必可參由重示之、

安樂門院々司長清和子奉行云々、

廿七日、癸亥、朝天晴、今日和歌於幕下町尻亭可被講云云、出仕猶依難叶、歌許送長政朝臣許了、依亭主腹痛餘氣猶延引、返送愚歌、昨日御忌日宰相隆範爲繼奉行、長清卿子、高倉殿京極殿之外人不參云々、殊無人歎、郭公音未止、今日頻鳴、定修音信、前宮內卿歌仙、家群盜入、斬侍一人、不死、取其裝束等云々、不嫌原憲貧老芝

樊蕙歎、何爲乎、

廿八日、甲子、知日、天晴、相門三首今日也、依暑熱無心、各歌

許可送云々、腰折、付長政朝臣、未時許送預其歌、無愚詠殊付

心之由有感言、書留即返奉之、夜乘車、自門外宿南棧

敷、十五方遠、聞鐘歸、

廿九日、乙丑、晦、天晴、風吹、未時許微雨隨風、朝心寂房來

談、嵯峨故入道內府御墓所連渡六條坊城寢殿、立三昧

堂、公書法眼、三十四年遷世籠居大原、近年依實宜卿造作行事、招引、居住其嵯峨領、與幸二品不和、依無居所々望居住云々、與福寺領、自菩提山街時領知此所、可令居住之由、太相被約束、禪左府當

時領知大覺寺、與福寺領、自菩提山街時領知此所、依其領之內、公覺居住事、

將來可無骨由濫給、兩相門不和、遂推而押領、初時受爲父母墓所、

今背命、彼實宣卿領又同大覺寺領之內也、近年張權勢、行

惡事之間、又與禪右府不和、事彌難濫云々、事變時

移、人心顛越、是又世之習歟、今日書止觀十八枚、日

暮閑筆、荒和祓贈物持來者、已無其人、依資家無從也、

予不祓、力不及事歟、定修書狀、侍從宰相明日可來臨由、

依座主仰申之云々、縋素每人數入時、先被駭召在家出

家、又以無興、全以無入興之思、明日刻限雖催早旦之由、實可爲他人一同之時刻云々、非著錦繡、被用去年京極之路、如仰聞歟、僧綱太政法印、兼房公子、年來同宿、左大臣已講、□□從凡骨僧綱自山上可供奉社頭、□□有式僧、凡無其人、顯家卿子、兼定子、老僧定修之外依無人、今更被求尋供奉僧綱、又以教成朝臣子智圓貞雲爲其人云々、極見苦事歟、靜俊注記來談之次、傳入道大納言仰、令痛舊惡、日吉社頭有怪異等新行事、社之後木無風雨而顛倒、大宮拜殿犬笑、此等珍事云々、三林庄事、領家入使、地頭可□□之由武士行之、去年已被下官符了、時儀實以反掌歟、山門之滅亡舉趾可待、何爲乎、入道二位光盛卿去正月依妻喪出家悲歟、又行法不退之由、不食之上大腹水腫、病已難存命云々、年五十八、其身生武士之家、有文道之志、好而知我朝之古事、語基親卿成師弟之好、傳取家之文書、年來嗜學之志、頗不似時儀、但所存又頗背時輩、承久貞應之比、近習奏者於事無其譽、被處慮胡、妻又有巫覡之所行、敬神忌穢

事不似例人、其得失毀譽雖異非儀、不辨黑白、北院御室、守實法親王、吉水大僧正、殊褒譽給、是又各拔群之賢者、有所見給歟、

○七月大

一日、丙寅、朝天陰、間晴、風涼、座主拜堂云々、定修馬鞍事、宰相沙汰送之由日來聞之、借右武衛牛引遣了、今日鷹司院初御幸云々、炎暑難堪、不能見物、此南棧敷可爲路次之次由、行力聞下人說、未時向其所、一時許之後前陣渡來雖過晴、中童子等未騎馬、委不分別、其物專堂歟、赤袈裟步行、八人歟、赤袈裟騎馬十餘人許、次房官六人歟、各中童子三人、力者法師等相具歟、童子等不施殊風流、只常染、不知其人、次有職四人云々、定修爲其中上薦云々、中童子三人朽葉青引へギ、舍人花田、次御車、殿下底御車、上童義村子云々、鐔狩衣袴、如着銀以絲置物歟、相國被調云々、其所從等當色、次中童子、四人大童子等、次又前驅歟、太政法印等、小八葉長物見車、上童顯文紗裁入錦、其次左府已講、相府綱代車歟、牡丹立揚倒文也、非新車、上童不見來、自法性寺出川原云々、

在外見物了歸、定修於北屋西面令休息、參御出立所人、家光知家卿之外不見及云々、京極北行、中御門西、富小路北、一條等云々、天常陰、暑氣一宜、有涼風、有冥助歟、定修改衣乘車向西坂、今夜無動寺、次參中堂給、明日參社、又歸參、來五日遂受戒、其次開一筵、六日下山云々、

二日、丁卯、朝天晴陰、昨日相門見物、檢非違使友景宅小門爲棧敷、幕下、前相公、宰相、兩法印、少將、實經、會合見物了、又吉田泉、猶一條河原方見物云々、宰相不供奉御幸、傳聞、子時許公卿內府、騎馬、大納言、家茂、中納言、實基、御車後、盛兼、賴資、參議隆親、二位基良、基輔、參議經高、家光、範輔、殿上人頭、實世、資季、資俊、伊成、親氏、時高、範賴、伊忠、宣實、兼宣、資能、六位三人、有親、隆盛、經光、取松明、在御車、唐車、檢非違使康景、出車、御車前、五兩、毛車半物車教信云々、巳時許覺法印來談、相門、之次、今度基綱入洛之次、轉法院訴之次、定重吐狂言、竹園有勝事等云々、來臨之次聊有被仰事、本意滿足催落

涙、人口之可恐不始于今事歟、近衛末武來、歎無衣裳無術由、實不便事歟、今世之習俗、縱有其力、如此事憐慙、更非現當之勤、賢者不聞入事歟、不預活計之俸祿、又無衣裝之恩賜、何爲哉、知三品返送草子、返事之次云、昨日參無殊事、自午上日膳、自殿進御車仕丁裝束無沙汰、臨期被調、空迴々、左大辨權辨在座、申始令出給、貞雲召人、兩人參着東上北面、被渡上堂、騎馬所從相從、次賜暇退出、每事奉行、泰承、其後參殿、定納言上洛祇候、即退出云々、初月不見、三日、戊辰、天晴、去夜一條西洞院斬殺、又在高陽院麻之中云々、欲入人家、一條、侍打合斬、件老入道又、及手云々、七十人於大炊御門邊在禦者、如合戰、宛無恐懼之氣云々、京中警固、甚無益事歟、四日、己巳、朝天陰、書訖止觀第五卷、十一枚、未時許宗雲法印來臨、補日吉別當、勅定、慶且被示告、此職殊在此門跡、快修昌雲實詮等三僧正之所歷也、殊自愛云々、親長朝臣不內覽、奏聞叙法橋、山僧、依此事自去比被止出仕云々、是近代每人事歟、

五日、庚午、天晴陰、朝間書第六卷、十枚、未時許定修下山、談拜堂事、先着無動寺南前房給、請取印鑑宮、有識二人昇之、定修、靜尊、家信卿子、公、又有信、尊家、顯家卿子、大、隆慶、隆宗卿子、大納言、申繼成眞法眼、教成子、左衛門督、次參講堂中堂給、各誦經、定修鼻荒役、又敷草座、隆慶居宮、奉行者兼不觸、不知其路、自他失禮多、天已明、

頭註幣取繼已講、又取繼隆慶、

翌日參御社給、大宮彼岸所、寺家僧祿取、貞雲、成源、隆源、

隆保子、知圓、成實夜前母死、社司祿有識十人許取之、其夜

又歸登山、今日參前唐院、令開一宮給、成源爲假執當、

取宮置御前、又取脂燭燃付之、雖盡其所窮其、口物杉櫟角塗云

云、寶物等御覽、依多數略之、受戒事、御共隆源、成源歇

庵教授、定修鼻荒役、每事無爲、衆徒入興、參南山房延

年歸之間、無動寺法師各兵具斬衆徒、甚喧々、極不得

心之至云々、授戒了參西塔、尺迦窮屈申暇先下山云々、

即歸壬生訖、

六日、辛未、天晴、連夜群盜、近日殊盛、無從之貧家危於

累卵、郭公聲日夜更不休止、入夜宮內卿送使可來之由示之、所勞不起居之由答了、

七日、壬申、天晴、開文庫令拂書、入夜宰相來之次云、去年於天王寺有及傷殺害童、自宮賜檢非違使、定修私語使廳請出伴童、相具渡晴大路宮御見物前、人々驚奇、仰使廳又被召禁云々、至極道理、不足言之尾籠歟、凡此僧心操萬事成此案、甚無由者也、不可親近、山三村庄事、任道理被付本領家、可爲本地頭沙汰、猶有訴訟山僧者、任法可被召禁由、關東申之、西塔僧徒三百人許、半分爲貫首御門徒、大略承伏、自餘若致濫訴歟、可有沙汰云々、去年沙汰實以爲非據、但已被下官符、今又改易、是且依貫首懇切、去年被枉理歟、行幸日手鞠負態、爲左右幕府之營、去五日被進禁裏、作天德歌合左右、洲濱風流地鋪等用錦、金銀如滿、洲濱下入單重廿云々、今日關白殿令參法勝寺給、公卿十人參由聞、初日許參入公卿七人、辨加行香、月入殊早速、近日如此、八日、癸酉、天晴、明日帥殿御遠忌也、先日言談之次、語

申與心房有約束、率五人僧、秉燭之程被來臨、先如形被行饌、次各著座、二十五三昧修之、臨曉爲結願也、幸相來、女房聽聞、讀經師講經、次念佛例時、次六道了、又念佛之間聞曉鐘、結願之後、僧又有饌事、各被歸了、忠弘法師云、直物近々上下馳走云々、巷說、親長可被弃、親房流涕、頭若大貳、中云々貫首有闕者、資賴無是非歟、此兩三日又兼教勘氣籠居云々、宣陽門院犬飼、其名後方、後白川院犬飼方子息、以優犬又爲尼院人、與殿下御厩舍人有評論事、依御厩別當、於兼教宅間駐之間、論人忽取合兼教、從者制止之間、猿鶴憤、依優鳥獸、權門納言引之、仍兼教籠居云云、通時朝臣懇望藏人頭云々、兄卿舉之、連枝共職事器量歟、家時卿申大貳、相門又納受云々九日、甲戌、天晴、今夜御方遠行幸云々、十日、乙亥、天晴、辰後漸陰、午後雨灑、夜前行幸、右將軍、左金吾、盛納言、大理、拾遺、相公、戶部、左將宗平、資季、有資、資俊、實任、實清、公有、伊忠、氏通、通行、右將實隆、實經、伊成、親氏、賴氏、隆盛、少納言兼宣、

直物十三日、或說不可有殊事、右兵衛佐二人供奉云々有炎旱祈請云々、長者僧正被修、三ヶ日歟、陰雲漸疊、夜景猶雖陰雨不降、頭註少將家定六月行幸未出仕云々、十一日、丙子、朝天晴陰不定、書第六卷十一枚、入夜宰相來、昨日資雅中將來俄懇望、招實經少將知業赴桂方、路次告隆盛少將、居住三條坊門、故左府亭候禁中之間、與實清少將奔來、六人同乘行向、無指事歸、忠弘法師宅後分散山語之、雖無山事、依問書之、直物不可有殊事由、幕府說云々、頭註後聞、無御祈、只神泉掃除云々、真惠僧正加長者三人、覺教、三具者、定毫加之時辭長者了、十二日、丁丑、朝天陰、辰後微雨灑、巳時漸密、雨雖降地濕事猶不幾、終日陰、有涼氣、自朝着小袖及暮、年來未覺事也、還奇之、若猶不及暑熱之盛歟、涼忽成、求綿入物着之、時珍事歟、十三日、戊寅、朝天猶陰、終日不晴、入夜雨暫降、今日直

物云々、

十四日、己卯、朝間陽景間見、陰雲不晴、任人內藏頭藤

隆綱、掃部允藤俊定、內宮役、夫工功、左將監清原能成、眞言院、臨時功、

從三位顯平、日來巷說、已以虛誕欺、以盛宣、依彼家人、行向傾也、

賀□□□示送之、寮務之間事自然聞及欺、其上只去職

可爲前官之由申請之處、不慮叙上階、可謂面目之由返

答、父祖共三位、於此身者年來雖成夕郎望、遂以叙了、

惣末代事、將相三諸大夫之外、不可有機緣事欺、詭兩

女子於棧敷、令禮不經、依行步不叶、不能寸步、懺法例

時經一部、諸家說古今有父母人、令明珍魚食、云々、予有所存、如此令隨佛事、

頭註後聞、直物延引、是只臨時小除目也、

十五日、庚辰、天晴、心神窮屈、臨晚休息、雜人說、殿下

右大臣殿令參孟蘭盆給云々、每年今日東北院邊雜人

相撲、叫喚聲入耳、自夕天無片雲、忽有涼氣、着袂衣對

月、治承以後此早涼未覺悟、今年盛夏猶不似近年、又

有此事、還奇驚者也、古人云、時歌景氣皆以如此、於身未

逢此事、宰相來談、歸後自春時々來臨、嫗彈箏、及曉鐘

之後、着綿衣付寢、

十六日、辛巳、天清明也、侍從來、參綾宮云々、四ヶ月有

病、不出仕由可語人由詭之、治部卿被免出仕、禁裏之御、宿如云々、

黃昏新三位光臨、扶病相謁、拜賀着陣事等問答、上階

雖申所望不候由、猶有被仰旨、且依有恐、更申恐悅由、

涯分奉公可勵出仕由存之、尤可然由響應、月又無片

雲、此間暑氣、夜前南隣竹邊人魂見云々、依卒爾今夜令

修招魂祭、女房等夕行室町、亥時許歸、宰相々具即歸、

須臾雲忽生、或陰或晴、過停午付寢、又着綿衣、

十七日、壬午、朝天遠晴、夜月明、今夕殿下若君、相門、御坐、又

渡吉水給、宰相御共云々、山門衆徒遊宴、稱延、此若宮有

見物之志由有御好、衆徒聞之、於吉水可舞云々、西塔

訴訟可磨滅由愁歎、又亂舞、頗始末不叶、叶追從欺、

頭註後日靜俊示送云、妙香院橫川當谷與東塔衆會於西

塔者、密々雖見物不交云々、三村庄可給他庄由有上

仰云々、西塔南谷東谷貫首令仰給、北谷西谷之南北

尾文書櫃送院主房了云々、

十八日、癸未、天晴、書第六卷十七枚、暑熱殊甚、不能右筆、
昨夕若宮御共、宰相、布衣、殿上人、自殿下被備、師季朝臣、能
忠、定平、實經、賴行束帶、奉送、今夜衆徒
可舞、又北白川院御所勸修寺法眼、雖入道左、府子御猶子、相具、南
京發樂被參之由依被告仰、此女房密參、依實籠居、依被仰參、過夜
半歸、月明、別當三位三人、具定、兩武衛、殿上人等見物云々、
南北之舞、京中計會、若天下艾安歟、頗不甘心、於今日
者至于夜炎暑難堪、

頭註幸清法印引送黑牛、頗雖老大、牛尾口口御室御牛安
居牛云々、不似涯分老也、後聞、山門之遊、家時卿乳
母等輩俗少々見物云々、

十九日、甲申、天晴、若宮歸給、宰相又俄參、師季實經定
平云々、

廿日、乙酉、天晴、大宮禪尼來臨、來廿三日可召有馬湯之
由等也、近日每夜月日沒暗夜之後、更不經程、今夜槌
初夜鐘之間出山、年來未見事也、尤奇思、申時許欲法印
來臨、白地山、本寺、四月籠居之後、惣無被仰旨、今日未時許自

殿下給御書、申月來所勞子細了、後聞、入道從二位光盛
卿今日申時薨去云々、去正月依妻喪出家、自五六月之
比、依大腹水腫病、度々絕入蘇生、遂以滅亡、

廿一日、丙戌、天晴、覺法印引送黃牛、其體凡卑、依厭長髮上
牛相替之、午時許法眼信定、本信光法師也、以相國書狀來、可
爲知音云々、每月和歌可加歌云々、此法師謀書盜犯虛

言橫惑之外無他一得、年來寵人近習無双云々、前上皇
聞召其心操、新古今之時不被入作者、依立行法印之奇

謀、替名稱他人由叙法橋、一乘院僧正盲目非器、論義道
澄、同胞兄弟、乘信、異父兄弟、作出令一間答之故、依兩弟之力叙法

眼、今取權門之書來臨、可爲知音由承之、依所勞不對
面、每月會外聞似宴遊依有憚、自來月可止由、日來申

其衆由答申了、午時許備後來、俄而宰相來、經時刻成茂
來、爲題者賦物、又同之存歟由問之、答云、今日事偏

申付但州了、只身許所參也、及未斜但州相具前能登來
臨、相具風流物、已以過差、擬振衣大外居二合、一合概雜物、以

腰袋爲衣在上如紙、小器、一合概例衣、昇居座中、又作小臺盤、色草、居五
にさら等也、

十日餅、立最存外事也、滿座入興、述歌賦何人何子、

入夜終百、但州分懸物、次讀上歌了、以今月爲此事終、於來月以後者、可止由各相觸了、能居非人以之纔述心緒之由雖思企、事已似遊、不叶愁人身上、又世上和歌

依老耄不堪、皆可辭退、私詠之條尤可有傍難、今日又

盜可加作者云々、不運者付萬事有魔姓甚無由、仍禁斷

也、月出又早速、亥時許各歸、卿二品腫物及灸、但非飲水人、氣

力猶如丁壯、定無爲歟云々、年七十五

頭註

此法師所爲非恒規、上皇故殿皆所知食也、建仁之比

於源內府許、宰相中將公經卿所詠歌依詠、每度相訪

由稱之、即謔奏歟、上皇以彼歌信光詠由通具卿語

之、

彼父子每度稱信光歌、甚不便、此犯者年來被賞翫、

今如此、案之更有往事之疑、

近年稱時房使、乞取幸清淨實之、時房後聞之尋問

之時、周章更雖持來、不取返云々、如此事年來每家

事也、式部大夫孝行、行光子、今日加座、

先是禪尼來、

廿二日、丁亥、天晴、暑熱又難堪、尊勝寺八講結願、依無人難行由有催、參山宰相示送、後聞、於東洞院示事訖由歸云々、

廿三日、戊子、天晴、右將軍以使者、此狂僧說法聽聞亂舞可見由示給、暑熱殊難堪、法師種性不知之間、答病發由、成後日約束、

廿四日、己丑、天晴、急雨間落、地不滿天不陰、興心房被來坐受

戒、此間心神不例、依殿下召頻參問、彌增氣由被談、花

山入道右府又脫腫物及灸云々、夜深宿南棧敷、曉鐘

歸、此間據月昇

廿五日、庚寅、天晴、暑熱無力、雖精進假臥、

廿六日、辛卯、天晴、雜人說、花山禪門及火針、非輕忽事

云々、今日殿下御上表日云々、

廿七日、壬辰、天晴、炎旱已過日、又巷說、卿二品病非輕云々、

上皇往年宮人之中美濃、元一昨日終命云々、又夕云、

危急歟、其所髮除火針之跡不癒、苦痛難堪云々、有處分

之沙汰、大略奉讓修明門院、

北平以四御方爲去年七條院子、冷泉宮如孫、

此二品之發也、今年事皆以被改歟、是又遠所花山又物念云

云、又下人云、宜陽門院同腫物御煩云々、近日此事多

云々、可恐、

廿八日、癸巳、天晴、近日雖天晴無夜露、草木多枯槁、入

夜幸相來、於吉田泉納涼、幕府、稱宰相實經、尊實、唯此口勝

花山獲麟、四位侍從幼細之間、宜經刺攝政可當朝座、庄少々、

此家已磨滅之期來歟、成範卿舊妻之積善、雖有三代相

將之榮花、若有盡期歟、失父之嫡子、爲繼繼之遺孤者、

前途定危歟、卿二品又以如待時、依苦痛如叶喚、基成

最初稱輕忽之由、及大事之後、付親成朝臣、稱不祥之

由云々、予間相門被訪丁寧歟由、別不承及由答之、雖

有建保之大事、其後又水魚、北山喪家之時、來門前下

車對面、付境有惡志、於今如何、宣陽事不聞及云々、除

目事又不聞及、放生會依再催領狀了、上卿盛兼卿云

云、神事必可果其役事也、上卿又以神妙、於參議者具

前駟、束帶、或不具、有兩說、猶可具之由示了、

廿九日、甲午、天晴、有朝露云々、關東入道於本居所作堂

隙子、書大和國名所、十々予前宮內卿令詠歌可押色紙

形由詠宰相、仍今朝腰折五首書送、葛木山、卷、久米、野橋、

夏初瀬、前宮內、吉野山、卷、二上山、三輪山、秀歌多、可耻、行能

朝臣可書云々、世以雖處輕忽、此三人歿後、詠歌右筆誰

人乎、

卅日、乙未、天晴、已涉旬月無雨露、井水已乾云々、織部

正通正受病不幾而死去、不聞、其口、去春於御前預諸卿之舉、

拜一司之正、可謂道面目、年內終命、若非天之所許歟、

又禪閣近習左衛門尉高方見付腫物、五々日而死云々、

近日如此事滿耳、浮生之老病厭可厭、近江栗本郡十九

鄉と云所、三村庄之替可被立替、西塔之衆徒當時用否

評定云々、宰相參社云々、

○八月小

一日、丙申、下朝天聊陰、午始急雨降、潮初落、簷溜初落、不

及濕地雨即止、入夜宰相來、幕下命也、屏風之題、三月桃

花、五月櫻花、結埒所、可改他題山有沙汰、可相計云

云、今度不可交公事由可被替、文治例云々、其外事四季景物有限、又喚子烏莖菜等畫圖難用之、如此事凡無計略、唯可有御計、然者藤山吹在一所、雖有一所歌、一首不可詠兩花、此兩花各別被成宜歟、枴替又石竹宜歟、檼橘又必不可爲昔袖、可被相計乎由答申了、此事一向幕府可被行云々、其沙汰猶有御厭却者、屏風三季不可有事歟、他事如例、不聞及云々、

二日、丁酉、天晴、暮天晴、間陰雨雖澆不濕地、淨照房來、相伴霜臺欲赴肥後國云々、老病之身不期再會者歟、井水漸乾濁云々、今朝書訖止觀第六卷、書始七

端、

四日、己亥、朝天又晴明、午時許與心房被來、參殿下之大、花山院禪門於今者不被起揚、唯臥床上常寢入、イヒキセクリ、開目之時正念不違、宜經卿每事奉行、於食事不通、唯以氷如續命、待時之體歟云々、其病非大事、唯難熱也、其身衰損無極之故、氣力難存云々、年五十七、二品減氣之由巷說云々、晚月見、

五日、庚子、天晴陰、少雨間落、不濕地、夜晴、朝間書第七卷九枚、今日午時入道右大臣臨終、正念遂以入滅云云、

六日、辛丑、天晴、去夜土御門高倉邊群盜殺家主云々、先々炎暑最中無此事、追年月衰亡之甚歟、午時許心寂房來談、日來灸足、久不出京云々、嵯峨邊萩皆盛開云云、此邊僅開始、廣澤池水乾失了、大井河猶以水淺云云、入夜宰相來、朔日自此家歸、腹痛忽苦痛、喚貞行令取腹、服藥頗落居、其後未出仕、室町殿井久乾了、今日於入道宅沐浴、放生會供奉人上宰相之外未領狀、頭中將奉行云

七日、壬寅、早天無其期事歟、諸井皆乾、此家僅殘、其水已白濁、巳時許宰相來、未時許大炊御門中將來臨之次聞及、卿二品腫物更無減氣、大略待時之體歟云々、朔比到坊中納言、實基、少將賴基等在其家中、其比猶歿後事無云出人、禁忌之體也、但所領等悉進修明門院、於領家者讓中納言妻云々、今朝前兵衛佐成方ト云人送書狀、年來

更不知、近年又不聞在世山人也、年來住紀伊國、此間欲赴關東、懇請相訪乎由也、雖非知音、依察窮人之情示付宰相了、明後日下向云々、二品之親姪近年雖放光、其身已沈淪、原憲之上非憐愍之限、如予歟、成親卿嫡孫已如百里奚、可悲又可恐、

八日、癸卯、旱天、夜無露、或山僧書狀云、近日山上無申限、西塔三村正事、依關東申栗本郡十九被寄替之處、

衆徒猶騷動、可企離山山申之間、貫首房領平方庄彼御房領之中

爲宗所也、江州、可被寄替山有其聞、於西塔一院者落居歟由云

云、又栗本十九鄉之地頭分、可被寄三塔之惣領之由被

沙汰云々、是被擬將軍家御所供料歟、件郡被補新地頭、

依山門訴皆以被止、而又件地頭分、被付山門之間、一

郡百姓殊以愁歎、件郡之中、又私領相傳衆徒多之間、不

受此事、連日大衆欲發、彼門徒雖妨之、他門徒等私領相

傳者并百姓數百人登山、合力訴訟、更難落居、又去五月

之比、西塔良仙同宿衆徒鬪諍、依其事良仙門徒并從者

數多、於山崎邊被殺害了、依其事南谷靜數律師學頭之

職并中堂執行被停止之、執行東谷禪性律師卜云僧被補之、學頭貫首御留守覺仙阿闍梨被補了、其外衆徒張本被召之間、其內性淵闍梨梨本、大憐忿、殊以騷動、兩方付惣別東西之坂兵具充滿、凡追日如此事次第加增、唯佛法破滅之時至歟、可悲可歎云々、今日暑熱又難堪、臨夜景宰相引送栗毛小馬、即以下人引送成方朝臣許、甚以數奇、無由事也、少年見父祖之人、失時窮困難忍之故也、

九日、甲辰、炎旱彌盛、入夜片月忽陰、雷電雨降、覺法印

來談、彼御邊當時指無見聞事云々、與心房又被來、仍

先逢、花山臨終依彼命不逢其時、被在可有禁忌、嵯峨當時

交如此事、上人二人、成海法眼兄弟子一人、并我禪房不知其字、

弟子上人等三人、善知識臨終神妙云々、卿二品自昨日

唯氣許通、今朝辰刻許氣絕之由有下人等說、又稱氣通

事不切由、法印及未時退歸、暑熱無爲方、

十日、乙巳、去夜雷雨雖不久土濕、曉天晴、午後黑雲雖

掩天雨未降、申後晴明、臨昏與心房音信云、依俄召參

殿下、御腰遊聊御雜熱事云々、近日人定驚歎、尤以不便、夜深宿忠弘冷泉、力送、一昨日宜秋門院奉具姬君令參籠春日給、北政所御懷妊、已令籠長谷給、竊以御懷妊御容帶自重之後、遠所御行甚不穩事歟、凡宜秋、東一條、北政所、姬君御前、定高卿、齋宮、并私女子、其妻、相續南京經廻、侍諸大夫殿上人大飲醉鄉貪酒食、定是南京之費、不似範輔放光之時歟、去比親算法印昇莫大碗飯向黃門宅、飲食衆會、長季、知家、經時、入道仲經卿、信盛等之輩云々、年來權勢之追從成誘人、最前之醉狂超過前事、極以不便、聞曉鐘歸廬、涼夜已亥、

十一日、丙午、朝天遠晴、晝間陰、少雨聊澀、夕宰相來、自吉田泉水絕了云々來、殿下御雜熱輕忽事、猶依恐思、押而付大黃之由被仰、相門唯今參給云々、宰相去室町殿、可居私女房周防大炊御門小屋云々、是本自可然事也、貴所太不甘心、盛親痢病危急、放生會前駟更無其人云云、卿二品一定存生、成敗分明、至于家中雜物覺悟、令書目六行處分、臨終沙汰等自被加詞云々、定高卿家大

會執行日第三度云々、親尊參幕下、自稱近習山云々、十二日、丁未、朝天晴、黑雲井水徐乾僅汲云々、宰相今日去室町殿云々、酉時地震、雖不荒其程久、日暮雨降、即休、終夜少雨間降、真惠僧正承御祈十日、有驗猶歎、十三日、戊申、天陰、雨間澀、日入之程以後詣幕下亭、心閑謁申、粗陳心中區々之旨、自然夜深歸廬、曉鐘漸報、月陰晴、人云、鴨水頗增、若遠山雨降歟、

十四日、己酉、天晴、未後天陰、宰相先行八條、和正夕可參八幡云々、今日不備行粧云々、明曉前駟成親朝臣、爲清朝臣、權守、侍伊員、有弘、光兼、左門、時廣、右門、忠康、兵衛、申時許大宮三位來臨、參殿下之次謝返之後沐浴、

十五日、庚戌、自夜甚雨、辰後止、天漸晴、未後乍晴雨間降、與心房音信、可壞嵯峨舊堂者、

十六日、辛亥、天晴、昨今有所慎、稱物忌山閉門、金商七八月庚辰戌、辛巳亥、金日々木性人可慎、又西方有門之宅、不可居之由、有先人之命、仍年來慎此日、已及七旬之暮齡、此事去十三日申殿下、昨日御于高倉之由所傳也、

今月又當于癸酉之月、仍重於例年、下人說云、卿二品辰時

許遂被終命、門前車漸散了云々、後聞、曉土葬云々、夕宰

相書狀云、一昨日日入參者、上卿先若云々、昨日遲明參上、宿所還不

聞亂、上卿辨已參向訖之後也、追加之上卿、前近四人、辨共侍

四五、右衛門資能、右兵衛定具、馬助光衡、左門左兵不參、左近將

二人、少將家定、通成、每事早速訖、神輿入御、辨經舞臺之中、

上卿經家幸相經下、此間雨未降、供神物之間、大雨如注、行道

之程漸止、舞樂、無雨氣、終日在座、不退、相撲三四番、猶

不暮、如此無爲早速、近年無之由、宮寺殊感送云々、近

將相撲之間立神殿砌下、近年事云々、不知何年以後、事畢歸京了、日入

之程黑雲聳、不見山月、月昇漸晴、

十七日、壬子、終日晴陰、此三四日秋花盛開、與山房昨

日運取堂丁由被來示、自佐渡、督典侍依病身腫、入洛云

云、

十八日、癸丑、天晴、風吹、靜俊註記如法經訖下山、山上

又落居云々、今日稱御靈之祭、上邊下人經營、着金銀

錦繡渡、今出川相門被見物、今日書終止觀第七卷、書

始第八卷、十五、入夜宰相來、駒牽上卿闕如、放生會日又

俄被催參勤、宰相別當少將定平盜馬二疋云々、明日可

向督典侍、觀休宿所者、

十九日、甲寅、朝天遠晴、今朝又書六枚、知家卿御屏風

歌事、以予申旨申之處、有恩許之氣之旨、右幕下返事

被示、仍告送此由、當居所良方令立三間之假屋、三位

返事、唯今自女院被仰此由、其狀送之、雖存七人山、恐爲八人之山也

即唯今參殿下之次、可來謝、又送書、今日有障、示不可

有光臨由也、於殿下門前奉書由、使者持來返事、於彼一

門堪能之人也、於予多年有其好、貞應元年大祀以雅清

卿被仰予、辭退申子細之次、近代彼家多詠之、高倉院吉例歟

於彼家當時堪能之由申之、遇時之不逢稱重代、左大辨

家宣承之、於衆中未詠卅一字之人也、即死去、又稱一門之先達、家衡卿

詠之、每交衆有嘲哂之歎、得時與失時玄隔事歟、而今度又漏此人

數、依人多用上臈云々、恰恰不便之故、謁幕下之次、委示此事、

依被達適被許歟、是又可謂本意、無隔心之人、便宜事

存自他差別哉、此三四日鶴鶴小鳥、來鳴、炎暑雖如盛

夏、時節自至歟、鶯不見、古今歌稻負鳥有說々、事不切

予用小鳥之說、家隆卿多捨、赤羽川、矢鳥也、□見之由披露云

云、未知其證、其鳥尋常近邊不可來、此小鳥來鳴之時、

賓應計會、尤叶此鳥之歌也、唯以節物慰心緒、故記之、

入夜偃臥、前左馬權頭長綱來、令叩門、扶起言談、依好

歌來也、父朝臣七月五日赴關東、近日可、事次聞及、籠

二品喪家人坊門殿、通光卿女、元、按察典侍、大宮殿、入道內府女、權中

納言、實基、妻室、賴平卿女、姬御前とて養、依無行

方居其、之上、皇御發心地時執事、少將賴基、依無行

所歟、處分五所進修明門、中山、當時隱岐正々、坊

門、庄一、太、大宮、庄一、家、中納言、庄家其員數、陰明門、法勝寺、

間、綾小路、嵯峨所領五云々、且、嵯峨若狹堂、始淨土寺二位依教、

我所造安樂心院進修明門云々、所謂時移事去歟、此處

分其夫入道相國子息無溫潤歟、修明門可令渡住中山

給之由、依中行雖有其事、依此病當時御子安樂心院、

近日可還御今出川云々、頭註

公清教成各以家地連日任參議、依公繼賂被奪、道經

大臣之時歟、

廿日、乙卯、朝天晴、朝書止觀、申時許參大納言殿、去比依

息也、五辻大宮也、見參移漏、事次被仰事、松殿仰臨時

祭庭座壁下座、參議着後座揖、經兩座中向南揖、一同

故入道殿仰、予申、彼公達乍着沓座、揖脫沓給、是上說

歟、命云、正說、只如故入道殿仰、此着沓事一之或說

也、希有說也、全可用之山不云山被仰、三獻勸杯、上卿

居二獻、衝重之間、垣下、先起座、出仙花門也、漸執杯指笏之

間、衝重等訖入也、又此等役人更不待職事觸、只初獻二

獻之人退時立出也、非內裏所、如初觀、居胡床、次將臨時、

起座時不可寄砌、內裏依入、只自我座後可出中門方也、每

事同故殿仰、尤有興、着殿上之人、脫履懸右膝於長押

突膝、昇也、小板敷陳橫座皆依突膝先突座上也、是又同

殿、但取宮文昇青瑣門之時、先突右膝、是又、但着御前座

時、大臣依爲座、納言依座末、只乍立昇長押後、可突右膝

裾懸、大原、檻欄之時若有遺水者、不濕程ヲ計て取て懸也、

月出山之後退出、赤、歸座之間少輔入道自書來臨云

云、仍於門下車入、即相謁、雖窮屈言談之後暫入、食事

了又出逢、及曉鐘付寢、

即往

西塔猶又不靜、本三村庄事云々、義村卒數多之勢入

洛云々、是何料乎、不得心、

出行之間、八條三位長清來門前、示此由歸云々、

廿一日、丙辰、天晴、曉更禪門歸、一兩日可在清閑寺邊、忠弘入道示

送、今日右大臣殿令渡殿下御所泉殿給、御同宿、右大將可

被居宰相高倉町亭、日來大將被坐、院御所跡也、壞渡殿下御造作三條坊門

鳥丸、依其事大將被立云々、未時許大宮三位來臨、態

來向之間、今朝頂有二禁、令見忠元朝臣之處、頗不輕

忽由示云々、急可有療治由相示、不經程謝返、傳聞、從

三位隆宗卿薨、腹痛不輕程、夕右幕下音信、唯今參殿下、予一昨

夜參可由、明日可渡高倉、明後日來乎、今夕押小路宮親王

宜旨云々、比丘尼之幸、當世不可勝計、

廿二日、丁巳、天晴、曉有涼氣、着綿衣、隆宗卿去比瘧病

之後、痢病日數增終命云々、長清卿送書、來廿五日御

方遠行幸供奉事也、駐折紙送之、今日晝不着帷、初取

入燈、

廿三日、戊午、天陰、間晴、自朝暑氣又如日來、橫川大納

言殿御消息、依所勞下山、來廿七日可向有馬湯、御座唐橋左府

所、及秉燭詣右將軍亭、高倉、心閑謁、先是於宰相宿所

少々問世間事、近日人云、少將隆盛於右少辨宅沈醉參

內、狂亂之間禁中騷動、嚴父勘當由日來聞之、事有實

閉籠萩戶、被追出之間、吐狂言等云々、凡末代醉狂大

飲等超往事、甚以不便歟、暑氣又同日來、至夜歸廬、以

時廣問秀能入道病、二禁危云々

廿四日、己未、自辰時雨降、未後天晴、酉時雨又灑、時々

念誦、又平臥、

廿五日、庚申、朝天晴、書第八卷十八枚、秉燭之程、凌長

途參入道大納言、右府案置給唐櫛、左見參、東一條院令借唐給、左府御座殿下九條殿、明後

日令下向有馬湯給、一條相國新造湯屋云々、自然移漏、聞曉鐘退出、

但歸家鷄未鳴、即用方遶、雖疑思鐘聲非一報了云々、

未練乘車、路遠心神如無、

廿六日、辛酉、朝天晴、朝書三枚、伊勢前司清定朝臣來

談、本性好栽草樹云々、多問其事、大納言殿月來被仰

連歌事、依懈怠有恐、明後日乍平臥可參由申訖、夕宰相來、向督典侍禪林寺、

廿七日、壬戌、天晴、宰相企灸治、爲引醫師取黃牛、引送黑牛、秘藏云々來月三日御室令修七條院御法事給、公卿參

大切之由先日被仰、此灸治事日來依不聞及、不爛之間猶參哉由雖示送、蒙催時申灸治由訖云々、愚父相示

事、公私本自不聞入、甚無芳心、

後聞、右大臣殿、大納言、右大將、中納言三人、經通、定

高、相實、金剛經高、家光、今度殿下第二度御表云々、只傳聞許也、初

度御上表、公卿八人着座云々、近日事復保安以往歟、

尤可然、右大臣殿、大納言殿、大炊大納言、家朝、中納言

經通、定高、賴資、宰相伊平、家光云々、右大將三條大、

實親、土御門中、通方、兼領狀、當日所勞云々、

取註

使宗平、勅答資季、資高朝臣草之、第三度孝範朝臣

可書云々、

廿八日、癸亥、自遲明大雨、辰時漸休、巳時天晴、朝書終

第八卷、

老後所願不圖及此卷、尤以欣悅、

彼岸初日也、又是齋日、老病難治、不能斷葷、隨衰暮之甚、病力又以加增、悲而有餘、

廿九日、甲子、自曉雨降、辰時休、入夜又雨、清定伊勢來

談、身上訴訟之歎也、

尾張所領內二品得論人賂、

信實朝臣又來會、不

詠御屏風歌之遺恨歟、依長保例、公卿許可詠由有沙汰

者、非此限歟由答之、和歌之不運、迥新古今不入此事、

又如此、於歌道者交衆無益事歟者、一旦雖可然、先例

之上何爲乎、靜俊告送云、昨日、

廿八日彼岸初日、

於社頭大宮彼

岸所兩門徒鬪詬、南谷衆徒勤彼岸、青蓮院方欲着座、

梨本遏絕之間、於彼岸所及合戰、未曾有事云々、今夜

又涼氣、

取註

伊勢語云、左府昨日俄絕入給、御子中納言此間居岡

崎、聞之騎馬給云々、不知其後事、

○九月大

一日、乙丑、自夜雨降、終日漂々、適有涼氣、不聞世事、

二日、丙寅、通夜終日甚雨、大納言殿今月可有女房御產

事云々、其以前連歌之興大切之由被仰、仍午時以雨隙

參入、見參之間又甚雨、人皆不參云々、申時許歸廬、清

定云、今朝逢有長朝臣、此間欲入熊野精進屋、山門事

嗟々之間、忽難遂宿願、昨今無他事云々、不開他子細、凡世上之亂、逐日無落居之期歟、可悲之世也、

三日、丁卯、朝雨如沃、巳時陽景見、夕又雨降、書第九卷

八枚、本草子七十七枚、依大卷、以卅九枚爲上卷、卷料紙卅

枚、於大卷者、皆爲上下也、西方雖雲多、初月今年不見之月多、不開世

事、雨氣不止、心懶猶不能出門、

四日、戊辰、自朝雨又降、時々休、書第九卷十六枚、不開

世事、大納言殿昨日女房產給云々、

五日、己巳、自夜雨降、終日滂沱、書十七枚、

六日、庚午、終夜今朝甚雨、巳時休、午時陽景間見、書終

第九卷、四枚餘、書始第十卷、五枚、未時天晴、

七日、辛未、朝天遠晴、書十枚、午後土左前司有長朝臣來

臨、明後日入南山精進屋之由來觸、日來不音信、可謂本意、縮

道之日數參三御山、十月三日可歸京云々、微陽已短、

日沒甚急、此數ヶ月三日四日似無月、昨日之月如常、

四日之月甚奇事歟、

八日、壬申、天晴陰、心寂房送草樹等、令栽之、夏梨、櫻木也、

真木椿、大柑子、御山ウツギ、白萩、高宗薄、不似例薄、不見例躑躅等也、今日書十四枚、禪尼近日不食之氣經

數日、精進涉旬月、其身窮屈歟、依有善心而尋常斷葷、

又無勞扶之術、念誦不忘、所積老身之衰損尤道理歟、

甚不便、

九日、癸酉、天晴、今朝書六枚、召使來、請恒例酒肴云

云、前官舊老更不可然、尤尾籠事歟、纔望竹皮之來臨、

更思菊酒之往事、感暮秋之景氣、拭重陽之老淚、懷舊

之悲、不異陵園之配妾、只對庭柳短晷空暮、

十日、甲戌、天晴、今朝書八枚、續三枚半、令築巽角垣之塼、今

日有出仕之志、已後大風忽起發屋、恐落帽、日徐暮風

不止、遂不出、

十一日、乙亥、朝天快晴、今朝書四枚、第十卷書訖、自去年十二

月七日至于今日、終十卷之功、不圖迫七旬之暮齡遂此

願、機緣之合然歟、尤以欣感、於今者又欲加點、申時許

證寂房來臨、言談之間、入夜忠弘法師告云、大納言殿

御產之後、七箇日依赤痢病昨夕逝去給云々、以知村送

清定朝臣之處、歸來云、大納言殿渡四條坊門給、御共勢
州又參、雖別所依下人等相通、此宿所不混合者云々、
夜深宿南棧敷、九月明日歸忌日也、忘却了、連夜旅宿、
極可有煩、月入山之間、聞曉鐘歸、

十二日、丙子、天晴、朝自殿下給御書、屏風歌題引失、又
可書進、午終許參大藏卿、申人々申事、頭中將權右
中辨等口又平

宰相參云々、明日仗議、法家勘文不審多、且又被問仰
詞、有不審、治部
奉行祇園所司與役夫工神部聞許事云々、先

被問先例准據事、依法家勘申可及罪名沙汰歟、而已勘
申罪名、頗不可然歟、付此勘文、諸卿若有難申事者、尤

召儲勘者、重可被問之處、章久參熊野云々、定事不切
歟由、內々示大藏卿云々、仰詞事遣召親長朝臣可被

尋、此昨日來又有御不審、然而已勘申之上、內
內被改其狀、外間可有不審、仍待詳議也爲經朝臣又可停

止僧徒之兵具由、仰南京長者宣章先覽之、依仰少々有
直事等、相門曉被參詣春日云々、來月兵仗牛車之拜賀

云々、參御前之後、不久退出、向右幕下亭、宰相
拾謁乘
燭之程歸殿、依歸忌日、夜深如夜前宿南棧敷、聞曉鐘

歸來、

頭註
見事體、仗議可延引歟、

十三日、丁丑、天晴、已後風吹、借得證寂房本、付假名、不
加朱點

點所書止觀、本點猶不慥、甚以停滯、及未時、僅十餘
枚了、休息及晚景、風拂雲、良夜月明、昨日出仕、連夜方
達、終朝移點、筋力疲而不能出門、唯出南面望清光、但

恨自六七月以來、愬有可奇事、每月不見初三月、今夜

猶月輪多缺、其暉猶微也、如尋常十一日許之月、薄雲

又滿天、雖無尋來人、不下格子、徒及深更、曉鐘之程、

雲收盡、清光彌朗明、

十四日、戊寅、天晴、朝間移點、夕沐浴、夜深少雨雷鳴、

十五日、己卯、天晴、移點之後、懺法了、未始許與心房來

坐受戒、日入參相門、秉燭以後奉謁、即歸、終夜無片

雲、晝夜和同歟、

十六日、庚辰、天晴、至于未時移點、依不讀得借本之故

太遲々、忠弘法師來次云、式部孝行對馬所領土民、爲強

盜被虜掠、不能逃去、大強盜以此男補職事、令催諸同

類、雖有歸鄉之心、怖殺害而奉仕、去比適遇式部從者、
遂隨之行式部宅、遂左右而密語、式部聞之、即向河東
示此山、修理亮聞之、隨指示遣武士擄取、皆以承伏、依
其數未盡、秘藏此事、當時猶擄取云々、爲人々大功歟、
月出之間、今夜月日入即出、參大谷齋宮、初夜鐘聲歸廬、押小路
宮、去月親王宣旨、大腹水腫御病、醫家恐申云々、

十七日、辛巳、天晴陰、時雨間灑、與心房消息、自昨日未時
許北政所俄令惱給、仍被召居在近邊小屋頻參上云々、
例御邪氣歟、更不可緩怠、太不便事歟、未時許空體房
鏝也來、一昨日入洛、依八幡別當招請行向、今廿日許
可經廻、依在京態來由陳之、今年八十一云々、猶以騎
馬無煩云々、退歸之後參殿、與三位入進暫言談、右大
臣殿見參、殿下又出御、中納言參申雜事、雖聞護身音、
彼御事不及披露歟、無殊事、人々申事等只如例、晚頭
退出、今日又暑、衣下不着小袖着帷、燈猶在內、
十八日、壬午、夜大雨、朝天晴、朝移點、晝念誦之後、口
熱欲飼蛭、蛭不付、仍今日不果之、覺法印書狀云、轉法

院事、被補改之外、當時無他事由聞之云々、殊以感悅、
夜月明、

十九日、癸未、天晴、移點八枚、訖、未時蛭飼、知宗安嘉
門院奉書、兩庄課役桑絲五疋可進上、來月十日以前、末代召物
非近江播磨之土產、雖難堪定、是有事故歟、不能對捍、
入夜使者歸申、飯室入道殿止觀俗點本也、五帖給之、奉請之、感悅

千廻、若寫得歟、可爲世々之結緣者歟、

廿日、甲申、天晴、此本帖七八十枚、廿八枚移之、未時又蛭

飼、昨日飼、今日下蠟、依短暑空暮、夜深月出之程大雨降、

廿一日、乙酉、天晴、朝間點廿一枚、忠弘法師來、病者身

雖極危、不罷下歟、能州事更不可落居、仍來月五日欲

下向者、實雖旅行之器、相公勤此事云々、不能制止、主

從老身遠路難期後會歟、

廿二日、丙戌、朝天陰、終日不見陽景、朝移點十五枚、未時

許覺法印來臨、去十五日相國使者歸來、轉法院定毫還

補之外、他事無爲之由被申、又自殿下同被進御書云

云、七條院御正日、十六日、修明院御佛供養云々、例時布

施雅親卿沙汰之、十八日私正日了云々、又蛭飼、及昏了、

廿三日、丁亥、天晴、移點十八枚、第一卷終之、十三枚、第二卷始之、五枚、

廿四日、戊子、天晴、自朝移點卅八枚、右兵衛督前修理

權大夫來臨、同時謁之、武衛向花山院正日佛事所之次

云々、束帶、土御門大納言、今日無他人、聖覺法印如例、布施

五十、過差無極、法事日如此、同議、其日通方卿宗宣卿等

來云々、今日二宣教卿偏奉行語此人云々、一昨日酉時

許、抑小路宮薨給云々、親王官旨以夜前近邊葬送了、

二條四、彼御跡第尼宮相承給云々、武衛先歸、匠作暫言

談、是又束帶、參內之次、退出、秉燭之程參殿下、即參御前、白川宮

御事、行幸之有無、外記勘文、應保依以日易月不延引、□

子內親王云々、不知何宮、寬治外祖母、臣子、十月延引、明年二

月被遂、已爲吉例、尤延引云々、除目、京官、來月九日信

盛可奉行山被仰、邦長白湯山明日雖歸由中、五位奉行何事在乎者、若有事故歟、去月之比、關

東有勝寺、三宮、親王、孫王長髮餘其長云々、忽下向坐

八幡若宮拜殿、被觸下向山、太驚奇、急有可有御上洛由

申、歸京無其所、不元服、又無出家之計略、只可居住此

邊由雖懇望、付武士一人早令上洛、可然僧一人被仰付、

可有出家之由申公家、使武士送置醍醐邊云々、近年稱

片野宮、遊于江口神崎邊人云々、今夜禪尼請興心房、

修廿五三昧、雖窮屈時々聽聞、不及夜半早速了、

廿五日、己丑、天晴、朝點及未斜、廿一近日又此癖歟、忘

他事、申酉時暫念誦、

廿六日、庚寅、天晴、朝點、廿一枚、第二卷十五枚訖、第四卷六枚直之、以他木點訖、見合直之、其點多相違、

極有煩、午以後依魚食休息、靜俊來談、山門不用新補學

頭之外、兩方無殊事云々、秉燭以後謁申右幕下、北政

所例御邪氣令發給、此御持病更發之時、惣只惘然、是

非無分別之間旁不穩、吉事可延引由、一日殿下御參

內雖令申給、猶不許、只拋萬事可被遂之由、御氣色之

上、又不及子細、猶有御營、凡萬事不合期、相門相共雖有

種々案等、拾拾如事不行、抑私老女房事、猶一定懇思

食、無異議之由重被命、驚此事入忠弘法師宿所、示含此

由了、下向能登之後、誰人致其沙汰哉、甚難堪事也、亥

時許歸家、

廿七日、辛卯、朝天陰、辰後微雨間降、申後漸密、第四卷

直點、十五枚、自相門可來由以使者示給、扶所勞詣向、此女

房事等重被命、只如先々中不許由、聖法印親尊法印乍立相逢、即

歸廬、入夜宿忠弘宅、方違、宰相來會、參議兼侍從衛府

督闕出來時必兼之、流例歟、於親能者本性不望之、予

又勿論辭劔了、右武衛申匠作之由、世已諷云々、昨日

又示送、漏其恩者不便事者、可山申示了、曉鐘歸、

頭註侍從宰相在朝之時、於上臈者雖兼任、下臈一人不任

衛府、

廿八日、壬辰、朝雨降、天晴陰、自朝至午直點、廿枚、

廿九日、癸巳、天晴、直點廿一枚、上卷十五枚、下卷六枚、面雜熱猶不

尋常、以愚狀申按察、被申事申殿下、分憂事也、闕國不

幾成功、權門相競之間、所存依遲々由被仰、即達其趣

云々、日入以詣諸相國、咳病之由被示出、無面謁、又向

幕府、出仕之間云々、空歸廬、

卅日、甲午、天晴、風冷雲慘、終日直點、終第四卷、四十枚、一枚、

興心房被過云々、北政所如令付減給、猶依仰候近邊云

云、除目來五日、昇進分憂競望千萬云々、多是若少嬰兒

也、尙少々世顏馴何爲乎、菊葉初綻、萩花尤盛、閑庭只

望之、不圖六十八年之秋、又如夢過、

○十月大

一日、乙未、天晴、按察書狀昨今頻到來、以愚狀申入給、

御返事送之、又有返事、又進入、分憂名、字事也、宰相來、灸治以後初出行云

云、御屏風大略詠出之、不似老後不堪、於予者遂事闕

歟、

二日、丙申、天晴、朝移點廿枚、定隆持來點口、散少々不

審、面熱沃菊湯、短晷無程暮、夕入道法師來、老女房出仕

之間、一度出立事注出之、無足爲眼六十一貫云々、是

只衣裝許歟、貧家之涯分、實無計略事歟、被處凡骨、爲

振家耻、此營可謂前世之惡緣、

三日、丁酉、天晴、午上點十九枚、本草子、數也、菊花盛開、紅葉

飄色、日入以後詣相門、一昨日參北白河院、此女房事、

以北政所御文委申入了、快然、內二品參會、加獎應詞、又

參安嘉門院御方、同申入了山、如例萬事快然、自讚氣色之外無他、雖恐內々御意、有如然之仰歟、一旦可安堵之由申之、少々可助成之由有恩言等、雖不知始末、悅申退出、參殿下、只今自內退出之由被仰、按察懇切事重申之、凡熟國無關、々國不幾、今日彼狀進入了、無左右仰之由被仰之、大將被參會、同時見參、入御之後、又僧正御房御坐、予退出、天王寺惡徒等結構奉拂別當、法親王、積蓮於寺中、有制止歟、欲放火云々、山上梨本門徒某打破兵具禁制箇、又帶兵具下社頭馬場、所司等咎之間、三人及傷云々、別狂亂歟、一日、不知其日、多武峯惡僧張本一人召出、給武士訖、於此殿下中門相具退出、今一人賜檢非違使長親云々、

四日、戊戌、天晴、點十二枚訖、巳時笛師式賢來、相逢之間、大宮三位來臨、言談自然經時刻之後參殿、申終、巳御參內訖云々、空退出、日入之後、參宜秋門院、都護、武衛、備州相謁、昔別當三位、宗賴卿室、京極殿、春花門佐、參云々、京極殿事次聊言談、御懺法初夜時始、資季

寬喜元年 十月

百二十七

朝臣今一人、不見分及暗、取萩花僧、慈賢、成源、印圓、僧退下

之後、少時退出、路遠歸家、夜深腰痛極難堪、

五日、己亥、天晴、夜雨降、移點十四枚、以書狀申按察、

每日消息、行能朝臣事等奏聞了、猶可申入由被仰、達

此由了、宰相來、灸治猶有煩燥與、右武衛申修理之山、重示告其

闕事、付具實卿奏達、又付女房、天氣非不快、爭可申殿

乎、下脫力只可申幕下、賤老有存旨、更不可申子息事、武衛申

事、同不能出詞、親姓之上、其闕似有所望、無山之故也、

幕下、依腰病不發參內、宰相皆依招請、參向吉田云々、醉鄉之料

耳、未時許心寂房來、令見面熱、拙黃菊葉可冷由示之、

申後大風又發屋、

六日、庚子、天晴、風猶不止、朝間巷說、藏人頭國々關等

無沙汰、下名可有之由風聞云々、巳時聞書見來、舊一紙口代不

之、參議宣經、侍從□雅、復任、內舍人中原季有、關白臨時給

藤口輔、臨時內給大監物中原師世、少監物、藤司大舍人、

藤子、明法博士中明能、音博士清隆尙、本道玄善、諸子內親王、

民大輔藤經成、兼、少丞磯部行繼、大江有棟、主計允

□、兵部大管長成、權大藤高嗣、刑部藤久康、北白少錄
木道清貞、馬門典藥權助和貞幸、掃部、臨時中原清經、察
獎、橘公原王、學子左京權亮菅長尙、少進、安藤修理、
東一勘解由判官、長官伊豆守源信光、上野介藤朝光、加
賀守善康俊、權守橘宣經、長門守源盛忠、筑前權守中文
盛、左中將宣經、將監藤光成、藏人藤行實、臨時中盛
經、初密醫師中景清、道奏右少將通氏、將監中盛經、初密
同藤力日奉良兼、臨時左門尉源仲遠、藏人滋野實綱、豐教貫、
中盛村、右門石上敦業、醫宗盛員、左兵衛尉、神寶藤親
說、神寶貞口、醫宗々繼、道奏右兵衛尉、臨時清原、
石清水平繁綱、密宮左馬允光良、父右紀朝臣、右馬權頭
源有長、允平家經、臨時平保知、後高倉去兵庫允、臨時寬
喜元年 正三位公長、臨時知家、左大臣建保六年成
實、臨時正五下親氏、止兵平經氏、臨時藤經光、北白川
從五上資親、臨時教定、臨時中師景、止書從五下紀宗
朝、民部源時長、信光、口光、施藥院使丹波良允、從五
下清業尙、

良元有子細云々、承久三年後高倉院此旨已御約束、而
長基以賴基例一日兼帶、後日可讓良元由申請、良元聞
之、依爲妻父、後任者非訴由申、法皇有御感言御教書
等、而變改讓子息、仍以彼御教書等、自關東被申、先是
與妻離別云々、日入以後詣向幕府、少々散不審、國々
事、任人名字等被尋歟、可經程、下名可被任由有沙汰
云々、藏人頭親房有懇望、哀憐欲被補之處、近日親房
身有不祥云々、實是不運令然歟、義村深退絕殿下御事
之由被聞食、恐惶無極、關東奉公之身寧可然乎、此申
披有上洛志由申之、將軍依抑留仰愁止、次男猶令參
由内々申之、此事被伺問之處、右京大夫有此詞之由有
此聞云々、聞食此事、可有勘當、剩朝恩之條有事憚云
云、親房書誓狀云々、依之親長又暫延引云々、人宿連、
自他實可悲事歟、相門被申實經中將之間、其詞頗有
過事、無此朝恩之程分限候歟、私有親呢此事符思食、無勅許
之由、不被聞以前過分詞、有御不請之氣、除目夜無出
御、無御對面云々、此事又謂道理、凡聖今夜内々被示殿下

御氣色之趣、尤可謂本意、心中并悅、但非計略之限事也、老後一日之本望事、於御意非々據由有御存知、而更無其關國、有親昵之人歟、内々相語計略哉之由也、彼卿本性、本自極不得心之人也、於予又逐年無其好、勿論事也、一日所申都督事、更非貪濁潤、一日居其官歟、若如賴資相博事、相語哉之故所申也、可被申入由示達了、可悲、起居行步猶以不輒之身、未拋此執心、自彈指者也、按察入道申給參川國歟、本阿波和泉也、相博泉、本爲阿波二可替由有沙汰歟云々、雖及深更大風猶不息、草木彌黃落、

七日、辛丑、天晴、朝點十六枚、中卷十三枚、下卷三枚、午時許但馬前司來談、及申時越前々司隱、又來、近日吉事、宜秋門院極歟思召之由、見氣色猶有恐事歟、且可被示右幕下由示之、即念出了、日入之後參殿下、右大臣殿見參、可獻舞姬入入道按察之外無其人云々、甚不便事歟、大炊大納言、陰明御共、登天王寺、土御門中納言、使類違云々、有親等可責之由今日被仰云々、是今世人輕忽公事之故歟、奉公者無抽

賞之故歟、右幕下被參、暫謁申、即被參御前、右大臣殿今夜依念々不逢、明後日晝可來由被仰、仍退出、

八日、壬寅、天晴、終朝雖點、廿一枚之後念誦、定修來、按察一所事、又以書狀申殿下、可構出由懸心由被仰、又有書狀、仍答申其由、知宗所催之桑經、結力隨尋出送彼朝臣許、如員數進、珍重之由返報、奉行人不可如數由存歟、朝暮期日彌近、心中極周章、

九日、癸卯、天陰、今日不點、巳時參殿、頗心閑見參、五節有親朝臣、出雲、纔領狀、公卿左衛門督、大炊御門大納言被責、權中納言實基、申妻重服、明年必可獻由申、除目之景氣少々相同、御出被念之間退出、向幕府、又示申存旨等、即歸家、青侍惟宗弘依有事次、被拜諸司允名字哉由申之、件男令伺聞、曉更來、任木工允由告之、可謂過分、

十日、甲辰、自夜雨降、朝點十五枚、巳時許見聞書、權少外記中師範、兼侍從藤家教、内舍人二人、臨時、圖書允清成經、功、玄蕃藤光重、臨時、刑部丞藤盛家、公卿勅使

神、少錄紀能久、木工宗弘、惟宗臨時、三宅清宗、同、掃部平家

村、與樂允惟宗實茂、實茂同正繼、同、屬中清景、同、和

大辨、泉源時長、別當、參河守藤範房、實清範越中守藤高經、越後權

守賀茂長宣、丹波守高階泰定、紀伊守小槻季綱、兼右兵衛右衛門

淡路守藤資忠、信盛、肥前守藤家廣、大貳藤成實、右

少將教房、將監平賴親、北野大政所右少將藤公基、左門

尉平家俊、坂上家澄、法勝寺修理右門尉藤時賴、鹿島大江

致重、官所少志中原親茂、樂所左兵尉藤良基、住吉中原

行能、臨時藤秀弘、同、右兵豐原信秋、中明直、裝束司左

馬允中元重、字佐右馬允藤良成、木工寮寬喜元年十

月九日 從三位藤良實、中將正四下藤教忠、正五下大

中臣隆弘、同盛清、同孝晴、時從五位上安部宣賢、源資

國、藤實清、從五下中師爲、外記主計高階泰定、外從五下

大神宗□、使宣旨左門尉藤祐政、音博士隆尙、可改書織

部正親成、典藥助兼宗、左將監中盛經、止位記、午時許

右兵衛督被過、日來願涯分不申、先日聞修理闕、止督

肥後國可任由申、夜前忽賜淡路、可獻五節由被仰之、

可謂面目、實存外之恩歟、尤可謂善政、今朝按察又有

怨鬱之狀、即進覽、仰云、盡詞雖申之、閑可有沙汰由被

仰、更非吹舉之微々、二品狀密々遣之、可一見、左府國事

摘察、雖可憐愍、心閑可有沙汰由也、實不及事歟、仍又示達此由、甚無由申繼也、予

申之由已達天聰歟、一日狀令奏置兩國之關、閑可有沙汰

之由、七旬之餘命、期何日哉之由、有怨望返事、頗以道

理歟、

十一日、乙巳、夜雨止、朝天晴、朝點十五枚、終第唯對菊

藥、短晷空暮、徒然之餘、乘月出一條室町辻、數刻待行

幸、二品車過了、經時刻殿下御車、北又久而先陣來、

無諸衛、右兵衛、右衛門、左衛門督、左大將殿、近將十

余人、範賴許也、見了歸、又出行今小路富小路小家、借

新大夫局、宜秋隣家書讓文、暫待曉鐘歸來、

十二日、丙午、十天晴、霜白、朝點十五枚、未時又齒伺

蛭、乘燭參殿、頗心閑見參、夜前伊平雅親卿如大將經

櫻木北、甚奇事也、國々間事等散不審、右少辨光俊殿

重成功欲給安房、成恨辭退、不便云々、公氏卿雖不成

終功又懸望、若可給肥後歟云々、按察事雖盡詞、當時無其闕、鬱憤極不便、退出之後沐浴、

十三日、丁未、天晴、朝點十九枚、午時許前宮內卿被過談、已移時刻、入夜被歸之後、詣右幕下、此官仕事等重尋申、亥時許歸廬、

十四日、戊申、天晴、朝點、至未時廿五枚、前匠作雖來臨、稱他行由不逢、左金吾書狀、五節事、答有營事由、

十五日、己酉、霜結、天晴、早旦詣法輪寺、已時、乍車渡河、入嵯峨草庵、聊休息之間、午終歸廬、移點十枚、及昏了、入道按察以使者被示五節事、身上有卒爾營之由答之了、夜月無片雲、乾坤洞朗、

十六日、庚戌、天晴、心神疲、朝不點、入夜宰相來、於相門又昨、昨日北山室家墓所小堂供養、明應之間、法印公喚、

險路顛倒、依轉頭出血之由嘲弄云々、能登新立庄仲經、定高信盛引舉、過背勅定由狀、內々上、御教書歟、卿女、私文歟、更不得心、幕下被申殿下、更不知食云々、權臣自由謀畫歟、彼等引舉事、始終必有祟歟、甚無由事

也、

十七日、辛亥、朝天陰、陽景間見、申時微雨、朝點十五枚、臨昏右中將有教朝臣來臨、清談移漏、母堂所勞老病、加增、次第羸弱、臨時祭使被催、乍帶病者領狀有恐、若及後日無事歟、臨期雖卒爾可勤由申、安嘉門院御所冷泉油地、三戸被召、可給其替之由、去夏內覽奏聞事切了、早可宛給由被仰、而信盛于今抑留、不重仰下云々、侍從行通嫡男、申兵衛佐、若得便宜歟、可申入山等也、若得隙歟、可申由答之、雨漸密、月出之後謝遣、

十八日、壬子、朝天陰、已後晴、入夜雨間降、點廿三枚、午時許相國有招引之命、即詣向、前中納言教、對面之間相待、退出之間乍立言談之後奉謁、官仕之間事也、明慈房爲我被來云々、即退出、自南庭被入、予下地相讓、後昇了退出、

十九日、癸丑、朝天漸晴、點十五枚、第七、侍從家通歸洛之由傳聞、數ヶ月在志深庄、非尋常之儀歟、未時許參殿、臨昏見參、中納言參會、多申雜事之間、自然經時刻、

月未出光白、之間歸廬、窮屈難堪、明日姬君令叙三位給、可被前前大相國兵仗宣下、廿七日官掌兄公史大功從者本鳥、即人好氏樂所置成訴訟事、東寺一長者爲頭、治部卿下部史、打破寺領庄庫、被連取納米等事、被召問治部卿中事兩事被仰大史季繼事、信定朝臣傳申第三御表事、御入內扨從可被觸仰公卿、前大相國、左府、右府、已上知、大納言忠房、基嗣、右大將、領狀、實親、領狀、家嗣、中納言通方、經通、高實、國通、定高、賴資、參議伊平、隆親、經高、爲家、家光、三位實有、中將殿、不定內裏御裝束事、南殿御後臺可有立幕、以東庇可爲公卿座、此兩母屋廂御調度皆新調、絲毛御車、又新件車貞信公御車、先年燒了云々、文治被申請院、永久待賢門院新調御車云云、其車新院儲品御時召之、其後東一條院又乘安嘉鷹司皆新調歟、御名事、大府卿撰御、其車燒了云々、似上東門院彰子彦子、之由連中云々予文彦太子四字之內、二字不甘心由申之、貴子是貞信公嫡女尙侍御名也、賢者失歟、尤可有沙汰事也、親族拜可及家嗣卿等、定高賴資不可立云々、

廿日、甲寅、自昨日時雨間降、浮雲又晴、未時許右幕下消息、讚州一村多配、應宣傳賜、是女房出仕之料、雖輕微猶可相待者、入夜言家來、月來依依灸治籠居之由陳之、右武衛書狀之次、不獻五節、可造後白河院法華堂之由被仰云々、
廿一日、乙卯、霜如雪、朝天陰、未時許宰相來、相具炎猶不愈、不出仕云々、
廿二日、丙辰、天晴、時雨間降、午時許詣今出川、被渡室町亭了、即參殿下、中納言大藏卿同時見參、唯聞御經營事、昨日第三御表孝範草、文章甚優也、但蒙昧甚、於御前不能讀云々、使宗平朝臣、勅答資季朝臣如第二度、廿七日姬君令參春日社給、南圓堂、長保例云々東大寺同日、相國兵仗拜賀、夕室町殿爲御覽渡御云々、此間退出了、
廿三日、丁巳、天晴、未時許宗清法印相具弟子法眼來、來年十三云々、容儀美麗言談之後歸了、及日入之後、詣今出川奉謁、秉燭以後退出、廿七日供奉人當時領狀、右大將、大納言、實親、中納言通方、中納言實基、別當、侍從宰相、三位中

將、此外藤中納言公氏、未觸殿上人、大略中將基氏、家定、少將實經、實清、隆盛、兼輔、前左馬隆宣、左馬頭親季、侍從敷定、知宗、猶可催云々、言家書供奉忘由申、即許容告過了、

廿四日、戊午、天晴、點^{第三}卅枚、申時參殿、依御風氣無出御、中納言大府卿相謁、宜秋門院今日還御云々、夕退出、

廿五日、己未、天晴、點卅二枚、日已暮、暫念誦、夜侍從來、

廿六日、庚申、天晴、點十四枚、自殿下給御書、行能朝臣申、寺領今日欲宣下、其名忘却、相尋可申、仍此由示彼朝臣許、返事云、蓮花王院領美作國□、即持參進入之、

遣召右少辨云々、少時出御、被仰御名字間事、上東門

院彰字立早久、此字殊吉也、欲追吉例、無其字、二條院章子、待賢

門障子已彦子如何、月來有沙汰、文彦太子四字、意子、竊案醫師之

替用了、彦子如何、之中二字可憐然山子中之、意子、音相通歟、

情子、源實子、七旬反云々、尤恩子、是又無、則子、大府卿一

宜由則、天皇后尤內々被仰尋師季、今日雖申趣大略相同、大

藏卿參入、又申此等事、右少辨參、行能朝臣事可宣下由被仰之、尤可相德政、八代之手跡、爭無抽實乎、御入內事等繁多、女房猶多未定事云々、日入之程退出、

廿七日、辛酉、天晴、今晚殿下姬君御參春日社、庇御中納言屬從、殿上人諸大夫十餘人云々、出車三兩、殿上人、其次令參東大寺南圓堂給云々、宗平朝臣、藤家定朝臣□□有長朝臣已下歟、宰相今夕可供奉由、一日有本

所命、而不參由又傳聞、依不審相尋、雖蒙二度催、灸治不癒不參云々、尤可扶參事歟、乘燭以後出一條大路見物、人々漸會合歟、良久前陣進、先居伺舍人、赤色、殿上人爲先下臈歟、地下二次諸大夫、次上臈隨身、被垂車簾、下臈隨身、少雜色、次公卿過了、歸廬、宿東北小屋、聞曉鐘歸、

御拜賀供奉人

上達部

右大將殿

三條大納言殿

土御門中納言

權中納言

別當

三位中將

殿上人

師季朝臣

基氏朝臣

隆綱朝臣

實陰朝臣

家定朝臣

實經朝臣

兼輔朝臣

信時朝臣

實經朝臣

賴氏朝臣

實清朝臣

言家

知宗

親季

忠俊

公員

源仲康、藏人、

前驅

長維朝臣

家長朝臣

守高

知宣

重綱

光經

忠廣

知仲

業綱

盛親

長政

季繼、知忠子、永

忠泰、宗政

惟清

藤宗基、宗政子、

同仲光、經行、

經子、

隨身

官人

秦兼廉

同武澄

番長

秦兼利

中臣近光

近衛

佐國近

下野武吉

秦景久

下野助久

秦經種

大將前驅

永光

重光

長宗

仲成

範昌

知資

廿八日、壬戌、天晴、點十六枚、申時許宰相來、夜部參出立所、布衣、被示人々事等傳之、往反馳走、已下立給之間出北門、於中御門大宮見物云々、三位中將展、大將被褰車簾云々、乍乘車自二條堀河參入之間、殿上人皆可在車後、下車之後又扈從、於月華門外取松明、可進弓場之由被命人々、親疎一同、以宰相可存此儀由、被示舍師季中將云々、此事不知可否、又先例供奉之上、又勿論事歟、日入以後參殿、殿下御參內了云々、小除目僧事、右大臣殿見參之後退出、近江、光俊辨、顯平卿給下總、左府安

房、公氏卿肥後歟、大僧正辭法務、被申請律師尊通云云、

廿九日、癸亥、天晴、點十四枚、第三卷七枚訖、第六卷七枚始、午時許土御

門大納言被遣使者、左側、自相逢、子息少將五節出仕之

間事、答申所存了、申時許大宮三位來臨、被示合屏風

歌事、乘燭以後歸、夜前有僧事、無除目云々、右少辨、

光俊、以御教書給近江國、願平卿因被召歟、可給替歟、不知、三位息女俄被

召云々、定季卿女東一條中納言局、申不可乘毛車之由、申不參

云々、

卅日、甲子、天晴、風吹、終日點四十枚、申時許宰相來之

間、南方火、宰相即歸了、日入以後參殿下、火無程滅、

殿下無御出、右大臣殿御參內、唯今還御云々、火姊小路

室町邊、大臣殿唯今渡一條山被仰、少時參殿下御前、

親房朝臣傳申人々申事、左大辨申、東大寺修理料申一

州事、又伊賀庄新補地頭押領事、國事有御沙汰、依申

請周防、不被沙汰其替之間、遲々歟、庄事定毫已內々

觸關東云々、其僧歸洛之後聞返事、重可仰由被仰、基定

卿申修理職事等也、入御訖退出、

○十一月大

一日、乙丑、天晴霜凝、朝間雪飛、點十七枚、夕侍從來、

一夜之儀、於月花門殿上人可取松明之由、於本所雖被

命、雜人狼藉、如相騰踐、不見及傍、唯於射場邊僅少々

取之歟、自內退出、又騎馬、參持明院殿之後、各分散、

殿下於大宮大路御覽、諸大夫侍等少、少在御車邊、前座主宮新僧正如

例見物給云々、

二日、丙寅、天晴、霜如雪、點十四枚、申終許參殿、依召

參御前、半物三人召出御覽、一人ハ神崎、二人ハ京中

者乎、各退出之後、又參御出居、東大寺僧綱已下群參、

不給周防國者不可歸寺、僧徒逐電、本寺可閉門戶由申

云々、末代僧徒嗽々、非恒規歟、明後日御奏聞、可被仰

勅答之趣由被仰合、左大辨參合、有長初臣傳仰、

三日、丁卯、朝天晴陰、未時雨降、申時休、今日殿下令渡

室町殿給、先御名字被定了、頭親長朝臣爲勅使可參云

云、從三位、次御入內定了、殿下可有御拜賀云々、委次第未

聞之、御名跡子、

依立尊作、被擢也。

位子、

此字仙人名云々、依降子御名音歟。

此外彦子、

立久依上東門院云々、予文彦太子名不可然由申之人々同。

位子、

立人子由、有顯云々。

恩子、

無指難、無日殊吉例。

來可聞也、爲御拜賀御供宰相參云々、依按察兼日消

息、毛車牛前驅馬等可借奉由示付宰相訖、自料車借別

當云々、未時許備州來談、

十五歲女子、秋歌參、吉事同事。

此間雨、酉時

右兵衛督來臨、清談入夜、此間甚雨、雷鳴一聲、日來雨

不降、今夜、如此人又有所言歟、淡路造法花堂事、極以

存外、又有所思、若被催不日之功歟、猶欲申替亡國之

由也、尤可然事歟、爲女院々司、爲禁裏近臣一分、法花

堂之造營頗不可然由也、雨漸甚、一日頭中將家燒亡

間、參內人盛兼、具實、範輔、成實卿等云々、右大臣殿、

他人不見、

四日、戊辰、終夜寒雨、辰後漸晴、宰相注送、昨日先御名

字定、殿下出御客亭、

三間、

右大臣殿、按察、右大將定

高、經高、家光卿、御名跡子、

大藏卿、勳中、

大覽日時書定文、忠

高、其後親長勅使、參入、退出之後御拜賀、大臣殿、中

納言爲家、師季朝臣、宗平朝臣、雅繼朝臣、定平朝臣、

忠俊、賴行、能定、此間甚雨、御拜賀、雨止不取笠、去夜

夜半以前川崎別當、

好武藝惡僧也、梨木。

房

山縣地、大路。

群盜

乘車、

入、取

種々物云々、房主他行之間歟、此間依非分經營衣裝

等尋求之、世無隱歟、極以怖畏、夜前左近將監重實、

云男來、宰相家傳二字依如此者、大切所語寄也、入夜

時廣來云、其男忽變改云々、不足言事歟、相門命云、今

明可來、御屏風歌欲示合、明日可參由申之、

五日、己巳、天晴、早旦參相門奉謁、御屏風歌被見、愚歌

又隨身奉覽之、有響應之命等、今度殊風卦神妙、已秀

逸由申之、極以快然、不經幾程退出、參殿、心閑見參、

申承之間、右大臣殿令參給、

御四、

有長朝臣參申、孝範朝

臣申仙籍狀、尤可有哀憐由、頻加微言、大藏卿已御侍

讀了云々、依東大寺僧徒訴申事、有御參內云々、此間

退出、宰相來談、歸之後覺法印、知三品各光臨、三位

云、東大寺又群參云々、我朝僧徒之體、更不足言事

歟、

六日、庚午、天晴、宰相引送黑牛、長者僧正被過、

賀茂、謂之大。

高野僧徒已及合戰云々、不足言事歟、夕宰相來、東大寺僧又集會相門云々、訴訟之儀、左道背恒規、爲佛法不便之由、且被加教訓之詞、頗承伏退出云々、

七日、辛未、終日天陰、已時許暫時、行能朝臣來臨、謝先日所申入之由也、聖代之德政、實可遺之由答了、今度御屏風一身可勤仕由、且自愛、又吉例之由陳之、崇徳院有屏風、無清書之人、唯此一近衛院朝隆伊行書之、後

白川、朝隆、二條、伊行、六條、同、高倉、朝方、安徳、伊經、前院、同上、土御門、同、新院當今、自身入內文治三人書

之、一人奉仕、爲吉例歟由也、臨昏與心房來座、依藤大納言殿御忌日、聊可被修廿五三昧由、去月所申付也、

寒夜雖無心、依惡志誂申之、爲會孫之一分、假公卿之名字、報恩之志、雖輕微修之也、

八日、壬申、天晴、夕雨降、點廿枚、春日祭使少將公有朝臣云々、前宮內卿被見屏風歌、愚眼所及、今度歌頗非秀逸、而有讚氣云々、強不能嬰應、

九日、癸酉、朝後天漸晴、風寒、備後前司來談、宰相來

會、愚歌三首詠改、今日清書了、高禮紙七枚續之端作 月次御屏風十二帖和歌

名字無官者如此歟

正月元日 如此書之、不書題子類、唯若菜霞等字也

加禮紙一枚切、放紙封之、書封字、日入之程持參進入了、中納言在御前、申雜事等、御入內路次、一條西行、宮城東大路北行、待賢門大路東行、町小路南行、自二條可入御、出車女房自十五日可參宿云々、十六日白晝爲乘車云々、和歌十二日早旦各參可撰由被仰、次參相門、梁國奉謁、只今參殿由有命、不及暖座退出了、十日、甲戌、天晴、已時詣相門、申三首詠改歌事、次參殿、御覽御馬、中納言在御前、多申雜事、今夕女房可參由申、申始許退出、少時宰相來、及秉燭侍從來、母儀相伴又土御門殿黃門來臨、月出之後、相國參給殿下之由聞之、仍戌時許宰相先可參由示之、布衣、以近習申入參由、有聞食由歟、可被告由也、不經程早可參由告之、仍寄車、今夜有不具事、不具出車、車八葉長物、牛、密相、見新車、黃牛、童

藥師九、對白裏、薄色和車副、賜裝束裝束白衣、單衣、濃打柳表襲、

今夜依非其式、隨在著本唐衣裳濃張袴、子孫女高順、

着白衣生袴、在官家々、服寄乘車後前駟二人、權守高階爲清、在相公家、

藤清房、偏範房弟云々、在官家々、服寄侍左衛門尉伊員、同光

兼、經武、者所兵衛尉忠康、經所衆、武者所雜色騎馬四人、奔物三、四人、

一條、西、今出川、北、無遮小路、四、室町、北門、留車、前駟取松明

廻北對北、可寄西方由示含了、客人等歸了、不經程歸

來、寄相寄、車云々、大相出逢給、今夜有子細、不入見參、近

可候由以宣旨局被仰、太相又有恩言云々、參會爲本

意、

十一日、乙亥、天晴、夜雨降、子丑時許雷鳴、朝點十三

枚、未時許大宮三位來臨、歌四首許改直之由被觸、壬

生三位又歌少々改由、返事之由被示、明日和歌可被評

定、可被參由、予示送之、有所勞不可參云々、自殿下下

給御歌披見、尤以神妙、日來依念劇、風情不成之由被

仰之處、御歌之跡尤宜、仍申其由了、

十二日、丙子、朝雨漸晴、陽景見、又陰、朝點、午時參殿、

布衣二、衣單衣、參御出居、先是兩三位早參云々、予出障子上相

逢之間、宰相又參入、東帶又參御前、被書連歌、猶通、未時許

大將被參云々、申時大相國參給、漸及日入、日猶陰、出御二

棟南面、母屋御座、大相被參、幕下廂與、予在端座西方、宰相參、依

憚連座在東、前宮內依仰居中央程、知三位著東末、有

長朝臣持參歌、於座中板讀上、隨宜合點、每題不限一

首、題三許之後乘燭、切灯、春夏一卷讀了、又持參、秋冬

卷又讀了、歌皆殊勝之由、各入興、上薦御歌皆宜、末座

大略難加入歟、讀上了、有長朝臣退、自下薦各退出、入

夜之後月殊明、土御門大納言被送使者、不見守、云々、自相逢

御入內之間、出仕人々事等被問、聞及事答申了、

十三日、丁丑、天晴、今日不點、依有召已時參殿、歌等被

仰、大略申定、但可被仰合相門之由申、已及申始中納言

參入、有□□□□退出之間、大將被參、又有召歸參

二棟方、被示合多改之、月出被出、納言猶在御前、臨時

祭大略催出、於用途闕如由信盛申之、重杯宗平雅繼領

狀云々、今夜帳臺出御、殿下、右大臣殿、大將、大炊御

門大納言、九條中納言被參云々、月明無片雲、思往事退出、土御門大納言被送使、窮屈不相逢、

十四日、戊寅、天晴、早旦詣相門、奉謁、歌事猶被示合、

有不甘心事等、只今參入可申、先可持參此歌由被命、

所寄書之先參殿申其由、屏風已調、出在御前、但云、畫圖之體

二卷也、期日可直由被仰、行兼承之所調也、給無唐也、少時相國被參、

於二棟南面又評定、被入替、今度書定了、有長讀上、又

書付之、

殿下五首 元日 鹿田家 千鳥 露

大相八首 若菜 柳 櫻 更衣 葛蒲 秋風 月 鶴

大將六首 梅 早苗 菊 紅葉 氷 重陽

下官七首 歌 葵 露 夢 出 馬 (已上三首殊存外、)

依無指難、被備負數歎、

宰相三首 山吹 郭公 網代 (本有四首、有所思中止之、)

前宮內卿七首 綱引 納涼 六月 歲暮 野花

今度宜歌唯六月被許尋常也、網鷹自去年秀逸之由自讀披露、執心深云々、大將聞之、辭我宜歌被讓了、前院

寬喜元年 十一月

御時被用天下第一歌、時移事去、予依近習舊勞貪取

歌之由、天下道俗男女疑思歎、甚無由、仍頗雖見苦歌、

狂員數不可被劣由申請之、三位 知家、二首、藤、山井、

此人歌今度又無殊撰定了、有長朝臣可清書由、被仰行能

朝臣、依召參入、於御屏者、明日可給、予先給之、可擇

字由申之、予申此由、但唯普通之假名三可書由被仰、

如此物多用但有所存歎、少々可加由被仰、親定卿參見、

予來乍立相逢、示往退出、日暮又參西殿、兩女院御座此

亭、謁宜秋門御方人々、初夜鐘之後歸唐之後沐浴、候

女院之間、殿下又入御、仰云、炭竈歌相國猶有可入之

志云々、九首如何、家隆又可減乎、申云、於歌之相門

被依優人所被入宮內何事候哉、彼卿自難

歌已捨他人入所雖強無遺恨歎者、追可被仰行能

朝臣云々、竊案、九首頗自由事歎、

十五日、己卯、天晴、巳時許參殿、炭竈歌、猶相國被入了

由被仰、重御覽早速催云々、仍被念御出、午終刻御裝

束了出御、白御衣、紫殿上人遲參、親季一人候、予褰御

百三十九

簾、前驅隨身四人、上薦冠如例、馳車行陣口見物、定平
朝臣能定等參會、宰相不慮來會、自物見言談、東一條
薰物御使祿可取、於內裏二獻勸盃可存由被催云々、永
久帥殿參詣、勤仕給、先例尤爲面目、兩夜共參內、終夜
見物、具實光俊成實卿
等候御所邊參入之體驚目、女房色々衣、舊朽紅
袴、其
林不可
思議又白衣濃袴女房二人交、不同車、各染
衣白衣相並又車二、一人
乘、女房頓病云々、諸大夫無一人、不知耻之故歟、可
悲、昨日殿上著座之殿上人舞了、貫首未舞最中、重長
出下侍、昇小板敷并長押亂舞、衆人解頤云々、別儀歟、
今年又此
事出來資雅朝臣□□□夜々出仕云々、即□□□雲
遠晴、山月帶蝕出云々、少時□□□如暗夜者、一時
許後漸明復、未以後殊以洞朗、
十六日、庚辰、天晴、辰時許詣相門、御調度已下物、召細
工等且被調、申承參殿、御發之間也、自然遲引、巳時御
參內、直衣、宗平朝臣東帶、御共、是爲御
裝束也中納言東帶、雖不
參御會、付
魚袋、後可
解云々同參內、右大臣殿此殿裝束事、仰基邦、且被立
御帳已下、以安嘉門院御調度母屋具被立內裏、於廂具

者被用平等院御調度、仍安嘉門院庶調度
被預置相國御許此殿被用新造母
屋底調度、相國被新造
本地堀也今度御屏風被立內裏、此殿舊屏
風也、惟長出車、行事頻雖送使者、車未見、女房又皆只
今由被召云々、御腕懸御腕敷高麗帖、爲出車女房御
所、西第二間南西釣上蔀爲車寄、以其內爲上薦休所、
殿下八葉御車、御牛侍二人能忠朝臣行迎其亭、三條室町
源大納言
雅親
卿家扈從參云々、具實卿女以東妻、內北
爲休所、車寄其妻
月云々
乘出車之時、第一車可寄東面車寄、三位中將實有、召寄
云々、第二已下可寄御厩東、內北
東面妻戶、末々車可寄
北對妻云々、可寄人雅繼、實經、能忠、資季、親季、能定
等云々、御書使右少將顯定朝臣、件作法依有亞相消息、何
御氣色、委注付送之說被
獻薰物所々、宜秋門、東一條、北白河、陰明之姬宮云
云、安嘉門院被調獻御裝束、無薰
物仍內々可被進、無御使
云々
當時無出來事、時刻推移之間、未時退出、自相門調預
局雜具、椀、手洗、燈臺、炭取、炭櫃、此局不居之、只居火桶、
而不知案內造之、仍送
由有
其命机帳、萌木三重織物、帷、每物可謂殊勝、皆悉時三
浮線綾九甚以美麗、自上可賜之由先日被仰、上章雜仕

裝束于今無昔、仍尋右京大夫付使賜之、雜仕紅梅勻赤色帷、上疊柳紅平衣袴、入夜之間上疊女房等載車一兩、雜仕、ヒスマ、シヤ又乘之、以忠康令前行、可引導局由示之、宰相參會、可引導由日來雖詔付、東一條薰物使祿可取由被催參入、及剋限之間、難參內之由示送、甚失本意、仍只令參共人伊員、光兼、金吾二人也忠康、房任在內裏、可引導如形等由示令、此間雨已降、遺恨無極、從女乘車早速歸來、仍乘之出一條油小路邊見物、夜景不分別人面、又殿上人束七八人已過了云々、人數猶甚多、見出仕物皆參歟、皆是縫腋蒔繪劔如例也、故改節會裝束也取笠覆雨衣之間、每事不分明、御車過了、後騎親房朝臣出車十兩、課選半物車二兩、次殿下居飼四人、取松舍人前駢、十六人歟御隨身如例、御車上座、下臈隨身步行、次相國居飼舍人同前前駢、十二人歟每事同前、次左府前駢五人、次右大臣殿、前駢六人、和屋從五人實親、家嗣、中納言卿、四人歟右大將、前駢六人、和屋從五人實親、家嗣、中納言通方、經通、國通、定高、賴資卿、參議伊平、如木、雜色取松明如何經高、爲家、家光、三位實有、隨身取松明次北政所出車三兩、

殿上人車、半物車等也、見訖歸厓、忠康歸來云、武士固陣禁出入、但又門內見物女充滿、更無其所、此御方上下閉戶不通人、雖寄車更以無計略、構尋景親等、適通局女房之路率下、又辛櫃等昇入局中、參入以前雜仕上、童等共入局中了、所召歸也、事甚不便歟、不審無極、下總權守と云男、自今夜來住此家、

十七日、辛巳、夜雨止、天猶陰、雨間灑、夜前參入之間、無引導者、甚雖難堪、無爲參入、被寄輦車之間、殿宣旨、宣秋門、相公三人參儲、奉仕殿下、大相、內、右府、幕下、外、御坐云々、委事不聞及、窮屈偃臥、世事不聞、無音信人、

出車女房、

- 一、一條殿前內府、冷泉殿通口卿、
二、按察使朝、別當公口、
三、衛門右親輔、民部卿定經、
四、兵衛右宗房、新宰相親房、
五、刑部親房、大貳有親、
六、權大夫盛房、少將信實、
七、左衛門佐兼時、播磨仲基、
八、安倍忠久、成茂、
九、鴨佐通、賀茂口平、
十、童女、辨口基、兵衛佐光時、
女房裝束、

入内日十八具、

萌木二巨龜甲織物唐衣、紅梅一巨鸚鵡唐草織物表着、

紅打衣、文二巨龜甲色々掛五領、薄色、紅梅、蘇芳、款冬、萌木、紅草衣、摺

裳、紅張袴、扇、可被儲殿上人、

露顯日十八具、

蒲萄染一巨鸚鵡唐草織物唐衣、以銀押窠文、梅二巨龜甲織物

表着、紅打衣、文二巨龜丸紅梅勻掛五領、青單衣、褶裳、今度不可然也、泥、以金

永久例如此、青直水文、紅張袴、扇、可被儲殿上人、

露顯日押出女房、

西一間、新宰相東、兵口、二間、衛門、中間、無押出、四間、按察四、別當東、

五間、刑部卿四、大貳東、東面南間、少將南、播磨北、二間、いづれ、三間

童女、辨南、兵衛佐、

十八日、壬午、天晴、時々雨瀟、點廿三枚、定修來、今夜北政所御退出云々、宰相進出車寄也云々、後聞、右大臣殿大將定高卿殿上人恩從、十九日、癸未、天晴、巳時許參殿、中納言候御前、相國被仰之間也、露顯日事、祿事等多有沙汰、少時相國出給、

行北山可立石由被申、宜秋門院今日還御之次渡御、此度被寄御車之間、東面、下地、東一條院御同車云々、藏人範賴參云、明日日吉使、四位侍從闕如了由、於今者相構事不闕之様、有御計乎由有勅定云々、闕如歟、尤兼日可申沙汰、一昨日申此事、尤遲怠由被、仰此事非本分配、依親長朝臣與脫催廻之處、悉對捍五節之間、懈怠不申由申之、於今者力不及歟由被仰、内々以御使、又大貳三位家時等子息令參乎由被仰遣、不經程範賴歸參、少將實清朝臣依内裏仰領狀由申之、予參間以親房朝臣奉書、遣召行能朝臣、未時許參入、束帶、女院還御之後、以親房朝臣被仰今度御屏風清書、殊以感恩食、且依爲長保吉例、雖非尋常馬故可給之也、召中門廊、御隨身二人、下馬、引御馬、續毛、行能朝臣下中門切妻沓脫、渡橋出庭取御馬綱、一拜退出、家面目何事過之乎、書樣存故實、殊有所思書之云々、春始、萬葉集之歌之體、其次如宣命書之、自余以只假名書之云々、今度月他皆既、先先雖皆既、如今度月輪其在所不見、偏如消失蝕、古老未

見、時刻又甚久、其變尤重云々、實可恐事也、於予七十年實不聞不見、司天等又恐申云々、泰忠朝臣國通伊憲等申旨大略同、前殿下今日又御參內云々、臨昏退出、

廿日、甲申、終夜今朝雨降、終日或止、或降、朝點十六枚、自所々尋屏風歌、自殿下賜御書、終日偃臥、

廿一日、乙酉、朝天漸晴、夜月又間晴、雨濕、朝菊湯沃頭、未時許法印來談、仁和寺御弟子宮、御不例、仍舍利會來

月中旬被延、十一月雷鳴、仁和寺宮御慎由世謳歌云云、無指燈、但仁平、高野、嘉應五宮、御時、十一月雷鳴、

十二月有不吉、御事、依之所稱歎云々、臨時祭使經行朝臣前兵衛佐云々、女御殿御方依露顯以前、無如押出事云

云、入夜宰相云、臨時祭御禊、酉時、又可參還立、可有出御云々、嚴重日御禊甚遲忘歎、御露顯日曉出御、頗無

心事歎、定又及明朝歎、

廿二日、丙戌、天晴陰、入夜間微雨、終夜點十二枚、第八經院、

九卷始之、自殿下仰云、女房名字可注進、此事定高卿頻申行、又出車之外不知女房之數、甚雖不可然舊進了、此事后

宮、院、准后人可去之云々、准后名不知事多、仍申其由了、大原小僧能玄僧都弟子來談、定修又來、適依有餘卷受留侯世家、依有讀外傳之志也、

廿三日、丁亥、朝陽晴、未晴又陰、殿下今日還御冷泉殿云々、昨日儀粗聞、御書勅使頭中將、一獻雅綱、二獻師季、三獻伊平、四獻高實、

五獻大將、取入御書女房、兼聞之、具實妹、酉時許渡御、御劔、願定、朝臣、扈從殿下、相國、左右府、大將、公卿着座人、殿下、相國、左右

府、定通卿、大將通方卿、經通、高實、國通、定高、伊平、隆親、一獻親長、二隆親、三定高、親族拜大臣四人、大將經通、高實、國

通、定高、伊平、隆親、爲家、家光、實有、御乳母以下祿取人定高、隆親、經高、爲家、家光、親族拜、兼日、長保督

忠忠輔等不限一門立、應保只殿下兄弟三人立給、文治兼光等相交、仍今度不可限貴種之由所被仰也、但長保

殿上人立、近例不然云々、於其儀者、同永久大治等之例歎、仍記役人耳、

廿四日、戊子、陽景晴陰、近寒、入夜宰相來、昨日終日候內裏、御屏風近習侍臣運弘御所御覽、每事快然、明日

相國初着直衣參內給、公卿不冠從、殿上人三半部車之眉人實經、實作、實清、如唐棟被造云々、主上又渡御云々、昨日同有渡御、女房御共、丙々儀、

廿五日、己丑、天晴、霜如雪、女房昨日依御神事不參上、

大原、今日初着、無物具衣、仍今朝調送、紫染物重其表

柳衣ニ唐山吹唐衣也、午終許行今山河邊見物、及申時

上臈隨身等來集、被出半部車、柄繪之程、五ヲ、袖ニ如

五目被置切、物見車也、棟如唐棟、前駟六人、上臈冠、

唐木花田赤、下臈又騎馬、實任朝臣乘舊車扈從、見了歸來

之間、留守者云、大學頭朝臣來臨、不替香、只、於事有芳心

之詞之由依聞、及來謝之由云々、

廿六日、庚寅、天陰、雪霰間降、近寒、以書狀謝昨日光臨、

他事遺恨由於祭酒、午始許參殿、孝範朝臣又申仙籍

狀、有長朝臣申之、御方違行幸、今夕歸忌、御本不憚歟

由被尋、在繼朝臣申云、雖御本所、於一宿者不憚之云

云、大府卿同候御前、密々仰云、赤龍何瑞哉、儒卿申、

覺母夢見赤龍、朝臨水、龍又現授圖書、伴圖有人形、果

有身生變、變貌即同彼圖、最吉相、即是天子之相也者、

右大將夢、去廿二日夜、赤龍入殿下御口云々、最吉何

事過之哉、御參內自然遲々及晚之間、日臈裝束之

後、予強取老儒慣狀進御手、快然令懷中給了、予退出、

窮屈甚而腰痛難堪、今夜行幸持明院殿云々、別當入南

山精進屋云々、大藏卿承仰、明旦參御室云々、

廿七日、辛卯、天陰、神吉、近寒、未明大府卿可參由、密々告覺

法印、月他皆既之變殊重、尤可被修大法、何法可宜哉、

又有御勤仕由也、可被申云々、此御時未被修大法云

云、午時出京、日入以前着宿所、乘燭以後奉幣、親成孫

不來會、不申祝、行步不叶、進退失度、即歸宿所、成茂

來談、女子官仕可扶持事等、亥時許參通夜、指出

廿八日、壬辰、天晴、懺法訖歸宿所、鷄再鳴赴歸路、於大

津天明、辰終歸家、纖月出山之後也、山次湖邊寒風吹水、老

骨失度、終日平臥、後聞、行幸供奉、張綱具實、盛兼、爲家、

基保、實有、光俊、公長、長清、顯平、初供奉還御兩納言

不候、

廿九日、癸巳、左右大將、朝天沍陰、午時許行能朝臣來臨、扶病相謁、御屏風叶御意之由欣悅、修明門院御發心地重令惱給云々、極寒之比非尋常事歟、可憐、昨日老骨猶以難堪、不能出行、傳聞、賴次二禁病危急云々、末代獨步者也、可惜可痛、

卅日、甲午、天晴、辰後陰、已後雨雪隨風、故入道殿御忌日、恒例事等送嵯峨僧許、雖奉迎持佛、於此事者不可望約束由所云置也、但於此佛前、興心房可被行廿五三昧由約束了、雨雪依有路煩、以車迎僧、乘燭以後修法訖行粥、又以車送、此間每日參殿下、被奉護身、仍坐此一條虛空藏堂云々、右大臣殿、此女房每事穩便言語分明、他人皆耻人、現未練氣色、不能問答由令語給云々、老者之得分歟、

○十二月小

一日、乙未、夜雪埋庭草、天晴、午時許詣今出河奉謁、參殿日蒞、兼岑望申召次長事、道理歟、久清已被補左了、右府生未定、兼朝左番長、又懇望云々、資親云、忠定卿自去年

病惱、此間增由云々、昏有旬御被、乘燭以後退出、二日、丙申、天晴、午時參殿、召次長、兼岑、兼藤、武信數望、久清左近、今日御參內、可被奏聞云々、辨有親役夫工奉行、與造宮司隆通不和、依此事不可辭由被仰、大法自十七日可始云々、大藏卿直衣參、日入之程退出、入夜宰相來、一昨日御堂殿下、右大臣殿、賴資、經高、爲家、行香之間、殿下令入簾中給、右大臣殿已下皆下簀子、大臣殿即復座、自前令進給、賴資已下殿上人自簀子進入机南間云々、殿下入御之間下立、公卿各取笏如何、予所案撤劔笏了、何把笏乎、今日參內、參修明門院、自是可參御堂云々、已及深更、殿下御參遲々云々、不可然事歟、基良卿參入由聞之、依夜深參了、三日、丁酉、天晴、入夜風雨、終夜不止、夜前宰相參、即殿下入御云々、右大臣殿、賴資、親定、基良、爲家、公長、宗宣卿、重長朝臣已下五六人云々、未時參殿、召次事兼岑天氣宜云々、夕退出、定修爲法成寺見聞來、夜深靜俊等相具出云々、

四日、戊戌、天晴、入夜微雨、終夜降、定修云、探題隆承之黨、拔三尺劍追四方之人、昇道場猶欲斬堂上之人、濫惡所爲古今未聞云々、兵具禁制之最中、非器探題之所爲甚不便歟、如此事尤可被禁遏哉、今日定修令受文選兩都賦風秋興雪賦、夕歸、

五日、己亥、朝天晴、巳時參殿、隆承惡行兼被仰舍、申可制止由、致狼藉依甚奇怪、可追下乎由被仰了、其身可被解官歟由被仰、尤可然由申、右大將被參、未時許退出、心寂房來云々、夜前殿下御堂御參、按察參入、行香自座前進、自簀子復座云々、左大辨自簀子進、兼岑召次事、一昨日被仰下了、久清左近年預御車副管領事同被仰了云々、皆是勅定、至極理也、右大將番長武信依召繼競望、不可出仕由怨爵云々、兵仗所望之同類歟、於殿下御隨身轉任者未被仰云々、入夜女房自禁裏退出、六日、庚子、霜凝、天晴、午時許備州來、相逢、後參四條坊門大納言殿、九月凶事之後初參、見參移漏、入夜歸、夜深雨降、

七日、辛丑、朝天晴、午時參殿、中納言申雜事、大藏卿參會、夕退出、入夜女房歸參、昨日沐浴、八日、壬寅、霜凝、天晴、孝範朝臣兩度送書、尋其所望事、

九日、癸卯、霜凝、天晴、去夜曉鐘之程炎上、即滅、花山院東小屋云々、彼家侍宿所群盜入放火、斬殺盜於近衛高倉辻云々、午時參殿、心閑見參、夕右大臣殿令參給、即令參內給、重長朝臣參會、於御前狂談解頤、乘月退出、

十日、甲辰、沍陰、光行入道日來請取六十賀、其年六十七云々、更不得其錢赴關東、歲末貧老雖難堪無極、不堪譴責、今朝書送二枚了、忠弘法師自北陸音信、國領悉雖爲新立庄、

於國務無殊障難云々、此家小童爲家、依外祖引導、今日行向老尼宅、可爲猶子云々、伴禪尼彼禪侶知行之庄領家也、年

來和與之間、示付此兒事云々、入夜歸來、得草子宮、入道來會扶持云々、今夜內侍所御神樂、木陸範、末資雅、笛經行、實俊、野有資、並能平、殿下御參、始終聞、

十一日、乙巳、霜如雪、天快晴、入夜雪飛、詣相門、來十

五日兵仗辭退被上表云々、十七日孔雀經法始、一事以
上有沙汰之由、信盛俄來示、先日雖少々被沙汰由、來屬之後無音、俄仰此由、不足言事歟云々、
明年節分又可有行幸此亭云々、藤相公、尊實法印相謁、
其後參殿下、自昨日御內裏云々、仍歸廬、宰相勤神今食
云々、非下合、上卿賴資自去年每度勤云々、辨時兼、少納
言爲綱、

十二日、丙午、天晴、雪白、欲參殿下、猶御內裏云々、仍
詣右幕下、被參內之間、於西出居被謁、不經程歸廬、寒
風出行甚無由、宰相稱入道可來由、爲相逢愁又夕可來
由示了、夕告來臨忠弘宅之由、月出後行向、心閑言談、
歸了後歸廬、夜深宿東北小屋、昨今風病甚不快、聞鐘
歸來、月未入、

十三日、丁未、朝天陰沍、午時許伊勢前司消定來談之次
云、禪閣內大臣儘可上表之由、山誼資給、聞儘說云々、未
時許參殿、三位入道、能季卿參會、談往事、同時見參、
僧正御坐、信定有長朝臣數多難事等申之、夕退出、右
兵衛督被來云々、言家來云、正月二日朝覲行幸爲給勸

賞、可補院司之由被仰、又樂所饗可致沙汰、勸饗者必、武預賞云々、
衛又聞此事、多勸修寺等勸此事、可云合由被示云々、
予云、勸樂所饗院司預賞由等年來之間、惣以不觸耳
目、是自身不經、又非識者之故歟、被加院司之條、只可
謂面目、尤可所望事歟、竊以、近代爲近衛司輩多不補
判官代、以之爲凡卑歟、但故右兵衛督多年五位判官代
無官、也、又以知光幼少、同補之、於家不卑事歟、院判官
代何劣邦綱成親等從者乎、人心不同事歟、此侍從世間
出世、惣不及教訓事歟、入夜微雨降云々、

十四日、戊申、朝天陰、午後晴、右武衛被過、淡州國務存
外事等言談、夜前俄可有朝覲行幸之由有其聞、不得心
云々、今日家中令煤拂、歲月如馳又過臘月、每時節之
推移、增殘涯之悲、未斜參殿、大藏卿暫言談之間出御、
二日朝覲行幸可候歟由申、仰云、不聞及、縱雖中下旬
行幸、尤兼日可有沙汰、況元三事、爭無兼日汰汰乎之由
被仰之間、有長朝臣持參按察入道書狀、隆親參熊野之
間、只今承朝覲行幸可候由、院中事卒爾極不審之由

也、極被奇、依日暮入御、各退出、世間之儀極足奇、夜小沐浴、

十五日、己酉、自夜甚雨、申終青天漸見、咳病殊增、後聞、春日小路室町邊有火云々、不知之、今日荷前云々、前大相國被上兵仗辭退表云々、

十六日、庚戌、朝天陰、雪飛降、朝現行幸事、其沙汰出來由、有長朝臣示送、荷前納言賴資、參議經高、三位光俊、長清、基定卿參云々、尊實法印被來談、未時許聊聞召由參殿、依御風無出御云々、以維長給一卷物、可註加之由被仰、給之退出、昨日兵仗辭退延引云々、朝現行幸又依難叶延引、入夜女房退出、依有病氣也、

十七日、辛亥、天晴、未時許心寂房來、入夜宰相來、今日孔雀經法被始、御室御參、與光俊卿參向奉引導、令參二間給、有御對面令退下給、奉送退出、近習殿上人等兩三直衣上結取脂燭、職事信盛不催儲歟、是又不知案內之故歟、若有出御者、御劔將可入、束帶可儲由、示基氏朝臣了退出云々、末代職事貪欲偏頗之外不知事、堤

防甚不便、御佛名可有詣申由、資季不可令聞於人之山示氣色云々、一昨日宗平朝臣問此事、粗注送、違彼人心歟、一昨日火事、夫左衛門尉殺其妻、我又自害、放火燒死云云、或云、是又非本心、狂亂所爲云々、妻近江國住人、夫右大辨侍云々、

十八日、壬子、天晴、沍寒甚烈、風吹乾草、微陽沒寒林、女房有小雜熱、不歸參、

十九日、癸丑、霜沍、天晴、地上悉氷、午時許詣相門、即奉謁之次、申參殿之由、聊有被傳申旨等、即參殿、覺乘僧都參由聞之、於泉方相謁、今年滿八十云々、暫言談之後參御前、所入蘭林坊盜爲武士被搦、如此事尤可被行賞之由所被申也、又法成寺丹波五ヶ庄經時佛供已下、皆闕如由承及、如此事極不便候歟、又隆承狼藉事何様沙汰候哉、仰云、已被行了、隆承解官、止公清、付使廳被召下手人也、弓場始明日被行、弓矢已下物具闕如、尋出哉由被仰、仍私弓等取寄經御覽、射手勤了、所持弓矢頗相替歟、仍猶有御尋、又於御出居、以兼康朝臣令書佛

名次第之間、人々云、北政所頗有御違例事、但護身之外當時無他事、依窮屈、秉燭以後退出、猶以使着令伺聞、無別御事云々、

廿日、甲寅、天晴、已一點許參殿、右大臣殿御料弓物具等依仰持參、弓、弓袋、矢、又夜前所書一卷物同進入、依仰猶書直之、年來言家許預置弓鞆等今朝送之、仍又進入、殿下令加座給了時、先例借召預中將弓云々、件人若不持歟、爲用意猶內々可被具之料也、未時許職事範賴參、申公卿散狀、右大臣殿、右大將、土御門中納言、二條中納言、左門督、侍從宰相、左大辨云々、此中無射手、若公長卿爲上首歟、能射無納言、甚見苦事歟、賀茂正祝死去、爲新補者御尋、社司等被召云々、今日忿忙、明日可參由被仰、大藏卿參、及申時入御、予退出、夜深女房歸參、

廿一日、乙卯、天晴、少將教雅朝臣以使着、宿病逐日加增危急之由示送、甚不便事歟、就中鞠秘事故實獨相傳、甚可痛事歟、已時許宰相來、夜前弓場始不着座、早出後吉田、只今自吉田來、夜

前御室令參御加持給、有御對面、令退出給之間、催殿上人等、令取脂燭御送參、賀茂等珠令參會宜由又有御氣色、弓場始公卿、右大臣殿、右大將、大納言家嗣、中納言通方、具實、參議爲家、已下不着入無名門、三位公朝、顯平、所掌範賴、宗平、將、第一取御

劍資季、將、第二召仰、的力へ日、殊經資俊、定平、親氏、氏通、上座、射手、公長卿、隆綱、定平、賴俊、顯平、陪膳、頭親長、藏人經光、四位能忠、今一人不見、役送、範賴、奉行不觸官、亥時觸催、當時無公事之時、

陣座無聲、出納俊基、主殿察年預專一者、馳走、堂燈敷座云々、居衝

重者、宗氏、宣實等歟、一昨日佛名、右內兩府、二獻杯內府取給、

家良、通方、具實、賴資、基良、經高、爲家、家光、範輔、

出居宗平、資季、有教、資俊、定平、具教、堂童子宗氏、

貞時、宿申次將立弓場柱外、如箇文晴儀、宗平、資季、定平、具

教皆立云々、佛名弓場始、蒙衣女如五節群集、諸公事皆如此云々、

今夜可參尊勝寺灌頂、分配具實卿上、安嘉門北白川御佛名皆

過了、賀茂權祝保孝來云、正祝去十八日死去、轉正當

其仁者、昨日社司可皆參由被仰、有申所勞輩云々、今

日已暮、明日可參由被仰、是且子細爲有御尋歟、何被

行非據乎、早參可申披所存由示含了、侍從來、每度陳

四位所望事、官途亦有其期歟、

廿二日、丙辰、天晴、風寒、詣相門、午時、被立車宿屋、二

東有國身所二同、爲節分行幸御與宿云々、即奉謁、花山院入道處

分施法眼庄、美濃國平家領、平家滅亡時沒官、自關東被渡姉妹所領之內、分一庄被領兩女子、其一方當時所知行也、

忽稱安嘉門御□成、成應御下文、二品下使者之由、有

長子、有範周章來告、件使者急可張代、平家領故前大將沒

官之後又無領主、今所稱定謀書歟、更不可用之由、庄

家可答之由示含訖、如此事偏是宗行所行歟之由、有怨

怒之氣、如此不善之輩、又聞此命定忿怨歟、事漸體力

甚無由、兼岑又訴、賴次分知之領賜御下文了云々、如

此事更無被仰合人々之沙汰、妄被行、甚不便事云々、

退出參室町殿、右大臣殿早御出云々、即參殿下、右大

臣殿官奏事有御習禮等、賀茂正祝死闕事、爲被尋仰、

祠官氏人五十人許參集云々、親房朝臣傳仰之、有其理

之輩、各無偏頗矯飾可申之由被仰下、久清參入、聲兼

俊賴次三神庄事歟中、可有御沙汰之由等被仰、日入以

後退出、逢侍從、教定、問兄少將所勞事、大略及大事由

答之、殊驚歎由可被傳由示付之、戌終許南方有火、頗異、

河東云々、巷說、蓮花藏院燒亡云々、是又金物盜之所

爲歟、又云、尊勝寺異塔云々、

廿三日、丁巳、自曉微雨、終日降、定修來、讀文選西京

賦月賦服鳥等、夕歸、夜前火蓮花藏院異角塔二基、先東三並

次高次二條南十一面堂、風不吹而滅了、金物盜所爲云

云、

廿四日、戊午、朝天陰、霧深、陽景漸晴、風烈雪飛、寒風

難堪、不出戶外、興心房被來之次受戒、故尼上忌日也、

今夜東一條院御佛名云々、女院近日御不例、興心房依殿仰每日云々、風雪減云々、

風雪慘烈、泣寒難堪、

廿五日、己未、夜雪、宿朝天晴、今日孔雀經法結願云々、

去夜佛名、九條中納言、宰相爲家、家光、三位長清、基

定、四位院司能忠奉行、信盛、宣實、高嗣、長氏、納言自

長押上進、不下而取祿、行香經僧座後云々、未練之路

歟、密相背上稿不能用別路、示告て御子向南令立云々、承明門院姬君土御門院日來令

惱給之由聞之、今日尋申、黃門局無申限大事御由答

之、水腫歟、今此女房自幼稚奉付、定又周章歟、母儀通宗相

三年一腹皇子數多云々、今年二十歟、昨今如例精進、

寒天病者念誦猶不堪、良算法印送勘文、明年三月九日

其慎重云々、頽齡六十九、不圖長命也、將奈何乎、七十

年在世、遂無資糧、欲知過去因此謂歟、

廿六日、庚申、天快晴、宰相參日吉云々、午時詣相門、昨

日參女院、賴次誤與三神庄事、急可返給之由申、即召知家

令書下訖、綾小路宮參會給、尤可然由申給云々、昨日孔

雀經結願賞被申請、兩々事共以勅許、御弟子宮叙二品

給事、已被上乘院法印其惠、後法性寺殿任權僧正給、於一家

例由年來歎息但殿下於此事者、以追懼之次可被行由令申

給云々、退去之間逢家長朝臣、暫言談、次參殿下、未時

以後參御前、數箇奏事等無其隙、寺僧正御房御坐、明

日參御加持、官奏可無骨歟之由令申給、官奏夜深歟、

當時右大臣
殿御坐被亭

若有御產御氣色者、如何之由雖申、更不可有別事之由
被仰、覺寃法印爲御室御使參云々、昨日事令悅申給
歟、予出相謁、無嚴重之儀等、感悅之由相示、云折節云
兩箇賞殊欣感之由及落涙、殿下御返事之趣又以同、天
變等候トモ、此修中不犯而過訖由承之、尤法驗候由等
也、御室御書表書關白殿御判、被入文宮、近代多物
也、時給昏黑
入御之後退出、今日以兼友被補右府生、兼岑參入悅畏
申云々、於賴次所領事者、不承御氣色
以前事失錯山水被申云々賴種被渡、左番長高階爲
仲夜前群盜入家、元三出仕不可叶云々、教行國基所勞
已待時云々、
廿七日、辛酉、遲明寒降、辰後雪漸積、已以□□□□
甚雪、未後雪二尺、雖溜落不消、□保孝近口轉
正親來云、遂
所望已轉正了、但本祝所知神領未被宛、所勤神事繁多
之職、無其祿難勤、爲之如何、書消息示送有長朝臣許
了、
廿八日、壬戌、天晴、庭雪漸解、午時許參右大臣殿、室町
殿依
無伺候人早出、參殿、依御沐入御云々、與大藏卿言談、臨

時客止了、山來所存也、當川元三猶可御此殿、又立后猶延

引、可爲二月云々、是又長保之例二言家所示之叙爵者事、

付右京大夫申入、於氏爵者去春申請、每事有恐、以臨

時爵被載叙位示由也、不承御返事、重可伺由來示、日

沒程退出、京兆語云、去廿日從三位隆仲卿出家云々、

大納言隆房卿一男、母前院右衛門佐、自上皇御在位之

時昇殿近習、經右衛門佐右近少將、父卿辭大納言、去少將

叙正四位下、任內藏頭、叙三位、神樂催馬樂風笙傳家

秘曲悉受庭訓云々、本性以不及父祖之家跡爲怨、不

好世間之交衆、況承久以後偏寵居、遂辭信濃之吏務、無

冠帶之志、此冬一門後輩無能藝之輩三人相並超越、彌

增遁世之本意歟、適繼家習道之輩又如此、以何識後輩

哉、可惜之人也、年五十云々、又云、故中納言長兼卿三

男前八省輔、去比有謀害之間、詐任國司、其事以尊實法印

說先日聞、其兄長朝不堪忿鬱、殺舍弟云々、或謀害、或殺

害、恰恰不義非恒規歟、父卿誇稽古之自讚、輕當世之傍

輩、恣稱賢廉之由、偏吐驕慢之詞、老後漸背時儀、如被

棄置、光親卿超越從二之後、謳五噫謗朝議之由達于上

聞、又增不快、成恐書誓狀進于仙洞、其後屬文器量嫡男

逝亡、身忽中風、殆無分別而終命、遺跡已如滅亡、所殘

子息又如此、冥鑒如何、不知可否者也、入夜宰相來、追

懺依無參人、申可參由、

廿九日、癸亥天晴、雪解、寒天窮屈不出行、念誦塾居、臨昏

解除、入夜修鬼氣祭、南門、年始女房裝束調出、昏黑之後

送之云々、元日、薄蒔木、紅草、紅打、山吹表襲衣、二日、二色

打表單衣、同表襲物、柳表襲、同唐衣、三日、表白紅梅、號下、川仙文

已上張袴、四日、不着物具、紫勻、表近年流布、又元日早

旦不着裝束以前料、らうものの紅梅捻合單衣、浮線綾

柳唐衣、此御方不着薄衣、只着單衣、仍捻合云々、ネ上童

二人、紅梅薄勻、後聞、紅單衣、雜仕有制着紅梅云々、

雜仕一人柳柏、紅單物、二藍帷、今一人色々柏、各着唐

綾小袖云々、少年之時不見聞物也、最勝光院供養日、

安元御賀三ヶ日、唐綾織物等五領三領、小袖女房着之、

尋常時只着平絹云々、於近年者上中下偏用如此物、京

中織手織出唐綾也、漸過夜半宰相書狀到來、上卿盛兼

卿之外、辨少納言一人不參、小除日、玄蕃允平重信、木

工允平光成、登岐守清原宣業、左門尉平光□、從五位

下藤保範、藤兼高可爲本位、僧事權僧正良惠、權少僧

都道智、此外猶有兩三人云々、法親王二品、孔盜、建保

二年除夜除名之時、予結政請印、歷十五年復本位、人

之宿運可悲事歟、書付之間、聞曉鐘、竊以、此事不得心、年來若五位飽隨此御邊

所役、或爲奉行家司、今始本位如何、

御入內之間役人、後日基邦朝臣注送、奉行勘解山次

官忠高、前甲斐守基邦、

御入內、十一月十六日、內裏御直曹立御帳人、忠高、親氏、

不參、經俊、

御調度役、有長朝臣、重長、家國、盛親、家盛、教

行、諸司官人等、

御出立所、立御帳并御調度事、基邦、

御衾迎向右大將家人、但馬守兼康、下家司、右史生

康職、

童女裝束、盛親、

打出刷事、仲家、

勘御着裳日時事、大膳權大夫在繼朝臣、

所々御使申次、忠高、

敷圓座人、主人爲仲、使教行、

東一條院御使、兼物、左中將資季朝臣、取祿人、女裝束、

平宰相、手長、取祿物進御所、兼教、

北白河院御使、御衣、侍從能忠朝臣、取祿人侍從、女裝束、

宰相、手長、取御衣進人、重長、

宜秋門院御使、兼物、左中將師季朝臣、取祿人、左大

辨、手長、取祿物、兼仲、

姬宮御使、兼物、侍從賴行、取祿人、白裙、右中將有教朝

臣、取祿物、爲仲、

所々御使應官仕丁等祿、應官六丈絹一疋、仕丁布二

段、已上、政所沙汰、安嘉門院御衣內々被獻、

寄出車人、一車三位中將、二車以下、能忠、資季、親季、

能定、

刷衣人、仲家、盛親、

御書勅使、左近少將顯定朝臣、申次、家司忠高、

敷勅使座人、疊爲宣、仲雅、齒爲仲、

召勅使人、忠高、

一獻、權右中辨爲經朝臣、傳杯諸司官人、瓶子、兼教、

敷垣下圓座人、家國、

二獻、土御門中納言、手長兼仲、瓶子、宗氏、

勅使肴物、兼康、教行、

垣下肴物、家國、

三獻、二位新大納言、傳盃重長、瓶子、知宗、

祿并御返事女房、

御倉小舍人勸杯、上官五位、外郎大夫兼康、瓶子、所司二分、主計允宗尙、

取祿人、六丈和、二定、上官五位友宗、史大、

反閉、在繼朝臣、取祿人、右京大夫、白糖、家國、

付御車人、左中辨、親房朝臣、有親朝臣、

諸司二分十二人、

彈正口國壽福右京屬彈正忠同大膳通修理進國齊九主計允宗重、久行、久則、康重、久茂、久忠、定廣、景重、宗尙、

左門忠左史生右史生、親康、康職、久賴、

寄御車人、右大臣殿、右大將、

路次行列供奉人、

師季、宗平、有教、實世、親長、

資季、基成、時綱、定平、雅繼、

有資、隆綱、有親、實蔭、時兼、

爲經、實經、家定、具教、隆盛、

兼輔、顯定、信時、實任、家任、

公有、親氏、實清、信盛、光資、

知宗、顯嗣、忠高、範賴、雅俊、

宗氏、教信、親季、經氏、經光、

能定、宣實、兼宣、範繼、忠俊、

經俊、兵部權大輔、公員、兵衛佐、

地下公達、

有長、言家、重房、資親、教定、宗教、長信、

諸大夫、

資高、家長、業家、有長、兼教、親氏、

信説、業基、以忠、基邦、爲經、定俊、
爲綱、高嗣、賴俊、朝房、仲雅、知雅、
懷兼、教行、

已上七十二人、四力

御車、

御車副十二人、宗次、宗友、重弘、國友、正清

國吉、安清、宗次、代、重吉、代、國吉、代、行友、代、

武延、代、

後騎人、親房朝臣、

出車、土御門大納言、源大納言、藤中納言、權中納

言、左衛門督、富小路中納言、右大辨、左兵衛督、

一條三位中將、右兵衛督、

前駟、兩別一人、左門尉大江盛範、平弘綱、中原行

景、藤俊親、紀久宗、中原氏秀、平季繼、惟宗賴景、

藤康光、右門尉三、季尙已上檳榔毛、

網代車二兩、賴氏朝臣車、右衛門尉知忠、實經朝臣

車、右衛門尉長康、

殿下前駟、維長、爲仲、懷定、時光、忠輔、基重、
家盛、成繼、忠泰、時長、

扈從公卿、前大政大臣、左大臣、右大臣殿、

前駟六人、重長、家國、兼康、兼仲、
康長、藤賴季、

二位大納言、二位新大納言、右大將、三條大納言、

大炊御門大納言、土御門中納言、高倉中納言、坊城

中納言、二條中納言、新藤中納言、二位宰相中將、

別當、平宰相、侍從宰相、左大辨、一條三位中將、

北政所出車三兩、家定朝臣、前駟右衛門成季、實任朝
臣、兵衛紀久家、賴俊、馬允藤通樂、

門路出車四兩、八葉
侍車、扶持侍從近藤能親、左馬允紀朝宗、

御輦、左近將監藤光成、

付輦諸大夫、兼教、親氏、惟長、爲仲、基邦、重長、

定俊、朝俊、朝房、高嗣、兼康、兼仲、教行、

几帳役人、諸司二分同上、右大臣殿、手長雅
繼、右大將實

經、

候近殿上人、資季、雅繼、實經、

賜吉上祿、白布
廿段、下家司家尙、久忠、

女房下車扶持人同上、

饗座公卿、左大臣、右大臣殿、三條大納言、高倉中

納言、二條中納言、新藤中納言、言別、當平宰相、侍

從、宰相、左大辨、

初獻、頭中將、光成、傳之、瓶子、光成、

二獻、別當、傳之、瓶子、兼實、

汁物陪膳、左大臣、有長、役爲仲 右大臣殿、陪膳同、

役重長、

三獻、高倉中納言、傳之、瓶子、能定、

御膳事、襲御膳、不知之、召內侍祿、女裝束、加綾裙一重、

內々進御臺所、

第二日、饗座、十七日、殿下 殿 土御門大納言 源大

納言、二條新藤中納言、侍從宰相、左大辨、

初獻、頭治部、孟光成、瓶子、同、

二獻、侍從宰相、孟敦行、瓶子宗氏、

汁物、殿下、左中辨有親、役重長、右大臣殿、有長朝臣役、

三獻、賴資卿、瓶子知宗、

第三日、殿下、右大臣殿、右大將、土御門中納言、

二條中納言、左衛門督、二位宰相中將、平宰相、左

大辨、

初獻、頭中將、孟光成、瓶子、同、

二獻、平宰相、孟忠泰、瓶子兵部、季房經俊、

汁物、殿下、爲經、右大臣殿、有長兼實、

三獻、左衛門督、孟基重、瓶子光、資御露顯、廿二日、

刷打出、仲家、童女裝束、盛親、居公卿殿上人饗、兼

居之、諸司官人、右大將相具三夜餅被參取進、兼所女房右衛門

佐那基那、

御書勅使、頭中將、申次忠高、

敷帖、爲宣、懷兼、敷茵、以良、

召勅使、忠高、

初獻、雅繼、瓶子爲仲、

二獻、師季、瓶子惟長、

敷圓座人、基重、家盛、兼康、

居勅使肴物、基重、家盛、

三獻、二位宰相中將、兼、瓶子少納言、兼、垣下肴物以良、

四獻、九條中納言、傳盃惟長、瓶子經氏、

五獻、右大將、盃爲仲、瓶子光資、

徹肴物并座初人、

掌灯、公卿座上、

基重、以良、忠泰、

座下、仲、懷兼、

南廊、爲宣、忠

泰、晝御座、

基重、以良、懷兼、

御倉小舍人座、五節、所東、假庇、

勸盃、大江景康、

外記、大夫、

瓶子、

諸司三分、

取祿大江宗友、史大、

公卿座饗役、

不知之、依主、上渡御也、

女房殿上人以下祿、奉行家司、親房朝臣、藏人方信

盛、

取女房祿人、定高卿、賴資卿、經高、隆親、

爲家、家光、

供三夜餅人殿下、

參公卿、殿下、前太政大臣、左大臣、右大臣、土御

門大納言、右大將、大炊御門大納言、高倉中納言、

九條中納言、坊城中納言、中左衛門督、新藤中、二

位宰相中將、別當、平宰相、侍從宰相、左大辨、右

大辨、一條三位中將、

着侍始家司職事、長朝、兼教、忠高、家司、親氏、惟

長、基邦、兼宣、高嗣、唐吉、

有官、厚尙、宗尙、行兼、政章、所司、藤俊清、同俊

親、中原成季、同宣季、所司、

衆、中原行繼、紀久氏、中原季有、

雜仕六人、賜當色、彌孫女、曾孫女、姓女、已上、千壽

女、祇壽女、葵女、已上連、小舍人六人召付之、

廿六日御祈始、神事河臨御祓、在繼朝臣、使基邦、

佛事仁王講、僧名、法橋退眞、承舜、大法師與尊、

御布施取、惟長、高嗣、基邦、

御湯殿始、辨所司沙汰之、

十二月八日被理三日夜餅、家司爲經、職事基邦、

下家司親兼、應守國近、

御露顯、主上渡御々共、殿下、前太政大臣、左大臣

右大臣、右大將、御劔、顯定朝臣、

着座、殿下、前太政大臣、左大臣、右大臣、土御門

大納言、右大將、土御門中納言、高倉中納言、九條中納言、坊城中納言、二條中納言、左衛門督、二位宰相中將、別當、

初獻、治部、瓶子藏人仲遠、

二獻、別當、瓶子宣實、

三獻、二條中納言、瓶子宗氏、

親族拜、申次、頭中將、

取御草鞋人、殿下、一條三位中將給之持參、女御殿

御方又進、

下殿取紙燭、付女御々方燈呂事、右大臣殿、

寬喜二年

○正月大

一日、甲子、朝陽忌、血忌、天陰、午後雨雪交降、遲明奉拜神社、辨色識法錫杖、阿彌陀經了、讀壽命經尊勝陀羅尼藥師

經、巳時許齒固、即撒之、今年稱物詣之山、自然音信之人依無心也、及未尅雨猶雖交雪、徐欲積、萬頃同縞、千巖俱白、少時雪又止、雨猶降、所々拜禮定止歟、屬夜陰可被參節會之由示送宰相、存其旨之由答之、

二日、乙丑、朝天晴、宰相示送、昨夕參內、子始許小朝拜、殿下、右內府、右大將、三條大納言、實親、土御門中納言、通方、權中納言、實基、左衛門督、富小路中納言、

盛兼、別當、平宰相、侍從宰相、右大辨、三位中將、實有定高、家光卿早出、以下不立、兩頭信盛、經光、六位雖被尋不立、節會、雨儀、內辨、內大臣、外辨實親、通

方、具實、盛兼、參議四人、別當二獻之程退出、御酒勅

使、經高、宣命使、爲家、內辨具實、盛兼、三宰相給祿退出、

賜唱、殿下拜禮、今日

拜禮未定、若有者三日則當稱云々

未時宰相來

之間、右少辨同時來臨、不能隱居、先以相公令謝、次面謁謝返之、今日相公參幕府、右大臣殿、大相國、北白川院、此後可參殿拜禮云々、過夜半之程歟、宰相送使、北政所御產氣御、有長朝臣又送使者、驚起尋牛僕之間、

鐘聲側聞、即參入、忠康等來車下云、御產早速成了、今

一事遲々歟、即參上、宰相_{直衣}云、於御產者大略不參以

前成歟、大將參入給了、未被出、予廻寢殿異方、南方第

一二間伴僧等候、大阿闍梨各加持、東面緣陰陽師_{五人}歟、

列座、御被、其比人々少々候歟、尋侍聞之、_{御產今一度平安成了、例御都}

{氣事御云々、}親房朝臣、有長朝臣、親季、{布衣}維長、兼仲、能忠

{是定事也、}朝臣{直衣}、等候、招出有長朝臣見氣色、當時猶非無爲歟、

良久僧正御房殊加持、御音高打邪氣之響等聞、此後右

京右馬兩人出來、無爲之由各悅氣、殿下可令參、宿內

裏給之由兼有儀云々、_{御產}維長_{牽行}、催御隨身等、若有御出

者、能忠朝臣兼仲之外無着冠人、定無人歟、宰相可令

參御共由、以兼仲申入、御座成後頗經程了、仍先被申

事由、隨仰可有御參內之由被仰、此後又經時刻所遣召

之信盛適參入、爲御使參內、又以良久、仍予先退出了、

{外人一人不}參、{不聞歟、}拜禮之儀間宰相、參之後、及一時許事始、右

大臣殿、九條中納言、_{願退發立、少將氏}二條中納言、平宰

相、左右大辨、三位長清、已上、殿上人兩頭、資季、定平、

辨三人、爲經、時兼、光俊、五位藏人三人、勸解由次官

二人、家司只基邦一人、在光俊之中云々、公卿皆乍列、

大臣殿令歸出給、_{定高已下}宰相其後參堀井宮、幸住院

僧正座主御房云々、明日幕下可被參九條殿、可愿從云

云、

三日、丙寅、天晴、入夜大雨、終夜不止、予歸家之間、東

方漸明、付相公留置僕從不歸、日漸高、依不審又送

使者、辰時許宰相退出、給祿之後、可產穢、早可出由

以右京被仰、殿下無出御之儀由示送、但大相曙被參、

幕下未被出云々、甚奇思者也、申時許定修來、元三法

師不可然、未練所爲歟、參吉水慈惠大師講之次云々、

漏講師請朝思、述懷貧僧全不可愛事歟、今日御有樣不

聞及、如當時者無爲歟、皆以宗弘爲被尋申與心房、御

座無爲之後、例事經程之間、雖周章、已時許之後、殊以

無異神妙之由被答、

四日、丁卯、朝猶少雨、天陰、宰相示送、昨日參東一、宜

秋、宣陽、_{入殿}嘉陽、陰明、參內、內府參女御方給、_{被奉}

中、次參北白河院、拜禮中納言通方、實基、盛兼、參議隆觀、經高、爲家、範輔、三位光俊、長清、殿上人親長朝臣、基氏朝臣、實清朝臣、光俊、知宗、親高、範賴、六位申次親長云々、北政所今度頗御先令之間、幕下已產穢不參所々之由、以宰相被申內裏云々、其後無別御事云々、

未時許參殿、例男之外召具雜色一人、少時出御見參、僧正御房同御座、無齋穢披單、端懸泥御坐、但入殿中奉護身給、依御持僧也、被仰雜事等之間、右大臣

殿、非源、自庭令參給、仍下地出南方、依無路便自南面出

中門廊、御共次將達甚晴之交衆也、令廻車出西北門退出、爲被奏叙位事、再三召治部、于今遲參云々、惣以不

法之人也、傳聞、常入座下侍、以主殿司令燒折松、六位

藏人於今者皆比肩交語、更無上下之禮云々、禁中無貫

首云々、中將又不仕、不堪、不見、不聞云々、仰云、元日

內辨無指違失歟、依腹痛一献之程退出了、但御膳遲々、

內辨自下殿被催、大納言作法歟、大納言猶於一門者、九條殿大納言之時、被

仰參、仰參、議催之、所被存不番、叙位執筆上勤仕云々、

入夜有叩門者、言家來云、參女院申四位事、二位參會、

殊被仰舍、丁寧可奏之由被申、當年御給□、範繼母黃門又懇切、二品又可奏之由領帖、兵衛佐光成上薦也、右武衛聞之鬱訴、此事不可申之由被仰、甚以不足言事歟、嚴父舊賞已讓、不及變改、此事又難治之由怨鬱云云、

五日、戊辰、夜雨止、朝天陰、去夜無量壽院、右大臣殿、

爲家、公長、經時卿、燈明聊乏少、次五位只一兩云々、

已時參殿、進行能朝臣昨日示送帖、又有被仰事、出候

御前之間、中納言參、進關東兩人書狀、時房奏時各別

書帖、共阿野少將上洛、此人被申事、付便宜可然之樣

可有披露由也、少將實直事云々、暫申雜事之間、右大將殿令

參給、如昨日下午庭昇南面方之間、行步不叶顛倒、有長朝

臣見之來訪、但無殊損事、只老屈之令然耻而已、少時

令歸、參內給之後、又候御前、納言相共承雜事、詣女院

御給未被申所多、當時聞事、又頭親長朝臣進目六等、

少々伺見、申正三位、實宗、申從三位、行能、申正四位下、

有資、實司院當年資俊、定平、雅繼、爲上薦、不可抑當年給、四

人被叙何事在哉、各申尤可然由、申從四位上、實任、

陰明門去、其上臈殆十人許皆悉難叙歟、申四位勢階、勳文、

通經、宗宣、基長、未公文不、兼教罷少輔申之、申正五位下

者甚多、所謂侍從範繼等也、經行宣陽門當年給不委

聞、入御之後、黃門猶難談、自然月入之後退出、終夜風

雪、舊年真言院板敷盜悉放取、長者僧正可被念敷之由

頻申、殿下又付職事奏之、念可致沙汰之由被仰職事、

經光其事只可被仰官之由、一度觸辨、全不示無板敷之

由、已及今日、恒例之法、無可塗壇所由、僧正申之間、

重被問職事、無板敷之由聞及之由申之、於今者不及是

非沙汰、只雖假板欲令念敷之處、近日職有若亡、小事

猶不令期成功、又率爾難出來、只令堀川商賈板借渡、

後日儘可返之由、欲被仰檢非違使、遣召長親之間、且

此大事出來之由、被示仰相國御許、即御使行兼、歸參、

板敷可令敷、如此懈怠有若亡、職事尤可被感仰之由被

申、萬事合期之家、爲朝家尤公平事歟、

六日、己巳、曉後猶雪降、已時見聞書、從三位藤教忠正

自去年即左府被叙乎

三位乎山中請殿下給

四位下、丹波能基、藤伊氏、宣陽門、藤雅繼、源有資、院當

年、從四位上大中臣隆朝、栗田、藤範房、策、藤宗尙、同、藤

實經、府、源家定、同、從四下安親元、源遠章、策、源通

行、府、藤實直、同、正五下藤公親、藤公光、卜部兼繼、

久安四年平野、同兼有、宮主、同兼賴、御下、從五位上源重光、

行幸親宗賢實、侍從勞云々、三人侍從勞、從五位上源重光、

一、藤盛季、同定信、同實春、同俊資、策、同季盛、簡一、

源時光、皇嘉門、藤俊季、陰明門、平賴度、臨時、從五下資世

王、寬和、源仲業、藏人、藤範尙、式部、同貞康、民部、中原師

範、御後、藤隆氏、氏、源口氏、高階泰賢、皇子內親、大中臣親

清、末イ、紀吉術、左近右近外衛十五人、平望範、同、諸司十

一人、言家申四位事、昨日申殿下、自女院頻被申云々、

其上不許、實力不及事歟、

七日、庚午、朝天晴、言家漏思苦惱、狀イ、舊帖存例、右武衛防

來其宅云々、午時參殿、仰云、加叙之暨事、大略叙位被

定歟、薄面依人數多故所被留也、親房朝臣申立后日次

事等、二月上中旬、遣召在繼朝臣、右大臣殿令參給、今日

令勤內辨給、今日出仕公卿、大納言一人、家嗣、中納言

二人、通方、高實、參議五人、伊平、隆親、爲家、兩大辨、召頭治部連參、及申時大臣殿令參給、親長朝臣申旨、東大寺歲末被下宣旨、侍向五師、爲衆徒被斬殺了、惡徒所行更不足言事歟、末代出家爲法師者、只朝敵謀反武勇之外無他行歟、雖欲行善政、此法師原充滿之世、更無其術歟、加叙傳聞、正四位下資俊、臨時、定平、被求山、正五位下政衡、其傳、從五位上伊賴、伊平卿、子歟、叙爵二三人、今度姬君御湯殿罷角、南面、有此事、諸大夫三人衣冠打、御湯自中門持參云、夜深宰相注送、加叙如聞、叙爵二人云々、左大辨、入吸、書加叙、右大、內辨、左衛門督新叙宣命使、加昇殿之間早出、參議三人始終可候由稱云々、依早參退出、八日、辛未、終夜今朝雨降、陰暗、終日滂沱、定修來、申已講草持來、全雖不可有其用、進入可任心之由答了、非厚緣者更不可被許、歸去之後、言家又來、雖已付厚紙一分、信家、母、不運久無其所得、當年給不許、母女房忿怒、仙院又有御鬱云々、嚴重御給々之歟、最末下劣者不起人歟、又怨鬱不便事歟、終夜雨降、

九日、壬申、朝天漸晴、昨日御齋會、內府、大納言、雅親、中納言、盛兼、參議隆親、經高、爲家、兩大辨、兩大辨、時許事訖、參法成寺、內府、經高、爲家、家光、公長、每事陵遲、燈暗無役人等、甚不便、聞之悲慟之思無極、云而無益事歟、孝範朝臣送嫡男經範舉大內記之帖草、狀、尤足握翫、當時壯年儒之中拔群之器量歟、日入以後詣相門、申近日視聽之鬱念、有同心歎息之氣、於今者非力之所及之由答給、萬事緩々懈怠、無勤否之賞罰事等也、真言院板敷一昨日不日令敷訖之、番匠百餘、又被盜取、明年依去年之例、可念敷之由被詔仰歟、元日殿下亥時令參內給、親房取籠移鞍、亥時進之故云々、更無遲怠之咎、黃門之成敗又驚耳目事多云々、是若末代相應之吉想、長生久視之善政歟、經範柱下事、殊可被加御詞之由申之、金非私好、必可爲朝之要事也、不經程歸廬之後雨降、十日、癸酉、終夜今朝甚雨、終日不止、適依無寒氣、點止觀十二枚、十一日、甲戌、朝天晴、點止觀十二枚、後聞、越後前司具兼

去三日逝去云々、宰相示送、昨日最勝光院御入講僧名
定未刻之由、信盛依催語、先參殿下、御參內之間入見
參、即參內、入夜殿下令參御堂給、信盛申請內覽、信
盛、光俊、辨、六位史相待上卿^{定高}之間、空及夜半、尋
御堂之處、忠高云、今夜不出仕云々、未刻可催具由示
送信盛云々、醉鄉之懈怠歟、仍不參御堂修正、殿下、右
大臣殿、經時、長清云々、追參御堂、殿下又還御、法勝
寺辨光俊徒物付名候陣、盛兼卿一人參寺始事云々、執
權納言漸非恒規歟、未時許與心房被過談、護身被召事
無寸假、被仰付護摩供米以下事、合杓未下旅所、寒風
聊難堪之由被密談、凡殿中之儀、云而無益、所詮無存
忠人歟、法成寺佛供燈明以下又以如此云々、今日風
吹之上、權臣醉鄉之翌日、參議愚父出仕、有譏言之疑、
依無由終日偃臥、

十二日、乙亥、霜凝、天晴、未後雨忽降、終夜不止、點十
五枚、午時參殿、不見參、於御出居僧正御房見參、法務
事不必守次第、去四被補哉之由去冬申之、座主競望、

爲上臈之由被仰、又不及強申之處、被補彼之後、御齋
會可辭退之由本約束云々、仍今度被補歟、他侍事不可
被行云々、暫見參之間、前大貳參、在御厩上方、^{被聽近}
予相替退立、雨漸甚雨、日臈依無由也、有教中將被過
問由、留守者告之、御齋會竟、右大臣殿令參給、可有出
立公卿數少之由、被催宰相云々、伴日內論義之後可有
行幸歟、每事如例遲々歟、不便歟、殿下此程頗御風氣
之由聞之、今日御晝寢之由兼教等云々、若御違例歟、
氏寺恒例佛事皆無用途而退轉、僧徒吐怨言云々、長日
臨時急事御祈等、悉無供米以下之實、被召仕之輩、清
貧與不忠如木石、每聞雖歎息、豈出口外哉、逆耳而彌被
處嘲弄歟、云而無益、戌時許禁裡女房今年初退出、年
始祇候女房不幾、於事如等閑、諸事無委沙汰歟、甚存
外、每日渡御、終日爲御所、^{大略如御}於今者偏如近習伺
候云々、實可謂本懷、昨日雜仕御覽、^{東西屏中}侍臣等自
露臺方競見云々、右大將被候御前、明日又局々童女可
御覽由內々有沙汰云々、定異樣事等多歟、凡此御方至

于御座御机帳、能惡不法、聊不便云々、萬事存外聞、然者也、一日大納言三位、隆衛、和室參此御方、以隆盛朝臣兼可

參由示送、仍殊相調、入內以後不退出人、上郎二人、源

宰相、宜林、門御乳母子、親房、兩女權大夫、左衛門佐、播磨、仲基、下

郎等、年始參人、別當、公雅、新宰相家房、許歟、聊以無

人、世定誹謗歟、殿中事萬事只如此、歎息而有餘、

十三日、丙子、朝天漸晴、陽景見、午終大風、點十二枚、

東地早梅初開、風雲飛而日空暮、夜又雨降、

十四日、乙丑、朝天猶陰、點十七枚、今日右大臣殿已時

令參御齋會給、可有出立、無人可參由、催宰相之由、一

昨日示送、有敕中將內論義之出居、行幸指合無參人由

蒙備、裝束如何之由昨日音信、只例縫腋可宜哉由答

之、但不知、時儀相門行幸經營、私方違被渡宰相吉田云々、

風烈陽景不見、心懶不出戶外、夜深之後宿東北之小

屋、左衛門佐と云宅、也、以之爲本所夜中深泥也、乘輿廻門外、聞曉鐘

歸、

十五日、戊寅、朝天猶陰、陽景不見、昨日御齋會、無大臣

殿御參、宰相又不參、土中納言、賴納言、平宰、左大辨、

出居有敕朝臣歟云々、行幸左右大將、家良、具實、盛

兼、隆親、基輔、爲家、基保、實有、光俊、成實、資宗、顯

平卿、次將左家定、中將、定平、有資、實任、公有、實清、

教房、伊忠、氏通、右基氏、雅繼、實隆、實經、隆盛兼輔、

伊成、親氏、賴氏合點、還御供奉、職事、兩頭、信盛、經

光、奉行、法務宣下、他事不聞及云々、後聞、行幸被儲置

物、以錦造厨子、以紫染物造手箱二合、各笠六、納其中置之、

云猿手宮物廿、如唐垣入中、以護緒爲筋爲厨子戶、蒔

繪御草子箱入白物具、蒔繪御硯宮置之、御引直衣、御

劔、臺盤所、以念々唐物等造簡袋御膳棚等、以唐赤根

爲臺盤面、綠衫爲裏、桑繩百疋入日記唐櫃、赤唐物、造唐櫃被

居酒膳、右大將、左衛門督、宰相、右兵衛、宮內卿、親

氏、隆盛、公有、基氏、家定朝臣等盃酌、亂舞達曙、殿

下、右大臣殿、以侍屋爲御宿所、還御同令參給云々、基

輔卿放列、入左右將中央棟參、乘御々與之時稱警蹕云

云、少々憶說歟、最勝光院御八講、每日公卿一人可參

之由辨光俊催、節會以前可參由宰相示送、未斜興心房被來坐、禪尼每月受戒之間、又自殿被召被參、此間寓直近邊小屋云々、御心地頗不快、幸有護身云々、予又心神遠例不出行、

十六日、巳卯、霞登鶯啼、巳後陰、適屬和暖、頭沃菊湯、心煩、又返牛僕不出門戶、未時許侍從來、女院重以女房奉書、可被申四品事於殿下由被仰云々、答神妙由、雨漸密、非直也事歟、終夜甚雨、

十七日、庚辰、朝天晴、風又猛烈、宰相示送、昨日參最勝光院、自晚會合吉田、入夜參節會、內辨右大臣殿、外辨通方、具實、賴資、伊平、隆親、經高、爲家、家光卿、一獻之後入御、內辨令退出給、通方卿行之、御酒勅使伊平、於軒廊東二間取交名、未聞宣命使爲家、版置南二間、於三間宣制、作置大理被召下殿宣命奏之間、範賴落失、不見答而歸、於東階下見付、更令求、依不求得、更以外記令書、黃厚紙、不共出來所納言有痛耻之氣色云々、未時許覺法印來談、爲御使詣相門、依座吉田詣幕下謁申、又只今被向吉田、宰相相入具歟

夜宰相來、今朝黃門送書、宣命失事歟連日吉田、昨日酒、今日小弓、又被馳馬、大將、前宰相、三位中將、專法印實經已下

十八日辛巳、朝天陰、夜深後甚雨、點十七枚、第九卷訖、第十卷始自相門給書、來廿七日歟可見由也兩度問答、午時許參殿、法務新僧

上乘正院、參給云々、大藏卿暫言談之間出御、左右大臣殿除目習禮、賴尙真人調入宮文云々、明慧房被參、與大藏卿參南弘庇聽聞、適參會結緣、尤感悅、無程被出、予下地、其後於東庭御覽御馬之間、與大府卿退出了、明日依平等院佛御體汗事、堅御物忌云々、

十九日、壬午、朝雨漸微、巳後休、未二點陽景晴、朝點十二點、春日徒暮、宿鳥爭聲、

廿日、癸未、陽景晴陰、臨昏雨又澆、入夜微雨、朝點十七枚、刑部少輔經範來臨、示柱下望事、今度事至極之道理歟、明日可伺御氣色由答之、謝遣了、無提携事、而只催老眠、

廿一日甲申、朝天漸晴、夜適見星、點十四枚、午時參殿、大藏卿參會、子息柱下之慣帖、昨日付左衛門督進入、

直申右大臣之間也、先例等又實以炳焉歟、前大貳參三人言談、無出御、大臣殿東帶令參御前給、除目習禮云云、是又御遲怠歟、寒風難堪、申時退出、入夜有敕中將來臨、面謁自然及深更、親房朝臣難熱所勞云々、仍以書帖問之、告之後無殊事云々、春日社司依召參云々、神人訴事歟、

廿二日、乙酉、朝陽晴陰、午後陽景不見、朝點十二枚、第

十一部終功、心中欣悅、靜俊注記下山之次、付便奉返飯室御本、二帖、申時許大宮三位被過談、參殿之次、未令參內

給云除目畫之由昨日被仰、又以遲々歟、兼早速披露、本是兼時宅

還無由事歟、今日又無殊聞事云々、宜秋門院當時御所山在越水燒失御所東地

又有人夢等、令立去給、已後御殿下御所、信濃小路彼本御

所卜筮等不快、可被壞渡他所之由有議定等云々、乃乘

燭謝遣之、連々御所生籠甚不便事歟、寄相居處之向有白癡下人、檢物云々

與青侍鬭爭、擲取之間喧嘩、面縛給檢非違使友景云々、

如此事聊無由事也、白河院御世公卿之威、無是非打關

下人等、已爲其時儀、武士惡僧充滿之世、只以無音、可

爲穩便、所聞驚也、

廿三日、丙戌、天適晴、昨日除目午時催云々、入夜右大

臣殿令參給、即事始、右、內、大納言、定通退參不取實、大將家良、

實親、家嗣、中納言、公氏、通力、實基、高實、賴資、參議伊平、經高、爲

家、家光、範輔功過定、宣實下野、明日可被定乎、大藏少輔成

茂來門外、示女房、蒙芳心之由、過三十日御產可入來

由以人云入、覺法眼來談、明惠房還所被出立之由、時

俗如佛滅度悲歎、御室聞食、以寬西法印狂可被止住之

由被仰、於亡父遺跡有追善之志、一夏許可籠居由雖思

定、故被仰下之上、爭背仰旨哉、急可思止之由被申、被

進其由書帖云々、尤穩便事歟、自相門被申鎮西御領忽

無其所之由、內々御案等未定云々、太不便事歟、

廿四日、丁亥、朝天陰、去夜深更事始、雅親、高實、具實、

盛兼卿答文顯官畢、九條退出、定高參、加參議二人、家

始終候、鷄鳴退出、明後日、廿六立后兼宣旨云々、

早退、顯官申文老頭僅選入各一通云々、不足言事歟、當

座求尋又書加云々、止觀調卷、今日書外題、二帙裏之、十九卷第一十八卷

日本漢文史

籍叢刊

卷二

維史

[General Information]

书名=14664078

SS号=14664078